授業科目	法然の生涯と思想（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	小川　法道			シラバスグループ	A01200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然の生涯と思想を学ぶ|
■授業の概要	佛教大学は仏教精神を建学の理念としている。この仏教精神とは、ブッダと法然とに共通する生き様と考え方を指す。本講義では、法然の生涯と思想に焦点を当てて概説する。具体的には、大乗仏教、浄土教思想、日本仏教などを概説した上で、法然の思想を、その生涯とともに把握する。| ※この科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 本学の建学の精神である仏教精神の根幹を形成する法然の思想と歴史を学ぶ授業であり、本学の設立母体である浄土宗教師（僧侶）の資格と実務経験がある教員が、その経験と知識を踏まえて授業を行います。
■授業の目的・ねらい	法然の生涯を通して、法然の生きた時代背景や基本的な思想を理解することを目的とする。|
■到達目標	法然の生涯と思想を説明することができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	法然の生涯と思想（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	伊藤　茂樹			シラバスグループ	A01300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然上人の生涯と思想を学ぶ
■授業の概要	本講義は、鎌倉時代に生きた法然上人の生涯と思想を学ぶ。法然上人は、平安から鎌倉時代という時代の転換期に登場し、万民を救済する教えを説いた。その教えは、多くの信奉者が生まれたが、同時に旧仏教側から多くの批判があがった。本講義では、法然上人の生涯と思想を探求し、万民救済とは、どうのような意義を持つかを学び、当該期の時代背景にも言及してゆきたい。 ※この科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 本学の建学の精神である仏教精神の根幹を形成する法然の思想と歴史を学ぶ授業であり、本学の設立母体である浄土宗教師（僧侶）の資格と実務経験がある教員が、その経験と知識を踏まえて授業を行います。
■授業の目的・ねらい	法然上人の生涯と教えを学ぶことを目的とする。法然上人の生涯は、平安から鎌倉時代にかけて生きた僧侶である。法然の生きた時代は、武士の台頭、疫病、飢饉といった様々な困難に直面した時代である。当時の時代背景を正確に理解することを前提に、生涯を学び、私たちの生き方にいかなる示唆をあたえてくれるかを意識してゆきたい。また、法然上人の教えは万民救済である。教えがどのようなかたちで確立され広がりをみせたのか探求してゆきたい。
■到達目標	法然の生涯と時代背景を適切に理解し、法然の教えの意義を理解することを目的とする。法然の教えが私たちの生活にどのような示唆をあたえるのか。各自が意識していただきたい。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	ブッダの教え（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	田中　裕成			シラバスグループ	A02100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	仏教の開祖ブッダ（釈尊）の生涯と思想を学ぶ。
■授業の概要	本講義では、仏教の開祖であるブッダの生涯と思想を学ぶ。生涯篇では、ブッダの生涯における一つ一つの事績の意味を明らかにしつつ、伝説編纂者の意図を探る。また、思想篇では、仏教思想の根幹ともいえる、四諦・十二支縁起・四宝印について学び、それぞれの思想が現代を生きる我々にとっても有益であることを学ぶ。 ※この科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 本学の建学の精神である仏教精神の根幹を形成するブッダの思想と歴史を学ぶ授業であり、本学の設立母体である浄土宗教師（僧侶）の資格と実務経験がある教員が、その経験と知識を踏まえて授業を行います。
■授業の目的・ねらい	１．　釈尊の生涯とそれぞれの事績の意味を学ぶ。|２．　釈尊の思想の代表的なもの（四諦・縁起・四宝印など）を学び、それぞれの活用法を学ぶ。|３．　1.2.の学びを通して、仏教とは何かを学ぶ。
■到達目標	１．　釈尊の生涯とそれぞれの事績の意味を知り、説明できるようになる。|２．釈尊の思想の代表的なもの（四諦・縁起・四宝印など）を知り、その考えを自分の生活に援用できるようになる。|３．　1.2.の理解に基づいて、仏教とは何かを説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	ブッダの教え（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	唐井　隆徳			シラバスグループ	A02200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ブッダの生涯と思想
■授業の概要	仏教の開祖であるゴータマ・ブッダの生涯をたどりながら、仏教の基本的な思想について概説する。 ※この科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 本学の建学の精神である仏教精神の根幹を形成するブッダの思想と歴史を学ぶ授業であり、本学の設立母体である浄土宗教師（僧侶）の資格と実務経験がある教員が、その経験と知識を踏まえて授業を行います。
■授業の目的・ねらい	初期の仏教が当時の他の宗教と比べてどのような特徴をもっているのかを考察し、私たちが社会の一員として必要な「我欲の制御」、「慈悲」など、仏教の基本的な思想を正確に理解することを目的とする。
■到達目標	ブッダの生涯を通して、仏教の基本的な思想を理解することを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	講義内容から課題を設定し、リポート（1600 字程度）を提出していただきます。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	文学と人生（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	朴　銀姫			シラバスグループ	A03300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	反文学の世界　？　倉橋由美子の華麗なる文体
■授業の概要	明治大学でフランス文学を学んだ倉橋由美子は、創作初期にはサルトルの実存主義の影響を受けて、その形而上のイマージュをカフカやカミューの文体を模倣して、観念的な小説を書いた。1967 年アメリカ留学から帰国した後、留学先で知り合ったアメリカの女性ヴァージニアをモデルに、写実的な手法で書いた小説『ヴァージニア』を始めとして、『夢の浮橋』、『城の中の城』、『交歓』など、一転して現実的な人物・事件を描いた作品を書くようになった。晩年になると、漢詩を作品に引用したり、或いは漢詩を基に物語を作ったりした。倉橋由美子の視線は日本や東洋に向けられていくのであった。晩年の作品である『よもつひらさか往還』と『酔郷譚』では特に漢詩引用が目立つ。本講義では、初期の作品「貝のなか」、長編『聖少女』、「ヴァージニア」、晩年のカクテル物語シリーズ『よもつひらさか往還』から「雪洞桃源」（陶淵明の「桃花源郷」の変容）などを取り上げ、倉橋由美子の小説文体の変化、生涯と作品世界との関係について考察する。
■授業の目的・ねらい	（１）　まず「貝のなか」の全文、『聖少女』と「ヴァージニア」の一部分、「雪洞桃源」の全文を朗読して、ポイントになる単語や表現の意味とメタファーについて理解し、作品世界を把握する。|（２）　次は、作品の内容と構成などについて分析、比較する。|（３）最後に、文学と倉橋由美子の人生及び文学と人生一般論について考えてみる。|（４）　成績は出席とリポートで評価する。
■到達目標	倉橋由美子の色々なスタイルの作品を読み、倉橋由美子の人生と文学の関連性について理解し、人生において文学とは何かを考える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%|	
･授業内課題	10%	
･その他	10%|	

授業科目	生涯学習（春期夜間)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	林田　匡			シラバスグループ	A04150	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	生涯学習社会における学校と地域との連携・協働の在り方
■授業の概要	教育基本法第３条に「生涯学習の理念」、また同法第 13 条に「学校、家庭および地域住民等の相互の連携協力」について規定されている。それを受け、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えていくことが必要とされ、現在、様々な取組が行われている。また、学習指導要領で示されている「社会に開かれた教育課程」の推進に向けて、学校は地域との連携・協働を一層進めていくことが必要である。各人の生涯学習における学びの成果を、学校教育活動への支援やまちづくり等に活かした事例をもとに、その成果と課題を考えながら、学校と地域との連携・協働の在り方について考えていく。また、様々な取組のバックボーンとなっている世界や日本における生涯学習の理念、施策等の変遷等にも触れ、確認を行っていく。 ※この科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 教育委員会（生涯学習関連部署）での社会教育主事としての活動実績がある教員が、経験と知識を踏まえて講義を行います。
■授業の目的・ねらい	「生涯学習」の概念について理解することができる。また、学校と家庭、地域住民等の連携・協働が必要となった経緯について考え、学校と地域住民等が連携・協働した事例とその教育的効果について理解することができる。また、小グループによるディスカッション等を行いながら、生涯学習の成果を学校教育活動や地域活動、まちづくり等で活かす取組等について、自らの経験や考え、アイデアを述べたり構築したりすることをとおして、幅広い視野で「生涯学習」について考えることができる。
■到達目標	「生涯学習」について理解し、学校と地域が連携・協働した取組や各人の地域の身近な生涯学習の事例等を踏まえ、生涯学習の成果を学校教育活動や地域のまちづくり等に活かす取組について具体的に考えることができる。また、幅広い視野で「生涯学習」を捉えなおすことができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	2	
･授業内試験	0	講義中に発言を求めることがありますので積極的な参加をお願いします。
･授業内課題	43	
･その他	5	アンケート機能を使って、講義の中での疑問や感想等を書いてもらいます。それを全体で共有し、学びを深めていきます。

授業科目	現代社会と法律（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	花元　彩			シラバスグループ	A05200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	私達の生活や現代社会における様々な事象と民法等について
■授業の概要	民法は我々の生活にもっとも近しい問題である。また、民法には家族に関連する問題を解決する規定がある。本講義では、子の虐待や無戸籍児、生殖補助医療などの問題について、民法ではどのような解決がなされるかを検討する。
■授業の目的・ねらい	本講義では、上記の内容を通じて民法の世界観を知っていただくとともに、法的思考力を養成することを目指す。
■到達目標	民法の中でも、子どもの関する問題について、どのような問題が生じているかを理解したうえで、その問題について、どのような解決がなされるか理解できるようになることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	くらしとマスコミ（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	崔　銀姫			シラバスグループ	A06200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『検証　コロナと五輪』|https://www.kawade.co.jp/np/isbn/9784309631431/
■授業の概要	テキストですが、日本の著名な社会学者である吉見俊哉先生の『検証　コロナと五輪』|https://www.kawade.co.jp/np/isbn/9784309631431/　を選びました。今回はみなさんとともに『検証　コロナと五輪』を読みながら、日本の社会について、それから私たちが経験してきた「コロナと五輪」について、じっくり考えれればと思っています。授業は履修生参加型で進めていきます。詳しいのは初日説明しますが、もとよりこの授業のねらいは、現代社会の国内・海外のさまざまな動向や社会的現象、出来事などについて関連する文献を読みながら、そこで学んだ知識と経験をもとに、自分の考えを創造的にまとめられる力を身につけることといえます。授業の運営方法は以下のように進めていきます。|・初日：文献紹介、担当者やスケジュールをきめる。|・担当者（個人もしくは数人のグループ）がテキストの該当部分について発表をする。|・担当者は、A4 用紙 1-2 枚程度でレジュメを作成し、クラス全員に配布する。|・レジュメには、文献の重要論点および筆者の主張、それに対する報告者の意見、その他補足情報等を含める。|・報告者はプレゼンのテーマに関連する疑問や関心のあるテーマについて調べ、自らの見解を加えて、別途の資料を作成・配布し、その内容をも紹介する。それをふまえて、全体で討論する。|現代社会について一緒に考えながら進めていきますので、関心のある学生は奮ってご参加ください。
■授業の目的・ねらい	・「現代社会を考える」こととは何か、をまなぶ|・コロナと五輪をメディアはいかに報じたか、著者の意見を参考しながら検討する|・日本の世論と海外の反応を検討する|・何が、それからなぜ問題なのかを、考える|・学術的な知識をもとに自分の意見を論理的にまとめられる　|・マス・メディアの歴史を踏まえながら、社会的役割について再考することができる|・メディアの変容を把握することで、ネット社会の今後について展望する
■到達目標	・テキストの内容や著者の意図を把握できたのか|・レジュメ作成やプレゼンができたのか|・何が、なぜ問題なのか、を自分の意見を加えながら論理的に説明できたか

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	B-net でリポート課題の設定・提出
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	ワークシートの設定および発表

授業科目	東アジアの歴史と文化（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	與座　良一			シラバスグループ	A07100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中国の歴史と社会
■授業の概要	本講座では中国の歴史と社会について、毎回テーマに沿って授業を進める。全九回の講義を通して中国史についての基本的な知識を身につけ、中国社会に対する理解を深めることを目的とする。
■授業の目的・ねらい	中国の歴史の流れを理解し、中国の歴史と社会に対する知識を身につける。
■到達目標	中国の歴史の流れを理解する。中国の国家と社会の特質を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	東アジアの歴史と文化（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	市村　導人			シラバスグループ	A07200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	食物から見た中国史
■授業の概要	中華料理は世界三大料理の一つに数えられます。中国の食生活が形成されるには長い歴史を経ていますが、現在の状態が整ったのは、それほどに古い時代のことではありません。中国の食生活は、中国の政治、経済、農業、外交といった歴史の歩みとは無縁ではなく、時には歴史に影響を与えながら形成されてきたと言えるでしょう。では、前近代の中国の人々は一体どのような食生活を送っていたのでしょうか。本講義では、画像を多く交えながら、生産、加工、消費という点から、前近代の中国の食生活、とりわけ食物に焦点をあて眺めてみましょう。
■授業の目的・ねらい	本講義は全９講です。それぞれ、中国における食文化の歴史を講義しますが、受講者のみなさんは、日本の食文化との差異、あるいは共通点を意識しながら講義を受けていただきたいと思います。
■到達目標	中国の食文化の歴史を通して、食文化の多様さを感じていいただき、地域、時代によって、食文化の差異があることを学んでください。そのためには、講義内容をよく聞いていただき、リポートにまとめるられるように努めていただきたいと思います。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	55	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	45	

授業科目	世界の教育（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	田中　達也			シラバスグループ	A08200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	世界の国々の教育制度と教育改革について学ぶ
■授業の概要	本講義は、二宮晧『新版　世界の学校』学事出版（2013 年版）などのコピーを事前に配布し、それに沿って授業を行います。旧版（2006 年版）も並行して使用する可能性があります。英米諸国型（アメリカ、イギリス)、ヨーロッパ大陸型（フランス、ドイツ)、旧社会主義諸国型（ロシア、中国）における教育制度について講義し、それぞれの違いについて学びます。その後、アメリカ・イギリスなど日本に影響を及ぼしている国を中心に学校改革の動向について述べ、日本との共通点を探っていきます。
■授業の目的・ねらい	世界の国々の教育と日本の教育との相違点と共通点を認識し、日本の教育にフィードバックできるようにします。|
■到達目標	・世界の国々の教育制度について理解する|・世界の国々における教育改革について理解する|･世界の教育が日本の教育に及ぼしている影響について理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	30%	
･その他	0%	第 6 回に実施予定

授業科目	ジェンダー（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柳下　実			シラバスグループ	A09100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ジェンダー概念の導入
■授業の概要	文献を自分で読むことを通して、ジェンダーの考え方がどのように表れてきたのかを歴史的にたどり、ジェンダー概念を理解する．そのうえで，個別のトピックについてジェンダーの視点から考察するための、基礎的な理解を提示する．
■授業の目的・ねらい	1．ジェンダーについての基礎的理解|2．個別のトピックについてジェンダー視点の基礎的な分析を理解する|3．自分の興味があるトピックについてジェンダー視点で考察できる|
■到達目標	以下の 3 点から評価する．|1．ジェンダーについての基礎的な理解ができているか．|2．個別のトピックについてジェンダー視点の基礎的な分析を理解できているか|3．自分の興味があるトピックについてジェンダー視点で考察できているか|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	0	

授業科目	ジェンダー（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	A09200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	一人ひとりの違いが大切にされる社会をめざして
■授業の概要	ジェンダーとは、生物学的な性に対し、社会・文化的につくられた性別や性差の概念です。本講義では、基本的なジェンダーの概念について説明を行い、さらに社会のさまざまな関係における事象をジェンダーの視点から検討する。教育、メディア、家族、労働などにおいて具体的な問題を取り上げながら進める。男女共同参画社会作りが進められる中で、「一人ひとりの違いが大切にされる社会」を考えていく。
■授業の目的・ねらい	ジェンダーの概念についての基礎的な理解ができ、ジェンダーの問題を、男女共に関わるものとして考察できるようになることを目的とし、（１）ジェンダーについての基礎的理解、（２）学校教育やマス・メディア等における具体的事象をジェンダーの視点から整理して検討し、説明できること、（３）ジェンダーが男女ともに関わるものであるという意識を持って具体的事象について考え、意見が述べられるようになることを目標とする。
■到達目標	ジェンダーについての基礎的理解、学校教育やマス・メディア等における具体的事象をジェンダーの視点から整理して検討し、意見が述べられるようになることを目標とする。その到達度を評価とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	0	発表および参加状況を含む

授業科目	情報と社会（秋期夜間)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	有田　亘			シラバスグループ	A10350	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	現代社会における情報の影響力とメディアの関係について考える
■授業の概要	「情報化社会」という語がもはや陳腐化するほどに情報化が進行した現代のメディア社会。それがどのように成り立っているのかを、われわれのくらしの中で織りなされる具体的な現象や出来事を通じて社会学的に考える。
■授業の目的・ねらい	情報の社会的特性を理解し、メディア社会を生きるための適切な知的観点を修得する。|日常的社会生活を営む上での情報に対する適切な問題意識を、受講生各自が明確化する。‖成績評価|授業への参加態度、試験結果を総合的に評価する。
■到達目標	授業内容を適切に理解していること。またそのことを文章で的確に表現できること。その上で、関心のあるテーマについて自らの意見を説得的な理由に基づいて論述できること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	50%	

授業科目	くらしと自然（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	向井　大喜			シラバスグループ	A11300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	持続可能な社会の形成とエネルギー環境教育
■授業の概要	私たちのくらしは、様々なところで高度科学技術の恩恵を受けたものとなっている。しかし、日常のくらしの中で自然とのつながりを意識することは薄れているかもしれない。また、私たちのくらしは地球環境問題を引き起こし、くらしの在り方を再考することを求められている。｜　このような社会で生きる私たちは、くらしのさまざまな場面で、用意された多様な選択肢の中から選択と判断を迫られる。例えば食品を購入するにあたってどのような基準で食品を選んでいるだろうか。あまり意識しないかもしれないが、くらしの中で自然とのつながりを考え、より良い選択をするためには、多面的な判断力が必要とされている。｜　この授業では、くらしと自然のつながりについて考察する。そして、くらしの中で遭遇する様々な場面で、自然科学の知識や科学技術への理解をもとに多面的に思考し判断して行動できる資質能力の育成を目指す。｜　授業では、地球温暖化をはじめ、生物多様性の危機など、地球規模の環境問題を理解し、未来にわたって「持続可能な社会」を形成し、健全な自然や環境を保全していくことについて考える。また、その解決策として提案されている SDGs についても学んでいく。｜　授業の中では、ICT を用いた相互コミュニケーションを伴う活動や意見交換を行う。科学的・論理的に考えたことをもとに、自らの判断で意思決定を行うことを体験し、考察を深めることとする。
■授業の目的・ねらい	持続可能な社会を目指したエネルギー環境教育を理解し、環境や自然の保全に対する意識を高め、持続可能な社会を形成する担い手としての資質能力の育成を目的とする。
■到達目標	身近な環境についての正しい科学的な見方･考え方に基づいて環境保全を考え、生活を改善したり健全な生活を送ろうとしたりする意識・態度について、話しあったり検討したりすることができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	20%	
･その他	0%	

授業科目	地理と風土（秋期夜間)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	古関　大樹			シラバスグループ	A12350	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	地域や景観からよむ自然・環境
■授業の概要	風土とは，その土地の気候や土壌などの環境と，人と暮らしの関わり合い中で作られた景観･文化を示す概念です。世界の地域，日本の地域に様々な暮らしが見られるように，個々の地域で様々な事象の関わり合いが見られます。この講義では，風土の概念を学習するとともに，地域や景観の観察を通して，実践的に理解する方法を学習します。
■授業の目的・ねらい	①風土という基本的概念を学習する|②地域や景観の観察を通し，自然・環境と人の暮らしの関係性を学習します
■到達目標	①風土という基本概念を理解する。|②環境・地域・景観・文化などのキーワードを学習し，自分自身の言葉で説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	①授業で紹介した事例が適切に扱えているかどうか。|②オリジナリティのある考察になっているかどうか（引用・出典などをしっかりと区別する)|③第三者に分かりやすく説明できているかどうか
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	エコロジー（春期夜間)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	湯川　宗紀			シラバスグループ	A13150	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	社会と個人との関係からエコロジーを考える
■授業の概要	気候変動、温暖化ガス等々、普段の生活でも耳にすることが普通に耳にすることだと思います。|また、小中高と環境教育を受けた若い方にとって「エコロジー」は既に古くさく、説教じみたものに感じられるかもしれません。|ただ、エコロジー(環境問題)はただ漠としてあるのではなく、大いに我々人間活動と結びつき、望ましくない問題を次々に引き起こしています。例えば、人間の移動性(モビリティー)と気候変動、それによりほんの少し前我々はコロナ禍という大きな体験をしたばかりです。|(どういうことか、具体的には講義で説明します)‖この講義では「エコロジー概念」についての大きな流れ、背景を紹介しつつ、私たちが生きる社会、その構造とどう関わっているのか、具体的な事例、様々な数的データや動画等も含めながら出来るだけわかりやすく、理解できるように講義していきます。
■授業の目的・ねらい	エコロジーについての大きな流れと自らの関係を理解する
■到達目標	環境問題について自ら考える力をつける

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	

授業科目	こころの健康（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	樫津　祥貴			シラバスグループ	A14100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	こころの健康と病
■授業の概要	「こころの健康」とは何なのか。「健康なこころ」とはどのようなこころなのだろうか。人のこころは、どのように発達していくのだろうか。本講義では、人のこころの健康と病について、発達理論や臨床心理学的知見をふまえて学習する。‖1.「健康なこころ」とは|2.発達理論とこころの発達|3.こころの不調や病について|4.こころの健康と心理療法|
■授業の目的・ねらい	人のこころがどのように発達していくのかを学び、こころの健康と病についての理解を深めることをねらいとする。自分自身の健康状態にも気づき、こころの健康を維持増進できる方法を考えることに取り組む。
■到達目標	こころの発達や心理的課題を学び、こころの不調や病について理解する。こころの健康とは何かを知り、自分自身の生活や行動、生き方をふり返り、こころの健康を保持増進する方法を考えられるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	0%	全日全講時の出席を前提としています。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	30%	
･その他	0%	全日全講時の出席および授業内の取り組み（感想・小レポートを書いてもらうことがあります）

授業科目	こころの健康（夏期）A クラス_オンライン				単位	2
担当者	山本　健治			シラバスグループ	A14200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	こころの健康と病理
■授業の概要	本講義では、人間のこころの健康と病理について、その基本的な概念と成り立ちを心理学の基礎理論や発達理論及び臨床心理学・精神医学等の知見を踏まえながら以下の項目について学習する。‖１・こころの構造とは|２・こころの発達と発達理論|３・関係性の病理についての理解|４・発達障害と心の理論|５・こころの健康とカウンセリング
■授業の目的・ねらい	本講義では、人間のこころの構造やその発達のプロセスを学び、その上でこころの健康やさまざまな病理について理解を深め、あわせて援助の在り方を知ることを目的とする。
■到達目標	１・人間のこころの構造や発達のプロセスを理解し、説明できるようになる。|２・様々な関係性の病理の発生メカニズムを理解し、援助の在り方について自らの考え　を述べることができる。|3・基本的なカウンセリングの理論や手法を学ぶことで、他者や自らのこころの健康に生かすことができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	30%	
･授業内試験	0%	質問・発表等による平常評価
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	京都の歴史と文化（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	小林　孝夫			シラバスグループ	A15200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	・平安京から考える「祇園祭」
■授業の概要	この授業では日本の代表的な祭りの一つ、京都の祇園祭を中心に学習します。|祇園祭の歴史や全体像を理解すると同時に、京都の地理の特徴、平安京が造られた経緯やその後の街の形の変化、歴史上の事件などが祇園祭にどう関わってきたのかを、動画や写真もできる限り多く使いながら考えていきます。|予備知識の有無を問わず、京都に興味があり学んでみたい、祭りや伝統行事について深く知りたい、といった方の積極的な受講を歓迎します。 ※この科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 教育庁（文化財保護課）に所属し、文化財に関する知識を有し、文化財の保護や振興にかかる活動に取り組んだ実績がある教員が、経験と知識を踏まえて講義を行います。
■授業の目的・ねらい	祇園祭の起源、発展や危機克服の歴史、現在の課題などの学習を通じて、祇園祭が平安京の自然条件や人々の信仰、地域社会の形成とどう結びついてきたか、という点を考えていきます。|歴史学や民俗学だけではなく、地理、社会制度、地域のコミュニティなど多角的な視点から考察できるようにします。|祇園祭や平安京について単に出来事を覚えるのではなく、その理由や原因はどこにあるのかを考察して、民衆が作り上げた文化がその土地の自然条件や歴史上の出来事などと密接な関係を持っていることを理解できるようにします。
■到達目標	祇園祭の全体像を理解するとともに、平安京以来の京都の歴史が祇園祭をどのように変えてきたかを読み解き、地域の歴史と文化との密接な関係を理解することを授業の目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	授業内の重要なポイントについて自らの意見や疑問点、課題と感じた点などを考察して記述できているかで評価します
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	京都の歴史と文化（秋期夜間)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	小林　孝夫			シラバスグループ	A15350	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	・京都の民俗行事　盆の行事を中心に?
■授業の概要	この授業では京都に伝わる民俗行事、中でも８月の旧盆の時期に行われる行事を中心に学習します。|京都ではこの時期にたいへん多くの行事が行われますが「五山の送り火（大文字)」以外はほとんど知られていません。この授業では京都の年中行事を紹介したうえで、観光化されていない京都独自の民俗行事をできる限り動画で紹介し、それぞれの行事を知るとともに各行事のつながりや本来の目的、将来に継承していくための課題などについて考えます。|予備知識の有無を問わず、京都に興味があり学んでみたい、祭りや伝統行事について深く知りたい、といった方の積極的な受講を歓迎します。 ※この科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 教育庁（文化財保護課）に所属し、文化財に関する知識を有し、文化財の保護や振興にかかる活動に取り組んだ実績がある教員が、経験と知識を踏まえて講義を行います。
■授業の目的・ねらい	京都の年中行事の流れを理解したうえで盆の行事の全体像を理解します。|それぞれの盆の行事や関連する民俗行事について、その特色、本来の目的、地域コミュニティとの関わり、将来への課題などについて多角的な視点から考察できるようにします。
■到達目標	京都の盆の行事の全体像を理解したうえに、各行事の本来の意義、将来への課題などについて多角的な視点から考察を深め、自らの意見を示せることを授業の目標とします。　‖

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	授業内の重要なポイントについて自らの意見や疑問点、課題と感じた点などを考察して記述できているかで評価します。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	総合１（夏期)_オンライン				単位	1
担当者	斉藤　利彦			シラバスグループ	A17202	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	歌舞伎事始め―歌舞伎とその魅力を学術的に探究する―
■授業の概要	近世芸能・演劇の代表であり、現代日本においても世界に誇る演劇が歌舞伎です。|400 有年の歴史や特色を確認し、そのうえで、劇場・役者・演技・流行などを解説していきます。|これらをつうじて、歌舞伎という日本文化の理解をうながします。|授業内では学生間の議論やワークなども行い、双方向性の授業としていきたいと思います。 ※この科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 イベント公演企画・運営等の活動実績がある教員が、経験と知識を踏まえて講義を行います。
■授業の目的・ねらい	歌舞伎の歴史と特性を知ることにより、日本の芸能と演劇の特徴や民衆の思いなどへの知見を深めることをねらいと目的とします。
■到達目標	（１）歌舞伎という芸能の特性を理解する。|（２）歌舞伎という芸能の歴史に関する知見を深める。|（３）歌舞伎が演じられる劇場の特徴を理解し、観客歌舞伎の特徴を把握する。|（４）歌舞伎役者の演技を通して、歌舞伎という芸能の本質を知る。|（５）歌舞伎が流行らせた流行について知り、近世における歌舞伎の影響力を知る。|（６）これらを第三者に話せるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	0	復習シートとしてのキャッチコピーの提出など。

授業科目	総合２（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	中道　泰子			シラバスグループ	A17400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	「こころ」の世界への理解を深める
■授業の概要	心理臨床の基本的知識や技法についての学びを通して、人間の「こころ」への理解を深める。|前半は、臨床心理学的視座から「こころ」をどうとらえるのかを学んだ上で、心理療法の技法のひとつである箱庭療法を中心に解説していく。後半は、日常に活かすことのできる臨床心理学の視点や、心の健康といった身近なテーマについて考える。 ※この科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 病院等において、臨床心理士、心理相談員としての活動実績がある教員が、経験と心理学全般に関する知識をもとに講義を行います。
■授業の目的・ねらい	人間の「こころ」を、臨床心理学的な視点から理解できるようになる。|様々な角度から「こころ」を捉えることで、自己理解・他者理解を深める。
■到達目標	「こころ」に関する基本的な知識を身につける。|「こころ」を多面的に捉える力を身につける。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	専門総合１（夏期)_オンライン				単位	1
担当者	塩満　卓			シラバスグループ	A17200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	脱施設化とケアの脱家族化
■授業の概要	ケアを必要とする障害者は、どの国においても全制的施設で隔離収容し処遇する方式が採用されてきた。「脱施設化」とは、施設を出て地域で暮らすことである。世界の知的障害、精神障害、重度身体障害の脱施設化の歴史を学び、脱施設化が進んでいない日本の現状を理解する。わが国の統合失調症の「ケアの脱家族化」の阻害要因と促進要因、社会的・文化的背景について、母親・本人・精神保健福祉士の視座から多面的に学ぶ。
■授業の目的・ねらい	１．全制的施設の課題を理解し、脱施設化の持つ意味を人権の尊重、社会正義の実現、集団的責任、エンパワメントの社会福祉の視点から学ぶ。|２．脱施設化が進まない日本の現状とその背景を理解し、家族にケアを強いている課題を家族の幸福追求権、労働権といった基本的人権から考える。|３．ケアの脱家族化を促進していくために、求められる支援の視座を考究する。|
■到達目標	１．全制的施設の課題と脱施設化の歴史を理解し、説明できる力を身につける。|２．日本の脱施設化の状況とその原因について理解し、説明できる力を身につける。|３．全身性障害ケア、知的障害ケアの脱家族化の特徴を理解し、説明できる力を身につける。|４．統合失調症ケアの脱家族化の特徴を理解し、説明できる力を身につける。|５．ケアの脱家族化を促進するソーシャルワークを理解し、説明できる力を身につける。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	10%	
･その他	0	

授業科目	専門総合２（夏期)_オンライン				単位	1
担当者	諸岡　哲也			シラバスグループ	A17201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	論理的文章を組み立てる
■授業の概要	自分の考えを他人に伝えるためには、分かりやすい構成で説明する必要があります。話して伝える際にはもちろん、文章で伝える際にも工夫が必要です。たとえば、大事な結論を述べた後に詳細な説明を行う〈順序〉の工夫や、主述の関係を明確にする〈表現〉の工夫などが挙げられます。このような工夫は、レポートや論文を書く際に必要となるものです。授業では、練習問題を解くことを通して、基本的な論理的文章の組み立て方について学習します。
■授業の目的・ねらい	論理的な文章について説明でき、レポートが書けるようになる。
■到達目標	構成を組み立て、表現に注意して文章を書くことができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	専門総合３（冬期)_オンライン				単位	1
担当者	山本　奈生			シラバスグループ	A17401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ナチス期ドイツの文化と社会：　独裁と人種主義について考える
■授業の概要	ナチス期ドイツは、戦後の人文社会科学を考えるにあたって欠かせない歴史的出来事です。|本講義では、主に文化社会学の観点から、ナチス・ヒトラーを生んだワイマール期ドイツから|戦中ドイツまでの時代を対象範囲とします。‖どのようにして一応は民主的な投票によって独裁者が選ばれてしまったのか、|そこでの選択に、どういった社会思想、社会背景、文化があったのかを考察します。
■授業の目的・ねらい	戦後の人文社会科学が避けて通ることのできなかった、「あの時代」とは何だったのかを|理解することで教養を高め、それぞれの研究分野にとっての一つの参考としてもらうことが目的です。
■到達目標	時代状況を構成している、文化・思想の理解とセットで|歴史的経緯を把握することができるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	専門総合４（冬期）_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	英語Ⅰ（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	内藤　満			シラバスグループ	A20100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	英語リーディングの基礎
■授業の概要	様々なトピックの英語を読むことで、基本的なリーディング能力を養うことを目指します。テーマは大きく「芸術家」・「環境」・「遠隔地」・「宇宙」の 4 つに分かれます。300 語ほどの英文の訳読とその内容理解のための問題を行います。授業で読む Unit は、1、5、9、14、15、16 です。
■授業の目的・ねらい	正確な英語の発音の修得のために、発音記号が読めるようになること、また、熟語や構文など読解に必要な文法を辞書で調べられるようになることを目指します。
■到達目標	辞書を引いて単語の正確な発音が分かること、また、熟語や構文なども自分で辞書で確認できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0%	
・リポート試験(SR 履修)	50%	
・授業内発表	30%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	20%	

授業科目	英語Ⅰ（春期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	古樋　直己			シラバスグループ	A20101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	大学で学ぶ英語に取り組む基本姿勢を学ぶ
■授業の概要	各 Unit 共，リスニング，リーディング，グラマー，ライティング，スピーキングに関連するタスクに取り組んでいただきます。より具体的にはテキスト掲載の問題を順に解いていきましょう。
■授業の目的・ねらい	高等学校までに既習であるはずの内容を確認していく。
■到達目標	高等学校までの既習内容を少しでも確実なものに近づけ，大学での学びに耐えられるようにする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	40	授業で学んだ知識の確認をします。
･授業内試験	0	授業中に指名されて適切にお答えいただけるかどうかにより評価します。また，指名されたらすみやかにマイクをオンとしてご対応お願いいたします。例年，明らかに「ながら」受講で，なかなか反応されず，その学生さんをスキップするとマイク音に時間かかったんですなどとおっしゃる方がいらっしゃいます。「ながら」でなければ対応可能なはずです。また，授業間には休憩時間も設けられていますので，ご自身の用事はその際に済ませていただき，授業時間中は授業に専念できる環境を整えた上で受講受講してください。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英語Ⅰ（春期)C クラス_オンライン				単位	2
担当者	子安　加奈子			シラバスグループ	A20102	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	英語表現の解説を英語で読む
■授業の概要	本文だけではなくその注も全て英語で書かれた教科書を読んでいきます。日常会話で用いられる語句や表現に関する詳しい解説を、日本語ではなく英語で読むことによって、英語表現に関する知識を増やすと同時に、英語の説明文を理解する読解力をつけてもらえればと思います。様々な口語表現の使い方やニュアンスを知ることで、丸暗記ではない会話表現の定着をはかります。
■授業の目的・ねらい	様々な会話および会話表現に関する説明文を英語で読みます。文法構造を解析したり機械的に和訳をするというのではなく、英語で書かれた説明を理解するということに慣れると同時に、口語英語の知識を深めることを目標とします。
■到達目標	様々な話題を取り扱った英文を読んで、情報や考えなどを理解することが出来る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	0	スクーリングの全講義に出席し、授業内課題（グループワークあり）を提出すること。

授業科目	英語Ⅰ（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	田辺　翔平			シラバスグループ	A20200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	コミュニケーション力につながるようなリスニング・ライティング技能を伸ばし、聞いて話す訓練で正しい英語の発音を知る
■授業の概要	口頭および文字でのコミュニケーション能力を養成することを目的として、会話のリスニングと平易なライティング（英作文）の訓練と、英語を聞いて正しく発音する訓練を行います。
■授業の目的・ねらい	口頭あるいは文字でのコミュニケーション力へとつながるべく、会話文のリスニング訓練によって英語の音の特徴を捉え聞き取り能力を向上させること、平易で短い英文であっても、読む人に理解されうるような英文で、翻訳機を用いず自力で自分の考えを表現する英語で表現する力を養うこと、および聞いて読む訓練により正しく英語を読む（正しく発音する）ことができることを目指します。
■到達目標	文字あるいは口頭でのコミュニケーション能力の向上につながるような、基本的なリスニング力と平易で理解される英作文力を身に着ける。翻訳機を使わず自力で、短くても正しく、読む人にわかってもらえる英文が書けること。平易な英文を正しい発音で読むことができること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	授業で指定された内容のレポートを B-net から提出してもらいます。量は、授業内に指定します。なお、英語は日本語とは異なり、「文字数」ではなく「語数」″words″ で数える点に注意してください。また、ネット上や出版された本・書物・著作物その他、他人の書いたものからそのままコピーしたものや引用を自分のものとして書くことは剽窃にあたる可能性があり、そのような場合は認定しかねます。あくまで自分で書いた文をレポートにして提出してください。
･授業内試験	0%	指名して口頭により返答や発表をしてもらいます。予習を課したそれぞれの Unit の最初の ″Ⅰ.Vocabulary″ の解答や意味を確認したり、リスニング問題の解答確認などの際に指名します。そのほか、テキスト内の会話練習で英語で質問に返答したり、それぞれ英語で書いたもの読んでもらう際にも指名します。
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	英語Ⅰ（夏期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	早瀬　和栄			シラバスグループ	A20201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	英語でスヌーピーの漫画を読む
■授業の概要	本授業はスヌーピーの漫画を英語で読みます。授業では漫画のセリフや和訳問題を中心に翻訳していきます。最初の授業で名簿順に和訳の担当を決めますが、わからないところはクラス全体でサポートしますから、楽しく受講して下さい。すべての和訳を終えてから、時間的に余裕があれば英作文の解説をしていきます。英作文は授業中に指名することはありません。クラス全体で、すすめていきます。
■授業の目的・ねらい	自然な日本語に訳せるようになるのが授業のねらいです。アメリカ英語の俗語表現なども学びます。
■到達目標	テキストの英文を丁寧に読みながら、内容を正確に理解できるようになるのがねらいです。テキストの読解を通して、ボキャブラリーの増強も目指します。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	英語Ⅱ（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	田辺　翔平			シラバスグループ	A21100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	英文を読んでみよう。
■授業の概要	National Geographic Learning、Reading explorer を用いて英語力を培う。|英語を通して、世界を身近に感じる。
■授業の目的・ねらい	英文の精読・長文読解に取り組みながら、英文を深く理解することを目的とする。
■到達目標	英文の内容を正確に理解できる。|またその内容の要点を把握することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	指定されたテキストの問いをレポート課題として提出してもいらいます。
･授業内試験	0%	授業中に教科書の問いを回答してもらい、理解力を計る。
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	英語Ⅱ（春期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	森本　恒平			シラバスグループ	A21101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ヘミングウェイ(アメリカ文学)の短編を原文で読む。
■授業の概要	リーディングをしながら英語に慣れる。
■授業の目的・ねらい	単語・熟語を覚え、文法通りに訳し、丁寧に読めるようになること。さらに、その先にある登場人物の気持ちを理解しようとすること。物語を読んでいく中で何か一つ疑問に思うことを見つけてほしい。
■到達目標	英語の文章読解力向上

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	
･授業内発表	10%	
･授業内試験	15%	
･授業内課題	10%	
･その他	5%	

授業科目	英語Ⅱ（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	内藤　満			シラバスグループ	A21200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	夏目漱石『坊っちゃん』の英訳を読む
■授業の概要	夏目漱石の『坊っちゃん』の英訳を読みます。読む予定の箇所は、冒頭の坊っちゃんの子供時代の無鉄砲ぶりを描いた場面、赤シャツや山嵐などの教師たちの紹介の場面、宿直中の坊っちゃんが生徒たちに布団の中にイナゴを入れられる場面です。『坊っちゃん』の英訳は複数あるので、それらを比較して、訳し方の違いなどをグループで議論・発表してもらいます。
■授業の目的・ねらい	正確な発音や文法・構文を理解した読解能力を身に付けることを目指します。また、英訳の比較によって、英語表現の多様性・異文化理解・文学的表現などについても考えるようになってもらいたいと思います。
■到達目標	辞書で正確な英語の発音と熟語や構文の確認ができること。英語の表現方法を深く理解すること。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	30%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	20%	

授業科目	英語Ⅱ（夏期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	早瀬　和栄			シラバスグループ	A21201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	伝承童謡マザーグースを読む
■授業の概要	本講座はマザーグースを読みます。テキストの最初の唄から和訳していきます。和訳するところは、テキスト記載の英文です。マザーグースや［MEMOS］･［QUIZ］に載っている英文も読んでみましょう。一ページに一つの唄があり、注釈が充実しているので楽しく読みすすめられると思います。最初の授業で、名簿順に和訳の担当を決めますが、わからないところはクラス全体でサポートしますので楽しく受講して下さい。CD におさめられている唄を聞いて、マザーグースの美しいリズムに触れます。|
■授業の目的・ねらい	マザーグースの唄を丁寧に読みながら、内容を正確に理解できるようにするのが目的です。ボキャブラリーの増強を目指します。
■到達目標	マザーグースを自然な日本語に訳せるようになるのが目標です。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	基礎中国語（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	奥野　行伸			シラバスグループ	A22100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	会話口語表現中心の基礎中国語
■授業の概要	発音の習得を重視しながら、日常でよく使う会話表現と頻出文法を学びます。中国語の発音（ローマ字で書かれた「ピンイン」は英語のようで英語ではない）の読み方を確認しながら進めます。初歩的な文法を含めて、分かりやすく丁寧に解説します。会話を中心に様々な場面での実用的な表現力の向上を目指します。
■授業の目的・ねらい	今回のオンライン授業では発音に力を入れ、さらに母語（日本語）によるプラスの転移とマイナスの転移を捉え、日本語母語話者にとって理想的な中国語の学習方法を考えながら授業を進めていきます。
■到達目標	１、中国語の特徴を知る。２、簡体字の構造を知り、対応する日本の常用漢字と、その意味のずれ等を理解する。３、正確な発音ができる。４、テキストの文法を習得し、会話と作文に運用できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	25	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	5	

授業科目	基礎中国語（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	奥野　行伸			シラバスグループ	A22200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	会話口語表現中心の基礎中国語
■授業の概要	発音の習得を重視しながら、日常でよく使う会話表現と頻出文法を学びます。中国語の発音（ローマ字で書かれた「ピンイン」は英語のようで英語ではない）の読み方を確認しながら進めます。初歩的な文法を含めて、分かりやすく丁寧に解説します。会話を中心に様々な場面での実用的な表現力の向上を目指します。
■授業の目的・ねらい	今回のオンライン授業では発音に力を入れ、さらに母語（日本語）によるプラスの転移とマイナスの転移を捉え、日本語母語話者にとって理想的な中国語の学習方法を考えながら授業を進めていきます。
■到達目標	１、中国語の特徴を知る。２、簡体字の構造を知り、対応する日本の常用漢字と、その意味のずれ等を理解する。３、正確な発音ができる。４、テキストの文法を習得し、会話と作文に運用できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	65	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	5	

授業科目	基礎中国語（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	喬　昭			シラバスグループ	A22101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	初級中国語
■授業の概要	中国語の初心者を対象とした講義です。事前配布したテキストに沿って講義を進めます。|①正しい中国語の発音をマスターする。|②中国語での読解力を身につけます。|③初級中国語の語義、文法、また中国に関する知識を学びます。
■授業の目的・ねらい	①多くの練習問題を通して、口慣らしをし、会話の基準を固めます。|②徹底的にトレーニングし、正確な中国語の発音をマスターし、実践的な読解力を上げます。|③語学勉強を通して、中国を知り、中国の人々をのふれあいを楽しむようになります。
■到達目標	①正しく発音することができます。|②初級中国語の語学能力を身につけます。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	基礎中国語（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	奥野　行伸			シラバスグループ	A22200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	会話口語表現中心の基礎中国語
■授業の概要	発音の習得を重視しながら、日常でよく使う会話表現と頻出文法を学びます。中国語の発音（ローマ字で書かれた「ピンイン」は英語のようで英語ではない）の読み方を確認しながら進めます。初歩的な文法を含めて、分かりやすく丁寧に解説します。会話を中心に様々な場面での実用的な表現力の向上を目指します。
■授業の目的・ねらい	今回のオンライン授業では発音に力を入れ、さらに母語（日本語）によるプラスの転移とマイナスの転移を捉え、日本語母語話者にとって理想的な中国語の学習方法を考えながら授業を進めていきます。
■到達目標	１、中国語の特徴を知る。２、簡体字の構造を知り、対応する日本の常用漢字と、その意味のずれ等を理解する。３、正確な発音ができる。４、テキストの文法を習得し、会話と作文に運用できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	65	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	5	

授業科目	中国語（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	曽　睿			シラバスグループ	A23100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	初級?準中級中国語
■授業の概要	初級?準中級レベルの中国語学習者を対象とした講義である。テキストに沿って、語彙・文法・本文などを説明する。受講生の皆さんには、新出語彙や本文の朗読・暗唱をしたり、文法のポイントを使って簡単な作文をしたり、さらにテキストの内容を基に積極的に会話あるいは議論したりして頂きたい。ほかに、発音される中国語の表現や文章を聞き取って漢字とピンインで書き取る練習も行う。‖★この授業は入門ではないため、ピンイン（＝アルファベットの読み方）の組み立て方、読み方などの説明は行いません。入門の授業で一定程度勉強してから、履修してください。
■授業の目的・ねらい	初級?準中級レベルの中国語能力を身につけることである。
■到達目標	学習の到達目標は、テキスト収録語彙の漢字とピンインを覚えること、テキストに載っている文法事項を使って簡単な作文ができるようになることである。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	40%	
･その他	20%	

授業科目	中国語（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	孫　潔			シラバスグループ	A23200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中級中国語
■授業の概要	中国語の基礎知識を身につけた、中級中国語の学習者を対象とした講義です。事前配布したテキストに沿って講義を進めます。講義内容は以下の通りです。\①初級中国語の基礎知識を復習します。\②やや難易度のある文章を勉強し、中級中国語の語義、文法、また中国に関する知識を学びます。\③事前配布したテキストの内容を基に積極的に会話あるいは議論してもらいます。
■授業の目的・ねらい	①初級中国語の基礎知識を復習し、応用能力を向上させます。\②ペアーワークとグループワークを通して、コミュニケーション能力を高めます。\③中国社会・文化に関する知識を学び、異文化理解能力を身につけます。
■到達目標	①中国語の会話力を中心に、リスニング力及び読解力をさらに向上させること。\②中国文化に関する知識を学びながら異文化理解能力を培うこと。\

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	中国語（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	曽　睿			シラバスグループ	A23100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	初級?準中級中国語
■授業の概要	初級?準中級レベルの中国語学習者を対象とした講義である。テキストに沿って、語彙・文法・本文などを説明する。受講生の皆さんには、新出語彙や本文の朗読・暗唱をしたり、文法のポイントを使って簡単な作文をしたり、さらにテキストの内容を基に積極的に会話あるいは議論したりして頂きたい。ほかに、発音される中国語の表現や文章を聞き取って漢字とピンインで書き取る練習も行う。‖★この授業は入門ではないため、ピンイン（＝アルファベットの読み方）の組み立て方、読み方などの説明は行いません。入門の授業で一定程度勉強してから、履修してください。
■授業の目的・ねらい	初級?準中級レベルの中国語能力を身につけることである。
■到達目標	学習の到達目標は、テキスト収録語彙の漢字とピンインを覚えること、テキストに載っている文法事項を使って簡単な作文ができるようになることである。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	40%	
･その他	20%	

授業科目	中国語（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	孫　潔			シラバスグループ	A23200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中級中国語
■授業の概要	中国語の基礎知識を身につけた、中級中国語の学習者を対象とした講義です。事前配布したテキストに沿って講義を進めます。講義内容は以下の通りです。\①初級中国語の基礎知識を復習します。\②やや難易度のある文章を勉強し、中級中国語の語義、文法、また中国に関する知識を学びます。\③事前配布したテキストの内容を基に積極的に会話あるいは議論してもらいます。
■授業の目的・ねらい	①初級中国語の基礎知識を復習し、応用能力を向上させます。\②ペアーワークとグループワークを通して、コミュニケーション能力を高めます。\③中国社会・文化に関する知識を学び、異文化理解能力を身につけます。
■到達目標	①中国語の会話力を中心に、リスニング力及び読解力をさらに向上させること。\②中国文化に関する知識を学びながら異文化理解能力を培うこと。\

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	基礎朝鮮語（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	上野　潤			シラバスグループ	A24100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	韓国朝鮮の言葉と文化に触れましょう
■授業の概要	韓国朝鮮固有の言葉に触れ、日本語と似ているようで違いの大きいこの言語の奥深さ、使う楽しさに触れる。さらに、言語は、それを生み出した民族の文化の一環であるとの観点から、韓国朝鮮の文化に触れる機会も持ちたい。
■授業の目的・ねらい	韓国朝鮮の文字の学習、基本的な初歩会話を中心に指定テキストの 5 課（1?3 課；?です。?ではありません。　4?5 課；?があります。?がありません。）までを学習内容として想定している。成績評価は、語学学習なので、授業内での発表とリポートの両方で評価する。
■到達目標	テキストの５課までを学習目標にし、文字の読み方から基本的な韓国語の運用を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	
･授業内発表	40%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	基礎朝鮮語（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	金　玄			シラバスグループ	A24200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	朝鮮語の文字と会話を通して異文化を体験する。
■授業の概要	外国語を学ぶ（異文化コミュニケーション）とは、 異文化に対する｢気づき｣･｢比較｣をもとに、認識の変容を習慣化し、異文化に対応できる能力を育成する関門である。本授業では、はじめてハングルを学ぶ受講生を対象に、｢読む｣･｢聞く｣･｢書く｣･｢話す｣という四つの力がバランスよくつけることを目標にし、ハングルの仕組みを学ぶ。ハングルの発音はやや難しいが日本語にもっとも近い言語であり、簡単な挨拶、自己紹介など 日常生活の様々な場面において基本的な対応ができるようになることを目指す。‖
■授業の目的・ねらい	本授業では、朝鮮語の仕組みとあいさつ・自己紹介などの基本的な表現を学ぶ。
■到達目標	基礎的なハングルの仕組みなどを理解し、簡単な自己紹介が話せるようになること|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	20	
･授業内試験	20	
･授業内課題	10	
･その他	0	

授業科目	朝鮮語（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	崔　杉昌			シラバスグループ	A25100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	すぐ使えるハングル表現
■授業の概要	ハングルのいろいろな表現を楽しく学ぶ。「基礎朝鮮語」よりも一段上の表現として、動詞や形容詞の使い方、過去形を駆使した日常会話力のアップを試みる。さらに韓国関連の映像も取り入れながら言語文化の理解を深めていく。|
■授業の目的・ねらい	・基本文型を使って自らの表現力をアップしていく。|・学んだ文型を、実際に会話に活かすことで応用力を高める。|・言葉を通じて韓国文化や暮らしの理解を深める。
■到達目標	会話に必要な韓国語の基礎をきちんと学び、練習を重ねながらネイティブと簡単な日常会話を楽しむことができるように自信感を身につけていきたい。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・リポート試験(SR 履修)	50|	
・授業内発表	0	
・授業内試験	50	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	朝鮮語（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	金　貞蘭			シラバスグループ	A25200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	朝鮮語で会話を楽しもう
■授業の概要	・朝鮮語の文字であるハングルを確実に読めるようにする|・朝鮮語の基本文型の幅を広げていく|・確実に使える語彙、文型を増やしていく
■授業の目的・ねらい	1. 基礎朝鮮語で学習した朝鮮語の文字を基本にして、しゃべれる言葉の数を増やしていく| ①体言と用言の違いを理解する| ②肯定表現の文が使える| ③否定表現の文が使える|④過去表現の文が使える|2. 朝鮮語で自分の一日、一週間の生活が言えるようになる|3. 簡単な言葉を使い、人とのコミュニケーションができるようになる|4. 韓国、北朝鮮に興味をもつ機会になる
■到達目標	・朝鮮語で自己紹介ができる|・日常の生活を朝鮮語で言える

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	30	学習した内容の練習問題を出します。それを完成させて提出してもらいます。
･授業内試験	20	正確できれいな発音を身につけるために授業時間中に朝鮮語を言う練習を多くします。積極的に参加してきれいな朝鮮語を取得しましょう。
･授業内課題	10	語彙の数が増えないと、しゃべることができませんので、一日一回単語テストを行います。
･その他	0	

授業科目	スポーツ科学（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	A18200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	スポーツ・運動が人体に与える効果及び分析技術発展の成果を知る
■授業の概要	＜講義＞|スポーツ・運動が人体に及ぼす効果について，生理学的視点・バイオメカニクス的視点から話を進める。また，トップアスリートの卓越した能力並びにそれらの分析する機器の発展過程についても着目し，話を進める。|＜実技＞|本講義では，比較的負荷の軽いネット型のスポーツ（テニス，卓球，バドミントン，ソフトバレーボール等）を中心に行う。ただし，実際に行う種目や活動時間については，受講者人数，年齢構成，経験の有無等を考慮して決める。
■授業の目的・ねらい	スポーツ・運動が人体に及ぼす効果について理解すること，ネット型スポーツにおいて簡単なゲームができることを目的とする
■到達目標	スポーツ・運動が人体に及ぼす効果について説明できる。また，ネット型ゲームにおいて基本スキルを用いて簡単なゲームができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	20	

授業科目	スポーツ科学（秋期)A クラス_対面				単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	A18300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	スポーツ・運動が人体に与える効果及び分析技術発展の成果を知る
■授業の概要	＜講義＞|スポーツ・運動が人体に及ぼす効果について，生理学的視点|スポーツ障害を中心としたスポーツ医学的視点、健康を維持促進するためのトレーニング理論|について‖＜実技＞|本講義では，比較的負荷の軽いネット型のスポーツ（バドミントン，ソフトバレーボール等）を中心に行う。ただし，実際に行う種目や活動時間については，受講者人数，年齢構成，経験の有無等を考慮して決める。
■授業の目的・ねらい	スポーツ・運動が人体に及ぼす効果について理解すること，ネット型スポーツにおいて簡単なゲームができることを目的とする
■到達目標	スポーツ・運動が人体に及ぼす効果について説明できる。また，ネット型ゲームにおいて基本スキルを用いて簡単なゲームができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	20	

授業科目	生涯スポーツ（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	A19200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	生涯にわたってスポーツ・運動に親しむことをめざして
■授業の概要	＜講義＞|生涯にわたってスポーツ・運動に親しむことの意義について考える。負荷の軽い運動，ニュースポーツの行い方やその効果，スポーツ・運動の楽しさを「する」ことだけでなく，「みる」「ささえる」「しらべる」といった視点からも考える。|＜実技＞|本講義では，比較的負荷の軽いスポーツ（テニス，卓球等）やニュースポーツ（ペタンク等）を中心に行う。ただし，実際に行う種目や活動時間については，受講者数，年齢構成，経験の有無等を考慮して決める。
■授業の目的・ねらい	スポーツ・運動に対する興味・関心を高めることをねらいとする。そのために，運動の行い方を理解し，主体的にスポーツ・運動に取り組む姿勢に期待する。
■到達目標	年齢や体調に応じた運動処方について理解する。また，運動実践を通して運動を「する」楽しみ方を理解するだけでなく，「みる」「ささえる」「しらべる」といった多様な楽しみ方についても知る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	20	

授業科目	生涯スポーツ（秋期)A クラス_対面				単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	A19300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	生涯にわたってスポーツ・運動に親しむことをめざして
■授業の概要	＜講義＞|生涯にわたってスポーツ・運動に親しむことの意義について考える。負荷の軽い運動，ニュースポーツの行い方やその効果，スポーツ・運動の楽しさを「する」ことだけでなく，「みる」「ささえる」「しらべる」といった視点からも考える。|＜実技＞|本講義では，比較的負荷の軽いニュースポーツ（ボッチャ・フライングディスク等）を中心に行う。ただし，実際に行う種目や活動時間については，受講者数，年齢構成，経験の有無等を考慮して決める。
■授業の目的・ねらい	スポーツ・運動に対する興味・関心を高めることをねらいとする。そのために，運動の行い方を理解し，主体的にスポーツ・運動に取り組む姿勢に期待する。
■到達目標	年齢や体調に応じた運動処方について理解する。また，運動実践を通して運動を「する」楽しみ方を理解するだけでなく，「みる」「ささえる」「しらべる」といった多様な楽しみ方についても知る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	20	

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	B00200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	研究の基礎を学ぶ
■授業の概要	リポートや卒業論文の作成に向けて必要となるスキルについて、実践的に学んでゆきます。具体的には、図書館や資料室の利用の仕方、書籍や論文などの文献検索方法、仏教研究に役立つデータベースなどの概略を紹介し、実際に図書館やデータベースのウェブサイトを使いながら、文献を入手する方法を学びます。そのうえで、各自が入手した文献をいかに読み進めるか、その読解のポイントについて概説します。そのため授業では、必要な文献を探し、文献リストを作成し、文献を入手し、読み進めるところまでを課題としています。
■授業の目的・ねらい	①図書館や資料室に所蔵されている文献を検索することができる。|②図書館などで必要な文献を入手することができる。|③文献リストを作成することができる。|④研究論文の構成を理解し、読むことができる。
■到達目標	①必要な文献を探すことができる。|②文献を入手することができる。|③文献リストを作ることができる。|④研究論文の構造を理解し、読書ノートを作ることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	50%	
･その他	0%	①文献リストの作成、②文献の入手、③読書ノートの作成、④成果発表と意見交換などを総合的に評価します。

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	B00300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教思想研究の基礎
■授業の概要	法然浄土教思想研究には、特有の問題点と方法論とがあります。今回は、法然浄土教において重要視される三心のうちの「至誠心」を事例として、一般書、辞典等がどのように説明しているのか、そして実際に法然遺文にはどのように説かれているのかを確認していきます。この作業過程において、辞典の扱い方、インターネットの利用、文献の扱い方などの基本的な研究作業について説明していきます。
■授業の目的・ねらい	大学における最終目的である卒業論文作成のための基本的な技術を身につけること、また原典および一次資料の重要性について理解することが目標です。
■到達目標	卒業論文作成のための具体的な方法を身に付け、自身で論文作成が行えるようになることを目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	日本古文入門（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	下端　啓介			シラバスグループ	B01100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然の伝記『法然上人行状絵図』の名場面を読む
■授業の概要	仏教文献の日本古文の読解力を高めるために、法然の伝記『法然上人行状絵図』の文章を読んでいく。|『法然上人行状絵図』は、浄土宗祖・法然（1133?1212）の没後約 100 年ほどで成立した伝記である。その中から、ドラマティックであったりユーモラスであったりと、興味を引きやすい場面の文章を抜き出して読んでいく。|受講生には、資料の読み上げ・語句の説明・現代語訳・文法的解釈などの発表をしてもらう。授業に臨むにあたって、充分に準備しておいてもらいたい。
■授業の目的・ねらい	『法然上人行状絵図』を読むことで、日本の古文体の仏教文献を読解する力を身につける。
■到達目標	①『法然上人行状絵図』を読んで、その内容を理解し、説明できるようになる。|②日本の古文体の仏教書を読解する能力を身につける。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	40	リポートを提出してもらうことで、①『法然上人行状絵図』の内容の理解度をはかり、評価する。
･授業内試験	0	授業内で資料の読み上げ・語句の説明・現代語訳・文法的解釈について発表してもらうことで、②古文の読解能力の到達度をはかり、評価する。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	仏教漢文入門（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	小川　法道			シラバスグループ	B02100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	漢文の基礎
■授業の概要	漢文の文法など基礎知識を学ぶとともに、比較的優しい仏教漢文を書き下し、現代語訳をします。原典を実際に読むことを通して、仏教漢文に慣れ親しんでもらう。
■授業の目的・ねらい	漢文の基礎を把握する。仏教漢文に慣れる。
■到達目標	易しい仏教漢文に慣れ親しめる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	サンスクリット語文法（冬期)A クラス_対面				単位	2
担当者	唐井　隆徳			シラバスグループ	B03300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	サンスクリット語（梵語）文法入門
■授業の概要	全くの初心者のために、吹田隆道編著『実習サンスクリット文法』をテキストに用いて、サンスクリット語文法をゼロから学びます。
■授業の目的・ねらい	インドの歴史・宗教・哲学文献は、基本的にサンスクリット語（梵語ともいう）で記されています。仏教を含むインド文献を学ぶには、サンスクリット語に関する知識が不可欠です。サンスクリット語の初歩的な文法 を学び、独力でインドの仏教文献を読むために必要な最低限の知識を身につけます。
■到達目標	独力でサンスクリット語仏教文献を読むために必要な最低限の知識を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	浄土三部経研究１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	西本　明央			シラバスグループ	B11100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『無量寿経』講読
■授業の概要	浄土宗所依の経である浄土三部経のうち、『無量寿経』を講読する。三部経および『無量寿経』の概要解説(諸本、梗概、末書など)の後、『無量寿経』を訓読法によって読み進める。特に重要な箇所(法蔵説話・願文・第十八願成就文周辺など)については重点的に解説する。
■授業の目的・ねらい	『無量寿経』の構成と主張を理解すること。特に阿弥陀仏(無量寿仏)がどのようにして仏となったのか、「願」と「願成就」の関係について、理解することを求める。特に重要な箇所については逐語的な解釈ができるように目指す。
■到達目標	法蔵説話の概要を理解し、念仏往生の根拠を「願」と「願成就」の関係に基づいて説明できること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	20%	

授業科目	浄土三部経研究２（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	齊藤　舜健			シラバスグループ	B12100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	浄土宗所依の浄土三部経の内、『観無量寿経』と『阿弥陀経』を講読する。
■授業の概要	浄土三部経全体について概説した後、『観無量寿経』『阿弥陀経』の順で、訓読法により、浄土宗の伝統的な解釈に基づいて講読する。テキストには大雲点本を用いる。
■授業の目的・ねらい	浄土宗の教えの理解に資するために『観無量寿経』と『阿弥陀経』の構成と主張を理解する。特に『観経』は全体の構造と付属の意味を理解すること、『阿弥陀経』は諸仏の証誠の意義を理解することに重点を置く。受講者には浄土宗の伝統的な解釈に基づく理解を求める。|成績は、これらの理解度を授業への参加と課題の結果に基づいて総合的に評価する。
■到達目標	『観無量寿経』と『阿弥陀経』の概要が説明できること。|付属の意味、諸仏の証誠の意味が説明できること。|重要箇所（講義中に指示）について、訓読と和訳ができること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	90	
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	浄土学研究（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	服部　純啓			シラバスグループ	B13100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	南都浄土教思想の研究
■授業の概要	東大寺三論の学僧である珍海(1091-1152)は、平安期の浄土教思想史上、恵心僧都源信から法然へと至る思想の媒介役であると位置づけられている。本講義では、珍海の浄土教系著作である『菩提心集』を取り上げ、その内容を研究する。
■授業の目的・ねらい	日本における浄土教思想は、比叡山だけではなく東大寺や興福寺などの南都寺院でも盛んに研究されてきた。こうした南都の浄土教思想を研究することによって、平安期の浄土教思想の全体像が明らかになる。
■到達目標	『菩提心集』の内容を読み解くことによって、南都浄土教思想の一端を理解することを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	20	到達目標に示した到達度によって評価する.。
･授業内試験	0	講義内での質疑応答によって評価する。
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	浄土宗学研究（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	B14100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	「往生大要抄」（『和語灯録』所収）を読む
■授業の概要	法然のことばを集めた『和語灯録』に収録される「往生大要抄」は、仏教における浄土教の位置づけから、念仏行者の心構えまでが説かれる文献です。この「往生大要抄」を読解しながら、法然の浄土教思想とその背景について考察します。
■授業の目的・ねらい	一次資料を直接解読する能力を身につける。|先行研究に対する批判力を身につける。
■到達目標	一次資料を、その背景を考慮しながら読解することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	選択集講読１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	B15200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『選択集』を読む
■授業の概要	『選択集』の前半（第一章～第七章）を講読することにより、法然浄土仏教の骨子を明らかにします。この前半部分では、第一章～三章（仏教の様々な教えから専修念仏への理論)、第四章（諸行と念仏の関係）が重要な章となります。これらを特に重点的に読んでゆきます。
■授業の目的・ねらい	宗祖の主著『選択本願念仏集』の読解を通して、法然の浄土仏教体系、およびその基礎ともいうべき人間観について理解する。また、法然浄土教を研究する上での基礎的な方法論を身につける。\受講態度とリポートによって評価します。
■到達目標	『選択集』のそれぞれの章が、何を問題としているのかを理解することと、選択本願念仏の「選択」が何を意味しているのかを理解することを目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	選択集講読２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	小川　法道			シラバスグループ	B16200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『選択集』を読む
■授業の概要	『選択集』の後半（第 8 章?第 16 章）を講読することにより、法然浄土仏教の骨子を明らかにします。この後半部分は 8 章から 12 章までは『観無量寿経』を註釈しており、そして 13 章から 16 章までは『阿弥陀経』を註釈しています。最後の 16 章は『選択集』全体をまとめているので特に力を入れて読んでいきます。
■授業の目的・ねらい	宗祖法然上人の主著『選択本願念仏集』の読解を通して、法然の浄土仏教体系、およびその基礎ともいうべき人間観について理解する。また、法然浄土教を研究する上での基礎的な方法論を身につける。
■到達目標	『選択集』のそれぞれの章が、何を問題としているのかを理解することと、選択本願念仏の「選択」が何を意味しているのかを理解することを目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	浄土文献講読１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	南　宏信			シラバスグループ	B17200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然『逆修説法』五七日を読む。
■授業の概要	逆修法会とは自らの死後における仏事である。『逆修説法』は建久五年（1194）頃、中原師秀が阿弥陀仏象を刻み、その開眼供養に合わせて行った四十九日の逆修法会に、法然を導師として招き、その時の説法内容を聞き書きしたものである。今回は五七日（第５回目の講説）を講読していく。
■授業の目的・ねらい	五七日は「依正二報の功徳讃歎」「浄土五祖」を講読していく。『逆修説法』から約 4 年後に撰述される法然の集大成である『選択集』と対比しながらその特徴を追っていくことを目的・ねらいとする。
■到達目標	『逆修説法』を講読しながら、漢文読解能力を習得し、かつ法然浄土教の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	浄土文献講読２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	加藤　弘孝			シラバスグループ	B18200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『類聚浄土五祖伝』講読
■授業の概要	浄土宗の開祖である法然は、中国浄土教の曇鸞・道綽・善導・懐感・少康ら五人の祖師を「中国浄土五祖」として鑽仰しました。本講義では、法然が「中国浄土五祖」の伝記を纏めて編集した『類聚浄土五祖伝』の原文を各祖師ごとに講読し、それら祖師たちの事跡と浄土宗における中国の師資相承の系譜を学んでいきます。同時に各祖師の中国浄土教理史における思想史的な位置付けについても解説します。
■授業の目的・ねらい	法然が浄土宗を開いた際に他宗から批判の対象となったのが師資相承の問題でした。『類聚浄土五祖伝』を講読することで、五祖を選定した法然の意図が浮き彫りになります。
■到達目標	浄土五祖それぞれの生涯と思想の概要を把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	浄土学ゼミ１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	齋藤　蒙光			シラバスグループ	B19200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	浄土列祖の思想
■授業の概要	本講義では、インド・中国・日本における浄土教典籍（経論章疏）の中から要文を抜粋し、講読解説していきます。
■授業の目的・ねらい	主要な浄土教典籍を時系列で講読することにより、その思想背景や後世への影響をふまえつつ、浄土列祖の思想を総合的に理解することを目的とします。
■到達目標	各種聖典の講読を通して自己の研究方法を確立すること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	浄土学ゼミ２（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	南　宏信			シラバスグループ	B20100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然『往生要集釈』を読む。
■授業の概要	法然上人（1133-1212）の『往生要集釈』は源信『往生要集』（985 成立）の註釈書である。法然は 43 歳で浄土宗を立てるが、それ以前は比叡山において『往生要集』の講義で有名であった叡空に長年師事している。法然が「偏依善導一師」の立場をとる以前は『往生要集』を中心に浄土教を学んでいた。本講義では『往生要集釈』を講読することで、法然の『往生要集』理解を確認していく。
■授業の目的・ねらい	本講義は①漢文の読解力向上を、また②浄土教思想の基礎概念習得するとともに③法然の『往生要集』観を理解することを目的・ねらいとする。それにより法然研究の基本的な方法を習得することを目指していく。
■到達目標	上記①漢文の読解力向上、②浄土教思想の基礎概念習得、③法然の『往生要集』観を理解することを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	仏教学研究（初期・部派）（春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	唐井　隆徳		シラバスグループ	B31100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	初期仏教聖典と縁起説
■授業の概要	ゴータマ・ブッダによって誕生した仏教が、いかなる教理・思想を有していたのかを知るためには、ブッダの言行録である初期仏教聖典の内容を正確に理解する必要があります。ブッダは何も著作を残していないため、当初ブッダの言行は弟子達が記憶することで伝持されていきましたが、やがてその記憶が一定の形式のもとでまとめられ、初期仏教聖典が成立していくことになります。この授業では、この初期仏教聖典の成立事情を捉えるとともに、実際に初期仏教聖典に説かれている内容、特に仏教の根本思想とも言われる縁起説について解説します。
■授業の目的・ねらい	①初期仏教聖典とはいかなる内容であり、どのようにして成立したのかについて理解する。|②初期仏教聖典を通して、縁起説について理解する。|
■到達目標	①初期仏教聖典とはいかなる内容であり、どのようにして成立したのかを説明できる。|②初期仏教聖典に説かれる縁起説について説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	仏教学研究（大乗・チベット）（春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	西山　亮			シラバスグループ	B32100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	大乗仏教の文献と思想
■授業の概要	大乗仏教に関する文献を取り上げ、その成立や構造、内容について講義する。特に、般若経などの大乗の経典に注目し、その成立と思想について概説する。また、近年飛躍的に研究が進んでいるチベット仏教についても概観する。
■授業の目的・ねらい	大乗仏教の文献に関する基礎知識を身につけ、それぞれの文献の内容について理解する。チベット仏教についての知識を身につける。
■到達目標	各大乗仏教経典について説明できる。|チベット仏教について解説できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	仏教学研究（中国）（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	曽和　義宏			シラバスグループ	B33200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中国仏教における仏身論
■授業の概要	中国仏教における仏身論について、『大乗大義章』、浄影寺慧遠、吉蔵、道綽、善導を取り上げ、それぞれの理解について講義する。
■授業の目的・ねらい	中国における仏身論の展開と、浄土教における仏身論について理解する。
■到達目標	中国仏教における仏身論の展開と、浄土教における仏身論の特異性について説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	仏教学研究（日本）（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	中野　聰			シラバスグループ	B34300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法隆寺上代仏教美術探求
■授業の概要	奈良・斑鳩の里に飛鳥時代以来約 1400 年の法燈を守り続ける不死鳥の寺、法隆寺。この授業では同寺に伝存する上代の仏教美術品のうちきわめて著名な作品をいくつか取り上げ、その祈りの美について探求します。取り上げる主要作品は金堂の本尊釈迦三尊像、同四天王像、夢殿の本尊救世観音、大宝蔵院の本尊百済観音、そして同院で展示公開されている玉虫厨子、橘夫念持仏阿弥陀三尊像です。この授業は仏教学系の授業であるため、美術史学研究の基本となる美術作品の様式だけではなく、図像や作品制作の背景にある上代の仏教信仰などにも注目しながら講義を展開する予定です。| とくに仏教美術研究の分野においては近年、各時代の作品の機能をめぐる研究に目覚ましい進展がみられます。そこでこの授業では各作品の宗教的機能なども探求課題として視野に入れ、今日までのさまざまな研究成果を紹介しながら考察します。なおこの授業では毎回、パワーポイントを使用し諸作品の画像を提示します。むろん日本の作品だけではなく、関連する中国や朝鮮等の作品も紹介する予定です。 |
■授業の目的・ねらい	飛鳥白鳳時代の仏教美術の史的意義や、その背景にある信仰の実態を考察することで、当時の仏教文化の様相を理解するのがこの授業の目的です。併せて美術作品を観る方法と、その本質を読み取る方法を学ぶということも重要視します。
■到達目標	飛鳥白鳳時代に生み出された法隆寺の主要な仏教美術作品に関するさまざまな情報を把握・理解するとともに、各作品についての学術的な知識を深め、上代仏教文化形成の実態を把握するということを目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	リポート試験の内容は、授業で取り上げた作品のうちいずれか 1 点を選択して論述する形式です。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	仏教学講読（初期・部派）（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	唐井　隆徳			シラバスグループ	B36100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	パーリ文献に見られる仏伝の講読を通して、基本的な仏教思想、特に縁起と四諦について理解を深める。
■授業の概要	ゴータマ・ブッダによって誕生した仏教が、いかなる教理・思想を有していたのかを知るためには、ブッダの言行録である初期仏典の内容を正確に理解する必要があります。ブッダは何も著作を残していないため、当初ブッダの言行は弟子達が記憶することで伝持されていきましたが、やがてその記憶が一定の形式のもとでまとめられ、初期仏典が成立していくことになります。この授業では、初期仏典のうち上座部大寺派が伝承するパーリ文献の読解を通して、初期仏教研究の手法を学ぶとともに、重要な仏教思想である縁起と四諦について理解を深める。講読の際には日本語訳を用いる。
■授業の目的・ねらい	①仏教史におけるパーリ文献の位置づけについて理解する。|②パーリ文献に説かれる縁起と四諦について理解する。|③初期仏教研究の手法を学ぶ。‖
■到達目標	①仏教史におけるパーリ文献の位置づけについて説明できる。|②パーリ文献に説かれる縁起と四諦について説明できる。|③初期仏教研究の手法について説明できる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	仏教学講読（大乗・チベット）（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	田中　裕成			シラバスグループ	B37300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	唯識三十論と唯識思想入門
■授業の概要	般若経や中観学派が主張するようにすべての存在が空・無であるなら、一体何が世界を認識するのか。グプタ王朝のインド古典文化爛熟期に現パキスタンのペシャワール生まれの二人の兄弟（無著と世親）が仏教思想に革命を起こす。唯識学派の誕生である。彼らの主張する「心のみは存在する」とは如何なる意味か。世親の著した『唯識三十論』の和訳を読んで唯識思想を学ぶ。|
■授業の目的・ねらい	大乗仏教思想を代表する思想のひとつである唯識思想を中心として学び、大乗仏教を理解する。
■到達目標	インド大乗仏教を代表する思想のひとつである唯識思想を説く文献とその内容の理解。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	仏教学講読（中国）（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	B38300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『法顕伝』講読
■授業の概要	中国東晋時代の隆安三年（395）に長安を発し、西域を経由してインドに渡った法顕（337～422）の伝記『高僧法顕伝』(『仏国記』）を講読します。｜　本授業では、まず『高僧法顕伝』がどのような史料であるのか、また法顕伝の入竺ルートについて、解説文や地図をもとに理解します。そのうえで、『大正新脩大蔵経』第 51 巻所収の原文をテキストとし、長沢和俊による現代語訳（長沢和俊訳注『法顕伝・宋雲行紀』〔東洋文庫 194〕平凡社、1971 年）を参考資料として使用し、受講生による輪読形式で読み進めてゆきます。その際、関連資料を適宜参照しながら、内容の理解を深める工夫を図ります。｜　本年度は、于テン（門＋眞）国の箇所から講読します。
■授業の目的・ねらい	漢文で記された仏教文献を、参考資料や辞書類を活用しながら読解する力を養うことを目指します。
■到達目標	辞書類を活用しながら、漢文資料を訓読し、読解することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	リポートの課題は、（１）講読箇所のなかから仏教や仏教文化に関わるテーマを各自で設定し、それについて調べた内容をまとめるもの、（２）指定する範囲の訓読、のどちらかを選択していただきます。
･授業内試験	0%	授業では受講生による講読を行います。
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	仏教学講読（日本）（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	齋藤　蒙光			シラバスグループ	B39400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然と親鸞
■授業の概要	仏教思想に日本独自の展開をもたらした、浄土宗の祖・法然（1133―1212）と、浄土真宗の祖・親鸞（1173―1262）の思想について説明する。|師弟関係にあった両者の思想は、「阿弥陀仏」「浄土」「往生」など、同じ浄土教の用語を用いるが、それによって表現される思想内容には異なる点も多い。|法然・親鸞の著述を比較しながら読み、両者の思想の共通点と相違点について考察する。
■授業の目的・ねらい	日本独自の仏教思想として浄土宗・浄土真宗の教理が確立したことの理由や意義について理解する。|法然と親鸞の思想の共通点と相違点について理解し、説明できるようになる。
■到達目標	法然と親鸞の思想の共通点と相違点について理解し、説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	リポートを提出してもらうことで、法然と親鸞の思想の理解度をはかり、評価する。
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	授業半ばで短いリポートを提出してもらうことで、中間までの授業の理解度をはかり、評価する。

授業科目	仏教学ゼミ１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	田中　裕成			シラバスグループ	B40200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	仏教学の研究手法を学ぶ
■授業の概要	仏教学の研究において、研究対象の研究史の把握と原典の読解は必要不可欠です。|各自が論文を作成する際には、先行研究を把握すること、また先行研究を批判的に読み問題の所在を明らかにすること、問題解決のために原典を精読し問題を解決することが求められます。|そこで本授業では、いくつかの仏教学の論文を配布し、その論文の精読を行います。|精読の際には、それぞれの資料の入手方法も概説します。|
■授業の目的・ねらい	①仏教学の研究手法について理解する。|②仏教学の論文の入手方法について理解する。|③仏教学の原典の入手方法について理解する。
■到達目標	①仏教学の研究手法について説明できる。|②仏教学の論文の入手方法について説明できる。|③仏教学の原典の入手方法について説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	10	授業で取り扱ったテーマに関するリポートの提出を求め、到達目標に対する達成度を評価します。期待値をはるかに超えた達成度であれば 90～100 点、期待値を十分に達成していれば 80 点～89 点、期待値をほぼ達成していれば、70～79 点、期待値を下回りもうすこし努力が必要な場合は 60～69 点、期待値をはるかに下回りさらなる努力が必要な場合は 0～59 点となります。
･授業内試験	0	授業内で質疑を行い、その応答状況をもって評価する。期待値をはるかに超えた達成度であれば 90～100 点、期待値を十分に達成していれば 80 点～89 点、期待値をほぼ達成していれば、70～79 点、期待値を下回りもうすこし努力が必要な場合は 60～69 点、期待値をはるかに下回りさらなる努力が必要な場合は 0～59 点となります。
･授業内課題	10	
･その他	0	授業ごとにリアクションペーパーの提出を求め、授業の理解度に基づいて評価する。期待値をはるかに超えた達成度であれば 90～100 点、期待値を十分に達成していれば 80 点～89 点、期待値をほぼ達成していれば、70～79 点、期待値を下回りもうすこし努力が必要な場合は 60～69 点、期待値をはるかに下回りさらなる努力が必要な場合は 0～59 点となります。

授業科目	仏教学ゼミ２（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	細田　典明			シラバスグループ	B41100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『ダンマパダ』講読
■授業の概要	漢訳『法句経』は仏教の代表的な経典であり、パーリ語『ダンマパダ』、サンスクリット『ウダーナ・ヴァルガ』やプラークリット『ダルマパダ』等の他の部派による伝承がある。また、ウパニシャッドや叙事詩、ジャイナ教聖典に並行句が知られる。これらの伝承や並行句を参照して、その内容を『法句経』で講読する。
■授業の目的・ねらい	『法句経』は、出家・在家を問わず、最も広く読まれている初期仏典であり、更に、中国・西洋の古典に類似した内容が見られる。その内容を正確に理解し、仏教の普遍的意義に気付く。
■到達目標	講読した『ダンマパダ』の内容について正しく説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	インド仏教文化研究（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	細田　典明			シラバスグループ	B51200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	インド文化と仏教文化
■授業の概要	①ヴェーダの神々とその特徴を理解し、仏教に取り入れられた神々について学ぶ。|②ヴェーダ祭式の特徴を理解し、仏教儀礼における勧請や供養との関連を学ぶ。|③古代インドの人生観について理解し、出家の意義と梵天勧請による説法の意味を学ぶ。|④ヒンドゥー教の三神一体について理解し、仏教における一仏と多仏の意味と信仰を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	ヴェーダの神々やヴェーダ祭式を学ぶことによって、仏教儀礼における関連を学ぶ。また、ヒンドゥー教の人生観や信仰を学ぶことによって、念仏が基本的な信仰形態であることに気付く。
■到達目標	①ヴェーダの神々と十二天を説明できる。|②ヴェーダ祭式の基本的内容を説明できる。|③古代インドの人生観を理解し、出家の意義を説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	-	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	-	
･授業内試験	-	
･授業内課題	20	
･その他	-	

授業科目	中国仏教文化研究（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	加藤　弘孝			シラバスグループ	B52300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中国仏教史ー仏教の伝来時から南北朝時代までの中国仏教の展開ー
■授業の概要	今から約二千年前にインドの仏教が中国に伝来しました。中国人は仏教の新しい概念や価値観に驚き、また強い関心を持ちます。その後、経典が翻訳され、知識人が信仰するようになり、更に中国人僧侶も増加します。その中で儒教や道教との衝突と融合を繰り返し、時の王朝との関わりを持ちながら、インドとは異なる独自の仏教が展開しました。本講義では、伝来から６世紀後半までの中国仏教を概観するとともに、特に重要な出来事を取り上げて解説します。
■授業の目的・ねらい	インドとは異なる仏教の展開を確認します。中国仏教は、言語や習慣や宗教など、広く中華文明の中で次第に醸成されていきます。成績の評価は最終リポートで判断します。
■到達目標	中国における仏教の歴史的展開の文脈の中で、仏教の初伝から南北朝時代に至るまでの中国仏教史の特質を理解できるようになりましょう。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	日本仏教文化研究（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	B53200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中世（鎌倉・室町時代）の仏教文化を学ぶ
■授業の概要	古代の日本に伝来した仏教は長い時間を経て日本に定着し、現在も身近に多くの寺院が存在します。日本の歴史や文化を理解する上で、欠かせない役割を占めているのが仏教といえるでしょう。しかし、仏教は順調に発展・定着してきたのではなく、幾つかの大きな変動期がありました。その一つが中世（鎌倉～室町時代）だと言えます。例えば浄土宗・浄土真宗・日蓮宗といった「鎌倉新仏教」が興り、またいわゆる「旧仏教」にも戒律を重視して改革を目指す勢力が現れるなど、中世は新たな動きと旧来の動きがせめぎ合った時代だったのです。| 本授業では、変動期である中世仏教がこれまでどのように捉えられてきたか、まずはその変遷を追うとともに、そこに生じた独自の文化がどのようなものだったのかを考えていきたいと思います。
■授業の目的・ねらい	本講義では、中世仏教に関連する多くの史料を提示し、解釈していきます。それらを正確に理解できるようになることが目標です。そして、それらの史料の解釈が、これまでの研究でどのように変化してきたのか、といったことまで踏み込んで理解することも目的です。
■到達目標	・中世の仏教文化研究の変遷について、史料に基づいて理解できるようになる。 |・史料を様々な視角から解釈する姿勢を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	40%	
･その他	0%	

授業科目	日本仏教思想研究（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	三好　俊徳			シラバスグループ	B54100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	日本中世の法会と文学
■授業の概要	日本中世には国家的な儀礼から私的な供養にいたるまで多彩な仏事法会が行われていた。その場では、所作による儀礼や芸能のほかに、声によって法会が荘厳されていた。『元亨釈書』によると、法会における声には、持誦・梵唄・唱導・念仏があるとされるが、この授業では唱導を取り上げる。特に院政期・鎌倉期に活躍して安居院流という唱導の一派をうちたてた澄憲・聖覚父子の記した資料を読み解く。さらに法会における言葉と中世文学との結びつきにも注目しつつ、唱導という仏教の実践的な言葉をもとに中世仏教の思想と文学との関係をとらえる。
■授業の目的・ねらい	『転法輪抄』を中心とした唱導資料や唱導と関わる文学の読解を通して、中世の法会における仏教思想について学ぶ。
■到達目標	法会での言葉を手がかりとして、中世日本の仏教思想の具体的な表現とその広がりを理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	インド仏教文化講読（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	中西　麻一子			シラバスグループ	B55200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法顕と玄奘のインド旅行記を読む
■授業の概要	法顕と玄奘は 5 世紀から 7 世紀にかけてインドを訪れた中国の仏教僧です。彼らが実際にインドで見聞したことは『法顕伝』と『大唐西域記』に記録されています。そこには、インドの仏教聖地（仏跡地）の状況や各地域に伝わる仏教の説話などが豊富に収められています。|本講義では、法顕と玄奘のインド旅行記を日本語訳に基づいて講読したあと、インド各地に伝わる仏教説話の解説を行うことでインド仏教文化への理解を深めます。
■授業の目的・ねらい	①法顕と玄奘について知る。|②インドの仏教聖地（仏跡地）を法顕と玄奘の記録に基づいて理解する。|③法顕と玄奘が訪れた場所をインド地図上に指し示すことができるようになる。今後、インド旅行などで同地を訪れた際に、その場所について明確なイメージを持てるようになる。|
■到達目標	①法顕と玄奘ついて説明できる。|②インドの仏跡地について説明できる。|③インド地図上に玄奘と法顕が訪れた場所を指し示すことができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	10	授業で取り扱ったテーマに関するリポートの提出を求め、到達目標に対する達成度を評価します。期待値をはるかに超えた達成度であれば 90～100 点､期待値を十分に達成していれば 80 点～89 点、期待値をほぼ達成していれば、70～79 点、期待値を下回りもうすこし努力が必要な場合は 60～69 点、期待値をはるかに下回りさらなる努力が必要な場合は 0～59 点となります。
･授業内試験	0	授業内で質疑を行い、その応答状況をもって評価する。期待値をはるかに超えた達成度であれば 90～100 点、期待値を十分に達成していれば 80 点～89 点、期待値をほぼ達成していれば、70～79 点、期待値を下回りもうすこし努力が必要な場合は 60～69 点、期待値をはるかに下回りさらなる努力が必要な場合は 0～59 点となります。
･授業内課題	10	
･その他	0	授業ごとにリアクションペーパーの提出を求め、授業の理解度に基づいて評価する。期待値をはるかに超えた達成度であれば 90～100 点、期待値を十分に達成していれば 80 点～89 点、期待値をほぼ達成していれば、70～79 点、期待値を下回りもうすこし努力が必要な場合は 60～69 点、期待値をはるかに下回りさらなる努力が必要な場合は 0～59 点となります。

授業科目	中国仏教文化講読（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	B56400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『冥報記』講読
■授業の概要	『日本霊異記』にも大きな影響を与えたとされる、唐代の仏教説話集『冥報記』を講読します。本授業では、まず『冥報記』がどのような史料であるのかを理解したうえで、『大正新脩大蔵経』第 51 巻所収の原文を、受講生による輪読形式で読み進めてゆきます。その際、関連資料を適宜参照しながら、内容の理解を深める工夫を図ります。｜　本年度は、絳州大徳沙門釈僧徹伝から読み始めます。
■授業の目的・ねらい	漢文で記された仏教文献を、参考資料や辞書類を活用しながら読解する力を養うことを目指します。
■到達目標	辞書類を活用しながら、漢文資料を訓読し、読解することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	リポートの課題は、（１）講読箇所の中から、仏教や仏教文化に関わるテーマを各自で設定し、それについて調べた内容をまとめるもの、（２）指定範囲の訓読、のどちらかを選択していただきます。
･授業内試験	0%	授業では受講生による講読を行います。
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	日本仏教文化講読（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	工藤　美和子			シラバスグループ	B57200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『三宝絵』から読み解く仏教的世界のあり方
■授業の概要	私たちは過去の仏教史料を読み解くことで、過去に人々がどのような仏教と社会のあり方を考えていたのかを知ることができます。本授業では、平安時代に編まれた仏教入門書『三宝絵』からいくつかの説話や法会に関する話を取りあげ、仏教史料を読解する力と仏教文化の特質について読み解いていきます。
■授業の目的・ねらい	・平安時代の仏教史料を読むことから、当時の仏教的世界観への理解を深めることを目的とします。|
■到達目標	・史料読解によって平安時代の浄土信仰とその文化について理解する。|・文献史料を読む基本的な知識を身につける。|・辞書類を適切に扱えるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	日本仏教思想講読（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	工藤　美和子			シラバスグループ	B58100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『平家物語』にみる仏教思想
■授業の概要	「祇園精舎の鐘の声」という冒頭で有名な『平家物語』は、平家一門の姿を通して釈尊が説いた仏教の教えが説かれている仏教書といえます。そこで本授業では、覚一本『平家物語』からいくつかの物語を取り上げ、そこに説かれた仏教思想について読み解いていきます。
■授業の目的・ねらい	『平家物語』に描かれた仏教の教えは何かを考えます。
■到達目標	・読解する資料から『平家物語』にみる仏教思想を理解できるようになる。|・文献資料を仏教的に読み、何が説かれているかを探求できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0	
･その他	0%	

授業科目	仏教文化ゼミ１（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	三好　俊徳			シラバスグループ	B59300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	先行研究の読解とまとめ方
■授業の概要	先行研究を整理してまとめることは研究の出発点であり、なおかつ今後の研究の土台を形成する重要な作業である。このゼミでは、日本中世の仏教文学に関する論考を会読することをとおして、論文の構造について学ぶ。
■授業の目的・ねらい	先行研究の集め方や読み方、まとめ方を理解し、自らの研究を構想することができるようになることを目指す。
■到達目標	・先行研究の批判的な読み方ができる。|・先行研究の集め方を理解して、研究史を作成することができる。|・先行研究をもとに課題を設定することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0|	
・リポート試験(SR 履修)	60|	
・授業内発表	20|	
・授業内試験	0|	授業内での発表をもとに評価します。
・授業内課題	20|	
・その他	0|	授業内での発言や意見交換などをもとに総合的に評価します。

授業科目	仏教文化ゼミ２（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	三好　俊徳			シラバスグループ	B60100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	仏教文化の基礎的な研究方法
■授業の概要	資料の検討や先行研究の読解をふまえて、どのように問題を深めて論文執筆へと歩みを進めるのか。このゼミでは『今昔物語集』の天狗説話と、関連する資料や論文を読解し位置づけることをとおして、研究の基礎的方法を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	研究対象となる資料を解読し、先行研究を批判的に読むことを基盤として、自ら議論を深めていく研究技法を身につけることを目指す。
■到達目標	自ら資料収集と資料分析を行い、研究を推進するための基礎的能力を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	授業内での発表、あるいは授業担当者から出す質問に対する発言をもとに総合的に評価します。
･授業内課題	20	
･その他	0	授業内での質問や意見交換などをもとに総合的に評価します。

授業科目	浄土宗と加行１（伝法）（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	曽和　義宏			シラバスグループ	B71200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	伝法史概説と三巻書講読
■授業の概要	１）伝法の意義、起源、浄土宗における伝法史（伝法制度の確立と展開）について概説。|２）三巻書の講読。
■授業の目的・ねらい	伝法の意義、伝法史の把握、三巻書の講読による内容の把握。またそれらを通して、浄土宗の法灯を継承する者であるとの自覚と使命を持つこと。
■到達目標	・伝法史について説明することができる。|・伝法制度の概要と変遷について説明することができる。|・『往生記』『末代念仏授手印』の概要と結論を説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	浄土宗と加行２（円頓戒）（夏期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	齊藤　隆信			シラバスグループ	B72200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	円頓戒の歴史・思想・受戒作法
■授業の概要	戒と律の意味とその役割について解説し、その上で円頓戒の歴史と思想をめぐって、中国・日本においてどのように展開したのかを講義します。また加行における伝戒（受戒）の作法についても説明いたします。
■授業の目的・ねらい	浄土宗教師（僧侶）になるための戒脈の基礎知識を学修し、円頓戒の歴史と思想の概念規定について的確に説明できるようになることが本講義の目的・ねらいです。
■到達目標	戒と律と円頓戒について、その内容を的確に説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	仏教の儀礼と儀式（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	加藤　弘孝			シラバスグループ	B73200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	仏教の儀礼と儀式
■授業の概要	春・秋の彼岸会、盂蘭盆会などの日本の年中行事は、仏教・浄土宗と非常に関わりが深い。よって日常生活に密着した仏教の年中行事の起源やその展開について講義する。また仏教の三大行事である降誕会（花まつり・成道会・涅槃会）が、日本でどのように受け入れられて展開していったかについても解説する。
■授業の目的・ねらい	日本仏教、特に浄土宗における各種の儀礼・儀式について、その起源と展開について学ぶことを目的とする。
■到達目標	浄土宗儀礼を中心に仏教儀礼・儀式のルーツを知った上で、それらに、どのような意義があるのか説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0‖	
･リポート試験(SR 履修)	80‖	
･授業内発表	0‖	到達目標に示した到達度によって評価をする。
･授業内試験	0‖	
･授業内課題	20|	
･その他	0‖	これまでに参加・体験したことのある法会･仏教行事を報告してもらう。

授業科目	仏教の儀礼と儀式（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	曽和　義宏			シラバスグループ	B73400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	仏教の儀礼と儀式
■授業の概要	春・秋の彼岸会、盂蘭盆会などの日本の年中行事は、仏教・浄土宗と非常に関わりが深い。よって日常生活に密着した仏教の年中行事の起源やその展開について講義する。また仏教の三大行事である降誕会（花まつり・成道会・涅槃会）が、日本でどのように受け入れられて展開していったかについても解説する。
■授業の目的・ねらい	日本仏教、特に浄土宗における各種の儀礼・儀式について、その起源と展開について学ぶことを目的とする。
■到達目標	浄土宗儀礼を中心に仏教儀礼・儀式のルーツを知った上で、それらに、どのような意義があるのか説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	到達目標に示した到達度によって評価をする。
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	これまでに参加・体験したことのある法会･仏教行事を報告してもらう。

授業科目	実践仏教学１（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	法澤　賢祐			シラバスグループ	B85200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	【実践仏教学１】浄土宗法式基礎の解説と実習|【法式実習１】宿泊生活を通した生活規範と勤行技能の基礎修練
■授業の概要	【実践仏教学１】|威儀法・法服法・執持法並びに?稚法及び勤行（聞法作法・食作法・日常勤行・半斎供養儀・音声（六時礼讃を除く）・恭敬礼拝）の解説。‖【法式実習１】|道場の日課・生活全般も本授業科目とし、宿泊生活を通してあるべき自己の形成を図り、相応の志向と立居振舞を身に付ける。入行期間の全体において、基礎であり基準となる生活規範と勤行技能の両者を実践する。これによって、浄土宗教師（浄土宗僧侶）として仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく自己意識と実践精神を養い、体現能力の基礎を培う。
■授業の目的・ねらい	【実践仏教学１】|一週間しかないスクーリングに於いて、得度以来師僧のもと独自に学ばれていた法式の確認と共に、伝宗伝戒加行道場入行を目標に浄土宗教師を目指す受講生の威儀作法、並びに法服と執持物の取り扱い方、及び?稚法と日常勤行の確認と意識と技術の向上を目的としている。‖【法式実習１】|浄土宗教師としての実践生活や活動を志す上で、その専門的な知識や技能は適切な生活規範の上にあってこそ適切に形成され、意義あるものとなる。そのために、自策自励の手段である生活・作法・実践の基礎を広く習得し、定着させ、体現できるようになることを目指す。僧侶の役目、存在価値、および土台と枠組みと方向性への適切な志向と姿勢を得るために、日課全般を修練する。
■到達目標	【実践仏教学１】|法服法理解し、正しく法服を着する事ができるようになる。日課念仏に励み、日常勤行式並びに半斎供養儀を導師・維那・先進・侍者・大衆として 確実に勤められるようになる。 音階論を理解し、音声での日常勤行式・恭敬礼拝ができるようになる。‖【法式実習１】|①自己形成としての生活規範・規則を当たり前に実践できる。|②勤行の配役すべての基本作法を忠実に実践できる。|③浄土宗教師として活動する志向と姿勢を体現できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	33	
･授業内試験	33	筆記試験の後に実技試験を行います。実技試験内容は講義中に出題します。
･授業内課題	0	「実践仏教学 1」最終日に筆記試験を行います。
･その他	34	

授業科目	実践仏教学１（冬期)A クラス_対面				単位	2
担当者	法澤　賢祐			シラバスグループ	B85400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	【実践仏教学１】浄土宗法式基礎の解説と実習|【法式実習１】宿泊生活を通した生活規範と勤行技能の基礎修練
■授業の概要	【実践仏教学１】|威儀法・法服法・執持法並びに?稚法及び勤行（聞法作法・食作法・日常勤行・半斎供養儀・音声（六時礼讃を除く）・恭敬礼拝）の解説。‖【法式実習１】|道場の日課・生活全般も本授業科目とし、宿泊生活を通してあるべき自己の形成を図り、相応の志向と立居振舞を身に付ける。入行期間の全体において、基礎であり基準となる生活規範と勤行技能の両者を実践する。これによって、浄土宗教師（浄土宗僧侶）として仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく自己意識と実践精神を養い、体現能力の基礎を培う。
■授業の目的・ねらい	【実践仏教学１】|一週間しかないスクーリングに於いて、得度以来師僧のもと独自に学ばれていた法式の確認と共に、伝宗伝戒加行道場入行を目標に浄土宗教師を目指す受講生の威儀作法、並びに法服と執持物の取り扱い方、及び?稚法と日常勤行の確認と意識と技術の向上を目的としている。‖【法式実習１】|浄土宗教師としての実践生活や活動を志す上で、その専門的な知識や技能は適切な生活規範の上にあってこそ適切に形成され、意義あるものとなる。そのために、自策自励の手段である生活・作法・実践の基礎を広く習得し、定着させ、体現できるようになることを目指す。僧侶の役目、存在価値、および土台と枠組みと方向性への適切な志向と姿勢を得るために、日課全般を修練する。
■到達目標	【実践仏教学１】|法服法理解し、正しく法服を着する事ができるようになる。日課念仏に励み、日常勤行式並びに半斎供養儀を導師・維那・先進・侍者・大衆として 確実に勤められるようになる。 音階論を理解し、音声での日常勤行式・恭敬礼拝ができるようになる。‖【法式実習１】|①自己形成としての生活規範・規則を当たり前に実践できる。|②勤行の配役すべての基本作法を忠実に実践できる。|③浄土宗教師として活動する志向と姿勢を体現できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	33	
･授業内試験	33	筆記試験の後に実技試験を行います。実技試験内容は講義中に出題します。
･授業内課題	0	「実践仏教学 1」最終日に筆記試験を行います。
･その他	34	

授業科目	実践仏教学２（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	大澤　亮我			シラバスグループ	B87200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	浄土宗の諸種法要法式について・浄土宗法式の総合実習
■授業の概要	六時礼讃、盂蘭盆会、施餓鬼会、葬儀式、各種法要、六時の勤行（加行前行）
■授業の目的・ねらい	「実践仏教学 1」･「法式実習 1」で学習した生活軌範と日課内容の展開
■到達目標	実践仏教学 1 および法式実習 1 で習得した法式の基本の上に、さらに各種法要の内容を習得する。法式においても、反復練習をすることにより、浄土宗の僧侶として確実な法式を身につけることが目標である。|成績評価の基準は、加行道場の入行者にふさわしい僧侶としての資質が要求され、筆記テスト、実技テスト、さらにスクーリング期間中の勤行･作務･道場生活全般にわたる態度、努力などを総合的に判断する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	100%	

授業科目	実践仏教学２（冬期)A クラス_対面				単位	2
担当者	大澤　亮我			シラバスグループ	B87400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	浄土宗の諸種法要法式について・浄土宗法式の総合実習
■授業の概要	六時礼讃、盂蘭盆会、施餓鬼会、葬儀式、各種法要、六時の勤行（加行前行）
■授業の目的・ねらい	「実践仏教学 1」･「法式実習 1」で学習した生活軌範と日課内容の展開
■到達目標	実践仏教学 1 および法式実習 1 で習得した法式の基本の上に、さらに各種法要の内容を習得する。法式においても、反復練習をすることにより、浄土宗の僧侶として確実な法式を身につけることが目標である。|成績評価の基準は、加行道場の入行者にふさわしい僧侶としての資質が要求され、筆記テスト、実技テスト、さらにスクーリング期間中の勤行･作務･道場生活全般にわたる態度、努力などを総合的に判断する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	100%	

授業科目	法式実習１（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	法澤　賢祐			シラバスグループ	B86200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	【実践仏教学１】浄土宗法式基礎の解説と実習|【法式実習１】宿泊生活を通した生活規範と勤行技能の基礎修練
■授業の概要	【実践仏教学１】|威儀法・法服法・執持法並びに?稚法及び勤行（聞法作法・食作法・日常勤行・半斎供養儀・音声（六時礼讃を除く）・恭敬礼拝）の解説。‖【法式実習１】|道場の日課・生活全般も本授業科目とし、宿泊生活を通してあるべき自己の形成を図り、相応の志向と立居振舞を身に付ける。入行期間の全体において、基礎であり基準となる生活規範と勤行技能の両者を実践する。これによって、浄土宗教師（浄土宗僧侶）として仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく自己意識と実践精神を養い、体現能力の基礎を培う。
■授業の目的・ねらい	【実践仏教学１】|一週間しかないスクーリングに於いて、得度以来師僧のもと独自に学ばれていた法式の確認と共に、伝宗伝戒加行道場入行を目標に浄土宗教師を目指す受講生の威儀作法、並びに法服と執持物の取り扱い方、及び?稚法と日常勤行の確認と意識と技術の向上を目的としている。‖【法式実習１】|浄土宗教師としての実践生活や活動を志す上で、その専門的な知識や技能は適切な生活規範の上にあってこそ適切に形成され、意義あるものとなる。そのために、自策自励の手段である生活・作法・実践の基礎を広く習得し、定着させ、体現できるようになることを目指す。僧侶の役目、存在価値、および土台と枠組みと方向性への適切な志向と姿勢を得るために、日課全般を修練する。
■到達目標	【実践仏教学１】|法服法理解し、正しく法服を着する事ができるようになる。日課念仏に励み、日常勤行式並びに半斎供養儀を導師・維那・先進・侍者・大衆として 確実に勤められるようになる。 音階論を理解し、音声での日常勤行式・恭敬礼拝ができるようになる。‖【法式実習１】|①自己形成としての生活規範・規則を当たり前に実践できる。|②勤行の配役すべての基本作法を忠実に実践できる。|③浄土宗教師として活動する志向と姿勢を体現できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	33	
･授業内試験	33	筆記試験の後に実技試験を行います。実技試験内容は講義中に出題します。
･授業内課題	0	「実践仏教学 1」最終日に筆記試験を行います。
･その他	34	

授業科目	法式実習１（冬期)A クラス_対面				単位	1
担当者	法澤　賢祐			シラバスグループ	B86400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	【実践仏教学１】浄土宗法式基礎の解説と実習|【法式実習１】宿泊生活を通した生活規範と勤行技能の基礎修練
■授業の概要	【実践仏教学１】|威儀法・法服法・執持法並びに?稚法及び勤行（聞法作法・食作法・日常勤行・半斎供養儀・音声（六時礼讃を除く）・恭敬礼拝）の解説。‖【法式実習１】|道場の日課・生活全般も本授業科目とし、宿泊生活を通してあるべき自己の形成を図り、相応の志向と立居振舞を身に付ける。入行期間の全体において、基礎であり基準となる生活規範と勤行技能の両者を実践する。これによって、浄土宗教師（浄土宗僧侶）として仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく自己意識と実践精神を養い、体現能力の基礎を培う。
■授業の目的・ねらい	【実践仏教学１】|一週間しかないスクーリングに於いて、得度以来師僧のもと独自に学ばれていた法式の確認と共に、伝宗伝戒加行道場入行を目標に浄土宗教師を目指す受講生の威儀作法、並びに法服と執持物の取り扱い方、及び?稚法と日常勤行の確認と意識と技術の向上を目的としている。‖【法式実習１】|浄土宗教師としての実践生活や活動を志す上で、その専門的な知識や技能は適切な生活規範の上にあってこそ適切に形成され、意義あるものとなる。そのために、自策自励の手段である生活・作法・実践の基礎を広く習得し、定着させ、体現できるようになることを目指す。僧侶の役目、存在価値、および土台と枠組みと方向性への適切な志向と姿勢を得るために、日課全般を修練する。
■到達目標	【実践仏教学１】|法服法理解し、正しく法服を着する事ができるようになる。日課念仏に励み、日常勤行式並びに半斎供養儀を導師・維那・先進・侍者・大衆として 確実に勤められるようになる。 音階論を理解し、音声での日常勤行式・恭敬礼拝ができるようになる。‖【法式実習１】|①自己形成としての生活規範・規則を当たり前に実践できる。|②勤行の配役すべての基本作法を忠実に実践できる。|③浄土宗教師として活動する志向と姿勢を体現できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	33	
･授業内試験	33	筆記試験の後に実技試験を行います。実技試験内容は講義中に出題します。
･授業内課題	0	「実践仏教学 1」最終日に筆記試験を行います。
･その他	34	

授業科目	法式実習２（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	大澤　亮我			シラバスグループ	B88200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	浄土宗の諸種法要法式について・浄土宗法式の総合実習
■授業の概要	六時礼讃、盂蘭盆会、施餓鬼会、葬儀式、各種法要、六時の勤行（加行前行）
■授業の目的・ねらい	「実践仏教学 1」･「法式実習 1」で学習した生活軌範と日課内容の展開
■到達目標	実践仏教学 1 および法式実習 1 で習得した法式の基本の上に、さらに各種法要の内容を習得する。法式においても、反復練習をすることにより、浄土宗の僧侶として確実な法式を身につけることが目標である。|成績評価の基準は、加行道場の入行者にふさわしい僧侶としての資質が要求され、筆記テスト、実技テスト、さらにスクーリング期間中の勤行･作務･道場生活全般にわたる態度、努力などを総合的に判断する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	100%	

授業科目	法式実習２（冬期)A クラス_対面				単位	1
担当者	大澤　亮我			シラバスグループ	B88400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	浄土宗の諸種法要法式について・浄土宗法式の総合実習
■授業の概要	六時礼讃、盂蘭盆会、施餓鬼会、葬儀式、各種法要、六時の勤行（加行前行）
■授業の目的・ねらい	「実践仏教学 1」･「法式実習 1」で学習した生活軌範と日課内容の展開
■到達目標	実践仏教学 1 および法式実習 1 で習得した法式の基本の上に、さらに各種法要の内容を習得する。法式においても、反復練習をすることにより、浄土宗の僧侶として確実な法式を身につけることが目標である。|成績評価の基準は、加行道場の入行者にふさわしい僧侶としての資質が要求され、筆記テスト、実技テスト、さらにスクーリング期間中の勤行･作務･道場生活全般にわたる態度、努力などを総合的に判断する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	100%	

授業科目	仏教伝道学（春期)A クラス_対面				単位	2
担当者	安部　隆瑞			シラバスグループ	B74100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	仏教伝道者の養成のために、伝道を実践して体得する。
■授業の概要	高座説教に慣れるために、先ずは自己紹介を各自が高座に登って実演する。次に伝道学Ⅱの実演に備えて、元祖大師御法話の一説を讃題として、伝道の基本を習得する。説相の持ち方、歩き方、礼拝、高座説教の讃題の唱え方、袱紗のさばき方、割?の打ち方等修練し、さらに伝道布教のための原稿の作り方として、法説、比喩を通して御法話を研究して、浄土宗義を身につけるようにする。その上、お念仏を申した人、あるいはお念仏を申して往生された方の実話を因縁話として取り出し、これを法説に結び付け、念仏申すことが最高の生き方であることを伝道布教できるようにする。よって、常に浄土宗義にそった考え方が、できるものとなるように修練するものである。
■授業の目的・ねらい	浄土宗の念仏を布教伝道する知識と技量を習得する。それがためには、元祖大師御法語を通して、浄土宗義の理解を深め間違いのない念仏の教えを布教伝道できるようになることを目指します。
■到達目標	浄土宗の念仏の教えが、しっかりと布教伝道できる説得力を身に着けるよう学習と実践に励んで、混迷する現代の人々を救済する僧侶となることを目標としてほしい。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	試験は行わない。
･授業内発表	60	
･授業内試験	0	自己紹介の実演。一人 15 分。
･授業内課題	0	
･その他	40	

授業科目	詠唱（集中１)A クラス_対面				単位	2
担当者	森岡　達圭			シラバスグループ	B75510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	法然上人の「お念仏の教え」を、お念仏の助業としての「詠唱」の実践を通じて体得できるようにする。
■授業の概要	浄土宗の「吉水流詠唱」の意義・内容・歴史について講義し、法具を用いて基本作法を実践してもらう。基本的な「御詠歌」と「和讃」の数曲を唱えることができるようにしてもらう。また、将来の教化実践の場面で、「声」や「言葉」の持つ力を「詠唱」を通じて発揮できるように指導したい。
■授業の目的・ねらい	浄土宗の「吉水流詠唱」を実践してもらい、その意義・内容を体得・実感してもらうことをめざす。三日間とも実践を中心に進める。
■到達目標	吉水流詠唱の法具(鈴・鉦)を用いて、御詠歌・和讃を唱えることができるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	40	
･授業内試験	40	基本の曲目を唱える
･授業内課題	20	作法の実践と御詠歌・和讃のお唱え
･その他	0	基本の曲目の意味を自分の言葉で説明する

授業科目	三部経特講（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	齊藤　舜健			シラバスグループ	B76300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	浄土宗所依の浄土三部経の内、『観無量寿経』と『阿弥陀経』を講読する。
■授業の概要	浄土三部経全体について概説した後、『観無量寿経』『阿弥陀経』の順で、訓読法により、浄土宗の伝統的な解釈に基づいて講読する。テキストには大雲点本を用いる。
■授業の目的・ねらい	浄土宗の教えの理解に資するために『観無量寿経』と『阿弥陀経』の構成と主張を理解する。特に『観経』は全体の構造と付属の意味を理解すること、『阿弥陀経』は諸仏の証誠の意義を理解することに重点を置く。受講者には浄土宗の伝統的な解釈に基づく理解を求める。|成績は、これらの理解度を授業への参加と課題の結果に基づいて総合的に評価する。
■到達目標	『観無量寿経』と『阿弥陀経』の概要が説明できること。|付属の意味、諸仏の証誠の意味が説明できること。|重要箇所（講義中に指示）について、訓読と和訳ができること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	90	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	選択集特講（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	B77300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	聖光『徹選択本願念仏集』上巻を読む
■授業の概要	『徹選択集』は浄土宗鎮西派の第二祖聖光房弁長によって記された書で、その上巻は法然の『選択集』について、章ごとにその要旨を解説するものである。本授業ではこの『徹選択集』上巻（漢文）を読むことにより、法然の『選択集』への理解を深め、また聖光と法然の立場の違いについて考察してみたい。
■授業の目的・ねらい	一次資料（漢文・古文）の読解に慣れること。|『選択集』の要旨を把握すること。|法然と聖光の立場の違いを理解すること。
■到達目標	一次資料を自分で読みこなせるようになる。|法然の『選択集』の要旨を理解し説明できる。|法然と聖光の立場の違いを理解し説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	法然の法語特講（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	下端　啓介			シラバスグループ	B78400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	法然の問答を読む
■授業の概要	和文体の法然遺文集である『和語灯録』(『黒谷上人語灯録』第十一～十五）には、「問答」すなわち法然と門弟や信者との対話の記録が多く収録されている。当時の人々が法然の教えに対してどのような疑問を懐き、その疑問に対して法然がどのように答えているのか、読解していく。
■授業の目的・ねらい	対話形式の複数の法然遺文を読み、法然の思想を理解する。また人々の疑問の背景について考察し、鎌倉初期の社会通念や仏教界の動向についても理解する。
■到達目標	法然の浄土教思想を理解し、説明できるようになる。また鎌倉初期の社会通念や仏教界の動向について理解し、法然の浄土宗開宗の歴史的意義を、説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポートを提出してもらうことで、法然の法語の特質についての理解度をはかり、評価する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	授業半ばで短いリポートを提出してもらうことで、授業前半の内容についての理解度をはかり、評価する。

授業科目	論註特講（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	梶原　隆淨			シラバスグループ	B81400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	『往生論註』講読
■授業の概要	北魏の曇鸞が著した、『往生論註』を講読する。|　講義は、概ね以下の順で進める。|一、著者曇鸞と『往生論註』の概観|二、『往生論註』講読|　　1、難行道易行道|　　2、五念門|　　3、上巻末、八番問答|　　4、広略相入（一法句）|　　5、五種功徳門|三、まとめ
■授業の目的・ねらい	『往生論註』の講読を通じて曇鸞の浄土教思想を考察し、浄土および往生に対する理解を深め、称名念仏の重要性を再認識していただくことが目的である。
■到達目標	念仏に対する理解を深める。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	観経疏特講（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	田中　実　マルコス			シラバスグループ	B82400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	善導の『観無量寿経疏』玄義分の講読
■授業の概要	まず浄土教と善導大師（613-681）の伝記とその著述を概説します。それから善導の著述の一つである『観無量寿経』の註釈、『観無量寿経疏』の「玄義分」を講読します。
■授業の目的・ねらい	『観無量寿経疏』「玄義分」を受講生に読んでいただき、重要な個所には解説を加えながら授業を進めます。これによって善導浄土教を理解することを目的とします。
■到達目標	善導浄土教の特色の理解

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	安楽集特講（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	加藤　弘孝			シラバスグループ	B83400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	『安楽集』に説かれる念仏三昧
■授業の概要	道綽（562?645）の著した『安楽集』の第四大門を読み、道綽の説く念仏三昧について講義して|いきます。まず、道綽の伝記と時代背景、『安楽集』について概説したのちに、『安楽集』を講読していきます。
■授業の目的・ねらい	漢文読解力を高めつつ、道綽浄土教の概要を理解することを目的とします。道綽が説く念仏三昧|の概要が理解できているかによって成績評価をします。なお、スクーリングの全講義に出席していることが必要です。
■到達目標	道綽が説く念仏三昧の概要が理解できていること

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	30%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	仏教伝道学Ⅱ（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	安部　隆瑞			シラバスグループ	B84200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	仏教伝道者の養成のために、伝道を実践して体得する。
■授業の概要	高座に登って、元祖大師御法話の一説を讃題として、伝道の基本を習得する。説相の持ち方、歩き方、礼拝、高座説教の讃題の唱え方、袱紗のさばき方、割?の打ち方等修練し、さらに伝道布教のための原稿の作り方として、法説、比喩を通して御法話を研究して、浄土宗義を身につけるようにする。その上、お念仏を申した人、あるいはお念仏を申して往生された方の実話を因縁話として取り出し、これを法説に結び付け、念仏申すことが最高の生き方であることを伝道布教できるようにする。よって、常に浄土宗義にそった考え方が、できるものとなるように修練するものである。
■授業の目的・ねらい	浄土宗の念仏を布教伝道する知識と技量を習得する。それがためには、元祖大師御法語を通して、浄土宗義の理解を深め間違いのない念仏の教えを布教伝道できるようになることを目指します。
■到達目標	浄土宗の念仏の教えが、しっかりと布教伝道できる説得力を身に着けるよう学習と実践に励んで、混迷する現代の人々を救済する僧侶となることを目標としてほしい。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	試験は行わない。
･授業内発表	60	
･授業内試験	0	法説・比喩・因縁・合釈の組み立てによる高座説法（一人 15 分）
･授業内課題	0	
･その他	40	

授業科目	法式実習３（集中２)A クラス_対面				単位	1
担当者	法澤　賢祐			シラバスグループ	B89520	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	伝宗伝戒道場への入行に向けた生活規範と勤行技能の実践研修
■授業の概要	これまでの宿泊研修からの時間経過を鑑み、倶に一処に会すことによる意識高揚と威儀作法の確認を図りつつ、生活規範と勤行技能の基礎練磨に努める。これによって、浄土宗教師（浄土宗僧侶）として仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく自己意識と実践精神を確立し、体現能力を高める。
■授業の目的・ねらい	本年 12 月の伝宗伝戒道場への入行者として、伝法道場の日課を主体的に勤められるようになることを目指す。自策自励の志向と手段を確実に習得するために、日課全般を修練する。生涯において仏道を求め続け、実践し続けるために、基本的手法の体得を確固たるものとする。
■到達目標	①仏法と向き合い続ける者としての生活規範・規則を実践できる。|②自信を持って基本作法に忠実な勤行と配役を実践できる。|③勤行時の人数・空間・時間に相応の臨機応変かつ柔軟な対応ができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0%	勤行技能・各配役の実践状況〈基本作法・実践項目・体得事項の達成率〉
･授業内課題	0%	
･その他	60	

授業科目	法式実習４（集中２)A クラス_対面				単位	1
担当者	法澤　賢祐			シラバスグループ	B89520	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	伝宗伝戒道場への入行に向けた生活規範と勤行技能の実践研修
■授業の概要	これまでの宿泊研修からの時間経過を鑑み、倶に一処に会すことによる意識高揚と威儀作法の確認を図りつつ、生活規範と勤行技能の基礎練磨に努める。これによって、浄土宗教師（浄土宗僧侶）として仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく自己意識と実践精神を確立し、体現能力を高める。
■授業の目的・ねらい	本年 12 月の伝宗伝戒道場への入行者として、伝法道場の日課を主体的に勤められるようになることを目指す。自策自励の志向と手段を確実に習得するために、日課全般を修練する。生涯において仏道を求め続け、実践し続けるために、基本的手法の体得を確固たるものとする。
■到達目標	①仏法と向き合い続ける者としての生活規範・規則を実践できる。|②自信を持って基本作法に忠実な勤行と配役を実践できる。|③勤行時の人数・空間・時間に相応の臨機応変かつ柔軟な対応ができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0%	勤行技能・各配役の実践状況〈基本作法・実践項目・体得事項の達成率〉
･授業内課題	0%	
･その他	60	

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	B00200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	研究の基礎を学ぶ
■授業の概要	リポートや卒業論文の作成に向けて必要となるスキルについて、実践的に学んでゆきます。具体的には、図書館や資料室の利用の仕方、書籍や論文などの文献検索方法、仏教研究に役立つデータベースなどの概略を紹介し、実際に図書館やデータベースのウェブサイトを使いながら、文献を入手する方法を学びます。そのうえで、各自が入手した文献をいかに読み進めるか、その読解のポイントについて概説します。そのため授業では、必要な文献を探し、文献リストを作成し、文献を入手し、読み進めるところまでを課題としています。
■授業の目的・ねらい	①図書館や資料室に所蔵されている文献を検索することができる。|②図書館などで必要な文献を入手することができる。|③文献リストを作成することができる。|④研究論文の構成を理解し、読むことができる。
■到達目標	①必要な文献を探すことができる。|②文献を入手することができる。|③文献リストを作ることができる。|④研究論文の構造を理解し、読書ノートを作ることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	50%	
･その他	0%	①文献リストの作成、②文献の入手、③読書ノートの作成、④成果発表と意見交換などを総合的に評価します。

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	B00300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教思想研究の基礎
■授業の概要	法然浄土教思想研究には、特有の問題点と方法論とがあります。今回は、法然浄土教において重要視される三心のうちの「至誠心」を事例として、一般書、辞典等がどのように説明しているのか、そして実際に法然遺文にはどのように説かれているのかを確認していきます。この作業過程において、辞典の扱い方、インターネットの利用、文献の扱い方などの基本的な研究作業について説明していきます。
■授業の目的・ねらい	大学における最終目的である卒業論文作成のための基本的な技術を身につけること、また原典および一次資料の重要性について理解することが目標です。
■到達目標	卒業論文作成のための具体的な方法を身に付け、自身で論文作成が行えるようになることを目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	日本古文入門（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	下端　啓介			シラバスグループ	B01100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然の伝記『法然上人行状絵図』の名場面を読む
■授業の概要	仏教文献の日本古文の読解力を高めるために、法然の伝記『法然上人行状絵図』の文章を読んでいく。|『法然上人行状絵図』は、浄土宗祖・法然（1133?1212）の没後約 100 年ほどで成立した伝記である。その中から、ドラマティックであったりユーモラスであったりと、興味を引きやすい場面の文章を抜き出して読んでいく。|受講生には、資料の読み上げ・語句の説明・現代語訳・文法的解釈などの発表をしてもらう。授業に臨むにあたって、充分に準備しておいてもらいたい。
■授業の目的・ねらい	『法然上人行状絵図』を読むことで、日本の古文体の仏教文献を読解する力を身につける。
■到達目標	①『法然上人行状絵図』を読んで、その内容を理解し、説明できるようになる。|②日本の古文体の仏教書を読解する能力を身につける。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	40	リポートを提出してもらうことで、①『法然上人行状絵図』の内容の理解度をはかり、評価する。
･授業内試験	0	授業内で資料の読み上げ・語句の説明・現代語訳・文法的解釈について発表してもらうことで、②古文の読解能力の到達度をはかり、評価する。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	仏教漢文入門（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	小川　法道			シラバスグループ	B02100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	漢文の基礎
■授業の概要	漢文の文法など基礎知識を学ぶとともに、比較的優しい仏教漢文を書き下し、現代語訳をします。原典を実際に読むことを通して、仏教漢文に慣れ親しんでもらう。
■授業の目的・ねらい	漢文の基礎を把握する。仏教漢文に慣れる。
■到達目標	易しい仏教漢文に慣れ親しめる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	サンスクリット語文法（冬期)A クラス_対面				単位	2
担当者	唐井　隆徳			シラバスグループ	B03300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	サンスクリット語（梵語）文法入門
■授業の概要	全くの初心者のために、吹田隆道編著『実習サンスクリット文法』をテキストに用いて、サンスクリット語文法をゼロから学びます。
■授業の目的・ねらい	インドの歴史・宗教・哲学文献は、基本的にサンスクリット語（梵語ともいう）で記されています。仏教を含むインド文献を学ぶには、サンスクリット語に関する知識が不可欠です。サンスクリット語の初歩的な文法 を学び、独力でインドの仏教文献を読むために必要な最低限の知識を身につけます。
■到達目標	独力でサンスクリット語仏教文献を読むために必要な最低限の知識を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	浄土三部経研究１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	西本　明央			シラバスグループ	B11100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『無量寿経』講読
■授業の概要	浄土宗所依の経である浄土三部経のうち、『無量寿経』を講読する。三部経および『無量寿経』の概要解説(諸本、梗概、末書など)の後、『無量寿経』を訓読法によって読み進める。特に重要な箇所(法蔵説話・願文・第十八願成就文周辺など)については重点的に解説する。
■授業の目的・ねらい	『無量寿経』の構成と主張を理解すること。特に阿弥陀仏(無量寿仏)がどのようにして仏となったのか、「願」と「願成就」の関係について、理解することを求める。特に重要な箇所については逐語的な解釈ができるように目指す。
■到達目標	法蔵説話の概要を理解し、念仏往生の根拠を「願」と「願成就」の関係に基づいて説明できること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	20%	

授業科目	浄土三部経研究２（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	齊藤　舜健			シラバスグループ	B12100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	浄土宗所依の浄土三部経の内、『観無量寿経』と『阿弥陀経』を講読する。
■授業の概要	浄土三部経全体について概説した後、『観無量寿経』『阿弥陀経』の順で、訓読法により、浄土宗の伝統的な解釈に基づいて講読する。テキストには大雲点本を用いる。
■授業の目的・ねらい	浄土宗の教えの理解に資するために『観無量寿経』と『阿弥陀経』の構成と主張を理解する。特に『観経』は全体の構造と付属の意味を理解すること、『阿弥陀経』は諸仏の証誠の意義を理解することに重点を置く。受講者には浄土宗の伝統的な解釈に基づく理解を求める。|成績は、これらの理解度を授業への参加と課題の結果に基づいて総合的に評価する。
■到達目標	『観無量寿経』と『阿弥陀経』の概要が説明できること。|付属の意味、諸仏の証誠の意味が説明できること。|重要箇所（講義中に指示）について、訓読と和訳ができること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	90	
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	浄土宗典研究１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	B14100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	「往生大要抄」(『和語灯録』所収）を読む
■授業の概要	法然のことばを集めた『和語灯録』に収録される「往生大要抄」は、仏教における浄土教の位置づけから、念仏行者の心構えまでが説かれる文献です。この「往生大要抄」を読解しながら、法然の浄土教思想とその背景について考察します。
■授業の目的・ねらい	一次資料を直接解読する能力を身につける。|先行研究に対する批判力を身につける。
■到達目標	一次資料を、その背景を考慮しながら読解することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	浄土宗典研究２（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	服部　純啓			シラバスグループ	B13100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	南都浄土教思想の研究
■授業の概要	東大寺三論の学僧である珍海(1091-1152)は、平安期の浄土教思想史上、恵心僧都源信から法然へと至る思想の媒介役であると位置づけられている。本講義では、珍海の浄土教系著作である『菩提心集』を取り上げ、その内容を研究する。
■授業の目的・ねらい	日本における浄土教思想は、比叡山だけではなく東大寺や興福寺などの南都寺院でも盛んに研究されてきた。こうした南都の浄土教思想を研究することによって、平安期の浄土教思想の全体像が明らかになる。
■到達目標	『菩提心集』の内容を読み解くことによって、南都浄土教思想の一端を理解することを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	20	到達目標に示した到達度によって評価する.。
･授業内試験	0	講義内での質疑応答によって評価する。
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	選択集講読１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	B15200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『選択集』を読む
■授業の概要	『選択集』の前半（第一章～第七章）を講読することにより、法然浄土仏教の骨子を明らかにします。この前半部分では、第一章～三章（仏教の様々な教えから専修念仏への理論)、第四章（諸行と念仏の関係）が重要な章となります。これらを特に重点的に読んでゆきます。
■授業の目的・ねらい	宗祖の主著『選択本願念仏集』の読解を通して、法然の浄土仏教体系、およびその基礎ともいうべき人間観について理解する。また、法然浄土教を研究する上での基礎的な方法論を身につける。\受講態度とリポートによって評価します。
■到達目標	『選択集』のそれぞれの章が、何を問題としているのかを理解することと、選択本願念仏の「選択」が何を意味しているのかを理解することを目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	選択集講読２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	小川　法道			シラバスグループ	B16200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『選択集』を読む
■授業の概要	『選択集』の後半（第 8 章?第 16 章）を講読することにより、法然浄土仏教の骨子を明らかにします。この後半部分は 8 章から 12 章までは『観無量寿経』を註釈しており、そして 13 章から 16 章までは『阿弥陀経』を註釈しています。最後の 16 章は『選択集』全体をまとめているので特に力を入れて読んでいきます。
■授業の目的・ねらい	宗祖法然上人の主著『選択本願念仏集』の読解を通して、法然の浄土仏教体系、およびその基礎ともいうべき人間観について理解する。また、法然浄土教を研究する上での基礎的な方法論を身につける。
■到達目標	『選択集』のそれぞれの章が、何を問題としているのかを理解することと、選択本願念仏の「選択」が何を意味しているのかを理解することを目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	浄土文献講読１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	南　宏信			シラバスグループ	B17200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然『逆修説法』五七日を読む。
■授業の概要	逆修法会とは自らの死後における仏事である。『逆修説法』は建久五年（1194）頃、中原師秀が阿弥陀仏象を刻み、その開眼供養に合わせて行った四十九日の逆修法会に、法然を導師として招き、その時の説法内容を聞き書きしたものである。今回は五七日（第５回目の講説）を講読していく。
■授業の目的・ねらい	五七日は「依正二報の功徳讃歎」「浄土五祖」を講読していく。『逆修説法』から約 4 年後に撰述される法然の集大成である『選択集』と対比しながらその特徴を追っていくことを目的・ねらいとする。
■到達目標	『逆修説法』を講読しながら、漢文読解能力を習得し、かつ法然浄土教の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	浄土文献講読２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	加藤　弘孝			シラバスグループ	B18200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『類聚浄土五祖伝』講読
■授業の概要	浄土宗の開祖である法然は、中国浄土教の曇鸞・道綽・善導・懐感・少康ら五人の祖師を「中国浄土五祖」として鑽仰しました。本講義では、法然が「中国浄土五祖」の伝記を纏めて編集した『類聚浄土五祖伝』の原文を各祖師ごとに講読し、それら祖師たちの事跡と浄土宗における中国の師資相承の系譜を学んでいきます。同時に各祖師の中国浄土教理史における思想史的な位置付けについても解説します。
■授業の目的・ねらい	法然が浄土宗を開いた際に他宗から批判の対象となったのが師資相承の問題でした。『類聚浄土五祖伝』を講読することで、五祖を選定した法然の意図が浮き彫りになります。
■到達目標	浄土五祖それぞれの生涯と思想の概要を把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	浄土学ゼミ１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	齋藤　蒙光			シラバスグループ	B19200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	浄土列祖の思想
■授業の概要	本講義では、インド・中国・日本における浄土教典籍（経論章疏）の中から要文を抜粋し、講読解説していきます。
■授業の目的・ねらい	主要な浄土教典籍を時系列で講読することにより、その思想背景や後世への影響をふまえつつ、浄土列祖の思想を総合的に理解することを目的とします。
■到達目標	各種聖典の講読を通して自己の研究方法を確立すること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	浄土学ゼミ２（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	南　宏信			シラバスグループ	B20100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然『往生要集釈』を読む。
■授業の概要	法然上人（1133-1212）の『往生要集釈』は源信『往生要集』（985 成立）の註釈書である。法然は 43 歳で浄土宗を立てるが、それ以前は比叡山において『往生要集』の講義で有名であった叡空に長年師事している。法然が「偏依善導一師」の立場をとる以前は『往生要集』を中心に浄土教を学んでいた。本講義では『往生要集釈』を講読することで、法然の『往生要集』理解を確認していく。
■授業の目的・ねらい	本講義は①漢文の読解力向上を、また②浄土教思想の基礎概念習得するとともに③法然の『往生要集』観を理解することを目的・ねらいとする。それにより法然研究の基本的な方法を習得することを目指していく。
■到達目標	上記①漢文の読解力向上、②浄土教思想の基礎概念習得、③法然の『往生要集』観を理解することを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	初期仏教研究（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	唐井　隆徳			シラバスグループ	B21100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	仏教とジャイナ教
■授業の概要	バラモン教に対峙する形で現れた新しい思想家たちは一般的に沙門と呼ばれる。沙門宗教の中でも仏教とジャイナ教はその代表であり、共通点も多い。この講義では、仏教文献とジャイナ教文献の比較を通して、沙門と呼ばれる修行者の実態を把握するとともに、「輪廻と業」「解脱」「五戒」などの教理に関する両宗教の共通点と相違点について学びます。
■授業の目的・ねらい	①沙門と呼ばれる修行者について理解する|②仏教とジャイナ教の共通点と相違点について説明することができる
■到達目標	①沙門と呼ばれる修行者について説明することができる|②仏教とジャイナ教の共通点と相違点について説明することができる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	-	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	20|	
･授業内試験	-	
･授業内課題	-	
･その他	-	

授業科目	部派仏教研究（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	唐井　隆徳			シラバスグループ	B31100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	初期仏教聖典と縁起説
■授業の概要	ゴータマ・ブッダによって誕生した仏教が、いかなる教理・思想を有していたのかを知るためには、ブッダの言行録である初期仏教聖典の内容を正確に理解する必要があります。ブッダは何も著作を残していないため、当初ブッダの言行は弟子達が記憶することで伝持されていきましたが、やがてその記憶が一定の形式のもとでまとめられ、初期仏教聖典が成立していくことになります。この授業では、この初期仏教聖典の成立事情を捉えるとともに、実際に初期仏教聖典に説かれている内容、特に仏教の根本思想とも言われる縁起説について解説します。
■授業の目的・ねらい	①初期仏教聖典とはいかなる内容であり、どのようにして成立したのかについて理解する。|②初期仏教聖典を通して、縁起説について理解する。|
■到達目標	①初期仏教聖典とはいかなる内容であり、どのようにして成立したのかを説明できる。|②初期仏教聖典に説かれる縁起説について説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	大乗仏教研究（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	西山　亮			シラバスグループ	B32100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	大乗仏教の文献と思想
■授業の概要	大乗仏教に関する文献を取り上げ、その成立や構造、内容について講義する。特に、般若経などの大乗の経典に注目し、その成立と思想について概説する。また、近年飛躍的に研究が進んでいるチベット仏教についても概観する。
■授業の目的・ねらい	大乗仏教の文献に関する基礎知識を身につけ、それぞれの文献の内容について理解する。チベット仏教についての知識を身につける。
■到達目標	各大乗仏教経典について説明できる。|チベット仏教について解説できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国仏教研究（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	曽和　義宏			シラバスグループ	B33200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中国仏教における仏身論
■授業の概要	中国仏教における仏身論について、『大乗大義章』、浄影寺慧遠、吉蔵、道綽、善導を取り上げ、それぞれの理解について講義する。
■授業の目的・ねらい	中国における仏身論の展開と、浄土教における仏身論について理解する。
■到達目標	中国仏教における仏身論の展開と、浄土教における仏身論の特異性について説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	初期仏教講読（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	唐井　隆徳			シラバスグループ	B35200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ダンマパダ第２５章「比丘」を読む
■授業の概要	比丘とは出家修行者を指し、仏教僧団の中で覚りを目指すためには、まず出家して比丘になる必要がある。この授業では、ダンマパダの第２５章「比丘」の講読を通して、比丘とはどのような人なのか、その一面を学ぶ。さらに、比丘という語は仏教のみならず、仏教の姉妹宗教であるジャイナ教でも用いられている。そこで、両宗教の文献を比較することによって、当時の比丘と呼ばれる修行者ついても考えていく。なお、講読に際しては日本語訳を用いる。
■授業の目的・ねらい	①ダンマパダという文献について理解する。|②ダンマパダに説かれる比丘について理解する。|③仏教とジャイナ教における比丘について、共通点と相違点を把握する。
■到達目標	①ダンマパダについて説明することができる。|②ダンマパダに説かれる比丘について説明できるようになる。|③仏教とジャイナ教における比丘について、説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	-	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	-	
･授業内試験	-	
･授業内課題	20	
･その他	-	

授業科目	部派仏教講読（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	唐井　隆徳			シラバスグループ	B36100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	パーリ文献に見られる仏伝の講読を通して、基本的な仏教思想、特に縁起と四諦について理解を深める。
■授業の概要	ゴータマ・ブッダによって誕生した仏教が、いかなる教理・思想を有していたのかを知るためには、ブッダの言行録である初期仏典の内容を正確に理解する必要があります。ブッダは何も著作を残していないため、当初ブッダの言行は弟子達が記憶することで伝持されていきましたが、やがてその記憶が一定の形式のもとでまとめられ、初期仏典が成立していくことになります。この授業では、初期仏典のうち上座部大寺派が伝承するパーリ文献の読解を通して、初期仏教研究の手法を学ぶとともに、重要な仏教思想である縁起と四諦について理解を深める。講読の際には日本語訳を用いる。
■授業の目的・ねらい	①仏教史におけるパーリ文献の位置づけについて理解する。\\|②パーリ文献に説かれる縁起と四諦について理解する。\\|③初期仏教研究の手法を学ぶ。‖
■到達目標	①仏教史におけるパーリ文献の位置づけについて説明できる。\\|②パーリ文献に説かれる縁起と四諦について説明できる。\\|③初期仏教研究の手法について説明できる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	大乗仏教講読（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	田中　裕成			シラバスグループ	B37300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	唯識三十論と唯識思想入門
■授業の概要	般若経や中観学派が主張するようにすべての存在が空・無であるなら、一体何が世界を認識するのか。グプタ王朝のインド古典文化爛熟期に現パキスタンのペシャワール生まれの二人の兄弟（無著と世親）が仏教思想に革命を起こす。唯識学派の誕生である。彼らの主張する「心のみは存在する」とは如何なる意味か。世親の著した『唯識三十論』の和訳を読んで唯識思想を学ぶ。|
■授業の目的・ねらい	大乗仏教思想を代表する思想のひとつである唯識思想を中心として学び、大乗仏教を理解する。
■到達目標	インド大乗仏教を代表する思想のひとつである唯識思想を説く文献とその内容の理解。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国仏教講読（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	B38300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『法顕伝』講読
■授業の概要	中国東晋時代の隆安三年（395）に長安を発し、西域を経由してインドに渡った法顕（337～422）の伝記『高僧法顕伝』(『仏国記』）を講読します。｜　本授業では、まず『高僧法顕伝』がどのような史料であるのか、また法顕伝の入竺ルートについて、解説文や地図をもとに理解します。そのうえで、『大正新脩大蔵経』第 51 巻所収の原文をテキストとし、長沢和俊による現代語訳（長沢和俊訳注『法顕伝・宋雲行紀』〔東洋文庫 194〕平凡社、1971 年）を参考資料として使用し、受講生による輪読形式で読み進めてゆきます。その際、関連資料を適宜参照しながら、内容の理解を深める工夫を図ります。｜　本年度は、于テン（門＋眞）国の箇所から講読します。
■授業の目的・ねらい	漢文で記された仏教文献を、参考資料や辞書類を活用しながら読解する力を養うことを目指します。
■到達目標	辞書類を活用しながら、漢文資料を訓読し、読解することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	リポートの課題は、（１）講読箇所のなかから仏教や仏教文化に関わるテーマを各自で設定し、それについて調べた内容をまとめるもの、（２）指定する範囲の訓読、のどちらかを選択していただきます。
･授業内試験	0%	授業では受講生による講読を行います。
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	仏教学ゼミ１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	田中　裕成			シラバスグループ	B40200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	仏教学の研究手法を学ぶ
■授業の概要	仏教学の研究において、研究対象の研究史の把握と原典の読解は必要不可欠です。|各自が論文を作成する際には、先行研究を把握すること、また先行研究を批判的に読み問題の所在を明らかにすること、問題解決のために原典を精読し問題を解決することが求められます。|そこで本授業では、いくつかの仏教学の論文を配布し、その論文の精読を行います。|精読の際には、それぞれの資料の入手方法も概説します。|
■授業の目的・ねらい	①仏教学の研究手法について理解する。|②仏教学の論文の入手方法について理解する。|③仏教学の原典の入手方法について理解する。
■到達目標	①仏教学の研究手法について説明できる。|②仏教学の論文の入手方法について説明できる。|③仏教学の原典の入手方法について説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	10	授業で取り扱ったテーマに関するリポートの提出を求め、到達目標に対する達成度を評価します。期待値をはるかに超えた達成度であれば 90～100 点、期待値を十分に達成していれば 80 点～89 点、期待値をほぼ達成していれば、70～79 点、期待値を下回りもうすこし努力が必要な場合は 60～69 点、期待値をはるかに下回りさらなる努力が必要な場合は 0～59 点となります。
･授業内試験	0	授業内で質疑を行い、その応答状況をもって評価する。期待値をはるかに超えた達成度であれば 90～100 点、期待値を十分に達成していれば 80 点～89 点、期待値をほぼ達成していれば、70～79 点、期待値を下回りもうすこし努力が必要な場合は 60～69 点、期待値をはるかに下回りさらなる努力が必要な場合は 0～59 点となります。
･授業内課題	10	
･その他	0	授業ごとにリアクションペーパーの提出を求め、授業の理解度に基づいて評価する。期待値をはるかに超えた達成度であれば 90～100 点、期待値を十分に達成していれば 80 点～89 点、期待値をほぼ達成していれば、70～79 点、期待値を下回りもうすこし努力が必要な場合は 60～69 点、期待値をはるかに下回りさらなる努力が必要な場合は 0～59 点となります。

授業科目	仏教学ゼミ２（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	細田　典明			シラバスグループ	B41100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『ダンマパダ』講読
■授業の概要	漢訳『法句経』は仏教の代表的な経典であり、パーリ語『ダンマパダ』、サンスクリット『ウダーナ・ヴァルガ』やプラークリット『ダルマパダ』等の他の部派による伝承がある。また、ウパニシャッドや叙事詩、ジャイナ教聖典に並行句が知られる。これらの伝承や並行句を参照して、その内容を『法句経』で講読する。
■授業の目的・ねらい	『法句経』は、出家・在家を問わず、最も広く読まれている初期仏典であり、更に、中国・西洋の古典に類似した内容が見られる。その内容を正確に理解し、仏教の普遍的意義に気付く。
■到達目標	講読した『ダンマパダ』の内容について正しく説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	インド仏教文化研究（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	細田　典明			シラバスグループ	B51200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	インド文化と仏教文化
■授業の概要	①ヴェーダの神々とその特徴を理解し、仏教に取り入れられた神々について学ぶ。|②ヴェーダ祭式の特徴を理解し、仏教儀礼における勧請や供養との関連を学ぶ。|③古代インドの人生観について理解し、出家の意義と梵天勧請による説法の意味を学ぶ。|④ヒンドゥー教の三神一体について理解し、仏教における一仏と多仏の意味と信仰を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	ヴェーダの神々やヴェーダ祭式を学ぶことによって、仏教儀礼における関連を学ぶ。また、ヒンドゥー教の人生観や信仰を学ぶことによって、念仏が基本的な信仰形態であることに気付く。
■到達目標	①ヴェーダの神々と十二天を説明できる。|②ヴェーダ祭式の基本的内容を説明できる。|③古代インドの人生観を理解し、出家の意義を説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	-	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	-	
･授業内試験	-	
･授業内課題	20	
･その他	-	

授業科目	中国仏教文化研究（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	加藤　弘孝			シラバスグループ	B52300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中国仏教史ー仏教の伝来時から南北朝時代までの中国仏教の展開ー
■授業の概要	今から約二千年前にインドの仏教が中国に伝来しました。中国人は仏教の新しい概念や価値観に驚き、また強い関心を持ちます。その後、経典が翻訳され、知識人が信仰するようになり、更に中国人僧侶も増加します。その中で儒教や道教との衝突と融合を繰り返し、時の王朝との関わりを持ちながら、インドとは異なる独自の仏教が展開しました。本講義では、伝来から６世紀後半までの中国仏教を概観するとともに、特に重要な出来事を取り上げて解説します。
■授業の目的・ねらい	インドとは異なる仏教の展開を確認します。中国仏教は、言語や習慣や宗教など、広く中華文明の中で次第に醸成されていきます。成績の評価は最終リポートで判断します。
■到達目標	中国における仏教の歴史的展開の文脈の中で、仏教の初伝から南北朝時代に至るまでの中国仏教史の特質を理解できるようになりましょう。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	日本仏教文化研究（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	B53200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中世（鎌倉・室町時代）の仏教文化を学ぶ
■授業の概要	古代の日本に伝来した仏教は長い時間を経て日本に定着し、現在も身近に多くの寺院が存在します。日本の歴史や文化を理解する上で、欠かせない役割を占めているのが仏教といえるでしょう。しかし、仏教は順調に発展・定着してきたのではなく、幾つかの大きな変動期がありました。その一つが中世（鎌倉～室町時代）だと言えます。例えば浄土宗・浄土真宗・日蓮宗といった「鎌倉新仏教」が興り、またいわゆる「旧仏教」にも戒律を重視して改革を目指す勢力が現れるなど、中世は新たな動きと旧来の動きがせめぎ合った時代だったのです。| 本授業では、変動期である中世仏教がこれまでどのように捉えられてきたか、まずはその変遷を追うとともに、そこに生じた独自の文化がどのようなものだったのかを考えていきたいと思います。
■授業の目的・ねらい	本講義では、中世仏教に関連する多くの史料を提示し、解釈していきます。それらを正確に理解できるようになることが目標です。そして、それらの史料の解釈が、これまでの研究でどのように変化してきたのか、といったことまで踏み込んで理解することも目的です。
■到達目標	・中世の仏教文化研究の変遷について、史料に基づいて理解できるようになる。 |・史料を様々な視角から解釈する姿勢を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	40%	
･その他	0%	

授業科目	日本仏教思想研究（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	三好　俊徳			シラバスグループ	B54100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	日本中世の法会と文学
■授業の概要	日本中世には国家的な儀礼から私的な供養にいたるまで多彩な仏事法会が行われていた。その場では、所作による儀礼や芸能のほかに、声によって法会が荘厳されていた。『元亨釈書』によると、法会における声には、持誦・梵唄・唱導・念仏があるとされるが、この授業では唱導を取り上げる。特に院政期・鎌倉期に活躍して安居院流という唱導の一派をうちたてた澄憲・聖覚父子の記した資料を読み解く。さらに法会における言葉と中世文学との結びつきにも注目しつつ、唱導という仏教の実践的な言葉をもとに中世仏教の思想と文学との関係をとらえる。
■授業の目的・ねらい	『転法輪抄』を中心とした唱導資料や唱導と関わる文学の読解を通して、中世の法会における仏教思想について学ぶ。
■到達目標	法会での言葉を手がかりとして、中世日本の仏教思想の具体的な表現とその広がりを理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	インド仏教文化講読（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	中西　麻一子			シラバスグループ	B55200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法顕と玄奘のインド旅行記を読む
■授業の概要	法顕と玄奘は 5 世紀から 7 世紀にかけてインドを訪れた中国の仏教僧です。彼らが実際にインドで見聞したことは『法顕伝』と『大唐西域記』に記録されています。そこには、インドの仏教聖地（仏跡地）の状況や各地域に伝わる仏教の説話などが豊富に収められています。|本講義では、法顕と玄奘のインド旅行記を日本語訳に基づいて講読したあと、インド各地に伝わる仏教説話の解説を行うことでインド仏教文化への理解を深めます。
■授業の目的・ねらい	①法顕と玄奘について知る。|②インドの仏教聖地（仏跡地）を法顕と玄奘の記録に基づいて理解する。|③法顕と玄奘が訪れた場所をインド地図上に指し示すことができるようになる。今後、インド旅行などで同地を訪れた際に、その場所について明確なイメージを持てるようになる。|
■到達目標	①法顕と玄奘ついて説明できる。|②インドの仏跡地について説明できる。|③インド地図上に玄奘と法顕が訪れた場所を指し示すことができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	10	授業で取り扱ったテーマに関するリポートの提出を求め、到達目標に対する達成度を評価します。期待値をはるかに超えた達成度であれば 90～100 点､期待値を十分に達成していれば 80 点～89 点、期待値をほぼ達成していれば、70～79 点、期待値を下回りもうすこし努力が必要な場合は 60～69 点、期待値をはるかに下回りさらなる努力が必要な場合は 0～59 点となります。
･授業内試験	0	授業内で質疑を行い、その応答状況をもって評価する。期待値をはるかに超えた達成度であれば 90～100 点、期待値を十分に達成していれば 80 点～89 点、期待値をほぼ達成していれば、70～79 点、期待値を下回りもうすこし努力が必要な場合は 60～69 点、期待値をはるかに下回りさらなる努力が必要な場合は 0～59 点となります。
･授業内課題	10	
･その他	0	授業ごとにリアクションペーパーの提出を求め、授業の理解度に基づいて評価する。期待値をはるかに超えた達成度であれば 90～100 点、期待値を十分に達成していれば 80 点～89 点、期待値をほぼ達成していれば、70～79 点、期待値を下回りもうすこし努力が必要な場合は 60～69 点、期待値をはるかに下回りさらなる努力が必要な場合は 0～59 点となります。

授業科目	中国仏教文化講読（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	B56400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『冥報記』講読
■授業の概要	『日本霊異記』にも大きな影響を与えたとされる、唐代の仏教説話集『冥報記』を講読します。本授業では、まず『冥報記』がどのような史料であるのかを理解したうえで、『大正新脩大蔵経』第 51 巻所収の原文を、受講生による輪読形式で読み進めてゆきます。その際、関連資料を適宜参照しながら、内容の理解を深める工夫を図ります。｜　本年度は、絳州大徳沙門釈僧徹伝から読み始めます。
■授業の目的・ねらい	漢文で記された仏教文献を、参考資料や辞書類を活用しながら読解する力を養うことを目指します。
■到達目標	辞書類を活用しながら、漢文資料を訓読し、読解することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	リポートの課題は、（１）講読箇所の中から、仏教や仏教文化に関わるテーマを各自で設定し、それについて調べた内容をまとめるもの、（２）指定範囲の訓読、のどちらかを選択していただきます。
･授業内試験	0%	授業では受講生による講読を行います。
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	日本仏教文化講読（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	工藤　美和子			シラバスグループ	B57200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『三宝絵』から読み解く仏教的世界のあり方
■授業の概要	私たちは過去の仏教史料を読み解くことで、過去に人々がどのような仏教と社会のあり方を考えていたのかを知ることができます。本授業では、平安時代に編まれた仏教入門書『三宝絵』からいくつかの説話や法会に関する話を取りあげ、仏教史料を読解する力と仏教文化の特質について読み解いていきます。
■授業の目的・ねらい	・平安時代の仏教史料を読むことから、当時の仏教的世界観への理解を深めることを目的とします。|
■到達目標	・史料読解によって平安時代の浄土信仰とその文化について理解する。|・文献史料を読む基本的な知識を身につける。|・辞書類を適切に扱えるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	日本仏教思想講読（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	工藤　美和子			シラバスグループ	B58100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『平家物語』にみる仏教思想
■授業の概要	「祇園精舎の鐘の声」という冒頭で有名な『平家物語』は、平家一門の姿を通して釈尊が説いた仏教の教えが説かれている仏教書といえます。そこで本授業では、覚一本『平家物語』からいくつかの物語を取り上げ、そこに説かれた仏教思想について読み解いていきます。
■授業の目的・ねらい	『平家物語』に描かれた仏教の教えは何かを考えます。
■到達目標	・読解する資料から『平家物語』にみる仏教思想を理解できるようになる。|・文献資料を仏教的に読み、何が説かれているかを探求できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0	
･その他	0%	

授業科目	仏教文化ゼミ１（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	三好　俊徳			シラバスグループ	B59300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	先行研究の読解とまとめ方
■授業の概要	先行研究を整理してまとめることは研究の出発点であり、なおかつ今後の研究の土台を形成する重要な作業である。このゼミでは、日本中世の仏教文学に関する論考を会読することをとおして、論文の構造について学ぶ。
■授業の目的・ねらい	先行研究の集め方や読み方、まとめ方を理解し、自らの研究を構想することができるようになることを目指す。
■到達目標	・先行研究の批判的な読み方ができる。|・先行研究の集め方を理解して、研究史を作成することができる。|・先行研究をもとに課題を設定することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0|	
・リポート試験(SR 履修)	60|	
・授業内発表	20|	
・授業内試験	0|	授業内での発表をもとに評価します。
・授業内課題	20|	
・その他	0|	授業内での発言や意見交換などをもとに総合的に評価します。

授業科目	仏教文化ゼミ２（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	三好　俊徳			シラバスグループ	B60100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	仏教文化の基礎的な研究方法
■授業の概要	資料の検討や先行研究の読解をふまえて、どのように問題を深めて論文執筆へと歩みを進めるのか。このゼミでは『今昔物語集』の天狗説話と、関連する資料や論文を読解し位置づけることをとおして、研究の基礎的方法を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	研究対象となる資料を解読し、先行研究を批判的に読むことを基盤として、自ら議論を深めていく研究技法を身につけることを目指す。
■到達目標	自ら資料収集と資料分析を行い、研究を推進するための基礎的能力を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	授業内での発表、あるいは授業担当者から出す質問に対する発言をもとに総合的に評価します。
･授業内課題	20	
･その他	0	授業内での質問や意見交換などをもとに総合的に評価します。

授業科目	浄土宗と加行１（伝法）（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	曽和　義宏			シラバスグループ	B71200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	伝法史概説と三巻書講読
■授業の概要	１）伝法の意義、起源、浄土宗における伝法史（伝法制度の確立と展開）について概説。|２）三巻書の講読。
■授業の目的・ねらい	伝法の意義、伝法史の把握、三巻書の講読による内容の把握。またそれらを通して、浄土宗の法灯を継承する者であるとの自覚と使命を持つこと。
■到達目標	・伝法史について説明することができる。|・伝法制度の概要と変遷について説明することができる。|・『往生記』『末代念仏授手印』の概要と結論を説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	浄土宗と加行２（円頓戒）（夏期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	齊藤　隆信			シラバスグループ	B72200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	円頓戒の歴史・思想・受戒作法
■授業の概要	戒と律の意味とその役割について解説し、その上で円頓戒の歴史と思想をめぐって、中国・日本においてどのように展開したのかを講義します。また加行における伝戒（受戒）の作法についても説明いたします。
■授業の目的・ねらい	浄土宗教師（僧侶）になるための戒脈の基礎知識を学修し、円頓戒の歴史と思想の概念規定について的確に説明できるようになることが本講義の目的・ねらいです。
■到達目標	戒と律と円頓戒について、その内容を的確に説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	仏教の儀礼と儀式（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	加藤　弘孝			シラバスグループ	B73200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	仏教の儀礼と儀式
■授業の概要	春・秋の彼岸会、盂蘭盆会などの日本の年中行事は、仏教・浄土宗と非常に関わりが深い。よって日常生活に密着した仏教の年中行事の起源やその展開について講義する。また仏教の三大行事である降誕会（花まつり・成道会・涅槃会）が、日本でどのように受け入れられて展開していったかについても解説する。
■授業の目的・ねらい	日本仏教、特に浄土宗における各種の儀礼・儀式について、その起源と展開について学ぶことを目的とする。
■到達目標	浄土宗儀礼を中心に仏教儀礼・儀式のルーツを知った上で、それらに、どのような意義があるのか説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0‖	
･リポート試験(SR 履修)	80‖	
･授業内発表	0‖	到達目標に示した到達度によって評価をする。
･授業内試験	0‖	
･授業内課題	20|	
･その他	0‖	これまでに参加・体験したことのある法会･仏教行事を報告してもらう。

授業科目	仏教の儀礼と儀式（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	曽和　義宏			シラバスグループ	B73400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	仏教の儀礼と儀式
■授業の概要	春・秋の彼岸会、盂蘭盆会などの日本の年中行事は、仏教・浄土宗と非常に関わりが深い。よって日常生活に密着した仏教の年中行事の起源やその展開について講義する。また仏教の三大行事である降誕会（花まつり・成道会・涅槃会）が、日本でどのように受け入れられて展開していったかについても解説する。
■授業の目的・ねらい	日本仏教、特に浄土宗における各種の儀礼・儀式について、その起源と展開について学ぶことを目的とする。
■到達目標	浄土宗儀礼を中心に仏教儀礼・儀式のルーツを知った上で、それらに、どのような意義があるのか説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	到達目標に示した到達度によって評価をする。
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	これまでに参加・体験したことのある法会･仏教行事を報告してもらう。

授業科目	実践仏教学１（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	法澤　賢祐			シラバスグループ	B85200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	【実践仏教学１】浄土宗法式基礎の解説と実習|【法式実習１】宿泊生活を通した生活規範と勤行技能の基礎修練
■授業の概要	【実践仏教学１】|威儀法・法服法・執持法並びに?稚法及び勤行（聞法作法・食作法・日常勤行・半斎供養儀・音声（六時礼讃を除く）・恭敬礼拝）の解説。‖【法式実習１】|道場の日課・生活全般も本授業科目とし、宿泊生活を通してあるべき自己の形成を図り、相応の志向と立居振舞を身に付ける。入行期間の全体において、基礎であり基準となる生活規範と勤行技能の両者を実践する。これによって、浄土宗教師（浄土宗僧侶）として仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく自己意識と実践精神を養い、体現能力の基礎を培う。
■授業の目的・ねらい	【実践仏教学１】|一週間しかないスクーリングに於いて、得度以来師僧のもと独自に学ばれていた法式の確認と共に、伝宗伝戒加行道場入行を目標に浄土宗教師を目指す受講生の威儀作法、並びに法服と執持物の取り扱い方、及び?稚法と日常勤行の確認と意識と技術の向上を目的としている。‖【法式実習１】|浄土宗教師としての実践生活や活動を志す上で、その専門的な知識や技能は適切な生活規範の上にあってこそ適切に形成され、意義あるものとなる。そのために、自策自励の手段である生活・作法・実践の基礎を広く習得し、定着させ、体現できるようになることを目指す。僧侶の役目、存在価値、および土台と枠組みと方向性への適切な志向と姿勢を得るために、日課全般を修練する。
■到達目標	【実践仏教学１】|法服法理解し、正しく法服を着する事ができるようになる。日課念仏に励み、日常勤行式並びに半斎供養儀を導師・維那・先進・侍者・大衆として 確実に勤められるようになる。 音階論を理解し、音声での日常勤行式・恭敬礼拝ができるようになる。‖【法式実習１】|①自己形成としての生活規範・規則を当たり前に実践できる。|②勤行の配役すべての基本作法を忠実に実践できる。|③浄土宗教師として活動する志向と姿勢を体現できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	33	
･授業内試験	33	筆記試験の後に実技試験を行います。実技試験内容は講義中に出題します。
･授業内課題	0	「実践仏教学 1」最終日に筆記試験を行います。
･その他	34	

授業科目	実践仏教学１（冬期)A クラス_対面				単位	2
担当者	法澤　賢祐			シラバスグループ	B85400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	【実践仏教学１】浄土宗法式基礎の解説と実習|【法式実習１】宿泊生活を通した生活規範と勤行技能の基礎修練
■授業の概要	【実践仏教学１】|威儀法・法服法・執持法並びに?稚法及び勤行（聞法作法・食作法・日常勤行・半斎供養儀・音声（六時礼讃を除く）・恭敬礼拝）の解説。‖【法式実習１】|道場の日課・生活全般も本授業科目とし、宿泊生活を通してあるべき自己の形成を図り、相応の志向と立居振舞を身に付ける。入行期間の全体において、基礎であり基準となる生活規範と勤行技能の両者を実践する。これによって、浄土宗教師（浄土宗僧侶）として仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく自己意識と実践精神を養い、体現能力の基礎を培う。
■授業の目的・ねらい	【実践仏教学１】|一週間しかないスクーリングに於いて、得度以来師僧のもと独自に学ばれていた法式の確認と共に、伝宗伝戒加行道場入行を目標に浄土宗教師を目指す受講生の威儀作法、並びに法服と執持物の取り扱い方、及び?稚法と日常勤行の確認と意識と技術の向上を目的としている。‖【法式実習１】|浄土宗教師としての実践生活や活動を志す上で、その専門的な知識や技能は適切な生活規範の上にあってこそ適切に形成され、意義あるものとなる。そのために、自策自励の手段である生活・作法・実践の基礎を広く習得し、定着させ、体現できるようになることを目指す。僧侶の役目、存在価値、および土台と枠組みと方向性への適切な志向と姿勢を得るために、日課全般を修練する。
■到達目標	【実践仏教学１】|法服法理解し、正しく法服を着する事ができるようになる。日課念仏に励み、日常勤行式並びに半斎供養儀を導師・維那・先進・侍者・大衆として 確実に勤められるようになる。 音階論を理解し、音声での日常勤行式・恭敬礼拝ができるようになる。‖【法式実習１】|①自己形成としての生活規範・規則を当たり前に実践できる。|②勤行の配役すべての基本作法を忠実に実践できる。|③浄土宗教師として活動する志向と姿勢を体現できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	33	
･授業内試験	33	筆記試験の後に実技試験を行います。実技試験内容は講義中に出題します。
･授業内課題	0	「実践仏教学 1」最終日に筆記試験を行います。
･その他	34	

授業科目	実践仏教学２（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	大澤　亮我			シラバスグループ	B87200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	浄土宗の諸種法要法式について・浄土宗法式の総合実習
■授業の概要	六時礼讃、盂蘭盆会、施餓鬼会、葬儀式、各種法要、六時の勤行（加行前行）
■授業の目的・ねらい	「実践仏教学 1」･「法式実習 1」で学習した生活軌範と日課内容の展開
■到達目標	実践仏教学 1 および法式実習 1 で習得した法式の基本の上に、さらに各種法要の内容を習得する。法式においても、反復練習をすることにより、浄土宗の僧侶として確実な法式を身につけることが目標である。|成績評価の基準は、加行道場の入行者にふさわしい僧侶としての資質が要求され、筆記テスト、実技テスト、さらにスクーリング期間中の勤行･作務･道場生活全般にわたる態度、努力などを総合的に判断する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	100%	

授業科目	実践仏教学２（冬期)A クラス_対面				単位	2
担当者	大澤　亮我			シラバスグループ	B87400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	浄土宗の諸種法要法式について・浄土宗法式の総合実習
■授業の概要	六時礼讃、盂蘭盆会、施餓鬼会、葬儀式、各種法要、六時の勤行（加行前行）
■授業の目的・ねらい	「実践仏教学 1」･「法式実習 1」で学習した生活軌範と日課内容の展開
■到達目標	実践仏教学 1 および法式実習 1 で習得した法式の基本の上に、さらに各種法要の内容を習得する。法式においても、反復練習をすることにより、浄土宗の僧侶として確実な法式を身につけることが目標である。|成績評価の基準は、加行道場の入行者にふさわしい僧侶としての資質が要求され、筆記テスト、実技テスト、さらにスクーリング期間中の勤行･作務･道場生活全般にわたる態度、努力などを総合的に判断する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	100%	

授業科目	法式実習１（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	法澤　賢祐			シラバスグループ	B86200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	【実践仏教学１】浄土宗法式基礎の解説と実習|【法式実習１】宿泊生活を通した生活規範と勤行技能の基礎修練
■授業の概要	【実践仏教学１】|威儀法・法服法・執持法並びに?稚法及び勤行（聞法作法・食作法・日常勤行・半斎供養儀・音声（六時礼讃を除く）・恭敬礼拝）の解説。‖【法式実習１】|道場の日課・生活全般も本授業科目とし、宿泊生活を通してあるべき自己の形成を図り、相応の志向と立居振舞を身に付ける。入行期間の全体において、基礎であり基準となる生活規範と勤行技能の両者を実践する。これによって、浄土宗教師（浄土宗僧侶）として仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく自己意識と実践精神を養い、体現能力の基礎を培う。
■授業の目的・ねらい	【実践仏教学１】|一週間しかないスクーリングに於いて、得度以来師僧のもと独自に学ばれていた法式の確認と共に、伝宗伝戒加行道場入行を目標に浄土宗教師を目指す受講生の威儀作法、並びに法服と執持物の取り扱い方、及び?稚法と日常勤行の確認と意識と技術の向上を目的としている。‖【法式実習１】|浄土宗教師としての実践生活や活動を志す上で、その専門的な知識や技能は適切な生活規範の上にあってこそ適切に形成され、意義あるものとなる。そのために、自策自励の手段である生活・作法・実践の基礎を広く習得し、定着させ、体現できるようになることを目指す。僧侶の役目、存在価値、および土台と枠組みと方向性への適切な志向と姿勢を得るために、日課全般を修練する。
■到達目標	【実践仏教学１】|法服法理解し、正しく法服を着する事ができるようになる。日課念仏に励み、日常勤行式並びに半斎供養儀を導師・維那・先進・侍者・大衆として 確実に勤められるようになる。 音階論を理解し、音声での日常勤行式・恭敬礼拝ができるようになる。‖【法式実習１】|①自己形成としての生活規範・規則を当たり前に実践できる。|②勤行の配役すべての基本作法を忠実に実践できる。|③浄土宗教師として活動する志向と姿勢を体現できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	33	
･授業内試験	33	筆記試験の後に実技試験を行います。実技試験内容は講義中に出題します。
･授業内課題	0	「実践仏教学 1」最終日に筆記試験を行います。
･その他	34	

授業科目	法式実習１（冬期)A クラス_対面				単位	1
担当者	法澤　賢祐			シラバスグループ	B86400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	【実践仏教学１】浄土宗法式基礎の解説と実習|【法式実習１】宿泊生活を通した生活規範と勤行技能の基礎修練
■授業の概要	【実践仏教学１】|威儀法・法服法・執持法並びに?稚法及び勤行（聞法作法・食作法・日常勤行・半斎供養儀・音声（六時礼讃を除く）・恭敬礼拝）の解説。‖【法式実習１】|道場の日課・生活全般も本授業科目とし、宿泊生活を通してあるべき自己の形成を図り、相応の志向と立居振舞を身に付ける。入行期間の全体において、基礎であり基準となる生活規範と勤行技能の両者を実践する。これによって、浄土宗教師（浄土宗僧侶）として仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく自己意識と実践精神を養い、体現能力の基礎を培う。
■授業の目的・ねらい	【実践仏教学１】|一週間しかないスクーリングに於いて、得度以来師僧のもと独自に学ばれていた法式の確認と共に、伝宗伝戒加行道場入行を目標に浄土宗教師を目指す受講生の威儀作法、並びに法服と執持物の取り扱い方、及び?稚法と日常勤行の確認と意識と技術の向上を目的としている。‖【法式実習１】|浄土宗教師としての実践生活や活動を志す上で、その専門的な知識や技能は適切な生活規範の上にあってこそ適切に形成され、意義あるものとなる。そのために、自策自励の手段である生活・作法・実践の基礎を広く習得し、定着させ、体現できるようになることを目指す。僧侶の役目、存在価値、および土台と枠組みと方向性への適切な志向と姿勢を得るために、日課全般を修練する。
■到達目標	【実践仏教学１】|法服法理解し、正しく法服を着する事ができるようになる。日課念仏に励み、日常勤行式並びに半斎供養儀を導師・維那・先進・侍者・大衆として 確実に勤められるようになる。 音階論を理解し、音声での日常勤行式・恭敬礼拝ができるようになる。‖【法式実習１】|①自己形成としての生活規範・規則を当たり前に実践できる。|②勤行の配役すべての基本作法を忠実に実践できる。|③浄土宗教師として活動する志向と姿勢を体現できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	33	
･授業内試験	33	筆記試験の後に実技試験を行います。実技試験内容は講義中に出題します。
･授業内課題	0	「実践仏教学 1」最終日に筆記試験を行います。
･その他	34	

授業科目	法式実習２（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	大澤　亮我			シラバスグループ	B88200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	浄土宗の諸種法要法式について・浄土宗法式の総合実習
■授業の概要	六時礼讃、盂蘭盆会、施餓鬼会、葬儀式、各種法要、六時の勤行（加行前行）
■授業の目的・ねらい	「実践仏教学 1」･「法式実習 1」で学習した生活軌範と日課内容の展開
■到達目標	実践仏教学 1 および法式実習 1 で習得した法式の基本の上に、さらに各種法要の内容を習得する。法式においても、反復練習をすることにより、浄土宗の僧侶として確実な法式を身につけることが目標である。|成績評価の基準は、加行道場の入行者にふさわしい僧侶としての資質が要求され、筆記テスト、実技テスト、さらにスクーリング期間中の勤行･作務･道場生活全般にわたる態度、努力などを総合的に判断する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	100%	

授業科目	法式実習２（冬期)A クラス_対面				単位	1
担当者	大澤　亮我			シラバスグループ	B88400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	浄土宗の諸種法要法式について・浄土宗法式の総合実習
■授業の概要	六時礼讃、盂蘭盆会、施餓鬼会、葬儀式、各種法要、六時の勤行（加行前行）
■授業の目的・ねらい	「実践仏教学 1」･「法式実習 1」で学習した生活軌範と日課内容の展開
■到達目標	実践仏教学 1 および法式実習 1 で習得した法式の基本の上に、さらに各種法要の内容を習得する。法式においても、反復練習をすることにより、浄土宗の僧侶として確実な法式を身につけることが目標である。|成績評価の基準は、加行道場の入行者にふさわしい僧侶としての資質が要求され、筆記テスト、実技テスト、さらにスクーリング期間中の勤行･作務･道場生活全般にわたる態度、努力などを総合的に判断する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	100%	

授業科目	仏教伝道学（春期)A クラス_対面				単位	4
担当者	安部　隆瑞			シラバスグループ	B74100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	仏教伝道者の養成のために、伝道を実践して体得する。
■授業の概要	高座説教に慣れるために、先ずは自己紹介を各自が高座に登って実演する。次に伝道学Ⅱの実演に備えて、元祖大師御法話の一説を讃題として、伝道の基本を習得する。説相の持ち方、歩き方、礼拝、高座説教の讃題の唱え方、袱紗のさばき方、割?の打ち方等修練し、さらに伝道布教のための原稿の作り方として、法説、比喩を通して御法話を研究して、浄土宗義を身につけるようにする。その上、お念仏を申した人、あるいはお念仏を申して往生された方の実話を因縁話として取り出し、これを法説に結び付け、念仏申すことが最高の生き方であることを伝道布教できるようにする。よって、常に浄土宗義にそった考え方が、できるものとなるように修練するものである。
■授業の目的・ねらい	浄土宗の念仏を布教伝道する知識と技量を習得する。それがためには、元祖大師御法語を通して、浄土宗義の理解を深め間違いのない念仏の教えを布教伝道できるようになることを目指します。
■到達目標	浄土宗の念仏の教えが、しっかりと布教伝道できる説得力を身に着けるよう学習と実践に励んで、混迷する現代の人々を救済する僧侶となることを目標としてほしい。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	試験は行わない。
･授業内発表	60	
･授業内試験	0	自己紹介の実演。一人 15 分。
･授業内課題	0	
･その他	40	

授業科目	詠唱（集中１)A クラス_対面				単位	2
担当者	森岡　達圭			シラバスグループ	B75510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	法然上人の「お念仏の教え」を、お念仏の助業としての「詠唱」の実践を通じて体得できるようにする。
■授業の概要	浄土宗の「吉水流詠唱」の意義・内容・歴史について講義し、法具を用いて基本作法を実践してもらう。基本的な「御詠歌」と「和讃」の数曲を唱えることができるようにしてもらう。また、将来の教化実践の場面で、「声」や「言葉」の持つ力を「詠唱」を通じて発揮できるように指導したい。
■授業の目的・ねらい	浄土宗の「吉水流詠唱」を実践してもらい、その意義・内容を体得・実感してもらうことをめざす。三日間とも実践を中心に進める。
■到達目標	吉水流詠唱の法具(鈴・鉦)を用いて、御詠歌・和讃を唱えることができるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	40	
･授業内試験	40	基本の曲目を唱える
･授業内課題	20	作法の実践と御詠歌・和讃のお唱え
･その他	0	基本の曲目の意味を自分の言葉で説明する

授業科目	三部経特講（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	齊藤　舜健			シラバスグループ	B76300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	浄土宗所依の浄土三部経の内、『観無量寿経』と『阿弥陀経』を講読する。
■授業の概要	浄土三部経全体について概説した後、『観無量寿経』『阿弥陀経』の順で、訓読法により、浄土宗の伝統的な解釈に基づいて講読する。テキストには大雲点本を用いる。
■授業の目的・ねらい	浄土宗の教えの理解に資するために『観無量寿経』と『阿弥陀経』の構成と主張を理解する。特に『観経』は全体の構造と付属の意味を理解すること、『阿弥陀経』は諸仏の証誠の意義を理解することに重点を置く。受講者には浄土宗の伝統的な解釈に基づく理解を求める。|成績は、これらの理解度を授業への参加と課題の結果に基づいて総合的に評価する。
■到達目標	『観無量寿経』と『阿弥陀経』の概要が説明できること。|付属の意味、諸仏の証誠の意味が説明できること。|重要箇所（講義中に指示）について、訓読と和訳ができること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	90	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	選択集特講（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	B77300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	聖光『徹選択本願念仏集』上巻を読む
■授業の概要	『徹選択集』は浄土宗鎮西派の第二祖聖光房弁長によって記された書で、その上巻は法然の『選択集』について、章ごとにその要旨を解説するものである。本授業ではこの『徹選択集』上巻（漢文）を読むことにより、法然の『選択集』への理解を深め、また聖光と法然の立場の違いについて考察してみたい。
■授業の目的・ねらい	一次資料（漢文・古文）の読解に慣れること。|『選択集』の要旨を把握すること。|法然と聖光の立場の違いを理解すること。
■到達目標	一次資料を自分で読みこなせるようになる。|法然の『選択集』の要旨を理解し説明できる。|法然と聖光の立場の違いを理解し説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	法然の法語特講（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	下端　啓介			シラバスグループ	B78400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	法然の問答を読む
■授業の概要	和文体の法然遺文集である『和語灯録』(『黒谷上人語灯録』第十一～十五）には、「問答」すなわち法然と門弟や信者との対話の記録が多く収録されている。当時の人々が法然の教えに対してどのような疑問を懐き、その疑問に対して法然がどのように答えているのか、読解していく。
■授業の目的・ねらい	対話形式の複数の法然遺文を読み、法然の思想を理解する。また人々の疑問の背景について考察し、鎌倉初期の社会通念や仏教界の動向についても理解する。
■到達目標	法然の浄土教思想を理解し、説明できるようになる。また鎌倉初期の社会通念や仏教界の動向について理解し、法然の浄土宗開宗の歴史的意義を、説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポートを提出してもらうことで、法然の法語の特質についての理解度をはかり、評価する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	授業半ばで短いリポートを提出してもらうことで、授業前半の内容についての理解度をはかり、評価する。

授業科目	論註特講（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	梶原　隆淨			シラバスグループ	B81400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	『往生論註』講読
■授業の概要	北魏の曇鸞が著した、『往生論註』を講読する。|　講義は、概ね以下の順で進める。|一、著者曇鸞と『往生論註』の概観|二、『往生論註』講読|　　1、難行道易行道|　　2、五念門|　　3、上巻末、八番問答|　　4、広略相入（一法句）|　　5、五種功徳門|三、まとめ
■授業の目的・ねらい	『往生論註』の講読を通じて曇鸞の浄土教思想を考察し、浄土および往生に対する理解を深め、称名念仏の重要性を再認識していただくことが目的である。
■到達目標	念仏に対する理解を深める。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	観経疏特講（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	田中　実　マルコス			シラバスグループ	B82400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	善導の『観無量寿経疏』玄義分の講読
■授業の概要	まず浄土教と善導大師（613-681）の伝記とその著述を概説します。それから善導の著述の一つである『観無量寿経』の註釈、『観無量寿経疏』の「玄義分」を講読します。
■授業の目的・ねらい	『観無量寿経疏』「玄義分」を受講生に読んでいただき、重要な個所には解説を加えながら授業を進めます。これによって善導浄土教を理解することを目的とします。
■到達目標	善導浄土教の特色の理解

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	安楽集特講（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	加藤　弘孝			シラバスグループ	B83400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	『安楽集』に説かれる念仏三昧
■授業の概要	道綽（562?645）の著した『安楽集』の第四大門を読み、道綽の説く念仏三昧について講義して|いきます。まず、道綽の伝記と時代背景、『安楽集』について概説したのちに、『安楽集』を講読していきます。
■授業の目的・ねらい	漢文読解力を高めつつ、道綽浄土教の概要を理解することを目的とします。道綽が説く念仏三昧|の概要が理解できているかによって成績評価をします。なお、スクーリングの全講義に出席していることが必要です。
■到達目標	道綽が説く念仏三昧の概要が理解できていること

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	30%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	仏教伝道学Ⅱ（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	安部　隆瑞			シラバスグループ	B84200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	仏教伝道者の養成のために、伝道を実践して体得する。
■授業の概要	高座に登って、元祖大師御法話の一説を讃題として、伝道の基本を習得する。説相の持ち方、歩き方、礼拝、高座説教の讃題の唱え方、袱紗のさばき方、割?の打ち方等修練し、さらに伝道布教のための原稿の作り方として、法説、比喩を通して御法話を研究して、浄土宗義を身につけるようにする。その上、お念仏を申した人、あるいはお念仏を申して往生された方の実話を因縁話として取り出し、これを法説に結び付け、念仏申すことが最高の生き方であることを伝道布教できるようにする。よって、常に浄土宗義にそった考え方が、できるものとなるように修練するものである。
■授業の目的・ねらい	浄土宗の念仏を布教伝道する知識と技量を習得する。それがためには、元祖大師御法語を通して、浄土宗義の理解を深め間違いのない念仏の教えを布教伝道できるようになることを目指します。
■到達目標	浄土宗の念仏の教えが、しっかりと布教伝道できる説得力を身に着けるよう学習と実践に励んで、混迷する現代の人々を救済する僧侶となることを目標としてほしい。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	試験は行わない。
･授業内発表	60	
･授業内試験	0	法説・比喩・因縁・合釈の組み立てによる高座説法（一人 15 分）
･授業内課題	0	
･その他	40	

授業科目	法式実習３（集中２)A クラス_対面				単位	1
担当者	法澤　賢祐			シラバスグループ	B89520	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	伝宗伝戒道場への入行に向けた生活規範と勤行技能の実践研修
■授業の概要	これまでの宿泊研修からの時間経過を鑑み、倶に一処に会すことによる意識高揚と威儀作法の確認を図りつつ、生活規範と勤行技能の基礎練磨に努める。これによって、浄土宗教師（浄土宗僧侶）として仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく自己意識と実践精神を確立し、体現能力を高める。
■授業の目的・ねらい	本年 12 月の伝宗伝戒道場への入行者として、伝法道場の日課を主体的に勤められるようになることを目指す。自策自励の志向と手段を確実に習得するために、日課全般を修練する。生涯において仏道を求め続け、実践し続けるために、基本的手法の体得を確固たるものとする。
■到達目標	①仏法と向き合い続ける者としての生活規範・規則を実践できる。|②自信を持って基本作法に忠実な勤行と配役を実践できる。|③勤行時の人数・空間・時間に相応の臨機応変かつ柔軟な対応ができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0%	勤行技能・各配役の実践状況〈基本作法・実践項目・体得事項の達成率〉
･授業内課題	0%	
･その他	60	

授業科目	法式実習４（集中２)A クラス_対面				単位	1
担当者	法澤　賢祐			シラバスグループ	B89520	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	伝宗伝戒道場への入行に向けた生活規範と勤行技能の実践研修
■授業の概要	これまでの宿泊研修からの時間経過を鑑み、倶に一処に会すことによる意識高揚と威儀作法の確認を図りつつ、生活規範と勤行技能の基礎練磨に努める。これによって、浄土宗教師（浄土宗僧侶）として仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく自己意識と実践精神を確立し、体現能力を高める。
■授業の目的・ねらい	本年 12 月の伝宗伝戒道場への入行者として、伝法道場の日課を主体的に勤められるようになることを目指す。自策自励の志向と手段を確実に習得するために、日課全般を修練する。生涯において仏道を求め続け、実践し続けるために、基本的手法の体得を確固たるものとする。
■到達目標	①仏法と向き合い続ける者としての生活規範・規則を実践できる。|②自信を持って基本作法に忠実な勤行と配役を実践できる。|③勤行時の人数・空間・時間に相応の臨機応変かつ柔軟な対応ができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0%	勤行技能・各配役の実践状況〈基本作法・実践項目・体得事項の達成率〉
･授業内課題	0%	
･その他	60	

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	辻本　恭子			シラバスグループ	M01200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	古典文学についての基礎的理解、および文章表現。
■授業の概要	日本古典文学の基礎を把握するため、古典文学史や主な作品について学ぶ。|また、実際の研究成果を見て古典文学研究の方法を知る。|Yes, But 方式や PREP 法など文章表現の型を用いて意見文を書く。|
■授業の目的・ねらい	文学を通じて古典文化への理解を深める。|意見文や論作文の原則を学ぶことで、各種リポートや卒論執筆に関わる基礎的文章表現法を身につける。
■到達目標	日本文化の一分野としての古典文学を理解し、課題を設定して文章表現できるようになることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	0	授業内で説明する「Yes, But 方式」で、課題に対するレポートを作成していただきます。
･授業内試験	0|||	
･授業内課題	50|	
･その他	0	

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	庄司　達也			シラバスグループ	M01300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	作家研究、作品研究の基礎を学ぶ|　　ー芥川龍之介「羅生門」の読解を通してー
■授業の概要	大正期を中心に活躍した作家芥川龍之介の代表作である「羅生門」を精読します。作者の生涯や作品成立の背景への理解を深めることで、作品の魅力や内包している問題に迫ります。また、「自伝的小説」と呼ばれる作品群を読むための作業として芥川龍之介の「家」に関わる事柄についても学びます。以上のことを通して、今の時代に生きる「私」たち自身の在りようや、社会や時代との関わりということについて考究し、今日の「私」たちが芥川龍之介を学び、作品「羅生門」を「読む」ということの意義についても考察します。
■授業の目的・ねらい	文学作品の精読や周辺資料への検討を通して、文学研究の基本的な方法について学ぶことを目的の第１とします。| 本講義で対象とする芥川龍之介には、関連するさまざまな資料が残されており、伝記的なことがらへの検討も十分に果たされる作家です。また、「羅生門」では残されたノートや草稿、本文の異同などの事実を手掛かりにして、作品の読解を進めてゆくことができます。作品の背景にある作者の事跡などにも注目し、より精緻な読解を目指します。|　これらのことにより、受講生は近代文学研究の基本的な方法について学びます。

■到達目標	作家への評価や作品の「読解」を進める上で、以下のことがらを基盤とすることができる。|1．関連資料を踏まえた読解、言及を行うこと、|2．先行研究などの見解を踏まえて持論を展開すること。|3．作家理解や作品の読解を論理的なことがらとして行うこと。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	15	

授業科目	日本文学フィールドワーク（春期)A クラス_対面				単位	2
担当者	諸岡　哲也			シラバスグループ	M02100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	日本近代文学における京都
■授業の概要	京都は古典に限らず、近代文学においても数多くの作品の舞台として描かれてきました。今回は三島由紀夫の『金閣寺』と谷崎潤一郎の『夢の浮橋』をとりあげ、比較検討します。皆さんと議論しながら豊かな作品世界を鑑賞し、その違い・魅力を探っていきましょう。授業最終日には、『金閣寺』･『夢の浮橋』に登場する場所をフィールドワークしてみましょう。
■授業の目的・ねらい	当然ですが、同じ京都を舞台にしたものでも、作品によって表現の仕方がかなり違ってきます。まずは、豊かな作品世界を鑑賞しましょう。作品に描かれた表現世界と現実の場所を比べてみると、意外な発見があり、さらに作品への理解が深まるはずです。その上で、作品を読解していく視点や文献・資料の扱い方なども身につけてもらいます。
■到達目標	フィールドワークによって、作品への理解をさらに深めること。また、議論を通して作品の新しい解釈の可能性について考える視点を養う。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	感想程度でもかまいませんので、積極的に議論に参加して自分の意見を言ってもらいます。
･授業内課題	30	
･その他	0	フィールドワークへの参加

授業科目	日本文学フィールドワーク（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	日高　佳紀			シラバスグループ	M02200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	川端康成『古都』から京都を読む
■授業の概要	京都は古典はもとより、近現代文学においても多くの作品の舞台となってきました。この授業では、川端康成『古都』（１９６２）を取り上げます。作品発表当時、京都の「名所案内記」のようだと評された作品ですが、作中に設定されているのは、京都を「古い都」と捉える近代的なまなざしにほかなりません。『古都』に描かれたさまざまな場所を実際に歩きながら、「古い都」と近代的知の枠組みとの交わる地点を考えてみましょう。
■授業の目的・ねらい	文学作品に描き出された世界と、舞台となった場所との比較を通して、作品世界の理解を深めると同時に、現実と虚構との差についても考えてみること。ここから文学表現の奥深さと価値を知ることを目指します。|
■到達目標	実地踏査を通して作品に対する新たな知見を得ること。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	30	課題内容は授業内で説明します。
･授業内試験	0	授業では、感想でも構わないので、積極的に発言してください。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	日本文学講読（上代・中古）（夏期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	石原　美紀			シラバスグループ	M03200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	伊勢物語講読ー物語の作り方ー
■授業の概要	日本文学を代表する古典の一つであり、後世への影響も大きい作品である伊勢物語の表現と方法を考察する。｜　伊勢物語は一般に「歌物語」に分類されてきた作品であるが、その枠を超える要素を併せ持つものでもある。伊勢物語の全体構成を押さえた上で、密接な関係にある古今集との在り方も視野に入れつつ、一章段一章段の作り方を本文を精読しながら検討する。｜　今年度は惟喬親王関連章段を講読する。
■授業の目的・ねらい	大雑把な王朝物語イメージで物事を判断したり読んだりするのではなく、平安時代当時の在り方を把握するため、一次資料である各作品の本文を正確に読み、そこから判断できるようになる。
■到達目標	１、伊勢物語の表現と方法の特徴について把握し、説明できる。|２、平安時代の仮名の物語、及び同時代資料の扱い方、調べ方を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	授業の把握度及び論理的記述力で評価
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	15	授業の理解度を測る復習的課題の到達度により評価

授業科目	日本文学講読（上代・中古）（冬期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	大谷　歩			シラバスグループ	M03300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	『万葉集』を読む：後世への展開をとおして
■授業の概要	『万葉集』は、飛鳥・奈良時代の作品が収録されている、日本に現存する最古の歌集です。天皇から下級官人や兵士など、さまざまな身分の人びとの歌が、20 巻に約 4500 首収録されています。|この授業では、同時代の他の作品や文献、あるいは後世の文学作品（百人一首や説話・物語など）への影響や展開も視野に入れながら、『万葉集』の作品を読解します。
■授業の目的・ねらい	・『万葉集』についての基礎的な知識を学ぶこと。|・『万葉集』の作品を読解し、作者や歌が詠まれた当時の文化的背景、古代のことばについての理解を深めること。|・『万葉集』の作品をとおし、文学史的な視野を広げること。|・上記の学修を踏まえ、自らが興味関心をもった作品やテーマについて、リポートの形式で論述ができるようになること。|
■到達目標	・『万葉集』に関する基礎的な知識や概要を説明することができる。|・『万葉集』の作品について正確に読解することができる。|・『万葉集』の作品と、同時代の他の作品や後世の作品との関係を正確に理解し、論述することができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0%	
・リポート試験(SR 履修)	80%	
・授業内発表	0%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	20%	
・その他	0%	

授業科目	日本文学講読（中世・近世）（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	今井　友子			シラバスグループ	M04100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『源氏物語』の注釈書である『原中最秘抄』を読む
■授業の概要	今年度の NHK 大河ドラマ「光る君へ」は『源氏物語』の作者紫式部の人生が描かれます。このドラマのなかで『源氏物語』は作者によってどのように編み出されていくのか、またその場面がどのように描かれるのか興味深いところです。| 今から大凡千年前に書かれた『源氏物語』は平安末期になると注釈書が作られ始めます。それは紫式部の生きた時代から２００年経つと、読者に理解できない箇所が見られるようになったからです。授業では鎌倉時代の河内守源光行・親行・素寂・聖覚・行阿の四代五人によって書き継がれた『原中最秘抄』を手がかりとして、『源氏物語』の成立過程について探ります。| 『原中最秘抄』は玉鬘巻の解説に、佚書『長谷寺流記』（奈良時代成立）の馬頭夫人説話を引用しています。馬頭夫人説話とは｢唐の僖宗皇帝の第四后の馬頭夫人は、顔が長く鼻の形はすこぶる馬に似ていたが、情が深く誠実な人柄であったので、皇帝の寵愛を誰よりも受けていた。他のお后達は馬頭夫人を妬み、夫人の顔を王に見せようと計略する。馬頭夫人は日本国の長谷観音は極位の菩薩であることを聞くと、長谷寺の方向に向かって祈り、七日七夜を経た暁に、東方から紫雲に乗った僧が現れ、僧が夫人の顔に瓶水を注ぐと、夫人は美しく変貌する。夫人は喜び、多くの宝物を長谷寺に贈る。その中に牡丹の種があり、毎年５月になると牡丹の花が境内を美しく色どる｣という長谷観音の霊験譚である。この馬頭夫人説話と玉鬘巻とがどのように関わるのかという点について、これまで考察がなされてこなかったが、授業では『原中最秘抄』を手がかりとして、馬頭夫人説話の原拠と考えられる『賢愚経』｢波斯匿王女金剛品第八｣と『長谷寺流記』･『長谷寺験記』･『長谷寺縁起』に記される馬頭夫人説話を比較し、説話の成立と源氏物語玉鬘巻の関わりについて解説します。
■授業の目的・ねらい	１、作品の主題を読み解く|２、原拠と同系の作品を比較し、共通点や相違点を見る。|３、文学作品との関連をさぐる。‖
■到達目標	『原中最秘抄』の記す馬頭夫人説話と『源氏物語』玉鬘巻との関わりについて考察する

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	0	『原中最秘抄』に掲載される馬頭夫人説話と『源氏物語』玉鬘巻との関わりについてリポートを課す。８００字以上１２００字まで（A４横　縦書３０字×４０行）
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	0	授業内で小課題を出題する。

授業科目	日本文学講読（中世・近世）（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	水谷　隆之			シラバスグループ	M04200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	西鶴の俳諧と浮世草子
■授業の概要	井原西鶴（1642～1693）の俳諧と浮世草子について論じます。娯楽性を追究し、当時の風俗や人情の諸相を多様な方法によって描きあげた俳諧や浮世草子は、町人勢力の拡大に伴い、それまでにない独自の文化を形成しました。この授業では、西鶴作品の面白さを味わいながら、さまざまな視点からその本質に迫ります。
■授業の目的・ねらい	江戸時代は庶民文化が飛躍的に進展した時代であり、そこで生まれた文学は、貴族や武士によって創られてきた先行古典を存分に吸収したうえで、それらを当代庶民の風俗に還元して新たな文芸ジャンルを創出するという特徴をもっています。また、江戸時代の作品は、明治以降の文学にも多大な影響を与えました。したがって、江戸時代の文学は、現代文化と古典とを結ぶ重要な架け橋となっています。つまり、江戸文学を学ぶためには、中世までの日本の古典を十分に理解したうえで、さらに江戸時代の文化・風俗を把握することが不可欠となりますし、その後の展開にも目を配る必要があるのです。この授業では、そうした江戸文学についての理解を深め、その本質に迫ることを目標とします。
■到達目標	俳諧や浮世草子のもつ滑稽さや卑俗さ、先行文芸の受容のありさま、江戸時代の風俗や人情の諸相を理解し、西鶴の文芸の本質や特徴について把握します。また、近世文芸を多角的に読み解く技法を身につけます。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	リポート作成にあたっては、単にテキストや参考文献の文章、授業内で配付した資料等をつなぎあわせただけのものは不可とします。授業内容を十分に理解したうえで、自分自身の文章で作成してください。詳細については授業時に指示します。なお、この評価基準は、全講時に出席していることを前提としています。
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	授業内にリアクションペーパーを配付します。リアクションペーパーには授業に対する感想や、西鶴作品に対する自身の読解や見解を記します。

授業科目	日本文学講読（近・現代）（夏期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	坂井　健			シラバスグループ	M05200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	流行歌から見た近代文学史
■授業の概要	流行歌を追いながら、当時の世相をたどり、歴史的背景を踏まえながら、近代の文学史の概要を学習する。
■授業の目的・ねらい	歌は世につれ世は歌につれという言葉が端的に現すように、流行歌はその当時の世相を表すものである。また、文学史は、その当時の歴史背景を知ることなしには理解することができない。そこで、流行歌を追って、歴史的背景を確認しながら、文学史を学習する。
■到達目標	時代背景を考えながら、文学作品を理解し、文学史の流れを把握する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	ただし、出席が不足の場合、評価の対象としない。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	漢文基礎（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	浜畑　圭吾			シラバスグループ	M06100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	漢詩文における平家物語享受
■授業の概要	日本の漢詩文には、文学作品を題材にしたものが多い。そうした一例として、平家物語を基にした漢詩文をとりあげて考察する。具体的には『扶桑名勝詩集』収載の「兵庫十詠」をとりあげる。
■授業の目的・ねらい	題材を検討した上で、それらを基にしてどのように漢文が作られるのかということを理解する。
■到達目標	日本文学における漢文の役割、先行作品との関係を理解する。また本文注釈の方法などを習得し、研究の方法を学ぶ。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	10	

授業科目	日本語学講読（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	鈴木　裕也			シラバスグループ	M07200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	平安時代の国語史資料講読
■授業の概要	国語史資料は難解なものが多い。本授業ではデジタル画像などを閲覧しながら、受講者と共に資料を読むことによって、資料の扱い方と資料から読みとれる日本語の歴史について学んでゆく。特に平安時代の古辞書を中心に取りあげる。
■授業の目的・ねらい	日本語の歴史についての知識を修得する。また、資料に対する考え方や資料の利用方法を学ぶ。
■到達目標	日本語の歴史について理解する。また、国語史資料を活用できるようにする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	書道文化講読（春期)A クラス_対面				単位	2
担当者	松宮　貴之			シラバスグループ	M08100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中国文化に於ける王羲之について
■授業の概要	書道史上、書聖と仰がれる王羲之を基軸に講義をいたします。書道史を通観し、歴史的趨勢に於けるその位置づけ、また個別の作品の解説を中心に、王羲之認識をより詳細に論じます。また文献上に表れる書論史上の王羲之への考察を含め、後世に与えた歴史的な影響などをビジュアル的に図版を用いて講じ、より多角的な視点から王羲之像の再構築に臨みます。授業の後半には近現代の日本に於ける王羲之研究史について解説し、最後に実際に王羲之に纏わる作品を一つ臨書してもらい、その深みを体感していただいて締めくくりとしたい次第です。
■授業の目的・ねらい	王羲之の歴史的な意味を、再認識してもらうことを第一義と考えます。個別の作品や書論、さらには影響を受けた作品など羲之に纏わる関係資料をできる限り網羅して研究し、その誕生まで、伝説、後世の解釈の三つを軸に、そのイメージを新たなものにしていただきたい。また王羲之の書道的な位置づけだけでなく、その人物像にも踏み込みたいと考えています。史実に沿った形で、王羲之についての見識が、どれだけ高まったかが評価の基準になります。
■到達目標	書道史に於ける王羲之への理解をどれだけ深めたか。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	90	
･授業内発表	0	
･授業内試験	10	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	日本文学特講（上代・中古）（夏期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	山本　夏希			シラバスグループ	M09200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	「音楽」から見る平安朝文学
■授業の概要	平安貴族にとって、「音楽」は、非常に身近なものであった。平安朝文学には、彼らのごく身近にあった音楽が、楽器の奏楽、舞楽、催馬楽等、様々な形で活写されている。むろん、音楽というものは、主に聴覚や視覚で鑑賞されるものであり、それを文学という媒体において、文字のみで表現されることには限界があろう。しかし、平安朝文学、とりわけ『うつほ物語』や『源氏物語』においては、そうした表現しがたい楽器の音色や舞楽の演技の様子が精緻に描写されており、登場人物の造型や物語展開と分かちがたく関わっている。本講義では、平安朝文学に描かれた「音楽」に注目し、当時の音楽の実態をふまえつつ、物語展開における役割を分析していくことで、平安朝文学独自の多彩な表現の手法を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①平安朝文学に出てくる音楽、芸能に関する基礎知識を身につける。|②平安朝文学において、音楽がどのような役割を果たしているか理解する。|③授業でとり上げる文学作品について、叙述に即して正確に読み解き、自分なりに問題意識を設定し、考察する力を身につける。
■到達目標	①平安朝文学に出てくる楽器、舞楽、催馬楽等の基礎事項の説明ができる。|②『源氏物語』、『うつほ物語』等、講義内で採り上げた作品について、音楽がどのように物語に関わるか説明できる。|③平安朝文学に音楽が描き出される意味や役割について、自分なりの考えを持ち、他の人に説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	平安朝文学における音楽関係場面から、各自で自由にテーマを設定し、論述する。詳しくは授業内で指示する。
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	講義ごとに、リフレクションシートを提出する。

授業科目	日本文学特講（上代・中古）（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	三宅　えり		シラバスグループ	M09300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	『源氏物語』と『紫式部日記』
■授業の概要	『源氏物語』は平安時代中期、11 世紀に紫式部が書いた物語作品である。作品の中には先行の物語作品を意識した表現や漢籍に基づく表現がみられる。作者である紫式部の日記、『紫式部日記』の記述を参考にしながら、紫式部の物語享受、漢籍享受の姿勢に迫りたい。また、平安中期の貴族にとって漢籍がどのような存在であったのか、女性貴族と漢籍の関係がどのようなものであったのかについても明らかにしたい。‖
■授業の目的・ねらい	紫式部の物語や漢籍に対する考え方を理解すること。|
■到達目標	・紫式部の物語に対する考え方を説明できる。|・紫式部の漢籍についての考え方を説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	0	1600 字程度。オンライン授業欠席者のリポートは採点しない。
･授業内試験	0	
･授業内課題	30%	
･その他	0	授業ごとのコメント（内容のまとめ、感想、質問事項など）

授業科目	日本文学特講（中世・近世）（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	筒井　大祐			シラバスグループ	M10100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『宇治拾遺物語』を読む
■授業の概要	本講義では、中世に編纂された説話集の『宇治拾遺物語』を読んでいく。『宇治拾遺物語』は、同時代の『今昔物語集』や『古本説話集』などの説話集を始め、絵巻物、民話（昔話）とも、共通の物語を持っている。このように『宇治拾遺物語』の説話は、「中世」という時代の思想や価値観が色濃く反映している。このような説話を読むことで、「中世」という時代の文学に触れる。
■授業の目的・ねらい	『宇治拾遺物語』を読むことで、その説話が成立、流布した「中世」の思想や時代背景を考えたい。また、同時代の文学作品との関連を分析、考察できる視点を持つ事で、中世文学を支える思想や時代背景などの特質を考える一助とする。
■到達目標	本講義の到達目標は、以下の３点である。|1、『宇治拾遺物語』を通して、中世の思想、時代背景を理解できる。|2、同時代の文学作品との共通点や相違点など、説話を分析できる視点を持つ。|3、同時代の資料などを用いて、説話を多角的に考察する視点を持つ。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	日本文学特講（中世・近世）（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	仲　沙織			シラバスグループ	M10300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	西鶴『本朝二十不孝』を読む
■授業の概要	近世（江戸時代）において、「孝」は政治的・思想的に重要な概念として扱われ、文学においても様々な「孝」が描かれた。親孝行な孝子を称賛する作品が流行する中、近世前期に出版された西鶴作の浮世草子『本朝二十不孝』（貞享 3・1686 年刊）は、全編にわたって「不孝者」を描くという点で異色であった。本科目では、『本朝二十不孝』に収録された作品を詳細に読み解くとともに、現代社会においても浸透した道徳概念である「孝」について解説を行う。
■授業の目的・ねらい	（１）『本朝二十不孝』を読み進め、先行する文学作品と比較しつつ読解を行うことにより、西鶴が作品に施した工夫を理解する。|（２）近世における「孝」のあり方とその文学とのかかわりについて理解する。|（３）近世の文化や思想についての知識を身につける。
■到達目標	近世文学における「孝」の描かれ方について説明することができる。|近世散文作品の読解方法を学び、自らの問題意識を持って作品の考察を行うことが出来る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	『本朝二十不孝』の読解に関するリポートを課す。
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	授業内で記述式の小課題を出題する。

授業科目	日本文学特講（近・現代）１（夏期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	諸岡　哲也		シラバスグループ	M11200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	日本近代文学作品を分析して読む
■授業の概要	日本の近代文学を研究および考察の対象として、さまざまな小説を日本近代文学研究の立場から、分析的・研究的に読む方法を実際の例に基づいて講義します。作品の読解の鍵となる手がかりをとらえる。作品全体の構造を分析する。その他、さまざまな方法によって、読書感想文ではない、客観的な作品理解をする方法の修得を目指します。
■授業の目的・ねらい	文学研究は、まず作品の言葉と表現に触れなければ話になりません。しかし、ただ漠然と作品を読んでいたのでは、通常の読書と変わりません。では、文学研究として作品を読むとはどういうことなのでしょうか。そのための方法論（アプローチの仕方）は無数にありますが、ここでは作家論・作品論・テクスト論・物語論などの方法論（アプローチの仕方）を使って、日本近代文学作品を精緻に読みます。そのことによって、通常の読書では見えてこない日本近代文学の＜読み＞に触れるとともに、文学作品へのアプローチの方法を学習し、一人一人が作品研究ができるようになることを目指します。
■到達目標	文学作品へのさまざまなアプローチ方法を身につけ、文学作品における言葉と表現の機能について学び、アプローチ方法を使って一人で研究できるようになることを目指します。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	20	講義内容＋分析・考察|詳細は講義内で説明します。
･授業内試験	0	オンラインですので、みなさんと議論するのはなかなかむずかしいですが、感想や考えを確認します。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	日本文学特講（近・現代）２（冬期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	有田　和臣			シラバスグループ	M12400
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	樋口一葉「たけくらべ」――文明開化と初恋
■授業の概要	一つの文学作品についての研究論文のうち代表的なものを読み、それぞれの主張や調査結果を比較検討します。まずは作品を精読した上で、検討を必要とする問題点を確認します。次に各研究論文を読み進めながら、その主張の正否を判断し、批判的に読んで自らの論文に生かすための訓練をします。そのために適宜、受講生に意見を求めたり、簡易な短いリポートを課したりします。最新の研究論文を３本（時間が許せば４本)、題材とする予定です。|
■授業の目的・ねらい	・雅文体で書かれた「たけくらべ」をやさしく読み解きながら、書かれていない範囲にまで広がる作品世界の様相を探る。参考として「十三夜」と比較検討する。|・一つの文学作品に対する多様な観点からの研究論文を比較検討し、各論の妥当性を適切に判断しつつ、対象文学作品に対する自らの立脚点（主張）を形成すること。|・映像化作品を確認することにより、それとの比較で自らの作品の具体的なイメージを鮮明にすること。|
■到達目標	・先行研究論文から得られた視点や知識を、その成否を判断しながら自分の各論文に生かせるようになること。|・対象論文の要旨を的確に把握できること。|・対象論文から正確に引用しつつ論旨に論評を加えることができること。|・自らの判断の根拠を的確に示せるようになること。|・作品世界に対する具体的なイメージをもつこと。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	先行研究論文についての意見を求めます。
･授業内課題	30	
･その他	0	先行研究論文についての論評を求めます。

授業科目	日本語学特講（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	荻原　廣			シラバスグループ	M13400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	日本語教育に関する様々な内容について講義する。
■授業の概要	①日本語教育を取り巻く現状|②日本語教授法|③日本語教育の文法|以上、3 点について講義する。
■授業の目的・ねらい	日本語教育の推進に関する法律が令和元年 6 月 28 日に施行されて以降、日本語教育を取り巻く環境は、急激に変化してきている。|　例えば、「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律（令和 5 年法律第 41 号)」の成立により、従来の日本語学校（いわゆる法務省告示機関）は文部科学大臣の認定を受けなければ、留学生を受け入れることができなくなり、また文部科学大臣の認定を受けた日本語教育機関で働く日本語教師は、新設される国家資格「登録日本語教員」でなければならなくなる。|　また、平成 26 年度に始まった小中学校対象の「特別の教育課程」による日本語指導は、令和 5 年度より高等学校でも始まった。|　このようにダイナミックに変化する日本語教育の現状について、また今後の日本語教育について詳述し、更に、外国人（正確には日本語が母語ではない人）に対する日本語の教え方や最低限必要な教えるための文法の知識について講義する。|　なお、この授業では、将来、国家資格を取得し日本語教員として日本語を教えたい人から、ボランティアの日本語教室で日本語を教えたい人、また公教育諸学校（小学校、中学校、高等学校）の教員になり、そこに通う日本語指導が必要な児童・生徒に日本語を教えたい人までを対象とし、日本語教育における基本的な知識について習得することを目的とする。

■到達目標	プロやボランティアで日本語を教えたい人、また義務教育諸学校の教員になり、日本語指導が必要な児童や生徒に日本語を教えたい人が、日本語教育における基本的な知識について習得することを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	書道文化特講（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	松宮　貴之			シラバスグループ	M14200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	書道史上の顔真卿について
■授業の概要	書道史上に於ける二大潮流の一つ、王羲之の双璧とされる顔真卿についての講義を行います。書論史を通読した上で、顔真卿の家系、その周辺人物、その所業、個別の作品、書論史上の位置づけ、後世に与えた影響、従来の研究、今後の研究・実技利用の可能性についてなど様々な視点から、アプローチ致します。それによって顔真卿の実態に迫り、その歴史的意義付けを考える契機となるよう努めたいと考えています。最後にその見識を踏まえ、後世の臨書例などを参考に、顔真卿の作品を一つ臨書してもらいます。実感のある臨書となるよう心掛けたいとおもいます。
■授業の目的・ねらい	中国史に於ける顔真卿、その人物像と芸術、さらにはそれが書を通じてに後世まで評価された実情を考えることを第一義と考えます。総合的な観点から、顔真卿の書を問い直し、その再評価に挑みます。顔真卿についての先行研究を踏まえ、その書の現代的意義に連なる道筋を示したいとおもいます。顔真卿の書へのイメージが新たなものとなり、その見識が高まることが評価の基準となります。
■到達目標	顔真卿についてどれだけ理解を深めたか。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	90	
･授業内発表	0	
･授業内試験	10	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	専門ゼミ１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	神原　勇介			シラバスグループ	M15100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『源氏物語』研究のための基礎分析作業を実践する。
■授業の概要	『源氏物語』葵巻を各自分担して、発表する。その際、河内本系諸本の有力伝本である尾州家本を底本として、影印本の翻刻、青表紙本系本文との対校、本文整定、注釈書のポイント整理、口語訳などの基礎的な作業を実践する。
■授業の目的・ねらい	写本解読から口語訳による本文解釈まで、古典作品研究の基礎的な分析作業を実践する力量をつけてもらう。また、作業の底本として通行の本文系統である青表紙本系諸本ではなく、河内本系の本文を使用することで、古典作品ならではの異本を解釈する読解作業を体験してもらう。
■到達目標	古典作品を自力で解釈するための基礎的な分析作業を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	専門ゼミ２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	濵田　泰彦			シラバスグループ	M16200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ゼミ形式で、研究活動の「実践」を目的とします。　｜　講座初日で、日本文学の基本的な学び方・研究の基礎（課題に応じた情報や文献の検索、先行研究の整理、読解及び内容の要約、レジュメやリポートの作成、発表方法、ディスカッション等）に関する講義を行います。第 2 日目以降、指定のテーマに基づき調査を行い、受講生による発表を行ってもらいます（20～30 分程度)。|
■授業の概要	本演習では、18 世紀初頭に出版された『百人一首』のもじり（パロディ）作品である近藤清春作・画『今様職人尽百人一首』(享保年間〈1716～36 年〉刊）および、19 世紀中頃に出版された『論語』「郷党第十」のもじり作品である無三公子『論御』(天保 13・1842 年頃刊）をそれぞれ、出典作品と比較しつつ、近世文芸作品における表現上の工夫を味わいます。|　受講生には 20～30 分程度の口頭発表を行って頂きます。資料作成にあたっては、後で示すテキスト・参考文献を参照してください。
■授業の目的・ねらい	近世文芸作品の精読のための、資料収集や発表を通して、卒業論文作成の基礎的な作業を体験し、学習する。

■到達目標	文学研究のための基礎的な知識を得るとともに、研究手法を学習することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	40	授業で講読したテキストについて、自身の考察をまとめるリポート課題を授業終了後に提出します。
･授業内試験	0	『今様職人尽百人一首』ないし、『論御』本文に語釈および現代語訳を加えた口頭発表を行います。
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	専門ゼミ３（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	諸岡　哲也			シラバスグループ	M17300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	日本近代文学作品を読む
■授業の概要	日本の近代文学を読むことで、近代文学への理解を深めます。近代文学にはどのような文学的特徴があるのか、近代文学はどのようなことを表現しているのかを、受講者のみなさんによる発表とディスカッションを通じて学習します。
■授業の目的・ねらい	日本近代文学の研究方法を学ぶことを目的とします。学習の過程で、近代文学の表現の特徴を理解し、近代文学について把握することを目指します。そのうえで自分の言葉で言語化し、発表できるようになることをねらいとします。
■到達目標	日本近代文学の研究方法を理解する。近代文学の表現の特徴を理解する。近代文学について自分なりに理解できるようになる。受講者のみなさん自身の意見を、証拠を示して言語化し、発表できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	専門ゼミ４（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	岡村　弘樹			シラバスグループ	M18300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『竹取物語』の言葉を掘り下げる
■授業の概要	『竹取物語』を題材として、一語一語に着目しながら読み、古典語に対する正しい理解や、現代語と古典語の違いを学習する。本授業は受講者による発表と討論を主として進める。
■授業の目的・ねらい	日本語学の研究方法を実践と討論を通して学ぶ。問題点の見つけ方、調査方法、発表方法を身に付ける。
■到達目標	日本語学の研究方法を身に付ける。注釈書の注釈や現代語訳を批判的に利用できるようにする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	60	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	書道（夏期)1 週_A クラス_対面				単位	4
担当者	阪口　雅則			シラバスグループ	M19210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	〈楷書〉|　楷書の学習|〈行書〉|　行書の学習|〈草書〉|　草書を学習する|〈仮名〉|　仮名の書を学ぶ
■授業の概要	〈楷書〉|中学書写、および高校芸術科書道の基礎の上に立って、幅広く楷書を学ぶため基本的な用筆法や造形の取り方を実践的に学習します。|書への興味と関心を育みながら、北魏の楷書や初唐の三大家の楷書を臨書します。|〈行書〉|王羲之と顔眞卿の行書の二大潮流を基本に触れ、更にこの二家の影響を受けた米帯を学習し、基礎的な行書法を習得する。|〈草書〉|草書の概説と実習|〈仮名〉|仮名の美を臨書を中心に探り、その表現方法を学ぶ。中学校の書写・高等学校の芸術科書道における仮名の書の指導に必要な基礎知識・技術を講義・実習を通して習得する。
■授業の目的・ねらい	〈楷書〉|多様な古典の鑑賞と臨書を通して、楷書の基本的な用筆法及び造形力を身につける。加えて、楷書の魅力・興味を育む。|〈行書〉|行書の基本用筆、造形法、章法を学ぶことに加え、時代、人、風土、資料により書風の違いが表れることを臨書を通じて理解する。|〈草書〉|草書の成り立ちから、草書学習の基礎的な技法を学ぶ。|〈仮名〉|仮名の書への理解を深め、古筆を踏まえた仮名文字を美しく表現する。
■到達目標	〈楷書〉|楷書の用筆法、造形の取り方をマスターする。|〈行書〉|半紙臨書により行書の基本的特徴、書風の相違を理解する。半切臨書により、表現方法を理解する。|〈草書〉|草書の字形やくずし方を身に付ける。(自分の氏名も含む)|〈仮名〉|仮名の実技指導を行うために必要な技術・知識が修得できたか。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	100%	
･その他	0%	

授業科目	書道（夏期)2 週_A クラス_対面				単位	4
担当者	野村　ひかり			シラバスグループ	M19220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	楷書・行書の学習と学習法（王羲之の古典「蘭亭序」を中心に、行書を理解)・草書・仮名の学習
■授業の概要	〈楷書〉|大筆と小筆で楷書の基本的な筆使いを身につけ、唐の三大家（欧陽詢・虞世南・？遂良）の楷書表現を理解し、半紙と半切に書く。|〈行書〉|王羲之「蘭亭序」を中心に臨書し、行書の理解を深める。|〈草書〉|草書の古典から、その価値や美的な所的な表現を学ぶ。|〈仮名〉|仮名の美を臨書を中心に探り、その表現方法を学ぶ。中学校の書写、高等学校の芸術科書道における仮名の書の指導に必要な基礎知識・技術を講義・実習を通して習得する。
■授業の目的・ねらい	〈楷書〉|楷書を書くことが出来ることで、指導者としても正確な指導が出来、伝統文化の継承を担う。|〈行書〉|行書の特徴を理解する。また持続的に自学できるようにする。自分の学びを人に伝えられるようにする。|〈草書〉|基本的な草書である王羲之十七帖や千字文より臨書を通して技術を学ぶ。|〈仮名〉|仮名の書への理解を深め、古筆を踏まえた仮名文字を美しく表現する。
■到達目標	〈楷書〉|楷書の筆使いを身につけ、大筆と小筆で様々なサイズの紙にまとめることができる。|〈行書〉|・行書の特徴を理解し、人に伝えられるようにする。|・自分なりの行書を書ける。|〈草書〉|草書の美しさ、特徴を学び表現につなげる。臨書することから文字を読む、慣れる。|〈仮名〉|仮名の実技指導を行うために必要な技術・知識が習得できたか。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%‖	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	100%	
･その他	0%	

授業科目	書道（秋期)A クラス_対面				単位	4
担当者	長尾　秀則			シラバスグループ	M19300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	楷書・行書・草書の学習、仮名に親しむ
■授業の概要	〈楷書〉|楷書の字体すなわち「文字の骨格」には様々な変化、変遷があり、それらを踏まえた上で、各々の字形や運筆、線筆の特色を理解し、臨書、創作を行う。|創造的な表現の能力と鑑賞の能力を育成するとともに、書の伝統と文化を尊重し、技法や知識だけでなく、書を愛好する心情を培い、自己の感性を高めていく。|〈行書〉|書道史上、高く評価されている行書古典の代表作品を取り上げ、臨書を通して、行書の多様な美を学んでいく。|〈草書〉|草書の実技指導をする。孫過庭の『書譜』を中心として、その用筆法を解説し、半紙・半切（画仙紙）に書くことにより、草書の基本を身につける指導する。|〈仮名〉|下記の 5 回の授業のテーマに沿って仮名の書の概説するとともに実技指導を行う。
■授業の目的・ねらい	〈楷書〉|書は漢字文化圏固有の東洋的な芸術であることをふまえ、今日の学校教育における教科の位置付けを念頭に置き、高等学校でも芸術科目の一つとなっていることから、文字を書くことの用と美の二重性を理解する。|〈行書〉|行書の特徴や美を探究し、技法を習得することで表現力、書法、理論の向上を目指す。|〈草書〉|草書学習の基本は、まずその用筆法を会得することにある。孫過庭の『書譜』は、起筆や転折等の筆づかいがわかりやすく、草書学習の基礎を学ぶための最上のテキストなので精習する。|〈仮名〉|高等学校芸術科書道の仮名の書の指導に必要な基礎的知識・技術を講義・実習を通して修得する。
■到達目標	〈楷書〉|書写書道教育を通じ、書が単に表現技術だけで成立するものではなく心情や人間性と深く関わるものであり、長い歴史とともに書があり、現在がある、ことを感じ、理解する。|〈行書〉|行書書法の基礎的な表現を学ぶ。各種行書古典の特徴を鑑賞し、行書の多様な美を理解し、継続して学習する意欲を身につける。|〈草書〉|草書学習の基礎をしっかりと身につける。|〈仮名〉|仮名の成立・種類について理解するとともに、仮名の基本用筆を用いて平仮名の単体・変体仮名・連綿、そして古筆の臨書ができるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	100%	
･その他	0%	授業への取り組み姿勢を含む。

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	辻本　恭子			シラバスグループ	M01200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	古典文学についての基礎的理解、および文章表現。
■授業の概要	日本古典文学の基礎を把握するため、古典文学史や主な作品について学ぶ。|また、実際の研究成果を見て古典文学研究の方法を知る。|Yes, But 方式や PREP 法など文章表現の型を用いて意見文を書く。|
■授業の目的・ねらい	文学を通じて古典文化への理解を深める。|意見文や論作文の原則を学ぶことで、各種リポートや卒論執筆に関わる基礎的文章表現法を身につける。
■到達目標	日本文化の一分野としての古典文学を理解し、課題を設定して文章表現できるようになることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	0	授業内で説明する「Yes, But 方式」で、課題に対するレポートを作成していただきます。
･授業内試験	0|||	
･授業内課題	50|	
･その他	0	

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	庄司　達也			シラバスグループ	M01300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	作家研究、作品研究の基礎を学ぶ|　　ー芥川龍之介「羅生門」の読解を通してー
■授業の概要	大正期を中心に活躍した作家芥川龍之介の代表作である「羅生門」を精読します。作者の生涯や作品成立の背景への理解を深めることで、作品の魅力や内包している問題に迫ります。また、「自伝的小説」と呼ばれる作品群を読むための作業として芥川龍之介の「家」に関わる事柄についても学びます。以上のことを通して、今の時代に生きる「私」たち自身の在りようや、社会や時代との関わりということについて考究し、今日の「私」たちが芥川龍之介を学び、作品「羅生門」を「読む」ということの意義についても考察します。
■授業の目的・ねらい	文学作品の精読や周辺資料への検討を通して、文学研究の基本的な方法について学ぶことを目的の第１とします。| 本講義で対象とする芥川龍之介には、関連するさまざまな資料が残されており、伝記的なことがらへの検討も十分に果たされる作家です。また、「羅生門」では残されたノートや草稿、本文の異同などの事実を手掛かりにして、作品の読解を進めてゆくことができます。作品の背景にある作者の事跡などにも注目し、より精緻な読解を目指します。|　これらのことにより、受講生は近代文学研究の基本的な方法について学びます。

■到達目標	作家への評価や作品の「読解」を進める上で、以下のことがらを基盤とすることができる。|1．関連資料を踏まえた読解、言及を行うこと、|2．先行研究などの見解を踏まえて持論を展開すること。|3．作家理解や作品の読解を論理的なことがらとして行うこと。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	15	

授業科目	日本文学フィールドワーク（春期)A クラス_対面				単位	2
担当者	諸岡　哲也			シラバスグループ	M02100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	日本近代文学における京都
■授業の概要	京都は古典に限らず、近代文学においても数多くの作品の舞台として描かれてきました。今回は三島由紀夫の『金閣寺』と谷崎潤一郎の『夢の浮橋』をとりあげ、比較検討します。皆さんと議論しながら豊かな作品世界を鑑賞し、その違い・魅力を探っていきましょう。授業最終日には、『金閣寺』･『夢の浮橋』に登場する場所をフィールドワークしてみましょう。
■授業の目的・ねらい	当然ですが、同じ京都を舞台にしたものでも、作品によって表現の仕方がかなり違ってきます。まずは、豊かな作品世界を鑑賞しましょう。作品に描かれた表現世界と現実の場所を比べてみると、意外な発見があり、さらに作品への理解が深まるはずです。その上で、作品を読解していく視点や文献・資料の扱い方なども身につけてもらいます。
■到達目標	フィールドワークによって、作品への理解をさらに深めること。また、議論を通して作品の新しい解釈の可能性について考える視点を養う。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	感想程度でもかまいませんので、積極的に議論に参加して自分の意見を言ってもらいます。
･授業内課題	30	
･その他	0	フィールドワークへの参加

授業科目	日本文学フィールドワーク（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	日高　佳紀			シラバスグループ	M02200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	川端康成『古都』から京都を読む
■授業の概要	京都は古典はもとより、近現代文学においても多くの作品の舞台となってきました。この授業では、川端康成『古都』（１９６２）を取り上げます。作品発表当時、京都の「名所案内記」のようだと評された作品ですが、作中に設定されているのは、京都を「古い都」と捉える近代的なまなざしにほかなりません。『古都』に描かれたさまざまな場所を実際に歩きながら、「古い都」と近代的知の枠組みとの交わる地点を考えてみましょう。
■授業の目的・ねらい	文学作品に描き出された世界と、舞台となった場所との比較を通して、作品世界の理解を深めると同時に、現実と虚構との差についても考えてみること。ここから文学表現の奥深さと価値を知ることを目指します。|
■到達目標	実地踏査を通して作品に対する新たな知見を得ること。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	30	課題内容は授業内で説明します。
･授業内試験	0	授業では、感想でも構わないので、積極的に発言してください。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	日本文学講読（上代・中古）（夏期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	石原　美紀			シラバスグループ	M03200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	伊勢物語講読ー物語の作り方ー
■授業の概要	日本文学を代表する古典の一つであり、後世への影響も大きい作品である伊勢物語の表現と方法を考察する。｜　伊勢物語は一般に「歌物語」に分類されてきた作品であるが、その枠を超える要素を併せ持つものでもある。伊勢物語の全体構成を押さえた上で、密接な関係にある古今集との在り方も視野に入れつつ、一章段一章段の作り方を本文を精読しながら検討する。｜　今年度は惟喬親王関連章段を講読する。
■授業の目的・ねらい	大雑把な王朝物語イメージで物事を判断したり読んだりするのではなく、平安時代当時の在り方を把握するため、一次資料である各作品の本文を正確に読み、そこから判断できるようになる。
■到達目標	１、伊勢物語の表現と方法の特徴について把握し、説明できる。|２、平安時代の仮名の物語、及び同時代資料の扱い方、調べ方を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	授業の把握度及び論理的記述力で評価
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	15	授業の理解度を測る復習的課題の到達度により評価

授業科目	日本文学講読（上代・中古）（冬期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	大谷　歩			シラバスグループ	M03300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	『万葉集』を読む：後世への展開をとおして
■授業の概要	『万葉集』は、飛鳥・奈良時代の作品が収録されている、日本に現存する最古の歌集です。天皇から下級官人や兵士など、さまざまな身分の人びとの歌が、20 巻に約 4500 首収録されています。|この授業では、同時代の他の作品や文献、あるいは後世の文学作品（百人一首や説話・物語など）への影響や展開も視野に入れながら、『万葉集』の作品を読解します。
■授業の目的・ねらい	・『万葉集』についての基礎的な知識を学ぶこと。|・『万葉集』の作品を読解し、作者や歌が詠まれた当時の文化的背景、古代のことばについての理解を深めること。|・『万葉集』の作品をとおし、文学史的な視野を広げること。|・上記の学修を踏まえ、自らが興味関心をもった作品やテーマについて、リポートの形式で論述ができるようになること。|
■到達目標	・『万葉集』に関する基礎的な知識や概要を説明することができる。|・『万葉集』の作品について正確に読解することができる。|・『万葉集』の作品と、同時代の他の作品や後世の作品との関係を正確に理解し、論述することができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0%	
・リポート試験(SR 履修)	80%	
・授業内発表	0%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	20%	
・その他	0%	

授業科目	日本文学講読（中世・近世）（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	今井　友子			シラバスグループ	M04100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『源氏物語』の注釈書である『原中最秘抄』を読む
■授業の概要	今年度の NHK 大河ドラマ「光る君へ」は『源氏物語』の作者紫式部の人生が描かれます。このドラマのなかで『源氏物語』は作者によってどのように編み出されていくのか、またその場面がどのように描かれるのか興味深いところです。| 今から大凡千年前に書かれた『源氏物語』は平安末期になると注釈書が作られ始めます。それは紫式部の生きた時代から２００年経つと、読者に理解できない箇所が見られるようになったからです。授業では鎌倉時代の河内守源光行・親行・素寂・聖覚・行阿の四代五人によって書き継がれた『原中最秘抄』を手がかりとして、『源氏物語』の成立過程について探ります。| 『原中最秘抄』は玉鬘巻の解説に、佚書『長谷寺流記』（奈良時代成立）の馬頭夫人説話を引用しています。馬頭夫人説話とは｢唐の僖宗皇帝の第四后の馬頭夫人は、顔が長く鼻の形はすこぶる馬に似ていたが、情が深く誠実な人柄であったので、皇帝の寵愛を誰よりも受けていた。他のお后達は馬頭夫人を妬み、夫人の顔を王に見せようと計略する。馬頭夫人は日本国の長谷観音は極位の菩薩であることを聞くと、長谷寺の方向に向かって祈り、七日七夜を経た暁に、東方から紫雲に乗った僧が現れ、僧が夫人の顔に瓶水を注ぐと、夫人は美しく変貌する。夫人は喜び、多くの宝物を長谷寺に贈る。その中に牡丹の種があり、毎年５月になると牡丹の花が境内を美しく色どる｣という長谷観音の霊験譚である。この馬頭夫人説話と玉鬘巻とがどのように関わるのかという点について、これまで考察がなされてこなかったが、授業では『原中最秘抄』を手がかりとして、馬頭夫人説話の原拠と考えられる『賢愚経』｢波斯匿王女金剛品第八｣と『長谷寺流記』･『長谷寺験記』･『長谷寺縁起』に記される馬頭夫人説話を比較し、説話の成立と源氏物語玉鬘巻の関わりについて解説します。
■授業の目的・ねらい	１、作品の主題を読み解く|２、原拠と同系の作品を比較し、共通点や相違点を見る。|３、文学作品との関連をさぐる。‖
■到達目標	『原中最秘抄』の記す馬頭夫人説話と『源氏物語』玉鬘巻との関わりについて考察する

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	0	『原中最秘抄』に掲載される馬頭夫人説話と『源氏物語』玉鬘巻との関わりについてリポートを課す。８００字以上１２００字まで（A４横　縦書３０字×４０行）
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	0	授業内で小課題を出題する。

授業科目	日本文学講読（中世・近世）（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	水谷　隆之			シラバスグループ	M04200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	西鶴の俳諧と浮世草子
■授業の概要	井原西鶴（1642～1693）の俳諧と浮世草子について論じます。娯楽性を追究し、当時の風俗や人情の諸相を多様な方法によって描きあげた俳諧や浮世草子は、町人勢力の拡大に伴い、それまでにない独自の文化を形成しました。この授業では、西鶴作品の面白さを味わいながら、さまざまな視点からその本質に迫ります。
■授業の目的・ねらい	江戸時代は庶民文化が飛躍的に進展した時代であり、そこで生まれた文学は、貴族や武士によって創られてきた先行古典を存分に吸収したうえで、それらを当代庶民の風俗に還元して新たな文芸ジャンルを創出するという特徴をもっています。また、江戸時代の作品は、明治以降の文学にも多大な影響を与えました。したがって、江戸時代の文学は、現代文化と古典とを結ぶ重要な架け橋となっています。つまり、江戸文学を学ぶためには、中世までの日本の古典を十分に理解したうえで、さらに江戸時代の文化・風俗を把握することが不可欠となりますし、その後の展開にも目を配る必要があるのです。この授業では、そうした江戸文学についての理解を深め、その本質に迫ることを目標とします。
■到達目標	俳諧や浮世草子のもつ滑稽さや卑俗さ、先行文芸の受容のありさま、江戸時代の風俗や人情の諸相を理解し、西鶴の文芸の本質や特徴について把握します。また、近世文芸を多角的に読み解く技法を身につけます。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	リポート作成にあたっては、単にテキストや参考文献の文章、授業内で配付した資料等をつなぎあわせただけのものは不可とします。授業内容を十分に理解したうえで、自分自身の文章で作成してください。詳細については授業時に指示します。なお、この評価基準は、全講時に出席していることを前提としています。
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	授業内にリアクションペーパーを配付します。リアクションペーパーには授業に対する感想や、西鶴作品に対する自身の読解や見解を記します。

授業科目	日本文学講読（近・現代）（夏期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	坂井　健			シラバスグループ	M05200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	流行歌から見た近代文学史
■授業の概要	流行歌を追いながら、当時の世相をたどり、歴史的背景を踏まえながら、近代の文学史の概要を学習する。
■授業の目的・ねらい	歌は世につれ世は歌につれという言葉が端的に現すように、流行歌はその当時の世相を表すものである。また、文学史は、その当時の歴史背景を知ることなしには理解することができない。そこで、流行歌を追って、歴史的背景を確認しながら、文学史を学習する。
■到達目標	時代背景を考えながら、文学作品を理解し、文学史の流れを把握する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	ただし、出席が不足の場合、評価の対象としない。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	漢文講読（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	浜畑　圭吾			シラバスグループ	M06100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	漢詩文における平家物語享受
■授業の概要	日本の漢詩文には、文学作品を題材にしたものが多い。そうした一例として、平家物語を基にした漢詩文をとりあげて考察する。具体的には『扶桑名勝詩集』収載の「兵庫十詠」をとりあげる。
■授業の目的・ねらい	題材を検討した上で、それらを基にしてどのように漢文が作られるのかということを理解する。
■到達目標	日本文学における漢文の役割、先行作品との関係を理解する。また本文注釈の方法などを習得し、研究の方法を学ぶ。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	10	

授業科目	日本語学講読（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	鈴木　裕也			シラバスグループ	M07200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	平安時代の国語史資料講読
■授業の概要	国語史資料は難解なものが多い。本授業ではデジタル画像などを閲覧しながら、受講者と共に資料を読むことによって、資料の扱い方と資料から読みとれる日本語の歴史について学んでゆく。特に平安時代の古辞書を中心に取りあげる。
■授業の目的・ねらい	日本語の歴史についての知識を修得する。また、資料に対する考え方や資料の利用方法を学ぶ。
■到達目標	日本語の歴史について理解する。また、国語史資料を活用できるようにする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	書道文化講読（春期)A クラス_対面				単位	2
担当者	松宮　貴之			シラバスグループ	M08100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中国文化に於ける王羲之について
■授業の概要	書道史上、書聖と仰がれる王羲之を基軸に講義をいたします。書道史を通観し、歴史的趨勢に於けるその位置づけ、また個別の作品の解説を中心に、王羲之認識をより詳細に論じます。また文献上に表れる書論史上の王羲之への考察を含め、後世に与えた歴史的な影響などをビジュアル的に図版を用いて講じ、より多角的な視点から王羲之像の再構築に臨みます。授業の後半には近現代の日本に於ける王羲之研究史について解説し、最後に実際に王羲之に纏わる作品を一つ臨書してもらい、その深みを体感していただいて締めくくりとしたい次第です。
■授業の目的・ねらい	王羲之の歴史的な意味を、再認識してもらうことを第一義と考えます。個別の作品や書論、さらには影響を受けた作品など羲之に纏わる関係資料をできる限り網羅して研究し、その誕生まで、伝説、後世の解釈の三つを軸に、そのイメージを新たなものにしていただきたい。また王羲之の書道的な位置づけだけでなく、その人物像にも踏み込みたいと考えています。史実に沿った形で、王羲之についての見識が、どれだけ高まったかが評価の基準になります。
■到達目標	書道史に於ける王羲之への理解をどれだけ深めたか。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	90	
･授業内発表	0	
･授業内試験	10	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	日本文学特講（上代・中古）（夏期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	山本　夏希			シラバスグループ	M09200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	「音楽」から見る平安朝文学
■授業の概要	平安貴族にとって、「音楽」は、非常に身近なものであった。平安朝文学には、彼らのごく身近にあった音楽が、楽器の奏楽、舞楽、催馬楽等、様々な形で活写されている。むろん、音楽というものは、主に聴覚や視覚で鑑賞されるものであり、それを文学という媒体において、文字のみで表現されることには限界があろう。しかし、平安朝文学、とりわけ『うつほ物語』や『源氏物語』においては、そうした表現しがたい楽器の音色や舞楽の演技の様子が精緻に描写されており、登場人物の造型や物語展開と分かちがたく関わっている。本講義では、平安朝文学に描かれた「音楽」に注目し、当時の音楽の実態をふまえつつ、物語展開における役割を分析していくことで、平安朝文学独自の多彩な表現の手法を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①平安朝文学に出てくる音楽、芸能に関する基礎知識を身につける。|②平安朝文学において、音楽がどのような役割を果たしているか理解する。|③授業でとり上げる文学作品について、叙述に即して正確に読み解き、自分なりに問題意識を設定し、考察する力を身につける。
■到達目標	①平安朝文学に出てくる楽器、舞楽、催馬楽等の基礎事項の説明ができる。|②『源氏物語』、『うつほ物語』等、講義内で採り上げた作品について、音楽がどのように物語に関わるか説明できる。|③平安朝文学に音楽が描き出される意味や役割について、自分なりの考えを持ち、他の人に説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	平安朝文学における音楽関係場面から、各自で自由にテーマを設定し、論述する。詳しくは授業内で指示する。
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	講義ごとに、リフレクションシートを提出する。

授業科目	日本文学特講（上代・中古）（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	三宅　えり		シラバスグループ	M09300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	『源氏物語』と『紫式部日記』
■授業の概要	『源氏物語』は平安時代中期、11 世紀に紫式部が書いた物語作品である。作品の中には先行の物語作品を意識した表現や漢籍に基づく表現がみられる。作者である紫式部の日記、『紫式部日記』の記述を参考にしながら、紫式部の物語享受、漢籍享受の姿勢に迫りたい。また、平安中期の貴族にとって漢籍がどのような存在であったのか、女性貴族と漢籍の関係がどのようなものであったのかについても明らかにしたい。‖
■授業の目的・ねらい	紫式部の物語や漢籍に対する考え方を理解すること。|
■到達目標	・紫式部の物語に対する考え方を説明できる。|・紫式部の漢籍についての考え方を説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	0	1600 字程度。オンライン授業欠席者のリポートは採点しない。
･授業内試験	0	
･授業内課題	30%	
･その他	0	授業ごとのコメント（内容のまとめ、感想、質問事項など）

授業科目	日本文学特講（中世・近世）（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	筒井　大祐			シラバスグループ	M10100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『宇治拾遺物語』を読む
■授業の概要	本講義では、中世に編纂された説話集の『宇治拾遺物語』を読んでいく。『宇治拾遺物語』は、同時代の『今昔物語集』や『古本説話集』などの説話集を始め、絵巻物、民話（昔話）とも、共通の物語を持っている。このように『宇治拾遺物語』の説話は、「中世」という時代の思想や価値観が色濃く反映している。このような説話を読むことで、「中世」という時代の文学に触れる。
■授業の目的・ねらい	『宇治拾遺物語』を読むことで、その説話が成立、流布した「中世」の思想や時代背景を考えたい。また、同時代の文学作品との関連を分析、考察できる視点を持つ事で、中世文学を支える思想や時代背景などの特質を考える一助とする。
■到達目標	本講義の到達目標は、以下の３点である。|1、『宇治拾遺物語』を通して、中世の思想、時代背景を理解できる。|2、同時代の文学作品との共通点や相違点など、説話を分析できる視点を持つ。|3、同時代の資料などを用いて、説話を多角的に考察する視点を持つ。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	日本文学特講（中世・近世）（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	仲　沙織			シラバスグループ	M10300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	西鶴『本朝二十不孝』を読む
■授業の概要	近世（江戸時代）において、「孝」は政治的・思想的に重要な概念として扱われ、文学においても様々な「孝」が描かれた。親孝行な孝子を称賛する作品が流行する中、近世前期に出版された西鶴作の浮世草子『本朝二十不孝』（貞享 3・1686 年刊）は、全編にわたって「不孝者」を描くという点で異色であった。本科目では、『本朝二十不孝』に収録された作品を詳細に読み解くとともに、現代社会においても浸透した道徳概念である「孝」について解説を行う。
■授業の目的・ねらい	（１）『本朝二十不孝』を読み進め、先行する文学作品と比較しつつ読解を行うことにより、西鶴が作品に施した工夫を理解する。|（２）近世における「孝」のあり方とその文学とのかかわりについて理解する。|（３）近世の文化や思想についての知識を身につける。
■到達目標	近世文学における「孝」の描かれ方について説明することができる。|近世散文作品の読解方法を学び、自らの問題意識を持って作品の考察を行うことが出来る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	『本朝二十不孝』の読解に関するリポートを課す。
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	授業内で記述式の小課題を出題する。

授業科目	日本文学特講（近・現代）１（夏期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	諸岡　哲也		シラバスグループ	M11200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	日本近代文学作品を分析して読む
■授業の概要	日本の近代文学を研究および考察の対象として、さまざまな小説を日本近代文学研究の立場から、分析的・研究的に読む方法を実際の例に基づいて講義します。作品の読解の鍵となる手がかりをとらえる。作品全体の構造を分析する。その他、さまざまな方法によって、読書感想文ではない、客観的な作品理解をする方法の修得を目指します。
■授業の目的・ねらい	文学研究は、まず作品の言葉と表現に触れなければ話になりません。しかし、ただ漠然と作品を読んでいたのでは、通常の読書と変わりません。では、文学研究として作品を読むとはどういうことなのでしょうか。そのための方法論（アプローチの仕方）は無数にありますが、ここでは作家論・作品論・テクスト論・物語論などの方法論（アプローチの仕方）を使って、日本近代文学作品を精緻に読みます。そのことによって、通常の読書では見えてこない日本近代文学の＜読み＞に触れるとともに、文学作品へのアプローチの方法を学習し、一人一人が作品研究ができるようになることを目指します。
■到達目標	文学作品へのさまざまなアプローチ方法を身につけ、文学作品における言葉と表現の機能について学び、アプローチ方法を使って一人で研究できるようになることを目指します。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	20	講義内容＋分析・考察|詳細は講義内で説明します。
･授業内試験	0	オンラインですので、みなさんと議論するのはなかなかむずかしいですが、感想や考えを確認します。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	日本文学特講（近・現代）２（冬期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	有田　和臣			シラバスグループ	M12400
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	樋口一葉「たけくらべ」――文明開化と初恋
■授業の概要	一つの文学作品についての研究論文のうち代表的なものを読み、それぞれの主張や調査結果を比較検討します。まずは作品を精読した上で、検討を必要とする問題点を確認します。次に各研究論文を読み進めながら、その主張の正否を判断し、批判的に読んで自らの論文に生かすための訓練をします。そのために適宜、受講生に意見を求めたり、簡易な短いリポートを課したりします。最新の研究論文を３本（時間が許せば４本)、題材とする予定です。|
■授業の目的・ねらい	・雅文体で書かれた「たけくらべ」をやさしく読み解きながら、書かれていない範囲にまで広がる作品世界の様相を探る。参考として「十三夜」と比較検討する。|・一つの文学作品に対する多様な観点からの研究論文を比較検討し、各論の妥当性を適切に判断しつつ、対象文学作品に対する自らの立脚点（主張）を形成すること。|・映像化作品を確認することにより、それとの比較で自らの作品の具体的なイメージを鮮明にすること。|
■到達目標	・先行研究論文から得られた視点や知識を、その成否を判断しながら自分の各論文に生かせるようになること。|・対象論文の要旨を的確に把握できること。|・対象論文から正確に引用しつつ論旨に論評を加えることができること。|・自らの判断の根拠を的確に示せるようになること。|・作品世界に対する具体的なイメージをもつこと。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	先行研究論文についての意見を求めます。
･授業内課題	30	
･その他	0	先行研究論文についての論評を求めます。

授業科目	日本語学特講（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	荻原　廣			シラバスグループ	M13400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	日本語教育に関する様々な内容について講義する。
■授業の概要	①日本語教育を取り巻く現状|②日本語教授法|③日本語教育の文法|以上、3 点について講義する。
■授業の目的・ねらい	日本語教育の推進に関する法律が令和元年 6 月 28 日に施行されて以降、日本語教育を取り巻く環境は、急激に変化してきている。|　例えば、「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律（令和 5 年法律第 41 号)」の成立により、従来の日本語学校（いわゆる法務省告示機関）は文部科学大臣の認定を受けなければ、留学生を受け入れることができなくなり、また文部科学大臣の認定を受けた日本語教育機関で働く日本語教師は、新設される国家資格「登録日本語教員」でなければならなくなる。|　また、平成 26 年度に始まった小中学校対象の「特別の教育課程」による日本語指導は、令和 5 年度より高等学校でも始まった。|　このようにダイナミックに変化する日本語教育の現状について、また今後の日本語教育について詳述し、更に、外国人（正確には日本語が母語ではない人）に対する日本語の教え方や最低限必要な教えるための文法の知識について講義する。|　なお、この授業では、将来、国家資格を取得し日本語教員として日本語を教えたい人から、ボランティアの日本語教室で日本語を教えたい人、また公教育諸学校（小学校、中学校、高等学校）の教員になり、そこに通う日本語指導が必要な児童・生徒に日本語を教えたい人までを対象とし、日本語教育における基本的な知識について習得することを目的とする。

■到達目標	プロやボランティアで日本語を教えたい人、また義務教育諸学校の教員になり、日本語指導が必要な児童や生徒に日本語を教えたい人が、日本語教育における基本的な知識について習得することを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	書道文化特講（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	松宮　貴之			シラバスグループ	M14200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	書道史上の顔真卿について
■授業の概要	書道史上に於ける二大潮流の一つ、王羲之の双璧とされる顔真卿についての講義を行います。書論史を通読した上で、顔真卿の家系、その周辺人物、その所業、個別の作品、書論史上の位置づけ、後世に与えた影響、従来の研究、今後の研究・実技利用の可能性についてなど様々な視点から、アプローチ致します。それによって顔真卿の実態に迫り、その歴史的意義付けを考える契機となるよう努めたいと考えています。最後にその見識を踏まえ、後世の臨書例などを参考に、顔真卿の作品を一つ臨書してもらいます。実感のある臨書となるよう心掛けたいとおもいます。
■授業の目的・ねらい	中国史に於ける顔真卿、その人物像と芸術、さらにはそれが書を通じてに後世まで評価された実情を考えることを第一義と考えます。総合的な観点から、顔真卿の書を問い直し、その再評価に挑みます。顔真卿についての先行研究を踏まえ、その書の現代的意義に連なる道筋を示したいとおもいます。顔真卿の書へのイメージが新たなものとなり、その見識が高まることが評価の基準となります。
■到達目標	顔真卿についてどれだけ理解を深めたか。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	90	
･授業内発表	0	
･授業内試験	10	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	専門ゼミ１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	神原　勇介			シラバスグループ	M15100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『源氏物語』研究のための基礎分析作業を実践する。
■授業の概要	『源氏物語』葵巻を各自分担して、発表する。その際、河内本系諸本の有力伝本である尾州家本を底本として、影印本の翻刻、青表紙本系本文との対校、本文整定、注釈書のポイント整理、口語訳などの基礎的な作業を実践する。
■授業の目的・ねらい	写本解読から口語訳による本文解釈まで、古典作品研究の基礎的な分析作業を実践する力量をつけてもらう。また、作業の底本として通行の本文系統である青表紙本系諸本ではなく、河内本系の本文を使用することで、古典作品ならではの異本を解釈する読解作業を体験してもらう。
■到達目標	古典作品を自力で解釈するための基礎的な分析作業を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	専門ゼミ２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	濵田　泰彦			シラバスグループ	M16200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ゼミ形式で、研究活動の「実践」を目的とします。　｜　講座初日で、日本文学の基本的な学び方・研究の基礎（課題に応じた情報や文献の検索、先行研究の整理、読解及び内容の要約、レジュメやリポートの作成、発表方法、ディスカッション等）に関する講義を行います。第 2 日目以降、指定のテーマに基づき調査を行い、受講生による発表を行ってもらいます（20～30 分程度)。|
■授業の概要	本演習では、18 世紀初頭に出版された『百人一首』のもじり（パロディ）作品である近藤清春作・画『今様職人尽百人一首』(享保年間〈1716～36 年〉刊）および、19 世紀中頃に出版された『論語』「郷党第十」のもじり作品である無三公子『論御』(天保 13・1842 年頃刊）をそれぞれ、出典作品と比較しつつ、近世文芸作品における表現上の工夫を味わいます。|　受講生には 20～30 分程度の口頭発表を行って頂きます。資料作成にあたっては、後で示すテキスト・参考文献を参照してください。
■授業の目的・ねらい	近世文芸作品の精読のための、資料収集や発表を通して、卒業論文作成の基礎的な作業を体験し、学習する。

■到達目標	文学研究のための基礎的な知識を得るとともに、研究手法を学習することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	40	授業で講読したテキストについて、自身の考察をまとめるリポート課題を授業終了後に提出します。
･授業内試験	0	『今様職人尽百人一首』ないし、『論御』本文に語釈および現代語訳を加えた口頭発表を行います。
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	専門ゼミ３（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	諸岡　哲也			シラバスグループ	M17300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	日本近代文学作品を読む
■授業の概要	日本の近代文学を読むことで、近代文学への理解を深めます。近代文学にはどのような文学的特徴があるのか、近代文学はどのようなことを表現しているのかを、受講者のみなさんによる発表とディスカッションを通じて学習します。
■授業の目的・ねらい	日本近代文学の研究方法を学ぶことを目的とします。学習の過程で、近代文学の表現の特徴を理解し、近代文学について把握することを目指します。そのうえで自分の言葉で言語化し、発表できるようになることをねらいとします。
■到達目標	日本近代文学の研究方法を理解する。近代文学の表現の特徴を理解する。近代文学について自分なりに理解できるようになる。受講者のみなさん自身の意見を、証拠を示して言語化し、発表できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	専門ゼミ４（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	岡村　弘樹			シラバスグループ	M18300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『竹取物語』の言葉を掘り下げる
■授業の概要	『竹取物語』を題材として、一語一語に着目しながら読み、古典語に対する正しい理解や、現代語と古典語の違いを学習する。本授業は受講者による発表と討論を主として進める。
■授業の目的・ねらい	日本語学の研究方法を実践と討論を通して学ぶ。問題点の見つけ方、調査方法、発表方法を身に付ける。
■到達目標	日本語学の研究方法を身に付ける。注釈書の注釈や現代語訳を批判的に利用できるようにする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	60	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	書道（夏期)1 週_A クラス_対面				単位	4
担当者	阪口　雅則			シラバスグループ	M19210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	〈楷書〉|　楷書の学習|〈行書〉|　行書の学習|〈草書〉|　草書を学習する|〈仮名〉|　仮名の書を学ぶ
■授業の概要	〈楷書〉|中学書写、および高校芸術科書道の基礎の上に立って、幅広く楷書を学ぶため基本的な用筆法や造形の取り方を実践的に学習します。|書への興味と関心を育みながら、北魏の楷書や初唐の三大家の楷書を臨書します。|〈行書〉|王羲之と顔眞卿の行書の二大潮流を基本に触れ、更にこの二家の影響を受けた米帯を学習し、基礎的な行書法を習得する。|〈草書〉|草書の概説と実習|〈仮名〉|仮名の美を臨書を中心に探り、その表現方法を学ぶ。中学校の書写・高等学校の芸術科書道における仮名の書の指導に必要な基礎知識・技術を講義・実習を通して習得する。
■授業の目的・ねらい	〈楷書〉|多様な古典の鑑賞と臨書を通して、楷書の基本的な用筆法及び造形力を身につける。加えて、楷書の魅力・興味を育む。|〈行書〉|行書の基本用筆、造形法、章法を学ぶことに加え、時代、人、風土、資料により書風の違いが表れることを臨書を通じて理解する。|〈草書〉|草書の成り立ちから、草書学習の基礎的な技法を学ぶ。|〈仮名〉|仮名の書への理解を深め、古筆を踏まえた仮名文字を美しく表現する。
■到達目標	〈楷書〉|楷書の用筆法、造形の取り方をマスターする。|〈行書〉|半紙臨書により行書の基本的特徴、書風の相違を理解する。半切臨書により、表現方法を理解する。|〈草書〉|草書の字形やくずし方を身に付ける。(自分の氏名も含む)|〈仮名〉|仮名の実技指導を行うために必要な技術・知識が修得できたか。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	100%	
･その他	0%	

授業科目	書道（夏期)2 週_A クラス_対面				単位	4
担当者	野村　ひかり			シラバスグループ	M19220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	楷書・行書の学習と学習法（王羲之の古典「蘭亭序」を中心に、行書を理解)・草書・仮名の学習
■授業の概要	〈楷書〉|大筆と小筆で楷書の基本的な筆使いを身につけ、唐の三大家（欧陽詢・虞世南・？遂良）の楷書表現を理解し、半紙と半切に書く。|〈行書〉|王羲之「蘭亭序」を中心に臨書し、行書の理解を深める。|〈草書〉|草書の古典から、その価値や美的な所的な表現を学ぶ。|〈仮名〉|仮名の美を臨書を中心に探り、その表現方法を学ぶ。中学校の書写、高等学校の芸術科書道における仮名の書の指導に必要な基礎知識・技術を講義・実習を通して習得する。
■授業の目的・ねらい	〈楷書〉|楷書を書くことが出来ることで、指導者としても正確な指導が出来、伝統文化の継承を担う。|〈行書〉|行書の特徴を理解する。また持続的に自学できるようにする。自分の学びを人に伝えられるようにする。|〈草書〉|基本的な草書である王羲之十七帖や千字文より臨書を通して技術を学ぶ。|〈仮名〉|仮名の書への理解を深め、古筆を踏まえた仮名文字を美しく表現する。
■到達目標	〈楷書〉|楷書の筆使いを身につけ、大筆と小筆で様々なサイズの紙にまとめることができる。|〈行書〉|・行書の特徴を理解し、人に伝えられるようにする。|・自分なりの行書を書ける。|〈草書〉|草書の美しさ、特徴を学び表現につなげる。臨書することから文字を読む、慣れる。|〈仮名〉|仮名の実技指導を行うために必要な技術・知識が習得できたか。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%‖	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	100%	
･その他	0%	

授業科目	書道（秋期)A クラス_対面				単位	4
担当者	長尾　秀則			シラバスグループ	M19300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	楷書・行書・草書の学習、仮名に親しむ
■授業の概要	〈楷書〉|楷書の字体すなわち「文字の骨格」には様々な変化、変遷があり、それらを踏まえた上で、各々の字形や運筆、線筆の特色を理解し、臨書、創作を行う。|創造的な表現の能力と鑑賞の能力を育成するとともに、書の伝統と文化を尊重し、技法や知識だけでなく、書を愛好する心情を培い、自己の感性を高めていく。|〈行書〉|書道史上、高く評価されている行書古典の代表作品を取り上げ、臨書を通して、行書の多様な美を学んでいく。|〈草書〉|草書の実技指導をする。孫過庭の『書譜』を中心として、その用筆法を解説し、半紙・半切（画仙紙）に書くことにより、草書の基本を身につける指導する。|〈仮名〉|下記の 5 回の授業のテーマに沿って仮名の書の概説するとともに実技指導を行う。
■授業の目的・ねらい	〈楷書〉|書は漢字文化圏固有の東洋的な芸術であることをふまえ、今日の学校教育における教科の位置付けを念頭に置き、高等学校でも芸術科目の一つとなっていることから、文字を書くことの用と美の二重性を理解する。|〈行書〉|行書の特徴や美を探究し、技法を習得することで表現力、書法、理論の向上を目指す。|〈草書〉|草書学習の基本は、まずその用筆法を会得することにある。孫過庭の『書譜』は、起筆や転折等の筆づかいがわかりやすく、草書学習の基礎を学ぶための最上のテキストなので精習する。|〈仮名〉|高等学校芸術科書道の仮名の書の指導に必要な基礎的知識・技術を講義・実習を通して修得する。
■到達目標	〈楷書〉|書写書道教育を通じ、書が単に表現技術だけで成立するものではなく心情や人間性と深く関わるものであり、長い歴史とともに書があり、現在がある、ことを感じ、理解する。|〈行書〉|行書書法の基礎的な表現を学ぶ。各種行書古典の特徴を鑑賞し、行書の多様な美を理解し、継続して学習する意欲を身につける。|〈草書〉|草書学習の基礎をしっかりと身につける。|〈仮名〉|仮名の成立・種類について理解するとともに、仮名の基本用筆を用いて平仮名の単体・変体仮名・連綿、そして古筆の臨書ができるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	100%	
･その他	0%	授業への取り組み姿勢を含む。

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	喬　昭			シラバスグループ	N00200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中国語と中国文化
■授業の概要	この講義では、中国語の文字、中国語の基礎文法、及び現代中国の衣食住を中心とする中国の文化に触れながら、大学における学習、研究及び卒業論文の執筆にあたって必要とされる、実践的なスキルの習得を目指します。各自が研究を進める際に、図書館や資料室の利用方法、文献の探し方、資料の入手の仕方、リポートの書き方を習得します。そして、各自の興味のある分野について、文献リストを作成してもらい、また簡単なプレゼンテーションを個人、あるいはグループ単位でしてもらう予定である。
■授業の目的・ねらい	１）各受講生がそれぞれ興味関心を抱く分野を発見し、その研究方法の初歩を獲得する。|２）リポート作成に必要なスキルを習得し、プレゼンテーションの方法を身につける。|
■到達目標	(1)中国語と中国文化に関する基礎知識を習得する。|(2)受講生各自の興味を抱く分野を発見し、リポートを書けるようにする。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	30%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	曽　睿			シラバスグループ	N00300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中国語学の基礎
■授業の概要	この講義では中国語学の基礎を学ぶ。漢字、漢語をはじめ中国語の歴史変遷、中国語圏の発展、中国の多民族と言語の関係などを中心に講義する。また、語学・文学・歴史・思想といった分野を問わず、中国学を研究する者にとって基礎的な事柄（資料の収集、リポートの書き方）を文章講読を通して学ぶ。★ある程度の中国語能力が必要ですので、語学としての中国語の授業（初級～準中級）を履修することを前提とする。
■授業の目的・ねらい	1）目的：①中国語に関する基礎知識を知る。②グループワークの中で、他人の意見を聞いて、自分の意見を話せる。③講義の内容から関心点を見つけ、調査し、リポートにまとめる。2）ねらい：受講生がそれぞれ興味関心を抱く分野を発見し、その研究方法の初歩的技術を獲得する。
■到達目標	中国語に関する基礎知識を身につけ、グループの討論会及び発表（プレゼンテーション）を通して、自分の興味のあることについて調査し、リポート作成できること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	40%	
･その他	20%	

授業科目	中国哲学研究１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤田　一乗			シラバスグループ	N01100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中国哲学の理解
■授業の概要	中国には様々な哲学があるが、それを近代の人間がどのように理解、受容したかを、近代中国文|学の牽引者の一人、馮友蘭の哲学に関する著述(『中国哲学簡史』第三章 諸子的由来)からみていきたい。
■授業の目的・ねらい	授業の目的は、文献の正確な読解である。その為には予習は欠かせない。授業では音読と日本語|訳をしていってもらう。 一言一句精読して授業は進める。|難しい箇所もあると思うが、間違っていても構わないので、自分一人で取り組むこと。分かる箇|所と分からない箇所を明確にしておくこと。|分からない箇所は、なぜ分からないかを自分で先ず考えて欲しい。その上で授業に臨むと、より|理解度が深まると思う。|評価は授業の態度、リポート試験で判定する。また辞書(中日辞典や漢和辞典等)を所有している人は必ず手元に準備すること。
■到達目標	自分一人である程度学習できるようになれること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	60	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国哲学研究２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	岡本　洋之介			シラバスグループ	N02200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『論語』を読む。
■授業の概要	『論語』の「為政篇」を読みます。本文と何晏の注釈を読みます。｜　書き下しあるいは中国音での音読(どちらか一方。両方用意できればすばらしい)・自分でつけた注釈・日本語訳を準備し、それをスクーリングが始まる前に提出してください。勉強ノートをスキャン or 撮影した画像で OK です。清書する必要はありません。｜　授業は、岡本が学生を指名して本文や注釈を少しずつ読んでもらう、という形で進めます。｜　以上に関して、事前配付資料と一緒に案内をお届けします。
■授業の目的・ねらい	昔の中国語を読む際の注意点やコツ。｜　自分は何がわかっていて何がわからないか。｜　それらを把握し、原文の読解力を少しでも伸ばしましょう。
■到達目標	少しでも原文を読む力をつけること。｜　工具書を多く知ること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国文学研究基礎１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	大井　さき			シラバスグループ	N03100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『史記』淮陰侯列伝を読む
■授業の概要	事前に配布する講義資料『史記』を読みます。|資料の本文・注釈を熟読し、日本語訳と訓読（もしくはピンイン）を作成したうえで出席してください。授業中に指名します。|※今年度は淮陰侯列伝（一部）を読む予定です。
■授業の目的・ねらい	司馬遷の『史記』を読むことによって、中国の文語文献の初歩的な読解力を養成することを目的とします。|予習をしないで出席し、担当の義務を果たせなかった受講生は、評価の対象にはなりません。
■到達目標	中国古典文の基礎的読解力を身につけると共に、『史記』とその注釈書についての初歩的理解ができていることを到達目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	授業の終了時にリポート課題について説明します。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国文学研究基礎２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	楊　韜			シラバスグループ	N04200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中国近現代演劇（話劇）研究入門
■授業の概要	この授業では中国近現代の演劇（話劇）に注目し、関連研究資料を選読することを通じて、演劇作品の創作およびその背景などを学ぶ。中国近現代演劇（話劇）の代表的な劇作家として、郭沫若・田漢・丁西林・曹禺・老舎などが挙げられる。授業では、これらの劇作家の作品を対象に具体的に論じている日本語と中国語で書かれた論文を選読する。日本語論文の場合、主に内容の要約と批評を行う。中国語論文の場合、内容の要約と批評のほか、一部箇所の翻訳実践練習も行う。
■授業の目的・ねらい	1）目的：中国近現代演劇の基礎学ぶ。|2）ねらい：受講生が近現代中国の時代変遷および歴史背景の流れを把握するうえ、中国近現代の演劇について興味関心を抱く分野や課題を発見し、今後の研究プランにつなぐ。|
■到達目標	1、中国近現代の演劇に対する基礎的な理解を得る。|2、中国近現代演劇作品に関する初歩的な研究アプローチや分析手法を知る。|3、現代中国語で書かれた史資料に対する一定の読解力および翻訳技能を得る。‖

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	20	

授業科目	現代名作導読（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	白須　留美			シラバスグループ	N11100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	清末民初の小説家、ジャーナリスト、編集者である包天笑の回顧録を読む。
■授業の概要	本授業では、清末民初に活躍した小説家、ジャーナリスト、編集者であった包天笑の晩年の回顧録『釧影楼回憶録』から二、三篇を選んで閲読する。
■授業の目的・ねらい	包天笑の回顧録から、清末民初の文学界や知識人の意識などに触れていく。\本授業では、読解を中心として行います。\予め音読及び日本語訳の準備をしっかりと行うのが望ましい。\翻訳を進める際に、わからない単語があれば辞書などを使用して調べておくこと。\また辞書にない場合でも自分なりに考えておいて、授業に臨んでください。
■到達目標	包天笑の回顧録を読む事で清末民初の社会や知識人の意識に触れ、当時の時代背景について理解する。\また中国語の長文読解力、翻訳の表現力を向上させることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	40%	
･その他	20%	

授業科目	古典名作導読（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	鵜飼　光昌			シラバスグループ	N12100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『論語』を読む
■授業の概要	『史記』孔子世家と『論語』を読みます。
■授業の目的・ねらい	儒教の祖、孔子の生涯とその言動とを追うことを通して、儒教はなにを目指そうとしたのかを理解することを目的とします。
■到達目標	『史記』孔子世家と『論語』とを読解し、孔子の生涯とその言動とを知り、孔子がなにを目指そうとしたのかを理解することを到達目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	0	授業中に指示します。
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	上記①?③までの発表をしていただきます。

授業科目	高級漢語閲読（現代）（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤澤　次郎			シラバスグループ	N13300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	現代中国語の読解力を身につける
■授業の概要	現代中国語で書かれた文章を集めたテキストの読解。
■授業の目的・ねらい	現代中国語で書かれた文章を集めたテキストを文法的にきちんと読解する事を通して、現代中国語の読解力を養成し、また中国現代文学に関する基礎的な事柄も学習する。
■到達目標	現代中国語で書かれた文章を読解できるようにする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	高級漢語閲読（古典）（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	中尾　弥継			シラバスグループ	N14300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	蘇軾『東坡志林』選読
■授業の概要	北宋の文人・蘇軾が著した随筆集『東坡志林』を扱います。|『東坡志林』は、現在の形になる迄の成立事情が明らかでない部分もありますが、その内容は、蘇軾が折に触れ書き綴った日常の思いや旅先での旅情、あるいは当時の流行事など多岐に渡っており、文体も平易で読み解きやすいものが多いです。|本授業ではその中から数篇を選んで鑑賞し、作品を通じて蘇軾の人生観や思想の一端に触れていただき、資料の読み解き方や必要な参考文献の扱い方なども、合わせて習得して頂きます。‖（「中国古典研究入門（夏期)A クラス_オンライン」と重複しない篇目を選んで閲読します）
■授業の目的・ねらい	古典の文章を読解するための基本的な能力を身につけることを目指します。
■到達目標	古典の文章に対する読解力の基礎を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	中国哲学講読１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤田　一乗			シラバスグループ	N15200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中国哲学の理解
■授業の概要	中国には様々な哲学があるが、それを近代の人間がどのように理解、受容したかを、近代中国文|学の牽引者の一人、胡適の哲学に関する著述(『先秦名学史』第一編 歴史背景)からみていきたい。
■授業の目的・ねらい	授業の目的は、文献の正確な読解である。その為には予習は欠かせない。授業では音読と日本語|訳をしていってもらう。 一言一句精読して授業は進める。|難しい箇所もあると思うが、間違っていても構わないので、自分一人で取り組むこと。分かる箇|所と分からない箇所を明確にしておくこと。|分からない箇所は、なぜ分からないかを自分で先ず考えて欲しい。その上で授業に臨むと、より|理解度が深まると思う。|評価は授業の態度、リポート試験で判定する。また辞書(中日辞典や漢和辞典等)を所有している人は必ず持ってくること。
■到達目標	自分一人である程度学習できるようになれること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	60	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国哲学講読２（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	岡本　洋之介			シラバスグループ	N16100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『孫子』を読む。
■授業の概要	『孫子』形篇と勢篇（軍形篇と兵勢篇）の本文と曹操の注釈を読みます。両篇をすべて読む予定です。|　書き下しあるいは中国音での音読(どちらか一方。両方用意できればすばらしい)･自分でつけた注釈・日本語訳を準備し、それをスクーリングが始まる前に提出してください。word ファイルや勉強ノートをスキャン or 撮影した画像で OK です。清書する必要はありません。|　授業は、岡本が学生を指名して本文や注釈を少しずつ読んでもらう、という形で進めます。|　以上に関して、事前配付資料と一緒に案内をお届けします。
■授業の目的・ねらい	昔の中国語を読む際の注意点やコツ。|自分は何がわかっていて何がわからないか。|それらを把握し、原文の読解力を少しでも伸ばしましょう。
■到達目標	少しでも原文を読む力をつけること。|工具書を知ること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	漢語現代文献演習（文学）１（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	岡本　洋之介			シラバスグループ	N21300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	巴金の《海行??》を読む。
■授業の概要	巴金の《海行??》を前年度の続きから読みます。巴金がフランスへ留学する際の、船旅の様子を記したものです。《巴金全集》12 巻、pp.2-4「版の説明」「序」、pp.37-43「猴子的悲哀」「???上的哥?波」を読む予定です。｜　中国音での音読・日本語訳を準備し、それをスクーリングが始まる前に提出してください。word ファイルや勉強ノートをスキャン or 撮影した画像で OK です。清書する必要はありません。｜　授業は、岡本が学生を指名して少しずつ読んでもらう、という形で進めます。｜　以上に関して、事前配付資料と一緒に案内をお届けします。
■授業の目的・ねらい	中国語を読む際の注意点やコツ。｜　日本語に訳す際の注意点やコツ。｜　自分は何がわかっていて何がわからないか。｜　それらを把握し、原文の読解力を少しでも伸ばしましょう。｜　その上で、中国の現代文学や巴金に興味を持ってもらえたらいいなぁ、と思っています。
■到達目標	少しでも原文を読む力をつけること。|中国語の語法を理解した上で日本語に訳す力をつけること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	漢語現代文献演習（文学）２（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	若杉　邦子			シラバスグループ	N22300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	清末におけるニーチェ受容について
■授業の概要	清末中国における「ニーチェ思想の受容のありかた」について考察する。考察時には、雑誌『新民叢報』に掲載された梁啓超の文章から、記述を適宜抜粋し、検討材料として用いる。
■授業の目的・ねらい	ドイツの思想家、フリードリヒ・ヴィルヘルム・ニーチェ（1844 年-1900 年）が、２０世紀の世界に対して及ぼした影響はまさに甚大であった。そのインパクトは、民国以後の中国においても「ニーチェ主義」あるいは「反ニーチェ主義」として顕著に認められるものである。では、ニーチェ思想が中国に取り入れられたばかりの頃、すなわち清末に立ち戻るならば、その受容状況はいかなるものであっただろうか？この疑問について考えるにあたり、本講はまず、修斌氏の指摘（『新民叢報』におけるニーチェ――明治日本との関わり――、2001）に従い、清末のニーチェ受容が『新民叢報』（1902～）中の文章以降のことであったと認識するところから着手する。そしてその前提に立った上で、『新民叢報』内に見える「ニーチェ観」の具体的な確認作業を行い、最終的には、近代中国におけるニーチェ思想の初期受容の様相に関する一応の理解を得てみたい。
■到達目標	１）近代中国におけるニーチェ思想の初期受容の様相に関する一応の理解を得る。|２）文語を多用し、繁体字を用いた、しかし「若者向け」の学術的な文章に触れることにより、語彙を増やし、知的な表現に慣れる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	受講者全員に対し、数回の指名を行う（指名の回数は受講者数により決まる)。その時の発表内容に応じてトータル 30 点満点で評価する。
･授業内課題	20	
･その他	0	授業中に２回程度ライティングを実施し、トータル 20 点満点で評価する。

授業科目	漢語古典文献演習（文学）１（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	大井　さき			シラバスグループ	N23400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中国古典小説を読む
■授業の概要	事前に配布する講義資料（六朝～唐代の小説）を読みます。|資料の本文を熟読し、日本語訳と訓読（もしくはピンイン）を作成したうえで出席してください。授業中に指名します。|※今年度は虎に関する話を読む予定です。
■授業の目的・ねらい	中国古典小説を読むことによって、中国の文語の初歩的な読解力を養成することを目的とします。|予習をしないで出席し、担当の義務を果たせなかった受講生は、評価の対象にはなりません。
■到達目標	中国の文語の基礎的読解力を身につけると共に、中国古典小説についての初歩的理解ができていることを到達目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	授業の終了時にリポート課題について説明します。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	漢語古典文献演習（文学）２（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	大井　さき			シラバスグループ	N24400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	「別れ」の詩選読
■授業の概要	事前に配布する講義資料の「別れ」をテーマとする詩を読みます。\資料の本文を熟読し、日本語訳と訓読（もしくはピンイン）を作成したうえで出席してください。授業中に指名します。
■授業の目的・ねらい	「別れ」は中国古典詩における一つの重要なテーマです。別れをうたう詩を読むことによって、中国の韻文（詩）の初歩的な読解力を養成することを目的とします。\予習をしないで出席し、担当の義務を果たせなかった受講生は、評価の対象にはなりません。
■到達目標	中国古典詩の基礎的読解力を身につけると共に、詩体や詩型、古代中国語についての初歩的理解ができていることが到達目標です。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	授業の終了時にリポート課題について説明します。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国哲学演習１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤田　一乗			シラバスグループ	N25200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中国哲学の理解
■授業の概要	中国には様々な哲学があるが、それを近代の人間がどのように理解、受容したかを、近代中国文|学の牽引者の一人、張岱年の哲学に関する著述(『中国哲学大綱』 新序ー対于過去中国哲学研究的自我批判)からみていきたい。
■授業の目的・ねらい	授業の目的は、文献の正確な読解である。その為には予習は欠かせない。授業では音読と日本語|訳をしていってもらう。 一言一句精読して授業は進める。|難しい箇所もあると思うが、間違っていても構わないので、自分一人で取り組むこと。分かる箇|所と分からない箇所を明確にしておくこと。|分からない箇所は、なぜ分からないかを自分で先ず考えて欲しい。その上で授業に臨むと、より|理解度が深まると思う。|評価は授業の態度、リポート試験で判定する。また辞書(中日辞典や漢和辞典等)を所有している人は必ず持ってくること。
■到達目標	自分一人である程度学習できるようになれること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	60	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国哲学演習２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	岡本　洋之介			シラバスグループ	N26200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『荀子』を読む。
■授業の概要	『荀子』王制篇の本文と楊倞の注釈を読みます。篇の 3 分の 1 から半分くらいを読むつもりです。｜　書き下しあるいは中国音での音読(どちらか一方。両方用意できればすばらしい)・自分でつけた注釈・日本語訳を準備し、それをスクーリングが始まる前に提出してください。勉強ノートをスキャン or 撮影した画像で OK です。清書する必要はありません。｜　授業は、岡本が学生を指名して本文や注釈を少しずつ読んでもらう、という形で進めます。｜　以上に関して、事前配付資料と一緒に案内をお届けします。
■授業の目的・ねらい	昔の中国語を読む際の注意点やコツ。｜　自分は何がわかっていて何がわからないか。｜　それらを把握し、原文の読解力を少しでも伸ばしましょう。
■到達目標	少しでも原文を読む力をつけること。|工具書を知ること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・リポート試験(SR 履修)	50	
・授業内発表	50	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	中国語基礎演習１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	池田　晋			シラバスグループ	N31100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	時事中国語講読
■授業の概要	最新の中国の新聞記事やネット記事をもとにして編集された『時事中国語の教科書 2023年度版』を読む。今回のスクーリングでは第１課から第６課までを読む予定である。授業では、受講生がひとりずつ順番に、朗読と日本語訳を担当する。さらに、各課ごとに小テストをおこなう。小テストの形式は、本文の書き取り（聴写）である。|
■授業の目的・ねらい	中国語の文章を、構造を正しく把握しながら、丁寧に読み進める訓練をおこなう。
■到達目標	教科書の文章を正確に朗読すること、正確に日本語に訳すこと、耳で聞いて理解することである。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	30%	課題を出す。
･授業内試験	30%	発音の正確さと、日本語訳の正確さによって評価する。
･授業内課題	0%	小テスト。
･その他	0%	

授業科目	中国語基礎演習１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	小出　敦			シラバスグループ	N31200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	時事中国語講読
■授業の概要	中国紙「環球時報」の社説を読む。2024 年に掲載された社説の中から、3 篇を選んで教材とする。
■授業の目的・ねらい	中国語の文章を読む訓練をすると同時に、現代中国の政治・経済・外交・軍事などについての理解を深める。
■到達目標	ピンインの付いていない文章を正しく発音できるようになること。論説体の文章を正確に日本語に訳せるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	60%	課題を出す。
･授業内試験	0%	発音の正確さと、日本語訳の正確さによって評価する。
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	中国語基礎演習２（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	鵜飼　光昌			シラバスグループ	N32100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	秦漢の古文を読む
■授業の概要	秦漢の古文の中から、『孟子』『荘子』『説苑』　などの文章を読みます。
■授業の目的・ねらい	古典の文章を読解するための基本的な能力を身につけることを目指します。
■到達目標	古典の文章に対する読解力の基礎を身につけ、研究に運用できることを到達目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	授業中に指示します。
･授業内試験	0	上記①?④までの発表をしてください。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国語基礎演習２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	中尾　弥継			シラバスグループ	N32200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	宋代の散文について
■授業の概要	宋代には非常に多くの散文が書かれており、当時の知識人の思想や文化を知ることができると共に、歴史を紐解くにも欠かせない資料となり得るものです。｜　本授業では、宋人の散文作品を数篇取り上げて鑑賞し、資料の読み解き方や必要な参考文献の扱い方なども、合わせて習得して頂きます。
■授業の目的・ねらい	古典の文章を読解するための基本的な能力を身につけることを目指します。
■到達目標	古典の文章に対する読解力の基礎を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国現代演習（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	楊　韜			シラバスグループ	N33200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	近代中国知識人の西洋体験
■授業の概要	この授業では中国人ジャーナリスト鄒韜奮の名作旅行記『萍踪寄語』を選読することを通じて、近代中国知識人の西洋体験を実証的に把握したうえでその世界観や中国意識に触れる一方、高度な中国語長文を解読・翻訳する基礎力を養う。毎回の授業では、長文における複雑な構造・複文・メタファー表現・諺・四字熟語を中心とした解説を行い、また教員と受講生ならびに受講生同士で一緒に中国語⇔日本語の翻訳・要約の訓練に取り組む。
■授業の目的・ねらい	近代中国知識人の西洋体験を実証的に把握したうえでその世界観や中国意識に触れる一方、高度な中国語長文を解読・翻訳する総合力を養う。
■到達目標	1、鄒韜奮の西洋体験という一事例から近代中国知識人の世界観や中国意識に関する基礎的な理解を得る。|2、1930 年代を中心に近現代中国と諸外国との関連性に関する初歩的な認識を得る。|3、高度な中国語長文を解読・翻訳する総合力を身につけることを目標とする。具体的には、①長文における主語・述語・目的語の所在（或いは省略現象）に関する明確な判断力；②複文を含めた読み書き及び口頭発表の能力；③「反問」やメタファーなどを含めた表現（文章）にある「隠れ情報」の読み解く能力；④諺・四字熟語に対する一定の運用力；⑤中国語⇔日本語の翻訳に必要な高度な読解力と表現力。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	20	

授業科目	中国現代演習（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	白須　留美			シラバスグループ	N33400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	民国期の大衆小説を読む
■授業の概要	本授業では、民国期に出版された「偵探小説（探偵小説）」を読みます。|民国期の探偵小説家の一人である程小青の『霍桑探案集』から選読します。
■授業の目的・ねらい	本授業では、読解を中心として行います。|予め音読及び日本語訳の準備をしっかりと行うのが望ましい。|翻訳を進める際に、わからない単語があれば辞書などを使用して調べておくこと。|また辞書にない場合でも自分なりに考えておいて、授業に臨んでください。
■到達目標	民国期の小説に触れることにより、語彙を増やし、表現に慣れる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	30	
･授業内発表	70	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国古典演習（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	大井　さき			シラバスグループ	N34200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『唐詩三百首』選読
■授業の概要	事前に配布する講義資料『唐詩三百首』（一部）を読みます。|資料の本文を熟読し、日本語訳と訓読（もしくはピンイン）を作成したうえで出席してください。授業中に指名します。|※盛唐の詩人（王維・李白・杜甫ら）や中唐の詩人（韓愈・白居易ら）の作品から３首ほど選んで読んでいく予定です。
■授業の目的・ねらい	『唐詩三百首』に収められた詩を読むことによって、中国の韻文（詩）の初歩的な読解力を養成することを目的とします。|予習をしないで出席し、担当の義務を果たせなかった受講生は、評価の対象にはなりません。
■到達目標	中国古典詩の基礎的読解力を身につけると共に、詩体や詩型、古代中国語についての初歩的理解ができていることを到達目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	授業の終了時にリポート課題について説明します。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国古典演習（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤澤　次郎			シラバスグループ	N34400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	古代漢語（所謂漢文）を読解する為の基礎力を養成する。
■授業の概要	古代漢語（所謂漢文）の最も基本的な文献は経書と正史である。哲学・歴史・文学を問わず、中国古典について学ぶ場合、この二種の文献を避けて通ることは出来ない。それ故この授業では、正史の中の漢書を選択し、その文章の読解を通して、どのように古代漢語を読み解くかを学習する。\授業に於いては、現代中国語音による直読と日本語による訓読を併用するので、その双方の準備が必要である。
■授業の目的・ねらい	古代漢語（所謂漢文）を読解する為の基礎力を身につけること。
■到達目標	古代漢語（所謂漢文）を読解する為の基礎力を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	授業中に指示。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	中国語学研究１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	劉　赫洋			シラバスグループ	N37100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中国語文法
■授業の概要	本授業では、普通話の基本的な文法事項についてさらに詳しく体系的な説明をおこなうとともに、練習問題を数多くこなすことで、初中級レベルの文法知識をよりいっそう定着させ、さらに高度なレベルへ学習を進めていくための足掛かりを築く。
■授業の目的・ねらい	中国語文法に対する知識を深め、日本語や英語との違いを正しく把握する。|
■到達目標	中国語の文の構造を正しく分析し、意味を理解することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	30%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	30%	
･その他	0%	

授業科目	中国語学研究２（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	池田　晋			シラバスグループ	N38100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	語学講読
■授業の概要	ピンインを付した簡単な原文の講読を行なう。中国語の特質に触れ、中国語を正確に読み取れるようにしたい。
■授業の目的・ねらい	中国語に関する基礎的な知識を身につけ、中国語で書かれた平易な文章が理解できるようになること。|上記がどの程度達成できたかを平常点とリポートで評価する。|
■到達目標	ピンインを付した簡単な原文をある程度正確な発音で読み、解釈できることを目指したい。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	30%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30%	
･その他	0	

授業科目	書道（夏期)1 週_A クラス_対面				単位	4
担当者	阪口　雅則			シラバスグループ	M19210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	〈楷書〉|　楷書の学習|〈行書〉|　行書の学習|〈草書〉|　草書を学習する|〈仮名〉|　仮名の書を学ぶ
■授業の概要	〈楷書〉|中学書写、および高校芸術科書道の基礎の上に立って、幅広く楷書を学ぶため基本的な用筆法や造形の取り方を実践的に学習します。|書への興味と関心を育みながら、北魏の楷書や初唐の三大家の楷書を臨書します。|〈行書〉|王羲之と顔眞卿の行書の二大潮流を基本に触れ、更にこの二家の影響を受けた米帯を学習し、基礎的な行書法を習得する。|〈草書〉|草書の概説と実習|〈仮名〉|仮名の美を臨書を中心に探り、その表現方法を学ぶ。中学校の書写・高等学校の芸術科書道における仮名の書の指導に必要な基礎知識・技術を講義・実習を通して習得する。
■授業の目的・ねらい	〈楷書〉|多様な古典の鑑賞と臨書を通して、楷書の基本的な用筆法及び造形力を身につける。加えて、楷書の魅力・興味を育む。|〈行書〉|行書の基本用筆、造形法、章法を学ぶことに加え、時代、人、風土、資料により書風の違いが表れることを臨書を通じて理解する。|〈草書〉|草書の成り立ちから、草書学習の基礎的な技法を学ぶ。|〈仮名〉|仮名の書への理解を深め、古筆を踏まえた仮名文字を美しく表現する。
■到達目標	〈楷書〉|楷書の用筆法、造形の取り方をマスターする。|〈行書〉|半紙臨書により行書の基本的特徴、書風の相違を理解する。半切臨書により、表現方法を理解する。|〈草書〉|草書の字形やくずし方を身に付ける。(自分の氏名も含む)|〈仮名〉|仮名の実技指導を行うために必要な技術・知識が修得できたか。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	100%	
･その他	0%	

授業科目	書道（夏期)2 週_A クラス_対面				単位	4
担当者	野村　ひかり			シラバスグループ	M19220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	楷書・行書の学習と学習法（王羲之の古典「蘭亭序」を中心に、行書を理解)・草書・仮名の学習
■授業の概要	〈楷書〉|大筆と小筆で楷書の基本的な筆使いを身につけ、唐の三大家（欧陽詢・虞世南・？遂良）の楷書表現を理解し、半紙と半切に書く。|〈行書〉|王羲之「蘭亭序」を中心に臨書し、行書の理解を深める。|〈草書〉|草書の古典から、その価値や美的な所的な表現を学ぶ。|〈仮名〉|仮名の美を臨書を中心に探り、その表現方法を学ぶ。中学校の書写、高等学校の芸術科書道における仮名の書の指導に必要な基礎知識・技術を講義・実習を通して習得する。
■授業の目的・ねらい	〈楷書〉|楷書を書くことが出来ることで、指導者としても正確な指導が出来、伝統文化の継承を担う。|〈行書〉|行書の特徴を理解する。また持続的に自学できるようにする。自分の学びを人に伝えられるようにする。|〈草書〉|基本的な草書である王羲之十七帖や千字文より臨書を通して技術を学ぶ。|〈仮名〉|仮名の書への理解を深め、古筆を踏まえた仮名文字を美しく表現する。
■到達目標	〈楷書〉|楷書の筆使いを身につけ、大筆と小筆で様々なサイズの紙にまとめることができる。|〈行書〉|・行書の特徴を理解し、人に伝えられるようにする。|・自分なりの行書を書ける。|〈草書〉|草書の美しさ、特徴を学び表現につなげる。臨書することから文字を読む、慣れる。|〈仮名〉|仮名の実技指導を行うために必要な技術・知識が習得できたか。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%‖	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	100%	
･その他	0%	

授業科目	書道（秋期)A クラス_対面				単位	4
担当者	長尾　秀則			シラバスグループ	M19300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	楷書・行書・草書の学習、仮名に親しむ
■授業の概要	〈楷書〉|楷書の字体すなわち「文字の骨格」には様々な変化、変遷があり、それらを踏まえた上で、各々の字形や運筆、線筆の特色を理解し、臨書、創作を行う。|創造的な表現の能力と鑑賞の能力を育成するとともに、書の伝統と文化を尊重し、技法や知識だけでなく、書を愛好する心情を培い、自己の感性を高めていく。|〈行書〉|書道史上、高く評価されている行書古典の代表作品を取り上げ、臨書を通して、行書の多様な美を学んでいく。|〈草書〉|草書の実技指導をする。孫過庭の『書譜』を中心として、その用筆法を解説し、半紙・半切（画仙紙）に書くことにより、草書の基本を身につける指導する。|〈仮名〉|下記の 5 回の授業のテーマに沿って仮名の書の概説するとともに実技指導を行う。
■授業の目的・ねらい	〈楷書〉|書は漢字文化圏固有の東洋的な芸術であることをふまえ、今日の学校教育における教科の位置付けを念頭に置き、高等学校でも芸術科目の一つとなっていることから、文字を書くことの用と美の二重性を理解する。|〈行書〉|行書の特徴や美を探究し、技法を習得することで表現力、書法、理論の向上を目指す。|〈草書〉|草書学習の基本は、まずその用筆法を会得することにある。孫過庭の『書譜』は、起筆や転折等の筆づかいがわかりやすく、草書学習の基礎を学ぶための最上のテキストなので精習する。|〈仮名〉|高等学校芸術科書道の仮名の書の指導に必要な基礎的知識・技術を講義・実習を通して修得する。
■到達目標	〈楷書〉|書写書道教育を通じ、書が単に表現技術だけで成立するものではなく心情や人間性と深く関わるものであり、長い歴史とともに書があり、現在がある、ことを感じ、理解する。|〈行書〉|行書書法の基礎的な表現を学ぶ。各種行書古典の特徴を鑑賞し、行書の多様な美を理解し、継続して学習する意欲を身につける。|〈草書〉|草書学習の基礎をしっかりと身につける。|〈仮名〉|仮名の成立・種類について理解するとともに、仮名の基本用筆を用いて平仮名の単体・変体仮名・連綿、そして古筆の臨書ができるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	100%	
･その他	0%	授業への取り組み姿勢を含む。

授業科目	中国語学研究１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	劉　赫洋			シラバスグループ	N37100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中国語文法
■授業の概要	本授業では、普通話の基本的な文法事項についてさらに詳しく体系的な説明をおこなうとともに、練習問題を数多くこなすことで、初中級レベルの文法知識をよりいっそう定着させ、さらに高度なレベルへ学習を進めていくための足掛かりを築く。
■授業の目的・ねらい	中国語文法に対する知識を深め、日本語や英語との違いを正しく把握する。|
■到達目標	中国語の文の構造を正しく分析し、意味を理解することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	30%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	30%	
･その他	0%	

授業科目	中国語学研究２（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	池田　晋			シラバスグループ	N38100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	語学講読
■授業の概要	ピンインを付した簡単な原文の講読を行なう。中国語の特質に触れ、中国語を正確に読み取れるようにしたい。
■授業の目的・ねらい	中国語に関する基礎的な知識を身につけ、中国語で書かれた平易な文章が理解できるようになること。|上記がどの程度達成できたかを平常点とリポートで評価する。|
■到達目標	ピンインを付した簡単な原文をある程度正確な発音で読み、解釈できることを目指したい。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	30%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30%	
･その他	0	

授業科目	中国哲学研究１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤田　一乗			シラバスグループ	N01100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中国哲学の理解
■授業の概要	中国には様々な哲学があるが、それを近代の人間がどのように理解、受容したかを、近代中国文|学の牽引者の一人、馮友蘭の哲学に関する著述(『中国哲学簡史』第三章 諸子的由来)からみていきたい。
■授業の目的・ねらい	授業の目的は、文献の正確な読解である。その為には予習は欠かせない。授業では音読と日本語|訳をしていってもらう。 一言一句精読して授業は進める。|難しい箇所もあると思うが、間違っていても構わないので、自分一人で取り組むこと。分かる箇|所と分からない箇所を明確にしておくこと。|分からない箇所は、なぜ分からないかを自分で先ず考えて欲しい。その上で授業に臨むと、より|理解度が深まると思う。|評価は授業の態度、リポート試験で判定する。また辞書(中日辞典や漢和辞典等)を所有している人は必ず手元に準備すること。
■到達目標	自分一人である程度学習できるようになれること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	60	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国哲学研究２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	岡本　洋之介			シラバスグループ	N02200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『論語』を読む。
■授業の概要	『論語』の「為政篇」を読みます。本文と何晏の注釈を読みます。｜　書き下しあるいは中国音での音読(どちらか一方。両方用意できればすばらしい)・自分でつけた注釈・日本語訳を準備し、それをスクーリングが始まる前に提出してください。勉強ノートをスキャン or 撮影した画像で OK です。清書する必要はありません。｜　授業は、岡本が学生を指名して本文や注釈を少しずつ読んでもらう、という形で進めます。｜　以上に関して、事前配付資料と一緒に案内をお届けします。
■授業の目的・ねらい	昔の中国語を読む際の注意点やコツ。｜　自分は何がわかっていて何がわからないか。｜　それらを把握し、原文の読解力を少しでも伸ばしましょう。
■到達目標	少しでも原文を読む力をつけること。｜　工具書を多く知ること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国文学研究１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	大井　さき			シラバスグループ	N03100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『史記』淮陰侯列伝を読む
■授業の概要	事前に配布する講義資料『史記』を読みます。|資料の本文・注釈を熟読し、日本語訳と訓読（もしくはピンイン）を作成したうえで出席してください。授業中に指名します。|※今年度は淮陰侯列伝（一部）を読む予定です。
■授業の目的・ねらい	司馬遷の『史記』を読むことによって、中国の文語文献の初歩的な読解力を養成することを目的とします。|予習をしないで出席し、担当の義務を果たせなかった受講生は、評価の対象にはなりません。
■到達目標	中国古典文の基礎的読解力を身につけると共に、『史記』とその注釈書についての初歩的理解ができていることを到達目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	授業の終了時にリポート課題について説明します。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国文学研究２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	楊　韜			シラバスグループ	N04200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中国近現代演劇（話劇）研究入門
■授業の概要	この授業では中国近現代の演劇（話劇）に注目し、関連研究資料を選読することを通じて、演劇作品の創作およびその背景などを学ぶ。中国近現代演劇（話劇）の代表的な劇作家として、郭沫若・田漢・丁西林・曹禺・老舎などが挙げられる。授業では、これらの劇作家の作品を対象に具体的に論じている日本語と中国語で書かれた論文を選読する。日本語論文の場合、主に内容の要約と批評を行う。中国語論文の場合、内容の要約と批評のほか、一部箇所の翻訳実践練習も行う。
■授業の目的・ねらい	1）目的：中国近現代演劇の基礎学ぶ。|2）ねらい：受講生が近現代中国の時代変遷および歴史背景の流れを把握するうえ、中国近現代の演劇について興味関心を抱く分野や課題を発見し、今後の研究プランにつなぐ。|
■到達目標	1、中国近現代の演劇に対する基礎的な理解を得る。|2、中国近現代演劇作品に関する初歩的な研究アプローチや分析手法を知る。|3、現代中国語で書かれた史資料に対する一定の読解力および翻訳技能を得る。‖

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	20	

授業科目	中国文学講読１（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤澤　次郎			シラバスグループ	N13300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	現代中国語の読解力を身につける
■授業の概要	現代中国語で書かれた文章を集めたテキストの読解。
■授業の目的・ねらい	現代中国語で書かれた文章を集めたテキストを文法的にきちんと読解する事を通して、現代中国語の読解力を養成し、また中国現代文学に関する基礎的な事柄も学習する。
■到達目標	現代中国語で書かれた文章を読解できるようにする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	中国文学講読２（秋期)A クラス_対面				単位	2
担当者	瀬邊　啓子			シラバスグループ	N17300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	北島の小説を再考する
■授業の概要	朦朧詩を代表する詩人として知られる北島は、文革期の地下文学として小説を創作し、文革後に『今天』誌上にて、本名の趙振開や北島以外のペンネームを用いて小説を発表している。｜　北島自身は文革期の地下文学としての小説への評価は厳しく、見るべき作品はないと断じてはいるが、北島の「波動」（妹を偲んで艾珊のペンネームで『今天』第 5 期にて発表）など、文革期の文学サロンでどのような文学手法が学ばれていたのかが分かる手がかりが含まれる作品がある。例えば、北島「波動」は完全ではないものの意識流の手法が見てとれる。｜　本講義では北島「帰来的陌生人」（『今天』第 2 期、石黙のペンネームで発表）を講読し、知識青年たちが文革期に行っていた小説の創作活動の一端について考察を行っていく。
■授業の目的・ねらい	本講義では、文革期の地下文学のなかでも小説の創作について考察してゆく。｜　まずは今回取りあげる北島は朦朧詩を代表する詩人であり、文革期の地下文学のなかでも充実した創作が行われていた詩歌と知青について学んでゆく。朦朧詩を形成するにあたって、一定の役割を果たしたと言えるのが、文学サロンである。本講義では文革期に行われていた文学サロンの役割についてその一端を把握したうえで、文学的な評価は低いとされる文革期の地下文学の小説創作について北島の小説「帰来的陌生人」を取り上げ、文革期の文学サロンにて学習や交流されていたであろう文学の手法について考察を加えてゆく。｜　これにより、文革終息後の文学の有り様について、理解を深めてゆく。
■到達目標	中国語の原文で小説を読めるようになる。｜　文革期の小説創作および詩歌の創作と知青の役割を理解できるようになる。｜　作品を通して、作品分析ができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	30	
･授業内発表	70	作品の正確な理解と、作品分析の内容による
･授業内試験	0	作品の翻訳発表による
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国哲学講読１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤田　一乗			シラバスグループ	N15200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中国哲学の理解
■授業の概要	中国には様々な哲学があるが、それを近代の人間がどのように理解、受容したかを、近代中国文|学の牽引者の一人、胡適の哲学に関する著述(『先秦名学史』第一編 歴史背景)からみていきたい。
■授業の目的・ねらい	授業の目的は、文献の正確な読解である。その為には予習は欠かせない。授業では音読と日本語|訳をしていってもらう。 一言一句精読して授業は進める。|難しい箇所もあると思うが、間違っていても構わないので、自分一人で取り組むこと。分かる箇|所と分からない箇所を明確にしておくこと。|分からない箇所は、なぜ分からないかを自分で先ず考えて欲しい。その上で授業に臨むと、より|理解度が深まると思う。|評価は授業の態度、リポート試験で判定する。また辞書(中日辞典や漢和辞典等)を所有している人は必ず持ってくること。
■到達目標	自分一人である程度学習できるようになれること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	60	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国哲学講読２（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	岡本　洋之介			シラバスグループ	N16100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『孫子』を読む。
■授業の概要	『孫子』形篇と勢篇（軍形篇と兵勢篇）の本文と曹操の注釈を読みます。両篇をすべて読む予定です。|　書き下しあるいは中国音での音読(どちらか一方。両方用意できればすばらしい)･自分でつけた注釈・日本語訳を準備し、それをスクーリングが始まる前に提出してください。word ファイルや勉強ノートをスキャン or 撮影した画像で OK です。清書する必要はありません。|　授業は、岡本が学生を指名して本文や注釈を少しずつ読んでもらう、という形で進めます。|　以上に関して、事前配付資料と一緒に案内をお届けします。
■授業の目的・ねらい	昔の中国語を読む際の注意点やコツ。|自分は何がわかっていて何がわからないか。|それらを把握し、原文の読解力を少しでも伸ばしましょう。
■到達目標	少しでも原文を読む力をつけること。|工具書を知ること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国文学演習１（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	岡本　洋之介			シラバスグループ	N21300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	巴金の《海行??》を読む。
■授業の概要	巴金の《海行??》を前年度の続きから読みます。巴金がフランスへ留学する際の、船旅の様子を記したものです。《巴金全集》12 巻、pp.2-4「版の説明」「序」、pp.37-43「猴子的悲哀」「???上的哥?波」を読む予定です。｜　中国音での音読・日本語訳を準備し、それをスクーリングが始まる前に提出してください。word ファイルや勉強ノートをスキャン or 撮影した画像で OK です。清書する必要はありません。｜　授業は、岡本が学生を指名して少しずつ読んでもらう、という形で進めます。｜　以上に関して、事前配付資料と一緒に案内をお届けします。
■授業の目的・ねらい	中国語を読む際の注意点やコツ。｜　日本語に訳す際の注意点やコツ。｜　自分は何がわかっていて何がわからないか。｜　それらを把握し、原文の読解力を少しでも伸ばしましょう。｜　その上で、中国の現代文学や巴金に興味を持ってもらえたらいいなぁ、と思っています。
■到達目標	少しでも原文を読む力をつけること。|中国語の語法を理解した上で日本語に訳す力をつけること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国文学演習２（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	若杉　邦子			シラバスグループ	N22300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	清末におけるニーチェ受容について
■授業の概要	清末中国における「ニーチェ思想の受容のありかた」について考察する。考察時には、雑誌『新民叢報』に掲載された梁啓超の文章から、記述を適宜抜粋し、検討材料として用いる。
■授業の目的・ねらい	ドイツの思想家、フリードリヒ・ヴィルヘルム・ニーチェ（1844 年-1900 年）が、２０世紀の世界に対して及ぼした影響はまさに甚大であった。そのインパクトは、民国以後の中国においても「ニーチェ主義」あるいは「反ニーチェ主義」として顕著に認められるものである。では、ニーチェ思想が中国に取り入れられたばかりの頃、すなわち清末に立ち戻るならば、その受容状況はいかなるものであっただろうか？この疑問について考えるにあたり、本講はまず、修斌氏の指摘（『新民叢報』におけるニーチェ――明治日本との関わり――、2001）に従い、清末のニーチェ受容が『新民叢報』（1902～）中の文章以降のことであったと認識するところから着手する。そしてその前提に立った上で、『新民叢報』内に見える「ニーチェ観」の具体的な確認作業を行い、最終的には、近代中国におけるニーチェ思想の初期受容の様相に関する一応の理解を得てみたい。
■到達目標	１）近代中国におけるニーチェ思想の初期受容の様相に関する一応の理解を得る。|２）文語を多用し、繁体字を用いた、しかし「若者向け」の学術的な文章に触れることにより、語彙を増やし、知的な表現に慣れる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	受講者全員に対し、数回の指名を行う（指名の回数は受講者数により決まる)。その時の発表内容に応じてトータル 30 点満点で評価する。
･授業内課題	20	
･その他	0	授業中に２回程度ライティングを実施し、トータル 20 点満点で評価する。

授業科目	中国哲学演習１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤田　一乗			シラバスグループ	N25200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中国哲学の理解
■授業の概要	中国には様々な哲学があるが、それを近代の人間がどのように理解、受容したかを、近代中国文|学の牽引者の一人、張岱年の哲学に関する著述(『中国哲学大綱』 新序ー対于過去中国哲学研究的自我批判)からみていきたい。
■授業の目的・ねらい	授業の目的は、文献の正確な読解である。その為には予習は欠かせない。授業では音読と日本語|訳をしていってもらう。 一言一句精読して授業は進める。|難しい箇所もあると思うが、間違っていても構わないので、自分一人で取り組むこと。分かる箇|所と分からない箇所を明確にしておくこと。|分からない箇所は、なぜ分からないかを自分で先ず考えて欲しい。その上で授業に臨むと、より|理解度が深まると思う。|評価は授業の態度、リポート試験で判定する。また辞書(中日辞典や漢和辞典等)を所有している人は必ず持ってくること。
■到達目標	自分一人である程度学習できるようになれること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	60	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国哲学演習２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	岡本　洋之介			シラバスグループ	N26200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『荀子』を読む。
■授業の概要	『荀子』王制篇の本文と楊倞の注釈を読みます。篇の 3 分の 1 から半分くらいを読むつもりです。｜　書き下しあるいは中国音での音読(どちらか一方。両方用意できればすばらしい)・自分でつけた注釈・日本語訳を準備し、それをスクーリングが始まる前に提出してください。勉強ノートをスキャン or 撮影した画像で OK です。清書する必要はありません。｜　授業は、岡本が学生を指名して本文や注釈を少しずつ読んでもらう、という形で進めます。｜　以上に関して、事前配付資料と一緒に案内をお届けします。
■授業の目的・ねらい	昔の中国語を読む際の注意点やコツ。｜　自分は何がわかっていて何がわからないか。｜　それらを把握し、原文の読解力を少しでも伸ばしましょう。
■到達目標	少しでも原文を読む力をつけること。|工具書を知ること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・リポート試験(SR 履修)	50	
・授業内発表	50	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	中国語基礎演習１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	池田　晋			シラバスグループ	N31100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	時事中国語講読
■授業の概要	最新の中国の新聞記事やネット記事をもとにして編集された『時事中国語の教科書 2023年度版』を読む。今回のスクーリングでは第１課から第６課までを読む予定である。授業では、受講生がひとりずつ順番に、朗読と日本語訳を担当する。さらに、各課ごとに小テストをおこなう。小テストの形式は、本文の書き取り（聴写）である。|
■授業の目的・ねらい	中国語の文章を、構造を正しく把握しながら、丁寧に読み進める訓練をおこなう。
■到達目標	教科書の文章を正確に朗読すること、正確に日本語に訳すこと、耳で聞いて理解することである。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	30%	課題を出す。
･授業内試験	30%	発音の正確さと、日本語訳の正確さによって評価する。
･授業内課題	0%	小テスト。
･その他	0%	

授業科目	中国語基礎演習１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	小出　敦			シラバスグループ	N31200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	時事中国語講読
■授業の概要	中国紙「環球時報」の社説を読む。2024 年に掲載された社説の中から、3 篇を選んで教材とする。
■授業の目的・ねらい	中国語の文章を読む訓練をすると同時に、現代中国の政治・経済・外交・軍事などについての理解を深める。
■到達目標	ピンインの付いていない文章を正しく発音できるようになること。論説体の文章を正確に日本語に訳せるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	60%	課題を出す。
･授業内試験	0%	発音の正確さと、日本語訳の正確さによって評価する。
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	中国語基礎演習２（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	鵜飼　光昌			シラバスグループ	N32100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	秦漢の古文を読む
■授業の概要	秦漢の古文の中から、『孟子』『荘子』『説苑』　などの文章を読みます。
■授業の目的・ねらい	古典の文章を読解するための基本的な能力を身につけることを目指します。
■到達目標	古典の文章に対する読解力の基礎を身につけ、研究に運用できることを到達目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	授業中に指示します。
･授業内試験	0	上記①?④までの発表をしてください。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国語基礎演習２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	中尾　弥継			シラバスグループ	N32200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	宋代の散文について
■授業の概要	宋代には非常に多くの散文が書かれており、当時の知識人の思想や文化を知ることができると共に、歴史を紐解くにも欠かせない資料となり得るものです。｜　本授業では、宋人の散文作品を数篇取り上げて鑑賞し、資料の読み解き方や必要な参考文献の扱い方なども、合わせて習得して頂きます。
■授業の目的・ねらい	古典の文章を読解するための基本的な能力を身につけることを目指します。
■到達目標	古典の文章に対する読解力の基礎を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国現代演習（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	楊　韜			シラバスグループ	N33200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	近代中国知識人の西洋体験
■授業の概要	この授業では中国人ジャーナリスト鄒韜奮の名作旅行記『萍踪寄語』を選読することを通じて、近代中国知識人の西洋体験を実証的に把握したうえでその世界観や中国意識に触れる一方、高度な中国語長文を解読・翻訳する基礎力を養う。毎回の授業では、長文における複雑な構造・複文・メタファー表現・諺・四字熟語を中心とした解説を行い、また教員と受講生ならびに受講生同士で一緒に中国語⇔日本語の翻訳・要約の訓練に取り組む。
■授業の目的・ねらい	近代中国知識人の西洋体験を実証的に把握したうえでその世界観や中国意識に触れる一方、高度な中国語長文を解読・翻訳する総合力を養う。
■到達目標	1、鄒韜奮の西洋体験という一事例から近代中国知識人の世界観や中国意識に関する基礎的な理解を得る。|2、1930 年代を中心に近現代中国と諸外国との関連性に関する初歩的な認識を得る。|3、高度な中国語長文を解読・翻訳する総合力を身につけることを目標とする。具体的には、①長文における主語・述語・目的語の所在（或いは省略現象）に関する明確な判断力；②複文を含めた読み書き及び口頭発表の能力；③「反問」やメタファーなどを含めた表現（文章）にある「隠れ情報」の読み解く能力；④諺・四字熟語に対する一定の運用力；⑤中国語⇔日本語の翻訳に必要な高度な読解力と表現力。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	20	

授業科目	中国現代演習（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	白須　留美			シラバスグループ	N33400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	民国期の大衆小説を読む
■授業の概要	本授業では、民国期に出版された「偵探小説（探偵小説）」を読みます。|民国期の探偵小説家の一人である程小青の『霍桑探案集』から選読します。
■授業の目的・ねらい	本授業では、読解を中心として行います。|予め音読及び日本語訳の準備をしっかりと行うのが望ましい。|翻訳を進める際に、わからない単語があれば辞書などを使用して調べておくこと。|また辞書にない場合でも自分なりに考えておいて、授業に臨んでください。
■到達目標	民国期の小説に触れることにより、語彙を増やし、表現に慣れる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	30	
･授業内発表	70	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国古典演習（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	大井　さき			シラバスグループ	N34200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『唐詩三百首』選読
■授業の概要	事前に配布する講義資料『唐詩三百首』（一部）を読みます。|資料の本文を熟読し、日本語訳と訓読（もしくはピンイン）を作成したうえで出席してください。授業中に指名します。|※盛唐の詩人（王維・李白・杜甫ら）や中唐の詩人（韓愈・白居易ら）の作品から３首ほど選んで読んでいく予定です。
■授業の目的・ねらい	『唐詩三百首』に収められた詩を読むことによって、中国の韻文（詩）の初歩的な読解力を養成することを目的とします。|予習をしないで出席し、担当の義務を果たせなかった受講生は、評価の対象にはなりません。
■到達目標	中国古典詩の基礎的読解力を身につけると共に、詩体や詩型、古代中国語についての初歩的理解ができていることを到達目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	授業の終了時にリポート課題について説明します。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	中国古典演習（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤澤　次郎			シラバスグループ	N34400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	古代漢語（所謂漢文）を読解する為の基礎力を養成する。
■授業の概要	古代漢語（所謂漢文）の最も基本的な文献は経書と正史である。哲学・歴史・文学を問わず、中国古典について学ぶ場合、この二種の文献を避けて通ることは出来ない。それ故この授業では、正史の中の漢書を選択し、その文章の読解を通して、どのように古代漢語を読み解くかを学習する。\授業に於いては、現代中国語音による直読と日本語による訓読を併用するので、その双方の準備が必要である。
■授業の目的・ねらい	古代漢語（所謂漢文）を読解する為の基礎力を身につけること。
■到達目標	古代漢語（所謂漢文）を読解する為の基礎力を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	授業中に指示。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	書道（夏期)1 週_A クラス_対面				単位	4
担当者	阪口　雅則			シラバスグループ	M19210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	〈楷書〉|　楷書の学習|〈行書〉|　行書の学習|〈草書〉|　草書を学習する|〈仮名〉|　仮名の書を学ぶ
■授業の概要	〈楷書〉|中学書写、および高校芸術科書道の基礎の上に立って、幅広く楷書を学ぶため基本的な用筆法や造形の取り方を実践的に学習します。|書への興味と関心を育みながら、北魏の楷書や初唐の三大家の楷書を臨書します。|〈行書〉|王羲之と顔眞卿の行書の二大潮流を基本に触れ、更にこの二家の影響を受けた米帯を学習し、基礎的な行書法を習得する。|〈草書〉|草書の概説と実習|〈仮名〉|仮名の美を臨書を中心に探り、その表現方法を学ぶ。中学校の書写・高等学校の芸術科書道における仮名の書の指導に必要な基礎知識・技術を講義・実習を通して習得する。
■授業の目的・ねらい	〈楷書〉|多様な古典の鑑賞と臨書を通して、楷書の基本的な用筆法及び造形力を身につける。加えて、楷書の魅力・興味を育む。|〈行書〉|行書の基本用筆、造形法、章法を学ぶことに加え、時代、人、風土、資料により書風の違いが表れることを臨書を通じて理解する。|〈草書〉|草書の成り立ちから、草書学習の基礎的な技法を学ぶ。|〈仮名〉|仮名の書への理解を深め、古筆を踏まえた仮名文字を美しく表現する。
■到達目標	〈楷書〉|楷書の用筆法、造形の取り方をマスターする。|〈行書〉|半紙臨書により行書の基本的特徴、書風の相違を理解する。半切臨書により、表現方法を理解する。|〈草書〉|草書の字形やくずし方を身に付ける。(自分の氏名も含む)|〈仮名〉|仮名の実技指導を行うために必要な技術・知識が修得できたか。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	100%	
･その他	0%	

授業科目	書道（夏期)2 週_A クラス_対面				単位	4
担当者	野村　ひかり			シラバスグループ	M19220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	楷書・行書の学習と学習法（王羲之の古典「蘭亭序」を中心に、行書を理解)・草書・仮名の学習
■授業の概要	〈楷書〉|大筆と小筆で楷書の基本的な筆使いを身につけ、唐の三大家（欧陽詢・虞世南・？遂良）の楷書表現を理解し、半紙と半切に書く。|〈行書〉|王羲之「蘭亭序」を中心に臨書し、行書の理解を深める。|〈草書〉|草書の古典から、その価値や美的な所的な表現を学ぶ。|〈仮名〉|仮名の美を臨書を中心に探り、その表現方法を学ぶ。中学校の書写、高等学校の芸術科書道における仮名の書の指導に必要な基礎知識・技術を講義・実習を通して習得する。
■授業の目的・ねらい	〈楷書〉|楷書を書くことが出来ることで、指導者としても正確な指導が出来、伝統文化の継承を担う。|〈行書〉|行書の特徴を理解する。また持続的に自学できるようにする。自分の学びを人に伝えられるようにする。|〈草書〉|基本的な草書である王羲之十七帖や千字文より臨書を通して技術を学ぶ。|〈仮名〉|仮名の書への理解を深め、古筆を踏まえた仮名文字を美しく表現する。
■到達目標	〈楷書〉|楷書の筆使いを身につけ、大筆と小筆で様々なサイズの紙にまとめることができる。|〈行書〉|・行書の特徴を理解し、人に伝えられるようにする。|・自分なりの行書を書ける。|〈草書〉|草書の美しさ、特徴を学び表現につなげる。臨書することから文字を読む、慣れる。|〈仮名〉|仮名の実技指導を行うために必要な技術・知識が習得できたか。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%‖	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	100%	
･その他	0%	

授業科目	書道（秋期)A クラス_対面				単位	4
担当者	長尾　秀則			シラバスグループ	M19300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	楷書・行書・草書の学習、仮名に親しむ
■授業の概要	〈楷書〉|楷書の字体すなわち「文字の骨格」には様々な変化、変遷があり、それらを踏まえた上で、各々の字形や運筆、線筆の特色を理解し、臨書、創作を行う。|創造的な表現の能力と鑑賞の能力を育成するとともに、書の伝統と文化を尊重し、技法や知識だけでなく、書を愛好する心情を培い、自己の感性を高めていく。|〈行書〉|書道史上、高く評価されている行書古典の代表作品を取り上げ、臨書を通して、行書の多様な美を学んでいく。|〈草書〉|草書の実技指導をする。孫過庭の『書譜』を中心として、その用筆法を解説し、半紙・半切（画仙紙）に書くことにより、草書の基本を身につける指導する。|〈仮名〉|下記の 5 回の授業のテーマに沿って仮名の書の概説するとともに実技指導を行う。
■授業の目的・ねらい	〈楷書〉|書は漢字文化圏固有の東洋的な芸術であることをふまえ、今日の学校教育における教科の位置付けを念頭に置き、高等学校でも芸術科目の一つとなっていることから、文字を書くことの用と美の二重性を理解する。|〈行書〉|行書の特徴や美を探究し、技法を習得することで表現力、書法、理論の向上を目指す。|〈草書〉|草書学習の基本は、まずその用筆法を会得することにある。孫過庭の『書譜』は、起筆や転折等の筆づかいがわかりやすく、草書学習の基礎を学ぶための最上のテキストなので精習する。|〈仮名〉|高等学校芸術科書道の仮名の書の指導に必要な基礎的知識・技術を講義・実習を通して修得する。
■到達目標	〈楷書〉|書写書道教育を通じ、書が単に表現技術だけで成立するものではなく心情や人間性と深く関わるものであり、長い歴史とともに書があり、現在がある、ことを感じ、理解する。|〈行書〉|行書書法の基礎的な表現を学ぶ。各種行書古典の特徴を鑑賞し、行書の多様な美を理解し、継続して学習する意欲を身につける。|〈草書〉|草書学習の基礎をしっかりと身につける。|〈仮名〉|仮名の成立・種類について理解するとともに、仮名の基本用筆を用いて平仮名の単体・変体仮名・連綿、そして古筆の臨書ができるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	100%	
･その他	0%	授業への取り組み姿勢を含む。

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	松本　真治			シラバスグループ	P01200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	英米学科では何を学ぶのか
■授業の概要	この講義では英米学科での学習領域を、具体的な事例に基づきながら紹介する。１）英米文学（詩と小説)、２）英米文化、３）英語教育（日本英語教育史、第２言語習得理論、早期英語教育)、の３領域にわたって紹介する。|　受講生には、各自の興味のある分野についての簡単なプレゼンテーションを個人、あるいはグループ単位でしてもらう。|
■授業の目的・ねらい	英米学科で学習するということは、単に英語を学習するだけではない。英語を使って何かを学習もしくは研究するということである。したがって各受講生がそれぞれ興味関心を抱く分野を発見し、その研究方法の初歩を獲得することがこの講義の目的である。|
■到達目標	ある特定の研究テーマを提示し、それについてプレゼンテーションやリポート作成ができること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	ディスカッションおよびプレゼンテーション
･授業内課題	20	
･その他	0	事前提出課題

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	持留　浩二			シラバスグループ	P01300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	英米学科での学び
■授業の概要	英米学科で学ぶ導入となるような授業を行う。まずはレポートや論文の書き方の基礎を学ぶ。次に言語学のテキストや文学のテキストを使用し、英米学科で学ぶ内容に関する知識を深めてもらい、学んだことについて独自の意見を交えて論理的･客観的に論じてもらう。
■授業の目的・ねらい	まずは配付した教材の内容を英語でよく読み理解できること、その上で自分独自の意見を説得力をもって発表することができるようになることが目標。
■到達目標	まずはテキストをその細部まで正確に読解できていること。その上で、自分独自の視点から作品解釈ができること。さらに、自分の解釈を客観的に説得力をもって論じることができることが目標。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	English Conversation 1 （春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	William Fennell			シラバスグループ	P06100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Daily Life Activities and Making Plans）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation 1 （春期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	Thomas Nishikawa			シラバスグループ	P06101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Daily Life Activities and Making Plans）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation 1 （春期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	Robert Condon			シラバスグループ	P06102	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Daily Life Activities and Making Plans）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation 1 （春期)D クラス_オンライン				単位	1
担当者	Stephen Richmond			シラバスグループ	P06103	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Daily Life Activities and Making Plans）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation 1 （春期)E クラス_オンライン				単位	1
担当者	Gabi Lipede			シラバスグループ	P06104	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Daily Life Activities and Making Plans）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation 1 （夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	赤澤　ｼﾞｬｺﾊﾞ			シラバスグループ	P06200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Daily Life Activities and Making Plans）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation 1 （夏期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	Joe Cohen			シラバスグループ	P06201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Daily Life Activities and Making Plans）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation 1 （夏期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	Robert Condon			シラバスグループ	P06202	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Daily Life Activities and Making Plans）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation 1 （夏期)D クラス_オンライン				単位	1
担当者	Alan Mulvey			シラバスグループ	P06203	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Daily Life Activities and Making Plans）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation 1 （冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	Joe Cohen			シラバスグループ	P06400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Daily Life Activities and Making Plans）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation 1 （冬期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	赤澤　ｼﾞｬｺﾊﾞ			シラバスグループ	P06401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Daily Life Activities and Making Plans）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation 1 （冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	Stephen Richmond			シラバスグループ	P06402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Daily Life Activities and Making Plans）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation 1 （冬期)D クラス_オンライン				単位	1
担当者	Alan Mulvey			シラバスグループ	P06403	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Daily Life Activities and Making Plans）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	Hamish Pidgeon			シラバスグループ	P07100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Theme: Work and Personal Development)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation２（春期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	Henry Foster			シラバスグループ	P07101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Theme: Work and Personal Development)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation２（春期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	ｼﾞｮｰ ｼﾞｪｲｺﾌﾞｽﾞ			シラバスグループ	P07102	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Theme: Work and Personal Development)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation２（春期)D クラス_オンライン				単位	1
担当者	Thomas Nishikawa			シラバスグループ	P07103	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Theme: Work and Personal Development)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation２（春期)E クラス_オンライン				単位	1
担当者	Gabi Lipede			シラバスグループ	P07104	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Theme: Work and Personal Development)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	ｼﾞｮｰ ｼﾞｪｲｺﾌﾞｽﾞ			シラバスグループ	P07200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Theme: Work and Personal Development)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation２（夏期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	Thomas Nishikawa			シラバスグループ	P07201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Theme: Work and Personal Development)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation２（夏期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	John F. Ashburne			シラバスグループ	P07202	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Theme: Work and Personal Development)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation２（夏期)D クラス_オンライン				単位	1
担当者	William Fennell			シラバスグループ	P07203	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Theme: Work and Personal Development)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation２（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	Henry Foster			シラバスグループ	P07400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Theme: Work and Personal Development)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation２（冬期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	John F. Ashburne			シラバスグループ	P07401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Theme: Work and Personal Development)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation２（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	Thomas Nishikawa			シラバスグループ	P07402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Theme: Work and Personal Development)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation２（冬期)D クラス_オンライン				単位	1
担当者	ｼﾞｮｰ ｼﾞｪｲｺﾌﾞｽﾞ			シラバスグループ	P07403	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Theme: Work and Personal Development)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation３（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	William Fennell			シラバスグループ	P08210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation３（夏期)1 週_B クラス_オンライン			単位	1
担当者	Joe Cohen			シラバスグループ	P08211
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation３（夏期)1 週_C クラス_オンライン			単位	1
担当者	Robert Condon			シラバスグループ	P08212
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation３（夏期)1 週_D クラス_オンライン				単位	1
担当者	ｼﾞｮｰ ｼﾞｪｲｺﾌﾞｽﾞ			シラバスグループ	P08213	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation３（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	John F. Ashburne			シラバスグループ	P08220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation３（夏期)2 週_B クラス_オンライン			単位	1
担当者	Joe Cohen			シラバスグループ	P08221
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation３（夏期)2 週_C クラス_オンライン			単位	1
担当者	Hamish Pidgeon			シラバスグループ	P08222
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation３（夏期)2 週_D クラス_オンライン			単位	1
担当者	Alan Mulvey			シラバスグループ	P08223
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation３（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	John F. Ashburne			シラバスグループ	P08400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation３（冬期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	赤澤　ｼﾞｬｺﾊﾞ			シラバスグループ	P08401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation３（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	William Fennell			シラバスグループ	P08402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation３（冬期)D クラス_オンライン				単位	1
担当者	Joe Cohen			シラバスグループ	P08403	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation４（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	Stephen Richmond			シラバスグループ	P09210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Social Problems and Global Issues)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation４（夏期)1 週_B クラス_オンライン			単位	1
担当者	Thomas Nishikawa		シラバスグループ	P09211	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Social Problems and Global Issues)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation４（夏期)1 週_C クラス_オンライン			単位	1
担当者	Alan Mulvey			シラバスグループ	P09212
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Social Problems and Global Issues)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation４（夏期)1 週_D クラス_オンライン			単位	1
担当者	Hamish Pidgeon			シラバスグループ	P09213
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Social Problems and Global Issues)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation４（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	赤澤　ｼﾞｬｺﾊﾞ			シラバスグループ	P09220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Social Problems and Global Issues)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation４（夏期)2 週_B クラス_オンライン			単位	1
担当者	Henry Foster			シラバスグループ	P09221
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Social Problems and Global Issues)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation４（夏期)2 週_C クラス_オンライン			単位	1
担当者	Robert Condon			シラバスグループ	P09222
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Social Problems and Global Issues)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation４（夏期)2 週_D クラス_オンライン			単位	1
担当者	Stephen Richmond			シラバスグループ	P09223
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Social Problems and Global Issues)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation４（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	Thomas Nishikawa			シラバスグループ	P09400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Social Problems and Global Issues)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation４（冬期)B クラス_オンライン			単位	1
担当者	Stephen Richmond		シラバスグループ	P09401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Social Problems and Global Issues)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation４（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	Alan Mulvey			シラバスグループ	P09402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Social Problems and Global Issues)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation４（冬期)D クラス_オンライン				単位	1
担当者	Hamish Pidgeon			シラバスグループ	P09403	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Social Problems and Global Issues)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Listening Skills 1 （春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大内　和正			シラバスグループ	P10100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	リスニング・スキル養成
■授業の概要	英文を見れば内容が理解できるけれど、音声だけだと聞き取れないと感じている人は多いのではないだろうか。とくにネイティブスピーカー同士の会話になるとリスニングはかなり難しくなる。この授業では、ニュース、ドキュメンタリー、プレゼンテーション、映画など多種多様な教材を使用し、英語でよく起こる音変化のパターンを学びながら、精聴・シャドーイングトレーニングを行っていく。|
■授業の目的・ねらい	音変化の理解と精聴・シャドーイング練習を通じて、リスニング力の向上を図る。
■到達目標	自然なスピードの英語をすばやく正確に聞き取ることができる。また聞き取った内容の要点を正確に把握することができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験として実施する。|
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills 1 （春期)B クラス_オンライン			単位	1
担当者	衣川　二三		シラバスグループ	P10101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	「心の平和」を英語で学ぶ
■授業の概要	資本主義が発展するにつれ、「人間の心」より、経済活動を中心とする「世の中の現象」に重きを置く生活が、昨今当たり前だと思われがちである。特に、我が国では、敗戦で心を痛めた世代からの負の遺産を未だに受け継いでいる傾向が強い。とりわけパンデミック以降は、これまで置き去りにされてきた「心」の問題は看過できない程、深刻化している。当講義では、世界各国の「心の平和」に関連する人々の意見を聞き、英語のリスニング力を向上させる。又、聞き取った内容をヒントとして、各個人がこの激動の時代をより良く生きるための方法を考察し、英語で発信する力を養う。
■授業の目的・ねらい	英語を第一言語とする国のみならず、第二言語とする国の話者による会話やスピーチを視聴することで、世界中で話される様々な英語に対応する力を養成する。講義では内容の骨子・詳細情報の聞き取りに加え、内容について他者と意見交換をすることにより、自身の考察を深める。「心の平和」を阻害する要因と解決策についての会話やスピーチを通じて、個々の今後の人生をより良くするヒントを掴んだ上で、他者にその考えを共有してゆく人材を育成することを目的とする。
■到達目標	ナチュラルスピードで話される英語の会話、スピーチを、正確に聞き取ることができる。また、聞き取った内容の要点を把握することが出来る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	Score on Final Listening and Writing Test (in final session)
･授業内発表	30	
･授業内試験	40	Active Participation in Listening Tasks and Activities
･授業内課題	0	Scores on Listening and Vocabulary Quizzes during Lectures
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills 1 （春期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	ミューリ　真貴子			シラバスグループ	P10102	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	リスニング・スキル養成
■授業の概要	この授業では異文化理解を通じて、英語のリスニング力を養う。テキストでは、世界中の様々な若者が、いろいろなトピックに関して個人的な体験・見方から述べ、さらに自国の文化をどのように見ているのかを語る。彼らの意見を聞くことで、異文化理解に関する知見を広げる。
■授業の目的・ねらい	聴解力の向上と異文化に対する意識と理解の向上を目指す。また、講義後も自らリスニング力を向上させる術を身に着けることを目的とします。
■到達目標	英語で語られる他者の異文化に関する意見・考えを、正確に聞き取ることができる。また聞き取った内容の要点を把握することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験を実施する。
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	講義中に発言の機会をもうけます。
･授業内課題	30%	
･その他	0	チャットを利用して、ディクテーションを行う場合があります。

授業科目	English Listening Skills 1 （夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	Stephen Richmond			シラバスグループ	P10200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日々の生活に必要な会話力を延ばすためのリスニング力を培う。
■授業の概要	この授業では、実生活に馴染みの深いトピックを扱った会話を多く聞くことによって、聞きとる力を養いながら、同時に相手によりよく伝わる話し方を習得する。各ユニットではまず、トピックの内容と語彙に関する音声を聞きとり、さらにそのトピックに関する会話やモノローグを聞きとる練習をする。おしまいにはそれを応用した発音練習、書きとり練習、会話練習をすることによって包括的な英語力を養う。
■授業の目的・ねらい	The main goal of this course is for students to improve their English listening skills in a variety of contexts such as daily conversation, classroom English, news stories, announcements and interviews. Through activities such as gap-fill exercises, pair interviews and dictation, students will gain confidence in listening and speaking.
■到達目標	日常的な会話を聞き取ることができる。より高度なコミュニケーションのための語彙を身につける。リスニングという受動的な作業を媒介にして、それを実際の会話やプレゼンテーションといった能動的な行為へ応用することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	20	
･リポート試験(SR 履修)	0	Score on Final Listening Test (in final session)
･授業内発表	30	
･授業内試験	20	Active Participation in Listening Tasks and Activities
･授業内課題	30	Scores on Listening and Vocabulary Quizzes during Lessons
･その他	0	Performance (Scores) of In-Lesson Tasks and Activities

授業科目	English Listening Skills 1 （夏期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	Alan Mulvey			シラバスグループ	P10201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	Listening
■授業の概要	Synchronous Interactive Classes in which the students participation is assessed. A focus on Listening. Active Learning is experienced though the use of interactive group workshops. Students will be given tasks including teaching small groups. Active class teaching skills are developed. ‖Students will be assessed for level and placed in groupwork at their level. Listening, speaking and group teaching will be at the student's own level. Level appropriate materials will be used throughout.
■授業の目的・ねらい	Building the listening skills teachers need for the conducive language learning and language teaching environment.
■到達目標	Students will be assessed pre and post training and graded on their own personal improvement. In addition, attendance and participation are graded.

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	30%	
･授業内試験	20%	Various presentation performance tasks will be given as part of groupwork in every class unit which are graded.
･授業内課題	40%	An online check quiz will be posted in class
･その他	10%	Various tasks will be given as part of groupwork in every class unit which are graded.

授業科目	English Listening Skills 1 （夏期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	Katherin Nako			シラバスグループ	P10202	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	リスニング・スキル養成
■授業の概要	英文を見れば内容が理解できるけれど、音声だけだと聞き取れないと感じている人は多いのではないだろうか。とくにネイティブスピーカー同士の会話になるとリスニングはかなり難しくなる。|この授業では、ニュース、ドキュメンタリー、プレゼンテーション、映画など多種多様な教材を使用し、英語でよく起こる音変化のパターンを学びながら、リスニング・シャドーイングトレーニングを行う。
■授業の目的・ねらい	音変化の理解とリスニング・シャドーイング練習を通じて、リスニング力の向上を図る。
■到達目標	1. Students learn the characteristics of changes such as connection, omission, assimilation, and weakening of sounds peculiar to English, and get used to sound changes.|2. Students can listen and understand almost exactly what is said in English in various situations such as news, documentaries, presentations, and movies.|3.Students can understand the points of sound changes and listening practice methods, and use them to study English outside of lecture time.

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。|リスニング力を問うもの(70%)、リスニング力向上法についての自分の意見(30%)。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills 1 （秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大内　和正			シラバスグループ	P10300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	リスニング・スキル養成
■授業の概要	英文を見れば内容が理解できるけれど、音声だけだと聞き取れないと感じている人は多いのではないだろうか。とくにネイティブスピーカー同士の会話になるとリスニングはかなり難しくなる。この授業では、ニュース、ドキュメンタリー、プレゼンテーション、映画など多種多様な教材を使用し、英語でよく起こる音変化のパターンを学びながら、精聴・シャドーイングトレーニングを行っていく。|
■授業の目的・ねらい	音変化の理解と精聴・シャドーイング練習を通じて、リスニング力の向上を図る。
■到達目標	自然なスピードの英語をすばやく正確に聞き取ることができる。また聞き取った内容の要点を正確に把握することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験として実施する。|
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills 1 （秋期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	ミューリ　真貴子			シラバスグループ	P10301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	リスニング・スキル養成
■授業の概要	この授業では異文化理解を通じて、英語のリスニング力を養う。テキストでは、世界中の様々な若者が、いろいろなトピックに関して個人的な体験・見方から述べ、さらに自国の文化をどのように見ているのかを語る。彼らの意見を聞くことで、異文化理解に関する知見を広げる。
■授業の目的・ねらい	聴解力の向上と異文化に対する意識と理解の向上を目指す。また、講義後も自らリスニング力を向上させる術を身に着けることを目的とします。
■到達目標	英語で語られる他者の異文化に関する意見・考えを、正確に聞き取ることができる。また聞き取った内容の要点を把握することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験を実施する。
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	講義中に発言の機会をもうけます。
･授業内課題	30%	
･その他	0	チャットを利用して、ディクテーションを行う場合があります。

授業科目	English Listening Skills 1 （秋期)C クラス_オンライン			単位	1
担当者	衣川　二三		シラバスグループ	P10302	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	「心の平和」を英語で学ぶ
■授業の概要	資本主義が発展するにつれ、「人間の心」より、経済活動を中心とする「世の中の現象」に重きを置く生活が、昨今当たり前だと思われがちである。特に、我が国では、敗戦で心を痛めた世代からの負の遺産を未だに受け継いでいる傾向が強い。とりわけパンデミック以降は、これまで置き去りにされてきた「心」の問題は看過できない程、深刻化している。当講義では、世界各国の「心の平和」に関連する人々の意見を聞き、英語のリスニング力を向上させる。又、聞き取った内容をヒントとして、各個人がこの激動の時代をより良く生きるための方法を考察し、英語で発信する力を養う。
■授業の目的・ねらい	英語を第一言語とする国のみならず、第二言語とする国の話者による会話やスピーチを視聴することで、世界中で話される様々な英語に対応する力を養成する。講義では内容の骨子、詳細情報の聞き取りのみならず、内容について他者と意見交換をすることにより、自身の考察を深める。「心の平和」を阻害する要因と解決策についての会話やスピーチを通じて、個々の今後の人生をより良くするヒントを掴んだ上で、他者にその考えを共有してゆく人材を育成することを目的とする。
■到達目標	ナチュラルスピードで話される英語の会話、スピーチを、正確に聞き取ることができる。また、聞き取った内容の要点を把握することが出来る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	Score on Final Listening and Writing Test (in final session)
･授業内発表	30	
･授業内試験	40	Active Participation in Listening Tasks and Activities
･授業内課題	0	Scores on Listening and Vocabulary Quizzes during Lessons
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills２（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	子安　加奈子		シラバスグループ	P11210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	リスニング・スキル養成：異文化理解を通じて
■授業の概要	この授業では TOEIC 形式の演習で英語のリスニング力を養います。授業前半は、テキストを用いて、TOEIC のリスニング部門の形式に慣れることを目標に、音声と文字で確認しつつ学習していきます。（テキストのレベル設定はこれから 500 点を目指す初級者用です。上級者用ではないので注意してください。）後半は、ビデオやプリントなどで、英語の基礎や英語学習に関する様々な知識を楽しく増やしていきたいと思います。
■授業の目的・ねらい	英語で語られる様々な話題を、正確に聞き取ることができる。また聞き取った内容の要点を把握することができる。ツールとしての英語に焦点を当てるだけではなく、英語を通して異文化の生活や考え方にも触れることを目的とする。
■到達目標	様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することが出来る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	S 履修ですがオンライン授業ですのでリポート試験となります。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills２（夏期)1 週_B クラス_オンライン			単位	1
担当者	Mark Dodds		シラバスグループ	P11211	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	British Council の動画を柱にした、リスニング力の養成
■授業の概要	British Counil の配信動画を中心に、リスニング力の向上を目指す。講義では動画を視聴し、演習問題を通じて、テーマの概要、詳細の聞き取りを強化する。また、ディスカッションを通じて、動画の内容に沿った意見を発信する力を養う。地球の中で起こっている様々な事象や、地球に住む様々な住人や場所について知り、理解し、発信して行くことにより、多様性や環境の問題に対処する術を自ら考察し、行動に繋げる契機を持ってもらう。
■授業の目的・ねらい	日本という島国に住み、又、長きにわたる海禁体制がとられた歴史的な背景の影響で、わが国とそれ以外の国の人々との間では多くの点で認識の隔たりが見られる。同時に、同じ地球に住む人間として捉えた場合、多くの共通項も見られる。この講義では、人間・動物・自然に関する動画を視聴することにより、このような認識の隔たりと共通項を知り、問題点の改善点や解決方法を探り、又、自国の良さを再考察する契機を持ってもらう。英語のリスニング力を高めるのと同時に、講義内のディスカッションを通じて能動的に意見を発信する力も養成する。講義で培った力により、今後も継続的に世界や自国の諸問題、人間といういきものを理解することについて、論理的に考え、発信する人材を育てる。
■到達目標	老若男女がナチュラルスピードで話す英語を、正確に聞き取ることができる。また、聞き取った内容の要点を把握することが出来る。 |We will spend time on discussions and play language games for a break. |Students should actively participate in the lessons, not be afraid to make mistakes, and enjoy the interesting materials.

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	Score on Final Listening and Writing Test (in final session)
･授業内発表	40	
･授業内試験	30	Active Participation in Listening Tasks and Activities
･授業内課題	0	Scores on Listening and Vocabulary Quizzes during Lessons
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills２（夏期)1 週_C クラス_オンライン			単位	1
担当者	大内　和正		シラバスグループ	P11212	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	リスニング・スキル養成
■授業の概要	この授業では、主に BBC 制作のドキュメンタリー番組を教材として使用し、英語聞き取りの練習を行う。ペアワークによる音変化のチェック、グループワークによる内容の理解チェックを行いながら、ドキュメンタリー番組の内容に関して、重要な点を聞き取るスキルを身につける。
■授業の目的・ねらい	音変化の理解と精聴・シャドーイング練習を通じて、リスニング力の向上を図る。
■到達目標	自然なスピードの英語をすばやく正確に聞き取ることができる。また聞き取った内容の要点を正確に把握することができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験として実施する。|
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills２（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	衣川　二三			シラバスグループ	P11220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	British Council の動画を柱にした、リスニング力の養成
■授業の概要	British Counil の配信動画を中心に、リスニング力の向上を目指す。講義では動画を視聴し、演習問題を通じて、テーマの概要、詳細の聞き取りを強化する。また、ディスカッションを通じて、動画の内容に沿った意見を発信する力を養う。地球の中で起こっている様々な事象や、地球に住む様々な住人や場所について知り、理解し、発信して行くことにより、多様性や環境の問題に対処する術を自ら考察し、行動に繋げる契機を持ってもらう。
■授業の目的・ねらい	日本という島国に住み、又、長きにわたる海禁体制がとられた歴史的な背景の影響で、わが国とそれ以外の国の人々との間では多くの点で認識の隔たりが見られる。同時に、同じ地球に住む人間として捉えた場合、多くの共通項も見られる。この講義では、人間・動物・自然に関する動画を視聴することにより、このような認識の隔たりと共通項を知り、問題点の改善点や解決方法を探り、又、自国の良さを再考察する契機を持ってもらう。英語のリスニング力を高めるのと同時に、講義内のディスカッションを通じて能動的に意見を発信する力も養成する。講義で培った力により、今後も継続的に世界や自国の諸問題、人間といういきものを理解することについて、論理的に考え、発信する人材を育てる。

■到達目標	老若男女がナチュラルスピードで話す英語を、正確に聞き取ることができる。 また、聞き取った内容の要点を把握することが出来る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	Score on Final Listening and Writing Test (in final session)
･授業内発表	40	
･授業内試験	30	Active Participation in Listening Tasks and Activities
･授業内課題	0	Scores on Listening and Vocabulary Quizzes during Lessons
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills２（夏期)2 週_C クラス_オンライン				単位	1
担当者	子安　加奈子			シラバスグループ	P11222	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	リスニング・スキル養成：異文化理解を通じて
■授業の概要	この授業では TOEIC 形式の演習で英語のリスニング力を養います。授業前半は、テキストを用いて、TOEIC のリスニング部門の形式に慣れることを目標に、音声と文字で確認しつつ学習していきます。（テキストのレベル設定はこれから 500 点を目指す初級者用です。上級者用ではないので注意してください。）後半は、ビデオやプリントなどで、英語の基礎や英語学習に関する様々な知識を楽しく増やしていきたいと思います。
■授業の目的・ねらい	英語で語られる様々な話題を、正確に聞き取ることができる。また聞き取った内容の要点を把握することができる。ツールとしての英語に焦点を当てるだけではなく、英語を通して異文化の生活や考え方にも触れることを目的とする。
■到達目標	様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することが出来る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	S 履修ですがオンライン授業ですのでリポート試験となります。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills２（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	子安　加奈子			シラバスグループ	P11300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	リスニング・スキル養成：異文化理解を通じて
■授業の概要	この授業では TOEIC 形式の演習で英語のリスニング力を養います。授業前半は、テキストを用いて、TOEIC のリスニング部門の形式に慣れることを目標に、音声と文字で確認しつつ学習していきます。（テキストのレベル設定はこれから 500 点を目指す初級者用です。上級者用ではないので注意してください。）後半は、ビデオやプリントなどで、英語の基礎や英語学習に関する様々な知識を楽しく増やしていきたいと思います。
■授業の目的・ねらい	英語で語られる様々な話題を、正確に聞き取ることができる。また聞き取った内容の要点を把握することができる。ツールとしての英語に焦点を当てるだけではなく、英語を通して異文化の生活や考え方にも触れることを目的とする。
■到達目標	様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することが出来る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	S 履修ですがオンライン授業ですのでレポート試験となります。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills２（秋期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	Katherin Nako			シラバスグループ	P11301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	Listening Skill Development:　Through Cross -Cultural Understanding (2)
■授業の概要	In this class, you will develop your English listening skills through cross-cultural understanding. Listen to the opinions and stories of young people from various countries on several topics, practice your listening skills, and at the same time practice communicating based on what you hear. We will also point you to a variety of free learning resources on the Internet. Finally, create your own mini-lesson.
■授業の目的・ねらい	Aims to improve listening comprehension and awareness and understanding of different cultures. Also, after the lecture, the purpose is to acquire the technique to improve listening ability by oneself.
■到達目標	Can accurately listen to other people's opinions and thoughts about different subjects and can easily ask and answer questions.‖Can learn to listen to English in Songs/ Poetry/ News/ Stories with various accents and expressions|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	listening test
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	mini lesson plan
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	English Listening Skills２（秋期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	山本　元子			シラバスグループ	P11302	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	リスニング・スキルを養う：異文化理解を通して
■授業の概要	映画「We Bought a Zoo」を英語教材化したテキストと、実際の DVD 映像を使用しながらリスニングのコツを学び、スキルを高める活動を繰り返し行うことで、楽しみながらリスニングの力を高めることを目的としています。あわせて、テキスト（映画）の内容をより深く理解するために、関連する（異）文化理解につながる解説も随所で行います。このことにより、映画の登場人物のせりふを単に聞いてわかるようになるだけでなく、そのせりふで映画製作者は何を意図したのか、といったところまでいくつかの場面については説明する予定です。　|
■授業の目的・ねらい	映像を使用して、ネイティブスピーカーの日常のやりとり（会話）を聞くことに慣れること。リスニングスキルを高めるための総合的な活動と異文化理解の解説をふまえ、テキスト（映像）の理解を深めること。
■到達目標	ネイティブスピーカーの日常のやりとり（会話）を聞くことに慣れること。|リスニングスキルを高めるための総合的な活動が行えること。|異文化理解の解説をふまえ、テキスト（映像）の理解を深めること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	50	
･授業内試験	50|	テキストの問題に解答（回答）したり、（英語による）意見発表、|リスニングに伴う諸活動への参加度合などを含みます。
･授業内課題	0	最終コマに実施するテストです。|スクーリングで学んだ内容の総括と簡単な応用問題です。|大学の指示による方法で提出をしていただきます。
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills３（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	Henry Foster			シラバスグループ	P12100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	Approaches to practicing and teaching English listening
■授業の概要	In this class we will consider various approaches for practicing listening skills and how these approaches can be incorporated into listening lessons. We will do this by experiencing listening lesson cycles consisting of pre-listening, listening, and post-listening activities, and then analyze the approaches that were used in each cycle. The class will culminate with students working in small groups to design a listening lesson plan, and then presenting their plan to their classmates.
■授業の目的・ねらい	The aim of the course is to give students various ideas for practicing English listening and an understanding of the principles and rationales for choosing specific approaches.
■到達目標	After completing the course, students will have an awareness of various approaches to studying listening.

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	100%	
･その他	0%	

授業科目	English Listening Skills３（春期)B クラス_オンライン			単位	1
担当者	Mark Dodds		シラバスグループ	P12101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	世界の様々な英語が聞き取れるようになる。
■授業の概要	実社会においては、英語によるコミュニケーションを取る相手はネイティブスピーカーだけではなく、英語を母語としない人々であることも多い。そのような場合に備え、本授業では世界の様々な国の人々の英語を聞き、「標準的な」発音とどのような違いがあるのかについて考察する。それに先立ち、音声や「標準的な」英語の例としてアメリカ英語やイギリス英語の音声について概観する。|授業の後半では、グループごとに選択したテキストの音声について、話者の母語からどのような影響を受けていると考えられるかについて検討し、発表してもらう。
■授業の目的・ねらい	・多様な英語を聞き取れるようになる。|・自分の英語を顧みて、相手に伝わる英語の発音について考える。|・音声について学ぶ。
■到達目標	・ネイティブスピーカーでない人の英語を聞き取れるようになる。|・自分の英語を顧みて、相手に伝わる英語の発音ができるようになる。|・音声について知識を身に着ける。　|We will spend time on discussions and play language games for a break.|Students should actively participate in the lessons, not be afraid to make mistakes, and enjoy the interesting materials.

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	授業内発表に関するレポート
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills３（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	吉川　裕介			シラバスグループ	P12200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	オーバーラッピングとシャドーイングによるリスニング力の向上
■授業の概要	TOEIC 対策用のテキストを使用し、音読を実践することでリスニング力の向上を目指す。英語を英語のまま理解し、聞き取った音声に即座に対応できる瞬発力を養う。また、別途資料を配布し、様々なトピックに関する英文に触れ、幅広い内容について英語で理解できる素地を養う。
■授業の目的・ねらい	オーバーラッピングとシャドーイングを徹底し、自ら実践して継続的に英語力を向上する姿勢を醸成する。
■到達目標	ナチュラルスピードで読まれる英語を正確に英語で理解することができる。また、聞き取った内容の要点を把握することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills３（夏期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	John F. Ashburne			シラバスグループ	P12201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	世界の様々な英語が聞き取れるようになる。
■授業の概要	実社会においては、英語によるコミュニケーションを取る相手はネイティブスピーカーだけではなく、英語を母語としない人々であることも多い。そのような場合に備え、本授業では世界の様々な国の人々の英語を聞き、「標準的な」発音とどのような違いがあるのかについて考察する。それに先立ち、音声や「標準的な」英語の例としてアメリカ英語やイギリス英語の音声について概観する。|授業の後半では、グループごとに選択したテキストの音声について、話者の母語からどのような影響を受けていると考えられるかについて検討し、発表してもらう。
■授業の目的・ねらい	・多様な英語を聞き取れるようになる。|・自分の英語を顧みて、相手に伝わる英語の発音について考える。|・音声について学ぶ。
■到達目標	・ネイティブスピーカーでない人の英語を聞き取れるようになる。|・自分の英語を顧みて、相手に伝わる英語の発音ができるようになる。|・音声について知識を身に着ける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	授業内発表に関するレポート
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills３（冬期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	衣川　二三		シラバスグループ	P12400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	シャドーイングを用いた、リスニング力の向上
■授業の概要	SDGs17 の目標をテーマとした記事を中心に、リスニング力の向上を目指す。講義では語彙強化、骨子の聞き取り、シャドーイングを行うことで、日本語を介さずに英語を英語のまま理解する力を養ってゆく。また提示される目標について理解した内容を、自分の頭で解釈し、発信する力を持つことで SDGs17 の目標を自分の課題として捉える契機としてもらう。
■授業の目的・ねらい	人類が安定して暮らすために、世界の諸問題を集約し、具体的な解決策として SDGs17 の目標が定められた。目標項目の一部を音声で確認し、シャドーイングの手法で聴きとる力を強化する。「英語を学ぶ」ことと「英語で学ぶ」ことにより、言語学習にとどまらず、異なる文化圏で共有する問題を深く理解し、身近な解決策について考え、発信できる人材を育むことが講義の目的である。
■到達目標	2~3 段落程度で話される、英語のプレゼンテーションを正確に聞き取ることができる。また、聞き取った内容の要点を把握することが出来る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	Score on Final Test (in final session)
･授業内発表	30	
･授業内試験	40	Active Participation in Listening Tasks and Activities
･授業内課題	0	Scores on Listening and Vocabulary Quizzes during Lectures
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills３（冬期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	吉川　裕介			シラバスグループ	P12401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	オーバーラッピングとシャドーイングによるリスニング力の向上
■授業の概要	TOEIC 対策用のテキストを使用し、音読を実践することでリスニング力の向上を目指す。英語を英語のまま理解し、聞き取った音声に即座に対応できる瞬発力を養う。また、別途資料を配布し、様々なトピックに関する英文に触れ、幅広い内容について英語で理解できる素地を養う。
■授業の目的・ねらい	オーバーラッピングとシャドーイングを徹底し、自ら実践して継続的に英語力を向上する姿勢を醸成する。
■到達目標	ナチュラルスピードで読まれる英語を正確に英語で理解することができる。また、聞き取った内容の要点を把握することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英米文学講読１（春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	氏木　道人		シラバスグループ	P21100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	英語教育（外国語教育・学習）に関連した文献の講読
■授業の概要	本授業では、外国語教育（主に英語教育）に関連した内容について英語で書かれた文献を読む。専門的な文書をできるだけ正確に理解することを試みると同時に外国語教育に関する研究分野についての理解を深める。講義では英文読解だけではなく文献から得られた情報を基に身近な外国語習得の問題点について議論し意見交換を行いたい。第二言語（外国語）習得に関する専門的で多少難易度の高い文献を読むので英語教育や外国語習得に関心のある方に受講して頂きたい。
■授業の目的・ねらい	英語で書かれた専門的な文書を読み外国語教育、英語教育の分野に関する理解を深める。また難易度の高い英語の論文を概要をとらえながら読むことを体験する。‖評価基準：講読した英文の内容についての理解度を確認する試験を行う。その他、オンラインクラス内でのグループ課題、Mini-presentation により評価する。|
■到達目標	１）難易度の高い英語の文書を読み概要を捉えることができる。|２）外国語教育に関する研究分野について知る。|３）文献から得られた情報を基に身近な外国語習得の問題点について知る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	授業で読んだテキストの内容についてのリポート試験
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	担当箇所の内容についてグループで発表
･授業内課題	20%	
･その他	0%	グループ作業への参加度と貢献度、mini-presentation

授業科目	英米文学講読１（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	持留　浩二			シラバスグループ	P21200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	文学作品に描かれているメッセージを読み解く解釈の作業をする。文学作品には、その表面に描かれているもの以上のものが描かれている。読者は意識的、あるいは無意識的にそういうメッセージを受け取っているのである。文学研究の面白さはそういうメッセージを暗号解読のような作業を通して見つけていくところにある。自分の持っているいろんな知識を生かして独自の説得力ある解釈を行ってもらいたい。今回の授業ではシャーウッド・アンダスンの「兄弟たち」(″Brothers″)を読む。
■授業の概要	まずはじっくりと一つ一つの言葉のニュアンスを正確に把握し、作品を丁寧に精読していく。その上で、作品解釈の作業に入っていく。この作品のメッセージは何なのか、受講生それぞれの独特な視点から独創的な読みを展開してもらいたい。
■授業の目的・ねらい	まずは配付した教材の内容を英語でよく読み理解できること、その上で自分独自の意見を説得力をもって発表することができるようになることが目標。
■到達目標	まずはテキストをその細部まで正確に読解できていること。その上で、自分独自の視点から作品解釈ができること。さらに、自分の解釈を客観的に説得力をもって論じることができることが目標。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英米文学講読２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	ﾒﾄﾞﾛｯｸ 皆尾 麻弥			シラバスグループ	P22100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	Vladimir Nabokov の短編"Details of a Sunset"を読む
■授業の概要	ロシア生まれの作家ウラジーミル・ナボコフ（Vladimir Nabokov, 1899-1977)による短編"Details of a Sunset"を読む。ナボコフの作品は一つ一つの言葉と詳細を丁寧に拾い上げて読むことを読者に要求する。授業では、そのような丁寧な読みを実践する。それに加え、ナボコフの文学の特徴について考察する。
■授業の目的・ねらい	ナボコフが要求するような、丁寧な読みを実践することで得られる喜びを感じる。やや難しめの文章を読み解くことによって論理的思考力を養う。
■到達目標	一つ一つの言葉に注意して丁寧に読む力をつける。ナボコフ文学の特徴について理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	40	
･授業内試験	60	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英米文学講読２（夏期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	櫻井　和美		シラバスグループ	P22200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	“The Cloud” を読む
■授業の概要	イギリス・ロマン派の代表詩人、Percy Bysshe Shelley によって書かれた “The Cloud” を読む。 ｜ 各作品の試訳の後、ディスカッション形式で授業を進めていく。
■授業の目的・ねらい	英文学史の一時代なるイギリス・ロマン主義についての理解を深める。
■到達目標	Shelley の詩の特徴が作品の中にどのように表れているのかについての認識を深めること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	英米文学講読３（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	早瀬　和栄			シラバスグループ	P23200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	リーディングにおける総合理解力を養う
■授業の概要	それぞれのレッスンには１０問ほど問題が設定されています。学課のテーマに即しながら、英文を丁寧に翻訳していきます。最初の授業で名簿順に和訳の担当を決めますが、わからないところはクラス全体でサポートしていきますので楽しく受講して下さい。文法事項の復習も行います。
■授業の目的・ねらい	テキストにとりあげられている名文や誤訳をとおして、翻訳技術の向上を目指します。
■到達目標	英文をわかりやすい日本語に翻訳することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	20%	
･その他	0%	

授業科目	英米文学講読３（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	野谷　啓二			シラバスグループ	P23300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	シェイクスピアにつぐ、愛の詩人ジョン・ダンの詩を精読する。
■授業の概要	エリザベス朝からジェイムズ朝において活躍した多才な John Donne の人間的相貌について理解を試みた後、彼の代表的詩を精読していく。イタリアから始まったルネサンスがようやくにして北の島国イングランドの到達したということはどのようなことなのか、受講者と一緒に考える。彼から 400 年後の時代に生きる私たちにダンは何を語りかけて来るだろうか。|
■授業の目的・ねらい	・正確な英文読解力を身に着けること。|・文法知識の定着を確認すること。|・ダンの詩の文化史的意義について理解すること。
■到達目標	・精読の方法を身に着ける。|・精読に必要な文法知識を身に着ける。|・ダンの時代のイングランドの文化的状況についてある程度の知識を身に着ける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	授業で取り上げたダンの詩のうちから一篇を選び、それについての分析的ショートペーパー書いてもらう。
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英米文学講読４（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	持留　浩二			シラバスグループ	P24200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	文学作品に描かれているメッセージを読み解く解釈の作業をする。文学作品には、その表面に描かれているもの以上のものが描かれている。読者は意識的、あるいは無意識的にそういうメッセージを受け取っているのである。文学研究の面白さはそういうメッセージを暗号解読のような作業を通して見つけていくところにある。自分の持っているいろんな知識を生かして独自の説得力ある解釈を行ってもらいたい。今回の授業では、J・D・サリンジャーの「対エスキモー戦争の前夜」(″Just Before the War with the Eskimos″)を読む。
■授業の概要	まずはじっくりと一つ一つの言葉のニュアンスを正確に把握し、作品を丁寧に精読していく。その上で、作品解釈の作業に入っていく。この作品のメッセージは何なのか、受講生それぞれの独特な視点から独創的な読みを展開してもらいたい。
■授業の目的・ねらい	まずは配付した教材の内容を英語でよく読み理解できること、その上で自分独自の意見を説得力をもって発表することができるようになることが目標。
■到達目標	まずはテキストをその細部まで正確に読解できていること。その上で、自分独自の視点から作品解釈ができること。さらに、自分の解釈を客観的に説得力をもって論じることができることが目標。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英米文学講読４（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	野谷　啓二			シラバスグループ	P24300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	20 世紀の代表的文人 T.S.エリオット（Eliot, 1888-1965）の詩を読む
■授業の概要	20 世紀最大の文学運動であったモダニズムの代表的詩人、T.S.エリオットの The Ariel Poems から数編を選び精読します。本授業の実施日が 12 月 21 日と 22 日であることもあり、クリスマスをテーマにする詩を丹念に読み、キリスト教文化圏の属する知識人の思い・感情に触れ、その言語表現を味わることには小さくない意味があると考えます。これらの作品をよく理解するためには、背景となっているキリスト教の基本事項を知る必要がありますので、詩を読む前にこうした知識についても解説します。
■授業の目的・ねらい	言語表現の最高形態である詩と向かい合い、詩の世界に自身を投入する経験を持ち、異文化を少しでも理解することをめざす。
■到達目標	テキストを緻密に読むことを通して、これまで培ってきた文法、語彙、読解の力をさらに磨く。既知の語であっても、文脈に応じて、辞書を丹念に引き、英語の読解力を高める。さらに異文化についての理解を高める。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験を実施する。
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	授業での発表、質問やコメントを評価する。
･授業内課題	0%	
･その他	30%	

授業科目	英米文学講読５（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	長谷川　雅世			シラバスグループ	P25200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	主にイギリスの児童文学作品を読むことを通して、英語と欧米の文化について学ぶ。
■授業の概要	本講義では、『不思議の国のアリス』や『くまのプーさん』や『メアリー・ポピンズ』をはじめとするイギリスの児童文学の抜粋を原文で読む。それを通して、英語の読解力を養う。同時に、イギリスの児童文学に関する知識を養い、それぞれの作品が書かれた時代背景やイギリスにおける子どものイメージの変遷等を理解する。また、授業中のディスカッションを通して、文学作品を批評し、自らの意見を明快かつ説得力を持たせて表現できるようにする。| 本講義では、授業中にグループ・ワーク（事前に出す課題への回答をグループで話し合いまとめたり、和訳のチェックをしたりする）を行うので、この授業を受講する者はこのグループ・ワークに積極的かつ必ず参加すること。 |
■授業の目的・ねらい	1)英米の児童文学作品を原文で読むことを通して、英語の読解力を身につける。|2)自ら行間を読んで解釈し、それを他の受講生に伝えることを通して、自分の意見をわかりやすく述べる能力を高める。|3)講義を通して、作品の背景、特にイギリスの社会や文化についての知識を養う。
■到達目標	1)英語の読解力を養う。|2)作品を解釈し、それを自らの言葉で表現できる。|3)主にイギリスの文化や歴史に関する知識を養う。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	レポート課題です。授業で学んだことと「児童文学」についての受講者の考えを述べる内容になります。具体的な課題内容は、初回の授業で提示します。
･授業内発表	40%	
･授業内試験	0	予習への取り組みと授業への積極的な参加度。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英米文学講読５（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	早瀬　和栄			シラバスグループ	P25300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	コロンブスに関するエッセイを読む
■授業の概要	テキストのエッセイを和訳します。エッセイの内容理解を深めるために、イディオムも大切なところはポイントを押さえて取り組みます。授業では CD や DVD を使用して、英語への関心を向上させます。|
■授業の目的・ねらい	英文で書かれたエッセイを自然な日本語に訳せるようになるのが目標です。
■到達目標	テキストの英文エッセイを丁寧に読みながら、内容を正確に理解できるようになるのが目標です。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	英米文学講読６（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大内　和正			シラバスグループ	P26200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	イギリスの作家モームの『サミング・アップ』を読む
■授業の概要	The Summing Up は、20 世紀イギリスを代表する小説家・劇作家の一人である Somerset Maugham が 64 歳の時に発表した自伝的エッセイである。本書において、かれは独自の鋭い観察眼をそれまでの自らの生涯に向け、人生、読書、演劇、文学、哲学など多岐にわたる話題について、自分自身の考えを率直に語っている。|この講義では、モームの思想を理解する上で最も重要だが理解しにくい、最終部分の哲学談義（第 63 章から 77 章）を扱う。テキストを精読しながら、かれの諸作品の中に凝縮されている洞察力の背景をさぐっていきたい。
■授業の目的・ねらい	テキストをできるだけ正確に読むトレーニングを行うとともに、その内容をしっかりと吟味することを通じて、英語の読解力と作品理解力を高める。
■到達目標	テキストの中に数多くでてきた重要構文を理解するとともに、モーム思想の核心に触れることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英米文学講読６（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	冨永　和元			シラバスグループ	P26300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	H.D.Thoreau のエッセイを読む
■授業の概要	１９世紀アメリカの思想家 H.D.Thoreau の代表的エッセイ Civil Disobedience および A Plea for Captain John Brown を精読し、19 世紀のアメリカについて、また自由・民主主義などの問題や自然との共生をテーマに考える。
■授業の目的・ねらい	単に英文を読む力だけではなく、物事を深く考え分析する力を養う。また、グループで調べ・考察し自分たちの考えをまとめるトレーニングを行う。
■到達目標	アメリカの古典文学を原文で読むことができる。また、時代背景などを考えて、作品のテーマについて考えることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	全授業への参加および、成果の発表に基づいて評価する
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	英米文学演習１（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	吉川　裕介			シラバスグループ	P27200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	認知言語学についての基本概念と分析手法を学ぶ
■授業の概要	テキストの内容に即して認知言語学の解説と演習問題の答えの確認を中心に進める。必ずテキストの本文を予習してからスクーリングに臨むようにしてください。認知言語学では、「ことば」は世界を意味として捉える認知の営みを可能にする「記号」として考えます。この記号を使って私たちは世界のあらゆる事象を記述し、伝達し、記録してきました。すなわち、「ことば」について知ることは私たち人間についての本質を知ることに他なりません。認知言語学の枠組みを通して、私たちが当たり前のように使っている「ことば」の不思議に迫りましょう。
■授業の目的・ねらい	認知言語学の基本的な立場を理解し、その枠組みに従ってことばに関する現象を分析できる素地を養う。
■到達目標	①認知言語学の基本的な見方ができる。\\|②認知言語学の基本的な見方を日常的なことばの中に適応できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英米文学演習１（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	早瀬　和栄			シラバスグループ	P27300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	英国に関するエッセイを読む
■授業の概要	テキストの Warm up にある単語の確認をしてからエッセイの和訳をします。最初の授業で名簿順にエッセイの和訳担当を決めますが、わからないところはクラス全体でサポートしますので楽しく受講して下さい。Exercises の問題は解説します。授業では CD や DVD を使用して、英語への関心を向上させます。|
■授業の目的・ねらい	英文で書かれたエッセイを自然な日本語に訳せるようになるのが目標です。
■到達目標	テキストの英文エッセイを丁寧に読みながら、内容を正確に理解できるようになるのが目標です。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	英米文学演習２（夏期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	櫻井　和美		シラバスグループ	P28200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	“Mont Blanc” について
■授業の概要	イギリス・ロマン派の代表詩人、Percy Bysshe Shelley によって書かれた “Mont Blanc” を考察する。 ｜ 作品の概要理解の後、ディスカッション形式で授業を進めていく。
■授業の目的・ねらい	英文学史の一時代なるイギリス・ロマン主義への理解を深める。
■到達目標	Shelley の詩の特徴が作品の中にどのように表れているのかについての認識を深めること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	英米文学演習２（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	松本　真治			シラバスグループ	P28300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	現代詩の金字塔『荒地』（The Waste Land）を読む
■授業の概要	20 世紀英詩の最高峰とも言うべき、T.S.エリオット（T.S.Eliot）の『荒地』The Waste Landを読む。この詩は第一次大戦後のヨーロッパの精神風土の荒廃を浮き彫りにした作品である。５部から構成されているが、「四月はもっとも残酷な月だ」ではじまる、死をテーマにした第１部 ″The Burial of the Dead″「死者の埋葬」を中心に、全体像にも触れながら、『荒地』の世界を平易に紹介する。
■授業の目的・ねらい	この授業の目的は、翻訳や批評文を参照しながら、『荒地』を原文で理解できることである。またグループでディスカッションした後、個人またはグループ単位でプレゼンテーションをする。
■到達目標	１）批評家の評論に左右されずに、自分自身で『荒地』の解釈ができること。|２）『荒地』に関して、独自の視点・解釈からプレゼンテーションおよびリポート作成ができること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	ディスカッションおよびプレゼンテーション
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	英米文学演習３（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	稲永　知世			シラバスグループ	P29100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	言語とジェンダー研究に関連した文献の講読、およびジェンダーに関わる談話事象のデータ分析・考察（1）
■授業の概要	私たちは、日常やりとりしている会話、そして読み書きしている文章の中で巧妙に構築されているジェンダーイデオロギーやジェンダーアイデンティティにさらされている。また、私たちは、その知識に基づいて、ジェンダーイデオロギーを表象したり、ジェンダーアイデンティティを実践したりするのである。|そこで、本授業では、言語とジェンダー研究について英語で書かれた文献を講読し、日常やりとりしている会話、そして読み書きしている文章の中で構築されているジェンダーイデオロギーやジェンダーアイデンティティについて考える。|※オンライン授業となるため、リポート試験とする。
■授業の目的・ねらい	（1）言語とジェンダー研究に関連した文献を講読することにより、英文構造を論理的かつ正確に読み解く力を向上させる。|（2）ジェンダーに関わる実際の談話事象を分析・考察することにより、日常やりとりしている会話、そして読み書きしている文章の中で巧妙に構築されているジェンダーイデオロギーやジェンダーアイデンティティについて考える力を養う。
■到達目標	（1）英文を論理的および正確に解釈する力をつけることができる。|（2）言語とジェンダーに関する知見をもとに、普段見聞きすることばの中に構築されているジェンダーイデオロギーやジェンダーアイデンティティについて深く考えることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	言語とジェンダーに関わる実際のデータを探し、どのようにジェンダーアイデンティティが構築され、ジェンダーイデオロギーが表象されているのかを分析･考察するレポートを課します。|言語とジェンダー研究の流れ、社会構築主義的アプローチについて理解できているか、また、分析に基づいた独自の考察を行うことができているのかを判断します。
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	事前配布資料の課題にどの程度取り組めているのかに基づいて判断します。
･授業内課題	20	
･その他	0	当日配布資料の課題にどの程度取り組めているのかに基づいて判断します。

授業科目	英米文学演習３（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	野谷　啓二			シラバスグループ	P29200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	20 世紀後半のアメリカ短編小説の白眉 Cathedral を精読する。
■授業の概要	レイモンド・カーヴァー(Raymond Carver, 1938-1988)は万年ノーベル文学賞候補の村上春樹の翻訳によって日本の読者にもよく知られている小説家です。この授業では 1983 年に発表された Cathedral「大聖堂」を精読していきます。この短編小説について村上はつぎのように書いています。‖　誰もが認めるカーヴァーの傑作のひとつ。妻の知り合いの盲人が家に泊まりに来ることになって、「盲人なんてうっとうしいな」と内心ぶつぶつ思っているご主人だが、来てみるとこれが予想とはかけ離れたタイプの盲人で、それで余計に調子が狂ってしまう。しかし話はこの「困ったぶり」を描くいつものカーヴァレスクなトラジコメディーにはとどまらない。ふとしたきっかけで、物語の流れは二人の「赤の他人」のあいだに生じる奇跡的な魂の融合のようなものへと突き進んでいく。モーツアルトふうにいえば、肝のところで例の決定的な転調が訪れるのだ。そのはっと澄み渡る意外な一瞬が素晴らしい。これは何というか、立派な人が一人もでてこない立派な小説です。‖　さて皆さんはどう読む？
■授業の目的・ねらい	Cathedral を精読することで、英文読解力を強化すること、さらに現代アメリカの人間模様を理解することを目的とする。
■到達目標	文法的に正確な英文読解ができるようになる。アメリカ口語英語表現に慣れる。現代アメリカ社会の人間像について、ある程度の知識を持つことができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	レポート試験
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英米文学演習４（春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	清川　祥恵		シラバスグループ	P30100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	チョーサーの『カンタベリ物語』の現代英語訳（散文）を読む。
■授業の概要	たとえ現代英語訳であっても、英文学の祖としていまなお存在感の大きい作品に触れることで、なにが「伝統」の源流と見なされているのかを感じることができる。いくつかの短篇が収録された教科書を使用するが、授業回数の都合上、別欄に記載の通り、前半部分を中心として学習する。
■授業の目的・ねらい	中世の文学作品を通して英文学の伝統とはなにかを考える機会とし、当時の時代・社会背景をふまえた読解をめざして精読する。辞書を引いて単純に日本語を当てはめるのではなく、その語や表現が当時の文脈ではなにを意味していたのか、きちんと注意を払ってテクストを読めるようになる。
■到達目標	(1) 英文学の伝統についての知識を深めることができる。|(2) 異なる文化・時代背景を理解してテクストを読解することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英米文学演習４（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	稲永　知世			シラバスグループ	P30200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	言語とジェンダー研究に関連した文献の講読、およびジェンダーに関わる談話事象のデータ分析・考察（2）
■授業の概要	私たちは、日常やりとりしている会話、そして読み書きしている文章の中で巧妙に構築されているジェンダーイデオロギーやジェンダーアイデンティティにさらされている。また、私たちは、その知識に基づいて、ジェンダーイデオロギーを表象したり、ジェンダーアイデンティティを実践したりするのである。|そこで、本授業では、言語とジェンダー研究について英語で書かれた文献を講読し、日常やりとりしている会話、そして読み書きしている文章の中で構築されているジェンダーイデオロギーやジェンダーアイデンティティについて考える。|※オンライン授業となるため、リポート試験とする。
■授業の目的・ねらい	（1）言語とジェンダー研究に関連した文献を講読することにより、英文構造を論理的かつ正確に読み解く力を向上させる。|（2）ジェンダーに関わる実際の談話事象を分析・考察することにより、日常やりとりしている会話、そして読み書きしている文章の中で巧妙に構築されているジェンダーイデオロギーやジェンダーアイデンティティについて考える力を養う。
■到達目標	（1）英文を論理的および正確に解釈する力をつけることができる。|（2）言語とジェンダーに関する知見をもとに、普段見聞きすることばの中に構築されているジェンダーイデオロギーやジェンダーアイデンティティについて深く考えることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	言語とジェンダーに関わる実際のデータを探し、どのようにジェンダーアイデンティティが構築され、ジェンダーイデオロギーが表象されているのかを分析･考察するレポートを課します。|言語とジェンダー研究の流れ、社会構築主義的アプローチについて理解できているか、また、分析に基づいた独自の考察を行うことができているのかを判断します。
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	事前配布資料の課題にどの程度取り組めているのかに基づいて判断します。
･授業内課題	20	
･その他	0	当日配布資料の課題にどの程度取り組めているのかに基づいて判断します。

授業科目	英米文学演習５（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	櫻井　和美			シラバスグループ	P31200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	“The Mask of Anarchy” について
■授業の概要	イギリス・ロマン派の代表詩人、Percy Bysshe Shelley によって書かれた “The Mask of Anarchy” を考察する。 ｜ 作品の概要理解の後、ディスカッション形式で授業を進めていく。
■授業の目的・ねらい	英文学史の一時代なるイギリス・ロマン主義への理解を深める。
■到達目標	Shelley の詩の特徴が作品の中にどのように表れているのかについての認識を深めること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	英米文学演習５（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	ﾒﾄﾞﾛｯｸ 皆尾 麻弥			シラバスグループ	P31300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	英米作家短編を読む|
■授業の概要	『英米ミニ短編集』に収録された 3 作品を精読したのち、作品の構造、テーマ、疑問点、等についてグループ討論する。
■授業の目的・ねらい	英米の優れた短編を読み、短編特有の統一感、構造について学ぶ。英語の文学作品を読解することで論理的な思考力を養う。
■到達目標	英文を正確に読むことができる。|短編の構造について気づくことができる。|書かれていない情報について推測しながら読むことができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英米文学演習６（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	Henry Foster			シラバスグループ	P32200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	A critical reading of The Lorax by Dr. Seuss
■授業の概要	Dr. Seuss is a giant in the field of illustrated children's literature. His work is mostly written in anapestic tetrameter, which accounts partially for its appeal to children. However, Dr. Seuss's use of rhymed verse also helps explain why his work is not well known in Japan; it is difficult to translate effectively. We will read the text and discuss the themes and issues to be found therein, as well as analyzing Dr. Seuss's use of rhythm, rhyme, and nonsense words.
■授業の目的・ねらい	This course aims to give you an appreciation for the work of Dr. Seuss, a basic understanding of the mechanics of rhythm and rhyme in English poetry, and an opportunity to critically discuss the environmental issues touched on in the text.
■到達目標	After completing this course, students will be able to:|-- analyze the metrical structure of the verse|-- find and appreciate the rhyming words|-- relate the themes in the story to real-world issues|-- critically analyze the author's use of imagery, humor, irony, nonsense words, and other literary devices

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	
･授業内発表	40%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	英米文学演習６（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	氏木　道人			シラバスグループ	P32400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	英語教育（外国語教育・学習）に関連した文献の講読
■授業の概要	本授業では、外国語教育（主に英語教育）に関連した内容について英語で書かれた文献を読む。専門的な文書をできるだけ正確に理解することを試みると同時に外国語教育に関する研究分野についての理解を深める。講義では英文読解だけではなく文献から得られた情報を基に身近な外国語習得の問題点について議論し意見交換を行いたい。第二言語（外国語）習得に関する専門的で多少難易度の高い文献を読むので英語教育や外国語習得に関心のある方に受講して頂きたい。
■授業の目的・ねらい	英語で書かれた専門的な文書を読み外国語教育、英語教育の分野に関する理解を深める。また難易度の高い英語の論文を概要をとらえながら読むことを体験する。‖評価基準：講読した英文の内容についての理解度を確認する試験を行う。その他、オンラインクラス内でのグループ課題、ミニプレゼンテーション等により評価する。|
■到達目標	１）難易度の高い英語の文書を読み概要を捉えることができる。|２）外国語教育に関する研究分野について知る。|３）文献から得られた情報を基に身近な外国語習得の問題点について知る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	
･授業内発表	20%	授業で読んだテキストの内容についてのリポート試験
･授業内試験	0%	担当箇所の内容についてグループで発表
･授業内課題	20%	
･その他	0%	グループ作業への参加度と貢献度、ミニ討論

授業科目	英語圏文化の理解（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	稲永　知世			シラバスグループ		
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	英語圏文化（主に英米文化）に対する理解を言語を通したアプローチによって深める。
■授業の概要	英語圏文化（主に英米文化）に対する理解を言語を通したアプローチによって深め、かつこれらの文化を日本の文化と比較したうえで、異文化理解についての考えを深める。‖第1?3 回では、異文化理解と異文化交流（Cross-Cultural Understanding and Exchange）に関する説明をもとに、グループ・ワーク、ディスカッションによる意見交換を行う。‖第 4?9 回では、さまざまなハンドアウト、DVD などの映像資料に基づき、英語圏文化に関する歴史と現在の姿を紹介する。
■授業の目的・ねらい	1）世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。|2）多様な文化的背景を持った人々について知識を深めることにより、文化の多様性及び異文化交流の意義について理解する。|3）英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。
■到達目標	” and “English-Speaking Cultures.” （Instructor: Fennell; Language: English）|第 2 回　Part A:　Reading and Discussion on “Culture

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	授業に先立ち、英語圏の文化について、本やインターネットなどを活用して少しでも学習しておくことが望ましい。|また、授業後、適宜参考文献を参照しながら、配布資料をしっかりと復習し、リポート課題に取り組むこと。	
･リポート試験(SR 履修)	辞書を必ず手元に置いておくようにしてくだ	

	さい。電子辞書でも手引きの辞書でも構いません。	
·授業内発表	0%	
·授業内試験	50%	
·授業内課題	20%	異文化理解と異文化交流、英語圏文化（政治、ジェンダー問題、ビジネスと経済、メディアなど）などに関するリポートを課す。
·その他	0%	ディスカッションにおける意見交換の際に積極的に発言しているかどうかに基づいて判断する。

授業科目	英語圏文化の理解（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	稲永　知世			シラバスグループ		
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	英語圏文化（主に英米文化）に対する理解を言語を通したアプローチによって深める。
■授業の概要	英語圏文化（主に英米文化）に対する理解を言語を通したアプローチによって深め、かつこれらの文化を日本の文化と比較したうえで、異文化理解についての考えを深める。‖第1?3 回では、異文化理解と異文化交流（Cross-Cultural Understanding and Exchange）に関する説明をもとに、グループ・ワーク、ディスカッションによる意見交換を行う。‖第 4?9 回では、さまざまなハンドアウト、DVD などの映像資料に基づき、英語圏文化に関する歴史と現在の姿を紹介する。
■授業の目的・ねらい	1）世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。|2）多様な文化的背景を持った人々について知識を深めることにより、文化の多様性及び異文化交流の意義について理解する。|3）英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。
■到達目標	” and “English-Speaking Cultures.” （Instructor: Fennell; Language: English）|第 2 回　Part A:　Reading and Discussion on “Culture

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	授業に先立ち、英語圏の文化について、本やインターネットなどを活用して少しでも学習しておくことが望ましい。|また、授業後、適宜参考文献を参照しながら、配布資料をしっかりと復習し、リポート課題に取り組むこと。	
･リポート試験(SR 履修)	辞書を必ず手元に置いておくようにしてくだ	

	さい。電子辞書でも手引きの辞書でも構いません。	
·授業内発表	0%	
·授業内試験	50%	
·授業内課題	20%	異文化理解と異文化交流、英語圏文化（政治、ジェンダー問題、ビジネスと経済、メディアなど）などに関するリポートを課す。
·その他	0%	ディスカッションにおける意見交換の際に積極的に発言しているかどうかに基づいて判断する。

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	松本　真治			シラバスグループ	P01200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	英米学科では何を学ぶのか
■授業の概要	この講義では英米学科での学習領域を、具体的な事例に基づきながら紹介する。１）英米文学（詩と小説)、２）英米文化、３）英語教育（日本英語教育史、第２言語習得理論、早期英語教育)、の３領域にわたって紹介する。|　受講生には、各自の興味のある分野についての簡単なプレゼンテーションを個人、あるいはグループ単位でしてもらう。|
■授業の目的・ねらい	英米学科で学習するということは、単に英語を学習するだけではない。英語を使って何かを学習もしくは研究するということである。したがって各受講生がそれぞれ興味関心を抱く分野を発見し、その研究方法の初歩を獲得することがこの講義の目的である。|
■到達目標	ある特定の研究テーマを提示し、それについてプレゼンテーションやリポート作成ができること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	ディスカッションおよびプレゼンテーション
･授業内課題	20	
･その他	0	事前提出課題

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	持留　浩二			シラバスグループ	P01300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	英米学科での学び
■授業の概要	英米学科で学ぶ導入となるような授業を行う。まずはレポートや論文の書き方の基礎を学ぶ。次に言語学のテキストや文学のテキストを使用し、英米学科で学ぶ内容に関する知識を深めてもらい、学んだことについて独自の意見を交えて論理的･客観的に論じてもらう。
■授業の目的・ねらい	まずは配付した教材の内容を英語でよく読み理解できること、その上で自分独自の意見を説得力をもって発表することができるようになることが目標。
■到達目標	まずはテキストをその細部まで正確に読解できていること。その上で、自分独自の視点から作品解釈ができること。さらに、自分の解釈を客観的に説得力をもって論じることができることが目標。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	English Conversation ２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	Hamish Pidgeon			シラバスグループ	P07100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話 （Theme: Work and Personal Development）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。 毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。 授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ２（春期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	Henry Foster			シラバスグループ	P07101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話 （Theme: Work and Personal Development）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。 毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。 授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ２（春期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	ｼﾞｮｰ ｼﾞｪｲｺﾌﾞｽﾞ			シラバスグループ	P07102	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話 （Theme: Work and Personal Development）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。 毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。 授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ２（春期)D クラス_オンライン				単位	1
担当者	Thomas Nishikawa			シラバスグループ	P07103	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話 （Theme: Work and Personal Development）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。 毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。 授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ２（春期)E クラス_オンライン			単位	1
担当者	Gabi Lipede		シラバスグループ	P07104	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話 （Theme: Work and Personal Development）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。 毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。 授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	ｼﾞｮｰ ｼﾞｪｲｺﾌﾞｽﾞ			シラバスグループ	P07200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話 （Theme: Work and Personal Development）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。 毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。 授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ２（夏期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	Thomas Nishikawa			シラバスグループ	P07201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Theme: Work and Personal Development)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ２（夏期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	John F. Ashburne			シラバスグループ	P07202	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話　(Theme: Work and Personal Development)
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ２（夏期)D クラス_オンライン				単位	1
担当者	William Fennell			シラバスグループ	P07203	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話 （Theme: Work and Personal Development）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。 毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。 授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ２（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	Henry Foster			シラバスグループ	P07400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話 （Theme: Work and Personal Development）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。 毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。 授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ２（冬期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	John F. Ashburne			シラバスグループ	P07401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話 （Theme: Work and Personal Development）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。 毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。 授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ２（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	Thomas Nishikawa			シラバスグループ	P07402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話 （Theme: Work and Personal Development）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。 毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。 授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation 2（冬期)D クラス_オンライン				単位	1
担当者	ｼﾞｮｰ ｼﾞｪｲｺﾌﾞｽﾞ			シラバスグループ	P07403	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話 （Theme: Work and Personal Development）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。 毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。 授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ３（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	William Fennell		シラバスグループ	P08210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ３（夏期)1 週_B クラス_オンライン			単位	1
担当者	Joe Cohen			シラバスグループ	P08211
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ３（夏期)1 週_C クラス_オンライン			単位	1
担当者	Robert Condon			シラバスグループ	P08212
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ３（夏期)1 週_D クラス_オンライン			単位	1
担当者	ｼﾞｮｰ ｼﾞｪｲｺﾌﾞｽﾞ			シラバスグループ	P08213
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ３（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	John F. Ashburne			シラバスグループ	P08220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ３（夏期)2 週_B クラス_オンライン			単位	1
担当者	Joe Cohen			シラバスグループ	P08221
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ３（夏期)2 週_C クラス_オンライン			単位	1
担当者	Hamish Pidgeon			シラバスグループ	P08222
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ３（夏期)2 週_D クラス_オンライン			単位	1
担当者	Alan Mulvey			シラバスグループ	P08223
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ３（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	John F. Ashburne			シラバスグループ	P08400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ３（冬期)B クラス_オンライン			単位	1
担当者	赤澤　ｼﾞｬｺﾊﾞ			シラバスグループ	P08401
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ３（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	William Fennell			シラバスグループ	P08402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Conversation ３（冬期)D クラス_オンライン				単位	1
担当者	Joe Cohen			シラバスグループ	P08403	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日常生活に活かせる英会話（Theme: Social Activities and Special Events）
■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。　毎回の授業にあたっては、ロールプレーやプレゼンテーション等のタスクを事前に準備することが求められる。　授業の活動としては、ペアもしくはグループでの会話やプレゼンテーションが中心となるが、reading や writing そして小テストで補強する。毎回の授業でのパフォーマンスを評価するとともに、受講生の英会話力の進歩度を測定するためのテストを実施する。
■授業の目的・ねらい	受講生がすでに身につけている英語の運用能力、英語の表現や単語のまとまった使い方を、実際の場面に現れる対話に適用して活用できるようになることを目指す。
■到達目標	日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。|日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションをすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	35%	
･授業内試験	30%	Performance in Communication Activities, Tasks, and Presentations
･授業内課題	35%	Test
･その他	0%	Performance on Exercises and Assigned Work

授業科目	English Listening Skills 1 (春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	大内　和正		シラバスグループ	P10100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	リスニング・スキル養成
■授業の概要	英文を見れば内容が理解できるけれど、音声だけだと聞き取れないと感じている人は多いのではないだろうか。とくにネイティブスピーカー同士の会話になるとリスニングはかなり難しくなる。この授業では、ニュース、ドキュメンタリー、プレゼンテーション、映画など多種多様な教材を使用し、英語でよく起こる音変化のパターンを学びながら、精聴・シャドーイングトレーニングを行っていく。|
■授業の目的・ねらい	音変化の理解と精聴・シャドーイング練習を通じて、リスニング力の向上を図る。
■到達目標	自然なスピードの英語をすばやく正確に聞き取ることができる。また聞き取った内容の要点を正確に把握することができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験として実施する。|
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills 1 (春期)B クラス_オンライン			単位	1
担当者	衣川　二三			シラバスグループ	P10101
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	「心の平和」を英語で学ぶ
■授業の概要	資本主義が発展するにつれ、「人間の心」より、経済活動を中心とする「世の中の現象」に重きを置く生活が、昨今当たり前だと思われがちである。特に、我が国では、敗戦で心を痛めた世代からの負の遺産を未だに受け継いでいる傾向が強い。とりわけパンデミック以降は、これまで置き去りにされてきた「心」の問題は看過できない程、深刻化している。当講義では、世界各国の「心の平和」に関連する人々の意見を聞き、英語のリスニング力を向上させる。又、聞き取った内容をヒントとして、各個人がこの激動の時代をより良く生きるための方法を考察し、英語で発信する力を養う。
■授業の目的・ねらい	英語を第一言語とする国のみならず、第二言語とする国の話者による会話やスピーチを視聴することで、世界中で話される様々な英語に対応する力を養成する。講義では内容の骨子・詳細情報の聞き取りに加え、内容について他者と意見交換をすることにより、自身の考察を深める。「心の平和」を阻害する要因と解決策についての会話やスピーチを通じて、個々の今後の人生をより良くするヒントを掴んだ上で、他者にその考えを共有してゆく人材を育成することを目的とする。
■到達目標	ナチュラルスピードで話される英語の会話、スピーチを、正確に聞き取ることができる。また、聞き取った内容の要点を把握することが出来る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	Score on Final Listening and Writing Test (in final session)
･授業内発表	30	
･授業内試験	40	Active Participation in Listening Tasks and Activities
･授業内課題	0	Scores on Listening and Vocabulary Quizzes during Lectures
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills 1 (春期)C クラス_オンライン			単位	1
担当者	ミューリ　真貴子		シラバスグループ	P10102	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	リスニング・スキル養成
■授業の概要	この授業では異文化理解を通じて、英語のリスニング力を養う。テキストでは、世界中の様々な若者が、いろいろなトピックに関して個人的な体験・見方から述べ、さらに自国の文化をどのように見ているのかを語る。彼らの意見を聞くことで、異文化理解に関する知見を広げる。
■授業の目的・ねらい	聴解力の向上と異文化に対する意識と理解の向上を目指す。また、講義後も自らリスニング力を向上させる術を身に着けることを目的とします。
■到達目標	英語で語られる他者の異文化に関する意見・考えを、正確に聞き取ることができる。また聞き取った内容の要点を把握することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験を実施する。
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	講義中に発言の機会をもうけます。
･授業内課題	30%	
･その他	0	チャットを利用して、ディクテーションを行う場合があります。

授業科目	English Listening Skills 1 (夏期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	Stephen Richmond		シラバスグループ	P10200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日々の生活に必要な会話力を延ばすためのリスニング力を培う。
■授業の概要	この授業では、実生活に馴染みの深いトピックを扱った会話を多く聞くことによって、聞きとる力を養いながら、同時に相手によりよく伝わる話し方を習得する。各ユニットではまず、トピックの内容と語彙に関する音声を聞きとり、さらにそのトピックに関する会話やモノローグを聞きとる練習をする。おしまいにはそれを応用した発音練習、書きとり練習、会話練習をすることによって包括的な英語力を養う。
■授業の目的・ねらい	The main goal of this course is for students to improve their English listening skills in a variety of contexts such as daily conversation, classroom English, news stories, announcements and interviews. Through activities such as gap-fill exercises, pair interviews and dictation, students will gain confidence in listening and speaking.
■到達目標	日常的な会話を聞き取ることができる。より高度なコミュニケーションのための語彙を身につける。リスニングという受動的な作業を媒介にして、それを実際の会話やプレゼンテーションといった能動的な行為へ応用することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	20	
･リポート試験(SR 履修)	0	Score on Final Listening Test (in final session)
･授業内発表	30	
･授業内試験	20	Active Participation in Listening Tasks and Activities
･授業内課題	30	Scores on Listening and Vocabulary Quizzes during Lessons
･その他	0	Performance (Scores) of In-Lesson Tasks and Activities

授業科目	English Listening Skills 1 (夏期)B クラス_オンライン			単位	1
担当者	Alan Mulvey		シラバスグループ	P10201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	Listening
■授業の概要	Synchronous Interactive Classes in which the students participation is assessed. A focus on Listening. Active Learning is experienced though the use of interactive group workshops. Students will be given tasks including teaching small groups. Active class teaching skills are developed. ‖Students will be assessed for level and placed in groupwork at their level. Listening, speaking and group teaching will be at the student's own level. Level appropriate materials will be used throughout.
■授業の目的・ねらい	Building the listening skills teachers need for the conducive language learning and language teaching environment.
■到達目標	Students will be assessed pre and post training and graded on their own personal improvement. In addition, attendance and participation are graded.

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	0%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	
·授業内発表	30%	
·授業内試験	20%	Various presentation performance tasks will be given as part of groupwork in every class unit which are graded.
·授業内課題	40%	An online check quiz will be posted in class
·その他	10%	Various tasks will be given as part of groupwork in every class unit which are graded.

授業科目	English Listening Skills 1 (夏期)C クラス_オンライン			単位	1
担当者	Katherin Nako		シラバスグループ	P10202	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	リスニング・スキル養成
■授業の概要	英文を見れば内容が理解できるけれど、音声だけだと聞き取れないと感じている人は多いのではないだろうか。とくにネイティブスピーカー同士の会話になるとリスニングはかなり難しくなる。|この授業では、ニュース、ドキュメンタリー、プレゼンテーション、映画など多種多様な教材を使用し、英語でよく起こる音変化のパターンを学びながら、リスニング・シャドーイングトレーニングを行う。
■授業の目的・ねらい	音変化の理解とリスニング・シャドーイング練習を通じて、リスニング力の向上を図る。
■到達目標	1. Students learn the characteristics of changes such as connection, omission, assimilation, and weakening of sounds peculiar to English, and get used to sound changes.|2. Students can listen and understand almost exactly what is said in English in various situations such as news, documentaries, presentations, and movies.|3.Students can understand the points of sound changes and listening practice methods, and use them to study English outside of lecture time.

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。|リスニング力を問うもの(70%)、リスニング力向上法についての自分の意見(30%)。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills 1 (秋期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	大内　和正		シラバスグループ	P10300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	リスニング・スキル養成
■授業の概要	英文を見れば内容が理解できるけれど、音声だけだと聞き取れないと感じている人は多いのではないだろうか。とくにネイティブスピーカー同士の会話になるとリスニングはかなり難しくなる。この授業では、ニュース、ドキュメンタリー、プレゼンテーション、映画など多種多様な教材を使用し、英語でよく起こる音変化のパターンを学びながら、精聴・シャドーイングトレーニングを行っていく。|
■授業の目的・ねらい	音変化の理解と精聴・シャドーイング練習を通じて、リスニング力の向上を図る。
■到達目標	自然なスピードの英語をすばやく正確に聞き取ることができる。また聞き取った内容の要点を正確に把握することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験として実施する。|
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills 1 (秋期)B クラス_オンライン			単位	1
担当者	ミューリ　真貴子		シラバスグループ	P10301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	リスニング・スキル養成
■授業の概要	この授業では異文化理解を通じて、英語のリスニング力を養う。テキストでは、世界中の様々な若者が、いろいろなトピックに関して個人的な体験・見方から述べ、さらに自国の文化をどのように見ているのかを語る。彼らの意見を聞くことで、異文化理解に関する知見を広げる。
■授業の目的・ねらい	聴解力の向上と異文化に対する意識と理解の向上を目指す。また、講義後も自らリスニング力を向上させる術を身に着けることを目的とします。
■到達目標	英語で語られる他者の異文化に関する意見・考えを、正確に聞き取ることができる。また聞き取った内容の要点を把握することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験を実施する。
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	講義中に発言の機会をもうけます。
･授業内課題	30%	
･その他	0	チャットを利用して、ディクテーションを行う場合があります。

授業科目	English Listening Skills 1 (秋期)C クラス_オンライン			単位	1
担当者	衣川　二三		シラバスグループ	P10302	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	「心の平和」を英語で学ぶ
■授業の概要	資本主義が発展するにつれ、「人間の心」より、経済活動を中心とする「世の中の現象」に重きを置く生活が、昨今当たり前だと思われがちである。特に、我が国では、敗戦で心を痛めた世代からの負の遺産を未だに受け継いでいる傾向が強い。とりわけパンデミック以降は、これまで置き去りにされてきた「心」の問題は看過できない程、深刻化している。当講義では、世界各国の「心の平和」に関連する人々の意見を聞き、英語のリスニング力を向上させる。又、聞き取った内容をヒントとして、各個人がこの激動の時代をより良く生きるための方法を考察し、英語で発信する力を養う。
■授業の目的・ねらい	英語を第一言語とする国のみならず、第二言語とする国の話者による会話やスピーチを視聴することで、世界中で話される様々な英語に対応する力を養成する。講義では内容の骨子、詳細情報の聞き取りのみならず、内容について他者と意見交換をすることにより、自身の考察を深める。「心の平和」を阻害する要因と解決策についての会話やスピーチを通じて、個々の今後の人生をより良くするヒントを掴んだ上で、他者にその考えを共有してゆく人材を育成することを目的とする。
■到達目標	ナチュラルスピードで話される英語の会話、スピーチを、正確に聞き取ることができる。また、聞き取った内容の要点を把握することが出来る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	Score on Final Listening and Writing Test (in final session)
･授業内発表	30	
･授業内試験	40	Active Participation in Listening Tasks and Activities
･授業内課題	0	Scores on Listening and Vocabulary Quizzes during Lessons
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills ２（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	子安　加奈子			シラバスグループ	P11210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	リスニング・スキル養成：異文化理解を通じて
■授業の概要	この授業では TOEIC 形式の演習で英語のリスニング力を養います。授業前半は、テキストを用いて、TOEIC のリスニング部門の形式に慣れることを目標に、音声と文字で確認しつつ学習していきます。（テキストのレベル設定はこれから 500 点を目指す初級者用です。上級者用ではないので注意してください。）後半は、ビデオやプリントなどで、英語の基礎や英語学習に関する様々な知識を楽しく増やしていきたいと思います。
■授業の目的・ねらい	英語で語られる様々な話題を、正確に聞き取ることができる。また聞き取った内容の要点を把握することができる。ツールとしての英語に焦点を当てるだけではなく、英語を通して異文化の生活や考え方にも触れることを目的とする。
■到達目標	様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することが出来る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	S 履修ですがオンライン授業ですのでリポート試験となります。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills ２（夏期)1 週_B クラス_オンライン			単位	1
担当者	Mark Dodds			シラバスグループ	P11211
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	British Council の動画を柱にした、リスニング力の養成
■授業の概要	British Counil の配信動画を中心に、リスニング力の向上を目指す。講義では動画を視聴し、演習問題を通じて、テーマの概要、詳細の聞き取りを強化する。また、ディスカッションを通じて、動画の内容に沿った意見を発信する力を養う。地球の中で起こっている様々な事象や、地球に住む様々な住人や場所について知り、理解し、発信して行くことにより、多様性や環境の問題に対処する術を自ら考察し、行動に繋げる契機を持ってもらう。
■授業の目的・ねらい	日本という島国に住み、又、長きにわたる海禁体制がとられた歴史的な背景の影響で、わが国とそれ以外の国の人々との間では多くの点で認識の隔たりが見られる。同時に、同じ地球に住む人間として捉えた場合、多くの共通項も見られる。この講義では、人間・動物・自然に関する動画を視聴することにより、このような認識の隔たりと共通項を知り、問題点の改善点や解決方法を探り、又、自国の良さを再考察する契機を持ってもらう。英語のリスニング力を高めるのと同時に、講義内のディスカッションを通じて能動的に意見を発信する力も養成する。講義で培った力により、今後も継続的に世界や自国の諸問題、人間といういきものを理解することについて、論理的に考え、発信する人材を育てる。
■到達目標	老若男女がナチュラルスピードで話す英語を、正確に聞き取ることができる。また、聞き取った内容の要点を把握することが出来る。 |We will spend time on discussions and play language games for a break. |Students should actively participate in the lessons, not be afraid to make mistakes, and enjoy the interesting materials.

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	Score on Final Listening and Writing Test (in final session)
･授業内発表	40	
･授業内試験	30	Active Participation in Listening Tasks and Activities
･授業内課題	0	Scores on Listening and Vocabulary Quizzes during Lessons
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills ２（夏期)1 週_C クラス_オンライン			単位	1
担当者	大内　和正			シラバスグループ	P11212
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	リスニング・スキル養成
■授業の概要	この授業では、主に BBC 制作のドキュメンタリー番組を教材として使用し、英語聞き取りの練習を行う。ペアワークによる音変化のチェック、グループワークによる内容の理解チェックを行いながら、ドキュメンタリー番組の内容に関して、重要な点を聞き取るスキルを身につける。
■授業の目的・ねらい	音変化の理解と精聴・シャドーイング練習を通じて、リスニング力の向上を図る。
■到達目標	自然なスピードの英語をすばやく正確に聞き取ることができる。また聞き取った内容の要点を正確に把握することができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験として実施する。|
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills 2（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	衣川　二三			シラバスグループ	P11220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	British Council の動画を柱にした、リスニング力の養成
■授業の概要	British Counil の配信動画を中心に、リスニング力の向上を目指す。講義では動画を視聴し、演習問題を通じて、テーマの概要、詳細の聞き取りを強化する。また、ディスカッションを通じて、動画の内容に沿った意見を発信する力を養う。地球の中で起こっている様々な事象や、地球に住む様々な住人や場所について知り、理解し、発信して行くことにより、多様性や環境の問題に対処する術を自ら考察し、行動に繋げる契機を持ってもらう。
■授業の目的・ねらい	日本という島国に住み、又、長きにわたる海禁体制がとられた歴史的な背景の影響で、わが国とそれ以外の国の人々との間では多くの点で認識の隔たりが見られる。同時に、同じ地球に住む人間として捉えた場合、多くの共通項も見られる。この講義では、人間・動物・自然に関する動画を視聴することにより、このような認識の隔たりと共通項を知り、問題点の改善点や解決方法を探り、又、自国の良さを再考察する契機を持ってもらう。英語のリスニング力を高めるのと同時に、講義内のディスカッションを通じて能動的に意見を発信する力も養成する。講義で培った力により、今後も継続的に世界や自国の諸問題、人間といういきものを理解することについて、論理的に考え、発信する人材を育てる。
■到達目標	老若男女がナチュラルスピードで話す英語を、正確に聞き取ることができる。また、聞き取った内容の要点を把握することが出来る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	Score on Final Listening and Writing Test (in final session)
･授業内発表	40	
･授業内試験	30	Active Participation in Listening Tasks and Activities
･授業内課題	0	Scores on Listening and Vocabulary Quizzes during Lessons
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills ２（夏期)2 週_C クラス_オンライン			単位	1
担当者	子安　加奈子			シラバスグループ	P11222
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	リスニング・スキル養成：異文化理解を通じて
■授業の概要	この授業では TOEIC 形式の演習で英語のリスニング力を養います。授業前半は、テキストを用いて、TOEIC のリスニング部門の形式に慣れることを目標に、音声と文字で確認しつつ学習していきます。（テキストのレベル設定はこれから 500 点を目指す初級者用です。上級者用ではないので注意してください。）後半は、ビデオやプリントなどで、英語の基礎や英語学習に関する様々な知識を楽しく増やしていきたいと思います。
■授業の目的・ねらい	英語で語られる様々な話題を、正確に聞き取ることができる。また聞き取った内容の要点を把握することができる。ツールとしての英語に焦点を当てるだけではなく、英語を通して異文化の生活や考え方にも触れることを目的とする。
■到達目標	様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することが出来る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	S 履修ですがオンライン授業ですのでリポート試験となります。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills 2（秋期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	子安　加奈子			シラバスグループ	P11300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	リスニング・スキル養成：異文化理解を通じて
■授業の概要	この授業では TOEIC 形式の演習で英語のリスニング力を養います。授業前半は、テキストを用いて、TOEIC のリスニング部門の形式に慣れることを目標に、音声と文字で確認しつつ学習していきます。（テキストのレベル設定はこれから 500 点を目指す初級者用です。上級者用ではないので注意してください。）後半は、ビデオやプリントなどで、英語の基礎や英語学習に関する様々な知識を楽しく増やしていきたいと思います。
■授業の目的・ねらい	英語で語られる様々な話題を、正確に聞き取ることができる。また聞き取った内容の要点を把握することができる。ツールとしての英語に焦点を当てるだけではなく、英語を通して異文化の生活や考え方にも触れることを目的とする。
■到達目標	様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することが出来る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	S 履修ですがオンライン授業ですのでレポート試験となります。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	0	

授業科目	English Listening Skills ２（秋期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	Katherin Nako			シラバスグループ	P11301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	Listening Skill Development:　Through Cross -Cultural Understanding (2)
■授業の概要	In this class, you will develop your English listening skills through cross-cultural understanding. Listen to the opinions and stories of young people from various countries on several topics, practice your listening skills, and at the same time practice communicating based on what you hear. We will also point you to a variety of free learning resources on the Internet. Finally, create your own mini-lesson.
■授業の目的・ねらい	Aims to improve listening comprehension and awareness and understanding of different cultures. Also, after the lecture, the purpose is to acquire the technique to improve listening ability by oneself.
■到達目標	Can accurately listen to other people's opinions and thoughts about different subjects and can easily ask and answer questions.‖Can learn to listen to English in Songs/ Poetry/ News/ Stories with various accents and expressions|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	listening test
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	mini lesson plan
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	English Listening Skills ２（秋期)C クラス_オンライン			単位	1
担当者	山本　元子			シラバスグループ	P11302
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	リスニング・スキルを養う：異文化理解を通して
■授業の概要	映画「We Bought a Zoo」を英語教材化したテキストと、実際の DVD 映像を使用しながらリスニングのコツを学び、スキルを高める活動を繰り返し行うことで、楽しみながらリスニングの力を高めることを目的としています。あわせて、テキスト（映画）の内容をより深く理解するために、関連する（異）文化理解につながる解説も随所で行います。このことにより、映画の登場人物のせりふを単に聞いてわかるようになるだけでなく、そのせりふで映画製作者は何を意図したのか、といったところまでいくつかの場面については説明する予定です。　|
■授業の目的・ねらい	映像を使用して、ネイティブスピーカーの日常のやりとり（会話）を聞くことに慣れること。リスニングスキルを高めるための総合的な活動と異文化理解の解説をふまえ、テキスト（映像）の理解を深めること。
■到達目標	ネイティブスピーカーの日常のやりとり（会話）を聞くことに慣れること。|リスニングスキルを高めるための総合的な活動が行えること。|異文化理解の解説をふまえ、テキスト（映像）の理解を深めること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	50	
･授業内試験	50|	テキストの問題に解答（回答）したり、（英語による）意見発表、|リスニングに伴う諸活動への参加度合などを含みます。
･授業内課題	0	最終コマに実施するテストです。|スクーリングで学んだ内容の総括と簡単な応用問題です。|大学の指示による方法で提出をしていただきます。
･その他	0	

授業科目	英米文学講読１（春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	氏木　道人		シラバスグループ	P21100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	英語教育（外国語教育・学習）に関連した文献の講読
■授業の概要	本授業では、外国語教育（主に英語教育）に関連した内容について英語で書かれた文献を読む。専門的な文書をできるだけ正確に理解することを試みると同時に外国語教育に関する研究分野についての理解を深める。講義では英文読解だけではなく文献から得られた情報を基に身近な外国語習得の問題点について議論し意見交換を行いたい。第二言語（外国語）習得に関する専門的で多少難易度の高い文献を読むので英語教育や外国語習得に関心のある方に受講して頂きたい。
■授業の目的・ねらい	英語で書かれた専門的な文書を読み外国語教育、英語教育の分野に関する理解を深める。また難易度の高い英語の論文を概要をとらえながら読むことを体験する。‖評価基準：講読した英文の内容についての理解度を確認する試験を行う。その他、オンラインクラス内でのグループ課題、Mini-presentation により評価する。|
■到達目標	１）難易度の高い英語の文書を読み概要を捉えることができる。|２）外国語教育に関する研究分野について知る。|３）文献から得られた情報を基に身近な外国語習得の問題点について知る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	授業で読んだテキストの内容についてのリポート試験
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	担当箇所の内容についてグループで発表
･授業内課題	20%	
･その他	0%	グループ作業への参加度と貢献度、mini-presentation

授業科目	英米文学講読１（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	持留　浩二			シラバスグループ	P21200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	文学作品に描かれているメッセージを読み解く解釈の作業をする。文学作品には、その表面に描かれているもの以上のものが描かれている。読者は意識的、あるいは無意識的にそういうメッセージを受け取っているのである。文学研究の面白さはそういうメッセージを暗号解読のような作業を通して見つけていくところにある。自分の持っているいろんな知識を生かして独自の説得力ある解釈を行ってもらいたい。今回の授業ではシャーウッド・アンダスンの「兄弟たち」(″Brothers″)を読む。
■授業の概要	まずはじっくりと一つ一つの言葉のニュアンスを正確に把握し、作品を丁寧に精読していく。その上で、作品解釈の作業に入っていく。この作品のメッセージは何なのか、受講生それぞれの独特な視点から独創的な読みを展開してもらいたい。
■授業の目的・ねらい	まずは配付した教材の内容を英語でよく読み理解できること、その上で自分独自の意見を説得力をもって発表することができるようになることが目標。
■到達目標	まずはテキストをその細部まで正確に読解できていること。その上で、自分独自の視点から作品解釈ができること。さらに、自分の解釈を客観的に説得力をもって論じることができることが目標。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英米文学講読２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	ﾒﾄﾞﾛｯｸ 皆尾 麻弥			シラバスグループ	P22100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	Vladimir Nabokov の短編"Details of a Sunset"を読む
■授業の概要	ロシア生まれの作家ウラジーミル・ナボコフ（Vladimir Nabokov, 1899-1977)による短編"Details of a Sunset"を読む。ナボコフの作品は一つ一つの言葉と詳細を丁寧に拾い上げて読むことを読者に要求する。授業では、そのような丁寧な読みを実践する。それに加え、ナボコフの文学の特徴について考察する。
■授業の目的・ねらい	ナボコフが要求するような、丁寧な読みを実践することで得られる喜びを感じる。やや難しめの文章を読み解くことによって論理的思考力を養う。
■到達目標	一つ一つの言葉に注意して丁寧に読む力をつける。ナボコフ文学の特徴について理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	40	
･授業内試験	60	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英米文学講読２（夏期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	櫻井　和美		シラバスグループ	P22200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	“The Cloud” を読む
■授業の概要	イギリス・ロマン派の代表詩人、Percy Bysshe Shelley によって書かれた “The Cloud” を読む。 ｜ 各作品の試訳の後、ディスカッション形式で授業を進めていく。
■授業の目的・ねらい	英文学史の一時代なるイギリス・ロマン主義についての理解を深める。
■到達目標	Shelley の詩の特徴が作品の中にどのように表れているのかについての認識を深めること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	英米文学講読３（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	早瀬　和栄			シラバスグループ	P23200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	リーディングにおける総合理解力を養う
■授業の概要	それぞれのレッスンには１０問ほど問題が設定されています。学課のテーマに即しながら、英文を丁寧に翻訳していきます。最初の授業で名簿順に和訳の担当を決めますが、わからないところはクラス全体でサポートしていきますので楽しく受講して下さい。文法事項の復習も行います。
■授業の目的・ねらい	テキストにとりあげられている名文や誤訳をとおして、翻訳技術の向上を目指します。
■到達目標	英文をわかりやすい日本語に翻訳することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	20%	
･その他	0%	

授業科目	英米文学講読３（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	野谷　啓二			シラバスグループ	P23300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	シェイクスピアにつぐ、愛の詩人ジョン・ダンの詩を精読する。
■授業の概要	エリザベス朝からジェイムズ朝において活躍した多才な John Donne の人間的相貌について理解を試みた後、彼の代表的詩を精読していく。イタリアから始まったルネサンスがようやくにして北の島国イングランドの到達したということはどのようなことなのか、受講者と一緒に考える。彼から 400 年後の時代に生きる私たちにダンは何を語りかけて来るだろうか。|
■授業の目的・ねらい	・正確な英文読解力を身に着けること。|・文法知識の定着を確認すること。|・ダンの詩の文化史的意義について理解すること。
■到達目標	・精読の方法を身に着ける。|・精読に必要な文法知識を身に着ける。|・ダンの時代のイングランドの文化的状況についてある程度の知識を身に着ける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	授業で取り上げたダンの詩のうちから一篇を選び、それについての分析的ショートペーパー書いてもらう。
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英米文学講読４（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	持留　浩二			シラバスグループ	P24200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	文学作品に描かれているメッセージを読み解く解釈の作業をする。文学作品には、その表面に描かれているもの以上のものが描かれている。読者は意識的、あるいは無意識的にそういうメッセージを受け取っているのである。文学研究の面白さはそういうメッセージを暗号解読のような作業を通して見つけていくところにある。自分の持っているいろんな知識を生かして独自の説得力ある解釈を行ってもらいたい。今回の授業では、J・D・サリンジャーの「対エスキモー戦争の前夜」(″Just Before the War with the Eskimos″)を読む。
■授業の概要	まずはじっくりと一つ一つの言葉のニュアンスを正確に把握し、作品を丁寧に精読していく。その上で、作品解釈の作業に入っていく。この作品のメッセージは何なのか、受講生それぞれの独特な視点から独創的な読みを展開してもらいたい。
■授業の目的・ねらい	まずは配付した教材の内容を英語でよく読み理解できること、その上で自分独自の意見を説得力をもって発表することができるようになることが目標。
■到達目標	まずはテキストをその細部まで正確に読解できていること。その上で、自分独自の視点から作品解釈ができること。さらに、自分の解釈を客観的に説得力をもって論じることができることが目標。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英米文学講読４（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	野谷　啓二			シラバスグループ	P24300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	20 世紀の代表的文人 T.S.エリオット（Eliot, 1888-1965）の詩を読む
■授業の概要	20 世紀最大の文学運動であったモダニズムの代表的詩人、T.S.エリオットの The Ariel Poems から数編を選び精読します。本授業の実施日が 12 月 21 日と 22 日であることもあり、クリスマスをテーマにする詩を丹念に読み、キリスト教文化圏の属する知識人の思い・感情に触れ、その言語表現を味わることには小さくない意味があると考えます。これらの作品をよく理解するためには、背景となっているキリスト教の基本事項を知る必要がありますので、詩を読む前にこうした知識についても解説します。
■授業の目的・ねらい	言語表現の最高形態である詩と向かい合い、詩の世界に自身を投入する経験を持ち、異文化を少しでも理解することをめざす。
■到達目標	テキストを緻密に読むことを通して、これまで培ってきた文法、語彙、読解の力をさらに磨く。既知の語であっても、文脈に応じて、辞書を丹念に引き、英語の読解力を高める。さらに異文化についての理解を高める。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験を実施する。
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	授業での発表、質問やコメントを評価する。
･授業内課題	0%	
･その他	30%	

授業科目	英米文学講読５（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	長谷川　雅世			シラバスグループ	P25200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	主にイギリスの児童文学作品を読むことを通して、英語と欧米の文化について学ぶ。
■授業の概要	本講義では、『不思議の国のアリス』や『くまのプーさん』や『メアリー・ポピンズ』をはじめとするイギリスの児童文学の抜粋を原文で読む。それを通して、英語の読解力を養う。同時に、イギリスの児童文学に関する知識を養い、それぞれの作品が書かれた時代背景やイギリスにおける子どものイメージの変遷等を理解する。また、授業中のディスカッションを通して、文学作品を批評し、自らの意見を明快かつ説得力を持たせて表現できるようにする。| 本講義では、授業中にグループ・ワーク（事前に出す課題への回答をグループで話し合いまとめたり、和訳のチェックをしたりする）を行うので、この授業を受講する者はこのグループ・ワークに積極的かつ必ず参加すること。 |
■授業の目的・ねらい	1)英米の児童文学作品を原文で読むことを通して、英語の読解力を身につける。|2)自ら行間を読んで解釈し、それを他の受講生に伝えることを通して、自分の意見をわかりやすく述べる能力を高める。|3)講義を通して、作品の背景、特にイギリスの社会や文化についての知識を養う。
■到達目標	1)英語の読解力を養う。|2)作品を解釈し、それを自らの言葉で表現できる。|3)主にイギリスの文化や歴史に関する知識を養う。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	レポート課題です。授業で学んだことと「児童文学」についての受講者の考えを述べる内容になります。具体的な課題内容は、初回の授業で提示します。
･授業内発表	40%	
･授業内試験	0	予習への取り組みと授業への積極的な参加度。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英米文学講読５（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	早瀬　和栄			シラバスグループ	P25300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	コロンブスに関するエッセイを読む
■授業の概要	テキストのエッセイを和訳します。エッセイの内容理解を深めるために、イディオムも大切なところはポイントを押さえて取り組みます。授業では CD や DVD を使用して、英語への関心を向上させます。|
■授業の目的・ねらい	英文で書かれたエッセイを自然な日本語に訳せるようになるのが目標です。
■到達目標	テキストの英文エッセイを丁寧に読みながら、内容を正確に理解できるようになるのが目標です。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	英米文学講読６（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大内　和正			シラバスグループ	P26200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	イギリスの作家モームの『サミング・アップ』を読む
■授業の概要	The Summing Up は、20 世紀イギリスを代表する小説家・劇作家の一人である Somerset Maugham が 64 歳の時に発表した自伝的エッセイである。本書において、かれは独自の鋭い観察眼をそれまでの自らの生涯に向け、人生、読書、演劇、文学、哲学など多岐にわたる話題について、自分自身の考えを率直に語っている。|この講義では、モームの思想を理解する上で最も重要だが理解しにくい、最終部分の哲学談義（第 63 章から 77 章）を扱う。テキストを精読しながら、かれの諸作品の中に凝縮されている洞察力の背景をさぐっていきたい。
■授業の目的・ねらい	テキストをできるだけ正確に読むトレーニングを行うとともに、その内容をしっかりと吟味することを通じて、英語の読解力と作品理解力を高める。
■到達目標	テキストの中に数多くでてきた重要構文を理解するとともに、モーム思想の核心に触れることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英米文学講読６（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	冨永　和元			シラバスグループ	P26300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	H.D.Thoreau のエッセイを読む
■授業の概要	１９世紀アメリカの思想家 H.D.Thoreau の代表的エッセイ Civil Disobedience および A Plea for Captain John Brown を精読し、19 世紀のアメリカについて、また自由・民主主義などの問題や自然との共生をテーマに考える。
■授業の目的・ねらい	単に英文を読む力だけではなく、物事を深く考え分析する力を養う。また、グループで調べ・考察し自分たちの考えをまとめるトレーニングを行う。
■到達目標	アメリカの古典文学を原文で読むことができる。また、時代背景などを考えて、作品のテーマについて考えることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	全授業への参加および、成果の発表に基づいて評価する
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	英米文学演習１（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	吉川　裕介			シラバスグループ	P27200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	認知言語学についての基本概念と分析手法を学ぶ
■授業の概要	テキストの内容に即して認知言語学の解説と演習問題の答えの確認を中心に進める。必ずテキストの本文を予習してからスクーリングに臨むようにしてください。認知言語学では、「ことば」は世界を意味として捉える認知の営みを可能にする「記号」として考えます。この記号を使って私たちは世界のあらゆる事象を記述し、伝達し、記録してきました。すなわち、「ことば」について知ることは私たち人間についての本質を知ることに他なりません。認知言語学の枠組みを通して、私たちが当たり前のように使っている「ことば」の不思議に迫りましょう。
■授業の目的・ねらい	認知言語学の基本的な立場を理解し、その枠組みに従ってことばに関する現象を分析できる素地を養う。
■到達目標	①認知言語学の基本的な見方ができる。\\|②認知言語学の基本的な見方を日常的なことばの中に適応できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英米文学演習１（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	早瀬　和栄			シラバスグループ	P27300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	英国に関するエッセイを読む
■授業の概要	テキストの Warm up にある単語の確認をしてからエッセイの和訳をします。最初の授業で名簿順にエッセイの和訳担当を決めますが、わからないところはクラス全体でサポートしますので楽しく受講して下さい。Exercises の問題は解説します。授業では CD や DVD を使用して、英語への関心を向上させます。|
■授業の目的・ねらい	英文で書かれたエッセイを自然な日本語に訳せるようになるのが目標です。
■到達目標	テキストの英文エッセイを丁寧に読みながら、内容を正確に理解できるようになるのが目標です。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	英米文学演習２（夏期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	櫻井　和美		シラバスグループ	P28200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	“Mont Blanc” について
■授業の概要	イギリス・ロマン派の代表詩人、Percy Bysshe Shelley によって書かれた “Mont Blanc” を考察する。 ｜ 作品の概要理解の後、ディスカッション形式で授業を進めていく。
■授業の目的・ねらい	英文学史の一時代なるイギリス・ロマン主義への理解を深める。
■到達目標	Shelley の詩の特徴が作品の中にどのように表れているのかについての認識を深めること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	英米文学演習２（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	松本　真治			シラバスグループ	P28300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	現代詩の金字塔『荒地』（The Waste Land）を読む
■授業の概要	20 世紀英詩の最高峰とも言うべき、T.S.エリオット（T.S.Eliot）の『荒地』The Waste Landを読む。この詩は第一次大戦後のヨーロッパの精神風土の荒廃を浮き彫りにした作品である。５部から構成されているが、「四月はもっとも残酷な月だ」ではじまる、死をテーマにした第１部 ″The Burial of the Dead″「死者の埋葬」を中心に、全体像にも触れながら、『荒地』の世界を平易に紹介する。
■授業の目的・ねらい	この授業の目的は、翻訳や批評文を参照しながら、『荒地』を原文で理解できることである。またグループでディスカッションした後、個人またはグループ単位でプレゼンテーションをする。
■到達目標	１）批評家の評論に左右されずに、自分自身で『荒地』の解釈ができること。|２）『荒地』に関して、独自の視点・解釈からプレゼンテーションおよびリポート作成ができること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	ディスカッションおよびプレゼンテーション
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	英米文学演習３（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	稲永　知世			シラバスグループ	P29100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	言語とジェンダー研究に関連した文献の講読、およびジェンダーに関わる談話事象のデータ分析・考察（1）
■授業の概要	私たちは、日常やりとりしている会話、そして読み書きしている文章の中で巧妙に構築されているジェンダーイデオロギーやジェンダーアイデンティティにさらされている。また、私たちは、その知識に基づいて、ジェンダーイデオロギーを表象したり、ジェンダーアイデンティティを実践したりするのである。|そこで、本授業では、言語とジェンダー研究について英語で書かれた文献を講読し、日常やりとりしている会話、そして読み書きしている文章の中で構築されているジェンダーイデオロギーやジェンダーアイデンティティについて考える。|※オンライン授業となるため、リポート試験とする。
■授業の目的・ねらい	（1）言語とジェンダー研究に関連した文献を講読することにより、英文構造を論理的かつ正確に読み解く力を向上させる。|（2）ジェンダーに関わる実際の談話事象を分析・考察することにより、日常やりとりしている会話、そして読み書きしている文章の中で巧妙に構築されているジェンダーイデオロギーやジェンダーアイデンティティについて考える力を養う。
■到達目標	（1）英文を論理的および正確に解釈する力をつけることができる。|（2）言語とジェンダーに関する知見をもとに、普段見聞きすることばの中に構築されているジェンダーイデオロギーやジェンダーアイデンティティについて深く考えることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	言語とジェンダーに関わる実際のデータを探し、どのようにジェンダーアイデンティティが構築され、ジェンダーイデオロギーが表象されているのかを分析･考察するレポートを課します。|言語とジェンダー研究の流れ、社会構築主義的アプローチについて理解できているか、また、分析に基づいた独自の考察を行うことができているのかを判断します。
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	事前配布資料の課題にどの程度取り組めているのかに基づいて判断します。
･授業内課題	20	
･その他	0	当日配布資料の課題にどの程度取り組めているのかに基づいて判断します。

授業科目	英米文学演習３（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	野谷　啓二			シラバスグループ	P29200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	20 世紀後半のアメリカ短編小説の白眉 Cathedral を精読する。
■授業の概要	レイモンド・カーヴァー(Raymond Carver, 1938-1988)は万年ノーベル文学賞候補の村上春樹の翻訳によって日本の読者にもよく知られている小説家です。この授業では 1983 年に発表された Cathedral「大聖堂」を精読していきます。この短編小説について村上はつぎのように書いています。‖　誰もが認めるカーヴァーの傑作のひとつ。妻の知り合いの盲人が家に泊まりに来ることになって、「盲人なんてうっとうしいな」と内心ぶつぶつ思っているご主人だが、来てみるとこれが予想とはかけ離れたタイプの盲人で、それで余計に調子が狂ってしまう。しかし話はこの「困ったぶり」を描くいつものカーヴァレスクなトラジコメディーにはとどまらない。ふとしたきっかけで、物語の流れは二人の「赤の他人」のあいだに生じる奇跡的な魂の融合のようなものへと突き進んでいく。モーツアルトふうにいえば、肝のところで例の決定的な転調が訪れるのだ。そのはっと澄み渡る意外な一瞬が素晴らしい。これは何というか、立派な人が一人もでてこない立派な小説です。‖　さて皆さんはどう読む？
■授業の目的・ねらい	Cathedral を精読することで、英文読解力を強化すること、さらに現代アメリカの人間模様を理解することを目的とする。
■到達目標	文法的に正確な英文読解ができるようになる。アメリカ口語英語表現に慣れる。現代アメリカ社会の人間像について、ある程度の知識を持つことができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	レポート試験
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英米文学演習４（春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	清川　祥恵		シラバスグループ	P30100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	チョーサーの『カンタベリ物語』の現代英語訳（散文）を読む。
■授業の概要	たとえ現代英語訳であっても、英文学の祖としていまなお存在感の大きい作品に触れることで、なにが「伝統」の源流と見なされているのかを感じることができる。いくつかの短篇が収録された教科書を使用するが、授業回数の都合上、別欄に記載の通り、前半部分を中心として学習する。
■授業の目的・ねらい	中世の文学作品を通して英文学の伝統とはなにかを考える機会とし、当時の時代・社会背景をふまえた読解をめざして精読する。辞書を引いて単純に日本語を当てはめるのではなく、その語や表現が当時の文脈ではなにを意味していたのか、きちんと注意を払ってテクストを読めるようになる。
■到達目標	(1) 英文学の伝統についての知識を深めることができる。|(2) 異なる文化・時代背景を理解してテクストを読解することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英米文学演習４（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	稲永　知世			シラバスグループ	P30200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	言語とジェンダー研究に関連した文献の講読、およびジェンダーに関わる談話事象のデータ分析・考察（2）
■授業の概要	私たちは、日常やりとりしている会話、そして読み書きしている文章の中で巧妙に構築されているジェンダーイデオロギーやジェンダーアイデンティティにさらされている。また、私たちは、その知識に基づいて、ジェンダーイデオロギーを表象したり、ジェンダーアイデンティティを実践したりするのである。|そこで、本授業では、言語とジェンダー研究について英語で書かれた文献を講読し、日常やりとりしている会話、そして読み書きしている文章の中で構築されているジェンダーイデオロギーやジェンダーアイデンティティについて考える。|※オンライン授業となるため、リポート試験とする。
■授業の目的・ねらい	（1）言語とジェンダー研究に関連した文献を講読することにより、英文構造を論理的かつ正確に読み解く力を向上させる。|（2）ジェンダーに関わる実際の談話事象を分析・考察することにより、日常やりとりしている会話、そして読み書きしている文章の中で巧妙に構築されているジェンダーイデオロギーやジェンダーアイデンティティについて考える力を養う。
■到達目標	（1）英文を論理的および正確に解釈する力をつけることができる。|（2）言語とジェンダーに関する知見をもとに、普段見聞きすることばの中に構築されているジェンダーイデオロギーやジェンダーアイデンティティについて深く考えることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	言語とジェンダーに関わる実際のデータを探し、どのようにジェンダーアイデンティティが構築され、ジェンダーイデオロギーが表象されているのかを分析･考察するレポートを課します。|言語とジェンダー研究の流れ、社会構築主義的アプローチについて理解できているか、また、分析に基づいた独自の考察を行うことができているのかを判断します。
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	事前配布資料の課題にどの程度取り組めているのかに基づいて判断します。
･授業内課題	20	
･その他	0	当日配布資料の課題にどの程度取り組めているのかに基づいて判断します。

授業科目	英米文学演習５（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	櫻井　和美			シラバスグループ	P31200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	“The Mask of Anarchy” について
■授業の概要	イギリス・ロマン派の代表詩人、Percy Bysshe Shelley によって書かれた “The Mask of Anarchy” を考察する。 ｜ 作品の概要理解の後、ディスカッション形式で授業を進めていく。
■授業の目的・ねらい	英文学史の一時代なるイギリス・ロマン主義への理解を深める。
■到達目標	Shelley の詩の特徴が作品の中にどのように表れているのかについての認識を深めること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	英米文学演習５（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	ﾒﾄﾞﾛｯｸ 皆尾 麻弥			シラバスグループ	P31300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	英米作家短編を読む|
■授業の概要	『英米ミニ短編集』に収録された 3 作品を精読したのち、作品の構造、テーマ、疑問点、等についてグループ討論する。
■授業の目的・ねらい	英米の優れた短編を読み、短編特有の統一感、構造について学ぶ。英語の文学作品を読解することで論理的な思考力を養う。
■到達目標	英文を正確に読むことができる。|短編の構造について気づくことができる。|書かれていない情報について推測しながら読むことができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	英米文学演習６（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	Henry Foster			シラバスグループ	P32200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	A critical reading of The Lorax by Dr. Seuss
■授業の概要	Dr. Seuss is a giant in the field of illustrated children's literature. His work is mostly written in anapestic tetrameter, which accounts partially for its appeal to children. However, Dr. Seuss's use of rhymed verse also helps explain why his work is not well known in Japan; it is difficult to translate effectively. We will read the text and discuss the themes and issues to be found therein, as well as analyzing Dr. Seuss's use of rhythm, rhyme, and nonsense words.
■授業の目的・ねらい	This course aims to give you an appreciation for the work of Dr. Seuss, a basic understanding of the mechanics of rhythm and rhyme in English poetry, and an opportunity to critically discuss the environmental issues touched on in the text.
■到達目標	After completing this course, students will be able to:|-- analyze the metrical structure of the verse|-- find and appreciate the rhyming words|-- relate the themes in the story to real-world issues|-- critically analyze the author's use of imagery, humor, irony, nonsense words, and other literary devices

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	
･授業内発表	40%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	英米文学演習６（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	氏木　道人			シラバスグループ	P32400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	英語教育（外国語教育・学習）に関連した文献の講読
■授業の概要	本授業では、外国語教育（主に英語教育）に関連した内容について英語で書かれた文献を読む。専門的な文書をできるだけ正確に理解することを試みると同時に外国語教育に関する研究分野についての理解を深める。講義では英文読解だけではなく文献から得られた情報を基に身近な外国語習得の問題点について議論し意見交換を行いたい。第二言語（外国語）習得に関する専門的で多少難易度の高い文献を読むので英語教育や外国語習得に関心のある方に受講して頂きたい。
■授業の目的・ねらい	英語で書かれた専門的な文書を読み外国語教育、英語教育の分野に関する理解を深める。また難易度の高い英語の論文を概要をとらえながら読むことを体験する。‖評価基準：講読した英文の内容についての理解度を確認する試験を行う。その他、オンラインクラス内でのグループ課題、ミニプレゼンテーション等により評価する。|
■到達目標	１）難易度の高い英語の文書を読み概要を捉えることができる。|２）外国語教育に関する研究分野について知る。|３）文献から得られた情報を基に身近な外国語習得の問題点について知る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	
･授業内発表	20%	授業で読んだテキストの内容についてのリポート試験
･授業内試験	0%	担当箇所の内容についてグループで発表
･授業内課題	20%	
･その他	0%	グループ作業への参加度と貢献度、ミニ討論

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	Q01200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	本格的な研究開始の準備　?研究に必要な情報を収集し考える
■授業の概要	通信教育課程における卒業研究は、多くの場合が自身の興味や関心を研究テーマとする個人研究である。実際には３年時における「研究計画書」の提出・許可、草稿の執筆へと進むことになるが、それ以前に自身の興味ある問題についての基礎的な学習や基本事項の調査が必要となる。|本講義では、今後各自の研究を進めるための基礎的な調査について、その必要性や方法などを中心に、本格的な研究テーマ策定の準備作業を行い、研究の中心となる事項の具体化を目指す。|
■授業の目的・ねらい	1:研究に用いる参考文献が収集できる。|2:人物や地理情報など研究に必要な諸事項の調査ができる。|3:研究課題に関係した史資料の検索ができる。　|4:研究課題の明確化と具体化ができる。
■到達目標	1:研究課題の明確化と具体化ができる。|2:人物や地理情報など研究に必要な諸事項の調査ができる。|3:研究課題を考察する上で必要な史資料を明示できる。|4:研究に用いる参考文献を収集し、研究課題との関連を考えることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20%	
･その他	10%	

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	李　昇燁			シラバスグループ	Q01300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	本格的な研究開始の準備　?研究に必要な情報を収集し考える
■授業の概要	通信教育課程における卒業研究は、多くの場合が自身の興味や関心を研究テーマとする個人研究である。実際には３年時における「研究計画書」の提出・許可、草稿の執筆へと進むことになるが、それ以前に自身の興味ある問題についての基礎的な学習や基本事項の調査が必要となる。|本講義では、今後各自の研究を進めるための基礎的な調査について、その必要性や方法などを中心に、本格的な研究テーマ策定の準備作業を行い、研究の中心となる事項の具体化を目指す。|
■授業の目的・ねらい	1:研究に用いる参考文献が収集できる。|2:人物や地理情報など研究に必要な諸事項の調査ができる。|3:研究課題に関係した史資料の検索ができる。　|4:研究課題の明確化と具体化ができる。
■到達目標	1:研究課題の明確化と具体化ができる。|2:人物や地理情報など研究に必要な諸事項の調査ができる。|3:研究課題を考察する上で必要な史資料を明示できる。|4:研究に用いる参考文献を収集し、研究課題との関連を考えることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20%	
･その他	10%	

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	Q01200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	本格的な研究開始の準備　?研究に必要な情報を収集し考える
■授業の概要	通信教育課程における卒業研究は、多くの場合が自身の興味や関心を研究テーマとする個人研究である。実際には３年時における「研究計画書」の提出・許可、草稿の執筆へと進むことになるが、それ以前に自身の興味ある問題についての基礎的な学習や基本事項の調査が必要となる。|本講義では、今後各自の研究を進めるための基礎的な調査について、その必要性や方法などを中心に、本格的な研究テーマ策定の準備作業を行い、研究の中心となる事項の具体化を目指す。|
■授業の目的・ねらい	1:研究に用いる参考文献が収集できる。|2:人物や地理情報など研究に必要な諸事項の調査ができる。|3:研究課題に関係した史資料の検索ができる。　|4:研究課題の明確化と具体化ができる。
■到達目標	1:研究課題の明確化と具体化ができる。|2:人物や地理情報など研究に必要な諸事項の調査ができる。|3:研究課題を考察する上で必要な史資料を明示できる。|4:研究に用いる参考文献を収集し、研究課題との関連を考えることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20%	
･その他	10%	

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	李　昇燁			シラバスグループ	Q01300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	本格的な研究開始の準備　?研究に必要な情報を収集し考える
■授業の概要	通信教育課程における卒業研究は、多くの場合が自身の興味や関心を研究テーマとする個人研究である。実際には３年時における「研究計画書」の提出・許可、草稿の執筆へと進むことになるが、それ以前に自身の興味ある問題についての基礎的な学習や基本事項の調査が必要となる。|本講義では、今後各自の研究を進めるための基礎的な調査について、その必要性や方法などを中心に、本格的な研究テーマ策定の準備作業を行い、研究の中心となる事項の具体化を目指す。|
■授業の目的・ねらい	1:研究に用いる参考文献が収集できる。|2:人物や地理情報など研究に必要な諸事項の調査ができる。|3:研究課題に関係した史資料の検索ができる。　|4:研究課題の明確化と具体化ができる。
■到達目標	1:研究課題の明確化と具体化ができる。|2:人物や地理情報など研究に必要な諸事項の調査ができる。|3:研究課題を考察する上で必要な史資料を明示できる。|4:研究に用いる参考文献を収集し、研究課題との関連を考えることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20%	
･その他	10%	

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	Q01200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	本格的な研究開始の準備　?研究に必要な情報を収集し考える
■授業の概要	通信教育課程における卒業研究は、多くの場合が自身の興味や関心を研究テーマとする個人研究である。実際には３年時における「研究計画書」の提出・許可、草稿の執筆へと進むことになるが、それ以前に自身の興味ある問題についての基礎的な学習や基本事項の調査が必要となる。|本講義では、今後各自の研究を進めるための基礎的な調査について、その必要性や方法などを中心に、本格的な研究テーマ策定の準備作業を行い、研究の中心となる事項の具体化を目指す。|
■授業の目的・ねらい	1:研究に用いる参考文献が収集できる。|2:人物や地理情報など研究に必要な諸事項の調査ができる。|3:研究課題に関係した史資料の検索ができる。　|4:研究課題の明確化と具体化ができる。
■到達目標	1:研究課題の明確化と具体化ができる。|2:人物や地理情報など研究に必要な諸事項の調査ができる。|3:研究課題を考察する上で必要な史資料を明示できる。|4:研究に用いる参考文献を収集し、研究課題との関連を考えることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20%	
･その他	10%	

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	李　昇燁			シラバスグループ	Q01300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	本格的な研究開始の準備　?研究に必要な情報を収集し考える
■授業の概要	通信教育課程における卒業研究は、多くの場合が自身の興味や関心を研究テーマとする個人研究である。実際には３年時における「研究計画書」の提出・許可、草稿の執筆へと進むことになるが、それ以前に自身の興味ある問題についての基礎的な学習や基本事項の調査が必要となる。|本講義では、今後各自の研究を進めるための基礎的な調査について、その必要性や方法などを中心に、本格的な研究テーマ策定の準備作業を行い、研究の中心となる事項の具体化を目指す。|
■授業の目的・ねらい	1:研究に用いる参考文献が収集できる。|2:人物や地理情報など研究に必要な諸事項の調査ができる。|3:研究課題に関係した史資料の検索ができる。　|4:研究課題の明確化と具体化ができる。
■到達目標	1:研究課題の明確化と具体化ができる。|2:人物や地理情報など研究に必要な諸事項の調査ができる。|3:研究課題を考察する上で必要な史資料を明示できる。|4:研究に用いる参考文献を収集し、研究課題との関連を考えることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20%	
･その他	10%	

授業科目	京都学入門１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	佐古　愛己			シラバスグループ	Q02200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	古代・中世の政治・文化と都のすがた
■授業の概要	この授業では、歴史学の観点から京都の地域的な特色を考えます。日本の都となった京都は、政治・経済・文化の中心地として繁栄を極めるとともに、都市化のなかで様々な問題をも抱えてきました。古代・中世の京都において、人々が如何なる問題に直面し、克服してきたのかを考えたいと思います。|また、京都の市街地は現在も平安京以来の碁盤目状の都市構造を特徴としていますが、長い歴史の中で、都のすがたは時代の変遷とともに、為政者の、そして民衆の力によって、大きく変容しました。政治や文化の力によって、都市の姿がどのように変化してきたのか、史料を読み進め、絵巻や図版を参照しながら具体的に検討してゆきたいと思います。|
■授業の目的・ねらい	この授業では、歴史学の立場から京都をみつめる視点を養うことを目指し、特に古代・中世における京都の地域的特徴を理解することを目標とします。
■到達目標	・京都の古代・中世の歴史についての基礎的事項を理解し、説明できる。|・日本の歴史における京都の位置づけを理解できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	課題について、根拠を明確にしながら的確な内容が記されているか、また論理的に叙述されているかを評価します。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20|	

授業科目	京都学入門２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	寺嶋　一根			シラバスグループ	Q03200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	京都の歴史と京都イメージの創出過程
■授業の概要	本授業では、現代京都の原型となる戦国期以降の京都のまちのうつりかわりを中心に取り上げます。また、「千年の古都」、「伝統都市」、「町衆による京都再生」、「非戦災都市」など、京都にまつわる様々なイメージや「伝説」について、歴史学の立場から検証し、それらが生み出された歴史的背景などにも留意しながら、授業を進めていきたいと思います。
■授業の目的・ねらい	本授業では、歴史学の立場から、京都のまちの歴史とそれにまつわる言説の背景を理解することを目指します。
■到達目標	(1)「京都の歴史」の特徴を現代京都への連続のなかで理解する|(2)「京都イメージ」が創出された歴史的背景を理解する|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	日本古代・中世史特講２（春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	野地　秀俊			シラバスグループ	Q04100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	室町時代史研究
■授業の概要	いくつか区分されている時代の中で「室町時代」というのは、始まりと終わりさえ諸説あるなど、つかみどころのない時代と認識されています。本講義では、室町幕府や将軍権力の推移を追うことによって、時代の変化のポイントと室町時代の特徴を概説します。
■授業の目的・ねらい	①日本史の中における室町時代の位置づけを理解する。|②室町時代の始まりと終わりの画期を理解する。|③室町幕府や将軍の権力構造について理解する。
■到達目標	①室町時代の大まかな流れを説明できる。|②室町時代の特徴を説明できる。|③室町幕府や将軍権力の推移を説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	オンライン授業なので、レポート試験となります。|講義を正確に理解しているかで評価します。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	日本古代・中世史特講２（夏期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	工藤　美和子		シラバスグループ	Q05200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日本古代の王権と仏教
■授業の概要	天皇や太上天皇といった王権、そして王権を支えた人々を取り上げ、当該期において仏教が果たした役割について考える。政治史や天皇に関わる事柄と仏教史との関係を具体的史料を提示しながら把握する。
■授業の目的・ねらい	日本古代・中世の仏教史をテーマとして、関連する基礎知識を習得するだけでなく、史料分析や歴史叙述の方法等、大学での専門的歴史研究についての理解を深める。
■到達目標	1．仏教史の基本的知識を身につけ説明することができる。|2．史料から合理的解釈を導き、歴史事実を説明するという歴史研究の基本的手法を身につける。|3．上記を踏まえ、古代・中世の日本の歴史について自分なりの解釈を示すことができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験を実施し、上記到達目標に対する理解度をはかる（B-net で提出)。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	日本近世史特講２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	片山　正彦			シラバスグループ	Q06100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	近世初期（戦国・織豊期）の政治史を考える。
■授業の概要	本授業では、主に戦国・織豊期の政治史にかかわる史料（くずし字のものを含む）をとりあげ、その特徴を考えていきたいと思います。
■授業の目的・ねらい	織田信長・豊臣秀吉・徳川家康など、比較的なじみの深い人物に関わる史料を読んでいき、その上で論理的な思考を身に付けていただきたいと考えています。そして将来的には、本授業で身に付けたものを卒業論文・リポートを執筆する際に活かしていただきたいと思います。
■到達目標	本授業で学んだことを基にして、オリジナリティのある卒業論文・リポートの作成に役立ててほしい。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施。授業内で学んだことをリポートしてください。
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	グループあるいは個人で報告をしていただきます。
･授業内課題	30	
･その他	0	課題を設定しますので、自主的に取り組むようにしてください。

授業科目	日本仏教史特講２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	B61100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	古代（飛鳥～平安時代）の仏教史を考える
■授業の概要	日本史上の多くの時代において、仏教は常に社会に大きな影響を与えており、仏教的世界観は昔の人々にとって実態あるものとして捉えられていました。そして、その痕跡は現代社会の様々な所に見出すことができます。日本仏教の流れを理解することは日本文化を理解する上で、重要な視点となるといえるでしょう。| 本授業では、仏教伝来から平安時代に至るまで、様々な史料を再検討しながら、各時代における仏教の位置付けを再考します。
■授業の目的・ねらい	本講義では、古代仏教に関連する多くの史料を提示し、解釈していきます。断片的な史料から史実を把握できるようになることが目標です。そして、それらの史料の解釈が、これまでの研究でどのように変化してきたのかという点を理解することも目的です。
■到達目標	・古代の仏教史研究の変遷について、史料に基づいて理解できるようになる。 |・史料を様々な視角から解釈する姿勢を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	40%	
･その他	0%	

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	Q01200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	本格的な研究開始の準備　?研究に必要な情報を収集し考える
■授業の概要	通信教育課程における卒業研究は、多くの場合が自身の興味や関心を研究テーマとする個人研究である。実際には３年時における「研究計画書」の提出・許可、草稿の執筆へと進むことになるが、それ以前に自身の興味ある問題についての基礎的な学習や基本事項の調査が必要となる。|本講義では、今後各自の研究を進めるための基礎的な調査について、その必要性や方法などを中心に、本格的な研究テーマ策定の準備作業を行い、研究の中心となる事項の具体化を目指す。|
■授業の目的・ねらい	1:研究に用いる参考文献が収集できる。|2:人物や地理情報など研究に必要な諸事項の調査ができる。|3:研究課題に関係した史資料の検索ができる。　|4:研究課題の明確化と具体化ができる。
■到達目標	1:研究課題の明確化と具体化ができる。|2:人物や地理情報など研究に必要な諸事項の調査ができる。|3:研究課題を考察する上で必要な史資料を明示できる。|4:研究に用いる参考文献を収集し、研究課題との関連を考えることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20%	
･その他	10%	

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	李　昇燁			シラバスグループ	Q01300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	本格的な研究開始の準備　?研究に必要な情報を収集し考える
■授業の概要	通信教育課程における卒業研究は、多くの場合が自身の興味や関心を研究テーマとする個人研究である。実際には３年時における「研究計画書」の提出・許可、草稿の執筆へと進むことになるが、それ以前に自身の興味ある問題についての基礎的な学習や基本事項の調査が必要となる。|本講義では、今後各自の研究を進めるための基礎的な調査について、その必要性や方法などを中心に、本格的な研究テーマ策定の準備作業を行い、研究の中心となる事項の具体化を目指す。|
■授業の目的・ねらい	1:研究に用いる参考文献が収集できる。|2:人物や地理情報など研究に必要な諸事項の調査ができる。|3:研究課題に関係した史資料の検索ができる。　|4:研究課題の明確化と具体化ができる。
■到達目標	1:研究課題の明確化と具体化ができる。|2:人物や地理情報など研究に必要な諸事項の調査ができる。|3:研究課題を考察する上で必要な史資料を明示できる。|4:研究に用いる参考文献を収集し、研究課題との関連を考えることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20%	
･その他	10%	

授業科目	京都学入門１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	佐古　愛己			シラバスグループ	Q02200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	古代・中世の政治・文化と都のすがた
■授業の概要	この授業では、歴史学の観点から京都の地域的な特色を考えます。日本の都となった京都は、政治・経済・文化の中心地として繁栄を極めるとともに、都市化のなかで様々な問題をも抱えてきました。古代・中世の京都において、人々が如何なる問題に直面し、克服してきたのかを考えたいと思います。|また、京都の市街地は現在も平安京以来の碁盤目状の都市構造を特徴としていますが、長い歴史の中で、都のすがたは時代の変遷とともに、為政者の、そして民衆の力によって、大きく変容しました。政治や文化の力によって、都市の姿がどのように変化してきたのか、史料を読み進め、絵巻や図版を参照しながら具体的に検討してゆきたいと思います。|
■授業の目的・ねらい	この授業では、歴史学の立場から京都をみつめる視点を養うことを目指し、特に古代・中世における京都の地域的特徴を理解することを目標とします。
■到達目標	・京都の古代・中世の歴史についての基礎的事項を理解し、説明できる。|・日本の歴史における京都の位置づけを理解できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	課題について、根拠を明確にしながら的確な内容が記されているか、また論理的に叙述されているかを評価します。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20|	

授業科目	京都学入門２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	寺嶋　一根			シラバスグループ	Q03200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	京都の歴史と京都イメージの創出過程
■授業の概要	本授業では、現代京都の原型となる戦国期以降の京都のまちのうつりかわりを中心に取り上げます。また、「千年の古都」、「伝統都市」、「町衆による京都再生」、「非戦災都市」など、京都にまつわる様々なイメージや「伝説」について、歴史学の立場から検証し、それらが生み出された歴史的背景などにも留意しながら、授業を進めていきたいと思います。
■授業の目的・ねらい	本授業では、歴史学の立場から、京都のまちの歴史とそれにまつわる言説の背景を理解することを目指します。
■到達目標	(1)「京都の歴史」の特徴を現代京都への連続のなかで理解する|(2)「京都イメージ」が創出された歴史的背景を理解する|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	日本史特講（古代・中世）２（春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	野地　秀俊			シラバスグループ	Q04100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	室町時代史研究
■授業の概要	いくつか区分されている時代の中で「室町時代」というのは、始まりと終わりさえ諸説あるなど、つかみどころのない時代と認識されています。本講義では、室町幕府や将軍権力の推移を追うことによって、時代の変化のポイントと室町時代の特徴を概説します。
■授業の目的・ねらい	①日本史の中における室町時代の位置づけを理解する。|②室町時代の始まりと終わりの画期を理解する。|③室町幕府や将軍の権力構造について理解する。
■到達目標	①室町時代の大まかな流れを説明できる。|②室町時代の特徴を説明できる。|③室町幕府や将軍権力の推移を説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	オンライン授業なので、レポート試験となります。|講義を正確に理解しているかで評価します。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	日本史特講（古代・中世）２（夏期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	工藤　美和子			シラバスグループ	Q05200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日本古代の王権と仏教
■授業の概要	天皇や太上天皇といった王権、そして王権を支えた人々を取り上げ、当該期において仏教が果たした役割について考える。政治史や天皇に関わる事柄と仏教史との関係を具体的史料を提示しながら把握する。
■授業の目的・ねらい	日本古代・中世の仏教史をテーマとして、関連する基礎知識を習得するだけでなく、史料分析や歴史叙述の方法等、大学での専門的歴史研究についての理解を深める。
■到達目標	1．仏教史の基本的知識を身につけ説明することができる。|2．史料から合理的解釈を導き、歴史事実を説明するという歴史研究の基本的手法を身につける。|3．上記を踏まえ、古代・中世の日本の歴史について自分なりの解釈を示すことができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験を実施し、上記到達目標に対する理解度をはかる（B-net で提出)。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	日本史特講（近世）２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	片山　正彦			シラバスグループ	Q06100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	近世初期（戦国・織豊期）の政治史を考える。
■授業の概要	本授業では、主に戦国・織豊期の政治史にかかわる史料（くずし字のものを含む）をとりあげ、その特徴を考えていきたいと思います。
■授業の目的・ねらい	織田信長・豊臣秀吉・徳川家康など、比較的なじみの深い人物に関わる史料を読んでいき、その上で論理的な思考を身に付けていただきたいと考えています。そして将来的には、本授業で身に付けたものを卒業論文・リポートを執筆する際に活かしていただきたいと思います。
■到達目標	本授業で学んだことを基にして、オリジナリティのある卒業論文・リポートの作成に役立ててほしい。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施。授業内で学んだことをリポートしてください。
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	グループあるいは個人で報告をしていただきます。
･授業内課題	30	
･その他	0	課題を設定しますので、自主的に取り組むようにしてください。

授業科目	日本史特講（宗教・文化）２（春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	B61100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	古代（飛鳥～平安時代）の仏教史を考える
■授業の概要	日本史上の多くの時代において、仏教は常に社会に大きな影響を与えており、仏教的世界観は昔の人々にとって実態あるものとして捉えられていました。そして、その痕跡は現代社会の様々な所に見出すことができます。日本仏教の流れを理解することは日本文化を理解する上で、重要な視点となるといえるでしょう。| 本授業では、仏教伝来から平安時代に至るまで、様々な史料を再検討しながら、各時代における仏教の位置付けを再考します。
■授業の目的・ねらい	本講義では、古代仏教に関連する多くの史料を提示し、解釈していきます。断片的な史料から史実を把握できるようになることが目標です。そして、それらの史料の解釈が、これまでの研究でどのように変化してきたのかという点を理解することも目的です。
■到達目標	・古代の仏教史研究の変遷について、史料に基づいて理解できるようになる。 |・史料を様々な視角から解釈する姿勢を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	40%	
･その他	0%	

授業科目	専門総合４（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合１（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合２（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合３（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合４（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合１（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合２（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合３（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合４（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合１（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合２（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合３（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合４（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合１（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合２（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合３（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合４（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合１（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合２（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合３（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合４（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合１（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合２（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合３（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合４（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合１（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合２（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合３（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合４（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合１（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合２（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合３（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合４（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	京都学入門１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	佐古　愛己			シラバスグループ	Q02200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	古代・中世の政治・文化と都のすがた
■授業の概要	この授業では、歴史学の観点から京都の地域的な特色を考えます。日本の都となった京都は、政治・経済・文化の中心地として繁栄を極めるとともに、都市化のなかで様々な問題をも抱えてきました。古代・中世の京都において、人々が如何なる問題に直面し、克服してきたのかを考えたいと思います。|また、京都の市街地は現在も平安京以来の碁盤目状の都市構造を特徴としていますが、長い歴史の中で、都のすがたは時代の変遷とともに、為政者の、そして民衆の力によって、大きく変容しました。政治や文化の力によって、都市の姿がどのように変化してきたのか、史料を読み進め、絵巻や図版を参照しながら具体的に検討してゆきたいと思います。|
■授業の目的・ねらい	この授業では、歴史学の立場から京都をみつめる視点を養うことを目指し、特に古代・中世における京都の地域的特徴を理解することを目標とします。
■到達目標	・京都の古代・中世の歴史についての基礎的事項を理解し、説明できる。|・日本の歴史における京都の位置づけを理解できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	課題について、根拠を明確にしながら的確な内容が記されているか、また論理的に叙述されているかを評価します。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20|	

授業科目	京都学入門２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	寺嶋　一根			シラバスグループ	Q03200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	京都の歴史と京都イメージの創出過程
■授業の概要	本授業では、現代京都の原型となる戦国期以降の京都のまちのうつりかわりを中心に取り上げます。また、「千年の古都」、「伝統都市」、「町衆による京都再生」、「非戦災都市」など、京都にまつわる様々なイメージや「伝説」について、歴史学の立場から検証し、それらが生み出された歴史的背景などにも留意しながら、授業を進めていきたいと思います。
■授業の目的・ねらい	本授業では、歴史学の立場から、京都のまちの歴史とそれにまつわる言説の背景を理解することを目指します。
■到達目標	(1)「京都の歴史」の特徴を現代京都への連続のなかで理解する|(2)「京都イメージ」が創出された歴史的背景を理解する|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	専門総合１（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合２（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合３（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合４（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	京都学入門１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	佐古　愛己			シラバスグループ	Q02200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	古代・中世の政治・文化と都のすがた
■授業の概要	この授業では、歴史学の観点から京都の地域的な特色を考えます。日本の都となった京都は、政治・経済・文化の中心地として繁栄を極めるとともに、都市化のなかで様々な問題をも抱えてきました。古代・中世の京都において、人々が如何なる問題に直面し、克服してきたのかを考えたいと思います。|また、京都の市街地は現在も平安京以来の碁盤目状の都市構造を特徴としていますが、長い歴史の中で、都のすがたは時代の変遷とともに、為政者の、そして民衆の力によって、大きく変容しました。政治や文化の力によって、都市の姿がどのように変化してきたのか、史料を読み進め、絵巻や図版を参照しながら具体的に検討してゆきたいと思います。|
■授業の目的・ねらい	この授業では、歴史学の立場から京都をみつめる視点を養うことを目指し、特に古代・中世における京都の地域的特徴を理解することを目標とします。
■到達目標	・京都の古代・中世の歴史についての基礎的事項を理解し、説明できる。|・日本の歴史における京都の位置づけを理解できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	課題について、根拠を明確にしながら的確な内容が記されているか、また論理的に叙述されているかを評価します。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20|	

授業科目	京都学入門２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	寺嶋　一根			シラバスグループ	Q03200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	京都の歴史と京都イメージの創出過程
■授業の概要	本授業では、現代京都の原型となる戦国期以降の京都のまちのうつりかわりを中心に取り上げます。また、「千年の古都」、「伝統都市」、「町衆による京都再生」、「非戦災都市」など、京都にまつわる様々なイメージや「伝説」について、歴史学の立場から検証し、それらが生み出された歴史的背景などにも留意しながら、授業を進めていきたいと思います。
■授業の目的・ねらい	本授業では、歴史学の立場から、京都のまちの歴史とそれにまつわる言説の背景を理解することを目指します。
■到達目標	(1)「京都の歴史」の特徴を現代京都への連続のなかで理解する|(2)「京都イメージ」が創出された歴史的背景を理解する|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	専門総合１（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合２（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合３（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	専門総合４（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	中道　泰子			シラバスグループ	A17400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	「こころ」の世界への理解を深める
■授業の概要	心理臨床の基本的知識や技法についての学びを通して、人間の「こころ」への理解を深める。|前半は、臨床心理学的視座から「こころ」をどうとらえるのかを学んだ上で、心理療法の技法のひとつである箱庭療法を中心に解説していく。後半は、日常に活かすことのできる臨床心理学の視点や、心の健康といった身近なテーマについて考える。
■授業の目的・ねらい	人間の「こころ」を、臨床心理学的な視点から理解できるようになる。|様々な角度から「こころ」を捉えることで、自己理解・他者理解を深める。
■到達目標	「こころ」に関する基本的な知識を身につける。|「こころ」を多面的に捉える力を身につける。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	専門総合４（冬期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	山本　奈生			シラバスグループ	A17401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ナチス期ドイツの文化と社会：　独裁と人種主義について考える
■授業の概要	ナチス期ドイツは、戦後の人文社会科学を考えるにあたって欠かせない歴史的出来事です。|本講義では、主に文化社会学の観点から、ナチス・ヒトラーを生んだワイマール期ドイツから|戦中ドイツまでの時代を対象範囲とします。‖どのようにして一応は民主的な投票によって独裁者が選ばれてしまったのか、|そこでの選択に、どういった社会思想、社会背景、文化があったのかを考察します。
■授業の目的・ねらい	戦後の人文社会科学が避けて通ることのできなかった、「あの時代」とは何だったのかを|理解することで教養を高め、それぞれの研究分野にとっての一つの参考としてもらうことが目的です。
■到達目標	時代状況を構成している、文化・思想の理解とセットで|歴史的経緯を把握することができるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	専門総合４（冬期)C クラス_オンライン				単位	1
担当者	南　宏信			シラバスグループ	A17402	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	法然浄土教とその周縁
■授業の概要	仏教の専売特許のように思われている輪廻転生（業思想）ですが、ゴータマ・ブッダ自身は諸法無我の立場から消極的であったと言われています。ところが後に業思想は積極的に受容されるようになり、中国や日本に大乗仏教が伝来する頃には「廻向」「懺悔」「転重軽受」「代受苦」などの因果応報思想が展開していきます。その諸相と周縁を法然浄土教を中心に概説していきます。
■授業の目的・ねらい	業をテーマに据え、日本の平安時代から法然浄土教における業の解釈を概観していくことを目的とします。ゴータマ・ブッダの時代から大乗仏教にいたるまでに仏教思想は様々に変容してきました。大乗仏教では上求菩提（智慧）に加えて下化衆生（慈悲）という実践的側面が求められるわけですが、本講ではその諸相を説明していきます。
■到達目標	|業を中心とした法然浄土教とその周縁の諸相を理解・把握できるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	100|	
･授業内発表	0|	
･授業内試験	0|	
･授業内課題	0	
･その他	0|	

授業科目	日本近・現代史特講２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	林　美帆			シラバスグループ	Q07100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日本近・現代の公害と市民運動　岡山県水島地域を事例として
■授業の概要	日本近代の工業化は、富の蓄積や発展をもたらしたが、その裏面に公害という負の側面を生じさせることとなった。公害は日本近現代社会の矛盾点ということができる。|戦前の足尾鉱山の鉱毒事件や、別子銅山の亜硫酸ガスの排煙問題といった鉱山に関わる公害や、大阪にみられる工業都市化と公害は、戦争との関係が深く、開発と生活の間の引き裂かれた問題を考えるきっかけとなる。|また、戦後の水俣病やイタイイタイ病、大気汚染公害といった健康被害を伴う公害は、高度経済成長に伴って発生している。|各地の公害の概要とともに、岡山県水島での開発と公害の発生の関係性について論じる。|公害の歴史を通じて、法制度や住民運動、裁判、企業の経営体質、国際的な動きの変化について見る。|特に、市民運動が果たした役割について着目し、近代日本の矛盾点とその解決策を明らかにしていく。
■授業の目的・ねらい	〈学習内容の目的とねらい〉|・日本の近代化と公害について考察する。|・公害の解決と民主主義の関係性を明らかにする。|〈到達度〉|公害を取り巻く社会構造を把握できたか。|〈成績評価の基準〉|試験と平常点（出席など）をふまえて評価する。
■到達目標	公害によって引き起こされる状況について理解する。|ＳＤＧｓのベースとなっている「権利ベースアプローチ」を理解し、市民運動の意義を理解する。‖

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	20%	
･授業内試験	10%	
･授業内課題	10%	
･その他	0%	

授業科目	日本近・現代史特講２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	本間　千景			シラバスグループ	Q08200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	韓国「併合」前、大韓帝国は日本の保護下にあった。日本の主導による新たな学校制度が敷かれたが、私立学校における民族教育も盛んに行われていた。しかしながら、韓国学部は歴史教科書を編纂しなかったため、官公私立初等教育機関で使用される歴史教科書は、検定を通らなければ使用することができなかった。本講義では、当時民間で出版され検定に申請された三冊の歴史教科書を分析する。検定に合格した教科書、不合格になった教科書の日韓関係部分を韓国学部の検定方針に照らしながら比較・分析し、なぜ検定に合格したのか、あるいは不合格になったのかを議論しながら、支配者・被支配者それぞれの意図について考察する。
■授業の概要	朝鮮近代教育史と日本の関わりを概観し、韓国が日本の保護国となる過程、また、保護国期の教育行政について、史料を通し考察する。|また、検定合格および不合格となった歴史教科書を分析・考察・発表し、議論することにより、編纂者および検定する側の意図について検討する。
■授業の目的・ねらい	孤独になりがちな通信課程であるが、共に講義を受ける仲間たちと互いに協力し合いながら、日本の保護国下にあった大韓帝国期の歴史教科書内容を分析し、議論を重ねて考察を深めるのが目的である。成績評価の基準は、分析・議論の結果を自分なりに結論づけられているかということである。
■到達目標	大韓帝国が日本の保護国となる過程、その後の日本主導による新教育制度の導入、教育制度が実施される過程での民間韓国人の反応を学んだ上で、韓国人により編纂された歴史教科書を分析することにより、韓国保護国期の教育状況と日韓の緊張関係を理解すること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	古文書講読２（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	野地　秀俊			シラバスグループ	Q20300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	古文書(くずし字)を読む
■授業の概要	本講義では、史料原典を直接読み解く力を養うため、中世から近世の定型の文書を例に、古文書(くずし字)の解読を初歩から学びます。
■授業の目的・ねらい	中世の史料、とりわけ室町戦国期から近世・近代にかけての史料は活字化されていないものが多くあります。こうした史料を研究に用いようとする場合、史料の読解に先立ち、原文の史料（文書や記録）を読み解く作業が必須となりますが、筆による記述が日常的ではない現代にあって、和紙に墨書された原文の史料（くずし字）の解読は、相当の習熟を要する作業です。したがって、本講義を受講すればすぐにくずし字が読めるようになるわけではありませんが、まずはくずし字に触れるきっかけとなり、今後の自学自習の手がかりをつかむことがねらいです。
■到達目標	古文書の解読は、その能力の段階としていくつかのレベルが設定できますが、本講義の到達点として、以下の諸点を目指します。| 1)定形の文言を把握し、表記のブレを確認する。| 2)簡単な文書を翻刻できるようになる。 | 3)古文書の様式的特徴を理解する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	オンライン授業なので、リポート試験となります。|古文書の解読を課す予定です。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	日本古代・中世史料講読（秋期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	駒井　匠		シラバスグループ	Q21300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	日本古代・中世史料の読解と解釈
■授業の概要	日本史を研究するには、史料を読むことがどうしても必要である。この授業では、古代史・中世史を研究する上で必要な史料の読解能力の養成・向上を目指す。史料の読み下しや解釈といった基礎的な方法を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	以下の諸点を目的とする。各自の史料読解能力の養成を目指す。|1,史料を読み、自分の言葉で解釈できる。|2,史料から自分なりの論点を見つける姿勢を身に付けることができる。|3,日本史研究の方法を習得することができる。|
■到達目標	①史料読解の意義を理解することができる。|②史料の基本的な読み方を理解することができる。|③調べた情報を駆使して史料の意味内容を解釈することができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	90%	
･リポート試験(SR 履修)	0	第 9 回に試験を実施する。
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0	史料を読んでもらうにあたり、予習しているかどうかを加味する。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	日本近世史料講読（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	高橋　大樹			シラバスグループ	Q22200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	近世地域（地方）史料を読む
■授業の概要	近世社会は文書行政が進展した時代ともいわれます。幕府や大名、天皇・公家や寺社などの領主は、全国約 63,000（天保年間）の村々を統治し、年貢収取（納税）を中心に、命令や通達などを文書を通じて行いました。一方で村側では、それら行政支配に対応し、また自治の円滑化を図るため、庄屋・年寄など村役人を中心に様々な文書・記録を作成し、さらに後々の参照や訴訟における証拠保全のため、大切に保管してきました。| 本講義では、それら近世地域史料（地方・村方文書）の講読を通じて、頻出する慣用句や用語、あるいは漢文に慣れ、そこにあらわれる領主支配・身分秩序・組織（村役人）の文書管理の諸相から、近世社会と史料に関する基礎的・総体的な理解を深めることを目的とします。| なお、テキストとして、主に近江国の地域史料（地方・村方文書）の中から、納税・訴願・争論を中心に、基礎的な文書・記録を用います。また、講義の中で原文（くずし字）の解読もおこないます。|
■授業の目的・ねらい	（１）近世地域史料（文書・記録類）の解読を通じて、近世文書・記録に関する基礎的知識を習得すること。|（２）近世文書・記録の読み方（近世の漢文・候文）が概ね解読できるようになること。|（３）史料読解のために必要な調査項目を判断できるようになること。|
■到達目標	（１）近世地域史料（文書・記録類）の解読を通じて、近世文書・記録に関する基礎的知識を習得すること。|（２）近世文書・記録の読み方（近世の漢文・候文）を概ね解読できるようになること。|（３）史料の理解のため必要な項目を調査できるようになること。|（４）くずし字に慣れ、基本的なくずし字や頻出する文字・語句を解読することができるようになること。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	解読文のグループ発表
･授業内課題	0	
･その他	35	

授業科目	日本近・現代史料講読（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	杉本　弘幸			シラバスグループ	Q23200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日本近代史料演習
■授業の概要	主として、明治期の近代史料の講読を行う。事前配付した資料等の予習を行ってもらい、読み下し文と史料解釈を１人ずつ指名して、順次発表してもらう。それに対して、担当講師が読み下しや史料解釈を行う際のポイント、史料の背景、調べ方などのコメントをする。受講生のレベルが許せば、近代の書簡や行政文書などのくずし字解読の基礎も行いたい。
■授業の目的・ねらい	日本近代史料の読み下しや史料解釈の基礎的な力をつける。
■到達目標	日本近代史料の読み下し、解釈の基礎が理解でき、自分で調べながら読み進めることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	史料の読み下し、解釈の試験。なお、全出席しないと単位認定しない
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	史料の読み下し、解釈の発表。なお、全出席しないと単位認定しない
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	発展研究ゼミ１（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	佐古　愛己			シラバスグループ	Q24300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	日本史分野で卒業論文を執筆するための研究法演習
■授業の概要	日本史の研究方法を学ぶ。特に、自身の問題関心をもとに「研究計画書」（最終的には卒業論文）を完成させるために必要な研究方法（研究テーマに関連する論文等先行研究の探し方、史資料の収集の仕方、収集した文献・史資料の分析・利用方法など）を学び、卒業論文作成の基礎的方法（研究史の整理、論文の構成、執筆上の留意点など）を身につける。
■授業の目的・ねらい	１、研究課題を具体的に作成し、説明できる。|2、研究課題に関連する文献を収集して、目録を作成できる。|3、研究課題を考察する上で必要な史資料を収集できる。　|4、研究に用いる参考文献を収集し、研究課題との関連を考えることができる。|5、卒業論文の大まかな構成を考えることができる。|
■到達目標	①研究課題を具体化ができる。|②研究課題に関連する文献を収集して、目録を作成できる。|③研究課題を考察する上で必要な史資料を収集できる。　|④研究に用いる参考文献を収集し、研究課題との関連を考えることができる。|⑤卒業論文の大まかな構成を考えることができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ２（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	寺嶋　一根			シラバスグループ	Q25300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	日本史分野のための研究法を学ぶ
■授業の概要	本授業では、日本史分野の卒業研究を始めるにあたって必要な基礎知識と研究方法について、演習形式で学びます。テーマ設定、先行研究・資史料の収集法と選択にあたってのポイント、学術文献・史資料を読む際の視点、レポート・論文など学術的な文章を書く際の作法などを講義したうえで、各自が定めた研究テーマに即した日本史研究上の論点についてテキストから選択し、内容をまとめたレジュメを作成のうえ発表を行います。
■授業の目的・ねらい	日本史研究を進める際に必要な基本的視点や能力を養うこと‖
■到達目標	①日本史の分野で、自らが研究するテーマの設定ができるようになる。|②レポート・論文を作成するための情報収集の方法を知り、基礎的な事柄を調べられるようになる。|③自らの研究テーマについて、どのような研究が行われていたのかを把握する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ３（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	麓　慎一			シラバスグループ	Q26200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	日本近代史研究法
■授業の概要	日本近代の研究には①史料の収集と分析および②先行研究の調査と検討が必要である。この発展研究ゼミでは①のうち「史料の収集」を中心に研究のスキルを向上させる。
■授業の目的・ねらい	日本近代史研究に必要な史料を収集できるようになる。インターネツト上で利用できる史料所蔵機関およびサイトの史料群を利用できるようになる。
■到達目標	「毎回の授業のテーマ」で示した史料所蔵機関およびサイトを利用して自らの研究に有益な史料を収集することができるようになる。いくつかの所蔵機関とサイトについての到達目標を示す。|①アジア歴史史料センターが国立公文書館･外務省外交資料館・防衛庁防衛研究所の史料群によって構成されていることを理解し、それらの史料の利用の仕方と注意点を説明できる。|②国立国会図書館の史料群の利用の仕方を説明できるようになる。特に、国立国会図書館が推進している「デジタル化資料送信サービス」を利用できる。|③ざっさくプラス（雑誌記事索引集成データベース）を利用できるようになるとともに、そこで得られた情報を利用して論文や資料を入手できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	30%	授業時間中に作業をしながらリポートの核になる部分を作成します。
･授業内試験	0	授業内での作業状況について回答する。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ４（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	Q27200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業研究を見越した個人研究の準備　？「研究計画書」の有効活用
■授業の概要	通信教育課程における卒業研究は、「研究計画書」の提出・許可を経て草稿へと進んでいく。|しかし、「研究計画書」提出の段階で、あるいは草稿提出の段階で、次のステップへと進めず足踏みをする学生が多い。こうした学生の多くは、自らの研究を十分に考えることなく計画書を執筆していることが多く、入学以来学んできたはずの内容を十分に生かし切れていないようである。|本講義では、各自の「研究計画書」の内容（「計画書」に記述しようと予定している諸事項）を手がかりに、研究の方向や内容を具体化するための手立てを学ぶ。とりわけ、研究の中心となる事項を具体化し研究上の課題として明確にすること、収集した参考文献や史資料をどう研究に用いるのかを考えることに力を入れたい。
■授業の目的・ねらい	1:研究課題の明確化と具体化ができる。|2:人物や地理情報など研究に必要な諸事項の調査ができる。|3:研究課題を考察する上で必要な史資料を明示できる。　|4:研究に用いる参考文献を収集し、研究課題との関連を考えることができる。
■到達目標	1:研究課題の明確化と具体化ができる。|2:人物や地理情報など研究に必要な諸事項の調査ができる。|3:研究課題を考察する上で必要な史資料を明示できる。|4:研究に用いる参考文献を収集し、研究課題との関連を考えることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20%	
･その他	10%	

授業科目	東洋古代史特講２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	西川　利文			シラバスグループ	Q32100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	秦漢帝国の時代
■授業の概要	中国前近代の統一王朝の原型は、秦漢帝国の時代に形成される。その形成過程について、王朝形成期の殷周時代までさかのぼり、文献のみならず出土資料も手掛かりに考える。
■授業の目的・ねらい	中国前近代統一王朝の形は専制国家といわれる。この国の形がいかにして形成されてくるのか、そしてそれを支えた官吏の日常がどのようなものか、という点から、中国専制国家の特質を明らかにしたい。
■到達目標	①専制国家の形成過程を説明できる。|②専制国家形成に至る社会変動を把握できる。|③専制国家形成に至る過程での思想的特色を説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80%|	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%|	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	20%|	

授業科目	東洋中・近世史特講２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	西田　祐子			シラバスグループ	Q34100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	5～13 世紀におけるユーラシア東部地域の歴史的展開
■授業の概要	5～13 世紀におけるユーラシア東部地域では，伝統的中華の文化と北方の草原世界の文化とが絡み合いながら歴史事象が展開し，社会としても文化としても多面的・重層的な様相を色濃く呈します。本講義では，それぞれの時代についてさまざまな切り口を設定し，各時代の社会・文化の特質についての知識を深めます。また,「どのような文献（史料）によって歴史事象が解き明かされたか」といった史料論的視点にも注意を払い，文献を研究に使用する際の課題についても考察します。
■授業の目的・ねらい	①5～12 世紀におけるユーラシア東部地域の歴史的展開を理解できるようになります。|②伝統的中華の文化的背景と，北方の草原世界の文化的背景のそれぞれの特徴を説明できるようになります。|③史料にもとづく歴史学の分析についてどのような課題があるか自らの意見を持ちます。
■到達目標	①5～12 世紀におけるユーラシア東部地域の歴史的展開を説明できるようになります。|②伝統的中華の文化的背景と，北方の草原世界の文化的背景のそれぞれの特徴を説明できるようになります。|③史料論的視点を持つことができます。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施します。|到達目標のいずれかについての到達度によって評価する。期待値以上に達成できていれば 100～90 点、十分に達成できていれば 89～80 点、ほぼ達成できていれば 79～70 点、もう少し努力が必要な場合は 69～60 点、求める最低水準に達せず更なる努力が必要な場合は 59～0 点とする。|
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	積極的な参加態度や，不明点を解決しようとする意欲的な質問などがあれば，評価します。意見や質問の内容による減点はおこなわないので，自信がなくてもぜひ質問していただきたいです。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	東洋近・現代史特講２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	山本　浄邦			シラバスグループ	Q36200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	大衆音楽から近現代韓国の社会史をみる
■授業の概要	この講義は、1920 年代の韓国大衆音楽登場から現在の K-pop にいたる韓国の大衆音楽について、それぞれの時代背景やその社会的意味を考えることにより、大衆音楽という視点から近現代韓国の社会史をみていこうとするものである。講義では担当教員が解説しながら、各時代の音楽映像など視聴覚資料を用いて学びを深める。韓国の近現代史や登場する歌手については講義で適宜解説するので、前提知識がほとんど無くても安心して受講してほしい。
■授業の目的・ねらい	①それぞれの時代における韓国大衆音楽の特徴を理解する。②それぞれの時代の音楽の特徴の背景にある社会状況を理解する。③上記を通じて、大衆音楽という視点から近現代韓国を社会史的に把握する。
■到達目標	それぞれの時代の韓国大衆音楽の特徴と、その背景にある韓国の社会状況を理解し、社会史的な観点から説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	講義内でのコメント（口頭・筆記）を評価する。

授業科目	東洋宗教史特講２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	江　優子			シラバスグループ	Q38200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	中国の宗教伝統
■授業の概要	先史時代から続く祖先祭祀は中国の宗教的基盤であり、その上に育まれた儒教・道教・インドから伝播した仏教は中国文明の本質を形作り、さらには日本を含めた周辺諸国の文化や社会制度にも深く大きな影響を与えた。本講義では、墓や遺物などの考古資料のスライドをふんだんに織り交ぜつつその歴史的展開を概説していく。
■授業の目的・ねらい	日本や東アジア圏全般に影響を与えた中国の諸思想や宗教を学ぶことで、多様な価値観・ものの見方を理解し、自分自身を、また現代文明を今一度見つめ直す批判的視点を得る。
■到達目標	中国の様々な思想、相互に影響し合い変容していく宗教文化の豊かな広がりを理解し、自分の言葉で説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	東北アジア史特講２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	岡田　和一郎			シラバスグループ	Q40200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	東北アジアのなかの日本列島
■授業の概要	本講義では、紀元前 3 世紀から 10 世紀までの日本列島の歴史について、東北アジアとの関係を視野に入れながら学修する。日本列島は地理的に四方を海に囲まれているが、その歴史は孤立していたわけではなく、東北アジア地域と深いかかわりを持ちながら展開してきた。東北アジアのなかの日本という視点から解説を進めながら、その歴史や文化の特徴を学ぶ。それにより、一国史という観点から見た日本史像との違いを理解し、歴史の多様性を学修する。
■授業の目的・ねらい	東北アジアのなかの日本列島の動向を理解し、一国史としての日本史とは異なる歴史像を学修することで、東北アジアのなかにおける日本列島の歴史的特徴を理解する。
■到達目標	①古代東北アジアの歴史を理解する。|②日本と東北アジアの関係を説明できる。|③東北アジアのなかの日本史の特徴を概述できる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。|到達目標のいずれかについての到達度によって評価する。期待値以上に達成できていれば 100～90 点、十分に達成できていれば 89～80 点、ほぼ達成できていれば 79～70 点、もう少し努力が必要な場合は 69～60 点、求める最低水準に達せず更なる努力が必要な場合は 59～0 点とする。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	0	

授業科目	東洋古代史料講読（秋期)A クラス_対面				単位	1
担当者	西田　祐子			シラバスグループ	Q41300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	安史の乱をひもとく
■授業の概要	文献にもとづいて議論をする歴史学では，現代に残されている史料を正確に解釈することが求められます。東洋史，特に中国を中心とするアジア地域の歴史研究では，漢文で書き残された史料が圧倒的な量を占めており，ないがしろにできません。この講義では，10 世紀に成立した唐代に関する歴史書『旧唐書』のうち安禄山伝をとりあげ，漢文の文法などの解説を交えながら読解していきます。安禄山という人物は，中国史の中でも特に大きな影響を生み出した反乱の一つである「安史の乱」の首謀者です。最新の研究成果なども参照して歴史的背景も学びながら，読み進めていきましょう。
■授業の目的・ねらい	『旧唐書』安禄山伝には，唐代当時の政治的・軍事的状況を示す内容や，唐という国が抱いていた民族的･文化的な多層性を示唆する内容が含まれています。この文献を取り上げ，漢文読解の技術を訓練するとともに，歴史事象についての理解も深めます。|本講義では，漢文の初学者を主たる受講者と想定しているため，①漢和辞典や辞典の使い方，②漢文の文法（読解方法），③そこから歴史像を復元するという３つの方法を身につけることに主眼をおきます。

■到達目標	①漢和辞典や辞典を適切に使えるようになります|②返り点を正しく理解でき，返り点つきの漢文を読解できるようになります|③漢文史料から歴史像を復元できるようになります

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	40	
･授業内試験	60	
･授業内課題	0	第８回の確認テスト。講義中に読んだテキストの復習問題です。
･その他	0	

授業科目	東洋中・近世史料講読（秋期)A クラス_対面				単位	1
担当者	與座　良一			シラバスグループ	Q42300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	趙翼『廿二史箚記』講読
■授業の概要	本講座では、清代の学者である趙翼（1727 年-1814 年）が著した『廿二史箚記』の中から比較的読みやすい記述を抜粋して講読する。|『廿二史箚記』は中国歴代王朝の歴史書を考証し、ときに自らの史論をも展開した著書である。廿二史箚記』を中心に読み進めながら中国の歴史を概観し、あわせて基本的な漢文訓読の方法を学ぶ。|
■授業の目的・ねらい	史料を読解することを通じ、基本的な漢文訓読の方法を習得するとともに、中国史の概要を理解する。|
■到達目標	基本的な漢文訓読の方法を習得するとともに、中国史の概要を確認する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	20%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	80%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	東洋近・現代史料講読（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	山本　浄邦			シラバスグループ	Q43200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	奥村円心「朝鮮国布教日誌」を読む
■授業の概要	真宗大谷派の奥村円心（１８４３?１９１３）は、近代日本仏教において最も早く朝鮮布教に着手した人物です。|１８７７年、円心は日本政府の依頼をうけた東本願寺の指示によって、開港間もない釜山（プサン）に渡り、外務省の後押しのもと本願寺釜山別院を設置して朝鮮での活動を開始します。|本授業では、この奥村円心による朝鮮布教の記録「朝鮮国布教日誌」を受講者とともに読み解きながら、円心の朝鮮布教について仏教史・日本史・朝鮮史さらには日朝交流史などさまざまな角度からその実態に迫ります。|以上を通して、近代東アジアに関する日本語及び漢文史料を多角的に読解する基礎的能力を身につけていきます。
■授業の目的・ねらい	本授業では、奥村円心による朝鮮布教の記録である「朝鮮国布教日誌」をテキストとして、近代東アジアに関する史料の基礎的読解力と読解に必要な基本的知識を習得することを目的とします。|さらには、教員による講義や自身の調査を通して史料が書かれた時代背景を理解しつつ、「日本史」「朝鮮史」といった一国史的な見方を超えてトランスナショナルな視点から史料を読み解く力を身につけることをめざします。
■到達目標	①奥村円心「朝鮮国布教日誌」をテキストとして、近代東アジアに関する史料の基礎的読解力と読解に必要な基本的知識を習得する。|②史料が書かれた時代背景を理解しつつ、一国史的な見方を超えて日本史・朝鮮史・仏教史・日朝交流史など横断的・複眼的に史料を読み解く視点を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80%|	
･リポート試験(SR 履修)	0%|	授業において扱った史料に関して、読解力と読解に必要な知識の習得度を最終日の試験において評価します。
･授業内発表	20%|	
･授業内試験	0%|	事前配付した史料を授業で皆さんに読んでいただきます。その際、内容に関する簡単なコメントを求め、その内容を評価します。
･授業内課題	0%|	
･その他	0%	

授業科目	発展研究ゼミ１（春期)A クラス_対面				単位	2
担当者	李　昇燁			シラバスグループ	Q44100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業論文執筆の作法
■授業の概要	本講義では、受講生各自が設定している卒業論文の内容を手がかりに、論文作成の際の注意点を確認しつつ、受講生相互の議論を通じて各自の論文執筆に取り組む目的を明確化する。そのためこの講義では、教室での講義ばかりではなく、教室外（図書館や PC エリアなど）で論文作成のための情報収集等の学習にも取り組む。
■授業の目的・ねらい	卒業論文は、リポートとは異なり、先行研究を前提として自らのオリジナルな見解を提示することが必要である。この点では、学術論文と変わるところがない。そこで本講義では、論文作成の際の注意点、特に先行研究の検索・収集と史料の取り扱いを中心に、論文執筆の基本的な方法を習得することを目的とする。
■到達目標	①先行研究を適切に検索・収集することができる。|②論文関連史料を適切に扱うことができる。|③上記二つの点を前提として、卒業論文の論点を提示できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	30	
･授業内発表	30	スクーリングによって得た知識・技能が自身のものとして、どの程度身に付いたかによって判断する。
･授業内試験	0	先行研究・論文の検索・収集、およびそれに基づく問題点の理解度について、途中での報告および最後のまとめ報告の到達度に応じて判断する。
･授業内課題	40	
･その他	0	先行研究・史料等の検索・収集についての知識・技能の習熟度で判断する。

授業科目	発展研究ゼミ２（秋期)A クラス_対面				単位	2
担当者	西川　利文			シラバスグループ	Q45300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業論文執筆の作法
■授業の概要	本講義では、受講生各自が設定している卒業論文の内容を手がかりに、論文作成の際の注意点を確認しつつ、受講生相互の議論を通じて各自の論文執筆に取り組む目的を明確化する。そのためこの講義では、教室での講義ばかりではなく、教室外（図書館や PC エリアなど）で論文作成のための情報収集等の学習にも取り組む。
■授業の目的・ねらい	卒業論文は、リポートとは異なり、先行研究を前提として自らのオリジナルな見解を提示することが必要である。この点では、学術論文と変わるところがない。そこで本講義では、論文作成の際の注意点、特に先行研究の検索・収集と史料の取り扱いを中心に、論文執筆の基本的な方法を習得することを目的とする。
■到達目標	①先行研究を適切に検索・収集することができる。|②論文関連史料を適切に扱うことができる。|③上記二つの点を前提として、卒業論文の論点を提示できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	30	
･授業内発表	30	スクーリングによって得た知識・技能が自身のものとして、どの程度身に付いたかによって判断する。
･授業内試験	0	先行研究・論文の検索・収集、およびそれに基づく問題点の理解度について、途中での報告および最後のまとめ報告の到達度に応じて判断する。
･授業内課題	40	
･その他	0	先行研究・史料等の検索・収集についての知識・技能の習熟度で判断する。

授業科目	発展研究ゼミ３（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	Q46200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	東洋史研究法演習
■授業の概要	本ゼミでは、対面授業で東洋史研究の方法を学ぶ。関係する研究論文の探し方や、特に論文の作成のための史料収集方法を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	卒業論文作成に向けた準備（研究対象とする史料の収集等）ができ、その具体的な方法を身につけることができるようになる。
■到達目標	①研究論文引用の史料を調査する。|②史料を入手する。|③史料を解読して、その内容をまとめることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	自身の卒業論文テーマに関連する史料を的確に収集できているかを評価します。
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	収集した史料を適格に解読して、その内容をまとめているかを判断します。

授業科目	発展研究ゼミ４（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	Q47200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	東洋史研究法演習
■授業の概要	本ゼミでは、対面授業で東洋史研究の方法を学ぶ。関係する研究論文の探し方や、論文の作成方法などを身につける。
■授業の目的・ねらい	卒業論文作成に向けた準備（研究対象とする研究論文の収集等）ができ、その具体的な方法を身につけることができるようになる。
■到達目標	①研究論文の目録を作成する。|②研究論文を入手する。|③研究論文を解読して、その内容をまとめることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	授業で収集した論文を、適格にまとめることができているかを判断します。
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	授業内で指示した論文収集が、適格になされているかを判断します。

授業科目	西洋近代史特講２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	田中　晶子			シラバスグループ	Q56200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	近現代のドイツ文化の歴史的展開と文化史の基礎的な方法論を学ぶ
■授業の概要	現代のドイツ文化は歴史的にどのように形成され、変化してきたのでしょうか？①近世都市を舞台とする近代的な時間観念の誕生、②19 世紀後半、万国博覧会と「世界旅行」の時代のドイツ・オーストリアと明治日本の文化交流、③第三帝国期、ナチス政権における消費文化・余暇政策と労働者階級・中産階級の政治的統合という、3 つのトピックをとりあげ時代順に考察します。クラシック音楽や古典的なドイツ文学に代表される伝統的な「ドイツ文化」のイメージに収まりきらない、多元的なドイツ文化のあり方を理解することが、講義の目的です。授業では 18~20 世紀の個別の文化現象を扱うと同時に、文化史の視点と方法論についても解説します。日記や旅行記、広告、映画などのメディアや消費文化を、どのように歴史研究では史料として調査・分析するのか、文化史の基礎的な方法について学びます。
■授業の目的・ねらい	近現代のドイツにおける多元的な文化・社会の歴史的形成を理解し、文化史の基本的な視点と方法論を学ぶことが目的です。個別の文化現象を同時代のドイツ社会や文化のなかで考察し、理解することが授業のねらいです。
■到達目標	（1）近現代のドイツ文化・社会の歴史的展開を理解し、自分の言葉で説明できる。｜（2）文化史の基礎的な方法論と視点を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	オンライン授業のため、授業終了後に実施するリポート試験で到達目標の達成度を測り、評価します。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	30%	

授業科目	東西交流史特講２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大西　吉之			シラバスグループ	Q60200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	近世におけるアジア諸地域とヨーロッパ勢力との接触、対立、交流の有り様を探る。
■授業の概要	オランダ東インド会社のアジア進出を題材に、日本や東南アジア諸地域におけるオランダ人の勢力拡大、海賊行為、奴隷貿易および奴隷所有、ヨーロッパ人とアジア人女性との婚姻について詳述する。
■授業の目的・ねらい	歴史学研究の最新成果を踏まえ、文化交流や貿易のほか、暴力や支配を伴った東西交流の負の側面について詳しく学び、異文化接触を多面的に理解すること。
■到達目標	学術的な議論や成果を正しく整理、吸収して、近世アジアの異文化交流について理解を深めることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80%	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20%	

授業科目	発展研究ゼミ１（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	塚本　栄美子			シラバスグループ	Q64200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	西洋史分野で卒業論文を書くための「第一歩」
■授業の概要	西洋史分野で卒業研究ならびに卒業論文執筆を進めるにあたって、学術論文とは何か、を理解し、自らの研究テーマの設定の第一歩を踏み出すために、必要なスキルの概略をつかめるようにゼミを進める。まずは、研究を進めるにあたって先行研究がいかに重要であるかに焦点をあてる。そのうえで、具体的に、自らの研究を進める場合に不可欠な文献検索、手配の仕方、読み方（辞書、事典、データベースの使い方）など基本的なスキルの指導も行う。限られた時間のなかで、問題意識をもってこれらの作業を進めてもらうために、あらかじめおのおのが卒業研究で取り扱いたいと考えているテーマをいくつか考え、それにしたがって選択した研究書をもとに、発表レジュメを作成して来てもらう。それを土台にレジュメの作成法や卒業研究の報告の進め方についても説明する。なお、すでに卒業研究を進めている学生については、自らのテーマにそくし、その研究の進捗状況に合わせて、当該の課題に取り組むことが望ましい。
■授業の目的・ねらい	授業を通じて、歴史研究への取り組み方の基本を身につけ、自らの研究テーマ設定の第一歩を踏み出すことが目的である。歴史研究のテーマとして適切な課題を探究しはじめることが期待される。
■到達目標	(1)関心のある研究テーマについて必要な学術文献を検索し入手することができる。|(2)関心のある研究テーマについて研究史を知るために、研究ハンドブックや史学雑誌の『回顧と展望』を利用することができる。|(3)必要な学術文献を読み、その内容についてレジュメを作成し、発表することができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	30	授業で学んだ文献検索法を使って自分の関心にしたがった文献リストを作成することができる。その作業を土台に卒業研究執筆に向けて具体的なテーマ設定への第一歩を踏み出し、ある程度言語化することができる。
･授業内試験	0	授業中に自身の関心に従って文献リストを作成し、その文献リストをつかいながら自らの問題関心を発表することができる。文献リストの一部について時間内に読めた部分をレジュメを作成し、口頭発表することができる。
･授業内課題	30	
･その他	0	口頭発表のために作成した課題とともに、ゼミのメンバーの口頭発表について意見交換をすることができるなど、議論に参加することができる。

授業科目	発展研究ゼミ２（秋期)A クラス_対面				単位	2
担当者	水田　大紀			シラバスグループ	Q65300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	研究法演習
■授業の概要	卒業研究を進展させていくために、本講義では主に個別研究の発表、および討論を行う。研究内容の検討を通じて、個別研究の課題を客観的にみつめなおすとともに、他者の意見や論理を正しく理解する力の養成を目指す。また講義への参加により、史料や先行研究の重要性、課題設定や論理構築の際の注意点など、各自で研究を進めていくうえで必須となる歴史学の方法論について再確認し、研究上の具体的な課題や現在の研究潮流についての考察に、一層の精緻化を図る。
■授業の目的・ねらい	歴史学研究を行ううえでの課題への取り組み方を理解し、習得することを目的とする。本講義では、授業を通じて、西洋史の分野で卒業論文の執筆を行うために必要な知見を身につけ、それを他者に正確に伝えるための論理的な立論の方法や技術を培う。
■到達目標	到達目標は以下のとおりである。\①　卒業論文に向け、自身が取り組む地域、時代、歴史事象（対象）を明示できる。\②　史料や先行研究を踏まえて課題を設定し、その研究に必要な文献をみつけることできる。\③　文献の情報を正確に理解し、その情報を使って論理的に発表することができる。\

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	具体的には、授業への主体的な取り組み（授業における発言、課題への取り組み、発表）を総合的に評価する。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ３（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	南川　高志			シラバスグループ	Q66200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	研究論文作成のための演習授業
■授業の概要	この演習授業は、卒業論文を書き上げるために、研究法や問題設定、研究史のあり方など、歴史研究の必須事項について実践的に学ぶためのものである。授業では、まず教員から歴史学の研究論文とはどのような構成でどのように書かれるものなのか、そのための準備としてどのようなことを習得しておく必要があるのか、基礎事項を説明する。次いで、受講生はモデルとなる研究論文を読み、問題設定、研究史の整理、史資料の利用などを体験的に学ぶ。その後、受講生自身が卒業論文の課題としたいと考えている研究テーマについて報告し、教員の助言を受けるとともに、他の受講生も交えて討論する。さらに、教員が準備する参考論文を受講生は読んで、その内容を授業で報告するとともに、自身の研究にどのように取り入れられるか検討する。同時に、共通する問題点を受講者全員で討論する。最後に、授業で学び体験したことを受けて、受講生は今後の研究のあり方について報告する。
■授業の目的・ねらい	（1）歴史の研究論文とはどのようなものであり、どのような手続きで書かれるべきか、基礎的な事項を理解すること。｜（2）歴史研究の際の必須事項である適切な問題設定、批判的な研究史把握、史資料の堅実な利用法などを、水準の高い研究論文を読み検討することで実践的に学び、その成果を自身の研究に反映させることができるとの見通しを持つようになること。｜
■到達目標	（１）歴史学の研究論文とはどのような基礎的要素を備えており、どのような手続きで書かれるものであるのか、重要事項を理解するようになること。｜（2）先行研究に対してどのような対応をすべきであるのか、史資料はどのように扱わねばならないのか、基礎的な事項を理解するようになること。｜（3）指導・助言を受けて自身の個人研究の状態を理解し、今後どのように進めることが必要か十分構想できるようになること。｜

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50%	
･その他	0	授業での報告、討論での発言、研究テーマのへの取り組み状況を総合的に評価する。

授業科目	発展研究ゼミ４（春期)A クラス_対面				単位	2
担当者	塚本　栄美子			シラバスグループ	Q67100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業研究を「知る」！
■授業の概要	本演習は、一部通学課程のクラスと合同で行う。通信教育課程では他の学生の卒業研究発表を聴く機会が少なく、卒業研究とは何かをイメージしにくい。そこで、通学課程の第 2 回卒業論文中間発表会（3 回あるうちの 2 回目にあたる）に参加し、発表内容を聴くとともに、質疑に参加し、教員から学生へのアドヴァイスを参考にすることで、卒業論文とは何か、学術研究や論文構成とは何かを具体的に学び、自らの今後の卒業研究に活かすことが目標である。なお、希望者は自らも発表することができる。事前に配布されるテキストにしたがって、発表申し込みをあらかじめしておくこと。
■授業の目的・ねらい	歴史研究の方法と技術は、抽象的に語ってもなかなか理解が行き届かないところがある。したがって、本演習では実際の卒業研究の中間発表を数多く聴き、質疑に参加し、教員たちのアドヴァイスに触れることで、研究に対する具体的な理解をもつことが目標である。
■到達目標	他者の発表を聴き、質疑に参加することにより、卒業論文がどのようなものか理解し、自分の研究内容について客観的な把握ができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	0	通常よりも多くの学生たちの発表と学生たちの質問、教員のコメントをきくことにより、自身の卒業論文作成における課題を明確にし、言語化できるようになる。自身の課題を具体的に論述できているかどうかが評価のポイントになる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	50%	
･その他	0%	授業における発言、質問を評価。授業内に課されるワークシートも評価。自らも発表した場合はその分も加点される。

授業科目	日本史特講（近代・現代）２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	林　美帆			シラバスグループ	Q07100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日本近・現代の公害と市民運動　岡山県水島地域を事例として
■授業の概要	日本近代の工業化は、富の蓄積や発展をもたらしたが、その裏面に公害という負の側面を生じさせることとなった。公害は日本近現代社会の矛盾点ということができる。|戦前の足尾鉱山の鉱毒事件や、別子銅山の亜硫酸ガスの排煙問題といった鉱山に関わる公害や、大阪にみられる工業都市化と公害は、戦争との関係が深く、開発と生活の間の引き裂かれた問題を考えるきっかけとなる。|また、戦後の水俣病やイタイイタイ病、大気汚染公害といった健康被害を伴う公害は、高度経済成長に伴って発生している。|各地の公害の概要とともに、岡山県水島での開発と公害の発生の関係性について論じる。|公害の歴史を通じて、法制度や住民運動、裁判、企業の経営体質、国際的な動きの変化について見る。|特に、市民運動が果たした役割について着目し、近代日本の矛盾点とその解決策を明らかにしていく。
■授業の目的・ねらい	〈学習内容の目的とねらい〉|・日本の近代化と公害について考察する。|・公害の解決と民主主義の関係性を明らかにする。|〈到達度〉|公害を取り巻く社会構造を把握できたか。|〈成績評価の基準〉|試験と平常点（出席など）をふまえて評価する。
■到達目標	公害によって引き起こされる状況について理解する。|ＳＤＧｓのベースとなっている「権利ベースアプローチ」を理解し、市民運動の意義を理解する。‖

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	20%	
･授業内試験	10%	
･授業内課題	10%	
･その他	0%	

授業科目	日本史特講（近代・現代）２（夏期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	本間　千景			シラバスグループ	Q08200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	韓国「併合」前、大韓帝国は日本の保護下にあった。日本の主導による新たな学校制度が敷かれたが、私立学校における民族教育も盛んに行われていた。しかしながら、韓国学部は歴史教科書を編纂しなかったため、官公私立初等教育機関で使用される歴史教科書は、検定を通らなければ使用することができなかった。本講義では、当時民間で出版され検定に申請された三冊の歴史教科書を分析する。検定に合格した教科書、不合格になった教科書の日韓関係部分を韓国学部の検定方針に照らしながら比較・分析し、なぜ検定に合格したのか、あるいは不合格になったのかを議論しながら、支配者・被支配者それぞれの意図について考察する。
■授業の概要	朝鮮近代教育史と日本の関わりを概観し、韓国が日本の保護国となる過程、また、保護国期の教育行政について、史料を通し考察する。|また、検定合格および不合格となった歴史教科書を分析・考察・発表し、議論することにより、編纂者および検定する側の意図について検討する。
■授業の目的・ねらい	孤独になりがちな通信課程であるが、共に講義を受ける仲間たちと互いに協力し合いながら、日本の保護国下にあった大韓帝国期の歴史教科書内容を分析し、議論を重ねて考察を深めるのが目的である。成績評価の基準は、分析・議論の結果を自分なりに結論づけられているかということである。
■到達目標	大韓帝国が日本の保護国となる過程、その後の日本主導による新教育制度の導入、教育制度が実施される過程での民間韓国人の反応を学んだ上で、韓国人により編纂された歴史教科書を分析することにより、韓国保護国期の教育状況と日韓の緊張関係を理解すること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	古文書講読２（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	野地　秀俊			シラバスグループ	Q20300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	古文書(くずし字)を読む
■授業の概要	本講義では、史料原典を直接読み解く力を養うため、中世から近世の定型の文書を例に、古文書(くずし字)の解読を初歩から学びます。
■授業の目的・ねらい	中世の史料、とりわけ室町戦国期から近世・近代にかけての史料は活字化されていないものが多くあります。こうした史料を研究に用いようとする場合、史料の読解に先立ち、原文の史料（文書や記録）を読み解く作業が必須となりますが、筆による記述が日常的ではない現代にあって、和紙に墨書された原文の史料（くずし字）の解読は、相当の習熟を要する作業です。したがって、本講義を受講すればすぐにくずし字が読めるようになるわけではありませんが、まずはくずし字に触れるきっかけとなり、今後の自学自習の手がかりをつかむことがねらいです。
■到達目標	古文書の解読は、その能力の段階としていくつかのレベルが設定できますが、本講義の到達点として、以下の諸点を目指します。| 1)定形の文言を把握し、表記のブレを確認する。| 2)簡単な文書を翻刻できるようになる。 | 3)古文書の様式的特徴を理解する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	オンライン授業なので、リポート試験となります。|古文書の解読を課す予定です。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	日本古代・中世史料講読（秋期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	駒井　匠		シラバスグループ	Q21300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	日本古代・中世史料の読解と解釈
■授業の概要	日本史を研究するには、史料を読むことがどうしても必要である。この授業では、古代史・中世史を研究する上で必要な史料の読解能力の養成・向上を目指す。史料の読み下しや解釈といった基礎的な方法を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	以下の諸点を目的とする。各自の史料読解能力の養成を目指す。|1,史料を読み、自分の言葉で解釈できる。|2,史料から自分なりの論点を見つける姿勢を身に付けることができる。|3,日本史研究の方法を習得することができる。|
■到達目標	①史料読解の意義を理解することができる。|②史料の基本的な読み方を理解することができる。|③調べた情報を駆使して史料の意味内容を解釈することができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	90%	
･リポート試験(SR 履修)	0	第 9 回に試験を実施する。
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0	史料を読んでもらうにあたり、予習しているかどうかを加味する。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	日本近世史料講読（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	高橋　大樹			シラバスグループ	Q22200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	近世地域（地方）史料を読む
■授業の概要	近世社会は文書行政が進展した時代ともいわれます。幕府や大名、天皇・公家や寺社などの領主は、全国約 63,000（天保年間）の村々を統治し、年貢収取（納税）を中心に、命令や通達などを文書を通じて行いました。一方で村側では、それら行政支配に対応し、また自治の円滑化を図るため、庄屋・年寄など村役人を中心に様々な文書・記録を作成し、さらに後々の参照や訴訟における証拠保全のため、大切に保管してきました。| 本講義では、それら近世地域史料（地方・村方文書）の講読を通じて、頻出する慣用句や用語、あるいは漢文に慣れ、そこにあらわれる領主支配・身分秩序・組織（村役人）の文書管理の諸相から、近世社会と史料に関する基礎的・総体的な理解を深めることを目的とします。| なお、テキストとして、主に近江国の地域史料（地方・村方文書）の中から、納税・訴願・争論を中心に、基礎的な文書・記録を用います。また、講義の中で原文（くずし字）の解読もおこないます。|
■授業の目的・ねらい	（１）近世地域史料（文書・記録類）の解読を通じて、近世文書・記録に関する基礎的知識を習得すること。|（２）近世文書・記録の読み方（近世の漢文・候文）が概ね解読できるようになること。|（３）史料読解のために必要な調査項目を判断できるようになること。|
■到達目標	（１）近世地域史料（文書・記録類）の解読を通じて、近世文書・記録に関する基礎的知識を習得すること。|（２）近世文書・記録の読み方（近世の漢文・候文）を概ね解読できるようになること。|（３）史料の理解のため必要な項目を調査できるようになること。|（４）くずし字に慣れ、基本的なくずし字や頻出する文字・語句を解読することができるようになること。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	解読文のグループ発表
･授業内課題	0	
･その他	35	

授業科目	日本近・現代史料講読（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	杉本　弘幸			シラバスグループ	Q23200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日本近代史料演習
■授業の概要	主として、明治期の近代史料の講読を行う。事前配付した資料等の予習を行ってもらい、読み下し文と史料解釈を１人ずつ指名して、順次発表してもらう。それに対して、担当講師が読み下しや史料解釈を行う際のポイント、史料の背景、調べ方などのコメントをする。受講生のレベルが許せば、近代の書簡や行政文書などのくずし字解読の基礎も行いたい。
■授業の目的・ねらい	日本近代史料の読み下しや史料解釈の基礎的な力をつける。
■到達目標	日本近代史料の読み下し、解釈の基礎が理解でき、自分で調べながら読み進めることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	史料の読み下し、解釈の試験。なお、全出席しないと単位認定しない
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	史料の読み下し、解釈の発表。なお、全出席しないと単位認定しない
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	発展研究ゼミ１（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	佐古　愛己			シラバスグループ	Q24300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	日本史分野で卒業論文を執筆するための研究法演習
■授業の概要	日本史の研究方法を学ぶ。特に、自身の問題関心をもとに「研究計画書」（最終的には卒業論文）を完成させるために必要な研究方法（研究テーマに関連する論文等先行研究の探し方、史資料の収集の仕方、収集した文献・史資料の分析・利用方法など）を学び、卒業論文作成の基礎的方法（研究史の整理、論文の構成、執筆上の留意点など）を身につける。
■授業の目的・ねらい	１、研究課題を具体的に作成し、説明できる。|2、研究課題に関連する文献を収集して、目録を作成できる。|3、研究課題を考察する上で必要な史資料を収集できる。　|4、研究に用いる参考文献を収集し、研究課題との関連を考えることができる。|5、卒業論文の大まかな構成を考えることができる。|
■到達目標	①研究課題を具体化ができる。|②研究課題に関連する文献を収集して、目録を作成できる。|③研究課題を考察する上で必要な史資料を収集できる。　|④研究に用いる参考文献を収集し、研究課題との関連を考えることができる。|⑤卒業論文の大まかな構成を考えることができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ２（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	寺嶋　一根			シラバスグループ	Q25300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	日本史分野のための研究法を学ぶ
■授業の概要	本授業では、日本史分野の卒業研究を始めるにあたって必要な基礎知識と研究方法について、演習形式で学びます。テーマ設定、先行研究・資史料の収集法と選択にあたってのポイント、学術文献・史資料を読む際の視点、レポート・論文など学術的な文章を書く際の作法などを講義したうえで、各自が定めた研究テーマに即した日本史研究上の論点についてテキストから選択し、内容をまとめたレジュメを作成のうえ発表を行います。
■授業の目的・ねらい	日本史研究を進める際に必要な基本的視点や能力を養うこと‖
■到達目標	①日本史の分野で、自らが研究するテーマの設定ができるようになる。|②レポート・論文を作成するための情報収集の方法を知り、基礎的な事柄を調べられるようになる。|③自らの研究テーマについて、どのような研究が行われていたのかを把握する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ３（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	麓　慎一			シラバスグループ	Q26200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	日本近代史研究法
■授業の概要	日本近代の研究には①史料の収集と分析および②先行研究の調査と検討が必要である。この発展研究ゼミでは①のうち「史料の収集」を中心に研究のスキルを向上させる。
■授業の目的・ねらい	日本近代史研究に必要な史料を収集できるようになる。インターネツト上で利用できる史料所蔵機関およびサイトの史料群を利用できるようになる。
■到達目標	「毎回の授業のテーマ」で示した史料所蔵機関およびサイトを利用して自らの研究に有益な史料を収集することができるようになる。いくつかの所蔵機関とサイトについての到達目標を示す。|①アジア歴史史料センターが国立公文書館･外務省外交資料館・防衛庁防衛研究所の史料群によって構成されていることを理解し、それらの史料の利用の仕方と注意点を説明できる。|②国立国会図書館の史料群の利用の仕方を説明できるようになる。特に、国立国会図書館が推進している「デジタル化資料送信サービス」を利用できる。|③ざっさくプラス（雑誌記事索引集成データベース）を利用できるようになるとともに、そこで得られた情報を利用して論文や資料を入手できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	30%	授業時間中に作業をしながらリポートの核になる部分を作成します。
･授業内試験	0	授業内での作業状況について回答する。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ４（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	Q27200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業研究を見越した個人研究の準備　？「研究計画書」の有効活用
■授業の概要	通信教育課程における卒業研究は、「研究計画書」の提出・許可を経て草稿へと進んでいく。|しかし、「研究計画書」提出の段階で、あるいは草稿提出の段階で、次のステップへと進めず足踏みをする学生が多い。こうした学生の多くは、自らの研究を十分に考えることなく計画書を執筆していることが多く、入学以来学んできたはずの内容を十分に生かし切れていないようである。|本講義では、各自の「研究計画書」の内容（「計画書」に記述しようと予定している諸事項）を手がかりに、研究の方向や内容を具体化するための手立てを学ぶ。とりわけ、研究の中心となる事項を具体化し研究上の課題として明確にすること、収集した参考文献や史資料をどう研究に用いるのかを考えることに力を入れたい。
■授業の目的・ねらい	1:研究課題の明確化と具体化ができる。|2:人物や地理情報など研究に必要な諸事項の調査ができる。|3:研究課題を考察する上で必要な史資料を明示できる。　|4:研究に用いる参考文献を収集し、研究課題との関連を考えることができる。
■到達目標	1:研究課題の明確化と具体化ができる。|2:人物や地理情報など研究に必要な諸事項の調査ができる。|3:研究課題を考察する上で必要な史資料を明示できる。|4:研究に用いる参考文献を収集し、研究課題との関連を考えることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20%	
･その他	10%	

授業科目	東洋古代史特講２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	西川　利文			シラバスグループ	Q32100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	秦漢帝国の時代
■授業の概要	中国前近代の統一王朝の原型は、秦漢帝国の時代に形成される。その形成過程について、王朝形成期の殷周時代までさかのぼり、文献のみならず出土資料も手掛かりに考える。
■授業の目的・ねらい	中国前近代統一王朝の形は専制国家といわれる。この国の形がいかにして形成されてくるのか、そしてそれを支えた官吏の日常がどのようなものか、という点から、中国専制国家の特質を明らかにしたい。
■到達目標	①専制国家の形成過程を説明できる。|②専制国家形成に至る社会変動を把握できる。|③専制国家形成に至る過程での思想的特色を説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80%|	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%|	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	20%|	

授業科目	東洋中・近世史特講２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	西田　祐子			シラバスグループ	Q34100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	5～13 世紀におけるユーラシア東部地域の歴史的展開
■授業の概要	5～13 世紀におけるユーラシア東部地域では，伝統的中華の文化と北方の草原世界の文化とが絡み合いながら歴史事象が展開し，社会としても文化としても多面的・重層的な様相を色濃く呈します。本講義では，それぞれの時代についてさまざまな切り口を設定し，各時代の社会・文化の特質についての知識を深めます。また,「どのような文献（史料）によって歴史事象が解き明かされたか」といった史料論的視点にも注意を払い，文献を研究に使用する際の課題についても考察します。
■授業の目的・ねらい	①5～12 世紀におけるユーラシア東部地域の歴史的展開を理解できるようになります。|②伝統的中華の文化的背景と，北方の草原世界の文化的背景のそれぞれの特徴を説明できるようになります。|③史料にもとづく歴史学の分析についてどのような課題があるか自らの意見を持ちます。
■到達目標	①5～12 世紀におけるユーラシア東部地域の歴史的展開を説明できるようになります。|②伝統的中華の文化的背景と，北方の草原世界の文化的背景のそれぞれの特徴を説明できるようになります。|③史料論的視点を持つことができます。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施します。|到達目標のいずれかについての到達度によって評価する。期待値以上に達成できていれば 100～90 点、十分に達成できていれば 89～80 点、ほぼ達成できていれば 79～70 点、もう少し努力が必要な場合は 69～60 点、求める最低水準に達せず更なる努力が必要な場合は 59～0 点とする。|
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	積極的な参加態度や，不明点を解決しようとする意欲的な質問などがあれば，評価します。意見や質問の内容による減点はおこなわないので，自信がなくてもぜひ質問していただきたいです。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	東洋近・現代史特講２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	山本　浄邦			シラバスグループ	Q36200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	大衆音楽から近現代韓国の社会史をみる
■授業の概要	この講義は、1920 年代の韓国大衆音楽登場から現在の K-pop にいたる韓国の大衆音楽について、それぞれの時代背景やその社会的意味を考えることにより、大衆音楽という視点から近現代韓国の社会史をみていこうとするものである。講義では担当教員が解説しながら、各時代の音楽映像など視聴覚資料を用いて学びを深める。韓国の近現代史や登場する歌手については講義で適宜解説するので、前提知識がほとんど無くても安心して受講してほしい。
■授業の目的・ねらい	①それぞれの時代における韓国大衆音楽の特徴を理解する。②それぞれの時代の音楽の特徴の背景にある社会状況を理解する。③上記を通じて、大衆音楽という視点から近現代韓国を社会史的に把握する。
■到達目標	それぞれの時代の韓国大衆音楽の特徴と、その背景にある韓国の社会状況を理解し、社会史的な観点から説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	講義内でのコメント（口頭・筆記）を評価する。

授業科目	東洋宗教史特講２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	江　優子			シラバスグループ	Q38200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	中国の宗教伝統
■授業の概要	先史時代から続く祖先祭祀は中国の宗教的基盤であり、その上に育まれた儒教・道教・インドから伝播した仏教は中国文明の本質を形作り、さらには日本を含めた周辺諸国の文化や社会制度にも深く大きな影響を与えた。本講義では、墓や遺物などの考古資料のスライドをふんだんに織り交ぜつつその歴史的展開を概説していく。
■授業の目的・ねらい	日本や東アジア圏全般に影響を与えた中国の諸思想や宗教を学ぶことで、多様な価値観・ものの見方を理解し、自分自身を、また現代文明を今一度見つめ直す批判的視点を得る。
■到達目標	中国の様々な思想、相互に影響し合い変容していく宗教文化の豊かな広がりを理解し、自分の言葉で説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	東北アジア史特講２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	岡田　和一郎			シラバスグループ	Q40200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	東北アジアのなかの日本列島
■授業の概要	本講義では、紀元前 3 世紀から 10 世紀までの日本列島の歴史について、東北アジアとの関係を視野に入れながら学修する。日本列島は地理的に四方を海に囲まれているが、その歴史は孤立していたわけではなく、東北アジア地域と深いかかわりを持ちながら展開してきた。東北アジアのなかの日本という視点から解説を進めながら、その歴史や文化の特徴を学ぶ。それにより、一国史という観点から見た日本史像との違いを理解し、歴史の多様性を学修する。
■授業の目的・ねらい	東北アジアのなかの日本列島の動向を理解し、一国史としての日本史とは異なる歴史像を学修することで、東北アジアのなかにおける日本列島の歴史的特徴を理解する。
■到達目標	①古代東北アジアの歴史を理解する。|②日本と東北アジアの関係を説明できる。|③東北アジアのなかの日本史の特徴を概述できる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。|到達目標のいずれかについての到達度によって評価する。期待値以上に達成できていれば 100～90 点、十分に達成できていれば 89～80 点、ほぼ達成できていれば 79～70 点、もう少し努力が必要な場合は 69～60 点、求める最低水準に達せず更なる努力が必要な場合は 59～0 点とする。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	0	

授業科目	東洋古代史料講読（秋期)A クラス_対面				単位	1
担当者	西田　祐子			シラバスグループ	Q41300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	安史の乱をひもとく
■授業の概要	文献にもとづいて議論をする歴史学では，現代に残されている史料を正確に解釈することが求められます。東洋史，特に中国を中心とするアジア地域の歴史研究では，漢文で書き残された史料が圧倒的な量を占めており，ないがしろにできません。この講義では，10 世紀に成立した唐代に関する歴史書『旧唐書』のうち安禄山伝をとりあげ，漢文の文法などの解説を交えながら読解していきます。安禄山という人物は，中国史の中でも特に大きな影響を生み出した反乱の一つである「安史の乱」の首謀者です。最新の研究成果なども参照して歴史的背景も学びながら，読み進めていきましょう。
■授業の目的・ねらい	『旧唐書』安禄山伝には，唐代当時の政治的・軍事的状況を示す内容や，唐という国が抱いていた民族的･文化的な多層性を示唆する内容が含まれています。この文献を取り上げ，漢文読解の技術を訓練するとともに，歴史事象についての理解も深めます。|本講義では，漢文の初学者を主たる受講者と想定しているため，①漢和辞典や辞典の使い方，②漢文の文法（読解方法），③そこから歴史像を復元するという３つの方法を身につけることに主眼をおきます。

■到達目標	①漢和辞典や辞典を適切に使えるようになります|②返り点を正しく理解でき，返り点つきの漢文を読解できるようになります|③漢文史料から歴史像を復元できるようになります

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	40	
･授業内試験	60	
･授業内課題	0	第８回の確認テスト。講義中に読んだテキストの復習問題です。
･その他	0	

授業科目	東洋中・近世史料講読（秋期)A クラス_対面				単位	1
担当者	與座　良一			シラバスグループ	Q42300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	趙翼『廿二史箚記』講読
■授業の概要	本講座では、清代の学者である趙翼（1727 年-1814 年）が著した『廿二史箚記』の中から比較的読みやすい記述を抜粋して講読する。|『廿二史箚記』は中国歴代王朝の歴史書を考証し、ときに自らの史論をも展開した著書である。廿二史箚記』を中心に読み進めながら中国の歴史を概観し、あわせて基本的な漢文訓読の方法を学ぶ。|
■授業の目的・ねらい	史料を読解することを通じ、基本的な漢文訓読の方法を習得するとともに、中国史の概要を理解する。|
■到達目標	基本的な漢文訓読の方法を習得するとともに、中国史の概要を確認する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	20%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	80%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	東洋近・現代史料講読（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	山本　浄邦			シラバスグループ	Q43200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	奥村円心「朝鮮国布教日誌」を読む
■授業の概要	真宗大谷派の奥村円心（１８４３?１９１３）は、近代日本仏教において最も早く朝鮮布教に着手した人物です。|１８７７年、円心は日本政府の依頼をうけた東本願寺の指示によって、開港間もない釜山（プサン）に渡り、外務省の後押しのもと本願寺釜山別院を設置して朝鮮での活動を開始します。|本授業では、この奥村円心による朝鮮布教の記録「朝鮮国布教日誌」を受講者とともに読み解きながら、円心の朝鮮布教について仏教史・日本史・朝鮮史さらには日朝交流史などさまざまな角度からその実態に迫ります。|以上を通して、近代東アジアに関する日本語及び漢文史料を多角的に読解する基礎的能力を身につけていきます。
■授業の目的・ねらい	本授業では、奥村円心による朝鮮布教の記録である「朝鮮国布教日誌」をテキストとして、近代東アジアに関する史料の基礎的読解力と読解に必要な基本的知識を習得することを目的とします。|さらには、教員による講義や自身の調査を通して史料が書かれた時代背景を理解しつつ、「日本史」「朝鮮史」といった一国史的な見方を超えてトランスナショナルな視点から史料を読み解く力を身につけることをめざします。
■到達目標	①奥村円心「朝鮮国布教日誌」をテキストとして、近代東アジアに関する史料の基礎的読解力と読解に必要な基本的知識を習得する。|②史料が書かれた時代背景を理解しつつ、一国史的な見方を超えて日本史・朝鮮史・仏教史・日朝交流史など横断的・複眼的に史料を読み解く視点を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80%|	
･リポート試験(SR 履修)	0%|	授業において扱った史料に関して、読解力と読解に必要な知識の習得度を最終日の試験において評価します。
･授業内発表	20%|	
･授業内試験	0%|	事前配付した史料を授業で皆さんに読んでいただきます。その際、内容に関する簡単なコメントを求め、その内容を評価します。
･授業内課題	0%|	
･その他	0%	

授業科目	発展研究ゼミ１（春期)A クラス_対面				単位	2
担当者	李　昇燁			シラバスグループ	Q44100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業論文執筆の作法
■授業の概要	本講義では、受講生各自が設定している卒業論文の内容を手がかりに、論文作成の際の注意点を確認しつつ、受講生相互の議論を通じて各自の論文執筆に取り組む目的を明確化する。そのためこの講義では、教室での講義ばかりではなく、教室外（図書館や PC エリアなど）で論文作成のための情報収集等の学習にも取り組む。
■授業の目的・ねらい	卒業論文は、リポートとは異なり、先行研究を前提として自らのオリジナルな見解を提示することが必要である。この点では、学術論文と変わるところがない。そこで本講義では、論文作成の際の注意点、特に先行研究の検索・収集と史料の取り扱いを中心に、論文執筆の基本的な方法を習得することを目的とする。
■到達目標	①先行研究を適切に検索・収集することができる。|②論文関連史料を適切に扱うことができる。|③上記二つの点を前提として、卒業論文の論点を提示できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	30	
･授業内発表	30	スクーリングによって得た知識・技能が自身のものとして、どの程度身に付いたかによって判断する。
･授業内試験	0	先行研究・論文の検索・収集、およびそれに基づく問題点の理解度について、途中での報告および最後のまとめ報告の到達度に応じて判断する。
･授業内課題	40	
･その他	0	先行研究・史料等の検索・収集についての知識・技能の習熟度で判断する。

授業科目	発展研究ゼミ２（秋期)A クラス_対面				単位	2
担当者	西川　利文			シラバスグループ	Q45300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業論文執筆の作法
■授業の概要	本講義では、受講生各自が設定している卒業論文の内容を手がかりに、論文作成の際の注意点を確認しつつ、受講生相互の議論を通じて各自の論文執筆に取り組む目的を明確化する。そのためこの講義では、教室での講義ばかりではなく、教室外（図書館や PC エリアなど）で論文作成のための情報収集等の学習にも取り組む。
■授業の目的・ねらい	卒業論文は、リポートとは異なり、先行研究を前提として自らのオリジナルな見解を提示することが必要である。この点では、学術論文と変わるところがない。そこで本講義では、論文作成の際の注意点、特に先行研究の検索・収集と史料の取り扱いを中心に、論文執筆の基本的な方法を習得することを目的とする。
■到達目標	①先行研究を適切に検索・収集することができる。|②論文関連史料を適切に扱うことができる。|③上記二つの点を前提として、卒業論文の論点を提示できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	30	
･授業内発表	30	スクーリングによって得た知識・技能が自身のものとして、どの程度身に付いたかによって判断する。
･授業内試験	0	先行研究・論文の検索・収集、およびそれに基づく問題点の理解度について、途中での報告および最後のまとめ報告の到達度に応じて判断する。
･授業内課題	40	
･その他	0	先行研究・史料等の検索・収集についての知識・技能の習熟度で判断する。

授業科目	発展研究ゼミ３（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	Q46200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	東洋史研究法演習
■授業の概要	本ゼミでは、対面授業で東洋史研究の方法を学ぶ。関係する研究論文の探し方や、特に論文の作成のための史料収集方法を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	卒業論文作成に向けた準備（研究対象とする史料の収集等）ができ、その具体的な方法を身につけることができるようになる。
■到達目標	①研究論文引用の史料を調査する。|②史料を入手する。|③史料を解読して、その内容をまとめることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	自身の卒業論文テーマに関連する史料を的確に収集できているかを評価します。
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	収集した史料を適格に解読して、その内容をまとめているかを判断します。

授業科目	発展研究ゼミ４（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	Q47200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	東洋史研究法演習
■授業の概要	本ゼミでは、対面授業で東洋史研究の方法を学ぶ。関係する研究論文の探し方や、論文の作成方法などを身につける。
■授業の目的・ねらい	卒業論文作成に向けた準備（研究対象とする研究論文の収集等）ができ、その具体的な方法を身につけることができるようになる。
■到達目標	①研究論文の目録を作成する。|②研究論文を入手する。|③研究論文を解読して、その内容をまとめることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	授業で収集した論文を、適格にまとめることができているかを判断します。
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	授業内で指示した論文収集が、適格になされているかを判断します。

授業科目	西洋古代・中世史特講２（春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	上山　益己			シラバスグループ	Q52100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	中世ヨーロッパ史の展望
■授業の概要	中世ヨーロッパの歴史的展開について基本的な知識を確認し、中世ヨーロッパ社会についての理解を深める。|そのうえで本講義では、近年の西洋中世史研究において関心が高まっている「権力の表象」という問題をとくに取り上げ、おもに中世盛期のフランスを中心として具体的な史料などを用いて考察していく。
■授業の目的・ねらい	中世ヨーロッパ史の概要を確実に把握する。|中世ヨーロッパ史に関する専門的な用語や概念についての知識を深める。|中世ヨーロッパにおける「権力の表象」について、最近の研究などをふまえて理解する。
■到達目標	中世ヨーロッパ史の基礎を確実に身に付ける。|そこからさらに中世ヨーロッパ史についての専門的な知識を得る。|近年の中世フランス史の研究動向を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%|	基本的には、リポート試験の評点をそのまま成績に反映する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	西洋近世史特講２（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	塚本　栄美子			シラバスグループ	Q54300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	近世ヨーロッパのアイデンティティと歴史
■授業の概要	中世を通じて西欧社会は、教会という場を通じて共同体の結束を強めるなど、宗教や政治のみならず生活全 般においてローマ・カトリック教会と不可分に形成されてきた。教会は、さまざまな価値の源泉として機能し、西欧においてある意味「一元的な世界」を作り上げたとも言われる。しかしながらヨーロッパ社会は、宗教改革に伴い、非公式の場面だけでなく公的にも多様な価値を認める社会へと移行していく。そこで本講義では、中世後期から近世にかけて、神聖ローマ帝国内の地域を中心にヨーロッパ社会のあり様を概観した上で、宗教改革運動やその後の宗派化が、政治・経済・社会・文化・人びとの生活や心性に与えた影響を多角的に検討し、 宗教改革の歴史的意義を再考する。その際、旧来の伝統を守ろうとする者も、新しい信仰に立つ者も、少なからずアイデンティティの危機にさらされたことに留意し、その葛藤の過程を検討しながら、同時代の人びとの価値観の基盤について考察する。　｜
■授業の目的・ねらい	宗教改革と宗派化の時代におけるアイデンティティの形成について考察し、ヨーロッパ近世における社会の特質を明らかにすることが目的である。｜
■到達目標	近世ヨーロッパについて基本的なことを説明することができる。|講義で扱われた史料や事例を通じて、史料や事例との向き合い方について理解することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	授業で理解した内容を論述形式で説明することができるかどうかが評価のポイントになる。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	授業時間内での問いかけに対する発言や、自ら質問をした内容から、授業への理解度をはかる。

授業科目	西洋近代史特講２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	田中　晶子			シラバスグループ	Q56200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	近現代のドイツ文化の歴史的展開と文化史の基礎的な方法論を学ぶ
■授業の概要	現代のドイツ文化は歴史的にどのように形成され、変化してきたのでしょうか？①近世都市を舞台とする近代的な時間観念の誕生、②19 世紀後半、万国博覧会と「世界旅行」の時代のドイツ・オーストリアと明治日本の文化交流、③第三帝国期、ナチス政権における消費文化・余暇政策と労働者階級・中産階級の政治的統合という、3 つのトピックをとりあげ時代順に考察します。クラシック音楽や古典的なドイツ文学に代表される伝統的な「ドイツ文化」のイメージに収まりきらない、多元的なドイツ文化のあり方を理解することが、講義の目的です。授業では 18~20 世紀の個別の文化現象を扱うと同時に、文化史の視点と方法論についても解説します。日記や旅行記、広告、映画などのメディアや消費文化を、どのように歴史研究では史料として調査・分析するのか、文化史の基礎的な方法について学びます。
■授業の目的・ねらい	近現代のドイツにおける多元的な文化・社会の歴史的形成を理解し、文化史の基本的な視点と方法論を学ぶことが目的です。個別の文化現象を同時代のドイツ社会や文化のなかで考察し、理解することが授業のねらいです。
■到達目標	（1）近現代のドイツ文化・社会の歴史的展開を理解し、自分の言葉で説明できる。｜（2）文化史の基礎的な方法論と視点を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	オンライン授業のため、授業終了後に実施するリポート試験で到達目標の達成度を測り、評価します。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	30%	

授業科目	西洋宗教史特講２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	庄子　大亮			シラバスグループ	Q58200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	古代ギリシア・ローマにおいて語られた神話・伝説の、意味や影響を読み解く。
■授業の概要	古代ギリシア・ローマの神話・伝説をめぐる様々な言説や表象に着目し、そうした史料だからこそ見えてくる、社会と文化の深層について考察していく。「毎回の授業のテーマ」参照。ただし、受講者の知識や関心等を考慮して、取り上げる内容の一部や順序は変更になる可能性もある。
■授業の目的・ねらい	古代ギリシア・ローマの神話・伝説と社会との関係性、古代文化の後世への影響、神話のイメージや理解についての古代と現代との相違点や共通点について理解し、歴史的・文化的知見を得る。
■到達目標	神話・伝説と社会との歴史的な関わりについて各自の見解も形成する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	授業内容をもとに、自身の見解も加えた論述をおこなってもらう。最終授業時に問題を発表する。※オンラインでの開講の場合、解答内容を後日 B-net を介して提出してもらうことになります。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	授業時に、内容に関する問題を出題する。知っているかどうかという知識、表面的な正解を評価するのではなく、思考の過程や、表現の仕方などを視野に入れ、授業参加の程度を総合的に評価する。

授業科目	東西交流史特講２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大西　吉之			シラバスグループ	Q60200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	近世におけるアジア諸地域とヨーロッパ勢力との接触、対立、交流の有り様を探る。
■授業の概要	オランダ東インド会社のアジア進出を題材に、日本や東南アジア諸地域におけるオランダ人の勢力拡大、海賊行為、奴隷貿易および奴隷所有、ヨーロッパ人とアジア人女性との婚姻について詳述する。
■授業の目的・ねらい	歴史学研究の最新成果を踏まえ、文化交流や貿易のほか、暴力や支配を伴った東西交流の負の側面について詳しく学び、異文化接触を多面的に理解すること。
■到達目標	学術的な議論や成果を正しく整理、吸収して、近世アジアの異文化交流について理解を深めることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80%	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20%	

授業科目	西洋古代・中世史料講読（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	貝原　哲生			シラバスグループ	Q61400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	西洋古代・中世の史料を読む
■授業の概要	「ローマ帝国のキリスト教化」をテーマに、西洋古代・中世の歴史を学ぶ上で不可欠な史料を読解する能力を養います。歴史研究において史料を読み、解釈することは必須の作業であり、それゆえにその取り扱い方には細心の注意が必要です。本講読では、はじめに、ローマ帝国の歴史について基礎的な知識を担当者が解説します。続いて、帝国最大の穀倉地帯であり、キリスト教の発展にも大きく寄与したエジプトの事例を中心に様々な種類の史料を講読しながら、多神教の世界であったローマ社会にキリスト教とその浸透が及ぼした影響を考察するとともに、史料読解における留意点を学びます。
■授業の目的・ねらい	ローマ帝国のキリスト教化に関する史料を読み解きながら、歴史研究に必要なスキルを習得することを目指します。
■到達目標	史料類型ごとの特徴を把握し、史料を解釈する能力を身につけることに加えて、ローマ帝国のキリスト教化について理解を深め、自分自身で考察できるようになることを目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。|ただし全ての回に出席することを前提とします。
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	西洋近世史料講読（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	紫垣 聡			シラバスグループ	Q62100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	近世ヨーロッパの経済・文化とアジア
■授業の概要	ベヴリ・ルミア「インド綿貿易とファッションの形成、1300～1800 年」を講読する。論文内容の読解とともに、関連する歴史研究の方法論や問題について説明する。
■授業の目的・ねらい	インド綿の流通と消費の実態を通して、近世ヨーロッパにおける物質文化の変容を、アジアとの相互作用の表れとして理解する。こうした具体的事例から、グローバル・ヒストリーとよばれる世界史の新しい見方を学ぶ。
■到達目標	①歴史学の専門論文・専門書を読んで理解する力を身につける。|②近世ヨーロッパの社会や文化の特徴とその変化を、具体的に説明できる。|③西欧の物質文化や工業化について、世界的な相互関連をふまえて論じることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	50	
･授業内課題	50	第 9 回授業でテスト課題（論述形式）と注意点を発表する。|授業内容の理解度をもとに評価する。
･その他	0	各回の授業について質問・意見・コメントを提出してもらう。授業への積極的な関心、取り組みを評価する。

授業科目	西洋近代史料講読（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	水田　大紀			シラバスグループ	Q63200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	西洋史の研究文献を批判的に読解する力を養う
■授業の概要	欧米の近現代史に関する学術書や学術論文について、問題設定・研究史・史資料や事例の扱い方・論理構成などに留意しながら、その内容を正確に把握し、他者に説明する。時間があれば、自分の意見を持ってコメントをし、他の履修者たちとディスカッションを行う。そうすることによって、批判的読解力を身に着け、論文とは何かを理解し、各々が卒業研究を進めるための力を養う。
■授業の目的・ねらい	ヨーロッパ近現代史研究を進める上で不可欠な、研究文献を正確に読み解く能力を養う。特に本演習では、日本語で書かれたヨーロッパ近現代史に関する研究文献を、適切な専門の辞典類や情報検索手段を使って正確に読解し、それにより得られた情報を自身の言葉で説明することを目標とする。
■到達目標	到達目標は以下のとおりである。受講生は、|（1）日本語で書かれた西洋史の研究文献を正確に読解することができる。|（2）研究文献の読解により得られた情報を日本語で摘記・別言・分類できる。|（3）専門の辞典類や情報検索手段について知識を持ち、それを研究文献を読む際に用いることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	ただし受講人数が多い場合には、授業内課題の割合を下げ、授業内発表の比率を上げる場合もある。
･授業内課題	60	
･その他	0	成績評価は主に授業内課題と最終課題で行う。おおよその目安としては、授業内課題 60%（テキスト内容のまとめなど)、教室試験 40%。ただし、いずれかひとつが 0%である場合、単位を取得できないことがある。また授業への主体的な参加がみられない場合には、欠席に準ずる扱いとする。

授業科目	発展研究ゼミ１（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	塚本　栄美子			シラバスグループ	Q64200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	西洋史分野で卒業論文を書くための「第一歩」
■授業の概要	西洋史分野で卒業研究ならびに卒業論文執筆を進めるにあたって、学術論文とは何か、を理解し、自らの研究テーマの設定の第一歩を踏み出すために、必要なスキルの概略をつかめるようにゼミを進める。まずは、研究を進めるにあたって先行研究がいかに重要であるかに焦点をあてる。そのうえで、具体的に、自らの研究を進める場合に不可欠な文献検索、手配の仕方、読み方（辞書、事典、データベースの使い方）など基本的なスキルの指導も行う。限られた時間のなかで、問題意識をもってこれらの作業を進めてもらうために、あらかじめおのおのが卒業研究で取り扱いたいと考えているテーマをいくつか考え、それにしたがって選択した研究書をもとに、発表レジュメを作成して来てもらう。それを土台にレジュメの作成法や卒業研究の報告の進め方についても説明する。なお、すでに卒業研究を進めている学生については、自らのテーマにそくし、その研究の進捗状況に合わせて、当該の課題に取り組むことが望ましい。
■授業の目的・ねらい	授業を通じて、歴史研究への取り組み方の基本を身につけ、自らの研究テーマ設定の第一歩を踏み出すことが目的である。歴史研究のテーマとして適切な課題を探究しはじめることが期待される。
■到達目標	(1)関心のある研究テーマについて必要な学術文献を検索し入手することができる。|(2)関心のある研究テーマについて研究史を知るために、研究ハンドブックや史学雑誌の『回顧と展望』を利用することができる。|(3)必要な学術文献を読み、その内容についてレジュメを作成し、発表することができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	30	授業で学んだ文献検索法を使って自分の関心にしたがった文献リストを作成することができる。その作業を土台に卒業研究執筆に向けて具体的なテーマ設定への第一歩を踏み出し、ある程度言語化することができる。
･授業内試験	0	授業中に自身の関心に従って文献リストを作成し、その文献リストをつかいながら自らの問題関心を発表することができる。文献リストの一部について時間内に読めた部分をレジュメを作成し、口頭発表することができる。
･授業内課題	30	
･その他	0	口頭発表のために作成した課題とともに、ゼミのメンバーの口頭発表について意見交換をすることができるなど、議論に参加することができる。

授業科目	発展研究ゼミ２（秋期)A クラス_対面				単位	2
担当者	水田　大紀			シラバスグループ	Q65300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	研究法演習
■授業の概要	卒業研究を進展させていくために、本講義では主に個別研究の発表、および討論を行う。研究内容の検討を通じて、個別研究の課題を客観的にみつめなおすとともに、他者の意見や論理を正しく理解する力の養成を目指す。また講義への参加により、史料や先行研究の重要性、課題設定や論理構築の際の注意点など、各自で研究を進めていくうえで必須となる歴史学の方法論について再確認し、研究上の具体的な課題や現在の研究潮流についての考察に、一層の精緻化を図る。
■授業の目的・ねらい	歴史学研究を行ううえでの課題への取り組み方を理解し、習得することを目的とする。本講義では、授業を通じて、西洋史の分野で卒業論文の執筆を行うために必要な知見を身につけ、それを他者に正確に伝えるための論理的な立論の方法や技術を培う。
■到達目標	到達目標は以下のとおりである。\①　卒業論文に向け、自身が取り組む地域、時代、歴史事象（対象）を明示できる。\②　史料や先行研究を踏まえて課題を設定し、その研究に必要な文献をみつけることできる。\③　文献の情報を正確に理解し、その情報を使って論理的に発表することができる。\

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	具体的には、授業への主体的な取り組み（授業における発言、課題への取り組み、発表）を総合的に評価する。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ３（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	南川　高志			シラバスグループ	Q66200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	研究論文作成のための演習授業
■授業の概要	この演習授業は、卒業論文を書き上げるために、研究法や問題設定、研究史のあり方など、歴史研究の必須事項について実践的に学ぶためのものである。授業では、まず教員から歴史学の研究論文とはどのような構成でどのように書かれるものなのか、そのための準備としてどのようなことを習得しておく必要があるのか、基礎事項を説明する。次いで、受講生はモデルとなる研究論文を読み、問題設定、研究史の整理、史資料の利用などを体験的に学ぶ。その後、受講生自身が卒業論文の課題としたいと考えている研究テーマについて報告し、教員の助言を受けるとともに、他の受講生も交えて討論する。さらに、教員が準備する参考論文を受講生は読んで、その内容を授業で報告するとともに、自身の研究にどのように取り入れられるか検討する。同時に、共通する問題点を受講者全員で討論する。最後に、授業で学び体験したことを受けて、受講生は今後の研究のあり方について報告する。
■授業の目的・ねらい	（1）歴史の研究論文とはどのようなものであり、どのような手続きで書かれるべきか、基礎的な事項を理解すること。｜（2）歴史研究の際の必須事項である適切な問題設定、批判的な研究史把握、史資料の堅実な利用法などを、水準の高い研究論文を読み検討することで実践的に学び、その成果を自身の研究に反映させることができるとの見通しを持つようになること。｜
■到達目標	（１）歴史学の研究論文とはどのような基礎的要素を備えており、どのような手続きで書かれるものであるのか、重要事項を理解するようになること。｜（2）先行研究に対してどのような対応をすべきであるのか、史資料はどのように扱わねばならないのか、基礎的な事項を理解するようになること。｜（3）指導・助言を受けて自身の個人研究の状態を理解し、今後どのように進めることが必要か十分構想できるようになること。｜

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50%	
･その他	0	授業での報告、討論での発言、研究テーマのへの取り組み状況を総合的に評価する。

授業科目	発展研究ゼミ４（春期)A クラス_対面				単位	2
担当者	塚本　栄美子			シラバスグループ	Q67100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業研究を「知る」！
■授業の概要	本演習は、一部通学課程のクラスと合同で行う。通信教育課程では他の学生の卒業研究発表を聴く機会が少なく、卒業研究とは何かをイメージしにくい。そこで、通学課程の第 2 回卒業論文中間発表会（3 回あるうちの 2 回目にあたる）に参加し、発表内容を聴くとともに、質疑に参加し、教員から学生へのアドヴァイスを参考にすることで、卒業論文とは何か、学術研究や論文構成とは何かを具体的に学び、自らの今後の卒業研究に活かすことが目標である。なお、希望者は自らも発表することができる。事前に配布されるテキストにしたがって、発表申し込みをあらかじめしておくこと。
■授業の目的・ねらい	歴史研究の方法と技術は、抽象的に語ってもなかなか理解が行き届かないところがある。したがって、本演習では実際の卒業研究の中間発表を数多く聴き、質疑に参加し、教員たちのアドヴァイスに触れることで、研究に対する具体的な理解をもつことが目標である。
■到達目標	他者の発表を聴き、質疑に参加することにより、卒業論文がどのようなものか理解し、自分の研究内容について客観的な把握ができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	0	通常よりも多くの学生たちの発表と学生たちの質問、教員のコメントをきくことにより、自身の卒業論文作成における課題を明確にし、言語化できるようになる。自身の課題を具体的に論述できているかどうかが評価のポイントになる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	50%	
･その他	0%	授業における発言、質問を評価。授業内に課されるワークシートも評価。自らも発表した場合はその分も加点される。

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	原　清治			シラバスグループ	S00200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	教育とは何かについて考える
■授業の概要	教師が抱える仕事は年々ますます多様化・複雑化している。本授業では、普遍的な教育の課題について学習を深め、近年の学校での「流行」であるアクティブラーニングを取り入れた能動学習も行い、教師の資質とは何か、教師として何を理解しなければならないのかといったことを主体的に学ぶ場としたい。
■授業の目的・ねらい	教育、教師とは何かを理解する
■到達目標	教師や教育に対する具体的なイメージが説明できる。|「どのような教師になりたいか」という問いに対して、経験則だけではなく、理論的なことを交えながら説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	50%	
･その他	0%	授業中でのグループワークの活動、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等)、および課題リポートを総合的に評価します。

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	原　清治			シラバスグループ	S00300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	教育とは何かについて考える
■授業の概要	教師が抱える仕事は年々ますます多様化・複雑化している。本授業では、普遍的な教育の課題について学習を深め、近年の学校での「流行」であるアクティブラーニングを取り入れた能動学習も行い、教師の資質とは何か、教師として何を理解しなければならないのかといったことを主体的に学ぶ場としたい。
■授業の目的・ねらい	教育、教師とは何かを理解する
■到達目標	教師や教育に対する具体的なイメージが説明できる。|「どのような教師になりたいか」という問いに対して、経験則だけではなく、理論的なことを交えながら説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	50%	
･その他	0%	授業中でのグループワークの活動、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等)、および課題リポートを総合的に評価します。

授業科目	教育学講読１（春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	山内　乾史		シラバスグループ	S01100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	教育の国際比較
■授業の概要	日本の教育を英米から途上国まで様々な国家の教育と比較して検討する。
■授業の目的・ねらい	日本の教育の特徴を、国際比較を通して学ぶことが目的である。
■到達目標	教育について、比較教育学的、ないしは教育社会学的な視点で捉えられるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育学講読１（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	赤沢　真世			シラバスグループ	S01200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	学習指導要領の変遷および現代に求められる学力について考える
■授業の概要	教育課程やカリキュラムは、教育内容としての教材や子どもの学習経験を組織的に編成するために用意された教育計画のことを指します。本授業では、学習指導要領の歴史的展開や社会状況の変化を踏まえて、教育課程の移り変わりやその影響をうける授業づくりの移り変わりを見ていきます。また、２０２０年から始まった学習指導要領や、主体的・対話的で深い学びとその評価についても深めていきます。
■授業の目的・ねらい	学習指導要領の変遷についてその社会的背景とともに理解する。|現代に求められる学力および授業づくりについて理解する。
■到達目標	学習指導要領の変遷と新学習指導要領の求めるものやその内容について説明できる。|また、今後求められる評価法（パフォーマンス評価法）について説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0|	リポート試験にて実施する
･授業内発表	10|	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	教育学講読２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	浅田　瞳			シラバスグループ	S02100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	学習指導要領の変遷について考える
■授業の概要	2020 年前後を境に学習指導要領は大きく転換しました。とりわけ、「主体的・対話的で、深い学び」といった教育方法にまで言及した改革は戦後初といってもよいと思います。今後は教師が子どもたちの学力や深度を見据え、どのようにカリキュラムを考えるのかといったカリキュラム・デザインを行う力が求められます。|この授業では主に小学校における学習指導要領の変遷を概観し、学習課程がどのような原理で編成されているのか、諸外国のカリキュラムは我が国とどのような点で異なるのかについて、配布資料をもとに学習します。|
■授業の目的・ねらい	学習指導要領がどのような原理原則をもとに編成されているのかについて考える
■到達目標	学習指導要領の変遷と現行学習指導要領の求めるものやその内容について説明できる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	

授業科目	教育学講読２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	S02200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	「学び」について考える
■授業の概要	学習論についてのさまざまな資料や文献の購読を通して､｢学び｣のメカニズムについて理解し、具体的な保育・教育実践などとの関係で解釈できるようにしていく。
■授業の目的・ねらい	教科の学習等の前提となる「人が学ぶということ」、すなわち人はどのように物事を理解し、行動し、「学び」を獲得していくかについて理解を深めることを目的とする。
■到達目標	各自の学習観や教育観をより深化させることができる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	教育学講読３（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	S03200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	戦後日本における教育問題の展開
■授業の概要	戦後日本の教育問題の展開を考察することは、戦後日本の社会変動と子どもたち・学校との関係を見つめなおすことでもある。本講義では戦後 60 年の教育問題を当時の社会的風潮との関連でとらえ、社会と教育との関連性について理解を深め、これからの両者の関係のあるべき姿について論議する。特に本授業では生徒指導と「特別の教科 道徳」を概観する。|
■授業の目的・ねらい	近年、「昭和的な学校風景」は否定される傾向にある。しかし、その一方、まだまだ根強く残っており、様々な議論が起こっている。本授業では生徒指導のあり方と「特別の授業 道徳」のあり方をめぐって、講義とディスカッションによって理解を深める。
■到達目標	生徒指導のあり方と「特別の授業 道徳」のあり方をめぐって、講義とディスカッションによって理解を深める。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育学講読３（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	芦田　風馬			シラバスグループ	S03300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	教育現場における造形表現の役割について考える
■授業の概要	子どもにとって絵を描いたり物作りをすることはどのような意味があるのか。|また、指導する中での表現活動との関わりを考える。
■授業の目的・ねらい	教育現場における造形表現の役割を理解する。
■到達目標	教育現場における造形表現の役割を考えることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	70%	
･その他	0%	

授業科目	教育学講読４（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	松戸　宏予			シラバスグループ	S04200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	学校図書館における特別なニーズをもつ子どもへの支援
■授業の概要	現在、学校にはさまざまな児童生徒が在籍する。例えば、LD（学習障害)、ADHD（注意欠陥多動性障害)、高機能自閉症などの発達障害を含めた特別なニーズをもつ児童生徒である。| 特別な支援とは、特別なニーズをもつ児童生徒ができないことであっても、あるいは苦手なことであっても、授業の活動や学校生活への参加が促進されるような配慮や工夫を指す。| では、学校図書館においては、特別なニーズをもつ児童生徒に対してどのような特別な支援ができるのか。事例紹介や文献の講読、そして、グループ討論を通して考究する。
■授業の目的・ねらい	目的:| 学校図書館を活用した体験の有無は個人によって差がある。特別なニーズをもつ児童生徒、そして、学校教育を支える学校図書館機能を理解したうえで、特別なニーズをもつ児童生徒に対する学校図書館支援を考察すること。|ねらい:| 受講者がテーマに対して意識をもち考えを深めること。また、グループ討論を通して、多角的なものの見方、他者に自分の意見を伝える力を身につけること。
■到達目標	1. 事前課題として、3 つの文献を読み、解題を行うこと。|2. 事例紹介や文献購読を通して、テーマに対して主体的な意見を持ち、その意見を論述できること。|3. グループ討論を通して、根拠に根ざした意見を他者に伝えるスキルを身につけること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%|	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	30%|	
･授業内課題	30%	解題シート　各 1 枚　10%　3 枚
･その他	20%	ワークシート　各 1 枚　10%　3 枚

授業科目	教育学講読４（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S04300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	知識基盤社会に求められる「学び続ける教師」と学校
■授業の概要	知識基盤社会の到来、グローバル化の進展、少子高齢化の進展など社会が大きく変化している中、我が国が将来にむけて一層発展していくためには、様々な分野での質の高い人材育成が不可欠であり、これは教職についても同様である。| 主体的に「学び続ける教師」としての教職キャリアを支えるために、教職を高度専門職として捉え、基礎的な知識や技能はもとより、従来から提言されてきた資質や能力加え、総合的な人間力等についても育成する必要がある。| 講義では、新学習指導要領の趣旨に沿って、知識基盤社会におけるこれからの専門職教師のあるべき姿を「教師論」とともに考える。| また、国の教育改革の動向、小・中・高連携、さらには高大接続の視点も含めて理解を深める。とりわけ、教育の情報化と Society5.0 について理解を深める。|
■授業の目的・ねらい	知識基盤社会における教師に求められる社会的なニーズを理解し、これからのグローバル化、|情報化が進展する中で、学校と教師はどうあるべきかを考える。‖
■到達目標	到達目標：|1　知識基盤社会では、「学び続ける教師」がなぜ求められているのか、グループ| 討議を通じて考える。|2　グローバル化、情報化する社会に対応できる資質、STEAM 人材とは何か、また、学校教育を通じて育成すべき新しいスキル（能力）やキャリアについて理解を深める。|3　自らが教壇に立ったときを想定して、「アクティブラーニング型の学習」を理| 解する。|4　「教育 DX」についても理解を深める。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験を課します。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育学演習１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	S05100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	学校臨床学への招待
■授業の概要	昨今の教育界を賑わすいくつかの課題（いじめ、不登校、学力、発達障害、外国にルーツのある子ども、子どもの貧困、性の多様性など）について概観する。また、そうした教育課題が展開される場としての学校教育そのものが暗黙のうちに備えているさまざまな社会的・文化的機能に迫る。
■授業の目的・ねらい	グループでの活動を通して、文献研究の方法や論の立て方、教育学的なものの見方を身につけることをねらいとします。
■到達目標	教育学の理解を深める

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	

授業科目	教育学演習１（春期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	二澤　善紀			シラバスグループ	S05101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	算数・数学教育における課題
■授業の概要	全国学力・学習状況調査や PISA などの各種調査において，様々な課題が指摘されている。これらの課題を考慮した教材研究を行う。
■授業の目的・ねらい	算数・数学教育における課題について理解する。|児童生徒が算数・数学の学習に主体的に取り組めるような教材研究・授業作りの視点を理解し，実際に取り組むことができる。|評価は，授業内の活動とリポートで行う。
■到達目標	算数・数学教育における課題について説明できる。|児童生徒が算数・数学の学習に主体的に取り組めるような教材研究・授業作りの視点をもち，それを説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	25	リポート試験にて実施する。|3 日間の内容を振り返りと考察を含めたリポートの評価。
･授業内試験	0	班でまとめた内容の発表に対する評価。
･授業内課題	25	
･その他	0	授業で提示した課題に対する評価。

授業科目	教育学演習１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	原　清治			シラバスグループ	S05200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	現代のいじめ問題について考える
■授業の概要	2013 年の「いじめ防止対策推進法」の制定以来、学校ではいじめ問題の実態を把握することが必要となっています。ただ、現状としていじめ問題は増加の一途をたどっており、学校ごとにその発生要因も異なっています。本講義では、いじめ問題の現状、とりわけネットいじめの実態について議論し、どのような方略をもって解決すればよいのかについて発表することを目的としています。
■授業の目的・ねらい	いじめの定義の変遷やネットいじめの実態を正確に理解しておくと、授業の内容が理解しやすくなります。平常の授業においてはアクティブ・ラーニングを前提としたグループ・ディスカッションを行います。また、いじめ対策としてどのような方法があるのか、議論を深めたことを発表してもらいます。また、リポート（リポート試験）においては語義の正確な理解と実態の正確な把握を前提にした基本的な論述式の設題により理解力を見ます。
■到達目標	・いじめの現状について説明できる|・ネットいじめの特徴およびその対応について自分の考えをまとめることができる|・いじめを抑止するための方略についていくつかの具体例をあげることができる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育学演習１（夏期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	S05201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	国語科授業とアクティブラーニング
■授業の概要	『新学習指導要領（平成 29 年度版学習指導要領)』では、これまで以上に子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」が求められています。しかしこれは単に、子どもたちに何か作業をさせたり、グループ活動を多くさせるということではありません。この授業では、その意味や具体について考えるとともに、教室で起こりがちな活動の不全について、協同学習などの観点から考えていきます。
■授業の目的・ねらい	新学習指導要領で示される「主体的・対話的で深い学び」の考え方に基づいた国語科授業についてのイメージをもつとともに、授業者としての留意点などについて理解すること。
■到達目標	国語科における「主体的・対話的で深い学び」の考え方や実践、その留意点などについて自分の言葉で説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0%	
・リポート試験(SR 履修)	60%	
・授業内発表	40%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	教育学演習２（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	S06100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	子どもの自主性を育むおとなの養育・教育態度
■授業の概要	日本の子どもたちの積極的な自主性の欠如が問題視されて久しいが、その背景をつきつめると、伝統的な「受容的勤勉性」を求める日本人独特の教育観に行き着くだろう。もはや、この教育観に拘り続けてきたが故に、日本人の国際的競争力・評価が低下してきたことは周知の事実である。| 本講では、他国の教育との比較の視点からではなく、日本社会における日常の子どもとおとなとのかかわり場面を取り上げ、子どもの自主性の育成につながる養育・教育態度を模索する。具体的には、乳児期における愛着形成としつけ・幼児期の自己主張と自己抑制・児童期の学習意欲に関する事例をとりあげつつ、それぞれ親・保育者・教師のかかわり方について複眼的に考察を深める。
■授業の目的・ねらい	①　乳児と親との何気ないコミュニケーションが、互いの信頼感ひいては自己調整力を育むこと|　を理解する。 ⇒「他者との充実したかかわりなくして自己の成長はない」ことの互恵的意義に|　気づく。|②　幼児どうしの偏りのないかかわり経験が、仲間どうしの個性の尊重につながることについて|　認識を深める。 ⇒日本人にとっての「自己主張」の意味を問い直し、アサーティブな態度を|　心がける。|③　児童の学習意欲が様々な要因からの影響を受け、個性に配慮しつつ学級集団への要請を行う|　ことの重要性を理解する。 ⇒学習意欲とは単なる一時的感情ではなく、期待と価値に関する|　主観的判断にもとづく極めて認知的要素を伴うことを踏まえて関わり方を考える。
■到達目標	①　資料の記述や映像から非言語的なコミュニケーションを読み取って、相互の|　情緒的交流を推測して説明する。|②　ワークシートの設題について自分なりの見解を明確に記述、他受講生の意見との|　相違点を意識したうえで複眼的な論述を行なう。|③　授業で学んだ視点を自らが営む実践活動に活かそうと考え、その視点の効用と|　限界について見通しをつけて整理を試みる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	25	
･授業内発表	15	３日間の授業内容を総合した論述を求める。|
･授業内試験	0	授業への参加態度を含め、各日 5 点満点。
･授業内課題	60	
･その他	0	授業日ごとに、設定されたテーマに関する設題（A4 判ワークシート 2-3 枚ずつ）を課す。自らの経験や知識をもとに自由記述を求めるもの、配布資料を参照しつつ論述を求めるものがある。

授業科目	教育学演習２（春期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	谷　芳恵			シラバスグループ	S06101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	教員の子ども理解と関わりの有り様について考える
■授業の概要	教育現場では、子どもをめぐる様々な問題に遭遇する。この授業では、子どもを取り巻く具体的な問題場面について、グループでのディスカッションを通して様々な角度から検討していく。また、子どもと教員の関わりの有り様が問題理解と解決に与える影響を学び、教員として私たちがどのよ うに問題に取り組んでいくことができるのかについて考えていく。
■授業の目的・ねらい	子どもの問題を理解するための多様な心理学的観点を学ぶ。|子ども理解・問題理解についての現在の自分の考えを概観する。|グループワークにおいて、自分の意見を具体化したり他者の意見を聞いたりすることで、より広い視野をもって問題解決に臨もうとするマインドとスキルを身につけることを目指す。
■到達目標	子どもの心理や問題について、心理学的観点から説明することができる。|子どもの問題の理解・解決のために、子ども自身や他の教員等と協調的にコミュニケーションを図ることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	-	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	20%	リポートのテーマは授業時に指示する
･授業内試験	-	グループワークへの参加態度の評価を含む
･授業内課題	30%	
･その他	-	Google フォームでのワークシート等課題の提出

授業科目	教育学演習２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	赤沢　真世			シラバスグループ	S06200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	児童・生徒を指導するための教育方法・技術について、これまでの著名な実践者や取り組みから学ぶとともに、これから求められる授業における方法・技術についても検討する。
■授業の概要	本授業では、教育目標を実現するために何をどのように教えるかという教育方法の課題を取り扱い、児童を指導するための方法・技術について学ぶ。発問などの指導言・教授行為、教材の設定、そして評価の各側面から具体的な実践を検討しながら検討していく。
■授業の目的・ねらい	教育方法に関する基本的な考え方や知識を修得し、授業実践での活用を考える。
■到達目標	教育方法に関する基本的な考え方や知識を修得することができる。|授業づくりに際して教員が検討すべき課題を見出すことができ、現代に求められる授業づくりのポイントを説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	20	授業内容を踏まえて関心を持ったものについて、さらに調べた内容、および自分自身の考えや実践の工夫について述べなさい。
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	教育学演習２（夏期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	奥畑　志帆			シラバスグループ	S06201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	子どもの発達と支援
■授業の概要	子どもの発達と支援の研究の進め方について学ぶ。子どもの発達を促す支援に関する一つの研究論文を例として、研究テーマの設定、文献検索、研究方法の検討、研究計画の作成、データの収集、データの分析、結果のまとめ、考察までの一連の流れを演習を含めながら追試する。
■授業の目的・ねらい	子どもの発達と支援に関する研究の進め方について、一つの研究論文を例として具体的に学習し、発達研究方法の実際を理解する。
■到達目標	一つの論文を追試することから、研究テーマの設定、文献検索、研究方法の検討、研究計画の作成、データの収集、データの分析、結果のまとめ、考察までの研究の進め方が分かる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	

授業科目	教育学演習３（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	杉本　均			シラバスグループ	S07200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	教育制度の国際比較
■授業の概要	教育制度は世界のどの国にも存在し、誰もが通過する社会システムであるが、それらの国家を超えての連続性や互換性は思ったほど保証されているとは言えない。日本を含む世界の各国において、教育を比較するためのどのような基準や尺度が存在するであろうか。また教育を統計的に比較する場合にはどのようなことに注意すべきかなどについて検討する。具体的なトピックとしては、カリキュラム、学校文化・行事、教科書などを題材とする。
■授業の目的・ねらい	私たちはこの国の教育制度のなかで育ってきたため、自国の教育についてはよく知っていると思っている場合が多い。しかし世界の多くの国の教育問題を調べると、いままで意識してこなかった日本の教育問題の特徴に気づくことができる。またそれらの国々の教育問題への取り組みを知ることによって、いままで気づかなかった解決法や取り組みのヒントを得ることができる場合もある。本授業ではそのような自らの教育への振り返りによって、教育の世界観を広げることを目的としている。
■到達目標	日本や諸外国の教育問題について調べ、国際比較によって日本の状況の位置づけや問題の特徴について理解する。あわせて外国の取り組みのなかで日本の教育問題の改善や解決に参考になるようなものがないかを考察して提起する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	
･授業内発表	10%	
･授業内試験	30%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育学演習３（夏期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S07201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	インターネット・SNS 上で横行する部落差別やその他、様々な差別行為の生起する現状をふまえ、現代社会に求められる人権教育の在り方について考える。
■授業の概要	担当者が現場で実践を進めてきた同和教育について、理念・経緯・実践そして成果と課題を明確化する。そして教育現場で子ども達が学ぶ同和問題に関わる学習について、その基盤となる部落の歴史を前近代・近現代と概観し、現代的課題として、2016 年制定のマイノリティ三法（部落細別解消法・障害者差別解消法・ヘイトスピーチ解消法）をもとに人権教育の役割について考えを深める。|
■授業の目的・ねらい	１．同和教育の意義・理念について認識を深め、教育現場で実践された取組の経緯について理解を深める。|２．小学校６年生以降、社会科（歴史・公民）において児童・生徒が学ぶ「同和問題に関わる単元の学習」の基盤である部落の歴史について、中世・近世・近代・現代の通史を学ぶ。|３．部落差別解消推進法・障害者差別解消法・ヘイトスピーチ解消法が 2016 年に制定された背景を踏まえ、人権に関わる現代的課題を見据え、必要な取組について考える。|
■到達目標	・部落の歴史を踏まえ、戦後の同和教育の取組について知り、成果を評価し、課題について解決のための考えを深める。|・部落差別解消推進法第 5 条の具現化についてその実践化に向けた考えを確立する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	50	

授業科目	教育学演習３（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	相馬　伸一			シラバスグループ	S07300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	教育的態度を考える
■授業の概要	私たちは生まれてから今まで多くの教育を受ける機会を得てきました。ですから、教育について何か言うように求められれば、何か言うことができます。しかし、その多くは「教育を受ける側」としての意見です。そして、高度消費社会を生きる私たちは、教育を受けることをサービスのように見なし、受ける側の満足度を高めるように求めがちです。ゆえに、そうした意見は「教育をする側」「教育を何とかしようとする側」の意見とはずれてしまいがちです。この演習では、親・教師・先輩といった広い意味での教育者としての責任を担おうとするとき、どのような態度をとることが望ましいかを考えます。
■授業の目的・ねらい	教育においては、まったなしの対応が求められます。すべてを予測することはできませんが、さまざまなケースを想定して、自分の考えをまとめておくことは無駄ではありません。心理学者のピアジェがいうとおりならば、私たちの行動は手持ちのシェマ（スキーム）に左右されます。私たちの素朴な教育へのシェマを見直すきっかけを得てもらえたらと思います。
■到達目標	①教育的態度をとるのに必要な論点を考えることができる。|②協働して学び、自己の意見を振り返ることができる。|③これから自身が教育者としての役割を担う際の留意点を考察できる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	60	
･授業内試験	0	演習への出席 40%、グループワーク参加の相互評価 20%
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	教育学演習３（秋期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	S07301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	教育とユーモア
■授業の概要	教室という場所で起こるユーモアや笑いが、授業・学級に大きな影響を与えるものであることは、多くの人によって経験的に支持されるであろう。本講座では、そのような「教室ユーモア」の意味や意義、効果や危険性などについて学ぶ。
■授業の目的・ねらい	教室で起こる笑いやユーモアについて理解を深めるとともに、指導方略としての笑いについて知ること。
■到達目標	教室ユーモアに関する理解を深め、その学びについて自分の言葉で説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	教育学演習４（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	S08200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	算数・数学の授業研究
■授業の概要	算数・数学教育において，基礎的・基本的な知識・技能を活用する力を育成し，学ぶことの意義や有用性を実感できるような学習活動の充実が求められている。ここで重要になってくることは，教員が指導内容の構造・体系を把握すること，児童生徒も学習内容のつながりを理解することである。そこで，指導内容の構造・体系に基づいた授業作りを行う。
■授業の目的・ねらい	指導内容の体系を把握する。|指導内容の体系を意識した教材研究のあり方について理解する。|指導内容の体系をもとした授業作りについて理解する。|
■到達目標	指導内容の体系把握できる。|指導内容の体系を意識した教材研究ができる。|指導内容の体系をもとに授業づくりができる。|評価は，授業内の活動(個人・班)への取り組みとリポートで行う。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	25	リポート試験にて実施する。|3 日間の内容を振り返りと考察を含めたリポートの評価。
･授業内試験	0	班でまとめた内容の発表または模擬授業の評価。
･授業内課題	25	
･その他	0	授業で提示した課題に対する評価。

授業科目	教育学演習４（夏期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	杉本　均			シラバスグループ	S08201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	教育問題の国際比較
■授業の概要	近年日本でも様々な教育問題が論じられ教育改革の必要が検討されている。例えば、児童･生徒の学力低下問題、イジメや不登校の問題、道徳と宗教教育の問題、英語教育の問題、教員の養成と免許制度の問題、そして公立学校での才能教育の問題などがあげられる。これらの問題において日本は世界の中でどのような状況なのか、日本だけの固有な問題なのか、外国の取り組みや改革で、日本の問題解決・改善の参考になるものはないのか。日本に閉じこもった狭い視野からは見えにくい性質について、世界的視野から国際的比較を通じて考察する。
■授業の目的・ねらい	私たちはこの国の教育制度のなかで育ってきたため、自国の教育についてはよく知っていると思っている場合が多い。しかし世界の多くの国の教育問題を調べると、いままで意識してこなかった日本の教育問題の特徴に気づくことができる。またそれらの国々の教育問題への取り組みを知ることによって、いままで気づかなかった解決法や取り組みのヒントを得ることができる場合もある。本授業ではそのような自らの教育への振り返りによって、教育の世界観を広げることを目的としている。
■到達目標	本や諸外国の教育問題について調べ、国際比較によって日本の状況の位置づけや問題の特徴について理解する。あわせて外国の取り組みのなかで日本の教育問題の改善や解決に参考になるようなものがないかを考察して提起する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	
･授業内発表	10%	
･授業内試験	30%	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	教育学演習４（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	二澤　善紀			シラバスグループ	S08300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	わが国における幼児教育・保育の基礎的理解
■授業の概要	わが国の幼児教育・保育のガイドラインである、幼稚園教育要領及び保育所保育指針等に示される教育・保育のねらいと内容（5 領域）について理解し、幼児期における教育の基本的な考え方について学ぶ。幼児が様々な体験を積み重ねながら総合的に発達することを理解し、遊びを中心とした保育内容や総合的な指導のあり方について理解する。実践事例を通して遊びや生活における幼児の取り組み、教師・保育者のかかわり、環境構成等について具体的に理解し，総合的に指導する視点を養う。
■授業の目的・ねらい	わが国における幼児教育・保育の基礎的理解をはかるとともに、具体的な幼児教育・保育実践の方法について学ぶ。
■到達目標	1.幼稚園教育要領及び保育所保育指針の意義と役割について理解する。|2,幼児教育・保育における「ねらい」と「内容」を理解する。|3.環境を通して行う保育について理解する。|4.幼児教育・保育における遊びについて理解する。|5.子どもを主体とした保育を実践するための教師・保育者の役割につて理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	10%	授業の最終コマで、リポート課題を提示します。
･授業内試験	0%	授業中でのグループワークの活動、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等)、および課題リポートを総合的に評価します。
･授業内課題	20%	
･その他	0%	授業中でのグループワークの活動、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等)、および課題リポートを総合的に評価します。

授業科目	教育学演習４（秋期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	原　清治			シラバスグループ	S08301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	若者の就労と教育
■授業の概要	現代の若者の就労については、かつての安定した正社員雇用だけではなく、フリーターやニート、低賃金労働など、様々な形態があり、マスコミでも取り上げられている。しかし、これらの概念は実は正確に理解されないまま論議だけが先走りしている傾向が見られる。本講義では、これら若者の就職と教育について議論する。
■授業の目的・ねらい	フリーター、ニート、低賃金労働などの学術的な定義を正確に理解するとともに、その実態を理解することです。また、ワーキング・プア、派遣労働者、個人請負など様々な、新しい貧困層も近年論じられるようになってきている。これらの語義の正確な理解と実態の把握も課題となります。|平常の授業においてアクティブ・ラーニングを前提としたグループ・ディスカッションを行い、また指名して授業者の質問に応答することを求め、正確な理解ができているかどうかを確認します。また、リポート（リポート試験）においては語義の正確な理解と実態の正確な把握を前提にした基本的な論述式の設題により理解力を見ます。|
■到達目標	１．フリーターやニートの違いについて、学術的な見地のもとに説明できる。| ２．若年就労のどの点に問題があるのか、自分の意見を述べることができる。| ３．海外と日本の若年就労に対するとらえ方はどこに違いがあるのか説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育学特殊講義１（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S11100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	乳幼児期の保育と子どもの育ちを考える
■授業の概要	教育の現場に携わる者にとって、学校種を超えた連携や接続は大きな課題のひとつである。|この授業では、受講生の課題意識を明確化することを目指し、現在の幼児教育・保育を視座としながら各校種が行う教育活動について考える。|第１回～第３回　乳幼児期の幼児教育･保育と小学校との接続を子ども主体の教育の視点から考える|第４回～第６回　現行の幼児教育・保育について、制度、内容、方法などの視点から学ぶ|第７回～第９回　子育て支援の取り組みを視座とし、保護者との関わりについて考える
■授業の目的・ねらい	乳幼児期の子どもの育ちを支える幼児教育・保育を理解し、教育の現状と多様な課題について考える。|受講生各自が教育現場に臨むにあたっての課題意識を明確にする。
■到達目標	現行の幼児教育・保育について理解を深める。|自身が臨もうとする教育現場の課題を意識する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0|	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	教育学特殊講義２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	S12100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	キャリア教育から教育の本質を探る
■授業の概要	人の成長とは何か、人が生きるとは何か、学びとは何かなど、キャリア教育の理論と哲学を通して教育の本質を考える。職業指導・進路指導・キャリア教育の意義と目的、職業選択理論および職業適応理論、職業的発達と自己概念の形成、キャリア教育の実践と課題について学び、今日、キャリア教育の充実が求められている理由を具体的に考える。
■授業の目的・ねらい	キャリア教育および教育の本質についての理解を深めることを目的とし、（１）職業指導・進路指導・キャリア教育の意義と目的についての理解、（２）職業選択理論および職業適応理論、職業的発達等の基礎理論についての理解、（３）キャリア教育の充実のための今後の課題について意見が述べられるようになることを目的とする。
■到達目標	職業指導・進路指導・キャリア教育の意義と目的、さらにそれらにかかわる諸理論について理解すること、キャリア教育の充実のための実践について検討し、今後の課題について意見が述べられるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	0	発表および参加状況を含む

授業科目	教育学特殊講義３（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	S13100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	教師としての科学教育，環境教育の視点
■授業の概要	科学教育，環境教育に関連した報道や話題を多角的にとらえ考えていきます。環境教育に関連する資料を読み進めていき，事実に基づいて科学的な判断をしたり，討論等を通して自分なりの価値判断や意思決定をしたりしていく授業を行います。| この講義ではレジュメ作成や発表，討論を多く取り入れていきます。
■授業の目的・ねらい	物事を多角的・批判的にとらえ，自ら判断し，主体的に行動していくことのできる教員としての資質を身につけます。| 学修・調査・理解した内容を１コマのイラストや概念図と１枚のレジュメにまとめ，プレゼンテーションを通して他者に伝える能力を身につけます。
■到達目標	証拠に基づいて論じることができる。|物事を多角的，批判的に捉え考えていこうとすることができる。|自分自身で意思決定し行動していこうとすることができる。|理解したことを端的に直感的にわかるようなプレゼンテーションを行う能力を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	学修成果報告書等
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	プレゼンテーションの発表内容，討論の内容等
･授業内課題	20	
･その他	0	レジュメ作成等

授業科目	教育学特殊講義４（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	S14100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	学歴社会と学力問題
■授業の概要	日本の学歴社会は崩壊しつつある、あるいはすでに崩壊したと言われる。しかし現実にはどうなのかを様々なデータを通じて検討する。またこれとの関連で、近年盛んに繰り返されてきた教師の多忙化、教師の労働環境をめぐる問題について議論する。
■授業の目的・ねらい	学力問題をただただ個人的な経験だけに基づいて論じる時、他者に対し独りよがりな議論を強要するケースが、この種の議論においてはしばしばみられる。求められるのは自己の個人的体験を少し突き放し、相対化して眺めなおし、大局的に論じる姿勢である。このような姿勢を身に着けることが授業の目的である。
■到達目標	個人的な教育経験を相対化し、客観的なデータに基づき教育を社会学的に論じるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育学特殊講義５（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	S15300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	論理的なものの考え方と小論文の書き方
■授業の概要	各種メディアから送られる様々な情報や、うわさ、思い込み、価値判断の違いなどによって、誤った考えや判断を行うことがある。欧米ではクリティカルシンキングが教育の中でも重視されている。これは、批判的な思考と訳される場合もあるが、様々な偽の情報に惑わされずに、慎重に、客観的に、また論理的に物事を考える能力のことである。本授業では、原因から結論、情報を基に判断するときに陥りやすい誤りと、誤りを防ぐための考え方を学ぶ。また、これらの考えを基に、小論文を作成を演習として行いながら、論理的に書く書き方を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	論理的なものの考え方は国際的な生徒の学習到達度調査（PISA）でも重視されているように、社会において非常に重要なものである。論理的な考え方は直ぐに身につくものではないが、この授業を受けて、論理的に考えるには、どのような点に気をつけていけばよいかを学ぶ。
■到達目標	論理的な思考、判断、表現ができるようになる。また小論文の書き方を学び、小論文の書き方のポイントが習得でき、的確な小論文が書けるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	最後に小論文を作成する試験を実施する。小論文の課題は授業で通知する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	教育学特殊講義６（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	松瀬　留美子			シラバスグループ	S16300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	教育現場における発達障害と心理的課題| 思春期･青年期の発達障害およびこの時期に起こりやすい心理的問題から問題提起をし、教育現場での心理教育支援の在り方を理解する。|
■授業の概要	近年、教育現場で児童生徒や学生に関わる際に、発達障害と性同一性（性別違和、性的指向）に関する専門的知識と配慮は不可欠である。このような思春期青年期の同一性の課題は不登校やひきこもり、メンタルヘルスなど、その後の生き方に影響を及ぼす大きなテーマであり、その本質を理解し心理支援を行う必要がある。さらにこの時期には思春期に起こりやすい心の病も増加する。しかし、現職者、保護者、また当事者においても、配慮が必要であるという認識はされてはいるものの、未だに表面的な理解と対応に留まっているという現状がある。| 本講義では、思春期青年期の心理的課題をテーマとし、主に学校教育現場における発達障害、不登校、いじめ問題や性同一性について、また、メンタルヘルスからは、自傷行為や大量服薬、依存症（ネット依存。ゲーム障害）などの話題提供を行う。それらを通して青年期の発達と心理を理解し、心理教育的支援を検討することを目的とする。| 本講義では前半は発達障害の現状について DSM5-TR の概念を基に理解し、発達障害の特性を有する生徒への対応を考える。中盤以降は不登校、いじめ問題、性別違和や性的指向といった性同一性のテーマ、自傷、依存症などのメンタルヘルスを題材とし、思春期の生徒理解や教師の対応を検討する。全体を通して理論と状態像、現状を総合的に考察する。
■授業の目的・ねらい	自閉スペクトラム症、注意欠如多動症の診断基準、状態像を理解し、いじめ問題や不登校を含めた教育現場における問題を明確にする。青年期のこころの課題からは性同一性（性別違和、性的指向)、リストカット、ゲーム障害（ネット依存)、メンタルヘルスなどについて考える。配布する資料を読み込み、学校教育や医療で、また自己理解に活用できる知識を習得することを目的とする。
■到達目標	学校教職員や医療福祉現場の指導者として必要な青年期の「発達障害」の特性を理解し、発達障害者の課題と心理教育支援を学ぶ。また、併せて、いじめや不登校の現状を理解する。さらに、学校教育現場で近年、配慮の要請がなされている「性同一性（性別違和・性的指向)」の課題と現状を理解し、教育現場で可能な支援を検討して自分の考えをまとめる。精神的な課題からは「自傷」や「ゲーム障害」などのメンタルヘルスをとりあげ、臨床心理学的および精神医学的な視点で理解し、教師の対応の姿勢を修得する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	オンライン授業のためリポート試験を行う。
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	本科目のスクーリング授業の全日全講義に出席していることを前提とする。授業内課題を含む。
･授業内課題	0%‖	
･その他	0%	授業内発表に含まれる。

授業科目	教育学特殊講義７（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	盛永　俊弘			シラバスグループ	S17200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	「学校現場の喫緊の課題」の解決策を新たな視点で考える。
■授業の概要	児童生徒理解、授業改革、学級・学校づくりの 3 つの視点から、今日の学校課題の理解と対応策・解決策を考える。|
■授業の目的・ねらい	・学校の現状と喫緊の課題の理解を深める。|・これからの学校のあり方を考えながら、課題解決の方向性を考える。|
■到達目標	・学校の現状と喫緊の課題の理解を深めることができた。|・これからの学校のあり方を考えながら、課題解決の方向性を考えることができた。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	90%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0%	参加状況
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育学特殊講義８（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S18200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	被差別部落の現況と部落問題の今日的課題
■授業の概要	講義では「部落問題解決に向けて取り組まれてきた戦後の被差別部におけるまちづくりを講義、人権資料館ツラッティ千本へのフィールドワークをとおして考察する。
■授業の目的・ねらい	『人権の世紀』とも言われる 21 世紀を迎えた今日の日本社会において、人権にかかわる重大な問題として部落（同和）問題が存在している。1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、様々な行政的な施策によって同和地区の実態や人々の人権意識は大きく前進した。20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体においても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、また、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」-を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案)」が 2016 年 12 月に成立施行（2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 5 月国会で成立）と「マイノリティ三法」が 2016 年に施行し「人権教育」が担うべき役割は大きい。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が、そして自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。同和教育は、そうした部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　講義では「部落問題解決に向けて取り組まれてきた戦後の被差別部におけるまちづくりを講義、人権資料館ツラッティ千本などへのフィールドワークをとおして考察する。
■到達目標	講義題目にあるように「部落問題と人権・同和教育の実際と今日的課題とは何か？」を問題意識として講義に参加しながらリポート試験でまとめること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	10%	

授業科目	理科教育法（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	S31200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	小学校理科授業づくり
■授業の概要	小学校理科教育の理論と実践について授業を進めます。A 区分：物質・エネルギー（エネルギー，粒子)，B 区分：生命・地球の観察や実験の授業を取り上げ，授業づくりの視点や方法について学んでいきます。安全な観察・実験の方法を学びつつ，学習指導案を作成し模擬授業を実施していきます。
■授業の目的・ねらい	小学校教員として必要な理科における知識や技能を身につけ，観察や実験を伴った授業展開ができる教員を目指します。あわせて理科学習論に基づいた授業設計ができ，学習指導案を作成する力を身につけていきます。
■到達目標	小学校教員として必要な理科における学習内容の知識や技能を身につけ，自ら実践することができる。| 学習指導要領と理科学習論に基づいた授業設計を行い，学習指導案を作成することができる。|1．理科という教科の意義・目標を理解する。|2．理科の学習領域・内容を理解する。|3．理科における学力と評価の在り方について理解する。|4．理科指導技術の基本を身につけている。|5．理科指導に適した情報機器及び教材の活用能力を身につけている。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	60%	

授業科目	音楽科教育法（春期)A クラス_対面				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S32100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	小学校音楽科授業づくりの力量形成
■授業の概要	本講義は、学習指導要領をめぐって、音楽科授業づくりの基礎理論、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、特別支援教育と音楽科（音楽療法)、学級経営と音楽科、といったテーマを中心に授業を展開する。このテーマに基づき、模擬授業や学習指導案作成を通して音楽科授業づくりの力量を高める。‖
■授業の目的・ねらい	上記の授業概要を習得することにより，小学校学習指導要領に従って小学校音楽科授業を創造できる力量を備える。
■到達目標	１．学習指導要領の目標・内容を理解し授業に反映することができるようになる。|２．音楽科学習指導案の作成と授業分析ができるようになる。|３．歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の全ての授業が構想・実践できるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	音楽理論、音楽教育法、音楽専門の授業内で、各分野全てにおいて試験を行い総合評価とする（グループ等の発表，総合ポートフォリオを基盤としたレポート)。|音楽専門については、先に示したグレードに従って試験をする（いずれかのグレードに合格すること)。|【重要】各分野の受験資格は、３日間の全講義に出席していることを前提とする。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	音楽科教育法（春期)B クラス_対面				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S32101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	小学校音楽科授業づくりの力量形成
■授業の概要	本講義は、学習指導要領をめぐって、音楽科授業づくりの基礎理論、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、特別支援教育と音楽科（音楽療法)、学級経営と音楽科、といったテーマを中心に授業を展開する。このテーマに基づき、模擬授業や学習指導案作成を通して音楽科授業づくりの力量を高める。‖
■授業の目的・ねらい	上記の授業概要を習得することにより，小学校学習指導要領に従って小学校音楽科授業を創造できる力量を備える。
■到達目標	１．学習指導要領の目標・内容を理解し授業に反映することができるようになる。|２．音楽科学習指導案の作成と授業分析ができるようになる。|３．歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の全ての授業が構想・実践できるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	音楽理論、音楽教育法、音楽専門の授業内で、各分野全てにおいて試験を行い総合評価とする（グループ等の発表，総合ポートフォリオを基盤としたレポート)。|音楽専門については、先に示したグレードに従って試験をする（いずれかのグレードに合格すること)。|【重要】各分野の受験資格は、３日間の全講義に出席していることを前提とする。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	音楽科教育法（夏期)1 週 A クラス_オンデマンド,オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S32210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	小学校音楽科授業づくりの力量形成
■授業の概要	本講義は、学習指導要領をめぐって、音楽科授業づくりの基礎理論、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、特別支援教育と音楽科（音楽療法)、学級経営と音楽科、といったテーマを中心に授業を展開する。このテーマに基づき、模擬授業や学習指導案作成を通して音楽科授業づくりの力量を高める。
■授業の目的・ねらい	上記の授業概要を習得することにより，小学校学習指導要領に従って小学校音楽科授業を創造できる力量を備える。
■到達目標	１．学習指導要領の目標・内容を理解し授業に反映することができるようになる。|2．音楽科学習指導案の作成と授業分析ができるようになる。|3．歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の全ての授業が構想・実践できるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	授業のテーマをまとめて複数のブロックに分け課題を設定します。その課題を試験として評価します。|【重要】全ての課題を提出することが，単位認定の条件です。|
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	30%	

授業科目	音楽科教育法（夏期)2 週 A クラス_オンデマンド,オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S32220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	小学校音楽科授業づくりの力量形成
■授業の概要	本講義は、学習指導要領をめぐって、音楽科授業づくりの基礎理論、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、特別支援教育と音楽科（音楽療法)、学級経営と音楽科、といったテーマを中心に授業を展開する。このテーマに基づき、模擬授業や学習指導案作成を通して音楽科授業づくりの力量を高める。
■授業の目的・ねらい	上記の授業概要を習得することにより，小学校学習指導要領に従って小学校音楽科授業を創造できる力量を備える。
■到達目標	１．学習指導要領の目標・内容を理解し授業に反映することができるようになる。|2．音楽科学習指導案の作成と授業分析ができるようになる。|3．歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の全ての授業が構想・実践できるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	授業のテーマをまとめて複数のブロックに分け課題を設定します。その課題を試験として評価します。|【重要】全ての課題を提出することが，単位認定の条件です。|
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	30%	

授業科目	音楽科教育法（秋期)A クラス_オンデマンド＋オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志		シラバスグループ	S32300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	小学校音楽科授業づくりの力量形成
■授業の概要	本講義は、学習指導要領をめぐって、音楽科授業づくりの基礎理論、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、特別支援教育と音楽科（音楽療法)、学級経営と音楽科、といったテーマを中心に授業を展開する。このテーマに基づき、模擬授業や学習指導案作成を通して音楽科授業づくりの力量を高める。
■授業の目的・ねらい	上記の授業概要を習得することにより，小学校学習指導要領に従って小学校音楽科授業を創造できる力量を備える。
■到達目標	１．学習指導要領の目標・内容を理解し授業に反映することができるようになる。|２．音楽科学習指導案の作成と授業分析ができるようになる。|３．歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の全ての授業が構想・実践できるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	授業のテーマをまとめて複数のブロックに分け課題を設定します。その課題を試験として評価します。|【重要】全ての課題を提出することが，単位認定の条件です。|
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	30%	

授業科目	音楽科教育法（冬期)A クラス_オンデマンド＋オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志		シラバスグループ	S32400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	小学校音楽科授業づくりの力量形成
■授業の概要	本講義は、学習指導要領をめぐって、音楽科授業づくりの基礎理論、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、特別支援教育と音楽科（音楽療法)、学級経営と音楽科、といったテーマを中心に授業を展開する。このテーマに基づき、模擬授業や学習指導案作成を通して音楽科授業づくりの力量を高める。
■授業の目的・ねらい	上記の授業概要を習得することにより，小学校学習指導要領に従って小学校音楽科授業を創造できる力量を備える。
■到達目標	１．学習指導要領の目標・内容を理解し授業に反映することができるようになる。|２．音楽科学習指導案の作成と授業分析ができるようになる。|３．歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の全ての授業が構想・実践できるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	授業のテーマをまとめて複数のブロックに分け課題を設定します。その課題を試験として評価します。|【重要】全ての課題を提出することが，単位認定の条件です。|
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	30%	

授業科目	図工科教育法（春期)A クラス_オンデマンド＋オンライン			単位	2
担当者	波多野　達二		シラバスグループ	S33100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	図画工作科指導に必要とされる知識と技能
■授業の概要	表現及び鑑賞の活動を通して、子ども達が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を高めることができる図画工作科指導や評価のあり方、および小学校学習指導要領に示されている目標や内容に沿った授業のあり方についての講義・実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	履修に際しては、「体験から学ぶ」ことを大切にする。本講義・実技は、履修者本人が表現・鑑賞活動の楽しさを充分味わいつつ、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、子どもがどのように形や色をとらえ、イメージをもち考えたり構成したり試行錯誤しているのか理解すると共に、材料や用具を使ったり生かしたりするための基礎的・基本的事項を充分身につけ、指導者としての資質・能力を養うことが目的である。|
■到達目標	本講義・実技の学習内容の要点は、小学校教員として図画工作科を指導する上で必要とされる子どもの発達段階を考慮した造形美術表現の基本的な態度と知識・技能を習得することである。履修者本人が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、教材・教具のもつ基礎的・基本的事項を身につけるとともに、指導者としての資質・能力を養うことが目標である。|　試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とし、1600 字程度のリポート課題とする。100 点満点で 60 点以上を合格とする。また、実技の作品や制作態度等を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。最終評価は、試験・実技の総合評価で行う。ただし、講義・実技どちらか一方が不合格である場合は、総合点が合格であっても不合格とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・リポート試験(SR 履修)	0	試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とするリポート課題。100 点満点で 60 点以上を合格とする。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50	

授業科目	図工科教育法（春期)B クラス_オンデマンド＋オンライン			単位	2
担当者	波多野　達二			シラバスグループ	S33101
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	図画工作科指導に必要とされる知識と技能
■授業の概要	表現及び鑑賞の活動を通して、子ども達が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を高めることができる図画工作科指導や評価のあり方、および小学校学習指導要領に示されている目標や内容に沿った授業のあり方についての講義・実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	履修に際しては、「体験から学ぶ」ことを大切にする。本講義・実技は、履修者本人が表現・鑑賞活動の楽しさを充分味わいつつ、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、子どもがどのように形や色をとらえ、イメージをもち考えたり構成したり試行錯誤しているのか理解すると共に、材料や用具を使ったり生かしたりするための基礎的・基本的事項を充分身につけ、指導者としての資質・能力を養うことが目的である。|
■到達目標	本講義・実技の学習内容の要点は、小学校教員として図画工作科を指導する上で必要とされる子どもの発達段階を考慮した造形美術表現の基本的な態度と知識・技能を習得することである。履修者本人が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、教材・教具のもつ基礎的・基本的事項を身につけるとともに、指導者としての資質・能力を養うことが目標である。| 試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とし、1600 字程度のリポート課題とする。100 点満点で 60 点以上を合格とする。また、実技の作品や制作態度等を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。最終評価は、試験・実技の総合評価で行う。ただし、講義・実技どちらか一方が不合格である場合は、総合点が合格であっても不合格とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・リポート試験(SR 履修)	0	試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とするリポート課題。100 点満点で 60 点以上を合格とする。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50	

授業科目	図工科教育法（春期)C クラス_オンデマンド＋オンライン			単位	2
担当者	波多野　達二		シラバスグループ	S33102	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	図画工作科指導に必要とされる知識と技能
■授業の概要	表現及び鑑賞の活動を通して、子ども達が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を高めることができる図画工作科指導や評価のあり方、および小学校学習指導要領に示されている目標や内容に沿った授業のあり方についての講義・実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	履修に際しては、「体験から学ぶ」ことを大切にする。本講義・実技は、履修者本人が表現・鑑賞活動の楽しさを充分味わいつつ、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、子どもがどのように形や色をとらえ、イメージをもち考えたり構成したり試行錯誤しているのか理解すると共に、材料や用具を使ったり生かしたりするための基礎的・基本的事項を充分身につけ、指導者としての資質・能力を養うことが目的である。|
■到達目標	本講義・実技の学習内容の要点は、小学校教員として図画工作科を指導する上で必要とされる子どもの発達段階を考慮した造形美術表現の基本的な態度と知識・技能を習得することである。履修者本人が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、教材・教具のもつ基礎的・基本的事項を身につけるとともに、指導者としての資質・能力を養うことが目標である。|　試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とし、1600 字程度のリポート課題とする。100 点満点で 60 点以上を合格とする。また、実技の作品や制作態度等を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。最終評価は、試験・実技の総合評価で行う。ただし、講義・実技どちらか一方が不合格である場合は、総合点が合格であっても不合格とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・リポート試験(SR 履修)	0	試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とするリポート課題。100 点満点で 60 点以上を合格とする。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50	

授業科目	図工科教育法（春期)D クラス_オンデマンド＋オンライン			単位	2
担当者	波多野　達二		シラバスグループ	S33103	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	図画工作科指導に必要とされる知識と技能
■授業の概要	表現及び鑑賞の活動を通して、子ども達が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を高めることができる図画工作科指導や評価のあり方、および小学校学習指導要領に示されている目標や内容に沿った授業のあり方についての講義・実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	履修に際しては、「体験から学ぶ」ことを大切にする。本講義・実技は、履修者本人が表現・鑑賞活動の楽しさを充分味わいつつ、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、子どもがどのように形や色をとらえ、イメージをもち考えたり構成したり試行錯誤しているのか理解すると共に、材料や用具を使ったり生かしたりするための基礎的・基本的事項を充分身につけ、指導者としての資質・能力を養うことが目的である。|
■到達目標	本講義・実技の学習内容の要点は、小学校教員として図画工作科を指導する上で必要とされる子どもの発達段階を考慮した造形美術表現の基本的な態度と知識・技能を習得することである。履修者本人が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、教材・教具のもつ基礎的・基本的事項を身につけるとともに、指導者としての資質・能力を養うことが目標である。| 試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とし、1600 字程度のリポート課題とする。100 点満点で 60 点以上を合格とする。また、実技の作品や制作態度等を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。最終評価は、試験・実技の総合評価で行う。ただし、講義・実技どちらか一方が不合格である場合は、総合点が合格であっても不合格とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・リポート試験(SR 履修)	0	試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とするリポート課題。100 点満点で 60 点以上を合格とする。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50	

授業科目	図工科教育法（夏期)1 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	波多野　達二			シラバスグループ	S33210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	図画工作科指導に必要とされる知識と技能
■授業の概要	表現及び鑑賞の活動を通して、子ども達が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を高めることができる図画工作科指導や評価のあり方、および小学校学習指導要領に示されている目標や内容に沿った授業のあり方についての講義・実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	履修に際しては、「体験から学ぶ」ことを大切にする。本講義・実技は、履修者本人が表現・鑑賞活動の楽しさを充分味わいつつ、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、子どもがどのように形や色をとらえ、イメージをもち考えたり構成したり試行錯誤しているのか理解すると共に、材料や用具を使ったり生かしたりするための基礎的・基本的事項を充分身につけ、指導者としての資質・能力を養うことが目的である。|
■到達目標	本講義・実技の学習内容の要点は、小学校教員として図画工作科を指導する上で必要とされる子どもの発達段階を考慮した造形美術表現の基本的な態度と知識・技能を習得することである。履修者本人が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、教材・教具のもつ基礎的・基本的事項を身につけるとともに、指導者としての資質・能力を養うことが目標である。|　試験については、１日目?３日目午前・前半（試験前まで）の講義、実技すべての内容を出題範囲とする。（プリント・ノート類の持ち込み・参照、一切不可)。100 点満点で 60 点以上を合格とする。また、実技の作品や制作態度等を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。最終評価は、試験・実技の総合評価で行う。ただし、講義・実技どちらか一方が不合格である場合は、総合点が合格であっても不合格とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	試験については、１日目?３日目午前・前半（試験前まで）の講義、実技すべての内容を出題範囲とする。（プリント・ノート類の持ち込み・参照、一切不可)。100 点満点で 60 点以上を合格とする。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	50	

授業科目	図工科教育法（夏期)2 週_A クラス_オンライン				単位	2
担当者	波多野　達二			シラバスグループ	S33220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	図画工作科指導に必要とされる知識と技能
■授業の概要	表現及び鑑賞の活動を通して、子ども達が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を高めることができる図画工作科指導や評価のあり方、および小学校学習指導要領に示されている目標や内容に沿った授業のあり方についての講義・実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	履修に際しては、「体験から学ぶ」ことを大切にする。本講義・実技は、履修者本人が表現・鑑賞活動の楽しさを充分味わいつつ、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、子どもがどのように形や色をとらえ、イメージをもち考えたり構成したり試行錯誤しているのか理解すると共に、材料や用具を使ったり生かしたりするための基礎的・基本的事項を充分身につけ、指導者としての資質・能力を養うことが目的である。|
■到達目標	本講義・実技の学習内容の要点は、小学校教員として図画工作科を指導する上で必要とされる子どもの発達段階を考慮した造形美術表現の基本的な態度と知識・技能を習得することである。履修者本人が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、教材・教具のもつ基礎的・基本的事項を身につけるとともに、指導者としての資質・能力を養うことが目標である。|　試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とし、1600 字程度のリポート課題とする。100 点満点で 60 点以上を合格とする。また、実技の作品や制作態度等を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。最終評価は、試験・実技の総合評価で行う。ただし、講義・実技どちらか一方が不合格である場合は、総合点が合格であっても不合格とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・リポート試験(SR 履修)	0	試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とするリポート課題。100 点満点で 60 点以上を合格とする。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50	

授業科目	図工科教育法（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	波多野　達二			シラバスグループ	S33300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	図画工作科指導に必要とされる知識と技能
■授業の概要	表現及び鑑賞の活動を通して、子ども達が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を高めることができる図画工作科指導や評価のあり方、および小学校学習指導要領に示されている目標や内容に沿った授業のあり方についての講義・実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	履修に際しては、「体験から学ぶ」ことを大切にする。本講義・実技は、履修者本人が表現・鑑賞活動の楽しさを充分味わいつつ、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、子どもがどのように形や色をとらえ、イメージをもち考えたり構成したり試行錯誤しているのか理解すると共に、材料や用具を使ったり生かしたりするための基礎的・基本的事項を充分身につけ、指導者としての資質・能力を養うことが目的である。|
■到達目標	本講義・実技の学習内容の要点は、小学校教員として図画工作科を指導する上で必要とされる子どもの発達段階を考慮した造形美術表現の基本的な態度と知識・技能を習得することである。履修者本人が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、教材・教具のもつ基礎的・基本的事項を身につけるとともに、指導者としての資質・能力を養うことが目標である。| 試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とし、1600 字程度のリポート課題とする。100 点満点で 60 点以上を合格とする。また、実技の作品や制作態度等を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。最終評価は、試験・実技の総合評価で行う。ただし、講義・実技どちらか一方が不合格である場合は、総合点が合格であっても不合格とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・リポート試験(SR 履修)	0	試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とするリポート課題。100 点満点で 60 点以上を合格とする。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50	

授業科目	体育科教育法（夏期)1 週 A クラス_オンデマンド,オンライン			単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	S34210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	小学校体育科における指導理論と実践
■授業の概要	小学校体育授業で学習する基本的・基礎的学習内容（体つくり運動，器械運動，陸上運動，水泳運動，ボール運動，表現運動，保健）を理解することで教師として自己成長するための方法を探求する。学習指導案作成の留意点や体育科評価の視点について学び，指導のポイントを習得する。
■授業の目的・ねらい	小学校体育科の特質と目標，内容と指導方法についての知識や技能を習得する。
■到達目標	体育科の目標・内容を理解し学習指導案を作成することができる。体育授業を行う上での留意事項を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	20	

授業科目	体育科教育法（夏期)2 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	S34220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	小学校体育科における指導理論と実践
■授業の概要	小学校体育授業で学習する基本的・基礎的学習内容（体つくり運動，器械運動，陸上運動，水泳運動，ボール運動，表現運動，保健）を理解することで教師として自己成長するための方法を探求する。学習指導案作成の留意点や体育科評価の視点について学び，指導のポイントを習得する。
■授業の目的・ねらい	小学校体育科の特質と目標，内容と指導方法についての知識や技能を習得する。
■到達目標	体育科の目標・内容を理解し学習指導案を作成することができる。体育授業を行う上での留意事項を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	20	

授業科目	体育科教育法（秋期)A クラス_オンデマンド＋オンライン			単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	S34300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	小学校体育科における指導理論と実践
■授業の概要	小学校体育授業で学習する基本的・基礎的学習内容（体つくり運動，器械運動，陸上運動，水泳運動，ボール運動，表現運動，保健）を理解することで教師として自己成長するための方法を探求する。学習指導案作成の留意点や体育科評価の視点について学び，指導のポイントを習得する。
■授業の目的・ねらい	小学校体育科の特質と目標，内容と指導方法についての知識や技能を習得する。
■到達目標	体育科の目標・内容を理解し学習指導案を作成することができる。体育授業を行う上での留意事項を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	20	

授業科目	体育科教育法（冬期)A クラス_オンデマンド＋オンライン				単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	S34400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	小学校体育科における指導理論と実践
■授業の概要	小学校体育授業で学習する基本的・基礎的学習内容（体つくり運動，器械運動，陸上運動，水泳運動，ボール運動，表現運動，保健）を理解することで教師として自己成長するための方法を探求する。学習指導案作成の留意点や体育科評価の視点について学び，指導のポイントを習得する。
■授業の目的・ねらい	小学校体育科の特質と目標，内容と指導方法についての知識や技能を習得する。
■到達目標	体育科の目標・内容を理解し学習指導案を作成することができる。体育授業を行う上での留意事項を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	20	

授業科目	初等理科教育法（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	S31200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	小学校理科授業づくり
■授業の概要	小学校理科教育の理論と実践について授業を進めます。A 区分：物質・エネルギー（エネルギー，粒子)，B 区分：生命・地球の観察や実験の授業を取り上げ，授業づくりの視点や方法について学んでいきます。安全な観察・実験の方法を学びつつ，学習指導案を作成し模擬授業を実施していきます。
■授業の目的・ねらい	小学校教員として必要な理科における知識や技能を身につけ，観察や実験を伴った授業展開ができる教員を目指します。あわせて理科学習論に基づいた授業設計ができ，学習指導案を作成する力を身につけていきます。
■到達目標	小学校教員として必要な理科における学習内容の知識や技能を身につけ，自ら実践することができる。| 学習指導要領と理科学習論に基づいた授業設計を行い，学習指導案を作成することができる。|1．理科という教科の意義・目標を理解する。|2．理科の学習領域・内容を理解する。|3．理科における学力と評価の在り方について理解する。|4．理科指導技術の基本を身につけている。|5．理科指導に適した情報機器及び教材の活用能力を身につけている。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	60%	

授業科目	初等音楽教育法（春期)A クラス_対面				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S32100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	小学校音楽科授業づくりの力量形成
■授業の概要	本講義は、学習指導要領をめぐって、音楽科授業づくりの基礎理論、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、特別支援教育と音楽科（音楽療法)、学級経営と音楽科、といったテーマを中心に授業を展開する。このテーマに基づき、模擬授業や学習指導案作成を通して音楽科授業づくりの力量を高める。‖
■授業の目的・ねらい	上記の授業概要を習得することにより，小学校学習指導要領に従って小学校音楽科授業を創造できる力量を備える。
■到達目標	１．学習指導要領の目標・内容を理解し授業に反映することができるようになる。|２．音楽科学習指導案の作成と授業分析ができるようになる。|３．歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の全ての授業が構想・実践できるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	音楽理論、音楽教育法、音楽専門の授業内で、各分野全てにおいて試験を行い総合評価とする（グループ等の発表，総合ポートフォリオを基盤としたレポート)。|音楽専門については、先に示したグレードに従って試験をする（いずれかのグレードに合格すること)。|【重要】各分野の受験資格は、３日間の全講義に出席していることを前提とする。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	初等音楽教育法（春期)B クラス_対面				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S32101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	小学校音楽科授業づくりの力量形成
■授業の概要	本講義は、学習指導要領をめぐって、音楽科授業づくりの基礎理論、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、特別支援教育と音楽科（音楽療法)、学級経営と音楽科、といったテーマを中心に授業を展開する。このテーマに基づき、模擬授業や学習指導案作成を通して音楽科授業づくりの力量を高める。‖
■授業の目的・ねらい	上記の授業概要を習得することにより，小学校学習指導要領に従って小学校音楽科授業を創造できる力量を備える。
■到達目標	１．学習指導要領の目標・内容を理解し授業に反映することができるようになる。|２．音楽科学習指導案の作成と授業分析ができるようになる。|３．歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の全ての授業が構想・実践できるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	音楽理論、音楽教育法、音楽専門の授業内で、各分野全てにおいて試験を行い総合評価とする（グループ等の発表，総合ポートフォリオを基盤としたレポート)。|音楽専門については、先に示したグレードに従って試験をする（いずれかのグレードに合格すること)。|【重要】各分野の受験資格は、３日間の全講義に出席していることを前提とする。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	初等音楽教育法（夏期)1 週 A クラス_オンデマンド,オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S32210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	小学校音楽科授業づくりの力量形成
■授業の概要	本講義は、学習指導要領をめぐって、音楽科授業づくりの基礎理論、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、特別支援教育と音楽科（音楽療法)、学級経営と音楽科、といったテーマを中心に授業を展開する。このテーマに基づき、模擬授業や学習指導案作成を通して音楽科授業づくりの力量を高める。
■授業の目的・ねらい	上記の授業概要を習得することにより，小学校学習指導要領に従って小学校音楽科授業を創造できる力量を備える。
■到達目標	１．学習指導要領の目標・内容を理解し授業に反映することができるようになる。|2．音楽科学習指導案の作成と授業分析ができるようになる。|3．歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の全ての授業が構想・実践できるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	授業のテーマをまとめて複数のブロックに分け課題を設定します。その課題を試験として評価します。|【重要】全ての課題を提出することが，単位認定の条件です。|
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	30%	

授業科目	初等音楽教育法（夏期)2 週 A クラス_オンデマンド,オンライン				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S32220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	小学校音楽科授業づくりの力量形成
■授業の概要	本講義は、学習指導要領をめぐって、音楽科授業づくりの基礎理論、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、特別支援教育と音楽科（音楽療法)、学級経営と音楽科、といったテーマを中心に授業を展開する。このテーマに基づき、模擬授業や学習指導案作成を通して音楽科授業づくりの力量を高める。
■授業の目的・ねらい	上記の授業概要を習得することにより，小学校学習指導要領に従って小学校音楽科授業を創造できる力量を備える。
■到達目標	１．学習指導要領の目標・内容を理解し授業に反映することができるようになる。|２．音楽科学習指導案の作成と授業分析ができるようになる。|３．歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の全ての授業が構想・実践できるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	授業のテーマをまとめて複数のブロックに分け課題を設定します。その課題を試験として評価します。|【重要】全ての課題を提出することが，単位認定の条件です。|
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	30%	

授業科目	初等音楽教育法（秋期)A クラス_オンデマンド＋オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志		シラバスグループ	S32300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	小学校音楽科授業づくりの力量形成
■授業の概要	本講義は、学習指導要領をめぐって、音楽科授業づくりの基礎理論、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、特別支援教育と音楽科（音楽療法)、学級経営と音楽科、といったテーマを中心に授業を展開する。このテーマに基づき、模擬授業や学習指導案作成を通して音楽科授業づくりの力量を高める。
■授業の目的・ねらい	上記の授業概要を習得することにより，小学校学習指導要領に従って小学校音楽科授業を創造できる力量を備える。
■到達目標	１．学習指導要領の目標・内容を理解し授業に反映することができるようになる。|２．音楽科学習指導案の作成と授業分析ができるようになる。|３．歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の全ての授業が構想・実践できるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	授業のテーマをまとめて複数のブロックに分け課題を設定します。その課題を試験として評価します。|【重要】全ての課題を提出することが，単位認定の条件です。|
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	30%	

授業科目	初等音楽教育法（冬期)A クラス_オンデマンド＋オンライン				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S32400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	小学校音楽科授業づくりの力量形成
■授業の概要	本講義は、学習指導要領をめぐって、音楽科授業づくりの基礎理論、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、特別支援教育と音楽科（音楽療法)、学級経営と音楽科、といったテーマを中心に授業を展開する。このテーマに基づき、模擬授業や学習指導案作成を通して音楽科授業づくりの力量を高める。
■授業の目的・ねらい	上記の授業概要を習得することにより，小学校学習指導要領に従って小学校音楽科授業を創造できる力量を備える。
■到達目標	１．学習指導要領の目標・内容を理解し授業に反映することができるようになる。|２．音楽科学習指導案の作成と授業分析ができるようになる。|３．歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の全ての授業が構想・実践できるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	授業のテーマをまとめて複数のブロックに分け課題を設定します。その課題を試験として評価します。|【重要】全ての課題を提出することが，単位認定の条件です。|
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	30%	

授業科目	初等図画工作教育法（春期)A クラス_オンデマンド＋オンライン			単位	2
担当者	波多野　達二			シラバスグループ	S33100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	図画工作科指導に必要とされる知識と技能
■授業の概要	表現及び鑑賞の活動を通して、子ども達が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を高めることができる図画工作科指導や評価のあり方、および小学校学習指導要領に示されている目標や内容に沿った授業のあり方についての講義・実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	履修に際しては、「体験から学ぶ」ことを大切にする。本講義・実技は、履修者本人が表現・鑑賞活動の楽しさを充分味わいつつ、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、子どもがどのように形や色をとらえ、イメージをもち考えたり構成したり試行錯誤しているのか理解すると共に、材料や用具を使ったり生かしたりするための基礎的・基本的事項を充分身につけ、指導者としての資質・能力を養うことが目的である。|
■到達目標	本講義・実技の学習内容の要点は、小学校教員として図画工作科を指導する上で必要とされる子どもの発達段階を考慮した造形美術表現の基本的な態度と知識・技能を習得することである。履修者本人が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、教材・教具のもつ基礎的・基本的事項を身につけるとともに、指導者としての資質・能力を養うことが目標である。| 試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とし、1600 字程度のリポート課題とする。100 点満点で 60 点以上を合格とする。また、実技の作品や制作態度等を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。最終評価は、試験・実技の総合評価で行う。ただし、講義・実技どちらか一方が不合格である場合は、総合点が合格であっても不合格とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・リポート試験(SR 履修)	0	試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とするリポート課題。100 点満点で 60 点以上を合格とする。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50	

授業科目	初等図画工作教育法（春期)B クラス_オンデマンド＋オンライン			単位	2
担当者	波多野　達二			シラバスグループ	S33101
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	図画工作科指導に必要とされる知識と技能
■授業の概要	表現及び鑑賞の活動を通して、子ども達が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を高めることができる図画工作科指導や評価のあり方、および小学校学習指導要領に示されている目標や内容に沿った授業のあり方についての講義・実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	履修に際しては、「体験から学ぶ」ことを大切にする。本講義・実技は、履修者本人が表現・鑑賞活動の楽しさを充分味わいつつ、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、子どもがどのように形や色をとらえ、イメージをもち考えたり構成したり試行錯誤しているのか理解すると共に、材料や用具を使ったり生かしたりするための基礎的・基本的事項を充分身につけ、指導者としての資質・能力を養うことが目的である。|
■到達目標	本講義・実技の学習内容の要点は、小学校教員として図画工作科を指導する上で必要とされる子どもの発達段階を考慮した造形美術表現の基本的な態度と知識・技能を習得することである。履修者本人が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、教材・教具のもつ基礎的・基本的事項を身につけるとともに、指導者としての資質・能力を養うことが目標である。| 試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とし、1600 字程度のリポート課題とする。100 点満点で 60 点以上を合格とする。また、実技の作品や制作態度等を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。最終評価は、試験・実技の総合評価で行う。ただし、講義・実技どちらか一方が不合格である場合は、総合点が合格であっても不合格とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・リポート試験(SR 履修)	0	試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とするリポート課題。100 点満点で 60 点以上を合格とする。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50	

授業科目	初等図画工作教育法（春期)C クラス_オンデマンド＋オンライン			単位	2
担当者	波多野　達二			シラバスグループ	S33102
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	図画工作科指導に必要とされる知識と技能
■授業の概要	表現及び鑑賞の活動を通して、子ども達が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を高めることができる図画工作科指導や評価のあり方、および小学校学習指導要領に示されている目標や内容に沿った授業のあり方についての講義・実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	履修に際しては、「体験から学ぶ」ことを大切にする。本講義・実技は、履修者本人が表現・鑑賞活動の楽しさを充分味わいつつ、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、子どもがどのように形や色をとらえ、イメージをもち考えたり構成したり試行錯誤しているのか理解すると共に、材料や用具を使ったり生かしたりするための基礎的・基本的事項を充分身につけ、指導者としての資質・能力を養うことが目的である。|
■到達目標	本講義・実技の学習内容の要点は、小学校教員として図画工作科を指導する上で必要とされる子どもの発達段階を考慮した造形美術表現の基本的な態度と知識・技能を習得することである。履修者本人が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、教材・教具のもつ基礎的・基本的事項を身につけるとともに、指導者としての資質・能力を養うことが目標である。| 試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とし、1600 字程度のリポート課題とする。100 点満点で 60 点以上を合格とする。また、実技の作品や制作態度等を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。最終評価は、試験・実技の総合評価で行う。ただし、講義・実技どちらか一方が不合格である場合は、総合点が合格であっても不合格とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・リポート試験(SR 履修)	0	試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とするリポート課題。100 点満点で 60 点以上を合格とする。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50	

授業科目	初等図画工作教育法（春期)D クラス_オンデマンド＋オンライン			単位	2
担当者	波多野　達二			シラバスグループ	S33103
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	図画工作科指導に必要とされる知識と技能
■授業の概要	表現及び鑑賞の活動を通して、子ども達が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を高めることができる図画工作科指導や評価のあり方、および小学校学習指導要領に示されている目標や内容に沿った授業のあり方についての講義・実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	履修に際しては、「体験から学ぶ」ことを大切にする。本講義・実技は、履修者本人が表現・鑑賞活動の楽しさを充分味わいつつ、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、子どもがどのように形や色をとらえ、イメージをもち考えたり構成したり試行錯誤しているのか理解すると共に、材料や用具を使ったり生かしたりするための基礎的・基本的事項を充分身につけ、指導者としての資質・能力を養うことが目的である。|
■到達目標	本講義・実技の学習内容の要点は、小学校教員として図画工作科を指導する上で必要とされる子どもの発達段階を考慮した造形美術表現の基本的な態度と知識・技能を習得することである。履修者本人が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、教材・教具のもつ基礎的・基本的事項を身につけるとともに、指導者としての資質・能力を養うことが目標である。| 試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とし、1600 字程度のリポート課題とする。100 点満点で 60 点以上を合格とする。また、実技の作品や制作態度等を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。最終評価は、試験・実技の総合評価で行う。ただし、講義・実技どちらか一方が不合格である場合は、総合点が合格であっても不合格とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・リポート試験(SR 履修)	0	試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とするリポート課題。100 点満点で 60 点以上を合格とする。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50	

授業科目	初等図画工作教育法（夏期)1 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	波多野　達二			シラバスグループ	S33210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	図画工作科指導に必要とされる知識と技能
■授業の概要	表現及び鑑賞の活動を通して、子ども達が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を高めることができる図画工作科指導や評価のあり方、および小学校学習指導要領に示されている目標や内容に沿った授業のあり方についての講義・実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	履修に際しては、「体験から学ぶ」ことを大切にする。本講義・実技は、履修者本人が表現・鑑賞活動の楽しさを充分味わいつつ、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、子どもがどのように形や色をとらえ、イメージをもち考えたり構成したり試行錯誤しているのか理解すると共に、材料や用具を使ったり生かしたりするための基礎的・基本的事項を充分身につけ、指導者としての資質・能力を養うことが目的である。|
■到達目標	本講義・実技の学習内容の要点は、小学校教員として図画工作科を指導する上で必要とされる子どもの発達段階を考慮した造形美術表現の基本的な態度と知識・技能を習得することである。履修者本人が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、教材・教具のもつ基礎的・基本的事項を身につけるとともに、指導者としての資質・能力を養うことが目標である。| 試験については、１日目?３日目午前・前半（試験前まで）の講義、実技すべての内容を出題範囲とする。(プリント・ノート類の持ち込み・参照、一切不可)。100 点満点で 60 点以上を合格とする。また、実技の作品や制作態度等を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。最終評価は、試験・実技の総合評価で行う。ただし、講義・実技どちらか一方が不合格である場合は、総合点が合格であっても不合格とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	試験については、１日目?３日目午前・前半（試験前まで）の講義、実技すべての内容を出題範囲とする。(プリント・ノート類の持ち込み・参照、一切不可)。100 点満点で 60 点以上を合格とする。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	50	

授業科目	初等図画工作教育法（夏期)2 週_A クラス_オンライン				単位	2
担当者	波多野　達二			シラバスグループ	S33220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	図画工作科指導に必要とされる知識と技能
■授業の概要	表現及び鑑賞の活動を通して、子ども達が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を高めることができる図画工作科指導や評価のあり方、および小学校学習指導要領に示されている目標や内容に沿った授業のあり方についての講義・実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	履修に際しては、「体験から学ぶ」ことを大切にする。本講義・実技は、履修者本人が表現・鑑賞活動の楽しさを充分味わいつつ、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、子どもがどのように形や色をとらえ、イメージをもち考えたり構成したり試行錯誤しているのか理解すると共に、材料や用具を使ったり生かしたりするための基礎的・基本的事項を充分身につけ、指導者としての資質・能力を養うことが目的である。|
■到達目標	本講義・実技の学習内容の要点は、小学校教員として図画工作科を指導する上で必要とされる子どもの発達段階を考慮した造形美術表現の基本的な態度と知識・技能を習得することである。履修者本人が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、教材・教具のもつ基礎的・基本的事項を身につけるとともに、指導者としての資質・能力を養うことが目標である。| 試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とし、1600 字程度のリポート課題とする。100 点満点で 60 点以上を合格とする。また、実技の作品や制作態度等を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。最終評価は、試験・実技の総合評価で行う。ただし、講義・実技どちらか一方が不合格である場合は、総合点が合格であっても不合格とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・リポート試験(SR 履修)	0	試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とするリポート課題。100 点満点で 60 点以上を合格とする。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50	

授業科目	初等図画工作教育法（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	波多野　達二			シラバスグループ	S33300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	図画工作科指導に必要とされる知識と技能
■授業の概要	表現及び鑑賞の活動を通して、子ども達が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を高めることができる図画工作科指導や評価のあり方、および小学校学習指導要領に示されている目標や内容に沿った授業のあり方についての講義・実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	履修に際しては、「体験から学ぶ」ことを大切にする。本講義・実技は、履修者本人が表現・鑑賞活動の楽しさを充分味わいつつ、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、子どもがどのように形や色をとらえ、イメージをもち考えたり構成したり試行錯誤しているのか理解すると共に、材料や用具を使ったり生かしたりするための基礎的・基本的事項を充分身につけ、指導者としての資質・能力を養うことが目的である。|
■到達目標	本講義・実技の学習内容の要点は、小学校教員として図画工作科を指導する上で必要とされる子どもの発達段階を考慮した造形美術表現の基本的な態度と知識・技能を習得することである。履修者本人が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、教材・教具のもつ基礎的・基本的事項を身につけるとともに、指導者としての資質・能力を養うことが目標である。|　試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とし、1600 字程度のリポート課題とする。100 点満点で 60 点以上を合格とする。また、実技の作品や制作態度等を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。最終評価は、試験・実技の総合評価で行う。ただし、講義・実技どちらか一方が不合格である場合は、総合点が合格であっても不合格とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・リポート試験(SR 履修)	0	試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とするリポート課題。100 点満点で 60 点以上を合格とする。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50	

授業科目	初等体育教育法（夏期)1 週 A クラス_オンデマンド,オンライン			単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	S34210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	小学校体育科における指導理論と実践
■授業の概要	小学校体育授業で学習する基本的・基礎的学習内容（体つくり運動，器械運動，陸上運動，水泳運動，ボール運動，表現運動，保健）を理解することで教師として自己成長するための方法を探求する。学習指導案作成の留意点や体育科評価の視点について学び，指導のポイントを習得する。
■授業の目的・ねらい	小学校体育科の特質と目標，内容と指導方法についての知識や技能を習得する。
■到達目標	体育科の目標・内容を理解し学習指導案を作成することができる。体育授業を行う上での留意事項を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	20	

授業科目	初等体育教育法（夏期)2 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	S34220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	小学校体育科における指導理論と実践
■授業の概要	小学校体育授業で学習する基本的・基礎的学習内容（体つくり運動，器械運動，陸上運動，水泳運動，ボール運動，表現運動，保健）を理解することで教師として自己成長するための方法を探求する。学習指導案作成の留意点や体育科評価の視点について学び，指導のポイントを習得する。
■授業の目的・ねらい	小学校体育科の特質と目標，内容と指導方法についての知識や技能を習得する。
■到達目標	体育科の目標・内容を理解し学習指導案を作成することができる。体育授業を行う上での留意事項を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	20	

授業科目	初等体育教育法（秋期)A クラス_オンデマンド＋オンライン			単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	S34300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	小学校体育科における指導理論と実践
■授業の概要	小学校体育授業で学習する基本的・基礎的学習内容（体つくり運動，器械運動，陸上運動，水泳運動，ボール運動，表現運動，保健）を理解することで教師として自己成長するための方法を探求する。学習指導案作成の留意点や体育科評価の視点について学び，指導のポイントを習得する。
■授業の目的・ねらい	小学校体育科の特質と目標，内容と指導方法についての知識や技能を習得する。
■到達目標	体育科の目標・内容を理解し学習指導案を作成することができる。体育授業を行う上での留意事項を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	20	

授業科目	初等体育教育法（冬期)A クラス_オンデマンド＋オンライン				単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	S34400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	小学校体育科における指導理論と実践
■授業の概要	小学校体育授業で学習する基本的・基礎的学習内容（体つくり運動，器械運動，陸上運動，水泳運動，ボール運動，表現運動，保健）を理解することで教師として自己成長するための方法を探求する。学習指導案作成の留意点や体育科評価の視点について学び，指導のポイントを習得する。
■授業の目的・ねらい	小学校体育科の特質と目標，内容と指導方法についての知識や技能を習得する。
■到達目標	体育科の目標・内容を理解し学習指導案を作成することができる。体育授業を行う上での留意事項を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	20	

授業科目	保育内容研究言葉２(児童文化)(春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	S19100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	児童文化とは何かを理解し、児童文化財を用いた保育（言葉の領域）に関する知識と技術を習得する。
■授業の概要	児童文化とは何かを理解し、幼児の言葉をはぐくむ児童文化財に関する知識と技術の習得のためにさまざまな文化財を提示する。文化財を実際に体験することを通して、児童文化財に内在する教育的価値に気づき、保育への活用方法について検討する。
■授業の目的・ねらい	幼児の心と言葉をはぐくむ児童文化財の実際を経験することで、児童文化材に内在する教育的価値に気づき、保育への活用方法について理解する。
■到達目標	保育者として児童文化財の活用方法を学ぶ。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	授業の最終コマで、リポート課題を提示します。
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0%	授業中でのグループワークの活動、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等)、および課題リポートを総合的に評価します。
･授業内課題	20%	
･その他	0%	授業中でのグループワークの活動、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等)、および課題リポートを総合的に評価します。

授業科目	代数学演習（夏期)1 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	月岡　卓也			シラバスグループ	S23210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	整数論入門
■授業の概要	「整数論」の基礎を学習します．整数に関する基礎知識の習得は算数/数学教育においても重要ですが，代数学の発展的な概念を学ぶ上でも欠かせません．数とその四則演算の振り返りからはじめて，整数に関するいくつかの話題を議論していきます.「割り算とその余り」という既知の概念を再訪/熟考し，「整数の合同」という概念へと発展させます．多くの具体例を援用しながら，代数学の奥深さを味わうことを目的とします．
■授業の目的・ねらい	「具体化」と「抽象化」を行き来する過程で，数学的思考力を高めることを目標とします．「数とは何か」,「演算とは何か」からはじめて，これまで学んできた算数/数学を改めて見つめ直す機会を提供したいと思います．数学教員として，今後，より高級な数学を学ぶ/研究していくためのはじめの一歩となればと考えています．‖成績は，講義資料に沿った内容から出題する筆記試験（60 分，講義資料参照可）にて評価します．
■到達目標	・ 数の体系について理解できる．｜・ 割り算とその余りを使った整数の分類や構築について理解できる．｜・ 合同式を理解し，それを様々な問題に具体的に運用できる．

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80	
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	20	
·その他	0	

授業科目	代数学演習（夏期)2 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	月岡　卓也			シラバスグループ	S23220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	整数論入門
■授業の概要	「整数論」の基礎を学習します．整数に関する基礎知識の習得は算数/数学教育においても重要ですが，代数学の発展的な概念を学ぶ上でも欠かせません．数とその四則演算の振り返りからはじめて，整数に関するいくつかの話題を議論していきます.「割り算とその余り」という既知の概念を再訪/熟考し，「整数の合同」という概念へと発展させます．多くの具体例を援用しながら，代数学の奥深さを味わうことを目的とします．
■授業の目的・ねらい	「具体化」と「抽象化」を行き来する過程で，数学的思考力を高めることを目標とします．「数とは何か」,「演算とは何か」からはじめて，これまで学んできた算数/数学を改めて見つめ直す機会を提供したいと思います．数学教員として，今後，より高級な数学を学ぶ/研究していくためのはじめの一歩となればと考えています．‖成績は，講義資料に沿った内容から出題する筆記試験（60 分，講義資料参照可）にて評価します．
■到達目標	・ 数の体系について理解できる．|・ 割り算とその余りを使った整数の分類や構築について理解できる．|・ 合同式を理解し，それを様々な問題に具体的に運用できる．

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80	
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	20	
·その他	0	

授業科目	幾何学演習（夏期)1 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	内田　吉昭			シラバスグループ	S24210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	一筆書きの図形のように点と線からできている図形をグラフといいます。一筆書きの問題・あみだ籤の問題、地図の色塗りなどを通してグラフの性質を学んでいきます。数学の知識はあまり必要ありませんが、理論的な考え方は必要なので講義の中で考え方の練習を行います。興味のある方は京都の路線バスの路線図で同じ路線を通らずにどれだけ長く移動できるかを考えてください。少中高校の数学教員をする場合の，授業の参考になるようにオムニバス形式で行います．各々の話題については，必要に応じて深く各自で勉強してください．｜【注意】メディア学習とは別内容になっています．
■授業の概要	配布文書で授業を行います．一筆書きなどの図形を用いる授業なので黒板にプロジェクターで投影しながら行います．
■授業の目的・ねらい	小中高校の数学教員また数学の教養として知っておいてほしい数学の内容を講義します．小中高校の教科書の拡張の内容になります．数学は計算だけでなく図形を書いたり 2 色で色を塗る事も重要なことを認識することを目的とします．
■到達目標	教育に携わる者または数学に興味がある人にとって必要な知識を会得する．

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100%	
·リポート試験(SR 履修)	0	授業中の課題・授業態度等を加味することがあります．｜コロナ等の感染状況により変更がある可能性があります．
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	0	
·その他	0	

授業科目	幾何学演習（夏期)2 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	内田　吉昭			シラバスグループ	S24220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	一筆書きの図形のように点と線からできている図形をグラフといいます。一筆書きの問題・あみだ籤の問題、地図の色塗りなどを通してグラフの性質を学んでいきます。数学の知識はあまり必要ありませんが、理論的な考え方は必要なので講義の中で考え方の練習を行います。興味のある方は京都の路線バスの路線図で同じ路線を通らずにどれだけ長く移動できるかを考えてください。少中高校の数学教員をする場合の，授業の参考になるようにオムニバス形式で行います．各々の話題については，必要に応じて深く各自で勉強してください．｜【注意】メディア学習とは別内容になっています．
■授業の概要	配布文書で授業を行います．一筆書きなどの図形を用いる授業なので黒板にプロジェクターで投影しながら行います．
■授業の目的・ねらい	小中高校の数学教員また数学の教養として知っておいてほしい数学の内容を講義します．小中高校の教科書の拡張の内容になります．数学は計算だけでなく図形を書いたり 2 色で色を塗る事も重要なことを認識することを目的とします．
■到達目標	教育に携わる者または数学に興味がある人にとって必要な知識を会得する．

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100%	
·リポート試験(SR 履修)	0	授業中の課題・授業態度等を加味することがあります．｜コロナ等の感染状況により変更がある可能性があります．
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	0	
·その他	0	

授業科目	解析学演習（夏期)1 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	伊藤　翼			シラバスグループ	S25210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	２変数関数の微分積分
■授業の概要	「２変数関数の微分積分」について学習を行います．|具体的には，「２変数関数の極限」，「偏微分の定義・計算」，「２変数関数の極値」，「２重積分の定義とその計算」について学んでいきます．|
■授業の目的・ねらい	微分積分は数学の基礎として数学の多くの分野で応用されるだけでなく，自然科学や工学，情報科学および人文社会科学においても応用される極めて重要なものです．この科目では２変数実数値関数に対する微分積分の概念を理解し，計算に習熟することを目指します．２変数関数の微分積分は１変数の場合とは大きく異なっており，その違いについて理解することを目的とします．|
■到達目標	・２変数関数に関する基本的な計算ができる．|・２変数関数の微分について理解し，その応用ができる．|・２変数関数の積分について理解し，その応用ができる．|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80	
·リポート試験(SR 履修)	0	最終日に試験を行う
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	20	
·その他	0	毎日の講義終了時にリポート課題がある。翌日に提出すること。

授業科目	解析学演習（夏期)2 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	伊藤　翼			シラバスグループ	S25220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	２変数関数の微分積分
■授業の概要	「２変数関数の微分積分」について学習を行います．|具体的には，「２変数関数の極限」，「偏微分の定義・計算」，「２変数関数の極値」，「２重積分の定義とその計算」について学んでいきます．|
■授業の目的・ねらい	微分積分は数学の基礎として数学の多くの分野で応用されるだけでなく，自然科学や工学，情報科学および人文社会科学においても応用される極めて重要なものです．この科目では２変数実数値関数に対する微分積分の概念を理解し，計算に習熟することを目指します．２変数関数の微分積分は１変数の場合とは大きく異なっており，その違いについて理解することを目的とします．|
■到達目標	・２変数関数に関する基本的な計算ができる．|・２変数関数の微分について理解し，その応用ができる．|・２変数関数の積分について理解し，その応用ができる．|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80	
·リポート試験(SR 履修)	0	最終日に試験を行う
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	20	
·その他	0	毎日の講義終了時にリポート課題がある。翌日に提出すること。

授業科目	確率論演習（夏期)1 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	山田　隆行			シラバスグループ	S26210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	確率・統計入門：確率論の数学的な基礎から統計学の基本概念までを取り扱う.
■授業の概要	記述統計において，代表値や散らばりの指標などの計算のしくみについて学ぶ．推測統計におい|て，確率，確率変数，確率分布の定義と，その性質を理解し，統計的推測(推定・検定)の考え方|や計算方法について学習する.
■授業の目的・ねらい	統計的な物の見方や考え方を養うと同時に，基本的な統計モデル及び各種統計手法の基礎知識の|習得を目的とする．　確率と統計の基本的な概念を正しく理解して，数値計算を行い，その数値|の読み取りができるようになることが重要である.
■到達目標	確率論の数学的な基礎が理解できること。|統計学の基本概念が理解できること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80	
·リポート試験(SR 履修)	0	到達目標の項目等についての到達度をみる。
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	20	
·その他	0	授業中に演習問題を解いてもらう。

授業科目	確率論演習（夏期)2 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	山田　隆行			シラバスグループ	S26220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	確率・統計入門：確率論の数学的な基礎から統計学の基本概念までを取り扱う.
■授業の概要	記述統計において，代表値や散らばりの指標などの計算のしくみについて学ぶ．推測統計におい|て，確率，確率変数，確率分布の定義と，その性質を理解し，統計的推測(推定・検定)の考え方|や計算方法について学習する.
■授業の目的・ねらい	統計的な物の見方や考え方を養うと同時に，基本的な統計モデル及び各種統計手法の基礎知識の|習得を目的とする．　確率と統計の基本的な概念を正しく理解して，数値計算を行い，その数値|の読み取りができるようになることが重要である.
■到達目標	確率論の数学的な基礎が理解できること。|統計学の基本概念が理解できること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80	
·リポート試験(SR 履修)	0	到達目標の項目等についての到達度をみる。
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	20	
·その他	0	授業中に演習問題を解いてもらう。

授業科目	プログラミング１（夏期)1 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	地藏　真作			シラバスグループ	S27210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	プログラミングの基本的な構造と操作方法を知る。
■授業の概要	・プログラミング言語の考え方を知る。|･プログラミング言語 ruby の使い方を知る。| ー基本的なプログラムの記述方法を知る。| ークラス、メソッドといったオブジェクト指向の考え方と記述方法を知る。
■授業の目的・ねらい	プログラミング言語 ruby の基礎について学び、プログラミング 2 で行う、現実の課題を解決するプログラミングができるよう知識を得ることを目的とする。
■到達目標	まだあくまでも「使い方を知っている」というレベルではあるが、この科目を履修することで、プログラミング言語 ruby を使って自分の考え(問題に関する答え)を表す一歩目を踏み出すことができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	10	
･授業内課題	90	
･その他	0	･授業内で説明した内容を実際に自分で作ってみることを主眼とする。|･授業内容の理解度を測る記述試験と、プログラミングそのものの演習の 2 つで構成される。

授業科目	プログラミング１（夏期)2 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	地藏　真作			シラバスグループ	S27220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	プログラミングの基本的な構造と操作方法を知る。
■授業の概要	・プログラミング言語の考え方を知る。|・プログラミング言語 ruby の使い方を知る。| ー基本的なプログラムの記述方法を知る。| ークラス、メソッドといったオブジェクト指向の考え方と記述方法を知る。
■授業の目的・ねらい	プログラミング言語 ruby の基礎について学び、プログラミング 2 で行う、現実の課題を解決するプログラミングができるよう知識を得ることを目的とする。
■到達目標	まだあくまでも「使い方を知っている」というレベルではあるが、この科目を履修することで、プログラミング言語 ruby を使って自分の考え(問題に関する答え)を表す一歩目を踏み出すことができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	0	
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	0	
·授業内試験	10	
·授業内課題	90	
·その他	0	·授業内で説明した内容を実際に自分で作ってみることを主眼とする。|·授業内容の理解度を測る記述試験と、プログラミングそのものの演習の 2 つで構成される。

授業科目	プログラミング１（冬期)A クラス_対面				単位	2
担当者	地藏　真作			シラバスグループ	S27400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	プログラミングの基本的な構造と操作方法を知る。
■授業の概要	・プログラミング言語の考え方を知る。|・プログラミング言語 ruby の使い方を知る。| ー基本的なプログラムの記述方法を知る。| ークラス、メソッドといったオブジェクト指向の考え方と記述方法を知る。
■授業の目的・ねらい	プログラミング言語 ruby の基礎について学び、プログラミング 2 で行う、現実の課題を解決するプログラミングができるよう知識を得ることを目的とする。
■到達目標	まだあくまでも「使い方を知っている」というレベルではあるが、この科目を履修することで、プログラミング言語 ruby を使って自分の考え(問題に関する答え)を表す一歩目を踏み出すことができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	10	
･授業内課題	90	
･その他	0	･授業内で説明した内容を実際に自分で作ってみることを主眼とする。|･授業内容の理解度を測る記述試験と、プログラミングそのものの演習の 2 つで構成される。

授業科目	プログラミング２（夏期)1 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	地藏　真作			シラバスグループ	S28210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	現実の世界にある課題をプログラミングを通じて解決する
■授業の概要	・迷惑メールを振り分ける SPAM フィルターの基礎になる考え方を知り、プログラミング言語 ruby を使って実装する。|･他者の書いたプログラムを再利用することで、自身でプログラムを書くのが難しい問題でも解決できるようにする。
■授業の目的・ねらい	プログラミング 1 で学んだプログラミング言語 ruby を使って、現実の世界にある課題を解決できる力を身につける。
■到達目標	本履修では、プログラミング言語 ruby を「知っている」ところから、「現実の課題を解決するために使える」ようになることを目指す。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	10	
･授業内課題	90	
･その他	0	･授業内で説明した内容を実際に自分で作ってみることを主眼とする。|･授業内容の理解度を測る記述試験と、プログラミングそのものの演習の 2 つで構成される。

授業科目	プログラミング２（夏期)2 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	地藏　真作			シラバスグループ	S28220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	現実の世界にある課題をプログラミングを通じて解決する
■授業の概要	・迷惑メールを振り分ける SPAM フィルターの基礎になる考え方を知り、プログラミング言語 ruby を使って実装する。|･他者の書いたプログラムを再利用することで、自身でプログラムを書くのが難しい問題でも解決できるようにする。
■授業の目的・ねらい	プログラミング 1 で学んだプログラミング言語 ruby を使って、現実の世界にある課題を解決できる力を身につける。
■到達目標	本履修では、プログラミング言語 ruby を「知っている」ところから、「現実の課題を解決するために使える」ようになることを目指す。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	10	
･授業内課題	90	
･その他	0	･授業内で説明した内容を実際に自分で作ってみることを主眼とする。|･授業内容の理解度を測る記述試験と、プログラミングそのものの演習の 2 つで構成される。

授業科目	プログラミング２（冬期)A クラス_対面				単位	2
担当者	地藏　真作			シラバスグループ	S28400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	現実の世界にある課題をプログラミングを通じて解決する
■授業の概要	・迷惑メールを振り分ける SPAM フィルターの基礎になる考え方を知り、プログラミング言語 ruby を使って実装する。|･他者の書いたプログラムを再利用することで、自身でプログラムを書くのが難しい問題でも解決できるようにする。
■授業の目的・ねらい	プログラミング 1 で学んだプログラミング言語 ruby を使って、現実の世界にある課題を解決できる力を身につける。
■到達目標	本履修では、プログラミング言語 ruby を「知っている」ところから、「現実の課題を解決するために使える」ようになることを目指す。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	10	
･授業内課題	90	
･その他	0	･授業内で説明した内容を実際に自分で作ってみることを主眼とする。|･授業内容の理解度を測る記述試験と、プログラミングそのものの演習の 2 つで構成される。

授業科目	データ解析演習（夏期)1 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	吉田　秀和			シラバスグループ	S29210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	コンピュータを用いた数値データの統計学的解析
■授業の概要	本科目では、数値情報を整理、分析するための統計学的理論をベースとして、コンピュータを用いた演習を行う。同演習を通じて数値データの統計学的処理と、統計学的知見を見出す手法を学習する。なお、数値処理は Excel を用いる。
■授業の目的・ねらい	本講義の目的は、第一に統計学の基礎的理論を身につけることでありその理論を基にデータ処理ができるようになることである。I 履修では Excel の使い方、統計学における基本的考え方、および正規分布等について学習を済ませている。それらを踏まえて、統計学的理論（t 分布、仮説検定、カイ２乗検定等）に関する知識を習得する事が目的である。
■到達目標	統計学の基本理論を理解して、Excel を用いてデータ処理をできるようになることが第一の目的である。S 履修では推測統計の分野がメインとなるが、これらの知識を習得して、それに応じたデータ処理ができるようになってもらいたい。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	40	
･授業内課題	30	S 履修９回目授業の「最終課題」の時限に試験形式で行う。
･その他	30	S 履修の授業「演習」時に提出の演習結果により評価する。

授業科目	データ解析演習（夏期)2 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	吉田　秀和			シラバスグループ	S29220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	コンピュータを用いた数値データの統計学的解析
■授業の概要	本科目では、数値情報を整理、分析するための統計学的理論をベースとして、コンピュータを用いた演習を行う。同演習を通じて数値データの統計学的処理と、統計学的知見を見出す手法を学習する。なお、数値処理は Excel を用いる。
■授業の目的・ねらい	本講義の目的は、第一に統計学の基礎的理論を身につけることでありその理論を基にデータ処理ができるようになることである。I 履修では Excel の使い方、統計学における基本的考え方、および正規分布等について学習を済ませている。それらを踏まえて、統計学的理論（t 分布、仮説検定、カイ２乗検定等）に関する知識を習得する事が目的である。
■到達目標	統計学の基本理論を理解して、Excel を用いてデータ処理をできるようになることが第一の目的である。S 履修では推測統計の分野がメインとなるが、これらの知識を習得して、それに応じたデータ処理ができるようになってもらいたい。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	40	
･授業内課題	30	S 履修９回目授業の「最終課題」の時限に試験形式で行う。
･その他	30	S 履修の授業「演習」時に提出の演習結果により評価する。

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S71100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の４つのテーマからアプローチする。‖①　教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②　教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③　子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④　教科（保育内容）に関する正確な指導力を身につけているか。
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(春期)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71101
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	保育内容の理論と方法「児童文化」（春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	S19100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S

■授業のテーマ	児童文化とは何かを理解し、児童文化財を用いた保育（言葉の領域）に関する知識と技術を習得する。
■授業の概要	児童文化とは何かを理解し、幼児の言葉をはぐくむ児童文化財に関する知識と技術の習得のためにさまざまな文化財を提示する。文化財を実際に体験することを通して、児童文化財に内在する教育的価値に気づき、保育への活用方法について検討する。
■授業の目的・ねらい	幼児の心と言葉をはぐくむ児童文化財の実際を経験することで、児童文化材に内在する教育的価値に気づき、保育への活用方法について理解する。
■到達目標	保育者として児童文化財の活用方法を学ぶ。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	70%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	授業の最終コマで、リポート課題を提示します。
·授業内発表	10%	
·授業内試験	0%	授業中でのグループワークの活動、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等)、および課題リポートを総合的に評価します。
·授業内課題	20%	
·その他	0%	授業中でのグループワークの活動、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等)、および課題リポートを総合的に評価します。

授業科目	教育実習研究（小）（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S41100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（小）（春期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S41101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（小）（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S41210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（小）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直		シラバスグループ	S41220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。‖
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（小）（秋期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S41310	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|

■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（小）（秋期)2 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S41320	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（小）（冬期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之		シラバスグループ	S41410	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（小）（冬期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝		シラバスグループ	S41420	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（小）（集中１)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S41510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（幼）（春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	小林　みどり		シラバスグループ	S40100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園(こども園)の活動と子どもの生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（幼）（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	小林　みどり		シラバスグループ	S40210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（幼）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（幼）（秋期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40310
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（幼）（秋期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40320
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（幼）（冬期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40410
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（幼）（冬期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40420
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（幼）（集中１)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（中・高）（春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝		シラバスグループ	S42100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（中・高）（夏期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S42210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する|
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（中・高）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S42220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（中・高）（秋期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S42310	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（中・高）（秋期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之		シラバスグループ	S42320	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（中・高）（冬期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42410
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（中・高）（冬期)2 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S42420	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（中・高）（集中１)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42510
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会教育課題研究（夏期)A クラス_オンライン				単位	4
担当者	浅田　瞳			シラバスグループ	S56200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	我が国における生涯学習・社会教育のあり方と課題について考える
■授業の概要	Ⅰ.21 世紀のキーワード探しと社会教育としての展開 ｜ 21 世紀に突入し、少子高齢化が進む中で、生涯学習気運の高まりはとどまることがありません。リカレント教育やリスキリングなど、生涯学習社会を見据えた社会教育のあり方が問われているともいえるでしょう。 ｜ この京都の 21 世紀のキーとなるような社会教育プログラムづくりを通して、「いつでも、どこでも、誰でも」学ぶことが可能な学習環境やその条件について考える機会としたいと思います。また、みんなで課題を提供し合い、力を合わせて考える楽しさを実感しましょう。 ｜ グループを編成して、グループ毎に京都をテーマにした「社会教育講座」を構成してもらいます。その発表と討議で盛りあがりましょう。京都に関する事前学習をしておくとさらに議論に深まりが出てくるのではないでしょうか。 ｜Ⅱ.地域社会の諸活動とコミュニケーションのかたち ｜ 地域社会に参加し相互共同的に、学ぶという、社会教育本来の個と共同体の関係に注目しつつ、今日的な課題について考えてみましょう。現代社会における地域での情報発信のさまざまな方法とその効果を、具体的事例から検討していきます。
■授業の目的・ねらい	１．社会教育の現代的な課題がどこにあるのか、理解すること。 ｜2．生涯学習型社会の礼賛が必ずしもその展開にとって良いものではないという意味が理解できること。 ｜3．グループごとに討論し、そのなかから社会教育に対する理解が深められていること。 ｜4．グループを編成し、その相互交流を通して社会教育に対する理解が深められていくのと同時に多様な学習スタイルに関する理解が深められること。
■到達目標	１．社会教育の現代的な課題がどこにあるのか説明できる。 ｜2．生涯学習型社会のどの点に問題があるのか説明できる。 ｜3．グループ内で社会教育の課題について意見をまとめることができる。 ｜4．多様な学習スタイルについて理解し、それらのメリット・デメリットを説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	

授業科目	情報サービス演習 a(夏期)A クラス_映像課題,オンライン,対面				単位	2
担当者	杉本　ゆか			シラバスグループ	S60200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	資料に基づく情報提供サービスの実際
■授業の概要	情報化社会における情報提供サービスの基本的考え方を概説し、資料に基づく情報提供の実際を講義と演習を交えて行う。前半は利用者の情報探索行動と情報提供の特性について説明する。中盤から後半はインターネット資源と各種レファレンスツールの検索法及び使い方を演習を中心に行う。
■授業の目的・ねらい	図書館における情報サービスの理論に基づいて、レファレンスサービスに必要な情報検索の知識と技術を習得すること。
■到達目標	・　図書館が所蔵する基本的レファレンスツールを理解する|・　インターネット資源における特性を理解する

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	10	
･その他	0	

授業科目	情報サービス演習 a(冬期)A クラス_映像課題,オンライン,対面			単位	2
担当者	増田　和子			シラバスグループ	S60400
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	図書館の情報サービスにおける資料・情報検索の基礎知識の習得と具体的な方法の理解（主に、図書・雑誌類に関する情報検索とレファレンスサービスを扱う）
■授業の概要	1．　情報サービス・レファレンスサービスについて|2．コンピュータの情報検索と言葉　|3．　分野別情報の探し方| (1)図書情報| (2)雑誌および雑誌記事（一般）|(3)雑誌記事（学術）|(4)新聞記事 |(5)歴史・日時の調べ方|(6)地理・地名の調べ方|4．レファレンスサービス演習（レファレンス記録）
■授業の目的・ねらい	・　情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービス、積極的な発信型情報サー ビスの演習を通して、実践的な能力の育成を図る。|・　図書館司書（一般的にサーチャー）として、利用者から依頼された情報検索を、依頼者とコミュニケーションをとりながら、実施できるようになる。|・　情報検索を行うために、情報ニーズの主題分析を行い、適切なデータベースや情報源を選択し、精度および再現率の高い検索を実行できるようになる。|・　著 作権をはじめとする知的財産権について理解し、情報化社会に対応できるグローバルな情報リテラシーを習得する。|
■到達目標	1）　情報検索要求に対して、適切な情報源の選択、効率的な検索、適切な情報の取得ができる。　|2）　情報検索における理論演算子を理解し、必要に応じて使うことができる。|3）　検索結果について、多様な視点があることを理解し、検索結果の評価ができる。|4）　文献解題やパスファインダーなど、他者（利用者）が利用できる二次情報の提供・提示ができる。|5） 情報サービス論、情報サービス演習 2、図書館情報技術論をあわせて履修することにより、（社）情報科学技術協会主催の検索技術者検定 3 級（可能なら 2 級まで）に相当する実践的な検索技術能力を身につける。（3)|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0|	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	スクーリングで実施する課題（レファレンスサービス演習及び記録の作成）
･授業内課題	60	
･その他	0	オンライン講義内で提示する各課題|

授業科目	情報サービス演習 b(夏期)A クラス_映像課題,オンライン,対面			単位	2
担当者	増田　和子			シラバスグループ	S61200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	図書館の情報サービスにおける資料・データベース・情報検索の基礎知識の習得と具体的な利用方法の理解|
■授業の概要	1. 情報検索の基礎|2. 情報検索の評価・理論|3. 情報の統制・分類・抄録|4. 分野別情報の探し方|(1) 公的情報を知る（白書・官報)| (2) 統計|(3) 人物 |(4) 企業・組織|(5) 医療・健康|(6) 法令判例情報・特許情報|(7) 行政情報 |(8) その他生活に関わる情報（防災,消費など）|5. 発信型情報サービスの演習　パスファインダー作成等
■授業の目的・ねらい	・ 情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービス、積極的な発信型情報サー ビスの演習を通して、実践的な能力の育成を図る。|・ 図書館司書（一般的にサーチャー）として、利用者から依頼された情報検索を、依頼者とコミュニケーションをとりながら、実施できるようになる。|・ 情報検索を行うために、情報ニーズの主題分析を行い、適切なデータベースや情報源を選択し、精度および再現率の高い検索を実行できるようになる。|・ 著 作権をはじめとする知的財産権について理解し、情報化社会に対応できるグローバルな情報リテラシーを習得する。
■到達目標	１） 情報検索要求に対して、適切な情報源の選択、効率的な検索、適切な情報の取得ができる。 |２） 情報検索における理論演算子を理解し、必要に応じて使うことができる。|３） 検索結果について、多様な視点があることを理解し、検索結果の評価ができる。|４） 文献解題やパスファインダーなど、他者（利用者）が利用できる二次情報の提供・提示ができる。|５） 情報サービス論、情報サービス演習１、図書館情報技術論をあわせて履修することにより、(社) 情報科学技術協会主催の検索技術者検定 3 級に相当する実践的な検索技術能力を身につける。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	パスファインダー作成など
･授業内課題	60	
･その他	0	講義に付随する各課題

授業科目	情報サービス演習 b(冬期)A クラス_映像課題,オンライン,対面			単位	2
担当者	増田　和子			シラバスグループ	S61400
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	図書館の情報サービスにおける資料・データベース・情報検索の基礎知識の習得と具体的な利用方法の理解|
■授業の概要	1. 情報検索の基礎|2. 情報検索の評価・理論|3. 情報の統制・分類・抄録|4. 分野別情報の探し方|(1) 公的情報を知る（白書・官報)| (2) 統計|(3) 人物 |(4) 企業・組織|(5) 医療・健康|(6) 法令判例情報・特許情報|(7) 行政情報 |(8) その他生活に関わる情報（防災,消費など）|5. 発信型情報サービスの演習　パスファインダー作成等
■授業の目的・ねらい	・ 情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービス、積極的な発信型情報サー ビスの演習を通して、実践的な能力の育成を図る。|・ 図書館司書（一般的にサーチャー）として、利用者から依頼された情報検索を、依頼者とコミュニケーションをとりながら、実施できるようになる。|・ 情報検索を行うために、情報ニーズの主題分析を行い、適切なデータベースや情報源を選択し、精度および再現率の高い検索を実行できるようになる。|・ 著 作権をはじめとする知的財産権について理解し、情報化社会に対応できるグローバルな情報リテラシーを習得する。
■到達目標	１） 情報検索要求に対して、適切な情報源の選択、効率的な検索、適切な情報の取得ができる。 |２） 情報検索における理論演算子を理解し、必要に応じて使うことができる。|３） 検索結果について、多様な視点があることを理解し、検索結果の評価ができる。|４） 文献解題やパスファインダーなど、他者（利用者）が利用できる二次情報の提供・提示ができる。|５） 情報サービス論、情報サービス演習１、図書館情報技術論をあわせて履修することにより、（社）情報科学技術協会主催の検索技術者検定 3 級（可能なら 2 級まで）に相当する実践的な検索技術能力を身につける。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	スクーリングで実施する課題発表（パスファインダーの作成）
･授業内課題	60	
･その他	0	オンライン講義内で提示する各課題|

授業科目	情報資源組織演習 a(夏期)A クラス_オンデマンド＋対面			単位	2
担当者	髙畑　悦子			シラバスグループ	S62200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	「情報資源組織論」で学んだ情報資源の組織化の実際を学ぶ。この科目は目録を中心とする科目である。|・『日本目録規則（NCR）2018 年版』の目録の考え方について学ぶとともに、現在も流通している書誌情報で用いられている『日本目録規則（NCR）1987 年版改訂 3 版』による目録作成についても学ぶ。|・記述対象や書誌単位、書誌要素（エレメント）について学び、書誌データの作成を行い、司書としての実践的能力を養成する。‖・この科目は、学校司書モデルカリキュラムの必修科目である。|
■授業の概要	多様な例題を用いて情報資源の書誌データ作成を行う。書誌記述は『日本目録規則 1987 年版改訂 3 版』を使用し、適宜『目録規則（NCR）2018 年版』との相違点を解説する。‖第 1 回から第 12 回はオンデマンド授業：課題提出を課す。|（提出日は、内容の進行に従って 2 回に分ける。）|第 13 回から第 18 回は対面授業
■授業の目的・ねらい	情報資源組織化の目的と意義を理解し、演習を通して多様な情報資源の書誌的記録を作成する。具体的には各種情報資源（資料）の書誌データの作成について実践的な能力を養う
■到達目標	・情報資源組織化の目的と意義を理解し、説明できる。|・『日本目録規則（NCR）2018 年版』ならびに『日本目録規則（NCR）1987 年版改訂 3 版』を活用して和図書の基本的な目録作成ができるよう技術を修得する。|・著者名典拠レコードの必要性を理解し、その意義を説明することができる。|・書誌データの作成について理解し実践的な能力を養うことで、情報資源の検索および利用の支援ができる知識をもつ。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	70	
・リポート試験(SR 履修)	0	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	30	
・その他	0	

授業科目	情報資源組織演習 a(冬期)A クラス_オンデマンド＋対面			単位	2
担当者	村上　郷子			シラバスグループ	S62400
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	本授業では、『日本目録規則 2018 年度版』を参照しながら、書誌データの目録作成等の基本的スキルを修得する。
■授業の概要	情報資源組織論で学習した目録規則の成り立ちや意義を考えながら、記述目録の演習を中心に目録規則（2018 年度版）の適用及びその基礎について学習する。|　授業の初めに、毎回の小クイズの答え合わせをすることにより、全体に対してフィードバックを行う。
■授業の目的・ねらい	資料の組織化は、大きく記述目録法と主題目録法の 2 部から成り立っている。本授業では、記述目録の演習を中心に目録規則の適用及び主題分析の基礎についての演習を行うことにより、書誌データ作成についての実践的な能力を身につけることができる。
■到達目標	（1）『日本目録規則 2018 年度版』の体系を理解し、内容の特徴について説明することができる。|（2）『日本目録規則 2018 年度版』を活用して、基本的な書誌データの作成することができる技術を習得する。|（3）目録のコンピュータ化についての概要を説明することができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0	最終日に試験を実施する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	毎回の小テスト（前回授業の復習）および出席・宿題等

授業科目	情報資源組織演習 b(夏期)A クラス_オンデマンド＋対面			単位	2
担当者	髙畑　悦子			シラバスグループ	S63200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	・「情報資源組織論」で学んだ情報資源の組織化の実際を学ぶ。|・主題の組織化として分類法と件名法を学ぶ。分類作業では、『日本十進分類法新訂 10 版』を使用して、主題からの検索に対応すべく情報資源の主題分析及び分類記号付与の実際を演習する。|・件名標目の付与は『基本件名標目表　第 4 版』を使用して、件名標目表の構造を理解し、件名標目の付与を実際に演習する。‖・この科目は、学校司書モデルカリキュラムの必修科目である。
■授業の概要	多様な例題を用いて情報資源の主題組織化を行う。|・分類作業では、『日本十進分類法新訂 10 版』を使用して、主題からの検索に対応すべく情報資源の主題分析及び分類記号付与の実際を演習する。|・件名標目の付与は『基本件名標目表　第 4 版』を使用して、件名標目表の構造を理解し、件名標目の付与を実際に演習する。‖第 1 回から第 12 回はオンデマンド授業：課題提出を課す。|（提出日は、内容の進行に従って 2 回に分ける。）|第 13 回から第 18 回は対面授業
■授業の目的・ねらい	情報資源組織化の目的と意義を理解し、演習を通して多様な情報資源の書誌的記録を作成する。具体的には『日本十進分類法新訂 10 版』を使用して、主題からの検索に対応すべく情報資源の主題分析及び分類記号付与、ならびに『基本件名標目表第 4 版』を使用した件名標目付与を行い、実践的な能力を養う。
■到達目標	情報資源組織化の目的と意義を理解し、主題の組織化の方法について説明できるようになる。|分類および件名作業の演習を通して多様な情報資源の主題目録を作成することができるようになる。|作成方法について理解し実践的な能力を養うことで、情報資源の検索および利用の支援ができる知識をもつ。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	

授業科目	情報資源組織演習 b(冬期)A クラス_オンデマンド＋対面				単位	2
担当者	村上　郷子			シラバスグループ	S63400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	情報資源の主題分析および分類記号・件名付与の実際
■授業の概要	情報資源組織論で学習した分類の意義や目的を背景として、『日本十進分類法』新訂 10 版（NDC）を用いて情報資源の主題分析及び分類記号付与の実際を行う。また同じく、言葉による統制語と『基本件名標目表』第 4 版（BSH）の基本構造について理解する。
■授業の目的・ねらい	本授業の目的は、情報資源組織論で学習した分類の意義を基礎に、書架分類と書誌分類への理解、分類付与の実践的能力・技術を習得することである。
■到達目標	（1）『日本十進分類法』の体系を理解し、各類の特徴について説明することができる。|（2）『日本十進分類法』を活用して、基本的な分類記号が付与できる技術を習得する。|（3）図書記号や別置記号について理解する。|（4）件名法の意義や基本構造について、説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0	最終日に試験を実施する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	毎回の小テスト（前回授業の復習）および出席・宿題等

授業科目	教科内容研究音楽（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	長井　典子			シラバスグループ	S20200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	幼児の豊かな感性や表現力を育む音楽表現技術
■授業の概要	子どもの音楽活動を指導、援助するために必要な、音楽の基礎知識を習得する。正しい発声や音程について学び、子どもの歌唱表現を引き出す様々な種類の歌を知る。そして、歌唱や音楽的なあそびの実践を通し、子どもの豊かな音楽表現を導けるような指導法へと繋げる。
■授業の目的・ねらい	・本講義の内容を理解するだけでなく、習得した知識や技術を保育の実践的な音楽活動に生かせるようにすることが目的である。|
■到達目標	・音楽の基礎知識について理解できたか。|・子どもの歌について知り、理解を深めることができたか。|・講義の中で行う様々な音楽表現活動に意欲的に参加し、自身の表現能力を高めることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100%	
·リポート試験(SR 履修)	0|	
·授業内発表	0|	
·授業内試験	0|	
·授業内課題	0|	
·その他	0|	

授業科目	教科内容研究図画工作（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	髙橋　敏之			シラバスグループ	S21200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	図画工作の目的と造形活動の構成について
■授業の概要	「表現」領域（造形分野）では、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目的としている。このように自己表現という視点が明確になるにつれて、ものに挑む、空間に挑むなど、素材を通して環境に関わり、作ったものを使って遊んだり、見立てたり、ごっこ遊びに使用したりという経験を重視する活動に転換してきている。であるならば、教材を扱う保育者も教材特性を理解しておかなければ、目的を踏まえた価値ある活動は展開できないことになる。この講義では、様々な教材の特性を捉えて、保育活動にどのように活かすかという点を中心に講義を進める。
■授業の目的・ねらい	造形領域のねらいを実技を通して体感する
■到達目標	・教材の特性を理解する|・教材の特性を活かした保育構成を理解する

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	40%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	
·授業内発表	30%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	30%	
·その他	0%	

授業科目	教科内容研究体育（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	青木　好子			シラバスグループ	S22200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	幼児期の健康や発達を支えるために必要な 領域「健康」に関する保育者の援助および実践について
■授業の概要	領域「健康」は、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うことが目標となる。そのため領域「健康」内容は、心身の健康、体を動かす遊びや運動、食生活、衛生・清潔の習慣、生活習慣、疾病の予防、安全管理、けがや事故の防止など多岐にわたる。それらは豊かな生涯の基盤となる。子ども達の発達に応じて十分に体を動かし楽しく遊ぶことの意義を踏まえ、現代の子どもたちの身体や心の健康に関する課題やその対策について考察し保育現場での環境設定や援助について理解を深める。
■授業の目的・ねらい	領域「健康」のねらいや内容、それに関する幼児の健康と発達、生活習慣および幼児自身が健康で安全な生活を作り出す力を育むために必要な環境構成や援助方法について考察し、実践できる力や知識を習得する。
■到達目標	１．幼稚園教育要領の領域「健康」について、ねらいと内容について理述べることができる。|2．幼児期の心身の発育発達の特徴やそれに応じた運動あそびについて説明できる。|3．心を動かし、体を動かすあそびに則した環境構成、援助の在り方について説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	0%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	
·授業内発表	50%	
·授業内試験	50%	
·授業内課題	0%	
·その他	0	

授業科目	知的障害児の心理（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	奥畑　志帆			シラバスグループ	S50100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	知的障害児の心理学的特性と支援方法について理解を深める。
■授業の概要	知的障害児の心理・行動特性について、定型発達を基盤として、学習する。特に、知的障害児の診断、知的障害児の行動特性、言語発達、認知発達の数概念、記憶について学ぶ。さらに、知的障害児への支援の概要を理解する。|
■授業の目的・ねらい	知的障害児の心理・行動特性について定型発達を基盤として理解する。特に、知的障害児の診断、知的障害児の行動特性、言語発達、認知発達、知的障害児への支援の概要について理解することを目標とする。
■到達目標	知的障害児の心理・行動特性について定型発達を基盤として理解し、支援の概要についても理解できたか。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80	
·リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
·授業内発表	20	
·授業内試験	0	
·授業内課題	0	
·その他	0	

授業科目	知的障害児の心理（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	奥畑　志帆			シラバスグループ	S50400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	知的障害児の心理学的特性と支援方法について理解を深める。
■授業の概要	知的障害児の心理・行動特性について、定型発達を基盤として、学習する。特に、知的障害児の診断、知的障害児の行動特性、言語発達、認知発達の数概念、記憶について学ぶ。さらに、知的障害児への支援の概要を理解する。|
■授業の目的・ねらい	知的障害児の心理・行動特性について定型発達を基盤として理解する。特に、知的障害児の診断、知的障害児の行動特性、言語発達、認知発達、知的障害児への支援の概要について理解することを目標とする。
■到達目標	知的障害児の心理・行動特性について定型発達を基盤として理解し、支援の概要についても理解できたか。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80	
·リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
·授業内発表	20	
·授業内試験	0	
·授業内課題	0	
·その他	0	

授業科目	知的障害教育Ⅱ（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	S51100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	知的障害のある人の教育とくらし
■授業の概要	昨今の特別支援教育の潮流を鑑み、知的障害のある子どもの多様な教育の場における教育のあり方について学習する。具体的には知的障害教育の教育課程や教育方法、教員の役割やかかわり方、問題行動の理解と支援、インクルーシブ教育などについて学ぶ。また、近年施行された障害者差別解消法にかかわって、知的障害のある生徒の就労支援や生活をめぐる社会的課題、国際的動向などについても検討する予定である。
■授業の目的・ねらい	知的障害教育の基本的知識の習得、およびそうした知識が教育実践のなかでいかに援用可能であるかを十分にイメージできることがこの授業の目的です。
■到達目標	学んだことを通して具体的な教育のあり方を各自で模索できるようになること

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	50	
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	50	
·その他	0	

授業科目	知的障害教育Ⅱ（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	S51400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	知的障害のある人の教育とくらし
■授業の概要	昨今の特別支援教育の潮流を鑑み、知的障害のある子どもの多様な教育の場における教育のあり方について学習する。具体的には知的障害教育の教育課程や教育方法、教員の役割やかかわり方、問題行動の理解と支援、インクルーシブ教育などについて学ぶ。また、近年施行された障害者差別解消法にかかわって、知的障害のある生徒の就労支援や生活をめぐる社会的課題、また国際的動向などについても検討する予定である。
■授業の目的・ねらい	知的障害教育の基本的知識の習得、およびそうした知識が教育実践のなかでいかに援用可能であるかを十分にイメージできることがこの授業の目的です。
■到達目標	学んだことを通して具体的な教育のあり方を各自で模索できるようになること

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	50	
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	50	
·その他	0	

授業科目	肢体不自由児の指導法（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	西村　猛			シラバスグループ	S52100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	肢体不自由児教育における指導方法の基礎基本を学ぶ。
■授業の概要	肢体不自由児が就学対象となる特別支援学校等の教育課程及び肢体不自由の障害特性が、各教科の学習に及ぼす影響について理解し、各教科・自立活動等の指導を行う際の工夫や配慮事項及び指導法及び基礎基本について学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①　肢体不自由児が就学する特別支援学校等の教育課程を理解する。\②　肢 体不自由児に対する各教科等の指導の工夫や配慮事項を理解する。\③　肢体不自由児に対する自立活動における指導法の基礎基本を理解する。\
■到達目標	①肢体不自由児が就学対象となる特別支援学校等の教育課程を理解する。\②肢体不自由児に対する各教科・自立活動等の指導を行う際の工夫や配慮事項及び指導法の基礎基本を理解する。\

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
·授業内発表	0%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	0%	
·その他	0%	

授業科目	肢体不自由児の指導法（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	西村　猛			シラバスグループ	S52400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	肢体不自由児教育における指導方法の基礎基本を学ぶ。
■授業の概要	肢体不自由児が就学対象となる特別支援学校等の教育課程及び肢体不自由の障害特性が、各教科の学習に及ぼす影響について理解し、各教科・自立活動等の指導を行う際の工夫や配慮事項及び指導法及び基礎基本について学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①　肢体不自由児が就学する特別支援学校等の教育課程を理解する。\②　肢 体不自由児に対する各教科等の指導の工夫や配慮事項を理解する。\③　肢体不自由児に対する自立活動における指導法の基礎基本を理解する。\
■到達目標	①肢体不自由児が就学対象となる特別支援学校等の教育課程を理解する。\②肢体不自由児に対する各教科・自立活動等の指導を行う際の工夫や配慮事項及び指導法の基礎基本を理解する。\

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
·授業内発表	0%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	0%	
·その他	0%	

授業科目	視覚障害教育総論（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤井　則之			シラバスグループ	S53100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	視覚障害児の指導法
■授業の概要	視覚に障害のある児童生徒は、「見えにくい」または「見えない」という状態にある｜　いわゆる弱視、盲といわれる児童生徒へ指導・支援を行う上で留意すべき基本的事項について解説する。
■授業の目的・ねらい	視覚障害の生理・病理的および心理的特性を理解し、その障害特性を配慮した指導法について基本的な理解を図ることを目的とする。
■到達目標	視覚障害の特性を配慮した指導法の基礎基本を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	70%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	試験は講義後にリポート試験とし、講義の理解度を測る。７０点満点。講義を受けた範疇で解答すること。提出方法等は別途連絡する。
·授業内発表	0%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	0%	
·その他	30%	

授業科目	視覚障害教育総論（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤井　則之			シラバスグループ	S53400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	視覚障害児の指導法
■授業の概要	視覚に障害のある児童生徒は、「見えにくい」または「見えない」という状態にある|いわゆる弱視、盲といわれる児童生徒へ指導・支援を行う上で留意すべき基本的事項について解説する。
■授業の目的・ねらい	視覚障害の生理・病理的および心理的特性を理解し、その障害特性を配慮した指導法について基本的な理解を図ることを目的とする。
■到達目標	視覚障害の特性を配慮した指導法の基礎基本を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	70%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	試験は講義後にリポート試験とし、講義の理解度を測る。７０点満点。講義を受けた範疇で解答すること。提出方法等は別途連絡する。
·授業内発表	0%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	0%	
·その他	30%	

授業科目	聴覚障害教育総論（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	脇中　起余子			シラバスグループ	S54100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	聴覚障害の理解と実際の教育を学ぶ
■授業の概要	聴覚障害を理解し、聴覚障害児に多いつまずきの傾向や心理とその支援方法を学ぶ
■授業の目的・ねらい	聴覚障害の概念や指導法、配慮点等について理解し、実際にかかわる際に役立つ実践的知識を学習する。|
■到達目標	聴覚障害を理解し、聴覚障害児に対する支援方法や指導方法について知る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100	
·リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施（脇中担当分 65%、高井担当分 35%)。それぞれで提出場所が異なる（授業で説明する)。
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	0	
·その他	0	

授業科目	聴覚障害教育総論（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	脇中　起余子			シラバスグループ	S54400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	聴覚障害の理解と実際の教育を学ぶ
■授業の概要	聴覚障害を理解し、聴覚障害児に多いつまずきの傾向や心理とその支援方法を学ぶ|
■授業の目的・ねらい	聴覚障害の概念や指導法、配慮点等について理解し、実際にかかわる際に役立つ実践的知識を学習する。|
■到達目標	聴覚障害を理解し、聴覚障害児に対する支援方法や指導方法について知る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100	
·リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施（脇中担当分 65%、高井担当分 35%)。それぞれで提出場所が異なる（授業で説明する)。
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	0	
·その他	0	

授業科目	重複障害・軽度発達障害児の指導法（春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	奥畑　志帆			シラバスグループ	S55100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S

■授業のテーマ	重複障害教育及び軽度発達障害教育における指導方法の基礎・基本を学ぶ。
■授業の概要	重複障害児や軽度発達障害児の学び場と教育課程及び指導の実際から、それぞれの障害を有する子どもに対する教育の現状と課題を理解し、双方の特別支援教育における指導方法の基礎・基本を学ぶ。あわせて、重複障害と軽度発達障害の基礎的概念についても学ぶ。‖
■授業の目的・ねらい	①　重複障害や軽度発達障害の基礎的概念を理解する。|②　重複障害児が就学する特別支援学校等の教育課程について理解する。|③　重複障害児に対する各教科・自立活動等における指導法の基礎・基本を理解する。|④　軽度発達障害児が活用できる「通級による指導」の制度と教育課程について理解する。|⑤　軽度発達障害児に対する各教科等における指導法の基礎・基本を理解する。|
■到達目標	①　重複障害や軽度発達障害の基礎的概念を理解する。|②　重複障害児や軽度発達障害児が就学する学校等の教育課程について理解する。|③　重複障害児や軽度発達障害児に対する各教科等･自立活動等における指導法の基礎・基本を理解する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	重複障害・軽度発達障害児の指導法（冬期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	奥畑　志帆			シラバスグループ	S55400
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T·S

■授業のテーマ	重複障害教育及び軽度発達障害教育における指導方法の基礎・基本を学ぶ。
■授業の概要	重複障害児や軽度発達障害児の学び場と教育課程及び指導の実際から、それぞれの障害を有する子どもに対する教育の現状と課題を理解し、双方の特別支援教育における指導方法の基礎・基本を学ぶ。あわせて、重複障害と軽度発達障害の基礎的概念についても学ぶ。‖
■授業の目的・ねらい	①　重複障害や軽度発達障害の基礎的概念を理解する。|②　重複障害児が就学する特別支援学校等の教育課程について理解する。|③　重複障害児に対する各教科・自立活動等における指導法の基礎・基本を理解する。|④　軽度発達障害児が活用できる「通級による指導」の制度と教育課程について理解する。|⑤　軽度発達障害児に対する各教科等における指導法の基礎・基本を理解する。|
■到達目標	①　重複障害や軽度発達障害の基礎的概念を理解する。|②　重複障害児や軽度発達障害児が就学する学校等の教育課程について理解する。|③　重複障害児や軽度発達障害児に対する各教科等･自立活動等における指導法の基礎・基本を理解する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（特支）（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	①　　特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|②　学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。	

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（特支）（夏期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	①　　特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|②　学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。	

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（特支）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	① 特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|② 学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。　|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（特支）（秋期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43310
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	①　特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|②　学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。　|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（特支）（秋期)2 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43320	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	①　特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|②　学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。	

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（特支）（冬期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43410
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	① 特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|② 学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。　｜｜

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（特支）（冬期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43420
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	①　　特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|②　学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。　|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（特支）（集中１)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	①　特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|②　学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。	

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	学校図書館情報サービス論（夏期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	佐久間　朋子			シラバスグループ	S66200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	学校図書館における情報サービスの意義と各種情報源の特性
■授業の概要	学校図書館の情報サービスについて解説し、映像視聴とパソコンを使用しての演習や課題を行う。
■授業の目的・ねらい	学校図書館における情報サービスの種類や各種情報源の特性の理解を図るとともに、児童生徒に資料・情報を適切に提供できる能力の育成を図る。‖成績評価|原則として、スクーリングでの受講態度と、その他課題及び講義への意欲的な取り組み状況を踏まえ、総合的に評価する。|
■到達目標	学校図書館における情報サービスの意義や種類について理解を深める。|参考図書やデータベースなどの各種情報源の内容や使用法の知識を得る。|パソコンを使用しての演習や課題を通して、学校図書館における情報サービスに必要な技能を得る。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	40%	
･その他	0%	

授業科目	学校図書館情報サービス論（集中１)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	佐久間　朋子			シラバスグループ	S66510
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	学校図書館における情報サービスの意義と各種情報源の特性
■授業の概要	学校図書館の情報サービスについて解説し、映像視聴とパソコンを使用しての演習や課題を行う。
■授業の目的・ねらい	学校図書館における情報サービスの種類や各種情報源の特性の理解を図るとともに、児童生徒に資料・情報を適切に提供できる能力の育成を図る。‖成績評価|原則として、スクーリングでの受講態度と、その他課題及び講義への意欲的な取り組み状況を踏まえ、総合的に評価する。|
■到達目標	学校図書館における情報サービスの意義や種類について理解を深める。|参考図書やデータベースなどの各種情報源の内容や使用法の知識を得る。|パソコンを使用しての演習や課題を通して、学校図書館における情報サービスに必要な技能を得る。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	40%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（特支）（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	①　　特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|②　学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。　|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（特支）（夏期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	①　　特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|②　学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。	

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（特支）（夏期)2 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	① 特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|② 学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。	

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（特支）（秋期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43310	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	①　特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|②　学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。	

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（特支）（秋期)2 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43320	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	① 特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|② 学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。	

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（特支）（冬期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43410	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	① 特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|② 学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。　｜｜

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（特支）（冬期)2 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43420	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	①　　特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|②　学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。　|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（特支）（集中１)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	①　特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|②　学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。	

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼）（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園(こども園)の活動と子どもの生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼）（夏期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼）（秋期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40310	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼）（秋期)2 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40320	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼）（冬期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40410	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼）（冬期)2 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40420	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼）（集中１)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小）（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S41100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R·S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
·授業内発表	0%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	0%	
·その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小）（春期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S41101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R·S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
·授業内発表	0%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	0%	
·その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小）（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直		シラバスグループ	S41210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直		シラバスグループ	S41220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。‖
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小）（秋期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝		シラバスグループ	S41310	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小）（秋期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之		シラバスグループ	S41320	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小）（冬期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之		シラバスグループ	S41410	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小）（冬期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝		シラバスグループ	S41420	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小）（集中１)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S41510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小）（集中１)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S41511	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝		シラバスグループ	S42100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S42210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する|
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S42220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（秋期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S42310	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（秋期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之		シラバスグループ	S42320	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（冬期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之		シラバスグループ	S42410	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（冬期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝		シラバスグループ	S42420	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（集中１)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42510
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（集中１)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42511	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法		

■授業のテーマ	
■授業の概要	
■授業の目的・ねらい	
■到達目標	

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)		
･リポート試験(SR 履修)		
･授業内発表		
･授業内試験		
･授業内課題		
･その他		

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	原　清治			シラバスグループ	S00200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	教育とは何かについて考える
■授業の概要	教師が抱える仕事は年々ますます多様化・複雑化している。本授業では、普遍的な教育の課題について学習を深め、近年の学校での「流行」であるアクティブラーニングを取り入れた能動学習も行い、教師の資質とは何か、教師として何を理解しなければならないのかといったことを主体的に学ぶ場としたい。
■授業の目的・ねらい	教育、教師とは何かを理解する
■到達目標	教師や教育に対する具体的なイメージが説明できる。|「どのような教師になりたいか」という問いに対して、経験則だけではなく、理論的なことを交えながら説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	50%	
･その他	0%	授業中でのグループワークの活動、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等)、および課題リポートを総合的に評価します。

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	原　清治			シラバスグループ	S00300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	教育とは何かについて考える
■授業の概要	教師が抱える仕事は年々ますます多様化・複雑化している。本授業では、普遍的な教育の課題について学習を深め、近年の学校での「流行」であるアクティブラーニングを取り入れた能動学習も行い、教師の資質とは何か、教師として何を理解しなければならないのかといったことを主体的に学ぶ場としたい。
■授業の目的・ねらい	教育、教師とは何かを理解する
■到達目標	教師や教育に対する具体的なイメージが説明できる。|「どのような教師になりたいか」という問いに対して、経験則だけではなく、理論的なことを交えながら説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	50%	
･その他	0%	授業中でのグループワークの活動、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等)、および課題リポートを総合的に評価します。

授業科目	教育学講読１（春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	山内　乾史		シラバスグループ	S01100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	教育の国際比較
■授業の概要	日本の教育を英米から途上国まで様々な国家の教育と比較して検討する。
■授業の目的・ねらい	日本の教育の特徴を、国際比較を通して学ぶことが目的である。
■到達目標	教育について、比較教育学的、ないしは教育社会学的な視点で捉えられるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育学講読１（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	赤沢　真世			シラバスグループ	S01200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	学習指導要領の変遷および現代に求められる学力について考える
■授業の概要	教育課程やカリキュラムは、教育内容としての教材や子どもの学習経験を組織的に編成するために用意された教育計画のことを指します。本授業では、学習指導要領の歴史的展開や社会状況の変化を踏まえて、教育課程の移り変わりやその影響をうける授業づくりの移り変わりを見ていきます。また、２０２０年から始まった学習指導要領や、主体的・対話的で深い学びとその評価についても深めていきます。
■授業の目的・ねらい	学習指導要領の変遷についてその社会的背景とともに理解する。|現代に求められる学力および授業づくりについて理解する。
■到達目標	学習指導要領の変遷と新学習指導要領の求めるものやその内容について説明できる。|また、今後求められる評価法（パフォーマンス評価法）について説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0|	リポート試験にて実施する
･授業内発表	10|	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	教育学講読２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	浅田　瞳			シラバスグループ	S02100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	学習指導要領の変遷について考える
■授業の概要	2020 年前後を境に学習指導要領は大きく転換しました。とりわけ、「主体的・対話的で、深い学び」といった教育方法にまで言及した改革は戦後初といってもよいと思います。今後は教師が子どもたちの学力や深度を見据え、どのようにカリキュラムを考えるのかといったカリキュラム・デザインを行う力が求められます。|この授業では主に小学校における学習指導要領の変遷を概観し、学習課程がどのような原理で編成されているのか、諸外国のカリキュラムは我が国とどのような点で異なるのかについて、配布資料をもとに学習します。|
■授業の目的・ねらい	学習指導要領がどのような原理原則をもとに編成されているのかについて考える
■到達目標	学習指導要領の変遷と現行学習指導要領の求めるものやその内容について説明できる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	

授業科目	教育学講読２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	S02200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	「学び」について考える
■授業の概要	学習論についてのさまざまな資料や文献の購読を通して､｢学び｣のメカニズムについて理解し、具体的な保育・教育実践などとの関係で解釈できるようにしていく。
■授業の目的・ねらい	教科の学習等の前提となる「人が学ぶということ」、すなわち人はどのように物事を理解し、行動し、「学び」を獲得していくかについて理解を深めることを目的とする。
■到達目標	各自の学習観や教育観をより深化させることができる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	教育学講読３（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	S03200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	戦後日本における教育問題の展開
■授業の概要	戦後日本の教育問題の展開を考察することは、戦後日本の社会変動と子どもたち・学校との関係を見つめなおすことでもある。本講義では戦後 60 年の教育問題を当時の社会的風潮との関連でとらえ、社会と教育との関連性について理解を深め、これからの両者の関係のあるべき姿について論議する。特に本授業では生徒指導と「特別の教科 道徳」を概観する。|
■授業の目的・ねらい	近年、「昭和的な学校風景」は否定される傾向にある。しかし、その一方、まだまだ根強く残っており、様々な議論が起こっている。本授業では生徒指導のあり方と「特別の授業 道徳」のあり方をめぐって、講義とディスカッションによって理解を深める。
■到達目標	生徒指導のあり方と「特別の授業 道徳」のあり方をめぐって、講義とディスカッションによって理解を深める。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育学講読３（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	芦田　風馬			シラバスグループ	S03300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	教育現場における造形表現の役割について考える
■授業の概要	子どもにとって絵を描いたり物作りをすることはどのような意味があるのか。|また、指導する中での表現活動との関わりを考える。
■授業の目的・ねらい	教育現場における造形表現の役割を理解する。
■到達目標	教育現場における造形表現の役割を考えることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	70%	
･その他	0%	

授業科目	教育学講読４（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	松戸　宏予			シラバスグループ	S04200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	学校図書館における特別なニーズをもつ子どもへの支援
■授業の概要	現在、学校にはさまざまな児童生徒が在籍する。例えば、LD（学習障害)、ADHD（注意欠陥多動性障害)、高機能自閉症などの発達障害を含めた特別なニーズをもつ児童生徒である。| 特別な支援とは、特別なニーズをもつ児童生徒ができないことであっても、あるいは苦手なことであっても、授業の活動や学校生活への参加が促進されるような配慮や工夫を指す。| では、学校図書館においては、特別なニーズをもつ児童生徒に対してどのような特別な支援ができるのか。事例紹介や文献の講読、そして、グループ討論を通して考究する。
■授業の目的・ねらい	目的:| 学校図書館を活用した体験の有無は個人によって差がある。特別なニーズをもつ児童生徒、そして、学校教育を支える学校図書館機能を理解したうえで、特別なニーズをもつ児童生徒に対する学校図書館支援を考察すること。|ねらい:| 受講者がテーマに対して意識をもち考えを深めること。また、グループ討論を通して、多角的なものの見方、他者に自分の意見を伝える力を身につけること。
■到達目標	1. 事前課題として、3 つの文献を読み、解題を行うこと。|2. 事例紹介や文献購読を通して、テーマに対して主体的な意見を持ち、その意見を論述できること。|3. グループ討論を通して、根拠に根ざした意見を他者に伝えるスキルを身につけること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%|	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	30%|	
･授業内課題	30%	解題シート　各 1 枚　10%　3 枚
･その他	20%	ワークシート　各 1 枚　10%　3 枚

授業科目	教育学講読４（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S04300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	知識基盤社会に求められる「学び続ける教師」と学校
■授業の概要	知識基盤社会の到来、グローバル化の進展、少子高齢化の進展など社会が大きく変化している中、我が国が将来にむけて一層発展していくためには、様々な分野での質の高い人材育成が不可欠であり、これは教職についても同様である。| 主体的に「学び続ける教師」としての教職キャリアを支えるために、教職を高度専門職として捉え、基礎的な知識や技能はもとより、従来から提言されてきた資質や能力加え、総合的な人間力等についても育成する必要がある。| 講義では、新学習指導要領の趣旨に沿って、知識基盤社会におけるこれからの専門職教師のあるべき姿を「教師論」とともに考える。| また、国の教育改革の動向、小・中・高連携、さらには高大接続の視点も含めて理解を深める。とりわけ、教育の情報化と Society5.0 について理解を深める。|
■授業の目的・ねらい	知識基盤社会における教師に求められる社会的なニーズを理解し、これからのグローバル化、|情報化が進展する中で、学校と教師はどうあるべきかを考える。‖
■到達目標	到達目標：|1　知識基盤社会では、「学び続ける教師」がなぜ求められているのか、グループ| 討議を通じて考える。|2　グローバル化、情報化する社会に対応できる資質、STEAM 人材とは何か、また、学校教育を通じて育成すべき新しいスキル（能力）やキャリアについて理解を深める。|3　自らが教壇に立ったときを想定して、「アクティブラーニング型の学習」を理| 解する。|4　「教育 DX」についても理解を深める。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験を課します。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育学演習１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	S05100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	学校臨床学への招待
■授業の概要	昨今の教育界を賑わすいくつかの課題（いじめ、不登校、学力、発達障害、外国にルーツのある子ども、子どもの貧困、性の多様性など）について概観する。また、そうした教育課題が展開される場としての学校教育そのものが暗黙のうちに備えているさまざまな社会的・文化的機能に迫る。
■授業の目的・ねらい	グループでの活動を通して、文献研究の方法や論の立て方、教育学的なものの見方を身につけることをねらいとします。
■到達目標	教育学の理解を深める

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	

授業科目	教育学演習１（春期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	二澤　善紀			シラバスグループ	S05101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	算数・数学教育における課題
■授業の概要	全国学力・学習状況調査や PISA などの各種調査において，様々な課題が指摘されている。これらの課題を考慮した教材研究を行う。
■授業の目的・ねらい	算数・数学教育における課題について理解する。|児童生徒が算数・数学の学習に主体的に取り組めるような教材研究・授業作りの視点を理解し，実際に取り組むことができる。|評価は，授業内の活動とリポートで行う。
■到達目標	算数・数学教育における課題について説明できる。|児童生徒が算数・数学の学習に主体的に取り組めるような教材研究・授業作りの視点をもち，それを説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	25	リポート試験にて実施する。|3 日間の内容を振り返りと考察を含めたリポートの評価。
･授業内試験	0	班でまとめた内容の発表に対する評価。
･授業内課題	25	
･その他	0	授業で提示した課題に対する評価。

授業科目	教育学演習１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	原　清治			シラバスグループ	S05200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	現代のいじめ問題について考える
■授業の概要	2013 年の「いじめ防止対策推進法」の制定以来、学校ではいじめ問題の実態を把握することが必要となっています。ただ、現状としていじめ問題は増加の一途をたどっており、学校ごとにその発生要因も異なっています。本講義では、いじめ問題の現状、とりわけネットいじめの実態について議論し、どのような方略をもって解決すればよいのかについて発表することを目的としています。
■授業の目的・ねらい	いじめの定義の変遷やネットいじめの実態を正確に理解しておくと、授業の内容が理解しやすくなります。平常の授業においてはアクティブ・ラーニングを前提としたグループ・ディスカッションを行います。また、いじめ対策としてどのような方法があるのか、議論を深めたことを発表してもらいます。また、リポート（リポート試験）においては語義の正確な理解と実態の正確な把握を前提にした基本的な論述式の設題により理解力を見ます。
■到達目標	・いじめの現状について説明できる|・ネットいじめの特徴およびその対応について自分の考えをまとめることができる|・いじめを抑止するための方略についていくつかの具体例をあげることができる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育学演習１（夏期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	S05201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	国語科授業とアクティブラーニング
■授業の概要	『新学習指導要領（平成 29 年度版学習指導要領)』では、これまで以上に子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」が求められています。しかしこれは単に、子どもたちに何か作業をさせたり、グループ活動を多くさせるということではありません。この授業では、その意味や具体について考えるとともに、教室で起こりがちな活動の不全について、協同学習などの観点から考えていきます。
■授業の目的・ねらい	新学習指導要領で示される「主体的・対話的で深い学び」の考え方に基づいた国語科授業についてのイメージをもつとともに、授業者としての留意点などについて理解すること。
■到達目標	国語科における「主体的・対話的で深い学び」の考え方や実践、その留意点などについて自分の言葉で説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0%	
・リポート試験(SR 履修)	60%	
・授業内発表	40%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	教育学演習２（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	S06100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	子どもの自主性を育むおとなの養育・教育態度
■授業の概要	日本の子どもたちの積極的な自主性の欠如が問題視されて久しいが、その背景をつきつめると、伝統的な「受容的勤勉性」を求める日本人独特の教育観に行き着くだろう。もはや、この教育観に拘り続けてきたが故に、日本人の国際的競争力・評価が低下してきたことは周知の事実である。| 本講では、他国の教育との比較の視点からではなく、日本社会における日常の子どもとおとなとのかかわり場面を取り上げ、子どもの自主性の育成につながる養育・教育態度を模索する。具体的には、乳児期における愛着形成としつけ・幼児期の自己主張と自己抑制・児童期の学習意欲に関する事例をとりあげつつ、それぞれ親・保育者・教師のかかわり方について複眼的に考察を深める。
■授業の目的・ねらい	①　乳児と親との何気ないコミュニケーションが、互いの信頼感ひいては自己調整力を育むこと|　を理解する。 ⇒「他者との充実したかかわりなくして自己の成長はない」ことの互恵的意義に|　気づく。|②　幼児どうしの偏りのないかかわり経験が、仲間どうしの個性の尊重につながることについて|　認識を深める。 ⇒日本人にとっての「自己主張」の意味を問い直し、アサーティブな態度を|　心がける。|③　児童の学習意欲が様々な要因からの影響を受け、個性に配慮しつつ学級集団への要請を行う|　ことの重要性を理解する。 ⇒学習意欲とは単なる一時的感情ではなく、期待と価値に関する|　主観的判断にもとづく極めて認知的要素を伴うことを踏まえて関わり方を考える。
■到達目標	①　資料の記述や映像から非言語的なコミュニケーションを読み取って、相互の|　情緒的交流を推測して説明する。|②　ワークシートの設題について自分なりの見解を明確に記述、他受講生の意見との|　相違点を意識したうえで複眼的な論述を行なう。|③　授業で学んだ視点を自らが営む実践活動に活かそうと考え、その視点の効用と|　限界について見通しをつけて整理を試みる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	25	
･授業内発表	15	３日間の授業内容を総合した論述を求める。|
･授業内試験	0	授業への参加態度を含め、各日 5 点満点。
･授業内課題	60	
･その他	0	授業日ごとに、設定されたテーマに関する設題（A4 判ワークシート 2-3 枚ずつ）を課す。自らの経験や知識をもとに自由記述を求めるもの、配布資料を参照しつつ論述を求めるものがある。

授業科目	教育学演習２（春期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	谷　芳恵			シラバスグループ	S06101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	教員の子ども理解と関わりの有り様について考える
■授業の概要	教育現場では、子どもをめぐる様々な問題に遭遇する。この授業では、子どもを取り巻く具体的な問題場面について、グループでのディスカッションを通して様々な角度から検討していく。また、子どもと教員の関わりの有り様が問題理解と解決に与える影響を学び、教員として私たちがどのよ うに問題に取り組んでいくことができるのかについて考えていく。
■授業の目的・ねらい	子どもの問題を理解するための多様な心理学的観点を学ぶ。|子ども理解・問題理解についての現在の自分の考えを概観する。|グループワークにおいて、自分の意見を具体化したり他者の意見を聞いたりすることで、より広い視野をもって問題解決に臨もうとするマインドとスキルを身につけることを目指す。
■到達目標	子どもの心理や問題について、心理学的観点から説明することができる。|子どもの問題の理解・解決のために、子ども自身や他の教員等と協調的にコミュニケーションを図ることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	-	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	20%	リポートのテーマは授業時に指示する
･授業内試験	-	グループワークへの参加態度の評価を含む
･授業内課題	30%	
･その他	-	Google フォームでのワークシート等課題の提出

授業科目	教育学演習２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	赤沢　真世			シラバスグループ	S06200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	児童・生徒を指導するための教育方法・技術について、これまでの著名な実践者や取り組みから学ぶとともに、これから求められる授業における方法・技術についても検討する。
■授業の概要	本授業では、教育目標を実現するために何をどのように教えるかという教育方法の課題を取り扱い、児童を指導するための方法・技術について学ぶ。発問などの指導言・教授行為、教材の設定、そして評価の各側面から具体的な実践を検討しながら検討していく。
■授業の目的・ねらい	教育方法に関する基本的な考え方や知識を修得し、授業実践での活用を考える。
■到達目標	教育方法に関する基本的な考え方や知識を修得することができる。|授業づくりに際して教員が検討すべき課題を見出すことができ、現代に求められる授業づくりのポイントを説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	20	授業内容を踏まえて関心を持ったものについて、さらに調べた内容、および自分自身の考えや実践の工夫について述べなさい。
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	教育学演習２（夏期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	奥畑　志帆			シラバスグループ	S06201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	子どもの発達と支援
■授業の概要	子どもの発達と支援の研究の進め方について学ぶ。子どもの発達を促す支援に関する一つの研究論文を例として、研究テーマの設定、文献検索、研究方法の検討、研究計画の作成、データの収集、データの分析、結果のまとめ、考察までの一連の流れを演習を含めながら追試する。
■授業の目的・ねらい	子どもの発達と支援に関する研究の進め方について、一つの研究論文を例として具体的に学習し、発達研究方法の実際を理解する。
■到達目標	一つの論文を追試することから、研究テーマの設定、文献検索、研究方法の検討、研究計画の作成、データの収集、データの分析、結果のまとめ、考察までの研究の進め方が分かる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	

授業科目	教育学特殊講義１（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S11100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	乳幼児期の保育と子どもの育ちを考える
■授業の概要	教育の現場に携わる者にとって、学校種を超えた連携や接続は大きな課題のひとつである。|この授業では、受講生の課題意識を明確化することを目指し、現在の幼児教育・保育を視座としながら各校種が行う教育活動について考える。|第１回～第３回　乳幼児期の幼児教育･保育と小学校との接続を子ども主体の教育の視点から考える|第４回～第６回　現行の幼児教育・保育について、制度、内容、方法などの視点から学ぶ|第７回～第９回　子育て支援の取り組みを視座とし、保護者との関わりについて考える
■授業の目的・ねらい	乳幼児期の子どもの育ちを支える幼児教育・保育を理解し、教育の現状と多様な課題について考える。|受講生各自が教育現場に臨むにあたっての課題意識を明確にする。
■到達目標	現行の幼児教育・保育について理解を深める。|自身が臨もうとする教育現場の課題を意識する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0|	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	教育学特殊講義２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	S12100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	キャリア教育から教育の本質を探る
■授業の概要	人の成長とは何か、人が生きるとは何か、学びとは何かなど、キャリア教育の理論と哲学を通して教育の本質を考える。職業指導・進路指導・キャリア教育の意義と目的、職業選択理論および職業適応理論、職業的発達と自己概念の形成、キャリア教育の実践と課題について学び、今日、キャリア教育の充実が求められている理由を具体的に考える。
■授業の目的・ねらい	キャリア教育および教育の本質についての理解を深めることを目的とし、（１）職業指導・進路指導・キャリア教育の意義と目的についての理解、（２）職業選択理論および職業適応理論、職業的発達等の基礎理論についての理解、（３）キャリア教育の充実のための今後の課題について意見が述べられるようになることを目的とする。
■到達目標	職業指導・進路指導・キャリア教育の意義と目的、さらにそれらにかかわる諸理論について理解すること、キャリア教育の充実のための実践について検討し、今後の課題について意見が述べられるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	0	発表および参加状況を含む

授業科目	教育学特殊講義３（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	S13100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	教師としての科学教育，環境教育の視点
■授業の概要	科学教育，環境教育に関連した報道や話題を多角的にとらえ考えていきます。環境教育に関連する資料を読み進めていき，事実に基づいて科学的な判断をしたり，討論等を通して自分なりの価値判断や意思決定をしたりしていく授業を行います。| この講義ではレジュメ作成や発表，討論を多く取り入れていきます。
■授業の目的・ねらい	物事を多角的・批判的にとらえ，自ら判断し，主体的に行動していくことのできる教員としての資質を身につけます。| 学修・調査・理解した内容を１コマのイラストや概念図と１枚のレジュメにまとめ，プレゼンテーションを通して他者に伝える能力を身につけます。
■到達目標	証拠に基づいて論じることができる。|物事を多角的，批判的に捉え考えていこうとすることができる。|自分自身で意思決定し行動していこうとすることができる。|理解したことを端的に直感的にわかるようなプレゼンテーションを行う能力を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	学修成果報告書等
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	プレゼンテーションの発表内容，討論の内容等
･授業内課題	20	
･その他	0	レジュメ作成等

授業科目	教育学特殊講義４（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	S14100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	学歴社会と学力問題
■授業の概要	日本の学歴社会は崩壊しつつある、あるいはすでに崩壊したと言われる。しかし現実にはどうなのかを様々なデータを通じて検討する。またこれとの関連で、近年盛んに繰り返されてきた教師の多忙化、教師の労働環境をめぐる問題について議論する。
■授業の目的・ねらい	学力問題をただただ個人的な経験だけに基づいて論じる時、他者に対し独りよがりな議論を強要するケースが、この種の議論においてはしばしばみられる。求められるのは自己の個人的体験を少し突き放し、相対化して眺めなおし、大局的に論じる姿勢である。このような姿勢を身に着けることが授業の目的である。
■到達目標	個人的な教育経験を相対化し、客観的なデータに基づき教育を社会学的に論じるようになること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育学特殊講義５（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	S15300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	論理的なものの考え方と小論文の書き方
■授業の概要	各種メディアから送られる様々な情報や、うわさ、思い込み、価値判断の違いなどによって、誤った考えや判断を行うことがある。欧米ではクリティカルシンキングが教育の中でも重視されている。これは、批判的な思考と訳される場合もあるが、様々な偽の情報に惑わされずに、慎重に、客観的に、また論理的に物事を考える能力のことである。本授業では、原因から結論、情報を基に判断するときに陥りやすい誤りと、誤りを防ぐための考え方を学ぶ。また、これらの考えを基に、小論文を作成を演習として行いながら、論理的に書く書き方を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	論理的なものの考え方は国際的な生徒の学習到達度調査（PISA）でも重視されているように、社会において非常に重要なものである。論理的な考え方は直ぐに身につくものではないが、この授業を受けて、論理的に考えるには、どのような点に気をつけていけばよいかを学ぶ。
■到達目標	論理的な思考、判断、表現ができるようになる。また小論文の書き方を学び、小論文の書き方のポイントが習得でき、的確な小論文が書けるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	最後に小論文を作成する試験を実施する。小論文の課題は授業で通知する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	教育学特殊講義６（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	松瀬　留美子			シラバスグループ	S16300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	教育現場における発達障害と心理的課題| 思春期･青年期の発達障害およびこの時期に起こりやすい心理的問題から問題提起をし、教育現場での心理教育支援の在り方を理解する。|
■授業の概要	近年、教育現場で児童生徒や学生に関わる際に、発達障害と性同一性（性別違和、性的指向）に関する専門的知識と配慮は不可欠である。このような思春期青年期の同一性の課題は不登校やひきこもり、メンタルヘルスなど、その後の生き方に影響を及ぼす大きなテーマであり、その本質を理解し心理支援を行う必要がある。さらにこの時期には思春期に起こりやすい心の病も増加する。しかし、現職者、保護者、また当事者においても、配慮が必要であるという認識はされてはいるものの、未だに表面的な理解と対応に留まっているという現状がある。| 本講義では、思春期青年期の心理的課題をテーマとし、主に学校教育現場における発達障害、不登校、いじめ問題や性同一性について、また、メンタルヘルスからは、自傷行為や大量服薬、依存症（ネット依存。ゲーム障害）などの話題提供を行う。それらを通して青年期の発達と心理を理解し、心理教育的支援を検討することを目的とする。| 本講義では前半は発達障害の現状について DSM5-TR の概念を基に理解し、発達障害の特性を有する生徒への対応を考える。中盤以降は不登校、いじめ問題、性別違和や性的指向といった性同一性のテーマ、自傷、依存症などのメンタルヘルスを題材とし、思春期の生徒理解や教師の対応を検討する。全体を通して理論と状態像、現状を総合的に考察する。
■授業の目的・ねらい	自閉スペクトラム症、注意欠如多動症の診断基準、状態像を理解し、いじめ問題や不登校を含めた教育現場における問題を明確にする。青年期のこころの課題からは性同一性（性別違和、性的指向)、リストカット、ゲーム障害（ネット依存)、メンタルヘルスなどについて考える。配布する資料を読み込み、学校教育や医療で、また自己理解に活用できる知識を習得することを目的とする。
■到達目標	学校教職員や医療福祉現場の指導者として必要な青年期の「発達障害」の特性を理解し、発達障害者の課題と心理教育支援を学ぶ。また、併せて、いじめや不登校の現状を理解する。さらに、学校教育現場で近年、配慮の要請がなされている「性同一性（性別違和・性的指向)」の課題と現状を理解し、教育現場で可能な支援を検討して自分の考えをまとめる。精神的な課題からは「自傷」や「ゲーム障害」などのメンタルヘルスをとりあげ、臨床心理学的および精神医学的な視点で理解し、教師の対応の姿勢を修得する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	オンライン授業のためリポート試験を行う。
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	本科目のスクーリング授業の全日全講義に出席していることを前提とする。授業内課題を含む。
･授業内課題	0%‖	
･その他	0%	授業内発表に含まれる。

授業科目	教育学特殊講義７（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	盛永　俊弘			シラバスグループ	S17200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	「学校現場の喫緊の課題」の解決策を新たな視点で考える。
■授業の概要	児童生徒理解、授業改革、学級・学校づくりの 3 つの視点から、今日の学校課題の理解と対応策・解決策を考える。|
■授業の目的・ねらい	・学校の現状と喫緊の課題の理解を深める。|・これからの学校のあり方を考えながら、課題解決の方向性を考える。|
■到達目標	・学校の現状と喫緊の課題の理解を深めることができた。|・これからの学校のあり方を考えながら、課題解決の方向性を考えることができた。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	90%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0%	参加状況
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育学特殊講義８（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S18200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	被差別部落の現況と部落問題の今日的課題
■授業の概要	講義では「部落問題解決に向けて取り組まれてきた戦後の被差別部におけるまちづくりを講義、人権資料館ツラッティ千本へのフィールドワークをとおして考察する。
■授業の目的・ねらい	『人権の世紀』とも言われる 21 世紀を迎えた今日の日本社会において、人権にかかわる重大な問題として部落（同和）問題が存在している。1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、様々な行政的な施策によって同和地区の実態や人々の人権意識は大きく前進した。20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体においても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、また、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」-を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案)」が 2016 年 12 月に成立施行（2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 5 月国会で成立）と「マイノリティ三法」が 2016 年に施行し「人権教育」が担うべき役割は大きい。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が、そして自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。同和教育は、そうした部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　講義では「部落問題解決に向けて取り組まれてきた戦後の被差別部におけるまちづくりを講義、人権資料館ツラッティ千本などへのフィールドワークをとおして考察する。
■到達目標	講義題目にあるように「部落問題と人権・同和教育の実際と今日的課題とは何か？」を問題意識として講義に参加しながらリポート試験でまとめること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	10%	

授業科目	初等理科教育法（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	S31200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	小学校理科授業づくり
■授業の概要	小学校理科教育の理論と実践について授業を進めます。A 区分：物質・エネルギー（エネルギー，粒子)，B 区分：生命・地球の観察や実験の授業を取り上げ，授業づくりの視点や方法について学んでいきます。安全な観察・実験の方法を学びつつ，学習指導案を作成し模擬授業を実施していきます。
■授業の目的・ねらい	小学校教員として必要な理科における知識や技能を身につけ，観察や実験を伴った授業展開ができる教員を目指します。あわせて理科学習論に基づいた授業設計ができ，学習指導案を作成する力を身につけていきます。
■到達目標	小学校教員として必要な理科における学習内容の知識や技能を身につけ，自ら実践することができる。| 学習指導要領と理科学習論に基づいた授業設計を行い，学習指導案を作成することができる。|1．理科という教科の意義・目標を理解する。|2．理科の学習領域・内容を理解する。|3．理科における学力と評価の在り方について理解する。|4．理科指導技術の基本を身につけている。|5．理科指導に適した情報機器及び教材の活用能力を身につけている。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	60%	

授業科目	初等音楽教育法（春期)A クラス_対面				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S32100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	小学校音楽科授業づくりの力量形成
■授業の概要	本講義は、学習指導要領をめぐって、音楽科授業づくりの基礎理論、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、特別支援教育と音楽科（音楽療法)、学級経営と音楽科、といったテーマを中心に授業を展開する。このテーマに基づき、模擬授業や学習指導案作成を通して音楽科授業づくりの力量を高める。‖
■授業の目的・ねらい	上記の授業概要を習得することにより，小学校学習指導要領に従って小学校音楽科授業を創造できる力量を備える。
■到達目標	１．学習指導要領の目標・内容を理解し授業に反映することができるようになる。|２．音楽科学習指導案の作成と授業分析ができるようになる。|３．歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の全ての授業が構想・実践できるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	音楽理論、音楽教育法、音楽専門の授業内で、各分野全てにおいて試験を行い総合評価とする（グループ等の発表，総合ポートフォリオを基盤としたレポート)。|音楽専門については、先に示したグレードに従って試験をする（いずれかのグレードに合格すること)。|【重要】各分野の受験資格は、３日間の全講義に出席していることを前提とする。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	初等音楽教育法（春期)B クラス_対面				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S32101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	小学校音楽科授業づくりの力量形成
■授業の概要	本講義は、学習指導要領をめぐって、音楽科授業づくりの基礎理論、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、特別支援教育と音楽科（音楽療法)、学級経営と音楽科、といったテーマを中心に授業を展開する。このテーマに基づき、模擬授業や学習指導案作成を通して音楽科授業づくりの力量を高める。‖
■授業の目的・ねらい	上記の授業概要を習得することにより，小学校学習指導要領に従って小学校音楽科授業を創造できる力量を備える。
■到達目標	１．学習指導要領の目標・内容を理解し授業に反映することができるようになる。|２．音楽科学習指導案の作成と授業分析ができるようになる。|３．歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の全ての授業が構想・実践できるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	音楽理論、音楽教育法、音楽専門の授業内で、各分野全てにおいて試験を行い総合評価とする（グループ等の発表，総合ポートフォリオを基盤としたレポート)。|音楽専門については、先に示したグレードに従って試験をする（いずれかのグレードに合格すること)。|【重要】各分野の受験資格は、３日間の全講義に出席していることを前提とする。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	初等音楽教育法（夏期)1 週 A クラス_オンデマンド,オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S32210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	小学校音楽科授業づくりの力量形成
■授業の概要	本講義は、学習指導要領をめぐって、音楽科授業づくりの基礎理論、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、特別支援教育と音楽科（音楽療法)、学級経営と音楽科、といったテーマを中心に授業を展開する。このテーマに基づき、模擬授業や学習指導案作成を通して音楽科授業づくりの力量を高める。
■授業の目的・ねらい	上記の授業概要を習得することにより，小学校学習指導要領に従って小学校音楽科授業を創造できる力量を備える。
■到達目標	１．学習指導要領の目標・内容を理解し授業に反映することができるようになる。|2．音楽科学習指導案の作成と授業分析ができるようになる。|3．歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の全ての授業が構想・実践できるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	授業のテーマをまとめて複数のブロックに分け課題を設定します。その課題を試験として評価します。|【重要】全ての課題を提出することが，単位認定の条件です。|
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	30%	

授業科目	初等音楽教育法（夏期)2 週 A クラス_オンデマンド,オンライン				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S32220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	小学校音楽科授業づくりの力量形成
■授業の概要	本講義は、学習指導要領をめぐって、音楽科授業づくりの基礎理論、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、特別支援教育と音楽科（音楽療法)、学級経営と音楽科、といったテーマを中心に授業を展開する。このテーマに基づき、模擬授業や学習指導案作成を通して音楽科授業づくりの力量を高める。
■授業の目的・ねらい	上記の授業概要を習得することにより，小学校学習指導要領に従って小学校音楽科授業を創造できる力量を備える。
■到達目標	１．学習指導要領の目標・内容を理解し授業に反映することができるようになる。|２．音楽科学習指導案の作成と授業分析ができるようになる。|３．歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の全ての授業が構想・実践できるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	授業のテーマをまとめて複数のブロックに分け課題を設定します。その課題を試験として評価します。|【重要】全ての課題を提出することが，単位認定の条件です。|
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	30%	

授業科目	初等音楽教育法（秋期)A クラス_オンデマンド＋オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志		シラバスグループ	S32300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	小学校音楽科授業づくりの力量形成
■授業の概要	本講義は、学習指導要領をめぐって、音楽科授業づくりの基礎理論、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、特別支援教育と音楽科（音楽療法)、学級経営と音楽科、といったテーマを中心に授業を展開する。このテーマに基づき、模擬授業や学習指導案作成を通して音楽科授業づくりの力量を高める。
■授業の目的・ねらい	上記の授業概要を習得することにより，小学校学習指導要領に従って小学校音楽科授業を創造できる力量を備える。
■到達目標	１．学習指導要領の目標・内容を理解し授業に反映することができるようになる。|２．音楽科学習指導案の作成と授業分析ができるようになる。|３．歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の全ての授業が構想・実践できるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	授業のテーマをまとめて複数のブロックに分け課題を設定します。その課題を試験として評価します。|【重要】全ての課題を提出することが，単位認定の条件です。|
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	30%	

授業科目	初等音楽教育法（冬期)A クラス_オンデマンド＋オンライン				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S32400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	小学校音楽科授業づくりの力量形成
■授業の概要	本講義は、学習指導要領をめぐって、音楽科授業づくりの基礎理論、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、特別支援教育と音楽科（音楽療法)、学級経営と音楽科、といったテーマを中心に授業を展開する。このテーマに基づき、模擬授業や学習指導案作成を通して音楽科授業づくりの力量を高める。
■授業の目的・ねらい	上記の授業概要を習得することにより，小学校学習指導要領に従って小学校音楽科授業を創造できる力量を備える。
■到達目標	１．学習指導要領の目標・内容を理解し授業に反映することができるようになる。|２．音楽科学習指導案の作成と授業分析ができるようになる。|３．歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の全ての授業が構想・実践できるようになる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	授業のテーマをまとめて複数のブロックに分け課題を設定します。その課題を試験として評価します。|【重要】全ての課題を提出することが，単位認定の条件です。|
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	30%	

授業科目	初等図画工作教育法（春期)A クラス_オンデマンド＋オンライン			単位	2
担当者	波多野　達二			シラバスグループ	S33100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	図画工作科指導に必要とされる知識と技能
■授業の概要	表現及び鑑賞の活動を通して、子ども達が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を高めることができる図画工作科指導や評価のあり方、および小学校学習指導要領に示されている目標や内容に沿った授業のあり方についての講義・実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	履修に際しては、「体験から学ぶ」ことを大切にする。本講義・実技は、履修者本人が表現・鑑賞活動の楽しさを充分味わいつつ、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、子どもがどのように形や色をとらえ、イメージをもち考えたり構成したり試行錯誤しているのか理解すると共に、材料や用具を使ったり生かしたりするための基礎的・基本的事項を充分身につけ、指導者としての資質・能力を養うことが目的である。|
■到達目標	本講義・実技の学習内容の要点は、小学校教員として図画工作科を指導する上で必要とされる子どもの発達段階を考慮した造形美術表現の基本的な態度と知識・技能を習得することである。履修者本人が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、教材・教具のもつ基礎的・基本的事項を身につけるとともに、指導者としての資質・能力を養うことが目標である。| 試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とし、1600 字程度のリポート課題とする。100 点満点で 60 点以上を合格とする。また、実技の作品や制作態度等を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。最終評価は、試験・実技の総合評価で行う。ただし、講義・実技どちらか一方が不合格である場合は、総合点が合格であっても不合格とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・リポート試験(SR 履修)	0	試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とするリポート課題。100 点満点で 60 点以上を合格とする。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50	

授業科目	初等図画工作教育法（春期)B クラス_オンデマンド＋オンライン			単位	2
担当者	波多野　達二			シラバスグループ	S33101
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	図画工作科指導に必要とされる知識と技能
■授業の概要	表現及び鑑賞の活動を通して、子ども達が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を高めることができる図画工作科指導や評価のあり方、および小学校学習指導要領に示されている目標や内容に沿った授業のあり方についての講義・実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	履修に際しては、「体験から学ぶ」ことを大切にする。本講義・実技は、履修者本人が表現・鑑賞活動の楽しさを充分味わいつつ、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、子どもがどのように形や色をとらえ、イメージをもち考えたり構成したり試行錯誤しているのか理解すると共に、材料や用具を使ったり生かしたりするための基礎的・基本的事項を充分身につけ、指導者としての資質・能力を養うことが目的である。|
■到達目標	本講義・実技の学習内容の要点は、小学校教員として図画工作科を指導する上で必要とされる子どもの発達段階を考慮した造形美術表現の基本的な態度と知識・技能を習得することである。履修者本人が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、教材・教具のもつ基礎的・基本的事項を身につけるとともに、指導者としての資質・能力を養うことが目標である。| 試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とし、1600 字程度のリポート課題とする。100 点満点で 60 点以上を合格とする。また、実技の作品や制作態度等を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。最終評価は、試験・実技の総合評価で行う。ただし、講義・実技どちらか一方が不合格である場合は、総合点が合格であっても不合格とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・リポート試験(SR 履修)	0	試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とするリポート課題。100 点満点で 60 点以上を合格とする。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50	

授業科目	初等図画工作教育法（春期)C クラス_オンデマンド＋オンライン			単位	2
担当者	波多野　達二			シラバスグループ	S33102
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	図画工作科指導に必要とされる知識と技能
■授業の概要	表現及び鑑賞の活動を通して、子ども達が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を高めることができる図画工作科指導や評価のあり方、および小学校学習指導要領に示されている目標や内容に沿った授業のあり方についての講義・実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	履修に際しては、「体験から学ぶ」ことを大切にする。本講義・実技は、履修者本人が表現・鑑賞活動の楽しさを充分味わいつつ、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、子どもがどのように形や色をとらえ、イメージをもち考えたり構成したり試行錯誤しているのか理解すると共に、材料や用具を使ったり生かしたりするための基礎的・基本的事項を充分身につけ、指導者としての資質・能力を養うことが目的である。|
■到達目標	本講義・実技の学習内容の要点は、小学校教員として図画工作科を指導する上で必要とされる子どもの発達段階を考慮した造形美術表現の基本的な態度と知識・技能を習得することである。履修者本人が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、教材・教具のもつ基礎的・基本的事項を身につけるとともに、指導者としての資質・能力を養うことが目標である。| 試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とし、1600 字程度のリポート課題とする。100 点満点で 60 点以上を合格とする。また、実技の作品や制作態度等を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。最終評価は、試験・実技の総合評価で行う。ただし、講義・実技どちらか一方が不合格である場合は、総合点が合格であっても不合格とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・リポート試験(SR 履修)	0	試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とするリポート課題。100 点満点で 60 点以上を合格とする。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50	

授業科目	初等図画工作教育法（春期)D クラス_オンデマンド＋オンライン			単位	2
担当者	波多野　達二			シラバスグループ	S33103
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	図画工作科指導に必要とされる知識と技能
■授業の概要	表現及び鑑賞の活動を通して、子ども達が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を高めることができる図画工作科指導や評価のあり方、および小学校学習指導要領に示されている目標や内容に沿った授業のあり方についての講義・実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	履修に際しては、「体験から学ぶ」ことを大切にする。本講義・実技は、履修者本人が表現・鑑賞活動の楽しさを充分味わいつつ、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、子どもがどのように形や色をとらえ、イメージをもち考えたり構成したり試行錯誤しているのか理解すると共に、材料や用具を使ったり生かしたりするための基礎的・基本的事項を充分身につけ、指導者としての資質・能力を養うことが目的である。|
■到達目標	本講義・実技の学習内容の要点は、小学校教員として図画工作科を指導する上で必要とされる子どもの発達段階を考慮した造形美術表現の基本的な態度と知識・技能を習得することである。履修者本人が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、教材・教具のもつ基礎的・基本的事項を身につけるとともに、指導者としての資質・能力を養うことが目標である。| 試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とし、1600 字程度のリポート課題とする。100 点満点で 60 点以上を合格とする。また、実技の作品や制作態度等を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。最終評価は、試験・実技の総合評価で行う。ただし、講義・実技どちらか一方が不合格である場合は、総合点が合格であっても不合格とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・リポート試験(SR 履修)	0	試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とするリポート課題。100 点満点で 60 点以上を合格とする。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50	

授業科目	初等図画工作教育法（夏期)1 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	波多野　達二			シラバスグループ	S33210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	図画工作科指導に必要とされる知識と技能
■授業の概要	表現及び鑑賞の活動を通して、子ども達が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を高めることができる図画工作科指導や評価のあり方、および小学校学習指導要領に示されている目標や内容に沿った授業のあり方についての講義・実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	履修に際しては、「体験から学ぶ」ことを大切にする。本講義・実技は、履修者本人が表現・鑑賞活動の楽しさを充分味わいつつ、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、子どもがどのように形や色をとらえ、イメージをもち考えたり構成したり試行錯誤しているのか理解すると共に、材料や用具を使ったり生かしたりするための基礎的・基本的事項を充分身につけ、指導者としての資質・能力を養うことが目的である。|
■到達目標	本講義・実技の学習内容の要点は、小学校教員として図画工作科を指導する上で必要とされる子どもの発達段階を考慮した造形美術表現の基本的な態度と知識・技能を習得することである。履修者本人が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、教材・教具のもつ基礎的・基本的事項を身につけるとともに、指導者としての資質・能力を養うことが目標である。| 試験については、１日目?３日目午前・前半（試験前まで）の講義、実技すべての内容を出題範囲とする。(プリント・ノート類の持ち込み・参照、一切不可)。100 点満点で 60 点以上を合格とする。また、実技の作品や制作態度等を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。最終評価は、試験・実技の総合評価で行う。ただし、講義・実技どちらか一方が不合格である場合は、総合点が合格であっても不合格とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	試験については、１日目?３日目午前・前半（試験前まで）の講義、実技すべての内容を出題範囲とする。(プリント・ノート類の持ち込み・参照、一切不可)。100 点満点で 60 点以上を合格とする。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	50	

授業科目	初等図画工作教育法（夏期)2 週_A クラス_オンライン				単位	2
担当者	波多野　達二			シラバスグループ	S33220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	図画工作科指導に必要とされる知識と技能
■授業の概要	表現及び鑑賞の活動を通して、子ども達が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を高めることができる図画工作科指導や評価のあり方、および小学校学習指導要領に示されている目標や内容に沿った授業のあり方についての講義・実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	履修に際しては、「体験から学ぶ」ことを大切にする。本講義・実技は、履修者本人が表現・鑑賞活動の楽しさを充分味わいつつ、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、子どもがどのように形や色をとらえ、イメージをもち考えたり構成したり試行錯誤しているのか理解すると共に、材料や用具を使ったり生かしたりするための基礎的・基本的事項を充分身につけ、指導者としての資質・能力を養うことが目的である。|
■到達目標	本講義・実技の学習内容の要点は、小学校教員として図画工作科を指導する上で必要とされる子どもの発達段階を考慮した造形美術表現の基本的な態度と知識・技能を習得することである。履修者本人が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、教材・教具のもつ基礎的・基本的事項を身につけるとともに、指導者としての資質・能力を養うことが目標である。| 試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とし、1600 字程度のリポート課題とする。100 点満点で 60 点以上を合格とする。また、実技の作品や制作態度等を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。最終評価は、試験・実技の総合評価で行う。ただし、講義・実技どちらか一方が不合格である場合は、総合点が合格であっても不合格とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・リポート試験(SR 履修)	0	試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とするリポート課題。100 点満点で 60 点以上を合格とする。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50	

授業科目	初等図画工作教育法（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	波多野　達二			シラバスグループ	S33300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	図画工作科指導に必要とされる知識と技能
■授業の概要	表現及び鑑賞の活動を通して、子ども達が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を高めることができる図画工作科指導や評価のあり方、および小学校学習指導要領に示されている目標や内容に沿った授業のあり方についての講義・実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	履修に際しては、「体験から学ぶ」ことを大切にする。本講義・実技は、履修者本人が表現・鑑賞活動の楽しさを充分味わいつつ、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、子どもがどのように形や色をとらえ、イメージをもち考えたり構成したり試行錯誤しているのか理解すると共に、材料や用具を使ったり生かしたりするための基礎的・基本的事項を充分身につけ、指導者としての資質・能力を養うことが目的である。|
■到達目標	本講義・実技の学習内容の要点は、小学校教員として図画工作科を指導する上で必要とされる子どもの発達段階を考慮した造形美術表現の基本的な態度と知識・技能を習得することである。履修者本人が、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、子どもの多様な個性的表現活動を支援し得るように、教材・教具のもつ基礎的・基本的事項を身につけるとともに、指導者としての資質・能力を養うことが目標である。|　試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とし、1600 字程度のリポート課題とする。100 点満点で 60 点以上を合格とする。また、実技の作品や制作態度等を評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。最終評価は、試験・実技の総合評価で行う。ただし、講義・実技どちらか一方が不合格である場合は、総合点が合格であっても不合格とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・リポート試験(SR 履修)	0	試験については、１日目?３日目の講義、実技すべての内容を出題範囲とするリポート課題。100 点満点で 60 点以上を合格とする。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50	

授業科目	初等体育教育法（夏期)1 週 A クラス_オンデマンド,オンライン			単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	S34210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	小学校体育科における指導理論と実践
■授業の概要	小学校体育授業で学習する基本的・基礎的学習内容（体つくり運動，器械運動，陸上運動，水泳運動，ボール運動，表現運動，保健）を理解することで教師として自己成長するための方法を探求する。学習指導案作成の留意点や体育科評価の視点について学び，指導のポイントを習得する。
■授業の目的・ねらい	小学校体育科の特質と目標，内容と指導方法についての知識や技能を習得する。
■到達目標	体育科の目標・内容を理解し学習指導案を作成することができる。体育授業を行う上での留意事項を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	20	

授業科目	初等体育教育法（夏期)2 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	S34220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	小学校体育科における指導理論と実践
■授業の概要	小学校体育授業で学習する基本的・基礎的学習内容（体つくり運動，器械運動，陸上運動，水泳運動，ボール運動，表現運動，保健）を理解することで教師として自己成長するための方法を探求する。学習指導案作成の留意点や体育科評価の視点について学び，指導のポイントを習得する。
■授業の目的・ねらい	小学校体育科の特質と目標，内容と指導方法についての知識や技能を習得する。
■到達目標	体育科の目標・内容を理解し学習指導案を作成することができる。体育授業を行う上での留意事項を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	20	

授業科目	初等体育教育法（秋期)A クラス_オンデマンド＋オンライン			単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	S34300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	小学校体育科における指導理論と実践
■授業の概要	小学校体育授業で学習する基本的・基礎的学習内容（体つくり運動，器械運動，陸上運動，水泳運動，ボール運動，表現運動，保健）を理解することで教師として自己成長するための方法を探求する。学習指導案作成の留意点や体育科評価の視点について学び，指導のポイントを習得する。
■授業の目的・ねらい	小学校体育科の特質と目標，内容と指導方法についての知識や技能を習得する。
■到達目標	体育科の目標・内容を理解し学習指導案を作成することができる。体育授業を行う上での留意事項を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	20	

授業科目	初等体育教育法（冬期)A クラス_オンデマンド＋オンライン				単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	S34400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	小学校体育科における指導理論と実践
■授業の概要	小学校体育授業で学習する基本的・基礎的学習内容（体つくり運動，器械運動，陸上運動，水泳運動，ボール運動，表現運動，保健）を理解することで教師として自己成長するための方法を探求する。学習指導案作成の留意点や体育科評価の視点について学び，指導のポイントを習得する。
■授業の目的・ねらい	小学校体育科の特質と目標，内容と指導方法についての知識や技能を習得する。
■到達目標	体育科の目標・内容を理解し学習指導案を作成することができる。体育授業を行う上での留意事項を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	20	

授業科目	教育学演習３（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	杉本　均			シラバスグループ	S07200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	教育制度の国際比較
■授業の概要	教育制度は世界のどの国にも存在し、誰もが通過する社会システムであるが、それらの国家を超えての連続性や互換性は思ったほど保証されているとは言えない。日本を含む世界の各国において、教育を比較するためのどのような基準や尺度が存在するであろうか。また教育を統計的に比較する場合にはどのようなことに注意すべきかなどについて検討する。具体的なトピックとしては、カリキュラム、学校文化・行事、教科書などを題材とする。
■授業の目的・ねらい	私たちはこの国の教育制度のなかで育ってきたため、自国の教育についてはよく知っていると思っている場合が多い。しかし世界の多くの国の教育問題を調べると、いままで意識してこなかった日本の教育問題の特徴に気づくことができる。またそれらの国々の教育問題への取り組みを知ることによって、いままで気づかなかった解決法や取り組みのヒントを得ることができる場合もある。本授業ではそのような自らの教育への振り返りによって、教育の世界観を広げることを目的としている。
■到達目標	日本や諸外国の教育問題について調べ、国際比較によって日本の状況の位置づけや問題の特徴について理解する。あわせて外国の取り組みのなかで日本の教育問題の改善や解決に参考になるようなものがないかを考察して提起する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	
･授業内発表	10%	
･授業内試験	30%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育学演習３（夏期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S07201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	インターネット・SNS 上で横行する部落差別やその他、様々な差別行為の生起する現状をふまえ、現代社会に求められる人権教育の在り方について考える。
■授業の概要	担当者が現場で実践を進めてきた同和教育について、理念・経緯・実践そして成果と課題を明確化する。そして教育現場で子ども達が学ぶ同和問題に関わる学習について、その基盤となる部落の歴史を前近代・近現代と概観し、現代的課題として、2016 年制定のマイノリティ三法（部落細別解消法・障害者差別解消法・ヘイトスピーチ解消法）をもとに人権教育の役割について考えを深める。|
■授業の目的・ねらい	１．同和教育の意義・理念について認識を深め、教育現場で実践された取組の経緯について理解を深める。|２．小学校６年生以降、社会科（歴史・公民）において児童・生徒が学ぶ「同和問題に関わる単元の学習」の基盤である部落の歴史について、中世・近世・近代・現代の通史を学ぶ。|３．部落差別解消推進法・障害者差別解消法・ヘイトスピーチ解消法が 2016 年に制定された背景を踏まえ、人権に関わる現代的課題を見据え、必要な取組について考える。|
■到達目標	・部落の歴史を踏まえ、戦後の同和教育の取組について知り、成果を評価し、課題について解決のための考えを深める。|・部落差別解消推進法第 5 条の具現化についてその実践化に向けた考えを確立する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	50	

授業科目	教育学演習３（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	相馬　伸一			シラバスグループ	S07300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	教育的態度を考える
■授業の概要	私たちは生まれてから今まで多くの教育を受ける機会を得てきました。ですから、教育について何か言うように求められれば、何か言うことができます。しかし、その多くは「教育を受ける側」としての意見です。そして、高度消費社会を生きる私たちは、教育を受けることをサービスのように見なし、受ける側の満足度を高めるように求めがちです。ゆえに、そうした意見は「教育をする側」「教育を何とかしようとする側」の意見とはずれてしまいがちです。この演習では、親・教師・先輩といった広い意味での教育者としての責任を担おうとするとき、どのような態度をとることが望ましいかを考えます。
■授業の目的・ねらい	教育においては、まったなしの対応が求められます。すべてを予測することはできませんが、さまざまなケースを想定して、自分の考えをまとめておくことは無駄ではありません。心理学者のピアジェがいうとおりならば、私たちの行動は手持ちのシェマ（スキーム）に左右されます。私たちの素朴な教育へのシェマを見直すきっかけを得てもらえたらと思います。
■到達目標	①教育的態度をとるのに必要な論点を考えることができる。|②協働して学び、自己の意見を振り返ることができる。|③これから自身が教育者としての役割を担う際の留意点を考察できる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	60	
･授業内試験	0	演習への出席 40%、グループワーク参加の相互評価 20%
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	教育学演習３（秋期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	S07301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	教育とユーモア
■授業の概要	教室という場所で起こるユーモアや笑いが、授業・学級に大きな影響を与えるものであることは、多くの人によって経験的に支持されるであろう。本講座では、そのような「教室ユーモア」の意味や意義、効果や危険性などについて学ぶ。
■授業の目的・ねらい	教室で起こる笑いやユーモアについて理解を深めるとともに、指導方略としての笑いについて知ること。
■到達目標	教室ユーモアに関する理解を深め、その学びについて自分の言葉で説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	教育学演習４（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	S08200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	算数・数学の授業研究
■授業の概要	算数・数学教育において，基礎的・基本的な知識・技能を活用する力を育成し，学ぶことの意義や有用性を実感できるような学習活動の充実が求められている。ここで重要になってくることは，教員が指導内容の構造・体系を把握すること，児童生徒も学習内容のつながりを理解することである。そこで，指導内容の構造・体系に基づいた授業作りを行う。
■授業の目的・ねらい	指導内容の体系を把握する。|指導内容の体系を意識した教材研究のあり方について理解する。|指導内容の体系をもとした授業作りについて理解する。|
■到達目標	指導内容の体系把握できる。|指導内容の体系を意識した教材研究ができる。|指導内容の体系をもとに授業づくりができる。|評価は，授業内の活動(個人・班)への取り組みとリポートで行う。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	25	リポート試験にて実施する。|3 日間の内容を振り返りと考察を含めたリポートの評価。
･授業内試験	0	班でまとめた内容の発表または模擬授業の評価。
･授業内課題	25	
･その他	0	授業で提示した課題に対する評価。

授業科目	教育学演習４（夏期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	杉本　均			シラバスグループ	S08201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	教育問題の国際比較
■授業の概要	近年日本でも様々な教育問題が論じられ教育改革の必要が検討されている。例えば、児童･生徒の学力低下問題、イジメや不登校の問題、道徳と宗教教育の問題、英語教育の問題、教員の養成と免許制度の問題、そして公立学校での才能教育の問題などがあげられる。これらの問題において日本は世界の中でどのような状況なのか、日本だけの固有な問題なのか、外国の取り組みや改革で、日本の問題解決・改善の参考になるものはないのか。日本に閉じこもった狭い視野からは見えにくい性質について、世界的視野から国際的比較を通じて考察する。
■授業の目的・ねらい	私たちはこの国の教育制度のなかで育ってきたため、自国の教育についてはよく知っていると思っている場合が多い。しかし世界の多くの国の教育問題を調べると、いままで意識してこなかった日本の教育問題の特徴に気づくことができる。またそれらの国々の教育問題への取り組みを知ることによって、いままで気づかなかった解決法や取り組みのヒントを得ることができる場合もある。本授業ではそのような自らの教育への振り返りによって、教育の世界観を広げることを目的としている。
■到達目標	本や諸外国の教育問題について調べ、国際比較によって日本の状況の位置づけや問題の特徴について理解する。あわせて外国の取り組みのなかで日本の教育問題の改善や解決に参考になるようなものがないかを考察して提起する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	
･授業内発表	10%	
･授業内試験	30%	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	教育学演習４（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	二澤　善紀			シラバスグループ	S08300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	わが国における幼児教育・保育の基礎的理解
■授業の概要	わが国の幼児教育・保育のガイドラインである、幼稚園教育要領及び保育所保育指針等に示される教育・保育のねらいと内容（5 領域）について理解し、幼児期における教育の基本的な考え方について学ぶ。幼児が様々な体験を積み重ねながら総合的に発達することを理解し、遊びを中心とした保育内容や総合的な指導のあり方について理解する。実践事例を通して遊びや生活における幼児の取り組み、教師・保育者のかかわり、環境構成等について具体的に理解し，総合的に指導する視点を養う。
■授業の目的・ねらい	わが国における幼児教育・保育の基礎的理解をはかるとともに、具体的な幼児教育・保育実践の方法について学ぶ。
■到達目標	1.幼稚園教育要領及び保育所保育指針の意義と役割について理解する。|2,幼児教育・保育における「ねらい」と「内容」を理解する。|3.環境を通して行う保育について理解する。|4.幼児教育・保育における遊びについて理解する。|5.子どもを主体とした保育を実践するための教師・保育者の役割につて理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	10%	授業の最終コマで、リポート課題を提示します。
･授業内試験	0%	授業中でのグループワークの活動、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等)、および課題リポートを総合的に評価します。
･授業内課題	20%	
･その他	0%	授業中でのグループワークの活動、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等)、および課題リポートを総合的に評価します。

授業科目	教育学演習４（秋期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	原　清治			シラバスグループ	S08301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	若者の就労と教育
■授業の概要	現代の若者の就労については、かつての安定した正社員雇用だけではなく、フリーターやニート、低賃金労働など、様々な形態があり、マスコミでも取り上げられている。しかし、これらの概念は実は正確に理解されないまま論議だけが先走りしている傾向が見られる。本講義では、これら若者の就職と教育について議論する。
■授業の目的・ねらい	フリーター、ニート、低賃金労働などの学術的な定義を正確に理解するとともに、その実態を理解することです。また、ワーキング・プア、派遣労働者、個人請負など様々な、新しい貧困層も近年論じられるようになってきている。これらの語義の正確な理解と実態の把握も課題となります。|平常の授業においてアクティブ・ラーニングを前提としたグループ・ディスカッションを行い、また指名して授業者の質問に応答することを求め、正確な理解ができているかどうかを確認します。また、リポート（リポート試験）においては語義の正確な理解と実態の正確な把握を前提にした基本的な論述式の設題により理解力を見ます。|
■到達目標	１．フリーターやニートの違いについて、学術的な見地のもとに説明できる。| ２．若年就労のどの点に問題があるのか、自分の意見を述べることができる。| ３．海外と日本の若年就労に対するとらえ方はどこに違いがあるのか説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	代数学演習（夏期)1 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	月岡　卓也			シラバスグループ	S23210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	整数論入門
■授業の概要	「整数論」の基礎を学習します．整数に関する基礎知識の習得は算数/数学教育においても重要ですが，代数学の発展的な概念を学ぶ上でも欠かせません．数とその四則演算の振り返りからはじめて，整数に関するいくつかの話題を議論していきます.「割り算とその余り」という既知の概念を再訪/熟考し，「整数の合同」という概念へと発展させます．多くの具体例を援用しながら，代数学の奥深さを味わうことを目的とします．
■授業の目的・ねらい	「具体化」と「抽象化」を行き来する過程で，数学的思考力を高めることを目標とします．「数とは何か」,「演算とは何か」からはじめて，これまで学んできた算数/数学を改めて見つめ直す機会を提供したいと思います．数学教員として，今後，より高級な数学を学ぶ/研究していくためのはじめの一歩となればと考えています．‖成績は，講義資料に沿った内容から出題する筆記試験（60 分，講義資料参照可）にて評価します．
■到達目標	・ 数の体系について理解できる．｜・ 割り算とその余りを使った整数の分類や構築について理解できる．｜・ 合同式を理解し，それを様々な問題に具体的に運用できる．

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80	
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	20	
·その他	0	

授業科目	代数学演習（夏期)2 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	月岡　卓也			シラバスグループ	S23220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	整数論入門
■授業の概要	「整数論」の基礎を学習します．整数に関する基礎知識の習得は算数/数学教育においても重要ですが，代数学の発展的な概念を学ぶ上でも欠かせません．数とその四則演算の振り返りからはじめて，整数に関するいくつかの話題を議論していきます.「割り算とその余り」という既知の概念を再訪/熟考し，「整数の合同」という概念へと発展させます．多くの具体例を援用しながら，代数学の奥深さを味わうことを目的とします．
■授業の目的・ねらい	「具体化」と「抽象化」を行き来する過程で，数学的思考力を高めることを目標とします．「数とは何か」,「演算とは何か」からはじめて，これまで学んできた算数/数学を改めて見つめ直す機会を提供したいと思います．数学教員として，今後，より高級な数学を学ぶ/研究していくためのはじめの一歩となればと考えています．‖成績は，講義資料に沿った内容から出題する筆記試験（60 分，講義資料参照可）にて評価します．
■到達目標	・ 数の体系について理解できる．|・ 割り算とその余りを使った整数の分類や構築について理解できる．|・ 合同式を理解し，それを様々な問題に具体的に運用できる．

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80	
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	20	
·その他	0	

授業科目	幾何学演習（夏期)1 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	内田　吉昭			シラバスグループ	S24210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	一筆書きの図形のように点と線からできている図形をグラフといいます。一筆書きの問題・あみだ籤の問題、地図の色塗りなどを通してグラフの性質を学んでいきます。数学の知識はあまり必要ありませんが、理論的な考え方は必要なので講義の中で考え方の練習を行います。興味のある方は京都の路線バスの路線図で同じ路線を通らずにどれだけ長く移動できるかを考えてください。少中高校の数学教員をする場合の，授業の参考になるようにオムニバス形式で行います．各々の話題については，必要に応じて深く各自で勉強してください．｜【注意】メディア学習とは別内容になっています．
■授業の概要	配布文書で授業を行います．一筆書きなどの図形を用いる授業なので黒板にプロジェクターで投影しながら行います．
■授業の目的・ねらい	小中高校の数学教員また数学の教養として知っておいてほしい数学の内容を講義します．小中高校の教科書の拡張の内容になります．数学は計算だけでなく図形を書いたり 2 色で色を塗る事も重要なことを認識することを目的とします．
■到達目標	教育に携わる者または数学に興味がある人にとって必要な知識を会得する．

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100%	
·リポート試験(SR 履修)	0	授業中の課題・授業態度等を加味することがあります．｜コロナ等の感染状況により変更がある可能性があります．
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	0	
·その他	0	

授業科目	幾何学演習（夏期)2 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	内田　吉昭			シラバスグループ	S24220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	一筆書きの図形のように点と線からできている図形をグラフといいます。一筆書きの問題・あみだ籤の問題、地図の色塗りなどを通してグラフの性質を学んでいきます。数学の知識はあまり必要ありませんが、理論的な考え方は必要なので講義の中で考え方の練習を行います。興味のある方は京都の路線バスの路線図で同じ路線を通らずにどれだけ長く移動できるかを考えてください。少中高校の数学教員をする場合の，授業の参考になるようにオムニバス形式で行います．各々の話題については，必要に応じて深く各自で勉強してください．｜【注意】メディア学習とは別内容になっています．
■授業の概要	配布文書で授業を行います．一筆書きなどの図形を用いる授業なので黒板にプロジェクターで投影しながら行います．
■授業の目的・ねらい	小中高校の数学教員また数学の教養として知っておいてほしい数学の内容を講義します．小中高校の教科書の拡張の内容になります．数学は計算だけでなく図形を書いたり 2 色で色を塗る事も重要なことを認識することを目的とします．
■到達目標	教育に携わる者または数学に興味がある人にとって必要な知識を会得する．

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100%	
·リポート試験(SR 履修)	0	授業中の課題・授業態度等を加味することがあります．｜コロナ等の感染状況により変更がある可能性があります．
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	0	
·その他	0	

授業科目	解析学演習（夏期)1 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	伊藤　翼			シラバスグループ	S25210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	２変数関数の微分積分
■授業の概要	「２変数関数の微分積分」について学習を行います．|具体的には，「２変数関数の極限」，「偏微分の定義・計算」，「２変数関数の極値」，「２重積分の定義とその計算」について学んでいきます．|
■授業の目的・ねらい	微分積分は数学の基礎として数学の多くの分野で応用されるだけでなく，自然科学や工学，情報科学および人文社会科学においても応用される極めて重要なものです．この科目では２変数実数値関数に対する微分積分の概念を理解し，計算に習熟することを目指します．２変数関数の微分積分は１変数の場合とは大きく異なっており，その違いについて理解することを目的とします．|
■到達目標	・２変数関数に関する基本的な計算ができる．|・２変数関数の微分について理解し，その応用ができる．|・２変数関数の積分について理解し，その応用ができる．|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80	
·リポート試験(SR 履修)	0	最終日に試験を行う
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	20	
·その他	0	毎日の講義終了時にリポート課題がある。翌日に提出すること。

授業科目	解析学演習（夏期)2 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	伊藤　翼			シラバスグループ	S25220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	２変数関数の微分積分
■授業の概要	「２変数関数の微分積分」について学習を行います．|具体的には，「２変数関数の極限」，「偏微分の定義・計算」，「２変数関数の極値」，「２重積分の定義とその計算」について学んでいきます．|
■授業の目的・ねらい	微分積分は数学の基礎として数学の多くの分野で応用されるだけでなく，自然科学や工学，情報科学および人文社会科学においても応用される極めて重要なものです．この科目では２変数実数値関数に対する微分積分の概念を理解し，計算に習熟することを目指します．２変数関数の微分積分は１変数の場合とは大きく異なっており，その違いについて理解することを目的とします．|
■到達目標	・２変数関数に関する基本的な計算ができる．|・２変数関数の微分について理解し，その応用ができる．|・２変数関数の積分について理解し，その応用ができる．|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80	
·リポート試験(SR 履修)	0	最終日に試験を行う
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	20	
·その他	0	毎日の講義終了時にリポート課題がある。翌日に提出すること。

授業科目	確率論演習（夏期)1 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	山田　隆行			シラバスグループ	S26210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	確率・統計入門：確率論の数学的な基礎から統計学の基本概念までを取り扱う.
■授業の概要	記述統計において，代表値や散らばりの指標などの計算のしくみについて学ぶ．推測統計におい|て，確率，確率変数，確率分布の定義と，その性質を理解し，統計的推測(推定・検定)の考え方|や計算方法について学習する.
■授業の目的・ねらい	統計的な物の見方や考え方を養うと同時に，基本的な統計モデル及び各種統計手法の基礎知識の|習得を目的とする．　確率と統計の基本的な概念を正しく理解して，数値計算を行い，その数値|の読み取りができるようになることが重要である.
■到達目標	確率論の数学的な基礎が理解できること。|統計学の基本概念が理解できること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80	
·リポート試験(SR 履修)	0	到達目標の項目等についての到達度をみる。
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	20	
·その他	0	授業中に演習問題を解いてもらう。

授業科目	確率論演習（夏期)2 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	山田　隆行			シラバスグループ	S26220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	確率・統計入門：確率論の数学的な基礎から統計学の基本概念までを取り扱う.
■授業の概要	記述統計において，代表値や散らばりの指標などの計算のしくみについて学ぶ．推測統計におい|て，確率，確率変数，確率分布の定義と，その性質を理解し，統計的推測(推定・検定)の考え方|や計算方法について学習する.
■授業の目的・ねらい	統計的な物の見方や考え方を養うと同時に，基本的な統計モデル及び各種統計手法の基礎知識の|習得を目的とする．　確率と統計の基本的な概念を正しく理解して，数値計算を行い，その数値|の読み取りができるようになることが重要である.
■到達目標	確率論の数学的な基礎が理解できること。|統計学の基本概念が理解できること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80	
·リポート試験(SR 履修)	0	到達目標の項目等についての到達度をみる。
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	20	
·その他	0	授業中に演習問題を解いてもらう。

授業科目	プログラミング１（夏期)1 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	地藏　真作			シラバスグループ	S27210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	プログラミングの基本的な構造と操作方法を知る。
■授業の概要	・プログラミング言語の考え方を知る。|･プログラミング言語 ruby の使い方を知る。| ー基本的なプログラムの記述方法を知る。| ークラス、メソッドといったオブジェクト指向の考え方と記述方法を知る。
■授業の目的・ねらい	プログラミング言語 ruby の基礎について学び、プログラミング 2 で行う、現実の課題を解決するプログラミングができるよう知識を得ることを目的とする。
■到達目標	まだあくまでも「使い方を知っている」というレベルではあるが、この科目を履修することで、プログラミング言語 ruby を使って自分の考え(問題に関する答え)を表す一歩目を踏み出すことができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	10	
･授業内課題	90	
･その他	0	･授業内で説明した内容を実際に自分で作ってみることを主眼とする。|･授業内容の理解度を測る記述試験と、プログラミングそのものの演習の 2 つで構成される。

授業科目	プログラミング１（夏期)2 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	地藏　真作			シラバスグループ	S27220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	プログラミングの基本的な構造と操作方法を知る。
■授業の概要	・プログラミング言語の考え方を知る。|・プログラミング言語 ruby の使い方を知る。| ー基本的なプログラムの記述方法を知る。| ークラス、メソッドといったオブジェクト指向の考え方と記述方法を知る。
■授業の目的・ねらい	プログラミング言語 ruby の基礎について学び、プログラミング 2 で行う、現実の課題を解決するプログラミングができるよう知識を得ることを目的とする。
■到達目標	まだあくまでも「使い方を知っている」というレベルではあるが、この科目を履修することで、プログラミング言語 ruby を使って自分の考え(問題に関する答え)を表す一歩目を踏み出すことができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	0	
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	0	
·授業内試験	10	
·授業内課題	90	
·その他	0	·授業内で説明した内容を実際に自分で作ってみることを主眼とする。|·授業内容の理解度を測る記述試験と、プログラミングそのものの演習の 2 つで構成される。

授業科目	プログラミング１（冬期)A クラス_対面				単位	2
担当者	地藏　真作			シラバスグループ	S27400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	プログラミングの基本的な構造と操作方法を知る。
■授業の概要	・プログラミング言語の考え方を知る。|・プログラミング言語 ruby の使い方を知る。| ー基本的なプログラムの記述方法を知る。| ークラス、メソッドといったオブジェクト指向の考え方と記述方法を知る。
■授業の目的・ねらい	プログラミング言語 ruby の基礎について学び、プログラミング 2 で行う、現実の課題を解決するプログラミングができるよう知識を得ることを目的とする。
■到達目標	まだあくまでも「使い方を知っている」というレベルではあるが、この科目を履修することで、プログラミング言語 ruby を使って自分の考え(問題に関する答え)を表す一歩目を踏み出すことができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	10	
･授業内課題	90	
･その他	0	･授業内で説明した内容を実際に自分で作ってみることを主眼とする。|･授業内容の理解度を測る記述試験と、プログラミングそのものの演習の 2 つで構成される。

授業科目	プログラミング２（夏期)1 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	地藏　真作			シラバスグループ	S28210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	現実の世界にある課題をプログラミングを通じて解決する
■授業の概要	・迷惑メールを振り分ける SPAM フィルターの基礎になる考え方を知り、プログラミング言語 ruby を使って実装する。|･他者の書いたプログラムを再利用することで、自身でプログラムを書くのが難しい問題でも解決できるようにする。
■授業の目的・ねらい	プログラミング 1 で学んだプログラミング言語 ruby を使って、現実の世界にある課題を解決できる力を身につける。
■到達目標	本履修では、プログラミング言語 ruby を「知っている」ところから、「現実の課題を解決するために使える」ようになることを目指す。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	10	
･授業内課題	90	
･その他	0	･授業内で説明した内容を実際に自分で作ってみることを主眼とする。|･授業内容の理解度を測る記述試験と、プログラミングそのものの演習の 2 つで構成される。

授業科目	プログラミング２（夏期)2 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	地藏　真作			シラバスグループ	S28220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	現実の世界にある課題をプログラミングを通じて解決する
■授業の概要	・迷惑メールを振り分ける SPAM フィルターの基礎になる考え方を知り、プログラミング言語 ruby を使って実装する。|･他者の書いたプログラムを再利用することで、自身でプログラムを書くのが難しい問題でも解決できるようにする。
■授業の目的・ねらい	プログラミング 1 で学んだプログラミング言語 ruby を使って、現実の世界にある課題を解決できる力を身につける。
■到達目標	本履修では、プログラミング言語 ruby を「知っている」ところから、「現実の課題を解決するために使える」ようになることを目指す。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	10	
･授業内課題	90	
･その他	0	･授業内で説明した内容を実際に自分で作ってみることを主眼とする。|･授業内容の理解度を測る記述試験と、プログラミングそのものの演習の 2 つで構成される。

授業科目	プログラミング２（冬期)A クラス_対面				単位	2
担当者	地藏　真作			シラバスグループ	S28400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	現実の世界にある課題をプログラミングを通じて解決する
■授業の概要	・迷惑メールを振り分ける SPAM フィルターの基礎になる考え方を知り、プログラミング言語 ruby を使って実装する。|･他者の書いたプログラムを再利用することで、自身でプログラムを書くのが難しい問題でも解決できるようにする。
■授業の目的・ねらい	プログラミング 1 で学んだプログラミング言語 ruby を使って、現実の世界にある課題を解決できる力を身につける。
■到達目標	本履修では、プログラミング言語 ruby を「知っている」ところから、「現実の課題を解決するために使える」ようになることを目指す。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	10	
･授業内課題	90	
･その他	0	･授業内で説明した内容を実際に自分で作ってみることを主眼とする。|･授業内容の理解度を測る記述試験と、プログラミングそのものの演習の 2 つで構成される。

授業科目	データ解析演習（夏期)1 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	吉田　秀和			シラバスグループ	S29210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	コンピュータを用いた数値データの統計学的解析
■授業の概要	本科目では、数値情報を整理、分析するための統計学的理論をベースとして、コンピュータを用いた演習を行う。同演習を通じて数値データの統計学的処理と、統計学的知見を見出す手法を学習する。なお、数値処理は Excel を用いる。
■授業の目的・ねらい	本講義の目的は、第一に統計学の基礎的理論を身につけることでありその理論を基にデータ処理ができるようになることである。I 履修では Excel の使い方、統計学における基本的考え方、および正規分布等について学習を済ませている。それらを踏まえて、統計学的理論（t 分布、仮説検定、カイ２乗検定等）に関する知識を習得する事が目的である。
■到達目標	統計学の基本理論を理解して、Excel を用いてデータ処理をできるようになることが第一の目的である。S 履修では推測統計の分野がメインとなるが、これらの知識を習得して、それに応じたデータ処理ができるようになってもらいたい。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	40	
･授業内課題	30	S 履修９回目授業の「最終課題」の時限に試験形式で行う。
･その他	30	S 履修の授業「演習」時に提出の演習結果により評価する。

授業科目	データ解析演習（夏期)2 週_A クラス_対面				単位	2
担当者	吉田　秀和			シラバスグループ	S29220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	コンピュータを用いた数値データの統計学的解析
■授業の概要	本科目では、数値情報を整理、分析するための統計学的理論をベースとして、コンピュータを用いた演習を行う。同演習を通じて数値データの統計学的処理と、統計学的知見を見出す手法を学習する。なお、数値処理は Excel を用いる。
■授業の目的・ねらい	本講義の目的は、第一に統計学の基礎的理論を身につけることでありその理論を基にデータ処理ができるようになることである。I 履修では Excel の使い方、統計学における基本的考え方、および正規分布等について学習を済ませている。それらを踏まえて、統計学的理論（t 分布、仮説検定、カイ２乗検定等）に関する知識を習得する事が目的である。
■到達目標	統計学の基本理論を理解して、Excel を用いてデータ処理をできるようになることが第一の目的である。S 履修では推測統計の分野がメインとなるが、これらの知識を習得して、それに応じたデータ処理ができるようになってもらいたい。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	40	
･授業内課題	30	S 履修９回目授業の「最終課題」の時限に試験形式で行う。
･その他	30	S 履修の授業「演習」時に提出の演習結果により評価する。

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S71100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の４つのテーマからアプローチする。‖①　教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②　教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③　子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④　教科（保育内容）に関する正確な指導力を身につけているか。
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（春期)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71101
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼）（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園(こども園)の活動と子どもの生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼）（夏期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼）（秋期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40310	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼）（秋期)2 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40320	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼）（冬期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40410	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼）（冬期)2 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40420	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼）（集中１)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小）（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S41100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R·S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
·授業内発表	0%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	0%	
·その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小）（春期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S41101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R·S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
·授業内発表	0%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	0%	
·その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小）（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直		シラバスグループ	S41210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直		シラバスグループ	S41220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。‖
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小）（秋期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝		シラバスグループ	S41310	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小）（秋期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之		シラバスグループ	S41320	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小）（冬期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之		シラバスグループ	S41410	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小）（冬期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝		シラバスグループ	S41420	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小）（集中１)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S41510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小）（集中１)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S41511	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝		シラバスグループ	S42100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S42210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する|
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S42220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（秋期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S42310	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（秋期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之		シラバスグループ	S42320	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（冬期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之		シラバスグループ	S42410	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（冬期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝		シラバスグループ	S42420	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（集中１)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42510
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（集中１)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42511	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法		

■授業のテーマ	
■授業の概要	
■授業の目的・ねらい	
■到達目標	

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)		
･リポート試験(SR 履修)		
･授業内発表		
･授業内試験		
･授業内課題		
･その他		

授業科目	教育実習指導（特支）（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	①　　特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|②　学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。　|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（特支）（夏期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	①　　特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|②　学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。	

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（特支）（夏期)2 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	① 特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|② 学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。	

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（特支）（秋期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43310	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	①　特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|②　学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。	

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（特支）（秋期)2 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43320	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	① 特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|② 学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。	

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（特支）（冬期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43410	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	① 特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|② 学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。　｜｜

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（特支）（冬期)2 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43420	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	①　　特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|②　学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。　|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（特支）（集中１)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S43510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために特別支援学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童生徒との関係性・授業（学習指導）の在り方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	①教育実習を見通し、心構えや留意点について理解を深めることを目的とする。|②特別支援学校の教育実習で行われる実習の仕組みや業務について理解する。|③特別支援学校での教育の様子を知り、学習指導、生徒指導等の基本的事項を理解する。　|④教育実習で得られた成果や課題を的確に確認する。|
■到達目標	①　特別支援学校の教育実習にむけて、準備すべき事項（実習の仕組みや業務）について理解する。|②　学習指導等において必要となる観点や留意事項等の基本的事項を理解する。	

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	知的障害児の心理（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	奥畑　志帆			シラバスグループ	S50100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	知的障害児の心理学的特性と支援方法について理解を深める。
■授業の概要	知的障害児の心理・行動特性について、定型発達を基盤として、学習する。特に、知的障害児の診断、知的障害児の行動特性、言語発達、認知発達の数概念、記憶について学ぶ。さらに、知的障害児への支援の概要を理解する。|
■授業の目的・ねらい	知的障害児の心理・行動特性について定型発達を基盤として理解する。特に、知的障害児の診断、知的障害児の行動特性、言語発達、認知発達、知的障害児への支援の概要について理解することを目標とする。
■到達目標	知的障害児の心理・行動特性について定型発達を基盤として理解し、支援の概要についても理解できたか。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80	
·リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
·授業内発表	20	
·授業内試験	0	
·授業内課題	0	
·その他	0	

授業科目	知的障害児の心理（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	奥畑　志帆			シラバスグループ	S50400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	知的障害児の心理学的特性と支援方法について理解を深める。
■授業の概要	知的障害児の心理・行動特性について、定型発達を基盤として、学習する。特に、知的障害児の診断、知的障害児の行動特性、言語発達、認知発達の数概念、記憶について学ぶ。さらに、知的障害児への支援の概要を理解する。|
■授業の目的・ねらい	知的障害児の心理・行動特性について定型発達を基盤として理解する。特に、知的障害児の診断、知的障害児の行動特性、言語発達、認知発達、知的障害児への支援の概要について理解することを目標とする。
■到達目標	知的障害児の心理・行動特性について定型発達を基盤として理解し、支援の概要についても理解できたか。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80	
·リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
·授業内発表	20	
·授業内試験	0	
·授業内課題	0	
·その他	0	

授業科目	知的障害教育Ⅱ（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	S51100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	知的障害のある人の教育とくらし
■授業の概要	昨今の特別支援教育の潮流を鑑み、知的障害のある子どもの多様な教育の場における教育のあり方について学習する。具体的には知的障害教育の教育課程や教育方法、教員の役割やかかわり方、問題行動の理解と支援、インクルーシブ教育などについて学ぶ。また、近年施行された障害者差別解消法にかかわって、知的障害のある生徒の就労支援や生活をめぐる社会的課題、国際的動向などについても検討する予定である。
■授業の目的・ねらい	知的障害教育の基本的知識の習得、およびそうした知識が教育実践のなかでいかに援用可能であるかを十分にイメージできることがこの授業の目的です。
■到達目標	学んだことを通して具体的な教育のあり方を各自で模索できるようになること

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	50	
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	50	
·その他	0	

授業科目	知的障害教育Ⅱ（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	S51400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	知的障害のある人の教育とくらし
■授業の概要	昨今の特別支援教育の潮流を鑑み、知的障害のある子どもの多様な教育の場における教育のあり方について学習する。具体的には知的障害教育の教育課程や教育方法、教員の役割やかかわり方、問題行動の理解と支援、インクルーシブ教育などについて学ぶ。また、近年施行された障害者差別解消法にかかわって、知的障害のある生徒の就労支援や生活をめぐる社会的課題、また国際的動向などについても検討する予定である。
■授業の目的・ねらい	知的障害教育の基本的知識の習得、およびそうした知識が教育実践のなかでいかに援用可能であるかを十分にイメージできることがこの授業の目的です。
■到達目標	学んだことを通して具体的な教育のあり方を各自で模索できるようになること

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	50	
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	50	
·その他	0	

授業科目	肢体不自由児の指導法（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	西村　猛			シラバスグループ	S52100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	肢体不自由児教育における指導方法の基礎基本を学ぶ。
■授業の概要	肢体不自由児が就学対象となる特別支援学校等の教育課程及び肢体不自由の障害特性が、各教科の学習に及ぼす影響について理解し、各教科・自立活動等の指導を行う際の工夫や配慮事項及び指導法及び基礎基本について学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①　肢体不自由児が就学する特別支援学校等の教育課程を理解する。\②　肢 体不自由児に対する各教科等の指導の工夫や配慮事項を理解する。\③　肢体不自由児に対する自立活動における指導法の基礎基本を理解する。\
■到達目標	①肢体不自由児が就学対象となる特別支援学校等の教育課程を理解する。\②肢体不自由児に対する各教科・自立活動等の指導を行う際の工夫や配慮事項及び指導法の基礎基本を理解する。\

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
·授業内発表	0%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	0%	
·その他	0%	

授業科目	肢体不自由児の指導法（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	西村　猛			シラバスグループ	S52400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	肢体不自由児教育における指導方法の基礎基本を学ぶ。
■授業の概要	肢体不自由児が就学対象となる特別支援学校等の教育課程及び肢体不自由の障害特性が、各教科の学習に及ぼす影響について理解し、各教科・自立活動等の指導を行う際の工夫や配慮事項及び指導法及び基礎基本について学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①　肢体不自由児が就学する特別支援学校等の教育課程を理解する。\②　肢 体不自由児に対する各教科等の指導の工夫や配慮事項を理解する。\③　肢体不自由児に対する自立活動における指導法の基礎基本を理解する。\
■到達目標	①肢体不自由児が就学対象となる特別支援学校等の教育課程を理解する。\②肢体不自由児に対する各教科・自立活動等の指導を行う際の工夫や配慮事項及び指導法の基礎基本を理解する。\

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
·授業内発表	0%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	0%	
·その他	0%	

授業科目	視覚障害教育総論（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤井　則之			シラバスグループ	S53100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	視覚障害児の指導法
■授業の概要	視覚に障害のある児童生徒は、「見えにくい」または「見えない」という状態にある｜　いわゆる弱視、盲といわれる児童生徒へ指導・支援を行う上で留意すべき基本的事項について解説する。
■授業の目的・ねらい	視覚障害の生理・病理的および心理的特性を理解し、その障害特性を配慮した指導法について基本的な理解を図ることを目的とする。
■到達目標	視覚障害の特性を配慮した指導法の基礎基本を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	70%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	試験は講義後にリポート試験とし、講義の理解度を測る。７０点満点。講義を受けた範疇で解答すること。提出方法等は別途連絡する。
·授業内発表	0%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	0%	
·その他	30%	

授業科目	視覚障害教育総論（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤井　則之			シラバスグループ	S53400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	視覚障害児の指導法
■授業の概要	視覚に障害のある児童生徒は、「見えにくい」または「見えない」という状態にある|いわゆる弱視、盲といわれる児童生徒へ指導・支援を行う上で留意すべき基本的事項について解説する。
■授業の目的・ねらい	視覚障害の生理・病理的および心理的特性を理解し、その障害特性を配慮した指導法について基本的な理解を図ることを目的とする。
■到達目標	視覚障害の特性を配慮した指導法の基礎基本を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	70%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	試験は講義後にリポート試験とし、講義の理解度を測る。７０点満点。講義を受けた範疇で解答すること。提出方法等は別途連絡する。
·授業内発表	0%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	0%	
·その他	30%	

授業科目	聴覚障害教育総論（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	脇中　起余子			シラバスグループ	S54100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	聴覚障害の理解と実際の教育を学ぶ
■授業の概要	聴覚障害を理解し、聴覚障害児に多いつまずきの傾向や心理とその支援方法を学ぶ
■授業の目的・ねらい	聴覚障害の概念や指導法、配慮点等について理解し、実際にかかわる際に役立つ実践的知識を学習する。|
■到達目標	聴覚障害を理解し、聴覚障害児に対する支援方法や指導方法について知る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100	
·リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施（脇中担当分 65%、高井担当分 35%)。それぞれで提出場所が異なる（授業で説明する)。
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	0	
·その他	0	

授業科目	聴覚障害教育総論（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	脇中　起余子			シラバスグループ	S54400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	聴覚障害の理解と実際の教育を学ぶ
■授業の概要	聴覚障害を理解し、聴覚障害児に多いつまずきの傾向や心理とその支援方法を学ぶ|
■授業の目的・ねらい	聴覚障害の概念や指導法、配慮点等について理解し、実際にかかわる際に役立つ実践的知識を学習する。|
■到達目標	聴覚障害を理解し、聴覚障害児に対する支援方法や指導方法について知る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100	
·リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施（脇中担当分 65%、高井担当分 35%)。それぞれで提出場所が異なる（授業で説明する)。
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	0	
·その他	0	

授業科目	重複障害・軽度発達障害児の指導法（春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	奥畑　志帆			シラバスグループ	S55100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S

■授業のテーマ	重複障害教育及び軽度発達障害教育における指導方法の基礎・基本を学ぶ。
■授業の概要	重複障害児や軽度発達障害児の学び場と教育課程及び指導の実際から、それぞれの障害を有する子どもに対する教育の現状と課題を理解し、双方の特別支援教育における指導方法の基礎・基本を学ぶ。あわせて、重複障害と軽度発達障害の基礎的概念についても学ぶ。‖
■授業の目的・ねらい	①　重複障害や軽度発達障害の基礎的概念を理解する。|②　重複障害児が就学する特別支援学校等の教育課程について理解する。|③　重複障害児に対する各教科・自立活動等における指導法の基礎・基本を理解する。|④　軽度発達障害児が活用できる「通級による指導」の制度と教育課程について理解する。|⑤　軽度発達障害児に対する各教科等における指導法の基礎・基本を理解する。|
■到達目標	①　重複障害や軽度発達障害の基礎的概念を理解する。|②　重複障害児や軽度発達障害児が就学する学校等の教育課程について理解する。|③　重複障害児や軽度発達障害児に対する各教科等･自立活動等における指導法の基礎・基本を理解する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	重複障害・軽度発達障害児の指導法（冬期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	奥畑　志帆			シラバスグループ	S55400
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T·S

■授業のテーマ	重複障害教育及び軽度発達障害教育における指導方法の基礎・基本を学ぶ。
■授業の概要	重複障害児や軽度発達障害児の学び場と教育課程及び指導の実際から、それぞれの障害を有する子どもに対する教育の現状と課題を理解し、双方の特別支援教育における指導方法の基礎・基本を学ぶ。あわせて、重複障害と軽度発達障害の基礎的概念についても学ぶ。‖
■授業の目的・ねらい	①　重複障害や軽度発達障害の基礎的概念を理解する。|②　重複障害児が就学する特別支援学校等の教育課程について理解する。|③　重複障害児に対する各教科・自立活動等における指導法の基礎・基本を理解する。|④　軽度発達障害児が活用できる「通級による指導」の制度と教育課程について理解する。|⑤　軽度発達障害児に対する各教科等における指導法の基礎・基本を理解する。|
■到達目標	①　重複障害や軽度発達障害の基礎的概念を理解する。|②　重複障害児や軽度発達障害児が就学する学校等の教育課程について理解する。|③　重複障害児や軽度発達障害児に対する各教科等･自立活動等における指導法の基礎・基本を理解する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	情報サービス演習 a(夏期)A クラス_映像課題,オンライン,対面				単位	2
担当者	杉本　ゆか			シラバスグループ	S60200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	資料に基づく情報提供サービスの実際
■授業の概要	情報化社会における情報提供サービスの基本的考え方を概説し、資料に基づく情報提供の実際を講義と演習を交えて行う。前半は利用者の情報探索行動と情報提供の特性について説明する。中盤から後半はインターネット資源と各種レファレンスツールの検索法及び使い方を演習を中心に行う。
■授業の目的・ねらい	図書館における情報サービスの理論に基づいて、レファレンスサービスに必要な情報検索の知識と技術を習得すること。
■到達目標	・　図書館が所蔵する基本的レファレンスツールを理解する|・　インターネット資源における特性を理解する

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	10	
･その他	0	

授業科目	情報サービス演習 a(冬期)A クラス_映像課題,オンライン,対面			単位	2
担当者	増田　和子			シラバスグループ	S60400
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	図書館の情報サービスにおける資料・情報検索の基礎知識の習得と具体的な方法の理解（主に、図書・雑誌類に関する情報検索とレファレンスサービスを扱う）
■授業の概要	1．　情報サービス・レファレンスサービスについて|2．コンピュータの情報検索と言葉　|3．　分野別情報の探し方| (1)図書情報| (2)雑誌および雑誌記事（一般）|(3)雑誌記事（学術）|(4)新聞記事 |(5)歴史・日時の調べ方|(6)地理・地名の調べ方|4．レファレンスサービス演習（レファレンス記録）
■授業の目的・ねらい	・　情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービス、積極的な発信型情報サー ビスの演習を通して、実践的な能力の育成を図る。|・　図書館司書（一般的にサーチャー）として、利用者から依頼された情報検索を、依頼者とコミュニケーションをとりながら、実施できるようになる。|・　情報検索を行うために、情報ニーズの主題分析を行い、適切なデータベースや情報源を選択し、精度および再現率の高い検索を実行できるようになる。|・　著 作権をはじめとする知的財産権について理解し、情報化社会に対応できるグローバルな情報リテラシーを習得する。|
■到達目標	1）　情報検索要求に対して、適切な情報源の選択、効率的な検索、適切な情報の取得ができる。　|2）　情報検索における理論演算子を理解し、必要に応じて使うことができる。|3）　検索結果について、多様な視点があることを理解し、検索結果の評価ができる。|4）　文献解題やパスファインダーなど、他者（利用者）が利用できる二次情報の提供・提示ができる。|5） 情報サービス論、情報サービス演習 2、図書館情報技術論をあわせて履修することにより、（社）情報科学技術協会主催の検索技術者検定 3 級（可能なら 2 級まで）に相当する実践的な検索技術能力を身につける。（3)|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0|	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	スクーリングで実施する課題（レファレンスサービス演習及び記録の作成）
･授業内課題	60	
･その他	0	オンライン講義内で提示する各課題|

授業科目	情報サービス演習 b(夏期)A クラス_映像課題,オンライン,対面				単位	2
担当者	増田　和子			シラバスグループ	S61200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	図書館の情報サービスにおける資料・データベース・情報検索の基礎知識の習得と具体的な利用方法の理解|
■授業の概要	1. 情報検索の基礎|2. 情報検索の評価・理論|3. 情報の統制・分類・抄録|4. 分野別情報の探し方|(1) 公的情報を知る（白書・官報)| (2) 統計|(3) 人物 |(4) 企業・組織|(5) 医療・健康|(6) 法令判例情報・特許情報|(7) 行政情報 |(8) その他生活に関わる情報（防災,消費など）|5. 発信型情報サービスの演習　パスファインダー作成等
■授業の目的・ねらい	・ 情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービス、積極的な発信型情報サー ビスの演習を通して、実践的な能力の育成を図る。|・ 図書館司書（一般的にサーチャー）として、利用者から依頼された情報検索を、依頼者とコミュニケーションをとりながら、実施できるようになる。|・ 情報検索を行うために、情報ニーズの主題分析を行い、適切なデータベースや情報源を選択し、精度および再現率の高い検索を実行できるようになる。|・ 著 作権をはじめとする知的財産権について理解し、情報化社会に対応できるグローバルな情報リテラシーを習得する。
■到達目標	１） 情報検索要求に対して、適切な情報源の選択、効率的な検索、適切な情報の取得ができる。 |２） 情報検索における理論演算子を理解し、必要に応じて使うことができる。|３） 検索結果について、多様な視点があることを理解し、検索結果の評価ができる。|４） 文献解題やパスファインダーなど、他者（利用者）が利用できる二次情報の提供・提示ができる。|５） 情報サービス論、情報サービス演習１、図書館情報技術論をあわせて履修することにより、(社) 情報科学技術協会主催の検索技術者検定 3 級に相当する実践的な検索技術能力を身につける。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	パスファインダー作成など
･授業内課題	60	
･その他	0	講義に付随する各課題

授業科目	情報サービス演習 b(冬期)A クラス_映像課題,オンライン,対面			単位	2
担当者	増田　和子			シラバスグループ	S61400
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	図書館の情報サービスにおける資料・データベース・情報検索の基礎知識の習得と具体的な利用方法の理解|
■授業の概要	1. 情報検索の基礎|2. 情報検索の評価・理論|3. 情報の統制・分類・抄録|4. 分野別情報の探し方|(1) 公的情報を知る（白書・官報)| (2) 統計|(3) 人物 |(4) 企業・組織|(5) 医療・健康|(6) 法令判例情報・特許情報|(7) 行政情報 |(8) その他生活に関わる情報（防災,消費など）|5. 発信型情報サービスの演習　パスファインダー作成等
■授業の目的・ねらい	・ 情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービス、積極的な発信型情報サー ビスの演習を通して、実践的な能力の育成を図る。|・ 図書館司書（一般的にサーチャー）として、利用者から依頼された情報検索を、依頼者とコミュニケーションをとりながら、実施できるようになる。|・ 情報検索を行うために、情報ニーズの主題分析を行い、適切なデータベースや情報源を選択し、精度および再現率の高い検索を実行できるようになる。|・ 著 作権をはじめとする知的財産権について理解し、情報化社会に対応できるグローバルな情報リテラシーを習得する。
■到達目標	１） 情報検索要求に対して、適切な情報源の選択、効率的な検索、適切な情報の取得ができる。 |２） 情報検索における理論演算子を理解し、必要に応じて使うことができる。|３） 検索結果について、多様な視点があることを理解し、検索結果の評価ができる。|４） 文献解題やパスファインダーなど、他者（利用者）が利用できる二次情報の提供・提示ができる。|５） 情報サービス論、情報サービス演習１、図書館情報技術論をあわせて履修することにより、（社）情報科学技術協会主催の検索技術者検定 3 級（可能なら 2 級まで）に相当する実践的な検索技術能力を身につける。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	スクーリングで実施する課題発表（パスファインダーの作成）
･授業内課題	60	
･その他	0	オンライン講義内で提示する各課題|

授業科目	情報資源組織演習 a(夏期)A クラス_オンデマンド＋対面			単位	2
担当者	髙畑　悦子			シラバスグループ	S62200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	「情報資源組織論」で学んだ情報資源の組織化の実際を学ぶ。この科目は目録を中心とする科目である。|・『日本目録規則（NCR）2018 年版』の目録の考え方について学ぶとともに、現在も流通している書誌情報で用いられている『日本目録規則（NCR）1987 年版改訂 3 版』による目録作成についても学ぶ。|・記述対象や書誌単位、書誌要素（エレメント）について学び、書誌データの作成を行い、司書としての実践的能力を養成する。‖・この科目は、学校司書モデルカリキュラムの必修科目である。|
■授業の概要	多様な例題を用いて情報資源の書誌データ作成を行う。書誌記述は『日本目録規則 1987 年版改訂 3 版』を使用し、適宜『目録規則（NCR）2018 年版』との相違点を解説する。‖第 1 回から第 12 回はオンデマンド授業：課題提出を課す。|（提出日は、内容の進行に従って 2 回に分ける。）|第 13 回から第 18 回は対面授業
■授業の目的・ねらい	情報資源組織化の目的と意義を理解し、演習を通して多様な情報資源の書誌的記録を作成する。具体的には各種情報資源（資料）の書誌データの作成について実践的な能力を養う
■到達目標	・情報資源組織化の目的と意義を理解し、説明できる。|・『日本目録規則（NCR）2018 年版』ならびに『日本目録規則（NCR）1987 年版改訂 3 版』を活用して和図書の基本的な目録作成ができるよう技術を修得する。|・著者名典拠レコードの必要性を理解し、その意義を説明することができる。|・書誌データの作成について理解し実践的な能力を養うことで、情報資源の検索および利用の支援ができる知識をもつ。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	70	
・リポート試験(SR 履修)	0	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	30	
・その他	0	

授業科目	情報資源組織演習 a(冬期)A クラス_オンデマンド＋対面			単位	2
担当者	村上　郷子			シラバスグループ	S62400
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	本授業では、『日本目録規則 2018 年度版』を参照しながら、書誌データの目録作成等の基本的スキルを修得する。
■授業の概要	情報資源組織論で学習した目録規則の成り立ちや意義を考えながら、記述目録の演習を中心に目録規則（2018 年度版）の適用及びその基礎について学習する。|　授業の初めに、毎回の小クイズの答え合わせをすることにより、全体に対してフィードバックを行う。
■授業の目的・ねらい	資料の組織化は、大きく記述目録法と主題目録法の 2 部から成り立っている。本授業では、記述目録の演習を中心に目録規則の適用及び主題分析の基礎についての演習を行うことにより、書誌データ作成についての実践的な能力を身につけることができる。
■到達目標	（1）『日本目録規則 2018 年度版』の体系を理解し、内容の特徴について説明することができる。|（2）『日本目録規則 2018 年度版』を活用して、基本的な書誌データの作成することができる技術を習得する。|（3）目録のコンピュータ化についての概要を説明することができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0	最終日に試験を実施する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	毎回の小テスト（前回授業の復習）および出席・宿題等

授業科目	情報資源組織演習 b(夏期)A クラス_オンデマンド＋対面			単位	2
担当者	髙畑　悦子			シラバスグループ	S63200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	・「情報資源組織論」で学んだ情報資源の組織化の実際を学ぶ。|・主題の組織化として分類法と件名法を学ぶ。分類作業では、『日本十進分類法新訂 10 版』を使用して、主題からの検索に対応すべく情報資源の主題分析及び分類記号付与の実際を演習する。|・件名標目の付与は『基本件名標目表　第 4 版』を使用して、件名標目表の構造を理解し、件名標目の付与を実際に演習する。‖・この科目は、学校司書モデルカリキュラムの必修科目である。
■授業の概要	多様な例題を用いて情報資源の主題組織化を行う。|・分類作業では、『日本十進分類法新訂 10 版』を使用して、主題からの検索に対応すべく情報資源の主題分析及び分類記号付与の実際を演習する。|・件名標目の付与は『基本件名標目表　第 4 版』を使用して、件名標目表の構造を理解し、件名標目の付与を実際に演習する。‖第 1 回から第 12 回はオンデマンド授業：課題提出を課す。|（提出日は、内容の進行に従って 2 回に分ける。）|第 13 回から第 18 回は対面授業
■授業の目的・ねらい	情報資源組織化の目的と意義を理解し、演習を通して多様な情報資源の書誌的記録を作成する。具体的には『日本十進分類法新訂 10 版』を使用して、主題からの検索に対応すべく情報資源の主題分析及び分類記号付与、ならびに『基本件名標目表第 4 版』を使用した件名標目付与を行い、実践的な能力を養う。
■到達目標	情報資源組織化の目的と意義を理解し、主題の組織化の方法について説明できるようになる。|分類および件名作業の演習を通して多様な情報資源の主題目録を作成することができるようになる。|作成方法について理解し実践的な能力を養うことで、情報資源の検索および利用の支援ができる知識をもつ。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	

授業科目	情報資源組織演習 b(冬期)A クラス_オンデマンド＋対面				単位	2
担当者	村上　郷子			シラバスグループ	S63400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	情報資源の主題分析および分類記号・件名付与の実際
■授業の概要	情報資源組織論で学習した分類の意義や目的を背景として、『日本十進分類法』新訂 10 版（NDC）を用いて情報資源の主題分析及び分類記号付与の実際を行う。また同じく、言葉による統制語と『基本件名標目表』第 4 版（BSH）の基本構造について理解する。
■授業の目的・ねらい	本授業の目的は、情報資源組織論で学習した分類の意義を基礎に、書架分類と書誌分類への理解、分類付与の実践的能力・技術を習得することである。
■到達目標	（1）『日本十進分類法』の体系を理解し、各類の特徴について説明することができる。|（2）『日本十進分類法』を活用して、基本的な分類記号が付与できる技術を習得する。|（3）図書記号や別置記号について理解する。|（4）件名法の意義や基本構造について、説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0	最終日に試験を実施する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	毎回の小テスト（前回授業の復習）および出席・宿題等

授業科目	学校図書館情報サービス論（夏期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	佐久間　朋子			シラバスグループ	S66200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	学校図書館における情報サービスの意義と各種情報源の特性
■授業の概要	学校図書館の情報サービスについて解説し、映像視聴とパソコンを使用しての演習や課題を行う。
■授業の目的・ねらい	学校図書館における情報サービスの種類や各種情報源の特性の理解を図るとともに、児童生徒に資料・情報を適切に提供できる能力の育成を図る。‖成績評価|原則として、スクーリングでの受講態度と、その他課題及び講義への意欲的な取り組み状況を踏まえ、総合的に評価する。|
■到達目標	学校図書館における情報サービスの意義や種類について理解を深める。|参考図書やデータベースなどの各種情報源の内容や使用法の知識を得る。|パソコンを使用しての演習や課題を通して、学校図書館における情報サービスに必要な技能を得る。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	40%	
･その他	0%	

授業科目	学校図書館情報サービス論（集中１)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	佐久間　朋子			シラバスグループ	S66510
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	学校図書館における情報サービスの意義と各種情報源の特性
■授業の概要	学校図書館の情報サービスについて解説し、映像視聴とパソコンを使用しての演習や課題を行う。
■授業の目的・ねらい	学校図書館における情報サービスの種類や各種情報源の特性の理解を図るとともに、児童生徒に資料・情報を適切に提供できる能力の育成を図る。‖成績評価|原則として、スクーリングでの受講態度と、その他課題及び講義への意欲的な取り組み状況を踏まえ、総合的に評価する。|
■到達目標	学校図書館における情報サービスの意義や種類について理解を深める。|参考図書やデータベースなどの各種情報源の内容や使用法の知識を得る。|パソコンを使用しての演習や課題を通して、学校図書館における情報サービスに必要な技能を得る。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	40%	
･その他	0%	

授業科目	社会教育課題研究１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	浅田　瞳			シラバスグループ	S56200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	我が国における生涯学習・社会教育のあり方と課題について考える
■授業の概要	Ⅰ.21 世紀のキーワード探しと社会教育としての展開 ｜ 21 世紀に突入し、少子高齢化が進む中で、生涯学習気運の高まりはとどまることがありません。リカレント教育やリスキリングなど、生涯学習社会を見据えた社会教育のあり方が問われているともいえるでしょう。 ｜ この京都の 21 世紀のキーとなるような社会教育プログラムづくりを通して、「いつでも、どこでも、誰でも」学ぶことが可能な学習環境やその条件について考える機会としたいと思います。また、みんなで課題を提供し合い、力を合わせて考える楽しさを実感しましょう。 ｜ グループを編成して、グループ毎に京都をテーマにした「社会教育講座」を構成してもらいます。その発表と討議で盛りあがりましょう。京都に関する事前学習をしておくとさらに議論に深まりが出てくるのではないでしょうか。 ｜Ⅱ.地域社会の諸活動とコミュニケーションのかたち ｜ 地域社会に参加し相互共同的に、学ぶという、社会教育本来の個と共同体の関係に注目しつつ、今日的な課題について考えてみましょう。現代社会における地域での情報発信のさまざまな方法とその効果を、具体的事例から検討していきます。
■授業の目的・ねらい	１．社会教育の現代的な課題がどこにあるのか、理解すること。 ｜2．生涯学習型社会の礼賛が必ずしもその展開にとって良いものではないという意味が理解できること。 ｜3．グループごとに討論し、そのなかから社会教育に対する理解が深められていること。 ｜4．グループを編成し、その相互交流を通して社会教育に対する理解が深められていくのと同時に多様な学習スタイルに関する理解が深められること。
■到達目標	１．社会教育の現代的な課題がどこにあるのか説明できる。 ｜2．生涯学習型社会のどの点に問題があるのか説明できる。 ｜3．グループ内で社会教育の課題について意見をまとめることができる。 ｜4．多様な学習スタイルについて理解し、それらのメリット・デメリットを説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	

授業科目	社会教育課題研究（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	浅田　瞳			シラバスグループ	S56200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	我が国における生涯学習・社会教育のあり方と課題について考える
■授業の概要	Ⅰ.21 世紀のキーワード探しと社会教育としての展開 ｜ 21 世紀に突入し、少子高齢化が進む中で、生涯学習気運の高まりはとどまることがありません。リカレント教育やリスキリングなど、生涯学習社会を見据えた社会教育のあり方が問われているともいえるでしょう。 ｜ この京都の 21 世紀のキーとなるような社会教育プログラムづくりを通して、「いつでも、どこでも、誰でも」学ぶことが可能な学習環境やその条件について考える機会としたいと思います。また、みんなで課題を提供し合い、力を合わせて考える楽しさを実感しましょう。 ｜ グループを編成して、グループ毎に京都をテーマにした「社会教育講座」を構成してもらいます。その発表と討議で盛りあがりましょう。京都に関する事前学習をしておくとさらに議論に深まりが出てくるのではないでしょうか。 ｜Ⅱ.地域社会の諸活動とコミュニケーションのかたち ｜ 地域社会に参加し相互共同的に、学ぶという、社会教育本来の個と共同体の関係に注目しつつ、今日的な課題について考えてみましょう。現代社会における地域での情報発信のさまざまな方法とその効果を、具体的事例から検討していきます。
■授業の目的・ねらい	１．社会教育の現代的な課題がどこにあるのか、理解すること。 ｜2．生涯学習型社会の礼賛が必ずしもその展開にとって良いものではないという意味が理解できること。 ｜3．グループごとに討論し、そのなかから社会教育に対する理解が深められていること。 ｜4．グループを編成し、その相互交流を通して社会教育に対する理解が深められていくのと同時に多様な学習スタイルに関する理解が深められること。
■到達目標	１．社会教育の現代的な課題がどこにあるのか説明できる。 ｜2．生涯学習型社会のどの点に問題があるのか説明できる。 ｜3．グループ内で社会教育の課題について意見をまとめることができる。 ｜4．多様な学習スタイルについて理解し、それらのメリット・デメリットを説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	

授業科目	教職実践演習(教諭)(前半)(春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S71100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の４つのテーマからアプローチする。‖①　教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②　教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③　子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④　教科（保育内容）に関する正確な指導力を身につけているか。
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(前半)(春期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼・小）（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園(こども園)の活動と子どもの生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼・小）（夏期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼・小）（夏期)2 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼・小）（秋期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40310	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼・小）（秋期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40320
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼・小）（冬期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40420
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼・小）（集中１)A クラス_幼稚園実習_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小・中）（春期)A クラス_中学校実習_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S42100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R·S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
·授業内発表	0%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	0%	
·その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小・中）（春期)B クラス_小学校実習_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S41101
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小・中）（夏期)1 週_A クラス_中学校実習_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S42210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小・中）（夏期)2 週 A クラス_中学校実習_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S42220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。‖
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小・中）（秋期)1 週_A クラス_中学校実習_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S42310
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小・中）（秋期)2 週_A クラス_中学校実習_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42320
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小・中）（冬期)1 週_A クラス_中学校実習_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42410
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小・中）（冬期)2 週_A クラス_中学校実習_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S42420
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小・中）（集中１)A クラス_中学校実習_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42510
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝		シラバスグループ	S42100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S42210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する|
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S42220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（秋期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S42310	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（秋期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之		シラバスグループ	S42320	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（冬期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之		シラバスグループ	S42410	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（冬期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝		シラバスグループ	S42420	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（集中１)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42510
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（集中１)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42511	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法		

■授業のテーマ	
■授業の概要	
■授業の目的・ねらい	
■到達目標	

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)		
･リポート試験(SR 履修)		
･授業内発表		
･授業内試験		
･授業内課題		
･その他		

授業科目	教育実習指導（幼・小）（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園(こども園)の活動と子どもの生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼・小）（夏期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼・小）（夏期)2 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼・小）（秋期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40310	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼・小）（秋期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40320
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼・小）（冬期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40420
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（幼・小）（集中１)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S40510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	「充実した幼稚園実習のために」|教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践を図り、その事実を考察するところに意義がある。
■授業の概要	・幼稚園教育実習の意義|・教育実習の内容、方法|・幼児教育に関する留意事項|・教育実習の心得
■授業の目的・ねらい	幼稚園（こども園）の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼児教育・初等教育の意義及び保育者・教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、幼児教育・初等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、保育者・教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	保育者・教師としての第一歩を歩みだすものとして、資質、能力を備える。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教科内容研究音楽（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	長井　典子			シラバスグループ	S20200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	幼児の豊かな感性や表現力を育む音楽表現技術
■授業の概要	子どもの音楽活動を指導、援助するために必要な、音楽の基礎知識を習得する。正しい発声や音程について学び、子どもの歌唱表現を引き出す様々な種類の歌を知る。そして、歌唱や音楽的なあそびの実践を通し、子どもの豊かな音楽表現を導けるような指導法へと繋げる。
■授業の目的・ねらい	・本講義の内容を理解するだけでなく、習得した知識や技術を保育の実践的な音楽活動に生かせるようにすることが目的である。|
■到達目標	・音楽の基礎知識について理解できたか。|・子どもの歌について知り、理解を深めることができたか。|・講義の中で行う様々な音楽表現活動に意欲的に参加し、自身の表現能力を高めることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100%	
·リポート試験(SR 履修)	0|	
·授業内発表	0|	
·授業内試験	0|	
·授業内課題	0|	
·その他	0|	

授業科目	教科内容研究図画工作（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	髙橋　敏之			シラバスグループ	S21200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	図画工作の目的と造形活動の構成について
■授業の概要	「表現」領域（造形分野）では、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目的としている。このように自己表現という視点が明確になるにつれて、ものに挑む、空間に挑むなど、素材を通して環境に関わり、作ったものを使って遊んだり、見立てたり、ごっこ遊びに使用したりという経験を重視する活動に転換してきている。であるならば、教材を扱う保育者も教材特性を理解しておかなければ、目的を踏まえた価値ある活動は展開できないことになる。この講義では、様々な教材の特性を捉えて、保育活動にどのように活かすかという点を中心に講義を進める。
■授業の目的・ねらい	造形領域のねらいを実技を通して体感する
■到達目標	・教材の特性を理解する|・教材の特性を活かした保育構成を理解する

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	40%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	
·授業内発表	30%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	30%	
·その他	0%	

授業科目	教科内容研究体育（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	青木　好子			シラバスグループ	S22200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	幼児期の健康や発達を支えるために必要な 領域「健康」に関する保育者の援助および実践について
■授業の概要	領域「健康」は、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うことが目標となる。そのため領域「健康」内容は、心身の健康、体を動かす遊びや運動、食生活、衛生・清潔の習慣、生活習慣、疾病の予防、安全管理、けがや事故の防止など多岐にわたる。それらは豊かな生涯の基盤となる。子ども達の発達に応じて十分に体を動かし楽しく遊ぶことの意義を踏まえ、現代の子どもたちの身体や心の健康に関する課題やその対策について考察し保育現場での環境設定や援助について理解を深める。
■授業の目的・ねらい	領域「健康」のねらいや内容、それに関する幼児の健康と発達、生活習慣および幼児自身が健康で安全な生活を作り出す力を育むために必要な環境構成や援助方法について考察し、実践できる力や知識を習得する。
■到達目標	１．幼稚園教育要領の領域「健康」について、ねらいと内容について理述べることができる。|2．幼児期の心身の発育発達の特徴やそれに応じた運動あそびについて説明できる。|3．心を動かし、体を動かすあそびに則した環境構成、援助の在り方について説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	0%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	
·授業内発表	50%	
·授業内試験	50%	
·授業内課題	0%	
·その他	0	

授業科目	スポーツ科学（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	A18200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	スポーツ・運動が人体に与える効果及び分析技術発展の成果を知る
■授業の概要	＜講義＞|スポーツ・運動が人体に及ぼす効果について，生理学的視点・バイオメカニクス的視点から話を進める。また，トップアスリートの卓越した能力並びにそれらの分析する機器の発展過程についても着目し，話を進める。|＜実技＞|本講義では，比較的負荷の軽いネット型のスポーツ（テニス，卓球，バドミントン，ソフトバレーボール等）を中心に行う。ただし，実際に行う種目や活動時間については，受講者人数，年齢構成，経験の有無等を考慮して決める。
■授業の目的・ねらい	スポーツ・運動が人体に及ぼす効果について理解すること，ネット型スポーツにおいて簡単なゲームができることを目的とする
■到達目標	スポーツ・運動が人体に及ぼす効果について説明できる。また，ネット型ゲームにおいて基本スキルを用いて簡単なゲームができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	20	

授業科目	スポーツ科学（秋期)A クラス_対面				単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	A18300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	スポーツ・運動が人体に与える効果及び分析技術発展の成果を知る
■授業の概要	＜講義＞|スポーツ・運動が人体に及ぼす効果について，生理学的視点|スポーツ障害を中心としたスポーツ医学的視点、健康を維持促進するためのトレーニング理論|について‖＜実技＞|本講義では，比較的負荷の軽いネット型のスポーツ（バドミントン，ソフトバレーボール等）を中心に行う。ただし，実際に行う種目や活動時間については，受講者人数，年齢構成，経験の有無等を考慮して決める。
■授業の目的・ねらい	スポーツ・運動が人体に及ぼす効果について理解すること，ネット型スポーツにおいて簡単なゲームができることを目的とする
■到達目標	スポーツ・運動が人体に及ぼす効果について説明できる。また，ネット型ゲームにおいて基本スキルを用いて簡単なゲームができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	20	

授業科目	生涯スポーツ（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	A19200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	生涯にわたってスポーツ・運動に親しむことをめざして
■授業の概要	＜講義＞|生涯にわたってスポーツ・運動に親しむことの意義について考える。負荷の軽い運動，ニュースポーツの行い方やその効果，スポーツ・運動の楽しさを「する」ことだけでなく，「みる」「ささえる」「しらべる」といった視点からも考える。|＜実技＞|本講義では，比較的負荷の軽いスポーツ（テニス，卓球等）やニュースポーツ（ペタンク等）を中心に行う。ただし，実際に行う種目や活動時間については，受講者数，年齢構成，経験の有無等を考慮して決める。
■授業の目的・ねらい	スポーツ・運動に対する興味・関心を高めることをねらいとする。そのために，運動の行い方を理解し，主体的にスポーツ・運動に取り組む姿勢に期待する。
■到達目標	年齢や体調に応じた運動処方について理解する。また，運動実践を通して運動を「する」楽しみ方を理解するだけでなく，「みる」「ささえる」「しらべる」といった多様な楽しみ方についても知る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	20	

授業科目	生涯スポーツ（秋期)A クラス_対面				単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	A19300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	生涯にわたってスポーツ・運動に親しむことをめざして
■授業の概要	＜講義＞|生涯にわたってスポーツ・運動に親しむことの意義について考える。負荷の軽い運動，ニュースポーツの行い方やその効果，スポーツ・運動の楽しさを「する」ことだけでなく，「みる」「ささえる」「しらべる」といった視点からも考える。|＜実技＞|本講義では，比較的負荷の軽いニュースポーツ（ボッチャ・フライングディスク等）を中心に行う。ただし，実際に行う種目や活動時間については，受講者数，年齢構成，経験の有無等を考慮して決める。
■授業の目的・ねらい	スポーツ・運動に対する興味・関心を高めることをねらいとする。そのために，運動の行い方を理解し，主体的にスポーツ・運動に取り組む姿勢に期待する。
■到達目標	年齢や体調に応じた運動処方について理解する。また，運動実践を通して運動を「する」楽しみ方を理解するだけでなく，「みる」「ささえる」「しらべる」といった多様な楽しみ方についても知る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	15	
･授業内試験	0	
･授業内課題	15	
･その他	20	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S71100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の４つのテーマからアプローチする。‖①　教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②　教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③　子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④　教科（保育内容）に関する正確な指導力を身につけているか。
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(春期)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71101
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（中・高）（春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝		シラバスグループ	S42100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（中・高）（夏期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S42210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する|
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（中・高）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S42220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（中・高）（秋期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S42310	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（中・高）（秋期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之		シラバスグループ	S42320	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（中・高）（冬期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42410
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（中・高）（冬期)2 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S42420	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習研究（中・高）（集中１)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42510
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝		シラバスグループ	S42100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S42210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する|
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S42220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（秋期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S42310	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（秋期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之		シラバスグループ	S42320	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（冬期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之		シラバスグループ	S42410	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（冬期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝		シラバスグループ	S42420	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（集中１)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42510
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（集中１)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42511	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法		

■授業のテーマ	
■授業の概要	
■授業の目的・ねらい	
■到達目標	

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)		
･リポート試験(SR 履修)		
･授業内発表		
･授業内試験		
･授業内課題		
･その他		

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S71100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の４つのテーマからアプローチする。‖①　教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②　教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③　子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④　教科（保育内容）に関する正確な指導力を身につけているか。
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（春期)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71101
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝		シラバスグループ	S42100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S42210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する|
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S42220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（秋期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S42310	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（秋期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之		シラバスグループ	S42320	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（冬期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之		シラバスグループ	S42410	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（冬期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝		シラバスグループ	S42420	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（集中１)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42510
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（集中１)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42511	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法		

■授業のテーマ	
■授業の概要	
■授業の目的・ねらい	
■到達目標	

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)		
･リポート試験(SR 履修)		
･授業内発表		
･授業内試験		
･授業内課題		
･その他		

授業科目	教職実践演習（中・高）（前半）（春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S71100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の４つのテーマからアプローチする。‖①　教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②　教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③　子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④　教科（保育内容）に関する正確な指導力を身につけているか。
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（前半）（春期)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71101
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝		シラバスグループ	S42100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S42210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する|
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S42220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（秋期)1 週_A クラス_オンライン				単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S42310	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（秋期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之		シラバスグループ	S42320	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（冬期)1 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之		シラバスグループ	S42410	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（冬期)2 週_A クラス_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝		シラバスグループ	S42420	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（集中１)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42510
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（中・高）（集中１)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42511	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法		

■授業のテーマ	
■授業の概要	
■授業の目的・ねらい	
■到達目標	

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)		
･リポート試験(SR 履修)		
･授業内発表		
･授業内試験		
･授業内課題		
･その他		

授業科目	教育実習指導（小・中）（春期)A クラス_中学校実習_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S42100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R·S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
·授業内発表	0%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	0%	
·その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小・中）（春期)B クラス_小学校実習_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S41101
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小・中）（夏期)1 週_A クラス_中学校実習_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S42210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小・中）（夏期)2 週_A クラス_中学校実習_オンライン			単位	1
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S42220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員をめざして
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。‖
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小・中）（秋期)1 週_A クラス_中学校実習_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S42310
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小・中）（秋期)2 週_A クラス_中学校実習_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42320
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小・中）（冬期)1 週_A クラス_中学校実習_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42410
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小・中）（冬期)2 週_A クラス_中学校実習_オンライン			単位	1
担当者	井川　勝			シラバスグループ	S42420
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	保育内容研究健康（春期)A クラス_オンデマンド＋オンライン			単位	2
担当者	青木　好子			シラバスグループ	U21100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	幼児期の健康や発達を支えるために必要な 領域「健康」に関する保育者の援助および実践について
■授業の概要	運動あそびを通して、「健康」について具体的に学習する。そのための保育者の環境構成、援助について考え、その在り方と共に体感し合いましょう。|保育者として、実践を行う上での資質を高めることに役立つように展開します。|受講生に対しては、知識の伝承ではなく、対話を繰り返しながら「健康」について一緒に考えましょう。|テキストの予習や、配付資料の復習を行ない、受け身ではなく常に「問い」と「自分なりの考え」を持ち、積極的に参加してください。
■授業の目的・ねらい	領域「健康」のねらいや内容、それに関する幼児の健康と発達、生活習慣および幼児自身が健康で安全な生活を作り出す力を育むために必要な環境構成や援助方法について考察し、実践できる力や知識を習得する。|
■到達目標	１．　幼稚園教育要領の領域「健康」について、なねらいと内容について理解する。|２．　幼児期の心身の発育発達の特徴や個人差と取り組みへの意欲などを理解する。|3. 心を動かし、体を動かすあそびに則した環境構成、援助の在り方を一緒に考えましょう。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	15%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	25%	
･その他	10%	

授業科目	保育内容研究健康（夏期)A クラス_オンデマンド＋オンライン			単位	2
担当者	青木　好子			シラバスグループ	U21200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	幼児期の健康や発達を支えるために必要な 領域「健康」に関する保育者の援助および実践について
■授業の概要	運動あそびを通して、「健康」について具体的に学習する。そのための保育者の環境構成、援助について考え、その在り方と共に体感し合いましょう。|保育者として、実践を行う上での資質を高めることに役立つように展開します。|受講生に対しては、知識の伝承ではなく、対話を繰り返しながら「健康」について一緒に考えましょう。|テキストの予習や、配付資料の復習を行ない、受け身ではなく常に「問い」と「自分なりの考え」を持ち、積極的に参加してください。
■授業の目的・ねらい	領域「健康」のねらいや内容、それに関する幼児の健康と発達、生活習慣および幼児自身が健康で安全な生活を作り出す力を育むために必要な環境構成や援助方法について考察し、実践できる力や知識を習得する。|
■到達目標	１．　幼稚園教育要領の領域「健康」について、なねらいと内容について理解する。|２．　幼児期の心身の発育発達の特徴や個人差と取り組みへの意欲などを理解する。|3. 心を動かし、体を動かすあそびに則した環境構成、援助の在り方を一緒に考えましょう。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	15%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	25%	
･その他	10%	

授業科目	保育内容研究環境（春期)A クラス_オンライン＋対面				単位	2
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	U22100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	領域「環境」のねらいを基に、幼児と身近な環境とのかかわりを通して、生きぬく力の基礎を育てるための実践的指導方法を学ぶ。
■授業の概要	幼稚園教育要領の領域「環境」について，ねらいと内容を理解し，その指導法を習得する。|乳幼児の発達・成長に人的環境や物的環境，自然環境や社会環境が重要な役割を果たしていることを理解し，自然環境を活かした実践方法や、環境構成の考え方や実践方法について学ぶ。|テキスト，視聴覚教材を中心とした講義、グループ討議、模擬指導，リポート作成等を通して，実践的指導力を身につける。
■授業の目的・ねらい	幼児教育における領域「環境」の指導（保育）計画・実践に本格的に取り組もうとする意欲のある人材を育成することを目的とする。
■到達目標	１．幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいと内容を理解し，人・物・自然・社会環境等，子どもを取り巻く環境について理解する。|２．乳幼児期の育ちと環境の関係を把握するとともに，幼児が自ら環境とかかわり，生活に取り入れていこうとする力を育てる環境のあり方の理論的背景および実践的指導法を理解する。|３．保育内容「環境」の実践的指導法を身につける。|４．身近な自然（季節と動植物等）とのかかわりに関する指導法（環境構成を含む）を体得する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	

授業科目	保育内容研究環境（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	U22200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	領域「環境」のねらいを基に、幼児と身近な環境とのかかわりを通して、生きぬく力の基礎を育てるための実践的指導方法を学ぶ。
■授業の概要	幼稚園教育要領の領域「環境」について，ねらいと内容を理解し，その指導法を習得する。|乳幼児の発達・成長に人的環境や物的環境，自然環境や社会環境が重要な役割を果たしていることを理解し，自然環境を活かした実践方法や、環境構成の考え方や実践方法について学ぶ。|テキスト，視聴覚教材を中心とした講義、グループ討議、模擬指導，リポート作成等を通して，実践的指導力を身につける。
■授業の目的・ねらい	幼児教育における領域「環境」の指導（保育）計画・実践に本格的に取り組もうとする意欲のある人材を育成することを目的とする。
■到達目標	１．幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいと内容を理解し，人・物・自然・社会環境等，子どもを取り巻く環境について理解する。|２．乳幼児期の育ちと環境の関係を把握するとともに，幼児が自ら環境とかかわり，生活に取り入れていこうとする力を育てる環境のあり方の理論的背景および実践的指導法を理解する。|３．保育内容「環境」の実践的指導法を身につける。|４．身近な自然（季節と動植物等）とのかかわりに関する指導法（環境構成を含む）を体得する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	

授業科目	保育内容研究表現１(音楽表現)(夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	臼井　奈緒			シラバスグループ	U23200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	表現領域（音楽）に関する保育実践のための基礎的な知識と表現・指導技術を高める。
■授業の概要	幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」の基本理念をふまえ、表現領域に示すねらいの趣旨に基づき、幼児の音楽表現指導を行う上で必要となる基礎的かつ実践的内容を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	音楽表現力の向上を目指し、音楽の基礎的知識・表現技術を習得することを目的とする。
■到達目標	できるだけ多くの表現遊びを習得する。また、子どもの発達段階にふさわしい表現方法や指導方法を取捨選択し、自らの保育実践において活用、工夫する能力を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	20%	

授業科目	保育内容研究表現１(音楽表現)(秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	臼井　奈緒			シラバスグループ	U23300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	表現領域（音楽）に関する保育実践のための基礎的な知識と表現・指導技術を高める。
■授業の概要	幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」の基本理念をふまえ、表現領域に示すねらいの趣旨に基づき、幼児の音楽表現指導を行う上で必要となる基礎的かつ実践的内容を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	音楽表現力の向上を目指し、音楽の基礎的知識・表現技術を習得することを目的とする。
■到達目標	できるだけ多くの表現遊びを習得する。また、子どもの発達段階にふさわしい表現方法や指導方法を取捨選択し、自らの保育実践において活用、工夫する能力を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	20%	

授業科目	保育内容研究表現２(絵画製作)(夏期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	髙橋　敏之			シラバスグループ	U24200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶ。また、保育者として必要な造型面の理論・技法・指導法について実技を通して学習する。
■授業の概要	領域「表現」について理解し、子どもの「造形表現」の年齢別の発達や子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶとともに、造形表現の様々な技法的知識を修得する。また、保育者として適切な援助、指導をするために、保育・教育実習に使える楽しい造形教育の方法論、手法や技法についても学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①『幼稚園教育要領』等に示された幼児教育の基本を踏まえ、保育内容「表現」のねらい及び内容を理解する。|②幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
■到達目標	①保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できることを目標とする。|②乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できることを目標とする。|③乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	0%	

授業科目	保育内容研究表現２(絵画製作)(秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	髙橋　敏之			シラバスグループ	U24300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶ。また、保育者として必要な造型面の理論・技法・指導法について実技を通して学習する。
■授業の概要	領域「表現」について理解し、子どもの「造形表現」の年齢別の発達や子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶとともに、造形表現の様々な技法的知識を修得する。また、保育者として適切な援助、指導をするために、保育・教育実習に使える楽しい造形教育の方法論、手法や技法についても学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①『幼稚園教育要領』等に示された幼児教育の基本を踏まえ、保育内容「表現」のねらい及び内容を理解する。|②幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
■到達目標	①保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できることを目標とする。|②乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できることを目標とする。|③乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	0%	

授業科目	保育内容の理論と方法「健康」（春期)A クラス_オンデマンド＋オンライン				単位	2
担当者	青木　好子			シラバスグループ	U21100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	幼児期の健康や発達を支えるために必要な 領域「健康」に関する保育者の援助および実践について
■授業の概要	運動あそびを通して、「健康」について具体的に学習する。そのための保育者の環境構成、援助について考え、その在り方と共に体感し合いましょう。|保育者として、実践を行う上での資質を高めることに役立つように展開します。|受講生に対しては、知識の伝承ではなく、対話を繰り返しながら「健康」について一緒に考えましょう。|テキストの予習や、配付資料の復習を行ない、受け身ではなく常に「問い」と「自分なりの考え」を持ち、積極的に参加してください。
■授業の目的・ねらい	領域「健康」のねらいや内容、それに関する幼児の健康と発達、生活習慣および幼児自身が健康で安全な生活を作り出す力を育むために必要な環境構成や援助方法について考察し、実践できる力や知識を習得する。|
■到達目標	１．　幼稚園教育要領の領域「健康」について、なねらいと内容について理解する。|2．　幼児期の心身の発育発達の特徴や個人差と取り組みへの意欲などを理解する。|3. 心を動かし、体を動かすあそびに則した環境構成、援助の在り方を一緒に考えましょう。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	15%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	25%	
･その他	10%	

授業科目	保育内容の理論と方法「健康」（夏期)A クラス_オンデマンド＋オンライン				単位	2
担当者	青木　好子			シラバスグループ	U21200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	幼児期の健康や発達を支えるために必要な 領域「健康」に関する保育者の援助および実践について
■授業の概要	運動あそびを通して、「健康」について具体的に学習する。そのための保育者の環境構成、援助について考え、その在り方と共に体感し合いましょう。|保育者として、実践を行う上での資質を高めることに役立つように展開します。|受講生に対しては、知識の伝承ではなく、対話を繰り返しながら「健康」について一緒に考えましょう。|テキストの予習や、配付資料の復習を行ない、受け身ではなく常に「問い」と「自分なりの考え」を持ち、積極的に参加してください。
■授業の目的・ねらい	領域「健康」のねらいや内容、それに関する幼児の健康と発達、生活習慣および幼児自身が健康で安全な生活を作り出す力を育むために必要な環境構成や援助方法について考察し、実践できる力や知識を習得する。|
■到達目標	１．　幼稚園教育要領の領域「健康」について、なねらいと内容について理解する。|2．　幼児期の心身の発育発達の特徴や個人差と取り組みへの意欲などを理解する。|3. 心を動かし、体を動かすあそびに則した環境構成、援助の在り方を一緒に考えましょう。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	15%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	25%	
･その他	10%	

授業科目	保育内容の理論と方法「環境」（春期)A クラス_オンライン＋対面			単位	2
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	U22100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	領域「環境」のねらいを基に、幼児と身近な環境とのかかわりを通して、生きぬく力の基礎を育てるための実践的指導方法を学ぶ。
■授業の概要	幼稚園教育要領の領域「環境」について，ねらいと内容を理解し，その指導法を習得する。|乳幼児の発達・成長に人的環境や物的環境，自然環境や社会環境が重要な役割を果たしていることを理解し，自然環境を活かした実践方法や、環境構成の考え方や実践方法について学ぶ。|テキスト，視聴覚教材を中心とした講義、グループ討議、模擬指導，リポート作成等を通して，実践的指導力を身につける。
■授業の目的・ねらい	幼児教育における領域「環境」の指導（保育）計画・実践に本格的に取り組もうとする意欲のある人材を育成することを目的とする。
■到達目標	１．幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいと内容を理解し，人・物・自然・社会環境等，子どもを取り巻く環境について理解する。|２．乳幼児期の育ちと環境の関係を把握するとともに，幼児が自ら環境とかかわり，生活に取り入れていこうとする力を育てる環境のあり方の理論的背景および実践的指導法を理解する。|３．保育内容「環境」の実践的指導法を身につける。|４．身近な自然（季節と動植物等）とのかかわりに関する指導法（環境構成を含む）を体得する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	

授業科目	保育内容の理論と方法「環境」（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	U22200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	領域「環境」のねらいを基に、幼児と身近な環境とのかかわりを通して、生きぬく力の基礎を育てるための実践的指導方法を学ぶ。
■授業の概要	幼稚園教育要領の領域「環境」について，ねらいと内容を理解し，その指導法を習得する。|乳幼児の発達・成長に人的環境や物的環境，自然環境や社会環境が重要な役割を果たしていることを理解し，自然環境を活かした実践方法や、環境構成の考え方や実践方法について学ぶ。|テキスト，視聴覚教材を中心とした講義、グループ討議、模擬指導，リポート作成等を通して，実践的指導力を身につける。
■授業の目的・ねらい	幼児教育における領域「環境」の指導（保育）計画・実践に本格的に取り組もうとする意欲のある人材を育成することを目的とする。
■到達目標	１．幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいと内容を理解し，人・物・自然・社会環境等，子どもを取り巻く環境について理解する。|２．乳幼児期の育ちと環境の関係を把握するとともに，幼児が自ら環境とかかわり，生活に取り入れていこうとする力を育てる環境のあり方の理論的背景および実践的指導法を理解する。|３．保育内容「環境」の実践的指導法を身につける。|４．身近な自然（季節と動植物等）とのかかわりに関する指導法（環境構成を含む）を体得する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	

授業科目	保育内容の理論と方法「音楽表現」（夏期)A クラス_対面			単位	2
担当者	臼井　奈緒			シラバスグループ	U23200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	表現領域（音楽）に関する保育実践のための基礎的な知識と表現・指導技術を高める。
■授業の概要	幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」の基本理念をふまえ、表現領域に示すねらいの趣旨に基づき、幼児の音楽表現指導を行う上で必要となる基礎的かつ実践的内容を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	音楽表現力の向上を目指し、音楽の基礎的知識・表現技術を習得することを目的とする。
■到達目標	できるだけ多くの表現遊びを習得する。また、子どもの発達段階にふさわしい表現方法や指導方法を取捨選択し、自らの保育実践において活用、工夫する能力を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	20%	

授業科目	保育内容の理論と方法「音楽表現」（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	臼井　奈緒			シラバスグループ	U23300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	表現領域（音楽）に関する保育実践のための基礎的な知識と表現・指導技術を高める。
■授業の概要	幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」の基本理念をふまえ、表現領域に示すねらいの趣旨に基づき、幼児の音楽表現指導を行う上で必要となる基礎的かつ実践的内容を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	音楽表現力の向上を目指し、音楽の基礎的知識・表現技術を習得することを目的とする。
■到達目標	できるだけ多くの表現遊びを習得する。また、子どもの発達段階にふさわしい表現方法や指導方法を取捨選択し、自らの保育実践において活用、工夫する能力を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	20%	

授業科目	保育内容の理論と方法「造形表現」（夏期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	髙橋　敏之			シラバスグループ	U24200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶ。また、保育者として必要な造型面の理論・技法・指導法について実技を通して学習する。
■授業の概要	領域「表現」について理解し、子どもの「造形表現」の年齢別の発達や子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶとともに、造形表現の様々な技法的知識を修得する。また、保育者として適切な援助、指導をするために、保育・教育実習に使える楽しい造形教育の方法論、手法や技法についても学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①『幼稚園教育要領』等に示された幼児教育の基本を踏まえ、保育内容「表現」のねらい及び内容を理解する。|②幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
■到達目標	①保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できることを目標とする。|②乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できることを目標とする。|③乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	0%	

授業科目	保育内容の理論と方法「造形表現」（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	髙橋　敏之			シラバスグループ	U24300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶ。また、保育者として必要な造型面の理論・技法・指導法について実技を通して学習する。
■授業の概要	領域「表現」について理解し、子どもの「造形表現」の年齢別の発達や子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶとともに、造形表現の様々な技法的知識を修得する。また、保育者として適切な援助、指導をするために、保育・教育実習に使える楽しい造形教育の方法論、手法や技法についても学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①『幼稚園教育要領』等に示された幼児教育の基本を踏まえ、保育内容「表現」のねらい及び内容を理解する。|②幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
■到達目標	①保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できることを目標とする。|②乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できることを目標とする。|③乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	0%	

授業科目	幼児理解と保育相談（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	U11200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	保育における相談支援について理解を深める。
■授業の概要	保育相談支援について理解する。保育相談支援の基本となる子どもの最善の利益と福祉の重視、子どもの成長の喜びの共有、信頼関係を基本とした受容的なかかわり、地域の資源の活用と関係機関との連携等の理解を深める。保育相談支援の実践に関する技術を学習し、グループワークにおける事例検討を通じて保育相談支援の実際を学んでいく。
■授業の目的・ねらい	次の 4 つの観点における習得と達成を重視する。｜（1）保育相談支援の意義と原則について理解する。｜（2）保護者支援の基本を理解する。｜（3）保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。｜（4）保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。
■到達目標	保育相談支援の意義と原則について、保護者支援の基本について理解できる。また、保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解できる。保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	保育の内容と方法（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	U50200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	幼稚園教育の真諦
■授業の概要	「幼稚園教育要領」を通して保育内容を理解するとともに、「領域」（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の有機的関連について理解を深める。また、保育内容の歴史的変遷について考察し、平成 30 年版「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の共通性についても考察する。さらに、倉橋惣三の保育を通して保育内容・方法の理解を深め、「環境を通して行う保育」を基本に、養護と教育が一体的に展開することを具体的な指導技術に繋げて学習する。
■授業の目的・ねらい	幼稚園教育要領の理解のために倉橋惣三の保育を学ぶ。
■到達目標	①幼稚園教育の基本を理解し、保育内容と方法及び指導技術を学ぶ。|②現代の幼稚園教育要領に多大な影響を与えている倉橋惣三の保育理論を学ぶ。|③自身の保育観、子ども観の構築と保育内容・方法及び指導技術の習得をする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
·授業内発表	0%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	20%	
·その他	0%	

授業科目	保育の内容及び方法（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	U50200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	幼稚園教育の真諦
■授業の概要	「幼稚園教育要領」を通して保育内容を理解するとともに、「領域」（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の有機的関連について理解を深める。また、保育内容の歴史的変遷について考察し、平成 30 年版「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の共通性についても考察する。さらに、倉橋惣三の保育を通して保育内容・方法の理解を深め、「環境を通して行う保育」を基本に、養護と教育が一体的に展開することを具体的な指導技術に繋げて学習する。
■授業の目的・ねらい	幼稚園教育要領の理解のために倉橋惣三の保育を学ぶ。
■到達目標	①幼稚園教育の基本を理解し、保育内容と方法及び指導技術を学ぶ。|②現代の幼稚園教育要領に多大な影響を与えている倉橋惣三の保育理論を学ぶ。|③自身の保育観、子ども観の構築と保育内容・方法及び指導技術の習得をする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
·授業内発表	0%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	20%	
·その他	0%	

授業科目	幼児理解及び保育相談（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	U11200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	保育における相談支援について理解を深める。
■授業の概要	保育相談支援について理解する。保育相談支援の基本となる子どもの最善の利益と福祉の重視、子どもの成長の喜びの共有、信頼関係を基本とした受容的なかかわり、地域の資源の活用と関係機関との連携等の理解を深める。保育相談支援の実践に関する技術を学習し、グループワークにおける事例検討を通じて保育相談支援の実際を学んでいく。
■授業の目的・ねらい	次の 4 つの観点における習得と達成を重視する。｜(1) 保育相談支援の意義と原則について理解する。｜(2) 保護者支援の基本を理解する。｜(3) 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。｜(4) 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。
■到達目標	保育相談支援の意義と原則について、保護者支援の基本について理解できる。また、保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解できる。保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	70	
·リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
·授業内発表	30	
·授業内試験	0	
·授業内課題	0	
·その他	0	

授業科目	保育内容研究人間関係（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	U51100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	幼児の人間関係の基本的構造を理解し、その構築を援助する力を身に付ける。
■授業の概要	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育の実践を関連させて理解を深める。また、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。
■授業の目的・ねらい	幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。
■到達目標	１．幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらい･内容及びその位置づけを理解できる。|2．幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。|3．領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。|4．指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成及び評価することができる。|5．領域「人間関係」に係る現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。|到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
･授業内発表	10	
･授業内試験	20	到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
･授業内課題	0	到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
･その他	0	

授業科目	保育内容研究言葉1(言語)(春期)A クラス_対面				単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	U52100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	幼児のことばを育む児童文化財
■授業の概要	言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、児童文化財の精神（こころ）と技術の習得のために様々な児童文化財を提示する。創作においては、小グループを作り、できる限り多くの文化財を創作し、模擬保育をすることで、その技術を練磨する。なお、語りについては、全ての文化財の基礎として、物語を一つ自分のものにし、発表を課す。
■授業の目的・ねらい	①言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、児童文化財の精神（こころ）と技術を習得する。|②文化財を製作し、模擬保育を通して技術を練磨する。|③幼児の言葉を育む児童文化財を実際に体験することで、児童文化の心を学ぶ。
■到達目標	①言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、さまざまな児童文化財の捜索を通して、児童文化のこころに触れ、保育者としての感性と創造性を養う。|②言葉を育む児童文化財への心を育み、保育活動における児童文化財の活用方法・技術を学ぶ。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	70%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。|到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
·授業内発表	0%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	30%	
·その他	0%	到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。

授業科目	保育内容研究言葉1(言語)(秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	U52300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	幼児のことばを育む児童文化財
■授業の概要	言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、児童文化財の精神（こころ）と技術の習得のために様々な児童文化財を提示する。創作においては、小グループを作り、できる限り多くの文化財を創作し、模擬保育をすることで、その技術を練磨する。なお、語りについては、全ての文化財の基礎として、物語を一つ自分のものにし、発表を課す。
■授業の目的・ねらい	①言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、児童文化財の精神（こころ）と技術を習得する。|②文化財を製作し、模擬保育を通して技術を練磨する。|③幼児の言葉を育む児童文化財を実際に体験することで、児童文化の心を学ぶ。
■到達目標	①言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、さまざまな児童文化財の捜索を通して、児童文化のこころに触れ、保育者としての感性と創造性を養う。|②言葉を育む児童文化財への心を育み、保育活動における児童文化財の活用方法・技術を学ぶ。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	70%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。|到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
·授業内発表	0%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	30%	
·その他	0%	到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(夏期)1 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	（未 定）			シラバスグループ	S71211
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	安田　公一			シラバスグループ	S71220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(夏期)2 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71221
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(秋期)1 週_A クラス_オンライン				単位	2
担当者	安田　公一			シラバスグループ	S71310	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(秋期)1 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71311	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(秋期)2 週_A クラス_オンライン				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71320	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(秋期)2 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	（未 定）			シラバスグループ	S71321	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(集中１)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71510
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(集中１)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S71511
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	渡邉　照美			シラバスグループ	S72100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(春期)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	赤沢　真世			シラバスグループ	S72101
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(春期)C クラス_オンライン			単位	2
担当者	盛永　俊弘			シラバスグループ	S72102
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(春期)D クラス_オンライン			単位	2
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	S72103
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(夏期)1 週_A クラス_オンライン				単位	2
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	S72210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(夏期)1 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	S72211	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	月岡　卓也			シラバスグループ	S72220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自身の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(夏期)2 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	S72221	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自身の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S72301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自身の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(秋期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	S72302	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(秋期)C クラス_オンライン				単位	2
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	S72303	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(秋期)D クラス_オンライン			単位	2
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S72304
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の４つのテーマからアプローチする。‖①　教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②　教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③　子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④　教科（保育内容）に関する正確な指導力を身につけているか。
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(冬期)1 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	S72410
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(冬期)1 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	小林　隆			シラバスグループ	S72411	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(冬期)1 週_C クラス_オンライン				単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S72412	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(冬期)2 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S72420
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(冬期)2 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S72421
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(冬期)2 週_C クラス_オンライン				単位	2
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	S72422	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	保育内容の理論と方法「人間関係」（春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	U51100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S

■授業のテーマ	幼児の人間関係の基本的構造を理解し、その構築を援助する力を身に付ける。
■授業の概要	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育の実践を関連させて理解を深める。また、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。
■授業の目的・ねらい	幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。
■到達目標	１．幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらい･内容及びその位置づけを理解できる。|2．幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。|3．領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。|4．指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成及び評価することができる。|5．領域「人間関係」に係る現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。|到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
･授業内発表	10	
･授業内試験	20	到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
･授業内課題	0	到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
･その他	0	

授業科目	保育内容の理論と方法「言葉」（春期)A クラス_対面				単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	U52100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	幼児のことばを育む児童文化財
■授業の概要	言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、児童文化財の精神（こころ）と技術の習得のために様々な児童文化財を提示する。創作においては、小グループを作り、できる限り多くの文化財を創作し、模擬保育をすることで、その技術を練磨する。なお、語りについては、全ての文化財の基礎として、物語を一つ自分のものにし、発表を課す。
■授業の目的・ねらい	①言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、児童文化財の精神（こころ）と技術を習得する。|②文化財を製作し、模擬保育を通して技術を練磨する。|③幼児の言葉を育む児童文化財を実際に体験することで、児童文化の心を学ぶ。
■到達目標	①言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、さまざまな児童文化財の捜索を通して、児童文化のこころに触れ、保育者としての感性と創造性を養う。|②言葉を育む児童文化財への心を育み、保育活動における児童文化財の活用方法・技術を学ぶ。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。|到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	30%	
･その他	0%	到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。

授業科目	保育内容の理論と方法「言葉」（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	U52300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S

■授業のテーマ	幼児のことばを育む児童文化財
■授業の概要	言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、児童文化財の精神（こころ）と技術の習得のために様々な児童文化財を提示する。創作においては、小グループを作り、できる限り多くの文化財を創作し、模擬保育をすることで、その技術を練磨する。なお、語りについては、全ての文化財の基礎として、物語を一つ自分のものにし、発表を課す。
■授業の目的・ねらい	①言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、児童文化財の精神（こころ）と技術を習得する。|②文化財を製作し、模擬保育を通して技術を練磨する。|③幼児の言葉を育む児童文化財を実際に体験することで、児童文化の心を学ぶ。
■到達目標	①言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、さまざまな児童文化財の捜索を通して、児童文化のこころに触れ、保育者としての感性と創造性を養う。|②言葉を育む児童文化財への心を育み、保育活動における児童文化財の活用方法・技術を学ぶ。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。|到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	30%	
･その他	0%	到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。

授業科目	保育実践演習（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	U57400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	保育士課程における学びや保育現場での体験を振り返り、保育士としての役割について考察するとともに保育士としての専門性を高める。
■授業の概要	保育士課程での学びや保育現場での体験の軌跡を振り返ることで自らの到達点と課題を自覚し、本演習を通じて保育士として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。特に、人権を尊重する視点やその現場での実践を中心にした学びのふり返りから、社会的諸課題に対する保育士の役割を検討する。
■授業の目的・ねらい	本講義は、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り、今後に向けた自己課題について把握することを目的とする。|【ねらい】|①保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題を分析し、課題解決に向けて求められる保育士の役割について考察する力を養う。|②自己の課題を明確化し、演習を通して保育士として必要な実践的資質能力や指導力を高める。
■到達目標	・これまでの学修及び実習体験を通して得た学びを踏まえて、保育士としての役割について、自分の言葉で語ることができる。|・これまでの学修及び実習体験を通して得た保育士としての資質能力や指導技術に関して自己評価する力を養い、自己課題について整理することができる。|・保育の現代的課題を分析し、これからの保育のあり方を展望することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・リポート試験(SR 履修)	50	
・授業内発表	50	到達目標の内容に対する到達度をはかり、学びの過程を授業内発表として評価する|十分に達成できていれば A 評価、ほぼ達成できていれば B 評価、もう少し努力が必要な場合は C 評価、求める最低水準に達せず更なる努力が必要な場合は D 評価とする
・授業内試験	0	到達目標の内容に対する到達度をはかり、学びの過程を授業内発表として評価する|十分に達成できていれば A 評価、ほぼ達成できていれば B 評価、もう少し努力が必要な場合は C 評価、求める最低水準に達せず更なる努力が必要な場合は D 評価とする
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	保育内容の理論と方法「健康」（春期)A クラス_オンデマンド＋オンライン				単位	2
担当者	青木　好子			シラバスグループ	U21100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	幼児期の健康や発達を支えるために必要な 領域「健康」に関する保育者の援助および実践について
■授業の概要	運動あそびを通して、「健康」について具体的に学習する。そのための保育者の環境構成、援助について考え、その在り方と共に体感し合いましょう。|保育者として、実践を行う上での資質を高めることに役立つように展開します。|受講生に対しては、知識の伝承ではなく、対話を繰り返しながら「健康」について一緒に考えましょう。|テキストの予習や、配付資料の復習を行ない、受け身ではなく常に「問い」と「自分なりの考え」を持ち、積極的に参加してください。
■授業の目的・ねらい	領域「健康」のねらいや内容、それに関する幼児の健康と発達、生活習慣および幼児自身が健康で安全な生活を作り出す力を育むために必要な環境構成や援助方法について考察し、実践できる力や知識を習得する。|
■到達目標	１．　幼稚園教育要領の領域「健康」について、なねらいと内容について理解する。|2．　幼児期の心身の発育発達の特徴や個人差と取り組みへの意欲などを理解する。|3. 心を動かし、体を動かすあそびに則した環境構成、援助の在り方を一緒に考えましょう。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	15%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	25%	
･その他	10%	

授業科目	保育内容の理論と方法「健康」（夏期)A クラス_オンデマンド＋オンライン				単位	2
担当者	青木　好子			シラバスグループ	U21200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	幼児期の健康や発達を支えるために必要な 領域「健康」に関する保育者の援助および実践について
■授業の概要	運動あそびを通して、「健康」について具体的に学習する。そのための保育者の環境構成、援助について考え、その在り方と共に体感し合いましょう。|保育者として、実践を行う上での資質を高めることに役立つように展開します。|受講生に対しては、知識の伝承ではなく、対話を繰り返しながら「健康」について一緒に考えましょう。|テキストの予習や、配付資料の復習を行ない、受け身ではなく常に「問い」と「自分なりの考え」を持ち、積極的に参加してください。
■授業の目的・ねらい	領域「健康」のねらいや内容、それに関する幼児の健康と発達、生活習慣および幼児自身が健康で安全な生活を作り出す力を育むために必要な環境構成や援助方法について考察し、実践できる力や知識を習得する。|
■到達目標	１．　幼稚園教育要領の領域「健康」について、なねらいと内容について理解する。|2．　幼児期の心身の発育発達の特徴や個人差と取り組みへの意欲などを理解する。|3. 心を動かし、体を動かすあそびに則した環境構成、援助の在り方を一緒に考えましょう。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	15%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	25%	
･その他	10%	

授業科目	保育内容の理論と方法「環境」（春期)A クラス_オンライン＋対面			単位	2
担当者	橋本　裕子			シラバスグループ	U22100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	領域「環境」のねらいを基に、幼児と身近な環境とのかかわりを通して、生きぬく力の基礎を育てるための実践的指導方法を学ぶ。
■授業の概要	幼稚園教育要領の領域「環境」について，ねらいと内容を理解し，その指導法を習得する。|乳幼児の発達・成長に人的環境や物的環境，自然環境や社会環境が重要な役割を果たしていることを理解し，自然環境を活かした実践方法や、環境構成の考え方や実践方法について学ぶ。|テキスト，視聴覚教材を中心とした講義、グループ討議、模擬指導，リポート作成等を通して，実践的指導力を身につける。
■授業の目的・ねらい	幼児教育における領域「環境」の指導（保育）計画・実践に本格的に取り組もうとする意欲のある人材を育成することを目的とする。
■到達目標	１．幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいと内容を理解し，人・物・自然・社会環境等，子どもを取り巻く環境について理解する。|２．乳幼児期の育ちと環境の関係を把握するとともに，幼児が自ら環境とかかわり，生活に取り入れていこうとする力を育てる環境のあり方の理論的背景および実践的指導法を理解する。|３．保育内容「環境」の実践的指導法を身につける。|４．身近な自然（季節と動植物等）とのかかわりに関する指導法（環境構成を含む）を体得する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	

授業科目	保育内容の理論と方法「環境」（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	U22200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	領域「環境」のねらいを基に、幼児と身近な環境とのかかわりを通して、生きぬく力の基礎を育てるための実践的指導方法を学ぶ。
■授業の概要	幼稚園教育要領の領域「環境」について，ねらいと内容を理解し，その指導法を習得する。|乳幼児の発達・成長に人的環境や物的環境，自然環境や社会環境が重要な役割を果たしていることを理解し，自然環境を活かした実践方法や、環境構成の考え方や実践方法について学ぶ。|テキスト，視聴覚教材を中心とした講義、グループ討議、模擬指導，リポート作成等を通して，実践的指導力を身につける。
■授業の目的・ねらい	幼児教育における領域「環境」の指導（保育）計画・実践に本格的に取り組もうとする意欲のある人材を育成することを目的とする。
■到達目標	１．幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいと内容を理解し，人・物・自然・社会環境等，子どもを取り巻く環境について理解する。|２．乳幼児期の育ちと環境の関係を把握するとともに，幼児が自ら環境とかかわり，生活に取り入れていこうとする力を育てる環境のあり方の理論的背景および実践的指導法を理解する。|３．保育内容「環境」の実践的指導法を身につける。|４．身近な自然（季節と動植物等）とのかかわりに関する指導法（環境構成を含む）を体得する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	

授業科目	保育内容の理論と方法「音楽表現」（夏期)A クラス_対面			単位	2
担当者	臼井　奈緒			シラバスグループ	U23200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	表現領域（音楽）に関する保育実践のための基礎的な知識と表現・指導技術を高める。
■授業の概要	幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」の基本理念をふまえ、表現領域に示すねらいの趣旨に基づき、幼児の音楽表現指導を行う上で必要となる基礎的かつ実践的内容を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	音楽表現力の向上を目指し、音楽の基礎的知識・表現技術を習得することを目的とする。
■到達目標	できるだけ多くの表現遊びを習得する。また、子どもの発達段階にふさわしい表現方法や指導方法を取捨選択し、自らの保育実践において活用、工夫する能力を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	20%	

授業科目	保育内容の理論と方法「音楽表現」（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	臼井　奈緒			シラバスグループ	U23300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	表現領域（音楽）に関する保育実践のための基礎的な知識と表現・指導技術を高める。
■授業の概要	幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」の基本理念をふまえ、表現領域に示すねらいの趣旨に基づき、幼児の音楽表現指導を行う上で必要となる基礎的かつ実践的内容を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	音楽表現力の向上を目指し、音楽の基礎的知識・表現技術を習得することを目的とする。
■到達目標	できるだけ多くの表現遊びを習得する。また、子どもの発達段階にふさわしい表現方法や指導方法を取捨選択し、自らの保育実践において活用、工夫する能力を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	20%	

授業科目	保育内容の理論と方法「造形表現」（夏期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	髙橋　敏之			シラバスグループ	U24200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶ。また、保育者として必要な造型面の理論・技法・指導法について実技を通して学習する。
■授業の概要	領域「表現」について理解し、子どもの「造形表現」の年齢別の発達や子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶとともに、造形表現の様々な技法的知識を修得する。また、保育者として適切な援助、指導をするために、保育・教育実習に使える楽しい造形教育の方法論、手法や技法についても学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①『幼稚園教育要領』等に示された幼児教育の基本を踏まえ、保育内容「表現」のねらい及び内容を理解する。|②幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
■到達目標	①保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できることを目標とする。|②乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できることを目標とする。|③乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	0%	

授業科目	保育内容の理論と方法「造形表現」（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	髙橋　敏之			シラバスグループ	U24300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶ。また、保育者として必要な造型面の理論・技法・指導法について実技を通して学習する。
■授業の概要	領域「表現」について理解し、子どもの「造形表現」の年齢別の発達や子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶとともに、造形表現の様々な技法的知識を修得する。また、保育者として適切な援助、指導をするために、保育・教育実習に使える楽しい造形教育の方法論、手法や技法についても学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①『幼稚園教育要領』等に示された幼児教育の基本を踏まえ、保育内容「表現」のねらい及び内容を理解する。|②幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
■到達目標	①保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できることを目標とする。|②乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できることを目標とする。|③乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	0%	

授業科目	幼児理解及び保育相談（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	U11200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	保育における相談支援について理解を深める。
■授業の概要	保育相談支援について理解する。保育相談支援の基本となる子どもの最善の利益と福祉の重視、子どもの成長の喜びの共有、信頼関係を基本とした受容的なかかわり、地域の資源の活用と関係機関との連携等の理解を深める。保育相談支援の実践に関する技術を学習し、グループワークにおける事例検討を通じて保育相談支援の実際を学んでいく。
■授業の目的・ねらい	次の 4 つの観点における習得と達成を重視する。｜(1) 保育相談支援の意義と原則について理解する。｜(2) 保護者支援の基本を理解する。｜(3) 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。｜(4) 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。
■到達目標	保育相談支援の意義と原則について、保護者支援の基本について理解できる。また、保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解できる。保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	70	
·リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
·授業内発表	30	
·授業内試験	0	
·授業内課題	0	
·その他	0	

授業科目	保育の内容及び方法（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	U50200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	幼稚園教育の真諦
■授業の概要	「幼稚園教育要領」を通して保育内容を理解するとともに、「領域」（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の有機的関連について理解を深める。また、保育内容の歴史的変遷について考察し、平成 30 年版「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の共通性についても考察する。さらに、倉橋惣三の保育を通して保育内容・方法の理解を深め、「環境を通して行う保育」を基本に、養護と教育が一体的に展開することを具体的な指導技術に繋げて学習する。
■授業の目的・ねらい	幼稚園教育要領の理解のために倉橋惣三の保育を学ぶ。
■到達目標	①幼稚園教育の基本を理解し、保育内容と方法及び指導技術を学ぶ。|②現代の幼稚園教育要領に多大な影響を与えている倉橋惣三の保育理論を学ぶ。|③自身の保育観、子ども観の構築と保育内容・方法及び指導技術の習得をする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
·授業内発表	0%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	20%	
·その他	0%	

授業科目	保育内容の理論と方法「人間関係」（春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	U51100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S

■授業のテーマ	幼児の人間関係の基本的構造を理解し、その構築を援助する力を身に付ける。
■授業の概要	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育の実践を関連させて理解を深める。また、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。
■授業の目的・ねらい	幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。
■到達目標	１．幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらい･内容及びその位置づけを理解できる。|2．幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。|3．領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。|4．指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成及び評価することができる。|5．領域「人間関係」に係る現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。|到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
･授業内発表	10	
･授業内試験	20	到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
･授業内課題	0	到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
･その他	0	

授業科目	保育内容の理論と方法「言葉」（春期)A クラス_対面				単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	U52100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	幼児のことばを育む児童文化財
■授業の概要	言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、児童文化財の精神（こころ）と技術の習得のために様々な児童文化財を提示する。創作においては、小グループを作り、できる限り多くの文化財を創作し、模擬保育をすることで、その技術を練磨する。なお、語りについては、全ての文化財の基礎として、物語を一つ自分のものにし、発表を課す。
■授業の目的・ねらい	①言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、児童文化財の精神（こころ）と技術を習得する。|②文化財を製作し、模擬保育を通して技術を練磨する。|③幼児の言葉を育む児童文化財を実際に体験することで、児童文化の心を学ぶ。
■到達目標	①言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、さまざまな児童文化財の捜索を通して、児童文化のこころに触れ、保育者としての感性と創造性を養う。|②言葉を育む児童文化財への心を育み、保育活動における児童文化財の活用方法・技術を学ぶ。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。|到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	30%	
･その他	0%	到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。

授業科目	保育内容の理論と方法「言葉」（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	U52300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S

■授業のテーマ	幼児のことばを育む児童文化財
■授業の概要	言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、児童文化財の精神（こころ）と技術の習得のために様々な児童文化財を提示する。創作においては、小グループを作り、できる限り多くの文化財を創作し、模擬保育をすることで、その技術を練磨する。なお、語りについては、全ての文化財の基礎として、物語を一つ自分のものにし、発表を課す。
■授業の目的・ねらい	①言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、児童文化財の精神（こころ）と技術を習得する。|②文化財を製作し、模擬保育を通して技術を練磨する。|③幼児の言葉を育む児童文化財を実際に体験することで、児童文化の心を学ぶ。
■到達目標	①言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、さまざまな児童文化財の捜索を通して、児童文化のこころに触れ、保育者としての感性と創造性を養う。|②言葉を育む児童文化財への心を育み、保育活動における児童文化財の活用方法・技術を学ぶ。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。|到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	30%	
･その他	0%	到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（夏期)1 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	（未 定）			シラバスグループ	S71211
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	安田　公一			シラバスグループ	S71220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（夏期)2 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71221
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（秋期)1 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	安田　公一			シラバスグループ	S71310
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（秋期)1 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71311	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（秋期)2 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71320
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（秋期)2 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	（未 定）			シラバスグループ	S71321
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（集中１)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志		シラバスグループ	S71510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（集中１)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S71511
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	渡邉　照美			シラバスグループ	S72100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（春期)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	赤沢　真世			シラバスグループ	S72101
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（春期)C クラス_オンライン				単位	2
担当者	盛永　俊弘			シラバスグループ	S72102	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（春期)D クラス_オンライン			単位	2
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	S72103
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	S72210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（夏期)1 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	S72211	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	月岡　卓也			シラバスグループ	S72220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自身の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（夏期)2 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	S72221	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自身の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S72301
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自身の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（秋期)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	S72302
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（秋期)C クラス_オンライン			単位	2
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	S72303
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（秋期)D クラス_オンライン			単位	2
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S72304
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の４つのテーマからアプローチする。‖①　教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②　教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③　子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④　教科（保育内容）に関する正確な指導力を身につけているか。
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（冬期)1 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	S72410
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（冬期)1 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	小林　隆			シラバスグループ	S72411
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（冬期)1 週_C クラス_オンライン			単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S72412
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（冬期)2 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S72420
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（冬期)2 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S72421
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（冬期)2 週_C クラス_オンライン			単位	2
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	S72422
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	保育実践演習（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	U57400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	保育士課程における学びや保育現場での体験を振り返り、保育士としての役割について考察するとともに保育士としての専門性を高める。
■授業の概要	保育士課程での学びや保育現場での体験の軌跡を振り返ることで自らの到達点と課題を自覚し、本演習を通じて保育士として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。特に、人権を尊重する視点やその現場での実践を中心にした学びのふり返りから、社会的諸課題に対する保育士の役割を検討する。
■授業の目的・ねらい	本講義は、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り、今後に向けた自己課題について把握することを目的とする。|【ねらい】|①保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題を分析し、課題解決に向けて求められる保育士の役割について考察する力を養う。|②自己の課題を明確化し、演習を通して保育士として必要な実践的資質能力や指導力を高める。
■到達目標	・これまでの学修及び実習体験を通して得た学びを踏まえて、保育士としての役割について、自分の言葉で語ることができる。|・これまでの学修及び実習体験を通して得た保育士としての資質能力や指導技術に関して自己評価する力を養い、自己課題について整理することができる。|・保育の現代的課題を分析し、これからの保育のあり方を展望することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・リポート試験(SR 履修)	50	
・授業内発表	50	到達目標の内容に対する到達度をはかり、学びの過程を授業内発表として評価する|十分に達成できていれば A 評価、ほぼ達成できていれば B 評価、もう少し努力が必要な場合は C 評価、求める最低水準に達せず更なる努力が必要な場合は D 評価とする
・授業内試験	0	到達目標の内容に対する到達度をはかり、学びの過程を授業内発表として評価する|十分に達成できていれば A 評価、ほぼ達成できていれば B 評価、もう少し努力が必要な場合は C 評価、求める最低水準に達せず更なる努力が必要な場合は D 評価とする
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	教職実践演習(教諭)(前半)(夏期)1 週_A クラス_オンライン				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(前半)(夏期)1 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	（未 定）			シラバスグループ	S71211	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(前半)(夏期)2 週_A クラス_オンライン				単位	2
担当者	安田　公一			シラバスグループ	S71220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(前半)(夏期)2 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71221	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(前半)(秋期)1 週_A クラス_オンライン				単位	2
担当者	安田　公一			シラバスグループ	S71310	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(前半)(秋期)1 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71311	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(前半)(秋期)2 週_A クラス_オンライン				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71320	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(前半)(秋期)2 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	（未 定）			シラバスグループ	S71321	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(前半)(集中１)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(前半)(集中１)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S71511
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(後半)(春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	渡邉　照美			シラバスグループ	S72100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(後半)(春期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	赤沢　真世			シラバスグループ	S72101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(後半)(春期)C クラス_オンライン				単位	2
担当者	盛永　俊弘			シラバスグループ	S72102	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(後半)(春期)D クラス_オンライン				単位	2
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	S72103	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(後半)(夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	S72210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(後半)(夏期)1 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	S72211	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(後半)(夏期)2 週_A クラス_オンライン				単位	2
担当者	月岡　卓也			シラバスグループ	S72220	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自身の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(後半)(夏期)2 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	S72221	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自身の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(後半)(秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S72301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自身の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(後半)(秋期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	S72302	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(後半)(秋期)C クラス_オンライン				単位	2
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	S72303	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(後半)(秋期)D クラス_オンライン				単位	2
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S72304	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の４つのテーマからアプローチする。‖①　教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②　教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③　子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④　教科（保育内容）に関する正確な指導力を身につけているか。
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(後半)(冬期)1 週_A クラス_オンライン				単位	2
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	S72410	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(後半)(冬期)1 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	小林　隆			シラバスグループ	S72411	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(後半)(冬期)1 週_C クラス_オンライン				単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S72412	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(後半)(冬期)2 週_A クラス_オンライン				単位	2
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S72420	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(後半)(冬期)2 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S72421	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習(教諭)(後半)(冬期)2 週_C クラス_オンライン				単位	2
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	S72422	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	保育内容の研究（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	U81200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	幼児の感性を育む保育内容
■授業の概要	学習者自身が、さまざまな表現活動を意欲的に創造的に楽しみながら、幼児がいきいきと活動する保育内容を修得する。
■授業の目的・ねらい	・幼児のことばを育む児童文化財を実際に体験することで、児童文化の心を習得する。|・講義で学んだことを実行するには、音楽的素養並びに歌う力、弾く力、音楽に反応する力などの実技の能力が不可欠である。そのような実技の能力をベースとした保育方法を習得する。|・自然への働きかけを通して保育内容環境についての知識・技能を習得する。
■到達目標	・保育における児童文化財・音楽活動・自然と環境の重要性について理解することができたか。|・講義中のさまざまな活動に積極的に参加し、知識・技能の伸長をはかったか。|・保育者としての力量形成の意義を実感しながら理解したか。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	オンデマンドの講義映像配信の講義のため、B-net からのリポート試験にて行う。各分野のリポート試験の総合評価にて評価する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	保育内容の研究（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	U81400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	幼児の感性を育む保育内容
■授業の概要	学習者自身が、さまざまな表現活動を意欲的に創造的に楽しみながら、幼児がいきいきと活動する保育内容を修得する。
■授業の目的・ねらい	・幼児のことばを育む児童文化財を実際に体験することで、児童文化の心を習得する。|・講義で学んだことを実行するには、音楽的素養並びに歌う力、弾く力、音楽に反応する力などの実技の能力が不可欠である。そのような実技の能力をベースとした保育方法を習得する。|・自然への働きかけを通して保育内容環境についての知識・技能を習得する。
■到達目標	・保育における児童文化財・音楽活動・自然と環境の重要性について理解することができたか。|・講義中のさまざまな活動に積極的に参加し、知識・技能の伸長をはかったか。|・保育者としての力量形成の意義を実感しながら理解したか。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	100%	
・リポート試験(SR 履修)	0%	オンデマンドの講義映像配信の講義のため、B-net からのリポート試験にて行う。各分野のリポート試験の総合評価にて評価する。
・授業内発表	0%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	保育内容の指導法（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	U81200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	幼児の感性を育む保育内容
■授業の概要	学習者自身が、さまざまな表現活動を意欲的に創造的に楽しみながら、幼児がいきいきと活動する保育内容を修得する。
■授業の目的・ねらい	・幼児のことばを育む児童文化財を実際に体験することで、児童文化の心を習得する。|・講義で学んだことを実行するには、音楽的素養並びに歌う力、弾く力、音楽に反応する力などの実技の能力が不可欠である。そのような実技の能力をベースとした保育方法を習得する。|・自然への働きかけを通して保育内容環境についての知識・技能を習得する。
■到達目標	・保育における児童文化財・音楽活動・自然と環境の重要性について理解することができたか。|・講義中のさまざまな活動に積極的に参加し、知識・技能の伸長をはかったか。|・保育者としての力量形成の意義を実感しながら理解したか。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	100%	
・リポート試験(SR 履修)	0%	オンデマンドの講義映像配信の講義のため、B-net からのリポート試験にて行う。各分野のリポート試験の総合評価にて評価する。
・授業内発表	0%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	保育内容の指導法（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	U81400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	幼児の感性を育む保育内容
■授業の概要	学習者自身が、さまざまな表現活動を意欲的に創造的に楽しみながら、幼児がいきいきと活動する保育内容を修得する。
■授業の目的・ねらい	・幼児のことばを育む児童文化財を実際に体験することで、児童文化の心を習得する。|・講義で学んだことを実行するには、音楽的素養並びに歌う力、弾く力、音楽に反応する力などの実技の能力が不可欠である。そのような実技の能力をベースとした保育方法を習得する。|・自然への働きかけを通して保育内容環境についての知識・技能を習得する。
■到達目標	・保育における児童文化財・音楽活動・自然と環境の重要性について理解することができたか。|・講義中のさまざまな活動に積極的に参加し、知識・技能の伸長をはかったか。|・保育者としての力量形成の意義を実感しながら理解したか。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	100%	
・リポート試験(SR 履修)	0%	オンデマンドの講義映像配信の講義のため、B-net からのリポート試験にて行う。各分野のリポート試験の総合評価にて評価する。
・授業内発表	0%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	三重野　雄太郎			シラバスグループ	T00200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	大学での学び
■授業の概要	本講義では、大学で勉強していくうえで必要なスキルを身につけてもらう。大学での学習では、自分に必要な情報を得るために文献やインターネットを活用するスキル、学術的な文章を読むスキル、リポートの作成のためのスキル、プレゼンテーションのためのスキルなどが必要になる。皆さんが順調に大学での学習を進め、卒業レポートを無事完成させるために必要なものである。真剣に取り組まれたい。
■授業の目的・ねらい	大学での勉強のためのスキルを磨く
■到達目標	①自身に必要な文献を図書館で探すことができる。|②インターネットを活用して必要な情報を得るとともに、そうした情報を活用するための情報リテラシーを身につけている。|③基本的な作法を踏まえてリポートを作成することができる。|④他人の意見に十分に耳を傾けながら、自分の考えを論理的かつ分かりやすく相手に伝え、議論を進めることができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	|0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	香西　豊子			シラバスグループ	T00300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	アカデミックスキルを身につける
■授業の概要	大学での学びには、学びたいという意志だけでなく、学ぶためのスキル（技能）がいくらか必要となります。たとえば、知りたい情報にアクセスし入手するスキル、収集した情報を読解し仕分けするスキル、学んだことを他者と議論して深めるスキル、学び得た知見をまとめて発表するスキルなどが、そうです。｜　この講義では、そうした「よりよく学ぶ」ための前提となるスキルを、順に習得してゆきます。
■授業の目的・ねらい	つぎの 5 点のスキルを習得する｜（1）情報を適切に効率よく収集する｜（2）情報を読解・分析する｜（3）調査結果を議論し検討する｜（4）調査結果を文書にまとめ発表する｜（5）調査結果を口頭で発表する
■到達目標	（1）情報を適切に効率よく収集できる｜（2）情報を読解・分析できる｜（3）調査結果を議論し検討できる｜（4）調査結果を文書にまとめ発表できる｜（5）調査結果を口頭で発表できる　｜

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	30	
･授業内発表	35	
･授業内試験	0	
･授業内課題	35	
･その他	0	

授業科目	現代社会論（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	香西　豊子			シラバスグループ	T01100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	社会学の視点からみた現代社会
■授業の概要	社会のなかには、「問題」とされる現象がさまざまに生じています。そして、その「問題」のされ方をみれば、「そんなことはあってはならない事態だ」という価値観がそこに張りついていることが見えてきます。| この講義では、時事的な話題を多くとりあげながら、社会の「問題」（を構成する価値観）について理解を深めていきます。
■授業の目的・ねらい	（1）社会のなかで「問題」とされていることの背景につき、洞察を得る|（2）ケーススタディをとおして、自らの周りで生じている事象に、社会学の知見を援用できるようになる
■到達目標	（1）社会のなかで「問題」とされていることの背景まで考察の対象とできる|(2)自らの周りで生じている事象に、社会学の知見を援用できる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	30	
･授業内発表	35	
･授業内試験	0	
･授業内課題	35	
･その他	0	

授業科目	現代社会論（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	山本　彩暖			シラバスグループ	T01400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	現代社会をより深く読み解くための社会学～自分と社会について考える
■授業の概要	世の中で起きている出来事の背景にあるものを見つめ、今まで自分が持っていた常識を問い直すのが社会学である。‖本講義では実際の社会現象を例に挙げ、社会学的に考えることを行う。|まず最初に社会現象を捉える際に重要なのが、物事を批判的に見るという立場である。社会学が誕生した背景を通じて「批判と誹謗中傷」の違いについて考える。多くの人が常に感じる恐怖「SNS 暴力」、SNS 暴力の発端となったテレビ番組や実際の報道を通して考える「メディアリテラシー」の問題、「少子高齢社会」によって起きる問題、誰もが人生で一度は悩む家族について学術的に学ぶ「家族社会学」、日韓共にベストセラー作品になった小説を通して見る「性差別」の問題、韓国宗教を例に宗教に対する見方を深める「現代社会と宗教」等といった幅広い現代社会の事象を扱い、これらを社会学的に読み解いていく。‖担当教員による個々の事例について解説の後、参加者全員で意見交換を行うことで理解を深め、知識を定着させていくアクティブラーニング形式の講義で進める。‖‖
■授業の目的・ねらい	①世の中で起きている様々な社会現象について、社会学的な視点から自分の言葉で語ることができるようになることを目的とする。‖②アクティブラーニング（教員との双方向の対話）を通して、社会学の基本的なものの見方を身に付ける。
■到達目標	①批判と誹謗中傷の違いについて、自分の言葉で説明し実践できるようになる。‖②授業で扱った事象について、社会学的に説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	討論における発言、コメントシートで評価

授業科目	公共性と社会（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	河内　良彰			シラバスグループ	T02100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	公共の哲学
■授業の概要	本授業は、公共性をキーワードとして、公的な領域と私的な領域の双方に公共問題として取り組むべき課題を析出し、かかる課題を市民の視点で解決するための方法を学修する。公共性の概念を再定義し、新しい公共性の創造に向けて地域社会の具体的現実に則した施策を検討する。
■授業の目的・ねらい	本授業は、わが国の公共政策に関する現状把握のうえで、履修者各人が地域社会における身近な社会問題について、その実態を正確に理解して課題解決を図るための施策を提起する力量を総合的に養うことをねらいとする。地域主義を基軸として社会的課題を検討することを目指す。
■到達目標	【知識・理解の観点】設計、決定、実施、評価の公共政策の過程を理解する。|【思考・判断の観点】住民が知識を身につけて社会問題を解決する条件を考察する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	授業内容の理解と考察を評価する。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	公共性と社会（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	白石　哲郎			シラバスグループ	T02400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	現代社会における「公共」の望ましいあり方や、公私関係の課題や展望について考える
■授業の概要	日本における公共的な問題は、これまで行政主導で進められてきた。しかし、箱物行政といった言葉があるように、「公共の福祉」の名のもとに行われてきた様々な事業が本当に市井の人びとのためになっているかといえば、疑わしい面もある。さらに財政問題なども相まって、行政だけでは公共的な役割を担いきれなくなってきているのも事実である。本講義では、市民が主体の公共的な社会の構築は可能なのか、また、市民と行政のパートナーシップの前進に寄与しうる「新しい公共」のあり方として、いかなる制度や実践がその候補となるのか、これらの課題を中心に話をしたい。
■授業の目的・ねらい	私たち市民の暮らしにとって身近な問題や集団・組織に焦点をあてて、これらを「新しい公共」という視点から考察すること。
■到達目標	①公共というものが、抽象的・観念的な存在ではなく、私たちの日常生活と切り離して考えることのできない具体的・経験的な存在であるということを理解すること。|②授業で得た情報や社会学的な知識・概念を、受講生が地域の一生活者として実際に関心を抱いている、あるいは実際に当事者としてたずさわっている問題について考えなおしたり、捉えなおすためのツール(道具)として役立てることができるようになること。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	現代社会学講読１（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大場　吾郎			シラバスグループ	T03200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	放送コンテンツの国際展開
■授業の概要	放送コンテンツの海外展開を国の成長戦略の柱の１つと位置づける政府は大々的にテレビ番組の輸出支援に乗り出し、2018 年までに輸出額を 5 倍にすることを目標として掲げた。それと相俟って、テレビ番組の輸出への期待や一般的な関心も高まりを見せたが、実は日本のテレビ番組の国際展開には長い歴史がある。本研究では、ドラマやバラエティ番組に代表される日本のテレビ番組のこれまでの国際展開を通観する中で、それぞれの時代における動機・成果・課題をそれぞれ考察・分析し、その方法の変遷を体系的に総括する。
■授業の目的・ねらい	テレビ番組の国際展開を海外市場へのコンテンツビジネスならびに海外諸国との異文化交流という 2 つの側面から考察することで、 それが経済、社会生活、文化、価値観、そしてコミュニケーションのあり方にいかなる影響をもたらしてきたかを包括的に理解することを目的とする。
■到達目標	メディアコンテンツの海外流通に関して理解を深めるとともに、学術的な視点で考察する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	現代社会学講読１（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	栗田 英彦			シラバスグループ	T03300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会運動から現代社会を考える
■授業の概要	この授業では、松本哉『増補版 貧乏人の逆襲！』（筑摩書房、2011 年)、毛利嘉孝『ストリートの思想』（日本放送出版協会、2009 年)、外山恒一『政治活動入門』（百万年書房、2021 年）を、講読用の資料として用いて、2000 年代以降の社会運動の特徴を社会学的視座から分析する。具体的には、各資料について教員による解説を適宜加えつつ、受講者によるディスカッションや発表を行うことで理解を深めていく。
■授業の目的・ねらい	社会運動とは、社会問題を提起し、その解決を目指して社会をなんらかの形で変えて行こうとする集団的な行為のことを、通常は意味する。ただ、集団的といっても大規模な大衆運動ばかりではない。マイノリティーの運動であったり、場合によっては、1 人ないし数人の行動であっても、社会問題の周知や人々の動員が目的ならば、社会運動でありうる。また、既存の社会運動が形骸化したときには、文化的または思想的な運動として、時にはある種の反社会的な運動として出現することもあるだろう。| では、そのような運動が「社会学」の関心となるのはなぜだろう。それは、そこに通常だと気づかれない社会の裂け目や結び目が垣間見えるからにほかならない。そのようなところからこそ、社会の輪郭や限界が見えてくるのである。この授業の目的は、社会運動を通じて現代社会を把握する社会学的視点を身に付けることである。

■到達目標	①社会運動を分析するための、社会的な基礎知識を習得すること。|②1990 年代以降の時代的特徴を、社会学的に把握できること。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	35	
･授業内試験	0	
･授業内課題	35	
･その他	30	ディスカッションへの貢献度

授業科目	現代社会学講読２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大貫　挙学			シラバスグループ	T04200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	「自己」の社会学
■授業の概要	社会学において、しばしば自己の社会性が主題となる。つまり、私たちが今のような自分であることは、時代や文化、あるいは周囲の人間関係から影響を受けた結果なのだ。| 本講義では、社会学の文献読解を通して、自己と社会の関係を考える。具体的には、関連資料について、教員が背景等を説明するとともに、受講者に概要報告とコメントをお願いする。それらをふまえて、全体で議論をする。| ただし、具体的な進め方は、履修者数や各自の関心をふまえて、調整する。
■授業の目的・ねらい	(1) 社会学的自己論の講義|(2) 文献読解および文献にもとづく議論の実践
■到達目標	(1) 自己に関する主要な学説の理解|(2) 文献読解作法および文献にもとづく議論の仕方の習得

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	

授業科目	現代社会学講読２（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	作田　誠一郎			シラバスグループ	T04300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会学の歴史から基本理論を学ぶ
■授業の概要	この講義では、社会学の歴史を通観して基本的な理論を学びます。特に近代化や逸脱現象に関連した著書を中心に講読します。
■授業の目的・ねらい	当日配付する資料を受講者が講読して発表します。身近な事例を含めながらディスカッションを行い、近代化や逸脱現象を通じて社会学的な理論や視点を学び、理解を深めることを目的とします。
■到達目標	授業を通じて社会学の基本的な知識を身に付けるとともに、多角的な視点から社会現象を説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	40%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	現代社会学演習１（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大束　貢生			シラバスグループ	T05200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	卒業研究の発表とグループワーク
■授業の概要	この授業では演習形式により、受講生のみなさんがあらかじめ準備した卒業研究についての発表を行い、その発表についてグループワークや議論を行うことで、その内容を深めます。受講生のみなさんが発表をすることから授業は始まります。事前に配付する資料に従って、十分に準備を行った上で、授業に臨んでください。
■授業の目的・ねらい	卒業研究について発表を行い議論を行うことで、卒業研究の内容について深めます。したがって、演習開始前に各自が卒業研究についてのレジュメを作成していることを求めます。
■到達目標	卒業研究について発表を行うことにより、今後の方向性をまとめることが目標です。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	発表した内容をリポートにして提出してもらいます
･授業内発表	70	
･授業内試験	0	レジュメの準備状況や質疑応答なども含みます
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	現代社会学演習２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	村瀬　敬子			シラバスグループ	T06100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	現代社会における諸課題の探求
■授業の概要	大学での研究は自分自身で課題を発見することからはじまります。この演習では、課題(テーマ）の設定の方法、どのような調査方法が的確か、その結果をどのようにまとめるのか等、説得力のある論文を完成させるために必要な知識や技術を学びます。| 具体的には、各自が取り組むべき課題を設定し、研究の構想を発表します。そのため演習への参加に先だって、図書館等を利用して課題にかかわりのある論文や資料を収集し、それらをふまえて研究計画を準備する必要があります。学生が中心となって発表・討論することで、各人が課題の内容を深めていくことも目的としているため、授業への積極的な参加を求めます。
■授業の目的・ねらい	①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。|②先行研究を収集し、まとめることができる。|③課題にふさわしい調査・研究方法を考える力をつける。|④研究成果をどのように論文としてまとめるのかを理解する。|成績は、(1)発表内容とレジュメの完成度、(2)演習中の態度（積極的な発言を求めます)、(3)出席、を中心に評価します。
■到達目標	自らの研究テーマを設定し、先行研究を検索・理解した上で、研究計画を立てることができる。適切な研究方法、発表の仕方を理解する。他者と研究課題について議論し、自らの研究内容をよりよい方向に修正していける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	文化・ｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨ特殊研究１（夏期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	大谷　栄一			シラバスグループ	T11200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	生者が死者と共に生きることは可能か？
■授業の概要	阪神・淡路大震災の発生から今年で 29 年、東日本大震災の発生から今年で 13 年を経過した。何年経っても愛する人を喪失した悲嘆がなくなることはない。また、2020 年 1 月から WHO（世界保健機関）によって発出された新型コロナウイスル感染症の緊急事態宣言は、2023 年 5 月に終了したが、いまだ世界中で新型コロナによる死者の数は増えている。多くの人々の悲しみに満ちた世界に私たちは生きている。| この授業では、社会学や宗教学、民俗学、震災学等の知見を参照しながら、生者と死者の関係について考えてみたい。とくに「生者は死者と共に生きることは可能か？」という問いを立て、この問い自体の妥当性も検討しながら、授業を行う。| 授業の具体的な内容として、①先祖を迎える（京都の盆行事)、②愛する人を看取る（ターミナルケア)、③自然災害の被災者を悼む（グリーフケア）という 3 つのテーマを取り上げる。人生の最期を迎えた人々、愛する人を亡くした人々へのケア（care）と、「先祖」という死者への儀礼（先祖祭祀）に注目することで、生者と死者の関係について、受講者と一緒に議論してみたいと思う。|
■授業の目的・ねらい	この講義の目的は、「迎える」「看取る」「悼む」という行為を対象として、現代日本社会における「生者と死者」の関係性について考えることである。京都の盆行事の特徴と現状、日本における死者儀礼と先祖祭祀の歴史と特徴、ターミナルケアとグリーフケアの特徴や課題、自然災害被災者の慰霊・追悼の方法、生者と死者の互恵性等の問題等についての理解を深め、これらの諸問題について受講者は自分なりの意見を述べることができるようにしてもらいたい。
■到達目標	（1）日本における伝統的な死者儀礼（先祖祭祀）について理解する。|（2）ターミナルケアとグリーフケアの特徴と課題を認識する。|（3）生者と死者の関係についての自分の見解をもつ。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	アクティブラーニングへの取り組みによって評価する。
･授業内課題	50	
･その他	0	レポート。到達目標で示した到達度によって評価する。

授業科目	文化・ｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨ特殊研究２（春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	根本　達			シラバスグループ	T12100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	文化人類学の視点を中心として時代性とアイデンティティを学び、民族誌をもとにインドの被差別民による反差別運動と生活世界を理解する
■授業の概要	本講義では、インドを中心に南アジア社会における多様性や対立、寛容、共生について学びます。とくに文化人類学の視点から被差別民による宗教社会運動と生活世界について理解することを目指します。まず講義では植民地主義、ポスト・モダニティ、ポスト植民地主義、グローバリゼーション、人新世といった時代性の変遷を学びます。次にこの時代性の変遷の中にあるアイデンティティについて理解します。そこではアイデンティティ、ナショナリズム、エスニシティに加え、マイノリティによる「差異の政治学」に目を向けます。この時代性とアイデンティティの議論を踏まえ、グローバル化する現代インドの状況を視野に入れながら、とくに文化人類学の視点から「不可触民の父」アンベードカルを指導者とする不可触民解放運動と、ヒンドゥー教から仏教へ集団改宗したダリト（元不可触民）の日常生活における信仰に着目します。この講義を通じて、とくに社会的に弱い立場に置かれたマイノリティの視点から多文化・多宗教が共存するインドの歴史や文化を読み解く力を身につけます。
■授業の目的・ねらい	本講義を通じて受講生は、元不可触民など社会的に弱い立場に置かれたマイノリティの視点から多文化・多宗教が共存するインドの歴史や文化を読み解く力を身につけます。とくに「寛容」や「共生」をキーワードとして排他的なアイデンティティがもたらす民族や宗教集団間の対立を乗り越える方向性を議論します。
■到達目標	①授業で取り上げたキーワードについて明確な定義を述べることができる。|②自分で事例を選び、授業で取り上げたキーワードを用いながら自分の言葉で解説できる。|③同意できる箇所や別の考えを持つ箇所について説得力を持って自分の意見を説明できる。　|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	全体の授業内容に関する理解度を評価します。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	共生・臨床社会特殊研究１（夏期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	全　炳昊			シラバスグループ	T31200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	「非行臨床」に対する考え方
■授業の概要	非行臨床は、司法・行政・教育・医療・福祉など広範な領域にまたがる活動を要請されている。授業では、具体的な事例研究などを取り入れながら、非行少年たちへの理解や有効な立ち直りへの道筋を探求することに努めていきたい。ここには、問題を抱えた子どものみならず、家族や彼らが生活する地域社会への援助、さらには犯罪被害者へのケアも求められており、様々な領域・対象への心理的援助の実際と問題点に対する考察が含まれている。
■授業の目的・ねらい	①現代の少年非行を理解し、対応する上で、必要な理論と実践活動について包括的な考察を行う。|②現代の少年非行にみられる特質や様々な非行・犯罪理論、さらに被害者支援や修復的司法にいたるまでの非行臨床の実態を把握する。
■到達目標	非行臨床の様々な様相に対する、多面的な理解が可能になる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	30%	
･その他	0%	授業内に出される課題や発表

授業科目	共生・臨床社会特殊研究２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	作田　誠一郎			シラバスグループ	T32200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	青少年の社会問題を読み解く
■授業の概要	少年非行やいじめ、不登校や経済的貧困による格差など青少年を取り巻く諸問題が広範に起こっています。この授業では、青少年を中心に社会問題化した事象を取りあげ、社会学的な視点から読み解いていきます。
■授業の目的・ねらい	青少年は社会の変容を敏感に受け止めます。青少年を中心に非行問題や学校問題、家庭問題を講義内で紹介して議論することで、現代社会の理解を深めることが本講義の目的となります。また、私的な問題を公的な社会問題として捉える視点を身に付けることが本講義のねらいとなります。
■到達目標	講義を通じて新たな視点から青少年問題を読み解く力を身に付けることが目標となります。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	40%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	情報・メディア特殊研究１（夏期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	崔　銀姫			シラバスグループ	T51200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	グローバル化のなかの日本のメディア社会を考える
■授業の概要	本授業では、『トランプのアメリカに住む』(吉見俊哉　2018、岩波書店）をテクストとして読みながら、「グローバル化のなかの今の日本のメディア社会」を考えます。|2024 年１１月にはアメリカ大統領選挙が予定されていますので、今回選考したテキストは元トランプ大統領の時代とその後?現在のメディア社会を考えるために有効的であると考えます。|授業は主に「講義式＋履修生の参加型」の二つのパターンで進めていきます。講義式の授業内容は、日本のマスメディアの歴史や現状に関する概論がメインとなります。一方で履修生の参加型の授業のやり方は、「各自指定のテキストを読んで割り当てられた担当の部分についてレジュメ作成と発表、そして履修生全員で討論する」ことが主な中身となります。討論はテクストの章ごとのテーマに沿って徹底的に行います（分量については事後履修生と相談の上決めたい)。したがって授業に参加する前にテクストを読んでテクストの内容を理解してくるのが望ましいです。今回の授業を通して履修生には、情報やメディアに関わる政治性を分析的に読み取る力を育むとともに、21 世紀のデジタル・ネットメディア社会とグローバル化の急速な変化のなかの現代の情報社会を生きるための「知」を身につけてもらいたいと考えています。
■授業の目的・ねらい	①現代のメディア環境の変容と氾濫する情報社会をクリティカルに考える。|②例えば、「ポスト真実とは何か」「フェイクニュースとは何か」「なぜメディアが問われているのか」などの問いに論理的に説明できる。
■到達目標	①担当の発表内容のレジュメ及びその成果に関する報告書（討論の内容、討論の過程で学んだこと、結論、意見、感想）をまとめて提出できること。|②デジタルメディア時代の日本とアメリカのメディア社会の状況（問題点）を比較しながら、改善策について意見を述べることができること。|③テクスト読了後課題として感想や私見を加えた報告書が提出できること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	情報・メディア特殊研究２（夏期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	谷本　和也			シラバスグループ	T52200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	メディアの発展とコミュニケーションの変遷
■授業の概要	本講義では、情報・メディアに関わる最新事例についてのケース・スタディと関連する学術的なコンセプトや理論を並列的に取り上げる。特に、ソーシャルメディアのような新しいタイプのメディアを通じたオンラインコミュニケーションに着目し、コミュニケーションの変遷とその技術的、社会的な背景要因について考察する。｜ 講義は配付した資料をベースにした通常の講義形式で行うが、必要に応じて受講者の個々の発言を促すこともある。そのため、受講者の積極的な参加を期待したい。
■授業の目的・ねらい	情報・メディア分野の変化は目覚ましく、常に最新の技術や事例が更新され続けている。本講義では、情報・メディア分野における最新技術や事例についての知識を身につけ、事象の背後にあるメカニズムを理解すること、また、自身の専門分野に応用できるようになることを目的としている。
■到達目標	オンラインコミュニケーションに伴う広範な話題について取り上げるため、それぞれについて技術的、社会的な背景要因を理解し、自分なりに説明できるようになることが到達目標として期待されている。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	90	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	10	

授業科目	情報・メディア実習１（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	長尾　文孝			シラバスグループ	T58200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	プログラミングに関する知識の習得とプログラムアルゴリズムの理解
■授業の概要	I 履修で学習した内容をふまえ、より高度な JavaScript プログラムを作成する事を目指す。順次処理、分岐処理、反復処理の基本構造、配列に加えて、関数等の文の構造を学習する事によって、情報教員として、よりレベルの高いプログラミング能力の習得を目指す。
■授業の目的・ねらい	本科目は、情報教員免許所得のための講義であるので、情報教員としてプログラミング能力の向上を目指す意味で重要な科目である。I 履修から一歩進んだ内容を扱い、より難易度の高いプログラムを作成できるスキルを身に付ける事が目的である。実際には、関数やイベントハンドラ等を学習し、より高度なプログラムを作成できる能力を習得することを目指す。
■到達目標	I 履修の内容、そして本スクーリングの内容をふまえた上で、それに関するプログラムを作成できるようになることが目標である。すなわち、順次、分岐、反復処理を理解したプログラムを作成できるようになる、あるいは、配列や関数等を用いたプログラムを作成できるようになることである。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	100	
･その他	0	課題としているが、試験形式で行う。

授業科目	情報・メディア実習１（夏期)B クラス_対面				単位	1
担当者	湯川　宗紀			シラバスグループ	T58201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	プログラミングに関する知識の習得とプログラムアルゴリズムの理解
■授業の概要	I 履修で学習した内容をふまえ、より高度な JavaScript プログラムを作成する事を目指す。順次処理、分岐処理、反復処理の基本構造、配列に加えて、関数等の文の構造を学習する事によって、情報教員として、よりレベルの高いプログラミング能力の習得を目指す。
■授業の目的・ねらい	本科目は、情報教員免許所得のための講義であるので、情報教員としてプログラミング能力の向上を目指す意味で重要な科目である。I 履修から一歩進んだ内容を扱い、より難易度の高いプログラムを作成できるスキルを身に付ける事が目的である。実際には、関数やイベントハンドラ等を学習し、より高度なプログラムを作成できる能力を習得することを目指す。
■到達目標	I 履修の内容、そして本スクーリングの内容をふまえた上で、それに関するプログラムを作成できるようになることが目標である。すなわち、順次、分岐、反復処理を理解したプログラムを作成できるようになる、あるいは、配列や関数等を用いたプログラムを作成できるようになることである。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	100	
･その他	0	課題としているが、試験形式で行う。

授業科目	情報・メディア実習１（秋期)A クラス_対面				単位	1
担当者	長尾　文孝			シラバスグループ	T58300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	プログラミングに関する知識の習得とプログラムアルゴリズムの理解
■授業の概要	I 履修で学習した内容をふまえ、より高度な JavaScript プログラムを作成することを目指す。順次処理、分岐処理、反復処理の基本構造、配列に加えて、関数等の文の構造を学習することによって、情報教員として、よりレベルの高いプログラミング能力の習得を目指す。
■授業の目的・ねらい	本科目は、情報教員免許所得のための講義であるので、情報教員としてプログラミング能力の向上を目指す意味で重要な科目である。I 履修から一歩進んだ内容を扱い、より難易度の高いプログラムを作成できるスキルを身に付けることが目的である。実際には、関数やイベントハンドラ等を学習し、より高度なプログラムを作成できる能力を習得することを目指す。
■到達目標	I 履修の内容、そして本スクーリングの内容をふまえた上で、それに関するプログラムを作成できるようになることが目標である。すなわち、順次、分岐、反復処理を理解したプログラムを作成できるようになる、あるいは、配列や関数等を用いたプログラムを作成できるようになることである。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	100	
･その他	0	課題としているが、試験形式で行う。

授業科目	情報・メディア実習１（秋期)B クラス_対面				単位	1
担当者	湯川　宗紀			シラバスグループ	T58301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	プログラミングに関する知識の習得とプログラムアルゴリズムの理解
■授業の概要	I 履修で学習した内容をふまえ、より高度な JavaScript プログラムを作成することを目指す。順次処理、分岐処理、反復処理の基本構造、配列に加えて、関数等の文の構造を学習することによって、情報教員として、よりレベルの高いプログラミング能力の習得を目指す。
■授業の目的・ねらい	本科目は、情報教員免許所得のための講義であるので、情報教員としてプログラミング能力の向上を目指す意味で重要な科目である。I 履修から一歩進んだ内容を扱い、より難易度の高いプログラムを作成できるスキルを身に付けることが目的である。実際には、関数やイベントハンドラ等を学習し、より高度なプログラムを作成できる能力を習得することを目指す。
■到達目標	I 履修の内容、そして本スクーリングの内容をふまえた上で、それに関するプログラムを作成できるようになることが目標である。すなわち、順次、分岐、反復処理を理解したプログラムを作成できるようになる、あるいは、配列や関数等を用いたプログラムを作成できるようになることである。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	100	
･その他	0	課題としているが、試験形式で行う。

授業科目	情報・メディア実習２（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	長尾　文孝			シラバスグループ	T60200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	マルチメディアデータ編集に関する知識および技術の習得
■授業の概要	I 履修で学習した静止画や音、動画に関する知識、そして動画編集に関する技術の習得に引き続き、動画編集を行う。素材の取得から動画編集、映像の作成までの一連の作業をスクーリングで行い、マルチメディアデータの操作方法に関する知識、技術を深める。
■授業の目的・ねらい	動画編集に関する知識の習得、そして実際にマルチメディアデータ編集技術の取得が本講義の目的である。動画編集の過程は、1.企画の立案、2.絵コンテ等におけるコンテンツの完成形の創造、3.素材の取得（撮影等)、4.データ編集というように、長いステップを要するが、残念ながら講義時間の制約があり、講義時間内でこれら全てを行うことができないが、これゆえ、3 の素材の取得と 4.マルチメディアデータの編集ができることを目的とする。
■到達目標	I 履修の内容、そして本スクーリングの内容をふまえた上で、動画編集ができることが目標である。すなわち、編集の基本技術（取り込み、トリミング等の操作等)、マルチメディアデータとしての編集技術（映像や音の操作）を修得することが達成目標となる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	100	
･その他	0	課題としているが、試験形式で行う。

授業科目	情報・メディア実習２（夏期)B クラス_対面				単位	1
担当者	湯川　宗紀			シラバスグループ	T60201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	マルチメディアデータ編集に関する知識および技術の習得
■授業の概要	I 履修で学習した静止画や音、動画に関する知識、そして動画編集に関する技術の習得に引き続き、動画編集を行う。素材の取得から動画編集、映像の作成までの一連の作業をスクーリングで行い、マルチメディアデータの操作方法に関する知識、技術を深める。
■授業の目的・ねらい	動画編集に関する知識の習得、そして実際にマルチメディアデータ編集技術の取得が本講義の目的である。動画編集の過程は、1.企画の立案、2.絵コンテ等におけるコンテンツの完成形の創造、3.素材の取得（撮影等)、4.データ編集というように、長いステップを要するが、残念ながら講義時間の制約があり、講義時間内でこれら全てを行うことができないが、これゆえ、3 の素材の取得と 4.マルチメディアデータの編集ができることを目的とする。
■到達目標	I 履修の内容、そして本スクーリングの内容をふまえた上で、動画編集ができることが目標である。すなわち、編集の基本技術（取り込み、トリミング等の操作等)、マルチメディアデータとしての編集技術（映像や音の操作）を修得することが達成目標となる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	100	
･その他	0	課題としているが、試験形式で行う。

授業科目	情報・メディア実習２（秋期)A クラス_対面				単位	1
担当者	長尾　文孝			シラバスグループ	T60300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	マルチメディアデータ編集に関する知識および技術の習得
■授業の概要	I 履修で学習した静止画や音、動画に関する知識、そして動画編集に関する技術の習得に引き続き、動画編集を行う。素材の取得から動画編集、映像の作成までの一連の作業をスクーリングで行い、マルチメディアデータの操作方法に関する知識、技術を深める。
■授業の目的・ねらい	動画編集に関する知識の習得、そして実際にマルチメディアデータ編集技術の取得が本講義の目的である。動画編集の過程は、1.企画の立案、2.絵コンテ等におけるコンテンツの完成形の創造、3.素材の取得（撮影等)、4.データ編集というように、長いステップを要するが、残念ながら講義時間の制約があり、講義時間内でこれら全てを行うことができないが、これゆえ、3 の素材の取得と 4.マルチメディアデータの編集ができることを目的とする。
■到達目標	I 履修の内容、そして本スクーリングの内容をふまえた上で、動画編集ができる事が目標である。すなわち、編集の基本技術（取り込み、トリミング等の操作等)、マルチメディアデータとしての編集技術（映像や音の操作）を修得することが達成目標となる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	100	
･その他	0	課題としているが、試験形式で行う。

授業科目	情報・メディア実習２（秋期)B クラス_対面				単位	1
担当者	湯川　宗紀			シラバスグループ	T60301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	マルチメディアデータ編集に関する知識および技術の習得
■授業の概要	I 履修で学習した静止画や音、動画に関する知識、そして動画編集に関する技術の習得に引き続き、動画編集を行う。素材の取得から動画編集、映像の作成までの一連の作業をスクーリングで行い、マルチメディアデータの操作方法に関する知識、技術を深める。
■授業の目的・ねらい	動画編集に関する知識の習得、そして実際にマルチメディアデータ編集技術の取得が本講義の目的である。動画編集の過程は、1.企画の立案、2.絵コンテ等におけるコンテンツの完成形の創造、3.素材の取得（撮影等)、4.データ編集というように、長いステップを要するが、残念ながら講義時間の制約があり、講義時間内でこれら全てを行うことができないが、これゆえ、3 の素材の取得と 4.マルチメディアデータの編集ができることを目的とする。
■到達目標	I 履修の内容、そして本スクーリングの内容をふまえた上で、動画編集ができる事が目標である。すなわち、編集の基本技術（取り込み、トリミング等の操作等)、マルチメディアデータとしての編集技術（映像や音の操作）を修得することが達成目標となる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	100	
･その他	0	課題としているが、試験形式で行う。

授業科目	情報システム実習（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	長尾　文孝			シラバスグループ	T59200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	データベースシステムの構築
■授業の概要	I履修で説明した、テーブル、リレーション、クエリの続きとして、アクセスのフォーム、リポート、マクロについての学習を行い、データベース構築に関する知識をより深める。リレーショナルデータベース構築の手順を、概観的ではあるが把握する。
■授業の目的・ねらい	データベースにおいて最も重要な根幹は、I 履修で詳しく説明したテーブルの分け方とリレーションの組み方である。これがうまくいっていないデータベースはいずれ破綻してしまう。したがって、I 履修の内容を理解する事が重要な目的となる。本来であるならば、SQL 等を詳しく解説すべきところだが、残念ながら、講義時間が限られているため扱う事ができない。I履修にスクーリングでの学習を加えて、リレーショナルデータベースの構築のステップを把握していただきたい。I
■到達目標	I履修の内容、そして本スクーリングの内容をふまえた上で、リレーショナルデータベースの構築の段階を理解することが目標である。そして、最も重要なステップであるテーブルの作成と正規化がきちんとできるようになることも重要な目的となる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	0	
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	100	
·その他	0	課題としているが、試験形式で行う。

授業科目	情報システム実習（夏期)B クラス_対面				単位	1
担当者	湯川　宗紀			シラバスグループ	T59201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	データベースシステムの構築
■授業の概要	I履修で説明した、テーブル、リレーション、クエリの続きとして、アクセスのフォーム、リポート、マクロについての学習を行い、データベース構築に関する知識をより深める。リレーショナルデータベース構築の手順を、概観的ではあるが把握する。
■授業の目的・ねらい	データベースにおいて最も重要な根幹は、I 履修で詳しく説明したテーブルの分け方とリレーションの組み方である。これがうまくいっていないデータベースはいずれ破綻してしまう。したがって、I 履修の内容を理解する事が重要な目的となる。本来であるならば、SQL 等を詳しく解説すべきところだが、残念ながら、講義時間が限られているため扱う事ができない。I履修にスクーリングでの学習を加えて、リレーショナルデータベースの構築のステップを把握していただきたい。I
■到達目標	I履修の内容、そして本スクーリングの内容をふまえた上で、リレーショナルデータベースの構築の段階を理解することが目標である。そして、最も重要なステップであるテーブルの作成と正規化がきちんとできるようになることも重要な目的となる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	0	
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	100	
·その他	0	課題としているが、試験形式で行う。

授業科目	情報システム実習（秋期)A クラス_対面				単位	1
担当者	長尾　文孝			シラバスグループ	T59300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	データベースシステムの構築
■授業の概要	I履修で説明した、テーブル、リレーション、クエリの続きとして、アクセスのフォーム、リポート、マクロについての学習を行い、データベース構築に関する知識をより深める。リレーショナルデータベース構築の手順を、概観的ではあるが把握する。
■授業の目的・ねらい	データベースにおいて最も重要な根幹は、I 履修で詳しく説明したテーブルの分け方とリレーションの組み方である。これがうまくいっていないデータベースはいずれ破綻してしまう。したがって、I履修の内容を理解することが重要な目的となる。本来であるならば、SQL 等を詳しく解説すべきところだが、残念ながら、講義時間が限られているため扱うことができない。I履修にスクーリングでの学習を加えて、リレーショナルデータベースの構築のステップを把握していただきたい。|
■到達目標	I履修の内容、そして本スクーリングの内容をふまえた上で、リレーショナルデータベースの構築の段階を理解することが目標である。そして、最も重要なステップであるテーブルの作成と正規化がきちんとできるようになることも重要な目的となる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	100	
･その他	0	課題としているが、試験形式で行う。

授業科目	情報システム実習（秋期)B クラス_対面				単位	1
担当者	湯川　宗紀			シラバスグループ	T59301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	データベースシステムの構築
■授業の概要	I履修で説明した、テーブル、リレーション、クエリの続きとして、アクセスのフォーム、リポート、マクロについての学習を行い、データベース構築に関する知識をより深める。リレーショナルデータベース構築の手順を、概観的ではあるが把握する。
■授業の目的・ねらい	データベースにおいて最も重要な根幹は、I 履修で詳しく説明したテーブルの分け方とリレーションの組み方である。これがうまくいっていないデータベースはいずれ破綻してしまう。したがって、I履修の内容を理解することが重要な目的となる。本来であるならば、SQL 等を詳しく解説すべきところだが、残念ながら、講義時間が限られているため扱うことができない。I履修にスクーリングでの学習を加えて、リレーショナルデータベースの構築のステップを把握していただきたい。|
■到達目標	I履修の内容、そして本スクーリングの内容をふまえた上で、リレーショナルデータベースの構築の段階を理解することが目標である。そして、最も重要なステップであるテーブルの作成と正規化がきちんとできるようになることも重要な目的となる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	0	
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	100	
·その他	0	課題としているが、試験形式で行う。

授業科目	情報通信ネットワーク実習（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	長尾　文孝			シラバスグループ	T61200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	ネットワーク技術による情報発信技術の習得
■授業の概要	I 履修の復習、すなわち、HTML5 の復習（文書構造、画像挿入、リンク、表等）の後、CSS(Cascading Style Sheets）の続きを学習する。現在の Web ページにおいては、HTML タグと Web ページの基本文書構造を決め、そのデザイン面は CSS が受け持つという潮流になっている。このことから、スクーリングでは CSS2.0 の命令体系や設定項目（ページ全体、文字、画像、リンク等に関する設定、ボックスの概念等）を学習する。また、最近の状況をふまえ、CSS3 にも多少触れる予定である。|
■授業の目的・ねらい	情報発信手段の一つである Web ページを作成することを目的とする。具体的にはタグや CSS に関する知識を習得して、自らが望むようなテーマ、デザインのサイトを作成できることが本科目の目標である。講義で全てのタグや CSS の命令を取り上げることが困難なので、できれば自らが知らなかったタグや CSS の命令も調べて作り上げてほしい。
■到達目標	タグや CSS を用いて、あるテーマに基づいた Web ページを作成できることを目的とする。Web デザイナーのための講義ではないので、サイトのデザインについてとやかく指示することはない。むしろ、全世界の人、障害者の人でも見やすいようなサイトを作成するにはどうするか。情報の発信、受信について、どうしたら分かり良いのかについて、考えるきっかけとなってくれたら幸いである。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	0	
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	100	
·その他	0	課題としているが、試験形式で行う。

授業科目	情報通信ネットワーク実習（夏期)B クラス_対面				単位	1
担当者	湯川　宗紀			シラバスグループ	T61201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	ネットワーク技術による情報発信技術の習得
■授業の概要	I 履修の復習、すなわち、HTML5 の復習（文書構造、画像挿入、リンク、表等）の後、CSS(Cascading Style Sheets）の続きを学習する。現在の Web ページにおいては、HTML タグと Web ページの基本文書構造を決め、そのデザイン面は CSS が受け持つという潮流になっている。このことから、スクーリングでは CSS2.0 の命令体系や設定項目（ページ全体、文字、画像、リンク等に関する設定、ボックスの概念等）を学習する。また、最近の状況をふまえ、CSS3 にも多少触れる予定である。|
■授業の目的・ねらい	情報発信手段の一つである Web ページを作成することを目的とする。具体的にはタグや CSS に関する知識を習得して、自らが望むようなテーマ、デザインのサイトを作成できることが本科目の目標である。講義で全てのタグや CSS の命令を取り上げることが困難なので、できれば自らが知らなかったタグや CSS の命令も調べて作り上げてほしい。
■到達目標	タグや CSS を用いて、あるテーマに基づいた Web ページを作成できることを目的とする。Web デザイナーのための講義ではないので、サイトのデザインについてとやかく指示することはない。むしろ、全世界の人、障害者の人でも見やすいようなサイトを作成するにはどうするか。情報の発信、受信について、どうしたら分かり良いのかについて、考えるきっかけとなってくれたら幸いである。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	0	
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	100	
·その他	0	課題としているが、試験形式で行う。

授業科目	情報通信ネットワーク実習（秋期)A クラス_対面				単位	1
担当者	長尾　文孝			シラバスグループ	T61300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	I･S	

■授業のテーマ	ネットワーク技術による情報発信技術の習得
■授業の概要	I 履修の復習、すなわち、HTML5 の復習（文書構造、画像挿入、リンク、表等）の後、CSS(Cascading Style Sheets）の続きを学習する。現在の Web ページにおいては、HTML タグと Web ページの基本文書構造を決め、そのデザイン面は CSS が受け持つという潮流になっている。このことから、スクーリングでは CSS2.0 の命令体系や設定項目（ページ全体、文字、画像、リンク等に関する設定、ボックスの概念等）を学習する。また、最近の状況をふまえ、CSS3 にも多少触れる予定である。|
■授業の目的・ねらい	情報発信手段の一つである Web ページを作成することを目的とする。具体的にはタグや CSS に関する知識を習得して、自らが望むようなテーマ、デザインのサイトを作成できることが本科目の目標である。講義で全てのタグや CSS の命令を取り上げることが困難なので、できれば自らが知らなかったタグや CSS の命令も調べて作り上げてほしい。
■到達目標	タグや CSS を用いて、あるテーマに基づいた Web ページを作成できることを目的とする。Web デザイナーのための講義ではないので、サイトのデザインについてとやかく指示することはない。むしろ、全世界の人、障害者の人でも見やすいようなサイトを作成するにはどうするか。情報の発信、受信について、どうしたら分かり良いのかについて、考えるきっかけとなってくれたら幸いである。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	100	
･その他	0	課題としているが、試験形式で行う。

授業科目	情報通信ネットワーク実習（秋期)B クラス_対面				単位	1
担当者	湯川　宗紀			シラバスグループ	T61301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	I·S	

■授業のテーマ	ネットワーク技術による情報発信技術の習得
■授業の概要	I 履修の復習、すなわち、HTML5 の復習（文書構造、画像挿入、リンク、表等）の後、CSS(Cascading Style Sheets）の続きを学習する。現在の Web ページにおいては、HTML タグと Web ページの基本文書構造を決め、そのデザイン面は CSS が受け持つという潮流になっている。このことから、スクーリングでは CSS2.0 の命令体系や設定項目（ページ全体、文字、画像、リンク等に関する設定、ボックスの概念等）を学習する。また、最近の状況をふまえ、CSS3 にも多少触れる予定である。|
■授業の目的・ねらい	情報発信手段の一つである Web ページを作成することを目的とする。具体的にはタグや CSS に関する知識を習得して、自らが望むようなテーマ、デザインのサイトを作成できることが本科目の目標である。講義で全てのタグや CSS の命令を取り上げることが困難なので、できれば自らが知らなかったタグや CSS の命令も調べて作り上げてほしい。
■到達目標	タグや CSS を用いて、あるテーマに基づいた Web ページを作成できることを目的とする。Web デザイナーのための講義ではないので、サイトのデザインについてとやかく指示することはない。むしろ、全世界の人、障害者の人でも見やすいようなサイトを作成するにはどうするか。情報の発信、受信について、どうしたら分かり良いのかについて、考えるきっかけとなってくれたら幸いである。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	0	
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	100	
·その他	0	課題としているが、試験形式で行う。

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	佐藤　和順			シラバスグループ	U01200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	幼児教育・保育の基礎を学ぶ
■授業の概要	幼児教育･保育の意義を理解し、幼児教育･保育に関する法令及び制度､｢幼稚園教育要領｣｢保育所保育指針｣等における幼児教育・保育の基本について学ぶ。また、現在の幼児教育・保育の背景となる保育思想と歴史的変遷について学習した上で、幼児教育・保育の現状と課題について考察する。|併せて、教師・保育者になることを志望する学生に、学校・園における教師・保育者の仕事の実際を歴史的に具体的に示しつつ､｢教える｣｢保育する｣という行為を成り立たせるために必要な教師・保育者の能力について考察する。
■授業の目的・ねらい	1.幼児教育･保育の意義及び目的、幼児教育･保育に関する法令及び制度を理解する|2.｢幼稚園教育要領｣｢保育所保育指針｣等における幼児教育・保育の基本について理解する|3.幼児教育・保育の思想と歴史的変遷について理解する|4.幼児教育・保育の現状と課題について説明できるようになる　|5.教師・保育者に必要な知識・技術とは何かを理解する
■到達目標	1.幼児教育･保育の基本理念を理解し、自分の言葉で説明することができる|2.子ども育ちと幼児教育・保育のあり方を関連づけて説明することができる|3.歴史や制度、現代社会のあり方など多様な視点から｢幼児教育･保育とは何か｣について自らの考えを述べることができる|4.幼児教育・保育の専門職の意義や資質等について説明することができる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	10	授業の最終コマで、リポート課題を提示します。
･授業内試験	0	授業中でのグループワークの活動、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等)、および課題リポートを総合的に評価します。
･授業内課題	20	
･その他	0	授業中でのグループワークの活動、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等)、および課題リポートを総合的に評価します。

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	佐藤　和順			シラバスグループ	U01300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	幼児教育・保育の基礎を学ぶ
■授業の概要	幼児教育･保育の意義を理解し、幼児教育･保育に関する法令及び制度､｢幼稚園教育要領｣｢保育所保育指針｣等における幼児教育・保育の基本について学ぶ。また、現在の幼児教育・保育の背景となる保育思想と歴史的変遷について学習した上で、幼児教育・保育の現状と課題について考察する。|併せて、教師・保育者になることを志望する学生に、学校・園における教師・保育者の仕事の実際を歴史的に具体的に示しつつ､｢教える｣｢保育する｣という行為を成り立たせるために必要な教師・保育者の能力について考察する。
■授業の目的・ねらい	1.幼児教育･保育の意義及び目的、幼児教育･保育に関する法令及び制度を理解する|2.｢幼稚園教育要領｣｢保育所保育指針｣等における幼児教育・保育の基本について理解する|3.幼児教育・保育の思想と歴史的変遷について理解する|4.幼児教育・保育の現状と課題について説明できるようになる　|5.教師・保育者に必要な知識・技術とは何かを理解する
■到達目標	1.幼児教育･保育の基本理念を理解し、自分の言葉で説明することができる|2.子ども育ちと幼児教育・保育のあり方を関連づけて説明することができる|3.歴史や制度、現代社会のあり方など多様な視点から｢幼児教育･保育とは何か｣について自らの考えを述べることができる|4.幼児教育・保育の専門職の意義や資質等について説明することができる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	10	授業の最終コマで、リポート課題を提示します。
･授業内試験	0	授業中でのグループワークの活動、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等)、および課題リポートを総合的に評価します。
･授業内課題	20	
･その他	0	授業中でのグループワークの活動、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等)、および課題リポートを総合的に評価します。

授業科目	幼児理解及び保育相談（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	U11200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	保育における相談支援について理解を深める。
■授業の概要	保育相談支援について理解する。保育相談支援の基本となる子どもの最善の利益と福祉の重視、子どもの成長の喜びの共有、信頼関係を基本とした受容的なかかわり、地域の資源の活用と関係機関との連携等の理解を深める。保育相談支援の実践に関する技術を学習し、グループワークにおける事例検討を通じて保育相談支援の実際を学んでいく。
■授業の目的・ねらい	次の 4 つの観点における習得と達成を重視する。｜(1) 保育相談支援の意義と原則について理解する。｜(2) 保護者支援の基本を理解する。｜(3) 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。｜(4) 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。
■到達目標	保育相談支援の意義と原則について、保護者支援の基本について理解できる。また、保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解できる。保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	70	
·リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
·授業内発表	30	
·授業内試験	0	
·授業内課題	0	
·その他	0	

授業科目	保育内容の理論と方法「健康」（春期)A クラス_オンデマンド＋オンライン				単位	2
担当者	青木　好子			シラバスグループ	U21100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	幼児期の健康や発達を支えるために必要な 領域「健康」に関する保育者の援助および実践について
■授業の概要	運動あそびを通して、「健康」について具体的に学習する。そのための保育者の環境構成、援助について考え、その在り方と共に体感し合いましょう。|保育者として、実践を行う上での資質を高めることに役立つように展開します。|受講生に対しては、知識の伝承ではなく、対話を繰り返しながら「健康」について一緒に考えましょう。|テキストの予習や、配付資料の復習を行ない、受け身ではなく常に「問い」と「自分なりの考え」を持ち、積極的に参加してください。
■授業の目的・ねらい	領域「健康」のねらいや内容、それに関する幼児の健康と発達、生活習慣および幼児自身が健康で安全な生活を作り出す力を育むために必要な環境構成や援助方法について考察し、実践できる力や知識を習得する。|
■到達目標	１．　幼稚園教育要領の領域「健康」について、なねらいと内容について理解する。|2．　幼児期の心身の発育発達の特徴や個人差と取り組みへの意欲などを理解する。|3. 心を動かし、体を動かすあそびに則した環境構成、援助の在り方を一緒に考えましょう。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	15%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	25%	
･その他	10%	

授業科目	保育内容の理論と方法「健康」（夏期)A クラス_オンデマンド＋オンライン				単位	2
担当者	青木　好子			シラバスグループ	U21200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	幼児期の健康や発達を支えるために必要な 領域「健康」に関する保育者の援助および実践について
■授業の概要	運動あそびを通して、「健康」について具体的に学習する。そのための保育者の環境構成、援助について考え、その在り方と共に体感し合いましょう。|保育者として、実践を行う上での資質を高めることに役立つように展開します。|受講生に対しては、知識の伝承ではなく、対話を繰り返しながら「健康」について一緒に考えましょう。|テキストの予習や、配付資料の復習を行ない、受け身ではなく常に「問い」と「自分なりの考え」を持ち、積極的に参加してください。
■授業の目的・ねらい	領域「健康」のねらいや内容、それに関する幼児の健康と発達、生活習慣および幼児自身が健康で安全な生活を作り出す力を育むために必要な環境構成や援助方法について考察し、実践できる力や知識を習得する。|
■到達目標	１．　幼稚園教育要領の領域「健康」について、なねらいと内容について理解する。|2．　幼児期の心身の発育発達の特徴や個人差と取り組みへの意欲などを理解する。|3. 心を動かし、体を動かすあそびに則した環境構成、援助の在り方を一緒に考えましょう。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	15%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	25%	
･その他	10%	

授業科目	保育内容の理論と方法「環境」（春期)A クラス_オンライン＋対面			単位	2
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	U22100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	領域「環境」のねらいを基に、幼児と身近な環境とのかかわりを通して、生きぬく力の基礎を育てるための実践的指導方法を学ぶ。
■授業の概要	幼稚園教育要領の領域「環境」について，ねらいと内容を理解し，その指導法を習得する。|乳幼児の発達・成長に人的環境や物的環境，自然環境や社会環境が重要な役割を果たしていることを理解し，自然環境を活かした実践方法や、環境構成の考え方や実践方法について学ぶ。|テキスト，視聴覚教材を中心とした講義、グループ討議、模擬指導，リポート作成等を通して，実践的指導力を身につける。
■授業の目的・ねらい	幼児教育における領域「環境」の指導（保育）計画・実践に本格的に取り組もうとする意欲のある人材を育成することを目的とする。
■到達目標	１．幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいと内容を理解し，人・物・自然・社会環境等，子どもを取り巻く環境について理解する。|２．乳幼児期の育ちと環境の関係を把握するとともに，幼児が自ら環境とかかわり，生活に取り入れていこうとする力を育てる環境のあり方の理論的背景および実践的指導法を理解する。|３．保育内容「環境」の実践的指導法を身につける。|４．身近な自然（季節と動植物等）とのかかわりに関する指導法（環境構成を含む）を体得する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	

授業科目	保育内容の理論と方法「環境」（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	U22200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	領域「環境」のねらいを基に、幼児と身近な環境とのかかわりを通して、生きぬく力の基礎を育てるための実践的指導方法を学ぶ。
■授業の概要	幼稚園教育要領の領域「環境」について，ねらいと内容を理解し，その指導法を習得する。|乳幼児の発達・成長に人的環境や物的環境，自然環境や社会環境が重要な役割を果たしていることを理解し，自然環境を活かした実践方法や、環境構成の考え方や実践方法について学ぶ。|テキスト，視聴覚教材を中心とした講義、グループ討議、模擬指導，リポート作成等を通して，実践的指導力を身につける。
■授業の目的・ねらい	幼児教育における領域「環境」の指導（保育）計画・実践に本格的に取り組もうとする意欲のある人材を育成することを目的とする。
■到達目標	１．幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいと内容を理解し，人・物・自然・社会環境等，子どもを取り巻く環境について理解する。|２．乳幼児期の育ちと環境の関係を把握するとともに，幼児が自ら環境とかかわり，生活に取り入れていこうとする力を育てる環境のあり方の理論的背景および実践的指導法を理解する。|３．保育内容「環境」の実践的指導法を身につける。|４．身近な自然（季節と動植物等）とのかかわりに関する指導法（環境構成を含む）を体得する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	

授業科目	保育内容の理論と方法「音楽表現」（夏期)A クラス_対面			単位	2
担当者	臼井　奈緒			シラバスグループ	U23200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	表現領域（音楽）に関する保育実践のための基礎的な知識と表現・指導技術を高める。
■授業の概要	幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」の基本理念をふまえ、表現領域に示すねらいの趣旨に基づき、幼児の音楽表現指導を行う上で必要となる基礎的かつ実践的内容を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	音楽表現力の向上を目指し、音楽の基礎的知識・表現技術を習得することを目的とする。
■到達目標	できるだけ多くの表現遊びを習得する。また、子どもの発達段階にふさわしい表現方法や指導方法を取捨選択し、自らの保育実践において活用、工夫する能力を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	20%	

授業科目	保育内容の理論と方法「音楽表現」（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	臼井　奈緒			シラバスグループ	U23300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	表現領域（音楽）に関する保育実践のための基礎的な知識と表現・指導技術を高める。
■授業の概要	幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」の基本理念をふまえ、表現領域に示すねらいの趣旨に基づき、幼児の音楽表現指導を行う上で必要となる基礎的かつ実践的内容を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	音楽表現力の向上を目指し、音楽の基礎的知識・表現技術を習得することを目的とする。
■到達目標	できるだけ多くの表現遊びを習得する。また、子どもの発達段階にふさわしい表現方法や指導方法を取捨選択し、自らの保育実践において活用、工夫する能力を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	20%	

授業科目	保育内容の理論と方法「造形表現」（夏期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	髙橋　敏之			シラバスグループ	U24200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶ。また、保育者として必要な造型面の理論・技法・指導法について実技を通して学習する。
■授業の概要	領域「表現」について理解し、子どもの「造形表現」の年齢別の発達や子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶとともに、造形表現の様々な技法的知識を修得する。また、保育者として適切な援助、指導をするために、保育・教育実習に使える楽しい造形教育の方法論、手法や技法についても学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①『幼稚園教育要領』等に示された幼児教育の基本を踏まえ、保育内容「表現」のねらい及び内容を理解する。|②幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
■到達目標	①保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できることを目標とする。|②乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できることを目標とする。|③乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	0%	

授業科目	保育内容の理論と方法「造形表現」（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	髙橋　敏之			シラバスグループ	U24300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶ。また、保育者として必要な造型面の理論・技法・指導法について実技を通して学習する。
■授業の概要	領域「表現」について理解し、子どもの「造形表現」の年齢別の発達や子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶとともに、造形表現の様々な技法的知識を修得する。また、保育者として適切な援助、指導をするために、保育・教育実習に使える楽しい造形教育の方法論、手法や技法についても学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①『幼稚園教育要領』等に示された幼児教育の基本を踏まえ、保育内容「表現」のねらい及び内容を理解する。|②幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
■到達目標	①保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できることを目標とする。|②乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できることを目標とする。|③乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	0%	

授業科目	保育の内容及び方法（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	U50200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	幼稚園教育の真諦
■授業の概要	「幼稚園教育要領」を通して保育内容を理解するとともに、「領域」（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の有機的関連について理解を深める。また、保育内容の歴史的変遷について考察し、平成 30 年版「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の共通性についても考察する。さらに、倉橋惣三の保育を通して保育内容・方法の理解を深め、「環境を通して行う保育」を基本に、養護と教育が一体的に展開することを具体的な指導技術に繋げて学習する。
■授業の目的・ねらい	幼稚園教育要領の理解のために倉橋惣三の保育を学ぶ。
■到達目標	①幼稚園教育の基本を理解し、保育内容と方法及び指導技術を学ぶ。|②現代の幼稚園教育要領に多大な影響を与えている倉橋惣三の保育理論を学ぶ。|③自身の保育観、子ども観の構築と保育内容・方法及び指導技術の習得をする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
·授業内発表	0%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	20%	
·その他	0%	

授業科目	保育内容の理論と方法「人間関係」（春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	U51100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S

■授業のテーマ	幼児の人間関係の基本的構造を理解し、その構築を援助する力を身に付ける。
■授業の概要	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育の実践を関連させて理解を深める。また、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。
■授業の目的・ねらい	幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。
■到達目標	１．幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらい･内容及びその位置づけを理解できる。|2．幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。|3．領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。|4．指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成及び評価することができる。|5．領域「人間関係」に係る現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。|到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
･授業内発表	10	
･授業内試験	20	到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
･授業内課題	0	到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
･その他	0	

授業科目	保育内容の理論と方法「言葉」（春期)A クラス_対面				単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	U52100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	幼児のことばを育む児童文化財
■授業の概要	言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、児童文化財の精神（こころ）と技術の習得のために様々な児童文化財を提示する。創作においては、小グループを作り、できる限り多くの文化財を創作し、模擬保育をすることで、その技術を練磨する。なお、語りについては、全ての文化財の基礎として、物語を一つ自分のものにし、発表を課す。
■授業の目的・ねらい	①言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、児童文化財の精神（こころ）と技術を習得する。|②文化財を製作し、模擬保育を通して技術を練磨する。|③幼児の言葉を育む児童文化財を実際に体験することで、児童文化の心を学ぶ。
■到達目標	①言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、さまざまな児童文化財の捜索を通して、児童文化のこころに触れ、保育者としての感性と創造性を養う。|②言葉を育む児童文化財への心を育み、保育活動における児童文化財の活用方法・技術を学ぶ。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。|到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	30%	
･その他	0%	到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。

授業科目	保育内容の理論と方法「言葉」（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	U52300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S

■授業のテーマ	幼児のことばを育む児童文化財
■授業の概要	言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、児童文化財の精神（こころ）と技術の習得のために様々な児童文化財を提示する。創作においては、小グループを作り、できる限り多くの文化財を創作し、模擬保育をすることで、その技術を練磨する。なお、語りについては、全ての文化財の基礎として、物語を一つ自分のものにし、発表を課す。
■授業の目的・ねらい	①言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、児童文化財の精神（こころ）と技術を習得する。|②文化財を製作し、模擬保育を通して技術を練磨する。|③幼児の言葉を育む児童文化財を実際に体験することで、児童文化の心を学ぶ。
■到達目標	①言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、さまざまな児童文化財の捜索を通して、児童文化のこころに触れ、保育者としての感性と創造性を養う。|②言葉を育む児童文化財への心を育み、保育活動における児童文化財の活用方法・技術を学ぶ。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。|到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	30%	
･その他	0%	到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	三重野　雄太郎			シラバスグループ	T00200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	大学での学び
■授業の概要	本講義では、大学で勉強していくうえで必要なスキルを身につけてもらう。大学での学習では、自分に必要な情報を得るために文献やインターネットを活用するスキル、学術的な文章を読むスキル、リポートの作成のためのスキル、プレゼンテーションのためのスキルなどが必要になる。皆さんが順調に大学での学習を進め、卒業レポートを無事完成させるために必要なものである。真剣に取り組まれたい。
■授業の目的・ねらい	大学での勉強のためのスキルを磨く
■到達目標	①自身に必要な文献を図書館で探すことができる。|②インターネットを活用して必要な情報を得るとともに、そうした情報を活用するための情報リテラシーを身につけている。|③基本的な作法を踏まえてリポートを作成することができる。|④他人の意見に十分に耳を傾けながら、自分の考えを論理的かつ分かりやすく相手に伝え、議論を進めることができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	|0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	香西　豊子			シラバスグループ	T00300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	アカデミックスキルを身につける
■授業の概要	大学での学びには、学びたいという意志だけでなく、学ぶためのスキル（技能）がいくらか必要となります。たとえば、知りたい情報にアクセスし入手するスキル、収集した情報を読解し仕分けするスキル、学んだことを他者と議論して深めるスキル、学び得た知見をまとめて発表するスキルなどが、そうです。｜　この講義では、そうした「よりよく学ぶ」ための前提となるスキルを、順に習得してゆきます。
■授業の目的・ねらい	つぎの 5 点のスキルを習得する｜（1）情報を適切に効率よく収集する｜（2）情報を読解・分析する｜（3）調査結果を議論し検討する｜（4）調査結果を文書にまとめ発表する｜（5）調査結果を口頭で発表する
■到達目標	（1）情報を適切に効率よく収集できる｜（2）情報を読解・分析できる｜（3）調査結果を議論し検討できる｜（4）調査結果を文書にまとめ発表できる｜（5）調査結果を口頭で発表できる　｜

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	30	
･授業内発表	35	
･授業内試験	0	
･授業内課題	35	
･その他	0	

授業科目	現代社会論（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	香西　豊子			シラバスグループ	T01100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	社会学の視点からみた現代社会
■授業の概要	社会のなかには、「問題」とされる現象がさまざまに生じています。そして、その「問題」のされ方をみれば、「そんなことはあってはならない事態だ」という価値観がそこに張りついていることが見えてきます。| この講義では、時事的な話題を多くとりあげながら、社会の「問題」（を構成する価値観）について理解を深めていきます。
■授業の目的・ねらい	（1）社会のなかで「問題」とされていることの背景につき、洞察を得る|（2）ケーススタディをとおして、自らの周りで生じている事象に、社会学の知見を援用できるようになる
■到達目標	（1）社会のなかで「問題」とされていることの背景まで考察の対象とできる|(2)自らの周りで生じている事象に、社会学の知見を援用できる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	30	
･授業内発表	35	
･授業内試験	0	
･授業内課題	35	
･その他	0	

授業科目	現代社会論（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	山本　彩暖			シラバスグループ	T01400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	現代社会をより深く読み解くための社会学～自分と社会について考える
■授業の概要	世の中で起きている出来事の背景にあるものを見つめ、今まで自分が持っていた常識を問い直すのが社会学である。‖本講義では実際の社会現象を例に挙げ、社会学的に考えることを行う。|まず最初に社会現象を捉える際に重要なのが、物事を批判的に見るという立場である。社会学が誕生した背景を通じて「批判と誹謗中傷」の違いについて考える。多くの人が常に感じる恐怖「SNS 暴力」、SNS 暴力の発端となったテレビ番組や実際の報道を通して考える「メディアリテラシー」の問題、「少子高齢社会」によって起きる問題、誰もが人生で一度は悩む家族について学術的に学ぶ「家族社会学」、日韓共にベストセラー作品になった小説を通して見る「性差別」の問題、韓国宗教を例に宗教に対する見方を深める「現代社会と宗教」等といった幅広い現代社会の事象を扱い、これらを社会学的に読み解いていく。‖担当教員による個々の事例について解説の後、参加者全員で意見交換を行うことで理解を深め、知識を定着させていくアクティブラーニング形式の講義で進める。‖‖
■授業の目的・ねらい	①世の中で起きている様々な社会現象について、社会学的な視点から自分の言葉で語ることができるようになることを目的とする。‖②アクティブラーニング（教員との双方向の対話）を通して、社会学の基本的なものの見方を身に付ける。
■到達目標	①批判と誹謗中傷の違いについて、自分の言葉で説明し実践できるようになる。‖②授業で扱った事象について、社会学的に説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	討論における発言、コメントシートで評価

授業科目	公共性と社会（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	河内　良彰			シラバスグループ	T02100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	公共の哲学
■授業の概要	本授業は、公共性をキーワードとして、公的な領域と私的な領域の双方に公共問題として取り組むべき課題を析出し、かかる課題を市民の視点で解決するための方法を学修する。公共性の概念を再定義し、新しい公共性の創造に向けて地域社会の具体的現実に則した施策を検討する。
■授業の目的・ねらい	本授業は、わが国の公共政策に関する現状把握のうえで、履修者各人が地域社会における身近な社会問題について、その実態を正確に理解して課題解決を図るための施策を提起する力量を総合的に養うことをねらいとする。地域主義を基軸として社会的課題を検討することを目指す。
■到達目標	【知識・理解の観点】設計、決定、実施、評価の公共政策の過程を理解する。|【思考・判断の観点】住民が知識を身につけて社会問題を解決する条件を考察する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	授業内容の理解と考察を評価する。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	公共性と社会（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	白石　哲郎			シラバスグループ	T02400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	現代社会における「公共」の望ましいあり方や、公私関係の課題や展望について考える
■授業の概要	日本における公共的な問題は、これまで行政主導で進められてきた。しかし、箱物行政といった言葉があるように、「公共の福祉」の名のもとに行われてきた様々な事業が本当に市井の人びとのためになっているかといえば、疑わしい面もある。さらに財政問題なども相まって、行政だけでは公共的な役割を担いきれなくなってきているのも事実である。本講義では、市民が主体の公共的な社会の構築は可能なのか、また、市民と行政のパートナーシップの前進に寄与しうる「新しい公共」のあり方として、いかなる制度や実践がその候補となるのか、これらの課題を中心に話をしたい。
■授業の目的・ねらい	私たち市民の暮らしにとって身近な問題や集団・組織に焦点をあてて、これらを「新しい公共」という視点から考察すること。
■到達目標	①公共というものが、抽象的・観念的な存在ではなく、私たちの日常生活と切り離して考えることのできない具体的・経験的な存在であるということを理解すること。|②授業で得た情報や社会学的な知識・概念を、受講生が地域の一生活者として実際に関心を抱いている、あるいは実際に当事者としてたずさわっている問題について考えなおしたり、捉えなおすためのツール(道具)として役立てることができるようになること。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	公共政策学講読１（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	藤井　透			シラバスグループ	V01300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	戦後といっても、80 年近く経ち「歴史」として語れる時間が経過したと思われる。日本経済の現状を論じるためにも、戦後の理解は不可欠であろう。本講読では、戦後日本経済史を理解して、これからの日本経済を展望してみたい。
■授業の概要	テキスト『ものがたり戦後史』を読み、日本経済の歴史的発展を論理的に探究する。
■授業の目的・ねらい	経済学の基礎的な理解を深める。そして、日本経済の歴史的歩みを概観することから、時代・時代の特徴を把握し、現状とこれからの日本経済の姿を理解する。
■到達目標	基礎的な経済学の用語と論理を把握する。そして戦後日本の経済と社会の変化を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	公共政策学講読２（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	金　佑榮			シラバスグループ	V02300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	資本主義の歴史とは「過去」と「現在」そして「未来」の歴史である。
■授業の概要	資本主義を理解するには、まずその歴史的考察が不可欠である。本講義では、世界史の流れの中で、資本主義の変遷をたどることより、これまで自明のものとしてあった資本主義の本質をつかみ、予測不可能な未来を切り開くために必須の教養を身につける。また、資本主義はなぜ限界にむかっているのか、資本主義と持続可能な世界は両立するか、ポスト資本主義とは何かなど、なまざまなテーマについて受講生と共に議論してみたい。
■授業の目的・ねらい	資本主義そのものを歴史的・哲学的・経済学的に考察するための基礎を学ぶ。
■到達目標	資本主義のしくみその歴史を理解し、資本主義自体への関心や、自分自身の問題意識を高める。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	「試験」の詳細については、スクーリング実施日に公開する。
･授業内発表	30%	
･授業内試験	0%	「事前課題」として作成した担当箇所のレジュメに基づき発表を行う。
･授業内課題	0%	
･その他	30%	

授業科目	公共政策学演習１（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	安藤　潤			シラバスグループ	V03200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	私たちの暮らしと経済
■授業の概要	日本の経済成長や所得と幸福度、家庭内の家事労働分担、男女の働き方の違い、観光政策と経済効果を学び、これらテーマについていろいろな統計データを用いながら学生に報告・議論してもらう。
■授業の目的・ねらい	中心となるテーマの基礎知識を習得すること。|報告用のレジュメを作成し、それを用いて報告し、議論する力をつけること。|これからの私たちの暮らしについて自ら考え、主張できるようになること。
■到達目標	学生が日本経済の問題点を理解し、それに対して自らの主張ができるようになる|学生が文献やデータを検索・入手し、図表を用いながら聞き手にかわりやすいプレゼンテーションができるようになる|学生がオリジナリティのある卒業論文を執筆できるよう批判的考察をできるようになる|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40	
･リポート試験(SR 履修)	0	授業内容の理解が反映されているか、論理的に書かれているか、仮説の検証は適切にできているか、主張は明確か、適切な参考文献を適切な量だけ使っているか。|＊判定の目安（各 20 点）|十分：16～20 点|ほぼ十分：11～15 点|やや不十分：6～10 点|不十分：0～5 点
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	３日目のプレゼンテーションやその資料作成などが読み手･聞き手にわかりやすく作られているか。|＊判定の目安|数か所にわたって質問しなければ何を言いたいのか理解できない:0～59 点|展開のスムーズさに欠けるが 1，2 か所確認すれば言いたいことが理解できる：60～69 点|確認するところはないが、展開にやや問題あるものの言いたいことが伝わる：70～79 点|確認しなくても十分理解でき、また、展開もスムーズで言いたいことが十分伝わる：80～100 点
･授業内課題	20	
･その他	20	練習問題への取り組み。|＊判定の目安|課題を提出し、適切な統計指標や図表の作成ができている:80～100 点|課題を提出し、統計指標や図表の作成が一部正しくはできていない：70～79 点|課題を提出しているが統計指標や図表の作成に学習の成果が見られない：60～69 点|課題を提出していない、もしくは提出しているが無回答：0～59 点

授業科目	公共政策学演習２（夏期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	三重野　雄太郎		シラバスグループ	V04200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	卒業論文の中間報告・新書の輪読
■授業の概要	本演習は、各受講生が取り組んでいる「卒業論文」の中間報告の場である。現段階での進捗度合いや研究上の諸課題を報告し、今後の課題や進め方を学ぶ。また、報告を通して、受講生の異なる問題意識や研究テーマを概観し、各受講生の幅広い社会問題への関心と知見及び政策力に触れ、自身の論文の完成力を高める。‖
■授業の目的・ねらい	①課題研究論文の書き方、準備の仕方を身につけることを目的とする。|②報告とディスカッションを通して、卒業論文作成までの諸課題を再認識する|③全講義出席すること
■到達目標	公共政策に係る問題意識の醸成とその解決にむけた専門知識の習得、さらには解決に向けたアプローチを立案できる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0|	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	80	
･その他	0	卒業論文第１稿などの発表やその他のﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝな、授業態度などにより評価する。

授業科目	公共政策学実習１（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	原田　徹			シラバスグループ	V05200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	パソコンを活用した資料作成と発表の実習
■授業の概要	パソコンを使った文章、プレゼンテーション用資料（スライド)、表やグラフの作成方法とそれらを用いた発表方法を学ぶ。基本的な進め方として，ソフトウェアの操作方法を簡単に学んだあと，それに関連した課題に対し学生自らが取り組んでもらう。また，作成したスライドを用いて，授業中にプレゼンテーションを行ってもらう。なお、この授業は受講生がパソコンにあまり触れたことのない学生であることを前提として授業を行う。
■授業の目的・ねらい	コンピュータの基礎的な知識・スキル・マナーを習得し、自らの公共政策の学習・研究においてコンピュータを活用できるようになる。
■到達目標	パソコンを使って資料探索から自らの資料作成を遂行し、それらのパソコンスキルを活用しつつ、プレゼンテーション（発表）できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40	
･リポート試験(SR 履修)	0	最終的なプレゼンテーション（発表）を評価する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	60	
･その他	0	授業内に、主に Word と Excel の実習課題を複数行い、それを評価する。

授業科目	公共政策学実習２（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	V06200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	京都とまちづくり
■授業の概要	設定されたテーマに基づきフィールドワーク（現地調査）を行う。１日目は、今回のフィールド（現地）についての事前学習とインタビューの準備を行う。２日目は、実際に現地に赴いて、現地の視察とインフォーマントへのインタビューを行い、社会調査のプロセスを経験する。さらに、３日目では、調査資料の整理・分析、報告を行い、各自の「調査報告レポート」を作成する。
■授業の目的・ねらい	社会調査のプロセスを経験し、問題解決への実践的な力を養うことを目的とする。実際のフィールドワークを通して、調査手法や調査資料の整理・分析・報告の仕方を理解し、調査報告書の作成ができるようになることを目標とする。
■到達目標	実際のフィールドワークを通して、調査手法や調査資料の整理・分析・報告の仕方を理解し、調査報告書の作成ができるようになる.

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	調査結果の報告
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	環境・コミュニティ特殊研究１（春期)A クラス_対面				単位	1
担当者	水上　象吾			シラバスグループ	V11100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	環境の評価ー人間社会と自然環境の境界と共生ー
■授業の概要	人間活動と自然環境のあいだには対立や矛盾が生じている。限られた空間での両者の共生には、環境のあり方を考え評価を行うことが必要となる。環境とは生物をとりまく外的な総体であり、自然環境、人間のつくりだした人工環境や生活環境などさまざまな範囲や捉え方がある。特に人間を中心として考えると、環境問題とは人と環境との相互の関係から環境に変化が生じる問題である。| 講義では、どのように環境を測るのか、具体的な生物指標等を取り上げ評価方法を学ぶ。また、人々の自然観、実際の空間の利用調整のあり方を取り上げ、都市・人間社会と自然との境界や共存のあり方を考える。|
■授業の目的・ねらい	環境という多様で複合的な全体の評価を行っていくためには、それを切り取るため、環境指標による調査と評価が必要なことを理解する。身近な環境に問題や課題がないか、どのように環境を測ったらよいか、自ら考える力を養うことを目標とする。| 環境問題は人間と環境との関係において複雑に関連しあっていること、多様な視点から環境を捉える必要があることを理解する。環境の捉え方には、環境の規模、時間軸、自然観など、範囲、対象や立場などの異なる視点があり、各視点から環境の全体像を考えていくことを目標とする。| 多様な観点での評価がある中で、どのように焦点を定め、評価を行っていくかを考える力を身につけることを目標とする。

■到達目標	環境という多様で複合的な全体の評価を行っていくためには、それを切り取るため、環境指標による調査と評価が必要なことを理解する。身近な環境に問題や課題がないか、どのように環境を測ったらよいか、既存の文献資料を読み解き、考察を深める能力を養うことを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	与えられた課題に関して、「論題が明確か曖昧か」、「構成が論理的か」、「議論（主張がきちんとされているか)」、「リサーチ（適切な資料を見つけ用いているか)」、「創造性（テーマの選択や取り扱いに独自の見解があるか)」による判断を行う。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	環境・コミュニティ特殊研究２（春期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	野﨑　敏郎			シラバスグループ	V12100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	江戸時代の社会システムと近代ー地域・生活・生産ー
■授業の概要	江戸時代から明治初期にかけては、日本の社会が大変動をきたした時期です。この時代は、農業を中心として、日本社会の基盤整備がすすんだ時代でもあります。この時代の生産と生活を読みといていくと、そのなかから日本社会の特質を見つけだすことができます。それはその後現代にいたるまでわれわれの社会を規定しつづけてきたものです。｜　しかも、江戸期の日本では、長期にわたる繁栄とともに、循環型社会システム、衛生的な都市生活が実現されていました。それはなぜなのか、また江戸期の社会生活の基盤をなす村と家の構造、および近代的発展の前提となる生産力の上昇と農民層分解はどのようなものだったのかも重要な考察課題です。こうした諸点に説きおよび、われわれが汲みとるべき歴史的教訓を考えます。
■授業の目的・ねらい	歴史的事象の解明を通じて、われわれの社会がいかに歴史的に規定されているか、また近現代の社会は、その展開過程のなかで何を失ったのか、また二十一世紀の新しい社会のありかたを展望するうえで、江戸期の経験がどのような手がかりを与えてくれるのかを理解することが重要です。
■到達目標	この講義を通じて、日本社会の特質がどの時代にどのような要因によって規定されていったのかを理解し、それを応用して、日本社会がどのように変わっていくか、またどのように変革することが可能なのかを、受講生が自力で考察できるようになることが目標です。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	公共マネジメント特殊研究１（夏期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	堀江　典子			シラバスグループ	V13200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	都市空間のマネジメント
■授業の概要	都市への人口集中が進み、「都市の時代」が到来しています。少子高齢化社会、人口減少化社会、格差社会の進行とともに都市間競争、地域間格差が顕在化しています。歴史を振り返れば、これまでにも数多の都市や地域の盛衰がありました。現在の都市空間は地域のコミュニティの選択の結果でもあり、これからどのような都市を形成し、その環境を生活の場としていくかは、今を生きている私たちの選択次第でもあるのです。| 本講座では、都市とは何かを理解したうえで、私たちが安全・安心・快適に生活していくための都市空間の形成について考えます。まず都市論として、都市の概念を整理し、都市化と都市問題について考えます。次に、都市計画・まちづくり論として、都市計画思想と日本における都市計画の歩みを振り返ります。さらに、市民参加、ユニバーサルデザイン、水と緑、防災などの観点、コンパクトシティ、スマートシティ、文化芸術活動による地域再生など近年の取り組み事例も参考にしながら、これからの都市のあり方について考えます。
■授業の目的・ねらい	都市問題の克服の歴史的経緯を知り、私たちの生活の場である都市空間をより良い状態で維持あるいは向上させていく必要性と、そのために何が求められるのかを理解し、自らの問題として考える力を身につけていくことを期待します。|
■到達目標	都市化と都市問題について理解し、都市問題克服のための思想がどのように都市計画に反映されて現在の都市空間が形成されてきたのかを踏まえて、これからの都市のあり方について考えることができること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	公共マネジメント特殊研究２（夏期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	野﨑　敏郎			シラバスグループ	V14200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	近代日本の地方自治と地域社会
■授業の概要	近代日本の地方自治は、その形成・確立当初から、多くの問題を抱えていました。その複雑な歩みを整理して叙述し、自由民権運動の自治要求、委任事務の問題、財政構造の問題性、上意下達構造、内務省支配の矛盾、地方自治制の運営上の困難、昭和恐慌下の地域構造再編、両税委譲運動、GHQ による改革指導と地方自治法、農地改革への動きなどを概観します。また、そうした近代地方自治の諸問題を理解することによって、今日のわれわれの抱えている地域問題への新しい視座を探ります。
■授業の目的・ねらい	今日、大規模な市町村合併が完了し、新しい自治体のありかたが模索されているなかで、自治体の本質と課題とがあらためて問い直されています。いったい自治体とはどのような性格を有するのか、そもそも自治とはどのようなものか、あるいはどうあるべきものか、こういった点が問われています。そこで、この授業では、過去から現在にいたるまで、日本の自治体はどのような歩みを刻んできたのかを確認し、そのなかからわれわれが受け継ぐべきものと克服すべきものとを考察します。
■到達目標	第一に、明治維新から第二次世界大戦の終結にいたるまでの日本の国民国家のありかたを考察し、国家にとって地方自治とはなんだったのかを理解すること、また第二に、きわめて制約が大きいなかでも、新しい地方のありかたを模索する動きは顕著にみられたので、そうした地域政治や地域社会の動向をも理解すること、この二点を到達目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	岡﨑　祐司			シラバスグループ	W00200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	社会福祉学ー課題・問題をとらえる視点と社会福祉理論の基礎をつかむ
■授業の概要	これから「大学」で社会福祉を学ぶにあたって、その基礎をつかむのが、この授業の目的です。社会科学的視点にたって、資本主義の歴史、その構造的矛盾が生み出されるさまざまな社会問題、困難のなかで生み出された人権への闘い、人権思想、社会保障や社会福祉の歴史、現代社会における福祉課と重視されるべき価値や思想はなにかなどを学びます。社会福祉のことだけではなく、社会のこと、すなわち資本主義とはどのような社会体制か、現代の日本社会をどうとらえるか、社会的事象（ものごと）をどのような視点でつかむのか、思想や哲学を重視する大切さ、歴史の発展の原動力とはなにかをおさえながら、社会福祉学を学ぶ基礎を形成する授業です。日常生活では耳慣れない言葉も多くでてくると思うので、しっかり授業を聴いてノートを取るようにしてほしい。担当者による講義と受講生の意見交流を交えて進めます。なお、毎回の授業テーマは大筋のものですので、この順番通りではありません。また、記載内容からさらに発展して授業を行います。
■授業の目的・ねらい	１．社会福祉にかかわる社会理論、思想の重要性を理解する。|２．社会、社会問題とのかかわりから社会福祉の意義、社会的役割を理解する。|３．社会福祉の専門的学習のうえで必須の視点ー社会問題、人権、運動、実践者の社会的使命ーを理解する。
■到達目標	１．社会福祉にかかわる社会理論、思想の重要性が理解でき、その意味を自分なりに説明することができる。|２．社会、社会問題とのかかわりから社会福祉の意義、社会的役割を説明することができる。|３．社会福祉の専門的学習のうえで必須の視点ー社会問題、人権、運動、実践者の社会的使命ーを理解し、自分なりに説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	授業の最終コマで、リポート課題を示します。
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	坂本　勉			シラバスグループ	W00300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	社会福祉学を構成する視点について学びを深め、今後の社会福祉関連法･制度および理念、理論などについて視座を深めることを目的とする。　｜
■授業の概要	社会福祉がわが国において整備されてきた歴史的変遷を学び、現代における法的根拠やその性質を理解できるよう授業を行う。また、学問的には比較的歴史が浅いといえるが、社会福祉学を理論的に整理したこれまでの研究動向や社会福祉理論について考察する。｜　また、これまでの社会福祉学研究の概要を把握し、今後の学問的諸課題について認識を深めると同時に、今後の応用可能な視座について考える基礎を身につける。‖
■授業の目的・ねらい	主に、社会福祉学を初めて学ぶ学生をイメージし理論的な理解の深化を目的とする。|具体的には、これまでの国内研究における社会福祉学理論、議論をはじめ、国際社会で議論されている考え方などを中心に理解を深める。　｜
■到達目標	スクーリングにおける講義内容および、事前配信するレジュメなどを基本とし、その理解度をリポート課題によって判定する。　｜

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	20	リポート作成のポイントはスクーリング中に説明いたします。
･授業内試験	0	講義内容を深めるために、小グループでのディスカッションを行います。各自の通信状況や、学習環境（カメラ、マイク、背景が映し出されても大丈夫な環境など）を考慮しながら参加するようにしてください。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習１（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	宮脇　弘次			シラバスグループ	W04100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会的養護を担う児童福祉施設の現状と今後について
■授業の概要	児童福祉施設とひと言にいっても、多種多様でそれぞれの種別の特性を活かし、社会のニーズに応じた福祉サービスを提供しています。|この講義では社会的養護が必要な児童(虐待されている児童や養育を放置された児童）が　現状取り巻く問題について取り上げ、その児童をどのように支援していくのか、また今後の社会的養護がどうあるべきなのかを、一緒に学んでいこうと思います。
■授業の目的・ねらい	①児童福祉施設の違いを理解する。　②児童福祉施設で生活する児童を理解する。　③児童福祉施設の現状と今後について理解する。|
■到達目標	児童福祉施設の違いや各施設の役割、また生活する児童についての現状と今後の課題について理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	30|	なし
･授業内試験	0	あるテーマを設けグループ討議を行う
･授業内課題	40	なし
･その他	30	レポートの作成

授業科目	社会福祉学演習１（春期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	藤本　ヨシタカ			シラバスグループ	W04101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	子どもたちの生活世界を「教育実践」という観点から捉え、社会福祉実践に活かす
■授業の概要	子どもたちの生活世界に目を向けることは、大人ひいては社会全体の生活実態を知ることにもつながる。そこでこの授業では、さまざまな「教育実践」を通じて子どもたちの生活世界とその現状について考え、その成果を「社会福祉実践」へと活かす道筋を探る。具体的には、いくつかの実践記録を通じて、さまざまな社会的事情により苦難を強いられてきた〈子ども〉たちが、〈おとな〉としての教師らとの出会いを通じていかにして平和な生活世界（＝生きるに値する世界）を立ち上げていくのか、またそのような教育実践（教育的出会い）は、社会福祉領域とどのように関連しうるのかを、受講生らによるワークやディスカッションを交えながら考えていきたい。
■授業の目的・ねらい	現役教師らによる実践記録を読み解くことで、子どもたちの発する言語的・身体的メッセージの背後にある生活上の危機（差別、貧困、暴力などといった社会問題の影響）を読み取り、さらにそこから子どもたちが「平和な社会の形成者」へと変わりゆくプロセスを読み取ることが主たる目的である。そのうえで、教師らの「教育実践」がいかなる社会福祉的意義を有しているのか、あるいはそうした実践が次第に困難となっているのはなぜなのかを、受講生自らが考え、討議し、言語化できるよう、授業を展開していきたい。‖成績評価について|授業への参加度とリポート試験の内容を総合的に評価する。|授業では適宜ディスカッションの時間を設け、授業内容の共有、疑問点・問題点の相互検討の場としたい。|リポートは、授業内容の理解度、上記目的・ねらいの達成度を評価基準とする。

■到達目標	①子どもたちの発する様々なメッセージから、背後にある社会問題とその影響力を読み取ることができる。|②教師や他の仲間との関わりを通じて、子どもたちが平和な世界を立ち上げていくプロセスを読み取ることができる。|③授業で得た知見や思考力を、今後の社会生活や専門的スキルに活かす方途を探ることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	後日提出のリポート試験とする。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	40%	
･その他	0%	授業内でいくつか論題を出し、それについて個人で考えを述べてもらうか、グループでディスカッションをする。

授業科目	社会福祉学演習１（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	楳原　直美			シラバスグループ	W04200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	ソーシャルワーカーとして、相談援助に必要なコミュニケーション技術や課題解決方法について学びます。
■授業の概要	前半は、マイクロカウンセリングの技術の基本を学び、事例を用いてインテークやアセスメント等を行う際、どのように利用者との面談に応用すればよいのか考えます。　後半は、受講生同士でロールプレイを行います。グループのメンバーが提示する問題について、聞き取りを行い、解決に向けての会議を開き解決策を考えます。課題解決を行うためには、どのように利用者の聞き取りや整理、分析、解決法の提示を行う必要があるのか、実践的に考えていきます。
■授業の目的・ねらい	ソーシャルワーカーとしての相談援助のスキルアップを目指します。受講生それぞれが自分自身の話の聴き方、聴く姿勢や態度だけでなく、質問の仕方（情報の収集方法)、課題分析や抽出の方法について、体験的に習得していくことが目的やねらいです。
■到達目標	今後ソーシャルワーカーとして活躍する際に、自身がどのように利用者に対しのぞめばよいのか、面談をどのように構造化すればよいのか、各自の課題を明確にすることも本講義の目標です。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	社会福祉学演習１（夏期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	新井　康友			シラバスグループ	W04201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	高齢者の孤立死（孤独死）の実態と予防対策に関する研究
■授業の概要	今後、一人暮らし高齢者の増加に伴い、ますます孤立死（孤独死）が増加することが予想される。しかし、孤立死（孤独死）問題は研究途上にあり、孤立死（孤独死）の定義も明確になっていない。そのため、孤立死（孤独死）の実態把握もできていない。また、孤立死対策も確立していない。そこで本講義では、高齢者の孤立死（孤独死）の実態と予防対策について検討する。
■授業の目的・ねらい	昨今、マスコミ等は孤立死（孤独死）を社会問題として取り扱うようになった。しかし、孤立死（孤独死）の現象や形態だけが話題になることが多い。そこで、本講義では孤立死（孤独死）問題の本質について理解する。
■到達目標	孤立死（孤独死）が起きた背景について説明することができる。また、孤立死（孤独死）問題の本質についても説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験で講義・演習の理解度を評価する。
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0	授業内での発表と参加度を評価する。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	長瀬　正子			シラバスグループ	W05100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	子どもの権利の視点から問題をとらえる
■授業の概要	1989 年に国連で採択され、1994 年に批准された子どもの権利条約は、子どもをめぐるさまざまな問題を読み解き、その支援を検討する際の基盤となるものである。日本においても、2016 年に児童福祉法が改正され、子どもの権利条約の理念を盛り込まれた。現在、子どもの福祉や支援を担う人にとって、権利条約の精神を理解することは必要不可欠であるといえよう。本演習では、子どもの権利条約を学び、そのうえで、子どもの権利の現状が日本国内、国連においてどのように捉えられているのかを分析し、学んでいきたいと考えている。
■授業の目的・ねらい	学習内容と目的とねらいは、日本における様々な子どもに関する課題について、子どもの権利の視点からとらえることである。具体的には、国連子どもの権利委員会に提出された日本政府の報告書および国連の日本政府に対する総括所見を読み解きながら、ディスカッションしていく。|
■到達目標	・子どもの権利条約を学び、その特徴と内容を理解する|・子どもという存在を子どもの権利の視点から捉えなおし、日本社会における課題と結びつけて検討することができる|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習２（春期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	村上　武敏			シラバスグループ	W05101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会福祉の意義と方法について、国民の生活実態や社会構造など社会の現実を通して学ぶ。
■授業の概要	・社会福祉とは何かを歴史的かつ社会構造的に理解する。|・現代における社会福祉政策の特徴を理解する。|・社会福祉実践の課題を明らかにする。|・生活アセスメントの方法を習得する。
■授業の目的・ねらい	現代社会における生活にかかわる諸問題の社会的規定要因について理解するとともに、生活問題の社会的な解決を目指す方法論を習得する。
■到達目標	・近代社会における生活とは何か、社会福祉とは何かを社会構造的に理解する。|・国民の生活実態と社会福祉政策の現状を踏まえて社会福祉実践の課題を理解する。|・生活をとらえる方法論を理解する。|・援助対象者の生活を軸に社会を変革する方法論について理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	30%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	20%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉学演習２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	河合　悟			シラバスグループ	W05200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会福祉援助者にとって何が必要なのかを問う
■授業の概要	社会福祉援助者に求められる対人援助の基本的な視点や援助方法について、グループワークやロール|プレイ、事例を通じて体験的に学ぶ。|社会福祉の受け手には誰もがなりうる。その意味でも、自らの問題して捉える視点を持ち、真の援助者としてのあるべき姿を深く追求し、考察していきたい。
■授業の目的・ねらい	社会福祉援助者に必要とされている相談援助場面におけるコミュニケーションスキルを獲得することを目的とする。
■到達目標	相談援助場面におけるコミュニケーションスキルを身につける。‖グループワークやロールプレイができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習２（夏期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	大坪　勇			シラバスグループ	W05201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	現代社会におけるケースワークの実際的展開について
■授業の概要	この演習では、主にケースワークのの基本的な知識や技術について、講義及び実践的なロールプレイなどを取り入れ、現場で役立つ演習となるよう展開してます。
■授業の目的・ねらい	ケースワークの基本的知識、特にバイスティックの７原理などを中心に講義を展開するとともに、実践的ロールプレイを実践します。
■到達目標	ケースワークの知識と実際的技術を身に着けることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80%	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	10%	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習３（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	孔　栄鍾			シラバスグループ	W06100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	福祉政策における「障害者 65 歳問題」
■授業の概要	現行の介護保険制度と障害者福祉制度との適用関係では、福祉サービスを利用してきた障害者が 65 歳を迎えることで介護保険制度の対象となり、介護保険制度への利用移行が余儀なくされている。この原則により、当事者にとっては自己負担の増加やサービスの質の低下、生活環境の変化などの問題がもたらされており、いままで営んできた「自立生活」が崩れてしまうという生活問題が惹起されている。それゆえに当事者や関係者からは、相違する目的を持つ両制度間の適用関係において「なぜ介護保険優先なのか」、「介護保険優先適用の考え方が理解不能」であるとの声が高まっており、改善を求める当事者の抵抗運動が広がっている。本講義では、こうした福祉政策における障害者の 65 歳問題に関して、その問題状況と政策課題について考察して見る。
■授業の目的・ねらい	障害者の高齢化が進むにつれて、介護保険制度と障害者福祉制度との適用関係をめぐる問題はますます重大な福祉問題になりつつある。本講義では、介護保険制度と障害者福祉制度との適用関係をめぐる問題の根本的な原因を解明しながら、それが示唆する現行の福祉政策における問題点と課題について一緒に考えてみたい。
■到達目標	障害者の 65 歳問題について、その根底にある現行の福祉政策の問題を理解し、問題の解決に向けた課題を自ら論じることができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習３（春期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	岩田　貞昭			シラバスグループ	W06101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	地域共生社会での社会福祉法人の役割について考える
■授業の概要	社会福祉法人は、社会の生活問題へと対応する実践を行う役割を果たすべく設立された特別法人である。表出する生活問題に対しては、積極的に実践すべき使命がある。近年、地域社会では、無縁社会という言葉に代表されるように「つながりの希薄化」が指摘され、高齢者の孤立や子どもたちへの虐待など、さまざまな生活問題を表出させている。「つながりの再構築」が求められる地域社会において、社会福祉法人は、どのような役割を果たす必要があるのか。社会福祉法人の実践を通じて検討する。
■授業の目的・ねらい	社会福祉法人の実践の目的は、公的な制度にある福祉サービスを提供することだけではない。生活に何らかの課題を抱えて人たちに対して、尊厳と平等を根底として豊かな地域生活を営むことへ展開させることにある。授業では、社会福祉法人の実践事例や職員教育の状況から、本来あるべき社会福祉法人としての福祉実践を理解する。
■到達目標	ともに生きる社会（地域共生社会）を実現するために必要な社会福祉の実践を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験で講義・演習の理解度を評価する。
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	授業内での発表と参加度を評価する。
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉学演習３（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	末崎　栄司			シラバスグループ	W06200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会福祉（政策）の史的発展と対象認識の質的変化の問題点
■授業の概要	社会福祉という学問（科学）は言うまでもなく、人間を取り扱い対象とする。しかし、その社会福祉が取り扱う人間は他の学問（科学）が取り扱う人間と、どこが違い、どういった独自で固有の人間を社会福祉の対象とするのかを明確にしなければならない。なぜなら、社会福祉が他の学問（科学）と異なる固有性や独自性を鮮明にするためには、この対象認識（対象規定）が極めて重要だからである。それゆえ、社会福祉が取り扱う固有で独自な対象とは何かを考えていきたい。
■授業の目的・ねらい	社会福祉が他の学問（科学）との違いを鮮明にするために不可欠な対象認識（対象規定）を分析していく場合、社会福祉（政策）の歴史的変遷にともなって、この社会福祉が取り扱う対象が質的に変化をしてきていると言われる。しかし、この社会福祉（政策）の歴史的変遷にともなって、社会福祉の対象が本当に真実の意味において質的に変化をとげていると考えてよいのであろうかという疑問がわいてくる。そういったことを現象的分析ではなく、本質的に構造的に分析し探究していくことが、この授業の目的でありねらいである。
■到達目標	社会福祉という学問（科学）が他の学問（科学）との違いを鮮明にするためには、どういう対象を取り扱うのかという対象認識（対象規定）が極めて重要である。その社会福祉という学問（科学）の固有性・独自性を主張するために不可欠な対象認識（対象規定）が、社会福祉（政策）の歴史的発展過程の中で質的に変化をしてきていると言われる。そのことが本当に真実の意味において正しいのかどうかを、この授業を通して、受講生が自分なりに判断することができる視点・視座を獲得し、それにもとづいて受講生自身が社会福祉の取り扱う対象とは、どういうものなのかということを現象的ではなく本質的に認識理解ができるようになることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉学演習３（夏期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	武内　一			シラバスグループ	W06201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	子どもの権利擁護を考える
■授業の概要	子どもの権利を子どもの権利条約の条文に掲げる権利を深めながら、多面的に考えてみます。特に、今も続く COVID-19 パンデミックの影響を重ねながら、この問題を考えてみたいと思います。
■授業の目的・ねらい	子どもの権利擁護を考える上で重要な思想として、アマルティア・センのいうケイパビリティーを実践的に理解し、その最適化を考えたいと思います。この課題をできるだけわかりやすく解説し、その必要性を共有します。
■到達目標	子どもの権利擁護の重要性を理解し、どうすれば子どもの権利を前に進められるのか、そのためのアイデアを自分たちで考え、政策に繋げることを目標とします。そこの鍵は、ケイパビリティーの最適化にあると考えています。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習３（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	末崎　栄司			シラバスグループ	W06400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	今日の社会福祉研究を行う上で重要となる社会科学的視点について考える
■授業の概要	社会福祉を研究する上で、大切なことが多くある。社会福祉の取り扱う対象をどう捉えるのかとか、社会福祉研究を進める上で「社会」と「歴史」の視点をもって、社会福祉の探究をしていかなければならないことなど、社会福祉の研究を行う上で心得ておかなければならないことがある。そういった点を考えていきたい。そうしたことを踏まえて、受講生の方の身近にある社会福祉問題を出していただいて、グループでの議論も行っていきたい。
■授業の目的・ねらい	この授業を通して、社会福祉を考える上で何が大切であり、何が必要なのかを受講生一人一人が自分なりに獲得していってほしい。たとえば、社会福祉の対象とは何かとか、社会福祉は、なぜ、必要となり登場してきたのかということなどを自分なりに考え、自分自身の社会福祉研究に役立てていってほしい。
■到達目標	社会福祉を考える場合に、社会福祉を愛情論的に考えたり、感情論的に捉えたりするのではなく、因果論的に客観的に科学的に社会福祉を捉えていくことの必要性を学んでいただきたい。そして、社会福祉を研究していく場合に、客観的に科学的に社会福祉を認識把握していくためには、正しい研究方法が存在することを身につけ獲得していってほしい。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉学演習３（冬期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	隅河内　司			シラバスグループ	W06401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	基礎自治体におけるソーシャルワーク実践と専門職
■授業の概要	2019 年（令和元年）12 月に「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会」（地域共生社会推進検討会）の最終とりまとめが出され，続けてその内容を具現化するために 2021 年（令和２年）には，社会福祉法の一部が改正された．これらの中では，個人・世帯が抱える生きづらさやリスクの複雑化・多様化，共同体の機能の脆弱化などの課題が挙げられ、それに対応するための取り組みとして，市町村における包括的な支援体制構築の必要性が示されている。また、あわせて、ネットワーク強化や社会資源開発など、ソーシャルワーク機能の充実が求められるとともに、実践を担うソーシャルワーカーへの期待も大きくなっている。 ｜ 本演習では、２０１４年に改定された国際ソーシャルワーカー連盟の新たなグローバル定義を踏まえ、ソーシャルワークの基本的な考え方や専門職の使命について理解する。また、ミクロ、メゾ、マクロの総合的な視点から、地域と一体となったソーシャルワークの意義や方法を学ぶとともに、包括的な地域相談支援における専門職の役割を考える。
■授業の目的・ねらい	個々の生活問題を現実の社会構造に引き付けて、それを社会問題としてとらえ、行動するという力動的な実践としてのソーシャルワークについて、理解・把握し深めることを目的とします。また、身近な地域で展開されるコミュニティソーシャルワークの必要性と方法についても、具体的な事例にふれることで学んでいただきたい。 ｜ 本演習の学習内容の要点は、以下の５点です。 ｜ １.ソーシャルワークの定義 ｜ ２.ソーシャルワークの価値と専門職の使命 ｜ ３.援助技術ー自己覚知、コミュニケーション、コミュニティワーク ｜ ４.地域共生社会と包括的相談支援体制の必要性｜ ５.コミュニティソーシャルワークの理解 ｜ 授業は、講義形式とグループワーク形式で行います。講義は配布資料を活用しながら行います。グループワークは、小さなグループに分かれて自ら感じた疑問や意見を基にした話し合いや発表、討論等で進めます。 ｜
■到達目標	・個々の生活問題の解決と社会変革をめざすソーシャルワークについて、定義や専門性について的確な用語を用いて記述することができる。｜・ソーシャルワークの専門職として必要となる知識・技術を身につけ実践できるようになる。｜・身近な地域で展開されるコミュニティソーシャルワークの必要性と方法について、理解し、説明することができる。｜

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	0	成績の評価は、リポート試験を実施し、理解度を測ります。スクーリングの全日全講時に出席していることを条件とします。 ｜
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	40%	

授業科目	社会福祉学演習４（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	長友　薫輝			シラバスグループ	W07100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	地域包括ケアと地域共生社会を考える
■授業の概要	地域包括ケアについて、先行事例、政策としての地域包括ケアの登場、地域包括ケアの理念、社会保障・税一体改革との関連、介護保険制度の改正と地域包括ケアの「深化」、地域包括ケアと地域共生社会などについて取り上げ、具体化が進む政策としての地域包括ケアの問題点と目指すべき地域包括ケアについて考える。
■授業の目的・ねらい	本来の字義通りの地域包括ケアと政策としての地域包括ケアシステムの構築を区分して考え、後者がもつ問題点を明らかにすることを通じて前者の内容を明確化する。そして、権利としての地域包括ケアという視点から、いま求められる地域ケアの内容と具体的な課題を整理する。同時に、提唱されている地域共生社会の実現に関しても触れて、理解を深めたい。
■到達目標	1.地域包括ケアの歴史と変遷を理解できる。|2.政策としての地域包括ケアの理念と特徴を理解できる。|3.地域包括ケアと医療提供体制の再編との関連を理解できる。|4.地域包括ケアと地域共生社会との関連を理解できる。|5.権利としての地域包括ケアの意義と内容を理解できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習４（春期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	眞砂　照美			シラバスグループ	W07101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会福祉の視点から社会問題の背景を捉える
■授業の概要	近年の少子高齢社会の進展に加え、新型コロナウィルス感染拡大、度重なる自然災害、紛争や戦争等人々を取り巻く環境が悪化する中、人びとの生活課題も多様化し、複雑化し、複合化している。例えば、児童を取り巻く社会問題では、子どもの貧困問題が挙げられるが、児童虐待、ヤングケアラー、いじめなどそこから派生する問題も様々な様相を呈している。そこで、社会福祉の課題（受講生の関心のあるテーマ等も）を取り上げ、ソーシャルワークについて議論しながら考えを深めていく。
■授業の目的・ねらい	本演習では、人びとの様々な生活課題がどのように生起しているのかその環境や背景、構造について考えるとともに、ミクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワークにおける支援について議論しながら学びを深める。
■到達目標	人々の抱える生活課題についてミクロ・メゾ・マクロの各レベルで考えることができ、自分の考えを発表することができる。|ソーシャルワークの視点に基づいて事例検討を行うことができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	演習への積極的な参加と意見交換を評価する。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習４（夏期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	坂本　勉		シラバスグループ	W07200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	社会福祉学の変遷と高齢社会への課題
■授業の概要	このクラスでは、高齢者福祉を基本とする高齢社会の課題について学びを深める。特に、政策的変遷やその理論的背景、国際動向など先進国共通の課題として高齢者福祉の視点を深めることを目的とする。
■授業の目的・ねらい	まず、社会福祉学全体の理解を深めるため、社会福祉関連法、制度、理念、理論などについて概念的な深まりを目的とする。そのうえで、高齢者福祉に関係する現代的な課題について理解を深める。
■到達目標	さまざまな学びを深め、授業内での現代的課題について相互の意見交換を通じて現代的課題の把握および、今後の解決策への模索について理解を深める。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	オンラインで討議を行いますので、通信環境を確認の上参加してください。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習４（夏期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	小池　桂			シラバスグループ	W07201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会福祉のあり方を、社会のあり方とともに考える。
■授業の概要	社会福祉とは何か、というテーマには事実としての社会福祉を問うことと、あり方としての社会福祉を問うことの二つの意味が込められている。この演習では戦後の主たる社会福祉理論を振りかえるとともに、欧米の社会理論を参考にしつつ、社会福祉のあり方を考えることを目的とする。
■授業の目的・ねらい	社会福祉とは何かというテーマを通して戦後日本における主要理論の意義と問題点、さらにはそれらを補う意味で欧米の社会理論をとりあげ、社会福祉のあり方を考えることを目的とする。
■到達目標	1.戦後日本の主要な社会福祉理論の意義と問題点を理解できる。|2.J.ロールズ、A.センの社会理論の概要を理解し、それらを日本における社会福祉理論の展開の中で位置づけることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習４（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小池　桂			シラバスグループ	W07400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会福祉のあり方を、社会のあり方とともに考える。
■授業の概要	社会福祉とは何か、というテーマには事実としての社会福祉を問うことと、あり方としての社会福祉を問うことの二つの意味が込められている。この演習では戦後の主たる社会福祉理論を振りかえるとともに、欧米の社会理論を参考にしつつ、社会福祉のあり方を考えることを目的とする。
■授業の目的・ねらい	社会福祉とは何かというテーマを通して戦後日本における主要理論の意義と問題点、さらにはそれらを補う意味で欧米の社会理論をとりあげ、社会福祉のあり方を考えることを目的とする。
■到達目標	1.戦後日本の主要な社会福祉理論の意義と問題点を理解できる。|2.J.ロールズ、A.センの社会理論の概要を理解し、それらを日本における社会福祉理論の展開の中で位置づけることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習４（冬期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	加美　嘉史			シラバスグループ	W07401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	現代社会に広がる貧困と自己責任論ーその背景とソーシャルワークの課題ー
■授業の概要	１．この授業では、現代社会において「貧困」と「自己責任論」が、なぜ、どのように広がっているのか、そのメカニズム（構造）を考察する。|２.「自己責任論」について歴史的な視点から検討するとともに、子ども・若者・シングルマザー・ワーキングプア・ホームレス問題など具体的な「貧困」の事象をとりあげ、貧困の自己責任論が生み出される背景（構造）について考える。|３．そのうえで生活保護や生活困窮者支援における「自立」と「自立支援」の課題を考える。|４．これらの検討と考察をふまえ、現代社会に広がる貧困と自己責任論に対し、ソーシャルワークの役割と課題について考える。|５．授業では少人数グループでグループディスカッション（演習）を行う。そこでの意見交換を通して学びを深めていく。|
■授業の目的・ねらい	1．現代社会における「貧困」とは何か、なぜ「貧困」が広がっているのか、その背景と構造から考える。|2．今日、なぜ「貧困の自己責任論」が広がっているのか、その現状を学ぶとともに、自己責任論がどのようにして浸透していったのかを歴史的視点から考える。|3．生活保護、生活困窮者自立支援、子どもの貧困対策など、今日の貧困対策としての「自立支援」の課題と自立観をめぐる課題について考える。|4．現代社会に広がる貧困と自己責任論に対するソーシャルワークの現状と課題について考える。
■到達目標	1．現代社会においてなぜ「貧困」が広がっているのか、その構造を理解し、説明できるようになる。|2．なぜ「貧困の自己責任論」は生み出されるのか。その構造について歴史的視点から理解し、説明できるようになる。|3．生活保護、生活困窮者自立支援、子どもの貧困対策などにみられる「自立観」と「自立支援」の課題を理解し、説明できるようになる。|4．現代社会に広がる貧困と自己責任論に対する、ソーシャルワークの課題について理解し、説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	90	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学実践論１（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	神谷　純			シラバスグループ	W11200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	共同作業所の実践について学び、共同作業所におけるソーシャルワーク実践のあり方と果たす役割について考察する。
■授業の概要	①社会福祉実践とは何か理解し、実践から学び生かしていく事の意義について確認する。|②共同作業所とは何か、共同作業所の歴史と現状、意義について学ぶ。|③障害者の権利保障に関係する理念・憲法・条約などについて把握する。|④障害者福祉関係の法律・制度とその課題について把握する。|⑤共同作業所の実践について学ぶ。|⑥共同作業所における実践のあり方と果たす役割について考察する。
■授業の目的・ねらい	①共同作業所とは何か学ぶ。|②共同作業所の歴史と現状を学び、その意義について理解する。|③障害者の権利保障に関係する理念・憲法・条約、法律・制度とその課題について把握する。|④共同作業所のさまざまな実践について知る。|⑤共同作業所における実践のあり方と果たす役割について考察する。|⑥共同作業所の実践から学び生かしていく事の意義について理解する。
■到達目標	①実践から学び、生かしていく事の意味について理解する。|②障害者の権利保障に関係する理念・憲法・条約などについて把握する。|③障害者福祉制度の概要と課題について把握する。|④共同作業所のソーシャルワーク実践について学ぶ。|⑤共同作業所のソーシャルワーク実践のあり方と果たす役割について考察する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40%	
･リポート試験(SR 履修)	0%|	
･授業内発表	10%|	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	10%	
･その他	40%|	

授業科目	社会福祉学実践論１（秋期)A クラス_対面				単位	1
担当者	河合　悟			シラバスグループ	W11300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	高齢者ケアの現場からみえてくるもの
■授業の概要	利用者の不安・職員の苦悩・介護者の限界・・・・虐待等の事例|現場に人がいない、来ない・・・・どのような取組みが必要か|多職種連携に必要なものとは？|様々の課題を個人演習、グループワーク等を通じて考える
■授業の目的・ねらい	利用者、介護者、職員、それぞれの立場で考え学習を深めてもらいたい。|実際に起きている課題や解決方法を一緒に考えていきたい。
■到達目標	利用者・介護者・専門職のそれぞれの立場や思いを理解すること。|具体的な取組みや解決方法を１つでも現場で実践出来ること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	30%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学実践論２（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	木塚　勝豊			シラバスグループ	W12200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会福祉の一領域である児童家庭福祉の実践現場の現状と課題をテーマにして日本の社会福祉を俯瞰する。
■授業の概要	児童家庭福祉について、児童養護施設での現場経験から事例等を通して実践力を培う。|また、社会福祉領域以外も演習を通して学び、領域との関連を探る。|
■授業の目的・ねらい	社会福祉士を目指される学生も多いため、部分的に国家試験の問題を使うこともあるが、あくまでも現場での実践力養成に役立つ講義としたい。
■到達目標	子どもの置かれている現状と課題について理解し、社会的養護を必要とする子どもの実際を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	10	
･その他	10	

授業科目	社会福祉学実践論２（秋期)A クラス_対面				単位	1
担当者	神谷　純			シラバスグループ	W12300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	障害者の労働を支援するさまざまなソーシャルワーク実践について学び、その実践のあり方と果たす役割について考察する。
■授業の概要	①社会福祉実践とは何か理解し、実践から学び考察する事の意義について確認する。\②障害者の労働について学ぶ。\③障害者の労働を支援する方法とその意義について学ぶ。\④障害者の労働を支援するさまざまな実践について学ぶ。\⑤障害者の労働を支援する実践のあり方と果たす役割について考察する。
■授業の目的・ねらい	①障害者の労働について学び、理解する。\②障害者の労働を支援する方法とその意義について学び、理解する。\③障害者の労働を支援する実践について学び、理解する。\④障害者の労働を支援する実践のあり方と果たす役割について考察する。\⑤障害者の労働を支援する実践から学び考察する事の意義について理解する。
■到達目標	①実践から学び、生かしていく事の大切さについて理解する。\②障害者の労働を支援するソーシャルワーク実践について理解する。\③障害者の労働を支援するソーシャルワーク実践のあり方と果たす役割、今後の課題について考察する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	40%	

授業科目	社会福祉学実践論３（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	高橋　健太			シラバスグループ	W13200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	精神保健福祉分野の実践を通して、ソーシャルワーク実践の理解を深める。
■授業の概要	精神保健福祉分野での実践を以下の観点から学習する。‖〇精神保健福祉分野の課題|〇精神保健福祉士の専門性|〇精神障害の特性（生活者の視点から）|〇福祉施設での支援（集団支援・環境整備）|〇地域とのつながりと啓発活動の在り方|〇社会運動の展開とその一例
■授業の目的・ねらい	精神保健福祉分野の実践を通して、現場で働くソーシャルワーカーの在り方を深める。|個別実践や施設内実践にとどまらない、まちづくりや社会変革のための専門職であることが、社会福祉実践を担うために必要な枠割であることを学習する。
■到達目標	精神障害者を取り巻く社会環境や障害特性を理解する。|社会福祉実践は、個別や集団支援だけでなく、地域や社会への働きかけと連関していることを理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学実践論３（秋期)A クラス_対面				単位	1
担当者	西川　健一			シラバスグループ	W13300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	精神保健福祉領域での実践を通して考えるソーシャルワーカーの役割
■授業の概要	福祉、医療にまつわる大きな変化は依然続いています。｜　国連障害者権利条約に基づく権利委員会からの総括所見・改善勧告では厳しい指摘がなされています。精神科病院の中での虐待など、障害者の権利保障どころか権利が脅かされるような現実も見え隠れしています。｜　ソーシャルワーカーが行う支援とは何か、ソーシャルワーク実践における視点について考察を深めます。このクラスは、精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク実践をもとに進めていきます。｜
■授業の目的・ねらい	実践していく上でソーシャルワーク専門職に求められる視点・価値・倫理を確認することを目的とします。｜　それぞれが意見をアウトプットしながら双方向の学びが深めていけるよう、参加型で行います。｜　対話なしにソーシャルワーク実践は進みません。専門的自己を模索しながら対話の中で表現していくこと、自分のものさしと暮らしの多様性に気づくこともねらいとします。｜
■到達目標	社会を視野にソーシャルワーク実践ができるよう、講義全体を通して独自の考察ができることを目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	40%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉学実践論４（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	川田　雅之			シラバスグループ	W14200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	老人福祉の現状と課題（現場の声に学ぶ）
■授業の概要	2025 年には、団塊の世代が後期高齢者と呼ばれる 75 才を迎える。|このために 10 年以上前から、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活ができるように「地域包括ケアシステム」の構築が進められている。|これは、高齢者が日常生活圏域で、医療・介護・予防・住まい・生活支援サービスを享受できることを目指している。|また、2040 年には、いわゆる団塊ジュニアの世代が 65 歳以上となり高齢人口がピークを迎える。|このような大きな環境の変化の中、変わっていくこと、変わらないこと、変えてはいけないこと、守るべきことがあると考えている。|現場からの視点を通して、老人福祉分野で大切なことを押さえながら、再度問い直してみたい。
■授業の目的・ねらい	本授業は、利用者の視点から制度やサービス内容を問い直し、本質的な老人福祉観を各人が理解することを目的とする。
■到達目標	老人福祉分野で起こっていることを、肯定的かつ批判的の両側面から見ることができるようになることを期待します。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	10%	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学実践論４（秋期)A クラス_対面				単位	1
担当者	鴨井　健二			シラバスグループ	W14300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	障害者権利条約の理念を地域に定着させるにはどうすればいいか
■授業の概要	さつき福祉会の紹介、障害者権利条約の概要を紹介します。|その後、現在起こっている障害者分野での諸問題、優生思想の問題等々を映像も見てもらいながらグループワークで検証してもらいます。|
■授業の目的・ねらい	現在、障害のある人と家族が、普通に暮らすことが難しい現状があります。日本では優生保護法のもと優生思想での教育、行政施策が行われてきたことも起因していると思われます。優生思想の歴史を検証します。|日本は障害者権利条約を 2014 年 1 月に批准しました。日本の障害のある人と家族の現状と障害者権利条約に書かれている条文とを対比して見てみます。|そのうえで障害者権利条約の理念を地域に定着させるにはどうすればいいかを一緒に考えたいと思います。考え方はそれぞれです。グループ討議で意見を出し合い中身を深めていければと思います。
■到達目標	障害のある人の現状を一緒に考えてください。障害者権利条約の理念に照らして今後どうあればいいと思うか。自分なりの意見をもってもらうことが評価の基準になります。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%|	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施します。|自分の意見をしっかり書くことが評価の基準になります。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉学方法基礎１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	W01200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/S	

■授業のテーマ	社会福祉問題・社会福祉制度や政策の研究方法を学ぶ
■授業の概要	社会福祉に関わる諸問題を探求する際に必要な学習方法の基礎を身につける。テキストの読み方、リポートの構成・展開方法、資料の収集、課題設定、問いの立て方、論理的思考の方法等について具体的に取り組む。
■授業の目的・ねらい	文章を正確に読み、理解し、必要な情報を収集・整理し、それに基づき論理的思考を組み立て、実際に展開する方法をみにつけること。各自の見解をグループ学習を通じて共有し、各自の異同について検討する。
■到達目標	基本的学習方法を身につけ、問いに対する論理的構成ができるようになる。共同学習を通じて批判的考察ができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学方法基礎１（夏期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	W01201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/S	

■授業のテーマ	社会福祉問題・社会福祉制度や政策の研究方法を学ぶ
■授業の概要	社会福祉に関わる諸問題を探求する際に必要な学習方法の基礎を身につける。テキストの読み方、リポートの構成・展開方法、資料の収集、課題設定、問いの立て方、論理的思考の方法等について具体的に取り組む。
■授業の目的・ねらい	文章を正確に読み、理解し、必要な情報を収集・整理し、それに基づき論理的思考を組み立て、実際に展開する方法をみにつけること。各自の見解をグループ学習を通じて共有し、各自の異同について検討する。
■到達目標	基本的学習方法を身につけ、問いに対する論理的構成ができるようになる。共同学習を通じて批判的考察ができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学方法基礎１（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	W01300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/S	

■授業のテーマ	社会福祉の基本原理を理解し、社会福祉の視点に立って福祉問題や社会福祉制度・政策の探究方法を学ぶ
■授業の概要	社会福祉に関わる諸問題を探求する際に必要な学習方法の基礎を身につける。まず社会福祉の視点を確認した後、テーマの見つけ方、関連資料の収集と読み方、探究方法の選択、実際の探究方法、研究における倫理的配慮などについて学ぶ。
■授業の目的・ねらい	授業の目標は「研究計画シートを用いて研究計画書の作成すること」である。主に、配布するレジュメと研究計画シートに基づき授業を進めるが、各講義の後、講義内容を反映した形で研究計画を具体的にしていき、最終的にはすぐにでも実行できる研究計画書を作成することを目指します。各自の研究計画書をグループ学習を通じて共有し、各自の異同について検討する。
■到達目標	基本的学習方法を身につけ、「研究計画シートを用いた研究計画書の作成」し、研究計画書の小グループ比較を通して批判的考察ができるようにすること。|授業の進め方は次の通りになる。|①配布した「研究計画シート」に自分の研究テーマを記入する。自分が調べたいテーマを記入してください。|②研究シートは毎回の講義及び小グループ討論の後、講義内容を自分の研究計画に具体的に反映していく。|③研究・レポート課題はあくまでも「社会福祉に関わるテーマ」であるので、テーマの設定には「社会福祉の原理」に関する知識や視点が必要です。それゆえ、講義の前半は、社会科学・社会福祉の視点・原理を提示します。|④毎回の講義の後、講義内容を参考にし、研究計画を具体化していくことを重ねることによって、9 回にわたる講義が終わった際には、自分の研究計画書の草案ができるようにすることが、授業の目標です。|⑤毎回の講義の最後には「小グループ討論」の時間を設け、さまざまなテーマを持っている他の受講生が、それぞれの研究テーマをどのように具体化していくのかについて意見を聞く機会を設けます。|⑥課題リポートは、授業中に作成・メモしておいた研究シートの草案を文章化し、「研究計画シート」を作成し、「テーマと関わって実際に調べた内容を 500 字ほどにまとめて付け加えて提出すること」です。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学方法基礎１（秋期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	W01301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/S	

■授業のテーマ	社会福祉問題・社会福祉制度や政策の研究方法を学ぶ
■授業の概要	社会福祉に関わる諸問題を探求する際に必要な学習方法の基礎を身につける。テキストの読み方、リポートの構成・展開方法、資料の収集、課題設定、問いの立て方、論理的思考の方法等について具体的に取り組む。
■授業の目的・ねらい	文章を正確に読み、理解し、必要な情報を収集・整理し、それに基づき論理的思考を組み立て、実際に展開する方法をみにつけること。各自の見解をグループ学習を通じて共有し、各自の異同について検討する。
■到達目標	基本的学習方法を身につけ、問いに対する論理的構成ができるようになる。共同学習を通じて批判的考察ができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学方法基礎２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	W02200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/S	

■授業のテーマ	社会福祉学におけるリテラシー・アカデミックスキル（２）
■授業の概要	社会福祉学部入学以降に求められる読み・書き、プレゼンテーションなどのリテラシー能力と、社会福祉調査や（卒業）研究の進め方などのアカデミックスキルの獲得を目標としています。入学後、できるだけ早い時期に受講し、学術的文献の読み方やリポートの書き方等を理解することで、今後の自立的学習に役立つような内容となっています。
■授業の目的・ねらい	社会福祉学を学ぶ上で必要な思考、方法、姿勢を身につけることを目標としています。
■到達目標	アカデミックスキルの獲得、維持、向上を目指します。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉学方法基礎２（夏期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	W02201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/S	

■授業のテーマ	社会福祉学におけるリテラシー・アカデミックスキル（２）
■授業の概要	社会福祉学部入学以降に求められる読み・書き、プレゼンテーションなどのリテラシー能力と、社会福祉調査や（卒業）研究の進め方などのアカデミックスキルの獲得を目標としています。入学後、できるだけ早い時期に受講し、学術的文献の読み方やリポートの書き方等を理解することで、今後の自立的学習に役立つような内容となっています。
■授業の目的・ねらい	社会福祉学を学ぶ上で必要な思考、方法、姿勢を身につけることを目標としています。
■到達目標	アカデミックスキルの獲得、維持、向上を目指します。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉学方法基礎２（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	W02300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/S	

■授業のテーマ	社会福祉学におけるリテラシー・アカデミックスキル（２）
■授業の概要	社会福祉学部入学以降に求められる読み・書き、プレゼンテーションなどのリテラシー能力と、社会福祉調査や（卒業）研究の進め方などのアカデミックスキルの獲得を目標としています。入学後、できるだけ早い時期に受講し、学術的文献の読み方やリポートの書き方等を理解することで、今後の自立的学習に役立つような内容となっています。
■授業の目的・ねらい	社会福祉学を学ぶ上で必要な思考、方法、姿勢を身につけることを目標としています。
■到達目標	アカデミックスキルの獲得、維持、向上を目指します。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉学方法基礎２（秋期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	W02301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/S	

■授業のテーマ	社会福祉学におけるリテラシー・アカデミックスキル（２）
■授業の概要	社会福祉学部入学以降に求められる読み・書き、プレゼンテーションなどのリテラシー能力と、社会福祉調査や（卒業）研究の進め方などのアカデミックスキルの獲得を目標としています。入学後、できるだけ早い時期に受講し、学術的文献の読み方やリポートの書き方等を理解することで、今後の自立的学習に役立つような内容となっています。
■授業の目的・ねらい	社会福祉学を学ぶ上で必要な思考、方法、姿勢を身につけることを目標としています。
■到達目標	アカデミックスキルの獲得、維持、向上を目指します。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉学特殊講義（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	山田　宗寛			シラバスグループ	W03900	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会福祉の実践について今日的なテーマから具体的に学ぶ
■授業の概要	この講義では、「社会福祉の現場（実践）」についてわかりやすく、その意義を理解することをねらいとします。福祉実践は「すべての人が人間らしく生きる社会」を実現することにつながっています。その支援では「人が持つ可能性を最大限に輝かせること」が大切です。障害児療育や障害福祉、児童福祉などの分野での実践を紹介しながら、現場のリアリティを伝えることを大切にします。　また、戦後の福祉を切り拓いた糸賀一雄の福祉思想にも触れながら社会福祉実践の理念についても学びます。いずれも、具体的に学んでもらうためにパワーポイントやビデオなども多様し、わかりやすく興味が持てる内容を心がけ、受講者同士が学び合えることを大切にしたいと考えます。
■授業の目的・ねらい	社会福祉の現場（実践）について、その今日的な意義や価値について学びを深める。
■到達目標	・社会福祉実践がすべての人がゆたかに生きる社会づくりにつながっていることを学ぶ。 ・社会福祉実践について今日的な価値や意義を学ぶ。 ・障害のある子どもの療育と親子支援について学ぶ。 ・糸賀一雄の福祉思想について学ぶ。 ・子どもの貧困と児童福祉施設の実践を学ぶ。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	20%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉方法論１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	小田　史			シラバスグループ	W15100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	奈良県にある社会福祉法人協同福祉会で始まった、１０の基本ケアとは、尊厳を護る、自立を支援する、在宅を支援するの３つの柱の実現に向けての具体的な方法を１０項目にまとめたものである。|奈良県にある社会福祉協同福祉会で始まったこのケア方法を日本生活協同組合連合会が「生協１０の基本ケア」として公開し、全国で展開すべく活動を続けている。授業では生協１０の基本ケアの理論と実践の基本を学ぶとともに、このケアを通して介護福祉が目指すものとは何かを考える。|
■授業の概要	まず高齢者介護を取り巻く現状「今何が起こっているのか」から入っていく。「生協 10 の基本ケア」を通して介護福祉が目指すもの、３つの柱である、尊厳を護る、自立を支援する、在宅を支援するの具体的な取り組み知ることから考えていく。１０の基本ケアの各項目は、誰もがわかりやすく、しかし人が生きていく上で必要な要素が、その短い言葉の中に全て含まれている。「生協１０の基本ケア」の理論と実践の基本を学ぶとともに、このケアを通して介護福祉が目指すものとは何かを考える。|
■授業の目的・ねらい	介護をめぐる現状と社会的背景は、確実に社会における「介護」のパラダイムシフトを指し示している。「生協 10 の基本ケア」の理論と実践を理解し、最期まで、なじみのある地域で人や社会とつながりながらずっと暮らし続けたいという、ごく当たり前の願いの実現を可能とする新しい「ケア」の概念を身につける。

■到達目標	生協 10 の基本ケアの内容を理解した上で、高齢者介護の質的向上について具体的な取り組みを検討できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉方法論１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	上川　毅			シラバスグループ	W15200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中途障害者の社会復帰を支援する時のポイントを考える
■授業の概要	人生の途中で事故や疾病等で後遺症が残った、いわゆる中途障害者は医療機関での治療とリハビリテーションをとおして地域での生活を再開させていきます。しかし、中には高次脳機能障害と呼ばれる認知機能に問題が残った人たちが存在し、医学的リハビリテーションだけでは地域での生活を送ることができず、福祉施設や相談機関の支援を利用しながら地域での生活を再開させていく人も少なくありません。‖1 日目は、バイスティクの原則、ケアマネージメントの手法、支援を行う上でポイントとなるキーワードを中心に支援について考えていきます。また、高次脳機能障害と診断された人の基本的な状態を説明します。さらに、障害福祉サービス利用の問題点等をお話しします。|2 日目は、実際に高次脳機能障害者の支援の動画を見ていただき、障害への理解や支援の具体的なあり方について考えていきます。
■授業の目的・ねらい	高次脳機能障害という後遺症を知り、その人への支援を通して地域での生活に移行する時にどういったことが必要か、また、地域に移行した後はどうするのか等について考えるきっかけづくりを行います。そのときに発生する問題についても併せて考えていきます。
■到達目標	講義を通して、皆さんの日常生活や社会生活の中で共に生活している障害のある人たちの生きづらさを意識し、どのような生活問題があるのかを障害のある人の立場に立って考えられるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	1. 字数：1500 字?1600 字程度で書いてください。|2.〆切日を意識して作成してください。|3. 句読点や改行など日本語作法を守り、誤字脱字に気をつけ､読みやすい文章作成をこころがけてください。|4. 抽象的､精神的な言葉に終始せず、根拠を持って説明する文章にしてください。あくまでもレポート課題を作成している気持ちを忘れずに。|5. レポート課題の問題から考えると、テキストの引用や要約を中心に仕上げても回答にはつながらないと思われます。皆さん自身の言葉で書いてください。‖　以上に注意して、リポートを仕上げてください。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉方法論２（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	佐々木　勝一			シラバスグループ	W16100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	社会福祉現場で起きる様々な事象、特に社会福祉サービス提供をする側の倫理について、個々のサービス利用者、支援者、家族、地域からの視点で検証し、社会福祉の在り方を考察する機会とします。
■授業の概要	前半は講義形式による、今日の社会状況からの社会福祉サービスの現状、課題について検証します。後半は、グループワークによる参加されている皆さんの日常の視点から、社会福祉サービスに対する検証・分析、課題を明確化します。
■授業の目的・ねらい	今日の社会福祉の理論と現状を鑑みて、その限界とあるべき方向性について、参加されている皆さんが検証・分析・望むべき方向について考察する機会とします。
■到達目標	社会福祉専門職として、今後の社会状況の変化に求められる意識、行動規範などを検証、考察する機会とします。グループワークでは、積極的な意見発表等ができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	30%	

授業科目	社会福祉方法論２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	重野　勉			シラバスグループ	W16200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	社会福祉士及び精神保健福祉士などの社会福祉専門職に求められる価値・倫理、理論、実践を具体的な支援場面を想定した演習により理解し、身につける。価値観の多様性、意思決定支援、面接技術、スーパービジョンやコーチングなどの技術や知識を学ぶ。
■授業の概要	講義は演習形式で行います。個人で取り組むワークと小グループで取り組むワークを組み合わせて構成していきます。面接技術に関しては具体的な事例を用い、ロールプレイを実施し、その技術の習得を目指します。また、振り返りの小レポートもテーマの終りに実施し講義内容の検証と評価に使用します。テキストは指定せず、配布するレジュメを使用して講義を進めます。
■授業の目的・ねらい	価値観の多様性、コミュニケーションスキルや面接技術の基礎を理解し、意思決定支援やそのほかのソーシャルワークの専門性に気づき、習得を目指す。クライエントを生活者としてとらえアセスメントの重要性にも着目する。
■到達目標	福祉現場の実践でソーシャルワーカーとして求められる専門性（価値・倫理、理論、実践）について学び、その習得を目指す基本姿勢を持つこと目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	
･授業内発表	10%	講義終了時にリポートのテーマを発表します。
･授業内試験	10%	個人ワークの発表の際に作成するワークシートを使用
･授業内課題	10%	講義内で問題を出し、小リポートを作成する
･その他	10%	講義内で課題を出し、小リポートを作成する。

授業科目	保育内容研究表現１（音楽表現）（夏期)A クラス_対面			単位	2
担当者	臼井　奈緒			シラバスグループ	U23200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	表現領域（音楽）に関する保育実践のための基礎的な知識と表現・指導技術を高める。
■授業の概要	幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」の基本理念をふまえ、表現領域に示すねらいの趣旨に基づき、幼児の音楽表現指導を行う上で必要となる基礎的かつ実践的内容を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	音楽表現力の向上を目指し、音楽の基礎的知識・表現技術を習得することを目的とする。
■到達目標	できるだけ多くの表現遊びを習得する。また、子どもの発達段階にふさわしい表現方法や指導方法を取捨選択し、自らの保育実践において活用、工夫する能力を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	20%	

授業科目	保育内容研究表現１（音楽表現）（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	臼井　奈緒			シラバスグループ	U23300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	表現領域（音楽）に関する保育実践のための基礎的な知識と表現・指導技術を高める。
■授業の概要	幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」の基本理念をふまえ、表現領域に示すねらいの趣旨に基づき、幼児の音楽表現指導を行う上で必要となる基礎的かつ実践的内容を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	音楽表現力の向上を目指し、音楽の基礎的知識・表現技術を習得することを目的とする。
■到達目標	できるだけ多くの表現遊びを習得する。また、子どもの発達段階にふさわしい表現方法や指導方法を取捨選択し、自らの保育実践において活用、工夫する能力を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	20%	

授業科目	保育内容研究表現２（絵画製作）（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	髙橋　敏之			シラバスグループ	U24200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶ。また、保育者として必要な造型面の理論・技法・指導法について実技を通して学習する。
■授業の概要	領域「表現」について理解し、子どもの「造形表現」の年齢別の発達や子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶとともに、造形表現の様々な技法的知識を修得する。また、保育者として適切な援助、指導をするために、保育・教育実習に使える楽しい造形教育の方法論、手法や技法についても学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①『幼稚園教育要領』等に示された幼児教育の基本を踏まえ、保育内容「表現」のねらい及び内容を理解する。|②幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
■到達目標	①保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できることを目標とする。|②乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できることを目標とする。|③乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	0%	

授業科目	保育内容研究表現２（絵画製作）（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	髙橋　敏之			シラバスグループ	U24300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶ。また、保育者として必要な造型面の理論・技法・指導法について実技を通して学習する。
■授業の概要	領域「表現」について理解し、子どもの「造形表現」の年齢別の発達や子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶとともに、造形表現の様々な技法的知識を修得する。また、保育者として適切な援助、指導をするために、保育・教育実習に使える楽しい造形教育の方法論、手法や技法についても学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①『幼稚園教育要領』等に示された幼児教育の基本を踏まえ、保育内容「表現」のねらい及び内容を理解する。|②幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
■到達目標	①保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できることを目標とする。|②乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できることを目標とする。|③乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅰ（夏期)A クラス_対面				単位	4
担当者	保科　和久			シラバスグループ	W21200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	ソーシャルワークにおける基本的視点　原理・原則、方法を学び、自己覚知を深める
■授業の概要	ソーシャルワークの価値・倫理の基礎的理解を促し、生活のふりかえり、生活史把握、グループワーク、ロールプレイ等、様々な方法を活用した体験的な演習の展開によってソーシャルワーカーとなる者の自己形成の土台を構築する。ソーシャルワークにかかわる他科目との関連性をふまえ、ソーシャルワーク実習に求められる力を高めるために、個別学修・集団学修（グループワーク）を通して、具体的な援助場面を想定し、事例などを用いる。
■授業の目的・ねらい	ソーシャルワーカーに求められる豊かな人間性を育むために、対象となる人びとの生活(Life)を理解し、困難の背景とその環境を理解する力をつける。また、自己覚知を深め、ソーシャルワーク実践に必要なコミュニケーション力を高める。さらに、ソーシャルワークの展開過程における価値・知識・技術を実践的に理解する。これらを通して、社会福祉士及び精神保健福祉士に求められる基礎的な力を涵養する。
■到達目標	①ソーシャルワークの展開過程における価値・倫理と知識、方法、技術などについて理解を深め、人権の尊重と社会正義に根差したソーシャルワーカーに求められる基礎的な力が身につける。|②現代社会における人々の生活実態と環境を理解するとともに、歴史的な経緯・歩みについて考察を深め、人々が置かれている状況や社会事象をとらえることができる。|③人々の人権と尊厳を尊重し、利用者の立場に立って考え、共感できる資質を涵養し、コミュニケーションをとることができる。|④演習形態においてグループダイナミクスを活用し、プレゼンテーション技術(個人プレゼンテーション･グループプレゼンテーション)の力を発揮できる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅰ（夏期)B クラス_対面				単位	4
担当者	田中　智子			シラバスグループ	W21201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	ソーシャルワークにおける基本的視点　原理・原則、方法を学び、自己覚知を深める
■授業の概要	ソーシャルワークの価値・倫理の基礎的理解を促し、生活のふりかえり、生活史把握、グループワーク、ロールプレイ等、様々な方法を活用した体験的な演習の展開によってソーシャルワーカーとなる者の自己形成の土台を構築する。ソーシャルワークにかかわる他科目との関連性をふまえ、ソーシャルワーク実習に求められるカを高めるために、個別学修・集団学修（グループワーク）を通して、具体的な援助場面を想定し、事例などを用いる。
■授業の目的・ねらい	ソーシャルワーカーに求められる豊かな人間性を育むために、対象となる人びとの生活(Life)を理解し、困難の背景とその環境を理解する力をつける。また、自己覚知を深め、ソーシャルワーク実践に必要なコミュニケーション力を高める。さらに、ソーシャルワークの展開過程における価値・知識・技術を実践的に理解する。これらを通して、社会福祉士及び精神保健福祉士に求められる基礎的な力を涵養する。
■到達目標	①ソーシャルワークの展開過程における価値・倫理と知識、方法、技術などについて理解を深め、人権の尊重と社会正義に根差したソーシャルワーカーに求められる基礎的な力が身につける。|②現代社会における人々の生活実態と環境を理解するとともに、歴史的な経緯・歩みについて考察を深め、人々が置かれている状況や社会事象をとらえることができる。|③人々の人権と尊厳を尊重し、利用者の立場に立って考え、共感できる資質を涵養し、コミュニケーションをとることができる。|④演習形態においてグループダイナミクスを活用し、プレゼンテーション技術(個人プレゼンテーション･グループプレゼンテーション)の力を発揮できる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅰ（冬期)A クラス_対面				単位	4
担当者	楳原　直美			シラバスグループ	W21400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	ソーシャルワークにおける基本的視点　原理・原則、方法を学び、自己覚知を深める
■授業の概要	ソーシャルワークの価値・倫理の基礎的理解を促し、生活のふりかえり、生活史把握、グループワーク、ロールプレイ等、様々な方法を活用した体験的な演習の展開によってソーシャルワーカーとなる者の自己形成の土台を構築する。ソーシャルワークにかかわる他科目との関連性をふまえ、ソーシャルワーク実習に求められる力を高めるために、個別学修・集団学修（グループワーク）を通して、具体的な援助場面を想定し、事例などを用いる。
■授業の目的・ねらい	ソーシャルワーカーに求められる豊かな人間性を育むために、対象となる人びとの生活(Life)を理解し、困難の背景とその環境を理解する力をつける。また、自己覚知を深め、ソーシャルワーク実践に必要なコミュニケーション力を高める。さらに、ソーシャルワークの展開過程における価値・知識・技術を実践的に理解する。これらを通して、社会福祉士及び精神保健福祉士に求められる基礎的な力を涵養する。
■到達目標	①ソーシャルワークの展開過程における価値・倫理と知識、方法、技術などについて理解を深め、人権の尊重と社会正義に根差したソーシャルワーカーに求められる基礎的な力が身につける。|②現代社会における人々の生活実態と環境を理解するとともに、歴史的な経緯・歩みについて考察を深め、人々が置かれている状況や社会事象をとらえることができる。|③人々の人権と尊厳を尊重し、利用者の立場に立って考え、共感できる資質を涵養し、コミュニケーションをとることができる。|④演習形態においてグループダイナミクスを活用し、プレゼンテーション技術(個人プレゼンテーション･グループプレゼンテーション)の力を発揮できる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅰ（冬期)B クラス_対面				単位	4
担当者	池本　薫規			シラバスグループ	W21401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	ソーシャルワークにおける基本的視点　原理・原則、方法を学び、自己覚知を深める
■授業の概要	ソーシャルワークの価値・倫理の基礎的理解を促し、生活のふりかえり、生活史把握、グループワーク、ロールプレイ等、様々な方法を活用した体験的な演習の展開によってソーシャルワーカーとなる者の自己形成の土台を構築する。ソーシャルワークにかかわる他科目との関連性をふまえ、ソーシャルワーク実習に求められる力を高めるために、個別学修・集団学修（グループワーク）を通して、具体的な援助場面を想定し、事例などを用いる。
■授業の目的・ねらい	ソーシャルワーカーに求められる豊かな人間性を育むために、対象となる人びとの生活(Life)を理解し、困難の背景とその環境を理解する力をつける。また、自己覚知を深め、ソーシャルワーク実践に必要なコミュニケーション力を高める。さらに、ソーシャルワークの展開過程における価値・知識・技術を実践的に理解する。これらを通して、社会福祉士及び精神保健福祉士に求められる基礎的な力を涵養する。
■到達目標	①ソーシャルワークの展開過程における価値・倫理と知識、方法、技術などについて理解を深め、人権の尊重と社会正義に根差したソーシャルワーカーに求められる基礎的な力が身につける。|②現代社会における人々の生活実態と環境を理解するとともに、歴史的な経緯・歩みについて考察を深め、人々が置かれている状況や社会事象をとらえることができる。|③人々の人権と尊厳を尊重し、利用者の立場に立って考え、共感できる資質を涵養し、コミュニケーションをとることができる。|④演習形態においてグループダイナミクスを活用し、プレゼンテーション技術(個人プレゼンテーション･グループプレゼンテーション)の力を発揮できる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅱ（夏期)A クラス_対面				単位	4
担当者	福嶋　正人			シラバスグループ	W22200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S/SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの基本的視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。
■授業の概要	社会福祉専門職に求められるソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行い、対人援助の基本的な視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。個別指導・集団指導を通して、実技指導（ロールプレイやディスカッション、事例検討等）を中心とする演習形態で行う。具体的な事例等（集団に対する事例を含む）を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。|また、これらの事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面と、支援過程（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング･支援の終結と自己評価、アフターケアとフォローアップなど)、及び支援における内容（アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなど）を想定した実技を行う。|さらに地域福祉の基盤と開発にかかわる事例を活用し、具体的な場面・過程・内容（アウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価など）を想定した実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	本演習では、ソーシャルワーク実習の目的や内容と関連させ、実習に臨む準備と基本的な実践な力をつけることを目指す。社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値と倫理を理解し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。ソーシャルワークにかかわる他科目で学んだ理論、ソーシャルワークの展開におけるモデルやアプローチに関する知識を活用し、事例検討及びロールプレイ等において体験的・実技的に理解する。これらを通して、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、支援方法、内容について、統合的・実践的に理解する。
■到達目標	①ソーシャルワークの価値と倫理、人権の尊重と社会正義に根差し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。|②支援を必要とする人が抱える複合的な生活課題を理解し、総合的・包括的な支援のあり方と展開、支援内容などについて実践的に習得する（ミクロ・メゾ・マクロレベルの理解)。|③ソーシャルワークが展開される人と場（利用者、家族・親族・知人、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア、地域等）について理解を深める。ソーシャルワーカーが所属する組織と業務内容について具体的・実践的に学ぶ。|④本演習の内容を、ソーシャルワーク実習をはじめとする他の関連科目と統合して学修し、ソーシャルワーク実習に臨むための基礎的な力を涵養する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅱ（夏期)B クラス_対面				単位	4
担当者	伊部　恭子			シラバスグループ	W22201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S/SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの基本的視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。
■授業の概要	社会福祉専門職に求められるソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行い、対人援助の基本的な視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。個別指導・集団指導を通して、実技指導（ロールプレイやディスカッション、事例検討等）を中心とする演習形態で行う。具体的な事例等（集団に対する事例を含む）を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。|また、これらの事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面と、支援過程（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング･支援の終結と自己評価、アフターケアとフォローアップなど)、及び支援における内容（アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなど）を想定した実技を行う。|さらに地域福祉の基盤と開発にかかわる事例を活用し、具体的な場面・過程・内容（アウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価など）を想定した実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	本演習では、ソーシャルワーク実習の目的や内容と関連させ、実習に臨む準備と基本的な実践な力をつけることを目指す。社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値と倫理を理解し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。ソーシャルワークにかかわる他科目で学んだ理論、ソーシャルワークの展開におけるモデルやアプローチに関する知識を活用し、事例検討及びロールプレイ等において体験的・実技的に理解する。これらを通して、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、支援方法、内容について、統合的・実践的に理解する。
■到達目標	①ソーシャルワークの価値と倫理、人権の尊重と社会正義に根差し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。|②支援を必要とする人が抱える複合的な生活課題を理解し、総合的・包括的な支援のあり方と展開、支援内容などについて実践的に習得する（ミクロ・メゾ・マクロレベルの理解)。|③ソーシャルワークが展開される人と場（利用者、家族・親族・知人、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア、地域等）について理解を深める。ソーシャルワーカーが所属する組織と業務内容について具体的・実践的に学ぶ。|④本演習の内容を、ソーシャルワーク実習をはじめとする他の関連科目と統合して学修し、ソーシャルワーク実習に臨むための基礎的な力を涵養する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅱ（冬期)A クラス_対面				単位	4
担当者	福嶋　正人			シラバスグループ	W22400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S/SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの基本的視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。
■授業の概要	社会福祉専門職に求められるソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行い、対人援助の基本的な視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。個別指導・集団指導を通して、実技指導（ロールプレイやディスカッション、事例検討等）を中心とする演習形態で行う。具体的な事例等（集団に対する事例を含む）を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。|また、これらの事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面と、支援過程（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング･支援の終結と自己評価、アフターケアとフォローアップなど)、及び支援における内容（アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなど）を想定した実技を行う。|さらに地域福祉の基盤と開発にかかわる事例を活用し、具体的な場面・過程・内容（アウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価など）を想定した実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	本演習では、ソーシャルワーク実習の目的や内容と関連させ、実習に臨む準備と基本的な実践な力をつけることを目指す。社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値と倫理を理解し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。ソーシャルワークにかかわる他科目で学んだ理論、ソーシャルワークの展開におけるモデルやアプローチに関する知識を活用し、事例検討及びロールプレイ等において体験的・実技的に理解する。これらを通して、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、支援方法、内容について、統合的・実践的に理解する。
■到達目標	①ソーシャルワークの価値と倫理、人権の尊重と社会正義に根差し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。|②支援を必要とする人が抱える複合的な生活課題を理解し、総合的・包括的な支援のあり方と展開、支援内容などについて実践的に習得する（ミクロ・メゾ・マクロレベルの理解)。|③ソーシャルワークが展開される人と場（利用者、家族・親族・知人、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア、地域等）について理解を深める。ソーシャルワーカーが所属する組織と業務内容について具体的・実践的に学ぶ。|④本演習の内容を、ソーシャルワーク実習をはじめとする他の関連科目と統合して学修し、ソーシャルワーク実習に臨むための基礎的な力を涵養する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	保育相談支援（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	柏 まり			シラバスグループ	U11200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	保育における相談支援について理解を深める。
■授業の概要	保育相談支援について理解する。保育相談支援の基本となる子どもの最善の利益と福祉の重視、子どもの成長の喜びの共有、信頼関係を基本とした受容的なかかわり、地域の資源の活用と関係機関との連携等の理解を深める。保育相談支援の実践に関する技術を学習し、グループワークにおける事例検討を通じて保育相談支援の実際を学んでいく。
■授業の目的・ねらい	次の 4 つの観点における習得と達成を重視する。｜（1）保育相談支援の意義と原則について理解する。｜（2）保護者支援の基本を理解する。｜（3）保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。｜（4）保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。
■到達目標	保育相談支援の意義と原則について、保護者支援の基本について理解できる。また、保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解できる。保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	保育実践演習（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	U57400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	保育士課程における学びや保育現場での体験を振り返り、保育士としての役割について考察するとともに保育士としての専門性を高める。
■授業の概要	保育士課程での学びや保育現場での体験の軌跡を振り返ることで自らの到達点と課題を自覚し、本演習を通じて保育士として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。特に、人権を尊重する視点やその現場での実践を中心にした学びのふり返りから、社会的諸課題に対する保育士の役割を検討する。
■授業の目的・ねらい	本講義は、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り、今後に向けた自己課題について把握することを目的とする。|【ねらい】|①保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題を分析し、課題解決に向けて求められる保育士の役割について考察する力を養う。|②自己の課題を明確化し、演習を通して保育士として必要な実践的資質能力や指導力を高める。
■到達目標	・これまでの学修及び実習体験を通して得た学びを踏まえて、保育士としての役割について、自分の言葉で語ることができる。|・これまでの学修及び実習体験を通して得た保育士としての資質能力や指導技術に関して自己評価する力を養い、自己課題について整理することができる。|・保育の現代的課題を分析し、これからの保育のあり方を展望することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・リポート試験(SR 履修)	50	
・授業内発表	50	到達目標の内容に対する到達度をはかり、学びの過程を授業内発表として評価する|十分に達成できていれば A 評価、ほぼ達成できていれば B 評価、もう少し努力が必要な場合は C 評価、求める最低水準に達せず更なる努力が必要な場合は D 評価とする
・授業内試験	0	到達目標の内容に対する到達度をはかり、学びの過程を授業内発表として評価する|十分に達成できていれば A 評価、ほぼ達成できていれば B 評価、もう少し努力が必要な場合は C 評価、求める最低水準に達せず更なる努力が必要な場合は D 評価とする
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	岡﨑　祐司			シラバスグループ	W00200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	社会福祉学ー課題・問題をとらえる視点と社会福祉理論の基礎をつかむ
■授業の概要	これから「大学」で社会福祉を学ぶにあたって、その基礎をつかむのが、この授業の目的です。社会科学的視点にたって、資本主義の歴史、その構造的矛盾が生み出されるさまざまな社会問題、困難のなかで生み出された人権への闘い、人権思想、社会保障や社会福祉の歴史、現代社会における福祉課と重視されるべき価値や思想はなにかなどを学びます。社会福祉のことだけではなく、社会のこと、すなわち資本主義とはどのような社会体制か、現代の日本社会をどうとらえるか、社会的事象（ものごと）をどのような視点でつかむのか、思想や哲学を重視する大切さ、歴史の発展の原動力とはなにかをおさえながら、社会福祉学を学ぶ基礎を形成する授業です。日常生活では耳慣れない言葉も多くでてくると思うので、しっかり授業を聴いてノートを取るようにしてほしい。担当者による講義と受講生の意見交流を交えて進めます。なお、毎回の授業テーマは大筋のものですので、この順番通りではありません。また、記載内容からさらに発展して授業を行います。
■授業の目的・ねらい	１．社会福祉にかかわる社会理論、思想の重要性を理解する。|２．社会、社会問題とのかかわりから社会福祉の意義、社会的役割を理解する。|３．社会福祉の専門的学習のうえで必須の視点ー社会問題、人権、運動、実践者の社会的使命ーを理解する。
■到達目標	１．社会福祉にかかわる社会理論、思想の重要性が理解でき、その意味を自分なりに説明することができる。|２．社会、社会問題とのかかわりから社会福祉の意義、社会的役割を説明することができる。|３．社会福祉の専門的学習のうえで必須の視点ー社会問題、人権、運動、実践者の社会的使命ーを理解し、自分なりに説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	授業の最終コマで、リポート課題を示します。
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	坂本　勉			シラバスグループ	W00300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	社会福祉学を構成する視点について学びを深め、今後の社会福祉関連法･制度および理念、理論などについて視座を深めることを目的とする。　｜
■授業の概要	社会福祉がわが国において整備されてきた歴史的変遷を学び、現代における法的根拠やその性質を理解できるよう授業を行う。また、学問的には比較的歴史が浅いといえるが、社会福祉学を理論的に整理したこれまでの研究動向や社会福祉理論について考察する。｜　また、これまでの社会福祉学研究の概要を把握し、今後の学問的諸課題について認識を深めると同時に、今後の応用可能な視座について考える基礎を身につける。‖
■授業の目的・ねらい	主に、社会福祉学を初めて学ぶ学生をイメージし理論的な理解の深化を目的とする。|具体的には、これまでの国内研究における社会福祉学理論、議論をはじめ、国際社会で議論されている考え方などを中心に理解を深める。　｜
■到達目標	スクーリングにおける講義内容および、事前配信するレジュメなどを基本とし、その理解度をリポート課題によって判定する。　｜

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	20	リポート作成のポイントはスクーリング中に説明いたします。
･授業内試験	0	講義内容を深めるために、小グループでのディスカッションを行います。各自の通信状況や、学習環境（カメラ、マイク、背景が映し出されても大丈夫な環境など）を考慮しながら参加するようにしてください。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学方法基礎１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	W01200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/S	

■授業のテーマ	社会福祉問題・社会福祉制度や政策の研究方法を学ぶ
■授業の概要	社会福祉に関わる諸問題を探求する際に必要な学習方法の基礎を身につける。テキストの読み方、リポートの構成・展開方法、資料の収集、課題設定、問いの立て方、論理的思考の方法等について具体的に取り組む。
■授業の目的・ねらい	文章を正確に読み、理解し、必要な情報を収集・整理し、それに基づき論理的思考を組み立て、実際に展開する方法をみにつけること。各自の見解をグループ学習を通じて共有し、各自の異同について検討する。
■到達目標	基本的学習方法を身につけ、問いに対する論理的構成ができるようになる。共同学習を通じて批判的考察ができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学方法基礎１（夏期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	W01201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/S	

■授業のテーマ	社会福祉問題・社会福祉制度や政策の研究方法を学ぶ
■授業の概要	社会福祉に関わる諸問題を探求する際に必要な学習方法の基礎を身につける。テキストの読み方、リポートの構成・展開方法、資料の収集、課題設定、問いの立て方、論理的思考の方法等について具体的に取り組む。
■授業の目的・ねらい	文章を正確に読み、理解し、必要な情報を収集・整理し、それに基づき論理的思考を組み立て、実際に展開する方法をみにつけること。各自の見解をグループ学習を通じて共有し、各自の異同について検討する。
■到達目標	基本的学習方法を身につけ、問いに対する論理的構成ができるようになる。共同学習を通じて批判的考察ができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学方法基礎１（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	W01300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/S	

■授業のテーマ	社会福祉の基本原理を理解し、社会福祉の視点に立って福祉問題や社会福祉制度・政策の探究方法を学ぶ
■授業の概要	社会福祉に関わる諸問題を探求する際に必要な学習方法の基礎を身につける。まず社会福祉の視点を確認した後、テーマの見つけ方、関連資料の収集と読み方、探究方法の選択、実際の探究方法、研究における倫理的配慮などについて学ぶ。
■授業の目的・ねらい	授業の目標は「研究計画シートを用いて研究計画書の作成すること」である。主に、配布するレジュメと研究計画シートに基づき授業を進めるが、各講義の後、講義内容を反映した形で研究計画を具体的にしていき、最終的にはすぐにでも実行できる研究計画書を作成することを目指します。各自の研究計画書をグループ学習を通じて共有し、各自の異同について検討する。
■到達目標	基本的学習方法を身につけ、「研究計画シートを用いた研究計画書の作成」し、研究計画書の小グループ比較を通して批判的考察ができるようにすること。|授業の進め方は次の通りになる。|①配布した「研究計画シート」に自分の研究テーマを記入する。自分が調べたいテーマを記入してください。|②研究シートは毎回の講義及び小グループ討論の後、講義内容を自分の研究計画に具体的に反映していく。|③研究・レポート課題はあくまでも「社会福祉に関わるテーマ」であるので、テーマの設定には「社会福祉の原理」に関する知識や視点が必要です。それゆえ、講義の前半は、社会科学・社会福祉の視点・原理を提示します。|④毎回の講義の後、講義内容を参考にし、研究計画を具体化していくことを重ねることによって、9 回にわたる講義が終わった際には、自分の研究計画書の草案ができるようにすることが、授業の目標です。|⑤毎回の講義の最後には「小グループ討論」の時間を設け、さまざまなテーマを持っている他の受講生が、それぞれの研究テーマをどのように具体化していくのかについて意見を聞く機会を設けます。|⑥課題リポートは、授業中に作成・メモしておいた研究シートの草案を文章化し、「研究計画シート」を作成し、「テーマと関わって実際に調べた内容を 500 字ほどにまとめて付け加えて提出すること」です。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学方法基礎１（秋期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	W01301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/S	

■授業のテーマ	社会福祉問題・社会福祉制度や政策の研究方法を学ぶ
■授業の概要	社会福祉に関わる諸問題を探求する際に必要な学習方法の基礎を身につける。テキストの読み方、リポートの構成・展開方法、資料の収集、課題設定、問いの立て方、論理的思考の方法等について具体的に取り組む。
■授業の目的・ねらい	文章を正確に読み、理解し、必要な情報を収集・整理し、それに基づき論理的思考を組み立て、実際に展開する方法をみにつけること。各自の見解をグループ学習を通じて共有し、各自の異同について検討する。
■到達目標	基本的学習方法を身につけ、問いに対する論理的構成ができるようになる。共同学習を通じて批判的考察ができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学方法基礎２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	W02200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/S	

■授業のテーマ	社会福祉学におけるリテラシー・アカデミックスキル（２）
■授業の概要	社会福祉学部入学以降に求められる読み・書き、プレゼンテーションなどのリテラシー能力と、社会福祉調査や（卒業）研究の進め方などのアカデミックスキルの獲得を目標としています。入学後、できるだけ早い時期に受講し、学術的文献の読み方やリポートの書き方等を理解することで、今後の自立的学習に役立つような内容となっています。
■授業の目的・ねらい	社会福祉学を学ぶ上で必要な思考、方法、姿勢を身につけることを目標としています。
■到達目標	アカデミックスキルの獲得、維持、向上を目指します。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉学方法基礎２（夏期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	W02201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/S	

■授業のテーマ	社会福祉学におけるリテラシー・アカデミックスキル（２）
■授業の概要	社会福祉学部入学以降に求められる読み・書き、プレゼンテーションなどのリテラシー能力と、社会福祉調査や（卒業）研究の進め方などのアカデミックスキルの獲得を目標としています。入学後、できるだけ早い時期に受講し、学術的文献の読み方やリポートの書き方等を理解することで、今後の自立的学習に役立つような内容となっています。
■授業の目的・ねらい	社会福祉学を学ぶ上で必要な思考、方法、姿勢を身につけることを目標としています。
■到達目標	アカデミックスキルの獲得、維持、向上を目指します。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉学方法基礎２（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	W02300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/S	

■授業のテーマ	社会福祉学におけるリテラシー・アカデミックスキル（２）
■授業の概要	社会福祉学部入学以降に求められる読み・書き、プレゼンテーションなどのリテラシー能力と、社会福祉調査や（卒業）研究の進め方などのアカデミックスキルの獲得を目標としています。入学後、できるだけ早い時期に受講し、学術的文献の読み方やリポートの書き方等を理解することで、今後の自立的学習に役立つような内容となっています。
■授業の目的・ねらい	社会福祉学を学ぶ上で必要な思考、方法、姿勢を身につけることを目標としています。
■到達目標	アカデミックスキルの獲得、維持、向上を目指します。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉学方法基礎２（秋期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	W02301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/S	

■授業のテーマ	社会福祉学におけるリテラシー・アカデミックスキル（２）
■授業の概要	社会福祉学部入学以降に求められる読み・書き、プレゼンテーションなどのリテラシー能力と、社会福祉調査や（卒業）研究の進め方などのアカデミックスキルの獲得を目標としています。入学後、できるだけ早い時期に受講し、学術的文献の読み方やリポートの書き方等を理解することで、今後の自立的学習に役立つような内容となっています。
■授業の目的・ねらい	社会福祉学を学ぶ上で必要な思考、方法、姿勢を身につけることを目標としています。
■到達目標	アカデミックスキルの獲得、維持、向上を目指します。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉学特殊講義（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	増澤　髙志			シラバスグループ	W03200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/S	

■授業のテーマ	障害とその支え方を考える。特にそのひとつとして、福祉用具も含めた、もの・道具、環境に重きを置く。
■授業の概要	誰もが障害を持つ可能性がある。障害を持ったとしても人格全てに障害を持つわけではない。障害の部分を質、量共にしっかりと支えることができれば、他の人と同様の自分なりの人生を送ることができる可能性がある。|様々な障害があり、それぞれに社会参加の妨げとなる「バリア」があり、その解消の仕方や障害の部分の支え方も様々にある。その一つとして、福祉用具も含めた、ものや道具環境でできること、しなければならないことがある。|また、可能な限り用具の紹介や体験も行いたい。
■授業の目的・ねらい	誰もが障害を持つ可能性があると言うことは、自らにもその可能性があると言うことである。もし、障害を持ったとしたらどのような生活、その連続としての人生を送りたいのか、自らの問題として考えることが、対象者にもその人なりの人生があり、思いがあることを認識しての支援につながるのではないか。その支援の一つとしてのものや道具、環境のことを考えたい。|自らの問題として考えることができるかどうか。が成績評価の柱である。
■到達目標	障害を誰かの問題ではなく、自らの問題としてとらえてほしい。|また、障害の部分の支え方についても、様々にあり、それが適切であれば、障害を持ったとしても、自らの人生をあきらめることなく生きることができることも理解してほしい。|それらを試験（リポート）で確認したい。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	社会福祉学演習１（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	宮脇　弘次			シラバスグループ	W04100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会的養護を担う児童福祉施設の現状と今後について
■授業の概要	児童福祉施設とひと言にいっても、多種多様でそれぞれの種別の特性を活かし、社会のニーズに応じた福祉サービスを提供しています。|この講義では社会的養護が必要な児童(虐待されている児童や養育を放置された児童）が　現状取り巻く問題について取り上げ、その児童をどのように支援していくのか、また今後の社会的養護がどうあるべきなのかを、一緒に学んでいこうと思います。
■授業の目的・ねらい	①児童福祉施設の違いを理解する。　②児童福祉施設で生活する児童を理解する。　③児童福祉施設の現状と今後について理解する。|
■到達目標	児童福祉施設の違いや各施設の役割、また生活する児童についての現状と今後の課題について理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	30|	なし
･授業内試験	0	あるテーマを設けグループ討議を行う
･授業内課題	40	なし
･その他	30	レポートの作成

授業科目	社会福祉学演習１（春期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	藤本　ヨシタカ			シラバスグループ	W04101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	子どもたちの生活世界を「教育実践」という観点から捉え、社会福祉実践に活かす
■授業の概要	子どもたちの生活世界に目を向けることは、大人ひいては社会全体の生活実態を知ることにもつながる。そこでこの授業では、さまざまな「教育実践」を通じて子どもたちの生活世界とその現状について考え、その成果を「社会福祉実践」へと活かす道筋を探る。具体的には、いくつかの実践記録を通じて、さまざまな社会的事情により苦難を強いられてきた〈子ども〉たちが、〈おとな〉としての教師らとの出会いを通じていかにして平和な生活世界（＝生きるに値する世界）を立ち上げていくのか、またそのような教育実践（教育的出会い）は、社会福祉領域とどのように関連しうるのかを、受講生らによるワークやディスカッションを交えながら考えていきたい。
■授業の目的・ねらい	現役教師らによる実践記録を読み解くことで、子どもたちの発する言語的・身体的メッセージの背後にある生活上の危機（差別、貧困、暴力などといった社会問題の影響）を読み取り、さらにそこから子どもたちが「平和な社会の形成者」へと変わりゆくプロセスを読み取ることが主たる目的である。そのうえで、教師らの「教育実践」がいかなる社会福祉的意義を有しているのか、あるいはそうした実践が次第に困難となっているのはなぜなのかを、受講生自らが考え、討議し、言語化できるよう、授業を展開していきたい。‖成績評価について|授業への参加度とリポート試験の内容を総合的に評価する。|授業では適宜ディスカッションの時間を設け、授業内容の共有、疑問点・問題点の相互検討の場としたい。|リポートは、授業内容の理解度、上記目的・ねらいの達成度を評価基準とする。

■到達目標	①子どもたちの発する様々なメッセージから、背後にある社会問題とその影響力を読み取ることができる。|②教師や他の仲間との関わりを通じて、子どもたちが平和な世界を立ち上げていくプロセスを読み取ることができる。|③授業で得た知見や思考力を、今後の社会生活や専門的スキルに活かす方途を探ることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	後日提出のリポート試験とする。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	40%	
･その他	0%	授業内でいくつか論題を出し、それについて個人で考えを述べてもらうか、グループでディスカッションをする。

授業科目	社会福祉学演習１（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	楳原　直美			シラバスグループ	W04200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	ソーシャルワーカーとして、相談援助に必要なコミュニケーション技術や課題解決方法について学びます。
■授業の概要	前半は、マイクロカウンセリングの技術の基本を学び、事例を用いてインテークやアセスメント等を行う際、どのように利用者との面談に応用すればよいのか考えます。　後半は、受講生同士でロールプレイを行います。グループのメンバーが提示する問題について、聞き取りを行い、解決に向けての会議を開き解決策を考えます。課題解決を行うためには、どのように利用者の聞き取りや整理、分析、解決法の提示を行う必要があるのか、実践的に考えていきます。
■授業の目的・ねらい	ソーシャルワーカーとしての相談援助のスキルアップを目指します。受講生それぞれが自分自身の話の聴き方、聴く姿勢や態度だけでなく、質問の仕方（情報の収集方法)、課題分析や抽出の方法について、体験的に習得していくことが目的やねらいです。
■到達目標	今後ソーシャルワーカーとして活躍する際に、自身がどのように利用者に対しのぞめばよいのか、面談をどのように構造化すればよいのか、各自の課題を明確にすることも本講義の目標です。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	社会福祉学演習１（夏期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	新井　康友			シラバスグループ	W04201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	高齢者の孤立死（孤独死）の実態と予防対策に関する研究
■授業の概要	今後、一人暮らし高齢者の増加に伴い、ますます孤立死（孤独死）が増加することが予想される。しかし、孤立死（孤独死）問題は研究途上にあり、孤立死（孤独死）の定義も明確になっていない。そのため、孤立死（孤独死）の実態把握もできていない。また、孤立死対策も確立していない。そこで本講義では、高齢者の孤立死（孤独死）の実態と予防対策について検討する。
■授業の目的・ねらい	昨今、マスコミ等は孤立死（孤独死）を社会問題として取り扱うようになった。しかし、孤立死（孤独死）の現象や形態だけが話題になることが多い。そこで、本講義では孤立死（孤独死）問題の本質について理解する。
■到達目標	孤立死（孤独死）が起きた背景について説明することができる。また、孤立死（孤独死）問題の本質についても説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験で講義・演習の理解度を評価する。
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0	授業内での発表と参加度を評価する。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	長瀬　正子			シラバスグループ	W05100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	子どもの権利の視点から問題をとらえる
■授業の概要	1989 年に国連で採択され、1994 年に批准された子どもの権利条約は、子どもをめぐるさまざまな問題を読み解き、その支援を検討する際の基盤となるものである。日本においても、2016 年に児童福祉法が改正され、子どもの権利条約の理念を盛り込まれた。現在、子どもの福祉や支援を担う人にとって、権利条約の精神を理解することは必要不可欠であるといえよう。本演習では、子どもの権利条約を学び、そのうえで、子どもの権利の現状が日本国内、国連においてどのように捉えられているのかを分析し、学んでいきたいと考えている。
■授業の目的・ねらい	学習内容と目的とねらいは、日本における様々な子どもに関する課題について、子どもの権利の視点からとらえることである。具体的には、国連子どもの権利委員会に提出された日本政府の報告書および国連の日本政府に対する総括所見を読み解きながら、ディスカッションしていく。|
■到達目標	・子どもの権利条約を学び、その特徴と内容を理解する|・子どもという存在を子どもの権利の視点から捉えなおし、日本社会における課題と結びつけて検討することができる|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習２（春期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	村上　武敏			シラバスグループ	W05101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会福祉の意義と方法について、国民の生活実態や社会構造など社会の現実を通して学ぶ。
■授業の概要	・社会福祉とは何かを歴史的かつ社会構造的に理解する。|・現代における社会福祉政策の特徴を理解する。|・社会福祉実践の課題を明らかにする。|・生活アセスメントの方法を習得する。
■授業の目的・ねらい	現代社会における生活にかかわる諸問題の社会的規定要因について理解するとともに、生活問題の社会的な解決を目指す方法論を習得する。
■到達目標	・近代社会における生活とは何か、社会福祉とは何かを社会構造的に理解する。|・国民の生活実態と社会福祉政策の現状を踏まえて社会福祉実践の課題を理解する。|・生活をとらえる方法論を理解する。|・援助対象者の生活を軸に社会を変革する方法論について理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	30%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	20%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉学演習２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	河合　悟			シラバスグループ	W05200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会福祉援助者にとって何が必要なのかを問う
■授業の概要	社会福祉援助者に求められる対人援助の基本的な視点や援助方法について、グループワークやロール|プレイ、事例を通じて体験的に学ぶ。|社会福祉の受け手には誰もがなりうる。その意味でも、自らの問題して捉える視点を持ち、真の援助者としてのあるべき姿を深く追求し、考察していきたい。
■授業の目的・ねらい	社会福祉援助者に必要とされている相談援助場面におけるコミュニケーションスキルを獲得することを目的とする。
■到達目標	相談援助場面におけるコミュニケーションスキルを身につける。‖グループワークやロールプレイができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習２（夏期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	大坪　勇			シラバスグループ	W05201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	現代社会におけるケースワークの実際的展開について
■授業の概要	この演習では、主にケースワークのの基本的な知識や技術について、講義及び実践的なロールプレイなどを取り入れ、現場で役立つ演習となるよう展開してます。
■授業の目的・ねらい	ケースワークの基本的知識、特にバイスティックの７原理などを中心に講義を展開するとともに、実践的ロールプレイを実践します。
■到達目標	ケースワークの知識と実際的技術を身に着けることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80%	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	10%	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習３（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	孔　栄鍾			シラバスグループ	W06100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	福祉政策における「障害者 65 歳問題」
■授業の概要	現行の介護保険制度と障害者福祉制度との適用関係では、福祉サービスを利用してきた障害者が 65 歳を迎えることで介護保険制度の対象となり、介護保険制度への利用移行が余儀なくされている。この原則により、当事者にとっては自己負担の増加やサービスの質の低下、生活環境の変化などの問題がもたらされており、いままで営んできた「自立生活」が崩れてしまうという生活問題が惹起されている。それゆえに当事者や関係者からは、相違する目的を持つ両制度間の適用関係において「なぜ介護保険優先なのか」、「介護保険優先適用の考え方が理解不能」であるとの声が高まっており、改善を求める当事者の抵抗運動が広がっている。本講義では、こうした福祉政策における障害者の 65 歳問題に関して、その問題状況と政策課題について考察して見る。
■授業の目的・ねらい	障害者の高齢化が進むにつれて、介護保険制度と障害者福祉制度との適用関係をめぐる問題はますます重大な福祉問題になりつつある。本講義では、介護保険制度と障害者福祉制度との適用関係をめぐる問題の根本的な原因を解明しながら、それが示唆する現行の福祉政策における問題点と課題について一緒に考えてみたい。
■到達目標	障害者の 65 歳問題について、その根底にある現行の福祉政策の問題を理解し、問題の解決に向けた課題を自ら論じることができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習３（春期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	岩田　貞昭			シラバスグループ	W06101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	地域共生社会での社会福祉法人の役割について考える
■授業の概要	社会福祉法人は、社会の生活問題へと対応する実践を行う役割を果たすべく設立された特別法人である。表出する生活問題に対しては、積極的に実践すべき使命がある。近年、地域社会では、無縁社会という言葉に代表されるように「つながりの希薄化」が指摘され、高齢者の孤立や子どもたちへの虐待など、さまざまな生活問題を表出させている。「つながりの再構築」が求められる地域社会において、社会福祉法人は、どのような役割を果たす必要があるのか。社会福祉法人の実践を通じて検討する。
■授業の目的・ねらい	社会福祉法人の実践の目的は、公的な制度にある福祉サービスを提供することだけではない。生活に何らかの課題を抱えて人たちに対して、尊厳と平等を根底として豊かな地域生活を営むことへ展開させることにある。授業では、社会福祉法人の実践事例や職員教育の状況から、本来あるべき社会福祉法人としての福祉実践を理解する。
■到達目標	ともに生きる社会（地域共生社会）を実現するために必要な社会福祉の実践を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験で講義・演習の理解度を評価する。
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	授業内での発表と参加度を評価する。
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉学演習３（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	末崎　栄司			シラバスグループ	W06200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会福祉（政策）の史的発展と対象認識の質的変化の問題点
■授業の概要	社会福祉という学問（科学）は言うまでもなく、人間を取り扱い対象とする。しかし、その社会福祉が取り扱う人間は他の学問（科学）が取り扱う人間と、どこが違い、どういった独自で固有の人間を社会福祉の対象とするのかを明確にしなければならない。なぜなら、社会福祉が他の学問（科学）と異なる固有性や独自性を鮮明にするためには、この対象認識（対象規定）が極めて重要だからである。それゆえ、社会福祉が取り扱う固有で独自な対象とは何かを考えていきたい。
■授業の目的・ねらい	社会福祉が他の学問（科学）との違いを鮮明にするために不可欠な対象認識（対象規定）を分析していく場合、社会福祉（政策）の歴史的変遷にともなって、この社会福祉が取り扱う対象が質的に変化をしてきていると言われる。しかし、この社会福祉（政策）の歴史的変遷にともなって、社会福祉の対象が本当に真実の意味において質的に変化をとげていると考えてよいのであろうかという疑問がわいてくる。そういったことを現象的分析ではなく、本質的に構造的に分析し探究していくことが、この授業の目的でありねらいである。
■到達目標	社会福祉という学問（科学）が他の学問（科学）との違いを鮮明にするためには、どういう対象を取り扱うのかという対象認識（対象規定）が極めて重要である。その社会福祉という学問（科学）の固有性・独自性を主張するために不可欠な対象認識（対象規定）が、社会福祉（政策）の歴史的発展過程の中で質的に変化をしてきていると言われる。そのことが本当に真実の意味において正しいのかどうかを、この授業を通して、受講生が自分なりに判断することができる視点・視座を獲得し、それにもとづいて受講生自身が社会福祉の取り扱う対象とは、どういうものなのかということを現象的ではなく本質的に認識理解ができるようになることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉学演習３（夏期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	武内　一			シラバスグループ	W06201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	子どもの権利擁護を考える
■授業の概要	子どもの権利を子どもの権利条約の条文に掲げる権利を深めながら、多面的に考えてみます。特に、今も続く COVID-19 パンデミックの影響を重ねながら、この問題を考えてみたいと思います。
■授業の目的・ねらい	子どもの権利擁護を考える上で重要な思想として、アマルティア・センのいうケイパビリティーを実践的に理解し、その最適化を考えたいと思います。この課題をできるだけわかりやすく解説し、その必要性を共有します。
■到達目標	子どもの権利擁護の重要性を理解し、どうすれば子どもの権利を前に進められるのか、そのためのアイデアを自分たちで考え、政策に繋げることを目標とします。そこの鍵は、ケイパビリティーの最適化にあると考えています。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習３（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	末崎　栄司			シラバスグループ	W06400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	今日の社会福祉研究を行う上で重要となる社会科学的視点について考える
■授業の概要	社会福祉を研究する上で、大切なことが多くある。社会福祉の取り扱う対象をどう捉えるのかとか、社会福祉研究を進める上で「社会」と「歴史」の視点をもって、社会福祉の探究をしていかなければならないことなど、社会福祉の研究を行う上で心得ておかなければならないことがある。そういった点を考えていきたい。そうしたことを踏まえて、受講生の方の身近にある社会福祉問題を出していただいて、グループでの議論も行っていきたい。
■授業の目的・ねらい	この授業を通して、社会福祉を考える上で何が大切であり、何が必要なのかを受講生一人一人が自分なりに獲得していってほしい。たとえば、社会福祉の対象とは何かとか、社会福祉は、なぜ、必要となり登場してきたのかということなどを自分なりに考え、自分自身の社会福祉研究に役立てていってほしい。
■到達目標	社会福祉を考える場合に、社会福祉を愛情論的に考えたり、感情論的に捉えたりするのではなく、因果論的に客観的に科学的に社会福祉を捉えていくことの必要性を学んでいただきたい。そして、社会福祉を研究していく場合に、客観的に科学的に社会福祉を認識把握していくためには、正しい研究方法が存在することを身につけ獲得していってほしい。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉学演習３（冬期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	隅河内　司			シラバスグループ	W06401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	基礎自治体におけるソーシャルワーク実践と専門職
■授業の概要	2019 年（令和元年）12 月に「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会」（地域共生社会推進検討会）の最終とりまとめが出され，続けてその内容を具現化するために 2021 年（令和２年）には，社会福祉法の一部が改正された．これらの中では，個人・世帯が抱える生きづらさやリスクの複雑化・多様化，共同体の機能の脆弱化などの課題が挙げられ、それに対応するための取り組みとして，市町村における包括的な支援体制構築の必要性が示されている。また、あわせて、ネットワーク強化や社会資源開発など、ソーシャルワーク機能の充実が求められるとともに、実践を担うソーシャルワーカーへの期待も大きくなっている。 ｜ 本演習では、２０１４年に改定された国際ソーシャルワーカー連盟の新たなグローバル定義を踏まえ、ソーシャルワークの基本的な考え方や専門職の使命について理解する。また、ミクロ、メゾ、マクロの総合的な視点から、地域と一体となったソーシャルワークの意義や方法を学ぶとともに、包括的な地域相談支援における専門職の役割を考える。
■授業の目的・ねらい	個々の生活問題を現実の社会構造に引き付けて、それを社会問題としてとらえ、行動するという力動的な実践としてのソーシャルワークについて、理解・把握し深めることを目的とします。また、身近な地域で展開されるコミュニティソーシャルワークの必要性と方法についても、具体的な事例にふれることで学んでいただきたい。 ｜ 本演習の学習内容の要点は、以下の５点です。 ｜ １.ソーシャルワークの定義 ｜ ２.ソーシャルワークの価値と専門職の使命 ｜ ３.援助技術ー自己覚知、コミュニケーション、コミュニティワーク ｜ ４.地域共生社会と包括的相談支援体制の必要性｜ ５.コミュニティソーシャルワークの理解 ｜ 授業は、講義形式とグループワーク形式で行います。講義は配布資料を活用しながら行います。グループワークは、小さなグループに分かれて自ら感じた疑問や意見を基にした話し合いや発表、討論等で進めます。 ｜
■到達目標	・個々の生活問題の解決と社会変革をめざすソーシャルワークについて、定義や専門性について的確な用語を用いて記述することができる。｜・ソーシャルワークの専門職として必要となる知識・技術を身につけ実践できるようになる。｜・身近な地域で展開されるコミュニティソーシャルワークの必要性と方法について、理解し、説明することができる。｜

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	0	成績の評価は、リポート試験を実施し、理解度を測ります。スクーリングの全日全講時に出席していることを条件とします。 ｜
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	40%	

授業科目	社会福祉学演習４（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	長友　薫輝			シラバスグループ	W07100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	地域包括ケアと地域共生社会を考える
■授業の概要	地域包括ケアについて、先行事例、政策としての地域包括ケアの登場、地域包括ケアの理念、社会保障・税一体改革との関連、介護保険制度の改正と地域包括ケアの「深化」、地域包括ケアと地域共生社会などについて取り上げ、具体化が進む政策としての地域包括ケアの問題点と目指すべき地域包括ケアについて考える。
■授業の目的・ねらい	本来の字義通りの地域包括ケアと政策としての地域包括ケアシステムの構築を区分して考え、後者がもつ問題点を明らかにすることを通じて前者の内容を明確化する。そして、権利としての地域包括ケアという視点から、いま求められる地域ケアの内容と具体的な課題を整理する。同時に、提唱されている地域共生社会の実現に関しても触れて、理解を深めたい。
■到達目標	1.地域包括ケアの歴史と変遷を理解できる。|2.政策としての地域包括ケアの理念と特徴を理解できる。|3.地域包括ケアと医療提供体制の再編との関連を理解できる。|4.地域包括ケアと地域共生社会との関連を理解できる。|5.権利としての地域包括ケアの意義と内容を理解できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習４（春期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	眞砂　照美			シラバスグループ	W07101	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会福祉の視点から社会問題の背景を捉える
■授業の概要	近年の少子高齢社会の進展に加え、新型コロナウィルス感染拡大、度重なる自然災害、紛争や戦争等人々を取り巻く環境が悪化する中、人びとの生活課題も多様化し、複雑化し、複合化している。例えば、児童を取り巻く社会問題では、子どもの貧困問題が挙げられるが、児童虐待、ヤングケアラー、いじめなどそこから派生する問題も様々な様相を呈している。そこで、社会福祉の課題（受講生の関心のあるテーマ等も）を取り上げ、ソーシャルワークについて議論しながら考えを深めていく。
■授業の目的・ねらい	本演習では、人びとの様々な生活課題がどのように生起しているのかその環境や背景、構造について考えるとともに、ミクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワークにおける支援について議論しながら学びを深める。
■到達目標	人々の抱える生活課題についてミクロ・メゾ・マクロの各レベルで考えることができ、自分の考えを発表することができる。|ソーシャルワークの視点に基づいて事例検討を行うことができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	演習への積極的な参加と意見交換を評価する。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習４（夏期)A クラス_オンライン			単位	1
担当者	坂本　勉		シラバスグループ	W07200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	社会福祉学の変遷と高齢社会への課題
■授業の概要	このクラスでは、高齢者福祉を基本とする高齢社会の課題について学びを深める。特に、政策的変遷やその理論的背景、国際動向など先進国共通の課題として高齢者福祉の視点を深めることを目的とする。
■授業の目的・ねらい	まず、社会福祉学全体の理解を深めるため、社会福祉関連法、制度、理念、理論などについて概念的な深まりを目的とする。そのうえで、高齢者福祉に関係する現代的な課題について理解を深める。
■到達目標	さまざまな学びを深め、授業内での現代的課題について相互の意見交換を通じて現代的課題の把握および、今後の解決策への模索について理解を深める。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	オンラインで討議を行いますので、通信環境を確認の上参加してください。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習４（夏期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	小池　桂			シラバスグループ	W07201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会福祉のあり方を、社会のあり方とともに考える。
■授業の概要	社会福祉とは何か、というテーマには事実としての社会福祉を問うことと、あり方としての社会福祉を問うことの二つの意味が込められている。この演習では戦後の主たる社会福祉理論を振りかえるとともに、欧米の社会理論を参考にしつつ、社会福祉のあり方を考えることを目的とする。
■授業の目的・ねらい	社会福祉とは何かというテーマを通して戦後日本における主要理論の意義と問題点、さらにはそれらを補う意味で欧米の社会理論をとりあげ、社会福祉のあり方を考えることを目的とする。
■到達目標	1.戦後日本の主要な社会福祉理論の意義と問題点を理解できる。|2.J.ロールズ、A.センの社会理論の概要を理解し、それらを日本における社会福祉理論の展開の中で位置づけることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習４（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小池　桂			シラバスグループ	W07400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会福祉のあり方を、社会のあり方とともに考える。
■授業の概要	社会福祉とは何か、というテーマには事実としての社会福祉を問うことと、あり方としての社会福祉を問うことの二つの意味が込められている。この演習では戦後の主たる社会福祉理論を振りかえるとともに、欧米の社会理論を参考にしつつ、社会福祉のあり方を考えることを目的とする。
■授業の目的・ねらい	社会福祉とは何かというテーマを通して戦後日本における主要理論の意義と問題点、さらにはそれらを補う意味で欧米の社会理論をとりあげ、社会福祉のあり方を考えることを目的とする。
■到達目標	1.戦後日本の主要な社会福祉理論の意義と問題点を理解できる。|2.J.ロールズ、A.センの社会理論の概要を理解し、それらを日本における社会福祉理論の展開の中で位置づけることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学演習４（冬期)B クラス_オンライン				単位	1
担当者	加美　嘉史			シラバスグループ	W07401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	現代社会に広がる貧困と自己責任論ーその背景とソーシャルワークの課題ー
■授業の概要	１．この授業では、現代社会において「貧困」と「自己責任論」が、なぜ、どのように広がっているのか、そのメカニズム（構造）を考察する。|２.「自己責任論」について歴史的な視点から検討するとともに、子ども・若者・シングルマザー・ワーキングプア・ホームレス問題など具体的な「貧困」の事象をとりあげ、貧困の自己責任論が生み出される背景（構造）について考える。|３．そのうえで生活保護や生活困窮者支援における「自立」と「自立支援」の課題を考える。|４．これらの検討と考察をふまえ、現代社会に広がる貧困と自己責任論に対し、ソーシャルワークの役割と課題について考える。|５．授業では少人数グループでグループディスカッション（演習）を行う。そこでの意見交換を通して学びを深めていく。|
■授業の目的・ねらい	1．現代社会における「貧困」とは何か、なぜ「貧困」が広がっているのか、その背景と構造から考える。|2．今日、なぜ「貧困の自己責任論」が広がっているのか、その現状を学ぶとともに、自己責任論がどのようにして浸透していったのかを歴史的視点から考える。|3．生活保護、生活困窮者自立支援、子どもの貧困対策など、今日の貧困対策としての「自立支援」の課題と自立観をめぐる課題について考える。|4．現代社会に広がる貧困と自己責任論に対するソーシャルワークの現状と課題について考える。
■到達目標	1．現代社会においてなぜ「貧困」が広がっているのか、その構造を理解し、説明できるようになる。|2．なぜ「貧困の自己責任論」は生み出されるのか。その構造について歴史的視点から理解し、説明できるようになる。|3．生活保護、生活困窮者自立支援、子どもの貧困対策などにみられる「自立観」と「自立支援」の課題を理解し、説明できるようになる。|4．現代社会に広がる貧困と自己責任論に対する、ソーシャルワークの課題について理解し、説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	90	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学実践論１（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	神谷　純			シラバスグループ	W11200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	共同作業所の実践について学び、共同作業所におけるソーシャルワーク実践のあり方と果たす役割について考察する。
■授業の概要	①社会福祉実践とは何か理解し、実践から学び生かしていく事の意義について確認する。|②共同作業所とは何か、共同作業所の歴史と現状、意義について学ぶ。|③障害者の権利保障に関係する理念・憲法・条約などについて把握する。|④障害者福祉関係の法律・制度とその課題について把握する。|⑤共同作業所の実践について学ぶ。|⑥共同作業所における実践のあり方と果たす役割について考察する。
■授業の目的・ねらい	①共同作業所とは何か学ぶ。|②共同作業所の歴史と現状を学び、その意義について理解する。|③障害者の権利保障に関係する理念・憲法・条約、法律・制度とその課題について把握する。|④共同作業所のさまざまな実践について知る。|⑤共同作業所における実践のあり方と果たす役割について考察する。|⑥共同作業所の実践から学び生かしていく事の意義について理解する。
■到達目標	①実践から学び、生かしていく事の意味について理解する。|②障害者の権利保障に関係する理念・憲法・条約などについて把握する。|③障害者福祉制度の概要と課題について把握する。|④共同作業所のソーシャルワーク実践について学ぶ。|⑤共同作業所のソーシャルワーク実践のあり方と果たす役割について考察する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40%	
･リポート試験(SR 履修)	0%|	
･授業内発表	10%|	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	10%	
･その他	40%|	

授業科目	社会福祉学実践論１（秋期)A クラス_対面				単位	1
担当者	河合　悟			シラバスグループ	W11300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	高齢者ケアの現場からみえてくるもの
■授業の概要	利用者の不安・職員の苦悩・介護者の限界・・・・虐待等の事例|現場に人がいない、来ない・・・・どのような取組みが必要か|多職種連携に必要なものとは？|様々の課題を個人演習、グループワーク等を通じて考える
■授業の目的・ねらい	利用者、介護者、職員、それぞれの立場で考え学習を深めてもらいたい。|実際に起きている課題や解決方法を一緒に考えていきたい。
■到達目標	利用者・介護者・専門職のそれぞれの立場や思いを理解すること。|具体的な取組みや解決方法を１つでも現場で実践出来ること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	30%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学実践論２（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	木塚　勝豊			シラバスグループ	W12200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会福祉の一領域である児童家庭福祉の実践現場の現状と課題をテーマにして日本の社会福祉を俯瞰する。
■授業の概要	児童家庭福祉について、児童養護施設での現場経験から事例等を通して実践力を培う。|また、社会福祉領域以外も演習を通して学び、領域との関連を探る。|
■授業の目的・ねらい	社会福祉士を目指される学生も多いため、部分的に国家試験の問題を使うこともあるが、あくまでも現場での実践力養成に役立つ講義としたい。
■到達目標	子どもの置かれている現状と課題について理解し、社会的養護を必要とする子どもの実際を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	10	
･その他	10	

授業科目	社会福祉学実践論２（秋期)A クラス_対面				単位	1
担当者	神谷　純			シラバスグループ	W12300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	障害者の労働を支援するさまざまなソーシャルワーク実践について学び、その実践のあり方と果たす役割について考察する。
■授業の概要	①社会福祉実践とは何か理解し、実践から学び考察する事の意義について確認する。\②障害者の労働について学ぶ。\③障害者の労働を支援する方法とその意義について学ぶ。\④障害者の労働を支援するさまざまな実践について学ぶ。\⑤障害者の労働を支援する実践のあり方と果たす役割について考察する。
■授業の目的・ねらい	①障害者の労働について学び、理解する。\②障害者の労働を支援する方法とその意義について学び、理解する。\③障害者の労働を支援する実践について学び、理解する。\④障害者の労働を支援する実践のあり方と果たす役割について考察する。\⑤障害者の労働を支援する実践から学び考察する事の意義について理解する。
■到達目標	①実践から学び、生かしていく事の大切さについて理解する。\②障害者の労働を支援するソーシャルワーク実践について理解する。\③障害者の労働を支援するソーシャルワーク実践のあり方と果たす役割、今後の課題について考察する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	40%	

授業科目	社会福祉学実践論３（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	高橋　健太			シラバスグループ	W13200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	精神保健福祉分野の実践を通して、ソーシャルワーク実践の理解を深める。
■授業の概要	精神保健福祉分野での実践を以下の観点から学習する。‖〇精神保健福祉分野の課題|〇精神保健福祉士の専門性|〇精神障害の特性（生活者の視点から）|〇福祉施設での支援（集団支援・環境整備）|〇地域とのつながりと啓発活動の在り方|〇社会運動の展開とその一例
■授業の目的・ねらい	精神保健福祉分野の実践を通して、現場で働くソーシャルワーカーの在り方を深める。|個別実践や施設内実践にとどまらない、まちづくりや社会変革のための専門職であることが、社会福祉実践を担うために必要な枠割であることを学習する。
■到達目標	精神障害者を取り巻く社会環境や障害特性を理解する。|社会福祉実践は、個別や集団支援だけでなく、地域や社会への働きかけと連関していることを理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学実践論３（秋期)A クラス_対面				単位	1
担当者	西川　健一			シラバスグループ	W13300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	精神保健福祉領域での実践を通して考えるソーシャルワーカーの役割
■授業の概要	福祉、医療にまつわる大きな変化は依然続いています。｜　国連障害者権利条約に基づく権利委員会からの総括所見・改善勧告では厳しい指摘がなされています。精神科病院の中での虐待など、障害者の権利保障どころか権利が脅かされるような現実も見え隠れしています。｜　ソーシャルワーカーが行う支援とは何か、ソーシャルワーク実践における視点について考察を深めます。このクラスは、精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク実践をもとに進めていきます。｜
■授業の目的・ねらい	実践していく上でソーシャルワーク専門職に求められる視点・価値・倫理を確認することを目的とします。｜　それぞれが意見をアウトプットしながら双方向の学びが深めていけるよう、参加型で行います。｜　対話なしにソーシャルワーク実践は進みません。専門的自己を模索しながら対話の中で表現していくこと、自分のものさしと暮らしの多様性に気づくこともねらいとします。｜
■到達目標	社会を視野にソーシャルワーク実践ができるよう、講義全体を通して独自の考察ができることを目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	40%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉学実践論４（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	川田　雅之			シラバスグループ	W14200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	老人福祉の現状と課題（現場の声に学ぶ）
■授業の概要	2025 年には、団塊の世代が後期高齢者と呼ばれる 75 才を迎える。|このために 10 年以上前から、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活ができるように「地域包括ケアシステム」の構築が進められている。|これは、高齢者が日常生活圏域で、医療・介護・予防・住まい・生活支援サービスを享受できることを目指している。|また、2040 年には、いわゆる団塊ジュニアの世代が 65 歳以上となり高齢人口がピークを迎える。|このような大きな環境の変化の中、変わっていくこと、変わらないこと、変えてはいけないこと、守るべきことがあると考えている。|現場からの視点を通して、老人福祉分野で大切なことを押さえながら、再度問い直してみたい。
■授業の目的・ねらい	本授業は、利用者の視点から制度やサービス内容を問い直し、本質的な老人福祉観を各人が理解することを目的とする。
■到達目標	老人福祉分野で起こっていることを、肯定的かつ批判的の両側面から見ることができるようになることを期待します。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	10%	
･その他	0	

授業科目	社会福祉学実践論４（秋期)A クラス_対面				単位	1
担当者	鴨井　健二			シラバスグループ	W14300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	障害者権利条約の理念を地域に定着させるにはどうすればいいか
■授業の概要	さつき福祉会の紹介、障害者権利条約の概要を紹介します。|その後、現在起こっている障害者分野での諸問題、優生思想の問題等々を映像も見てもらいながらグループワークで検証してもらいます。|
■授業の目的・ねらい	現在、障害のある人と家族が、普通に暮らすことが難しい現状があります。日本では優生保護法のもと優生思想での教育、行政施策が行われてきたことも起因していると思われます。優生思想の歴史を検証します。|日本は障害者権利条約を 2014 年 1 月に批准しました。日本の障害のある人と家族の現状と障害者権利条約に書かれている条文とを対比して見てみます。|そのうえで障害者権利条約の理念を地域に定着させるにはどうすればいいかを一緒に考えたいと思います。考え方はそれぞれです。グループ討議で意見を出し合い中身を深めていければと思います。
■到達目標	障害のある人の現状を一緒に考えてください。障害者権利条約の理念に照らして今後どうあればいいと思うか。自分なりの意見をもってもらうことが評価の基準になります。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%|	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施します。|自分の意見をしっかり書くことが評価の基準になります。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉方法論１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	小田　史			シラバスグループ	W15100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	奈良県にある社会福祉法人協同福祉会で始まった、１０の基本ケアとは、尊厳を護る、自立を支援する、在宅を支援するの３つの柱の実現に向けての具体的な方法を１０項目にまとめたものである。|奈良県にある社会福祉協同福祉会で始まったこのケア方法を日本生活協同組合連合会が「生協１０の基本ケア」として公開し、全国で展開すべく活動を続けている。授業では生協１０の基本ケアの理論と実践の基本を学ぶとともに、このケアを通して介護福祉が目指すものとは何かを考える。|
■授業の概要	まず高齢者介護を取り巻く現状「今何が起こっているのか」から入っていく。「生協 10 の基本ケア」を通して介護福祉が目指すもの、３つの柱である、尊厳を護る、自立を支援する、在宅を支援するの具体的な取り組み知ることから考えていく。１０の基本ケアの各項目は、誰もがわかりやすく、しかし人が生きていく上で必要な要素が、その短い言葉の中に全て含まれている。「生協１０の基本ケア」の理論と実践の基本を学ぶとともに、このケアを通して介護福祉が目指すものとは何かを考える。|
■授業の目的・ねらい	介護をめぐる現状と社会的背景は、確実に社会における「介護」のパラダイムシフトを指し示している。「生協 10 の基本ケア」の理論と実践を理解し、最期まで、なじみのある地域で人や社会とつながりながらずっと暮らし続けたいという、ごく当たり前の願いの実現を可能とする新しい「ケア」の概念を身につける。

■到達目標	生協 10 の基本ケアの内容を理解した上で、高齢者介護の質的向上について具体的な取り組みを検討できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉方法論１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	上川　毅			シラバスグループ	W15200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	中途障害者の社会復帰を支援する時のポイントを考える
■授業の概要	人生の途中で事故や疾病等で後遺症が残った、いわゆる中途障害者は医療機関での治療とリハビリテーションをとおして地域での生活を再開させていきます。しかし、中には高次脳機能障害と呼ばれる認知機能に問題が残った人たちが存在し、医学的リハビリテーションだけでは地域での生活を送ることができず、福祉施設や相談機関の支援を利用しながら地域での生活を再開させていく人も少なくありません。‖1 日目は、バイスティクの原則、ケアマネージメントの手法、支援を行う上でポイントとなるキーワードを中心に支援について考えていきます。また、高次脳機能障害と診断された人の基本的な状態を説明します。さらに、障害福祉サービス利用の問題点等をお話しします。|2 日目は、実際に高次脳機能障害者の支援の動画を見ていただき、障害への理解や支援の具体的なあり方について考えていきます。
■授業の目的・ねらい	高次脳機能障害という後遺症を知り、その人への支援を通して地域での生活に移行する時にどういったことが必要か、また、地域に移行した後はどうするのか等について考えるきっかけづくりを行います。そのときに発生する問題についても併せて考えていきます。
■到達目標	講義を通して、皆さんの日常生活や社会生活の中で共に生活している障害のある人たちの生きづらさを意識し、どのような生活問題があるのかを障害のある人の立場に立って考えられるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	1. 字数：1500 字?1600 字程度で書いてください。|2.〆切日を意識して作成してください。|3. 句読点や改行など日本語作法を守り、誤字脱字に気をつけ､読みやすい文章作成をこころがけてください。|4. 抽象的､精神的な言葉に終始せず、根拠を持って説明する文章にしてください。あくまでもレポート課題を作成している気持ちを忘れずに。|5. レポート課題の問題から考えると、テキストの引用や要約を中心に仕上げても回答にはつながらないと思われます。皆さん自身の言葉で書いてください。‖　以上に注意して、リポートを仕上げてください。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉方法論２（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	佐々木　勝一			シラバスグループ	W16100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	社会福祉現場で起きる様々な事象、特に社会福祉サービス提供をする側の倫理について、個々のサービス利用者、支援者、家族、地域からの視点で検証し、社会福祉の在り方を考察する機会とします。
■授業の概要	前半は講義形式による、今日の社会状況からの社会福祉サービスの現状、課題について検証します。後半は、グループワークによる参加されている皆さんの日常の視点から、社会福祉サービスに対する検証・分析、課題を明確化します。
■授業の目的・ねらい	今日の社会福祉の理論と現状を鑑みて、その限界とあるべき方向性について、参加されている皆さんが検証・分析・望むべき方向について考察する機会とします。
■到達目標	社会福祉専門職として、今後の社会状況の変化に求められる意識、行動規範などを検証、考察する機会とします。グループワークでは、積極的な意見発表等ができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	30%	

授業科目	社会福祉方法論２（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	重野　勉			シラバスグループ	W16200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	社会福祉士及び精神保健福祉士などの社会福祉専門職に求められる価値・倫理、理論、実践を具体的な支援場面を想定した演習により理解し、身につける。価値観の多様性、意思決定支援、面接技術、スーパービジョンやコーチングなどの技術や知識を学ぶ。
■授業の概要	講義は演習形式で行います。個人で取り組むワークと小グループで取り組むワークを組み合わせて構成していきます。面接技術に関しては具体的な事例を用い、ロールプレイを実施し、その技術の習得を目指します。また、振り返りの小レポートもテーマの終りに実施し講義内容の検証と評価に使用します。テキストは指定せず、配布するレジュメを使用して講義を進めます。
■授業の目的・ねらい	価値観の多様性、コミュニケーションスキルや面接技術の基礎を理解し、意思決定支援やそのほかのソーシャルワークの専門性に気づき、習得を目指す。クライエントを生活者としてとらえアセスメントの重要性にも着目する。
■到達目標	福祉現場の実践でソーシャルワーカーとして求められる専門性（価値・倫理、理論、実践）について学び、その習得を目指す基本姿勢を持つこと目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	
･授業内発表	10%	講義終了時にリポートのテーマを発表します。
･授業内試験	10%	個人ワークの発表の際に作成するワークシートを使用
･授業内課題	10%	講義内で問題を出し、小リポートを作成する
･その他	10%	講義内で課題を出し、小リポートを作成する。

授業科目	保育実践演習（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	U57400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	保育士課程における学びや保育現場での体験を振り返り、保育士としての役割について考察するとともに保育士としての専門性を高める。
■授業の概要	保育士課程での学びや保育現場での体験の軌跡を振り返ることで自らの到達点と課題を自覚し、本演習を通じて保育士として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。特に、人権を尊重する視点やその現場での実践を中心にした学びのふり返りから、社会的諸課題に対する保育士の役割を検討する。
■授業の目的・ねらい	本講義は、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り、今後に向けた自己課題について把握することを目的とする。|【ねらい】|①保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題を分析し、課題解決に向けて求められる保育士の役割について考察する力を養う。|②自己の課題を明確化し、演習を通して保育士として必要な実践的資質能力や指導力を高める。
■到達目標	・これまでの学修及び実習体験を通して得た学びを踏まえて、保育士としての役割について、自分の言葉で語ることができる。|・これまでの学修及び実習体験を通して得た保育士としての資質能力や指導技術に関して自己評価する力を養い、自己課題について整理することができる。|・保育の現代的課題を分析し、これからの保育のあり方を展望することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・リポート試験(SR 履修)	50	
・授業内発表	50	到達目標の内容に対する到達度をはかり、学びの過程を授業内発表として評価する|十分に達成できていれば A 評価、ほぼ達成できていれば B 評価、もう少し努力が必要な場合は C 評価、求める最低水準に達せず更なる努力が必要な場合は D 評価とする
・授業内試験	0	到達目標の内容に対する到達度をはかり、学びの過程を授業内発表として評価する|十分に達成できていれば A 評価、ほぼ達成できていれば B 評価、もう少し努力が必要な場合は C 評価、求める最低水準に達せず更なる努力が必要な場合は D 評価とする
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	保育内容の理論と方法「音楽表現」（夏期)A クラス_対面			単位	2
担当者	臼井　奈緒			シラバスグループ	U23200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	表現領域（音楽）に関する保育実践のための基礎的な知識と表現・指導技術を高める。
■授業の概要	幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」の基本理念をふまえ、表現領域に示すねらいの趣旨に基づき、幼児の音楽表現指導を行う上で必要となる基礎的かつ実践的内容を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	音楽表現力の向上を目指し、音楽の基礎的知識・表現技術を習得することを目的とする。
■到達目標	できるだけ多くの表現遊びを習得する。また、子どもの発達段階にふさわしい表現方法や指導方法を取捨選択し、自らの保育実践において活用、工夫する能力を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	20%	

授業科目	保育内容の理論と方法「音楽表現」（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	臼井　奈緒			シラバスグループ	U23300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	表現領域（音楽）に関する保育実践のための基礎的な知識と表現・指導技術を高める。
■授業の概要	幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」の基本理念をふまえ、表現領域に示すねらいの趣旨に基づき、幼児の音楽表現指導を行う上で必要となる基礎的かつ実践的内容を学ぶ。
■授業の目的・ねらい	音楽表現力の向上を目指し、音楽の基礎的知識・表現技術を習得することを目的とする。
■到達目標	できるだけ多くの表現遊びを習得する。また、子どもの発達段階にふさわしい表現方法や指導方法を取捨選択し、自らの保育実践において活用、工夫する能力を身につける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	20%	

授業科目	保育内容の理論と方法「造形表現」（夏期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	髙橋　敏之			シラバスグループ	U24200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶ。また、保育者として必要な造型面の理論・技法・指導法について実技を通して学習する。
■授業の概要	領域「表現」について理解し、子どもの「造形表現」の年齢別の発達や子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶとともに、造形表現の様々な技法的知識を修得する。また、保育者として適切な援助、指導をするために、保育・教育実習に使える楽しい造形教育の方法論、手法や技法についても学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①『幼稚園教育要領』等に示された幼児教育の基本を踏まえ、保育内容「表現」のねらい及び内容を理解する。|②幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
■到達目標	①保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できることを目標とする。|②乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できることを目標とする。|③乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	0%	

授業科目	保育内容の理論と方法「造形表現」（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	髙橋　敏之			シラバスグループ	U24300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶ。また、保育者として必要な造型面の理論・技法・指導法について実技を通して学習する。
■授業の概要	領域「表現」について理解し、子どもの「造形表現」の年齢別の発達や子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶとともに、造形表現の様々な技法的知識を修得する。また、保育者として適切な援助、指導をするために、保育・教育実習に使える楽しい造形教育の方法論、手法や技法についても学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①『幼稚園教育要領』等に示された幼児教育の基本を踏まえ、保育内容「表現」のねらい及び内容を理解する。|②幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
■到達目標	①保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できることを目標とする。|②乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できることを目標とする。|③乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	40%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	60%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅰ（夏期)A クラス_対面				単位	4
担当者	保科　和久			シラバスグループ	W21200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	ソーシャルワークにおける基本的視点　原理・原則、方法を学び、自己覚知を深める
■授業の概要	ソーシャルワークの価値・倫理の基礎的理解を促し、生活のふりかえり、生活史把握、グループワーク、ロールプレイ等、様々な方法を活用した体験的な演習の展開によってソーシャルワーカーとなる者の自己形成の土台を構築する。ソーシャルワークにかかわる他科目との関連性をふまえ、ソーシャルワーク実習に求められる力を高めるために、個別学修・集団学修（グループワーク）を通して、具体的な援助場面を想定し、事例などを用いる。
■授業の目的・ねらい	ソーシャルワーカーに求められる豊かな人間性を育むために、対象となる人びとの生活(Life)を理解し、困難の背景とその環境を理解する力をつける。また、自己覚知を深め、ソーシャルワーク実践に必要なコミュニケーション力を高める。さらに、ソーシャルワークの展開過程における価値・知識・技術を実践的に理解する。これらを通して、社会福祉士及び精神保健福祉士に求められる基礎的な力を涵養する。
■到達目標	①ソーシャルワークの展開過程における価値・倫理と知識、方法、技術などについて理解を深め、人権の尊重と社会正義に根差したソーシャルワーカーに求められる基礎的な力が身につける。|②現代社会における人々の生活実態と環境を理解するとともに、歴史的な経緯・歩みについて考察を深め、人々が置かれている状況や社会事象をとらえることができる。|③人々の人権と尊厳を尊重し、利用者の立場に立って考え、共感できる資質を涵養し、コミュニケーションをとることができる。|④演習形態においてグループダイナミクスを活用し、プレゼンテーション技術(個人プレゼンテーション･グループプレゼンテーション)の力を発揮できる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅰ（夏期)B クラス_対面				単位	4
担当者	田中　智子			シラバスグループ	W21201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	ソーシャルワークにおける基本的視点　原理・原則、方法を学び、自己覚知を深める
■授業の概要	ソーシャルワークの価値・倫理の基礎的理解を促し、生活のふりかえり、生活史把握、グループワーク、ロールプレイ等、様々な方法を活用した体験的な演習の展開によってソーシャルワーカーとなる者の自己形成の土台を構築する。ソーシャルワークにかかわる他科目との関連性をふまえ、ソーシャルワーク実習に求められるカを高めるために、個別学修・集団学修（グループワーク）を通して、具体的な援助場面を想定し、事例などを用いる。
■授業の目的・ねらい	ソーシャルワーカーに求められる豊かな人間性を育むために、対象となる人びとの生活(Life)を理解し、困難の背景とその環境を理解する力をつける。また、自己覚知を深め、ソーシャルワーク実践に必要なコミュニケーション力を高める。さらに、ソーシャルワークの展開過程における価値・知識・技術を実践的に理解する。これらを通して、社会福祉士及び精神保健福祉士に求められる基礎的な力を涵養する。
■到達目標	①ソーシャルワークの展開過程における価値・倫理と知識、方法、技術などについて理解を深め、人権の尊重と社会正義に根差したソーシャルワーカーに求められる基礎的な力が身につける。|②現代社会における人々の生活実態と環境を理解するとともに、歴史的な経緯・歩みについて考察を深め、人々が置かれている状況や社会事象をとらえることができる。|③人々の人権と尊厳を尊重し、利用者の立場に立って考え、共感できる資質を涵養し、コミュニケーションをとることができる。|④演習形態においてグループダイナミクスを活用し、プレゼンテーション技術(個人プレゼンテーション･グループプレゼンテーション)の力を発揮できる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅰ（冬期)A クラス_対面				単位	4
担当者	楳原　直美			シラバスグループ	W21400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	ソーシャルワークにおける基本的視点　原理・原則、方法を学び、自己覚知を深める
■授業の概要	ソーシャルワークの価値・倫理の基礎的理解を促し、生活のふりかえり、生活史把握、グループワーク、ロールプレイ等、様々な方法を活用した体験的な演習の展開によってソーシャルワーカーとなる者の自己形成の土台を構築する。ソーシャルワークにかかわる他科目との関連性をふまえ、ソーシャルワーク実習に求められる力を高めるために、個別学修・集団学修（グループワーク）を通して、具体的な援助場面を想定し、事例などを用いる。
■授業の目的・ねらい	ソーシャルワーカーに求められる豊かな人間性を育むために、対象となる人びとの生活(Life)を理解し、困難の背景とその環境を理解する力をつける。また、自己覚知を深め、ソーシャルワーク実践に必要なコミュニケーション力を高める。さらに、ソーシャルワークの展開過程における価値・知識・技術を実践的に理解する。これらを通して、社会福祉士及び精神保健福祉士に求められる基礎的な力を涵養する。
■到達目標	①ソーシャルワークの展開過程における価値・倫理と知識、方法、技術などについて理解を深め、人権の尊重と社会正義に根差したソーシャルワーカーに求められる基礎的な力が身につける。|②現代社会における人々の生活実態と環境を理解するとともに、歴史的な経緯・歩みについて考察を深め、人々が置かれている状況や社会事象をとらえることができる。|③人々の人権と尊厳を尊重し、利用者の立場に立って考え、共感できる資質を涵養し、コミュニケーションをとることができる。|④演習形態においてグループダイナミクスを活用し、プレゼンテーション技術(個人プレゼンテーション･グループプレゼンテーション)の力を発揮できる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅰ（冬期)B クラス_対面				単位	4
担当者	池本　薫規			シラバスグループ	W21401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	ソーシャルワークにおける基本的視点　原理・原則、方法を学び、自己覚知を深める
■授業の概要	ソーシャルワークの価値・倫理の基礎的理解を促し、生活のふりかえり、生活史把握、グループワーク、ロールプレイ等、様々な方法を活用した体験的な演習の展開によってソーシャルワーカーとなる者の自己形成の土台を構築する。ソーシャルワークにかかわる他科目との関連性をふまえ、ソーシャルワーク実習に求められる力を高めるために、個別学修・集団学修（グループワーク）を通して、具体的な援助場面を想定し、事例などを用いる。
■授業の目的・ねらい	ソーシャルワーカーに求められる豊かな人間性を育むために、対象となる人びとの生活(Life)を理解し、困難の背景とその環境を理解する力をつける。また、自己覚知を深め、ソーシャルワーク実践に必要なコミュニケーション力を高める。さらに、ソーシャルワークの展開過程における価値・知識・技術を実践的に理解する。これらを通して、社会福祉士及び精神保健福祉士に求められる基礎的な力を涵養する。
■到達目標	①ソーシャルワークの展開過程における価値・倫理と知識、方法、技術などについて理解を深め、人権の尊重と社会正義に根差したソーシャルワーカーに求められる基礎的な力が身につける。|②現代社会における人々の生活実態と環境を理解するとともに、歴史的な経緯・歩みについて考察を深め、人々が置かれている状況や社会事象をとらえることができる。|③人々の人権と尊厳を尊重し、利用者の立場に立って考え、共感できる資質を涵養し、コミュニケーションをとることができる。|④演習形態においてグループダイナミクスを活用し、プレゼンテーション技術(個人プレゼンテーション･グループプレゼンテーション)の力を発揮できる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅱ（夏期)A クラス_対面				単位	4
担当者	福嶋　正人			シラバスグループ	W22200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S/SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの基本的視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。
■授業の概要	社会福祉専門職に求められるソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行い、対人援助の基本的な視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。個別指導・集団指導を通して、実技指導（ロールプレイやディスカッション、事例検討等）を中心とする演習形態で行う。具体的な事例等（集団に対する事例を含む）を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。|また、これらの事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面と、支援過程（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング･支援の終結と自己評価、アフターケアとフォローアップなど)、及び支援における内容（アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなど）を想定した実技を行う。|さらに地域福祉の基盤と開発にかかわる事例を活用し、具体的な場面・過程・内容（アウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価など）を想定した実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	本演習では、ソーシャルワーク実習の目的や内容と関連させ、実習に臨む準備と基本的な実践な力をつけることを目指す。社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値と倫理を理解し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。ソーシャルワークにかかわる他科目で学んだ理論、ソーシャルワークの展開におけるモデルやアプローチに関する知識を活用し、事例検討及びロールプレイ等において体験的・実技的に理解する。これらを通して、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、支援方法、内容について、統合的・実践的に理解する。
■到達目標	①ソーシャルワークの価値と倫理、人権の尊重と社会正義に根差し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。|②支援を必要とする人が抱える複合的な生活課題を理解し、総合的・包括的な支援のあり方と展開、支援内容などについて実践的に習得する（ミクロ・メゾ・マクロレベルの理解)。|③ソーシャルワークが展開される人と場（利用者、家族・親族・知人、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア、地域等）について理解を深める。ソーシャルワーカーが所属する組織と業務内容について具体的・実践的に学ぶ。|④本演習の内容を、ソーシャルワーク実習をはじめとする他の関連科目と統合して学修し、ソーシャルワーク実習に臨むための基礎的な力を涵養する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅱ（夏期)B クラス_対面				単位	4
担当者	伊部　恭子			シラバスグループ	W22201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S/SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの基本的視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。
■授業の概要	社会福祉専門職に求められるソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行い、対人援助の基本的な視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。個別指導・集団指導を通して、実技指導（ロールプレイやディスカッション、事例検討等）を中心とする演習形態で行う。具体的な事例等（集団に対する事例を含む）を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。|また、これらの事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面と、支援過程（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング･支援の終結と自己評価、アフターケアとフォローアップなど)、及び支援における内容（アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなど）を想定した実技を行う。|さらに地域福祉の基盤と開発にかかわる事例を活用し、具体的な場面・過程・内容（アウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価など）を想定した実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	本演習では、ソーシャルワーク実習の目的や内容と関連させ、実習に臨む準備と基本的な実践な力をつけることを目指す。社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値と倫理を理解し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。ソーシャルワークにかかわる他科目で学んだ理論、ソーシャルワークの展開におけるモデルやアプローチに関する知識を活用し、事例検討及びロールプレイ等において体験的・実技的に理解する。これらを通して、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、支援方法、内容について、統合的・実践的に理解する。
■到達目標	①ソーシャルワークの価値と倫理、人権の尊重と社会正義に根差し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。|②支援を必要とする人が抱える複合的な生活課題を理解し、総合的・包括的な支援のあり方と展開、支援内容などについて実践的に習得する（ミクロ・メゾ・マクロレベルの理解)。|③ソーシャルワークが展開される人と場（利用者、家族・親族・知人、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア、地域等）について理解を深める。ソーシャルワーカーが所属する組織と業務内容について具体的・実践的に学ぶ。|④本演習の内容を、ソーシャルワーク実習をはじめとする他の関連科目と統合して学修し、ソーシャルワーク実習に臨むための基礎的な力を涵養する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅱ（冬期)A クラス_対面				単位	4
担当者	福嶋　正人			シラバスグループ	W22400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S/SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの基本的視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。
■授業の概要	社会福祉専門職に求められるソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行い、対人援助の基本的な視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。個別指導・集団指導を通して、実技指導（ロールプレイやディスカッション、事例検討等）を中心とする演習形態で行う。具体的な事例等（集団に対する事例を含む）を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。|また、これらの事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面と、支援過程（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング･支援の終結と自己評価、アフターケアとフォローアップなど)、及び支援における内容（アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなど）を想定した実技を行う。|さらに地域福祉の基盤と開発にかかわる事例を活用し、具体的な場面・過程・内容（アウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価など）を想定した実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	本演習では、ソーシャルワーク実習の目的や内容と関連させ、実習に臨む準備と基本的な実践な力をつけることを目指す。社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値と倫理を理解し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。ソーシャルワークにかかわる他科目で学んだ理論、ソーシャルワークの展開におけるモデルやアプローチに関する知識を活用し、事例検討及びロールプレイ等において体験的・実技的に理解する。これらを通して、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、支援方法、内容について、統合的・実践的に理解する。
■到達目標	①ソーシャルワークの価値と倫理、人権の尊重と社会正義に根差し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。|②支援を必要とする人が抱える複合的な生活課題を理解し、総合的・包括的な支援のあり方と展開、支援内容などについて実践的に習得する（ミクロ・メゾ・マクロレベルの理解)。|③ソーシャルワークが展開される人と場（利用者、家族・親族・知人、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア、地域等）について理解を深める。ソーシャルワーカーが所属する組織と業務内容について具体的・実践的に学ぶ。|④本演習の内容を、ソーシャルワーク実習をはじめとする他の関連科目と統合して学修し、ソーシャルワーク実習に臨むための基礎的な力を涵養する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	ソーシャルワーク演習（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	保科　和久			シラバスグループ	W21200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	ソーシャルワークにおける基本的視点　原理・原則、方法を学び、自己覚知を深める
■授業の概要	ソーシャルワークの価値・倫理の基礎的理解を促し、生活のふりかえり、生活史把握、グループワーク、ロールプレイ等、様々な方法を活用した体験的な演習の展開によってソーシャルワーカーとなる者の自己形成の土台を構築する。ソーシャルワークにかかわる他科目との関連性をふまえ、ソーシャルワーク実習に求められる力を高めるために、個別学修・集団学修（グループワーク）を通して、具体的な援助場面を想定し、事例などを用いる。
■授業の目的・ねらい	ソーシャルワーカーに求められる豊かな人間性を育むために、対象となる人びとの生活(Life)を理解し、困難の背景とその環境を理解する力をつける。また、自己覚知を深め、ソーシャルワーク実践に必要なコミュニケーション力を高める。さらに、ソーシャルワークの展開過程における価値・知識・技術を実践的に理解する。これらを通して、社会福祉士及び精神保健福祉士に求められる基礎的な力を涵養する。
■到達目標	①ソーシャルワークの展開過程における価値・倫理と知識、方法、技術などについて理解を深め、人権の尊重と社会正義に根差したソーシャルワーカーに求められる基礎的な力が身につける。|②現代社会における人々の生活実態と環境を理解するとともに、歴史的な経緯・歩みについて考察を深め、人々が置かれている状況や社会事象をとらえることができる。|③人々の人権と尊厳を尊重し、利用者の立場に立って考え、共感できる資質を涵養し、コミュニケーションをとることができる。|④演習形態においてグループダイナミクスを活用し、プレゼンテーション技術(個人プレゼンテーション･グループプレゼンテーション)の力を発揮できる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	ソーシャルワーク演習（夏期)B クラス_対面				単位	2
担当者	田中　智子			シラバスグループ	W21201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	ソーシャルワークにおける基本的視点　原理・原則、方法を学び、自己覚知を深める
■授業の概要	ソーシャルワークの価値・倫理の基礎的理解を促し、生活のふりかえり、生活史把握、グループワーク、ロールプレイ等、様々な方法を活用した体験的な演習の展開によってソーシャルワーカーとなる者の自己形成の土台を構築する。ソーシャルワークにかかわる他科目との関連性をふまえ、ソーシャルワーク実習に求められる力を高めるために、個別学修・集団学修（グループワーク）を通して、具体的な援助場面を想定し、事例などを用いる。
■授業の目的・ねらい	ソーシャルワーカーに求められる豊かな人間性を育むために、対象となる人びとの生活(Life)を理解し、困難の背景とその環境を理解する力をつける。また、自己覚知を深め、ソーシャルワーク実践に必要なコミュニケーション力を高める。さらに、ソーシャルワークの展開過程における価値・知識・技術を実践的に理解する。これらを通して、社会福祉士及び精神保健福祉士に求められる基礎的な力を涵養する。
■到達目標	①ソーシャルワークの展開過程における価値・倫理と知識、方法、技術などについて理解を深め、人権の尊重と社会正義に根差したソーシャルワーカーに求められる基礎的な力が身につける。|②現代社会における人々の生活実態と環境を理解するとともに、歴史的な経緯・歩みについて考察を深め、人々が置かれている状況や社会事象をとらえることができる。|③人々の人権と尊厳を尊重し、利用者の立場に立って考え、共感できる資質を涵養し、コミュニケーションをとることができる。|④演習形態においてグループダイナミクスを活用し、プレゼンテーション技術(個人プレゼンテーション･グループプレゼンテーション)の力を発揮できる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	ソーシャルワーク演習（冬期)A クラス_対面				単位	2
担当者	楳原　直美			シラバスグループ	W21400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	ソーシャルワークにおける基本的視点　原理・原則、方法を学び、自己覚知を深める
■授業の概要	ソーシャルワークの価値・倫理の基礎的理解を促し、生活のふりかえり、生活史把握、グループワーク、ロールプレイ等、様々な方法を活用した体験的な演習の展開によってソーシャルワーカーとなる者の自己形成の土台を構築する。ソーシャルワークにかかわる他科目との関連性をふまえ、ソーシャルワーク実習に求められる力を高めるために、個別学修・集団学修（グループワーク）を通して、具体的な援助場面を想定し、事例などを用いる。
■授業の目的・ねらい	ソーシャルワーカーに求められる豊かな人間性を育むために、対象となる人びとの生活(Life)を理解し、困難の背景とその環境を理解する力をつける。また、自己覚知を深め、ソーシャルワーク実践に必要なコミュニケーション力を高める。さらに、ソーシャルワークの展開過程における価値・知識・技術を実践的に理解する。これらを通して、社会福祉士及び精神保健福祉士に求められる基礎的な力を涵養する。
■到達目標	①ソーシャルワークの展開過程における価値・倫理と知識、方法、技術などについて理解を深め、人権の尊重と社会正義に根差したソーシャルワーカーに求められる基礎的な力が身につける。|②現代社会における人々の生活実態と環境を理解するとともに、歴史的な経緯・歩みについて考察を深め、人々が置かれている状況や社会事象をとらえることができる。|③人々の人権と尊厳を尊重し、利用者の立場に立って考え、共感できる資質を涵養し、コミュニケーションをとることができる。|④演習形態においてグループダイナミクスを活用し、プレゼンテーション技術(個人プレゼンテーション･グループプレゼンテーション)の力を発揮できる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	ソーシャルワーク演習（冬期)B クラス_対面				単位	2
担当者	池本　薫規			シラバスグループ	W21401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	ソーシャルワークにおける基本的視点　原理・原則、方法を学び、自己覚知を深める
■授業の概要	ソーシャルワークの価値・倫理の基礎的理解を促し、生活のふりかえり、生活史把握、グループワーク、ロールプレイ等、様々な方法を活用した体験的な演習の展開によってソーシャルワーカーとなる者の自己形成の土台を構築する。ソーシャルワークにかかわる他科目との関連性をふまえ、ソーシャルワーク実習に求められる力を高めるために、個別学修・集団学修（グループワーク）を通して、具体的な援助場面を想定し、事例などを用いる。
■授業の目的・ねらい	ソーシャルワーカーに求められる豊かな人間性を育むために、対象となる人びとの生活(Life)を理解し、困難の背景とその環境を理解する力をつける。また、自己覚知を深め、ソーシャルワーク実践に必要なコミュニケーション力を高める。さらに、ソーシャルワークの展開過程における価値・知識・技術を実践的に理解する。これらを通して、社会福祉士及び精神保健福祉士に求められる基礎的な力を涵養する。
■到達目標	①ソーシャルワークの展開過程における価値・倫理と知識、方法、技術などについて理解を深め、人権の尊重と社会正義に根差したソーシャルワーカーに求められる基礎的な力が身につける。|②現代社会における人々の生活実態と環境を理解するとともに、歴史的な経緯・歩みについて考察を深め、人々が置かれている状況や社会事象をとらえることができる。|③人々の人権と尊厳を尊重し、利用者の立場に立って考え、共感できる資質を涵養し、コミュニケーションをとることができる。|④演習形態においてグループダイナミクスを活用し、プレゼンテーション技術(個人プレゼンテーション･グループプレゼンテーション)の力を発揮できる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ（夏期)A クラス_対面			単位	2
担当者	福嶋　正人		シラバスグループ	W22200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S/SR

■授業のテーマ	ソーシャルワークの基本的視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。
■授業の概要	社会福祉専門職に求められるソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行い、対人援助の基本的な視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。個別指導・集団指導を通して、実技指導（ロールプレイやディスカッション、事例検討等）を中心とする演習形態で行う。具体的な事例等（集団に対する事例を含む）を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。|また、これらの事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面と、支援過程（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング･支援の終結と自己評価、アフターケアとフォローアップなど)、及び支援における内容（アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなど）を想定した実技を行う。|さらに地域福祉の基盤と開発にかかわる事例を活用し、具体的な場面・過程・内容（アウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価など）を想定した実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	本演習では、ソーシャルワーク実習の目的や内容と関連させ、実習に臨む準備と基本的な実践な力をつけることを目指す。社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値と倫理を理解し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。ソーシャルワークにかかわる他科目で学んだ理論、ソーシャルワークの展開におけるモデルやアプローチに関する知識を活用し、事例検討及びロールプレイ等において体験的・実技的に理解する。これらを通して、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、支援方法、内容について、統合的・実践的に理解する。
■到達目標	①ソーシャルワークの価値と倫理、人権の尊重と社会正義に根差し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。|②支援を必要とする人が抱える複合的な生活課題を理解し、総合的・包括的な支援のあり方と展開、支援内容などについて実践的に習得する（ミクロ・メゾ・マクロレベルの理解)。|③ソーシャルワークが展開される人と場（利用者、家族・親族・知人、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア、地域等）について理解を深める。ソーシャルワーカーが所属する組織と業務内容について具体的・実践的に学ぶ。|④本演習の内容を、ソーシャルワーク実習をはじめとする他の関連科目と統合して学修し、ソーシャルワーク実習に臨むための基礎的な力を涵養する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ（夏期)B クラス_対面			単位	2
担当者	伊部　恭子		シラバスグループ	W22201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S/SR

■授業のテーマ	ソーシャルワークの基本的視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。
■授業の概要	社会福祉専門職に求められるソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行い、対人援助の基本的な視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。個別指導・集団指導を通して、実技指導（ロールプレイやディスカッション、事例検討等）を中心とする演習形態で行う。具体的な事例等（集団に対する事例を含む）を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。|また、これらの事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面と、支援過程（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング･支援の終結と自己評価、アフターケアとフォローアップなど)、及び支援における内容（アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなど）を想定した実技を行う。|さらに地域福祉の基盤と開発にかかわる事例を活用し、具体的な場面・過程・内容（アウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価など）を想定した実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	本演習では、ソーシャルワーク実習の目的や内容と関連させ、実習に臨む準備と基本的な実践な力をつけることを目指す。社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値と倫理を理解し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。ソーシャルワークにかかわる他科目で学んだ理論、ソーシャルワークの展開におけるモデルやアプローチに関する知識を活用し、事例検討及びロールプレイ等において体験的・実技的に理解する。これらを通して、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、支援方法、内容について、統合的・実践的に理解する。
■到達目標	①ソーシャルワークの価値と倫理、人権の尊重と社会正義に根差し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。|②支援を必要とする人が抱える複合的な生活課題を理解し、総合的・包括的な支援のあり方と展開、支援内容などについて実践的に習得する（ミクロ・メゾ・マクロレベルの理解)。|③ソーシャルワークが展開される人と場（利用者、家族・親族・知人、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア、地域等）について理解を深める。ソーシャルワーカーが所属する組織と業務内容について具体的・実践的に学ぶ。|④本演習の内容を、ソーシャルワーク実習をはじめとする他の関連科目と統合して学修し、ソーシャルワーク実習に臨むための基礎的な力を涵養する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(夏期)1 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	（未 定）			シラバスグループ	S71211
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	安田　公一			シラバスグループ	S71220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(夏期)2 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71221
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(秋期)1 週_A クラス_オンライン				単位	2
担当者	安田　公一			シラバスグループ	S71310	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(秋期)1 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71311	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(秋期)2 週_A クラス_オンライン				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71320	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(秋期)2 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	（未 定）			シラバスグループ	S71321	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(集中１)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71510
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半)(集中１)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S71511
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	渡邉　照美			シラバスグループ	S72100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(春期)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	赤沢　真世			シラバスグループ	S72101
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(春期)C クラス_オンライン			単位	2
担当者	盛永　俊弘			シラバスグループ	S72102
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(春期)D クラス_オンライン			単位	2
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	S72103
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(夏期)1 週_A クラス_オンライン				単位	2
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	S72210	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(夏期)1 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	S72211	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	月岡　卓也			シラバスグループ	S72220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自身の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(夏期)2 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	S72221	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自身の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S72301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自身の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(秋期)B クラス_オンライン				単位	2
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	S72302	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(秋期)C クラス_オンライン				単位	2
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	S72303	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(秋期)D クラス_オンライン			単位	2
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S72304
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の４つのテーマからアプローチする。‖①　教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②　教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③　子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④　教科（保育内容）に関する正確な指導力を身につけているか。
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(冬期)1 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	S72410
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(冬期)1 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	小林　隆			シラバスグループ	S72411	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(冬期)1 週_C クラス_オンライン				単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S72412	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(冬期)2 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S72420
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(冬期)2 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S72421
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）(冬期)2 週_C クラス_オンライン				単位	2
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	S72422	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（夏期)1 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	（未 定）			シラバスグループ	S71211
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	安田　公一			シラバスグループ	S71220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（夏期)2 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71221
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（秋期)1 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	安田　公一			シラバスグループ	S71310
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（秋期)1 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71311	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（秋期)2 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71320
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（秋期)2 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	（未 定）			シラバスグループ	S71321
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（集中１)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志		シラバスグループ	S71510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（集中１)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S71511
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	渡邉　照美			シラバスグループ	S72100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（春期)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	赤沢　真世			シラバスグループ	S72101
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（春期)C クラス_オンライン				単位	2
担当者	盛永　俊弘			シラバスグループ	S72102	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（春期)D クラス_オンライン			単位	2
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	S72103
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	S72210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（夏期)1 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	S72211	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	月岡　卓也			シラバスグループ	S72220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自身の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（夏期)2 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	S72221	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自身の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S72301
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自身の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（秋期)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	S72302
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（秋期)C クラス_オンライン			単位	2
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	S72303
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（秋期)D クラス_オンライン			単位	2
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S72304
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の４つのテーマからアプローチする。‖①　教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②　教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③　子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④　教科（保育内容）に関する正確な指導力を身につけているか。
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（冬期)1 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	S72410
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（冬期)1 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	小林　隆			シラバスグループ	S72411
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（冬期)1 週_C クラス_オンライン			単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S72412
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（冬期)2 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S72420
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（冬期)2 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S72421
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（冬期)2 週_C クラス_オンライン			単位	2
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	S72422
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（前半）（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（前半）（夏期)1 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	（未 定）			シラバスグループ	S71211
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（前半）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	安田　公一			シラバスグループ	S71220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（前半）（夏期)2 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71221
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（前半）（秋期)1 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	安田　公一			シラバスグループ	S71310
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（前半）（秋期)1 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71311
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（前半）（秋期)2 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71320
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（前半）（秋期)2 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	（未 定）			シラバスグループ	S71321
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（前半）（集中１)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71510
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（前半）（集中１)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S71511
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（後半）（春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	渡邉　照美			シラバスグループ	S72100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（後半）（春期)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	赤沢　真世			シラバスグループ	S72101
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（後半）（春期)C クラス_オンライン				単位	2
担当者	盛永　俊弘			シラバスグループ	S72102	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（後半）（春期)D クラス_オンライン			単位	2
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	S72103
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（後半）（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	S72210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（後半）（夏期)1 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	S72211
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（後半）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	月岡　卓也			シラバスグループ	S72220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自身の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（後半）（夏期)2 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	S72221
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自身の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（後半）（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S72301
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自身の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（後半）（秋期)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	S72302
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（後半）（秋期)C クラス_オンライン			単位	2
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	S72303
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（後半）（秋期)D クラス_オンライン			単位	2
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S72304
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の４つのテーマからアプローチする。‖①　教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②　教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③　子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④　教科（保育内容）に関する正確な指導力を身につけているか。
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（後半）（冬期)1 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	S72410
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（後半）（冬期)1 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	小林　隆			シラバスグループ	S72411
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（後半）（冬期)1 週_C クラス_オンライン			単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S72412
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（後半）（冬期)2 週_A クラス_オンライン				単位	2
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S72420	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（後半）（冬期)2 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S72421	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（中・高）（後半）（冬期)2 週_C クラス_オンライン			単位	2
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	S72422
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教育実習指導（小・中）（集中１)A クラス_中学校実習_オンライン			単位	1
担当者	木原　博之			シラバスグループ	S42510
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S

■授業のテーマ	質の高い教員になるために
■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。|本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後指導（R 履修）で構成されており、本授業は事前学習（S 履修）にあたる。
■授業の目的・ねらい	初等教育・中等教育の意義及び教師の責任を体得する。|大学で学習した知識や技能を総合的に応用し、初等教育・中等教育の本質的精神と技術を習得するとともに、教師としての資質、能力、使命感を身につける。|
■到達目標	教育実習を見通し、心構えや留意点について深く自覚することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S71100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の４つのテーマからアプローチする。‖①　教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②　教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③　子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④　教科（保育内容）に関する正確な指導力を身につけているか。
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（春期)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71101
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（夏期)1 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	（未 定）			シラバスグループ	S71211
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	安田　公一			シラバスグループ	S71220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（夏期)2 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71221
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（秋期)1 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	安田　公一			シラバスグループ	S71310
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（秋期)1 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71311	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（秋期)2 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	S71320
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（秋期)2 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	（未 定）			シラバスグループ	S71321
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（集中１)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	高見　仁志		シラバスグループ	S71510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（前半）（集中１)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S71511
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	渡邉　照美			シラバスグループ	S72100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（春期)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	赤沢　真世			シラバスグループ	S72101
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（春期)C クラス_オンライン				単位	2
担当者	盛永　俊弘			シラバスグループ	S72102	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（春期)D クラス_オンライン			単位	2
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	S72103
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（夏期)1 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	S72210
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（夏期)1 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	S72211	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（夏期)2 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	月岡　卓也			シラバスグループ	S72220
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自身の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（夏期)2 週_B クラス_オンライン				単位	2
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	S72221	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SIS	

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自身の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	古市　文章			シラバスグループ	S72301
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、園児・児童・生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自身の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（秋期)B クラス_オンライン			単位	2
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	S72302
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（秋期)C クラス_オンライン			単位	2
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	S72303
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（秋期)D クラス_オンライン			単位	2
担当者	澤田　均			シラバスグループ	S72304
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の４つのテーマからアプローチする。‖①　教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②　教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③　子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④　教科（保育内容）に関する正確な指導力を身につけているか。
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	深井　いし子			シラバスグループ	W82100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの理解と保育者のソーシャルワーク実践
■授業の概要	保育士は、子どもを保育するだけでなく同時に家庭に対するソーシャルワーカーの役割を担っている。|本授業では、ソーシャルワークの理論を学ぶとともに、保育現場（保育所・児童養護施設など）を中心としたソーシャルワークの理論や方法について考察する。|併せて、グループワークや事例からソーシャルワークを実践的に学んでいく。
■授業の目的・ねらい	ソーシャルワークの理論と方法について理解し、実践場面で活用できる力をつける。
■到達目標	ソーシャルワークの体系について説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	論述試験
·授業内発表	20%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	0%	
·その他	0%	

授業科目	保育の心理学Ⅱ（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小川　徳子			シラバスグループ	W68100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	乳幼児期における心理的発達を理解し、発達を支援する関わり方を知る
■授業の概要	0～6 歳までの認知的発達･社会的発達の流れと、その発達的な変化はこども個人や集団での言動にどのようあらわれるのかを知る。また、視聴覚資料によりこどもの行動を観察・記録し、保育者がどのように関わることが、こどもひとりひとりの発達支援につながるのかを、具体的に考えてみる。
■授業の目的・ねらい	保育の現場において、こどもの心理的発達に即した保育実践を実現できる保育者となるため、次のことを学ぶ。|1．乳幼児期の認知的発達・社会的発達の流れを知る。|2．こどもそれぞれの発達の状態を把握するための視点を知る。|3．発達に応じた関わり方を的確に判断できるようになる。
■到達目標	１.「認知的・社会的に発達する」とは、どんな力を発揮できるようになることなのか、発達の実態を理解する。|2．発達過程に応じた関わり方を把握し、年齢や障害の有無にかかわらず、こどもひとりひとりへの発達に適した対応の仕方を考えられるようになる。|3．保育者どうし、保育者と保護者とが連携することの効果について、事例を通して知る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	20%	
･その他	0%	

授業科目	子どもの保健Ⅱ（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	中野　千恵美			シラバスグループ	W54200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	乳幼児のこころとからだを育む小児保健の実際
■授業の概要	1　乳幼児の発育発達と育児|2　子どもに多い病気と看護|3　児童虐待の現状と課題|4　感染症と予防|5　子どもの保健と関係法規、制度|6　子どもを取り巻く環境　　他||以上、子どもの保健を事例や実習を取り入れながら学ぶ
■授業の目的・ねらい	1　子どもの保健関係法規を知る|2　乳幼児の年齢に応じた発育発達を知る|3　子どもの病気や事故予防を知り応急手当てができる|4　子どものこころを理解し虐待予防の視点を学ぶ|5　感染症の正しい知識を持ち対応できる　　など‖配布資料を読み正しく分析し小児保健を理解できる
■到達目標	学習内容を理解し保育士等の心構えを養う|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	設題に対して論述式で回答
･授業内発表	10|	
･授業内試験	0	発表など
･授業内課題	20	
･その他	10	

授業科目	子どもの食と栄養（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	小谷　清子			シラバスグループ	W55200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	小児期の食生活と栄養について学習し、保育者として食の面から支援が出来る力を身に着ける。　|
■授業の概要	子どもの栄養と食生活が生涯にわたる健康の基礎であり、その後の心と身体の健康に影響することを理解する。|食品や栄養に関する基礎的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。|家庭や児童養護施設における食生活の現状と課題について学び、さらに特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。|子どもたちが「食事は楽しいものである」と感じるような環境を考え、保育者として食育や保護者への支援ができる力を身に着ける.。
■授業の目的・ねらい	子どもの健全な発育・発達を食の面から支援するために、以下の項目について理解し、食生活におけるさまざまな課題を科学的な根拠に基づいて考え、対応できるようになる。|1）食品や栄養に関する基礎的知識を習得する。|2）子どもの発育・発達に応じた食生活を理解する。|3）様々な子どもの食生活の現状と課題について学び、それらに配慮した食生活や栄養について理解する。|
■到達目標	1）食品や栄養に関する基礎的知識を習得し、説明することができる。　|2）子どもの発育・発達の特徴を理解し、段階に応じた食生活の援助ができる。|3）家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を理解し、適切な食の支援ができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	70%	
·リポート試験(SR 履修)	0%|	リモート試験にて実施する
·授業内発表	10%	
·授業内試験	0%|	
·授業内課題	10%	
·その他	10%|	

授業科目	障害児保育（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	井上　洋平			シラバスグループ	W62400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	障害の特徴も踏まえた子どもの発達的理解のありようを学ぶ。障害のある子どもの保育の実際について学ぶ。
■授業の概要	権利が平等に保障されるために追加の支援を必要とする子どもへの保育であることを理解する。具体的には，障害の種別やその特性の理解はもちろんのこと，何らかの支援を必要とする子どもたちの実態も踏まえ，「権利の平等性」と「追加の支援」を統一的に理解していく。
■授業の目的・ねらい	障害のある子ども一人ひとりの実態に即した保育をおこなう際に必要となる発達的視点に基づく子ども理解を踏まえた上で、一人ひとりを丁寧に見ることと集団づくりは決して対立するものではないことを理解することを目的とする。こうした理解が、実践現場で出会う多様な事例に対応する際の基盤となることを意図している。
■到達目標	①発達と障害の相互関係を念頭において子どもの行動を検討することができる。②集団づくりにおける個人と集団の関係を、実践上の難しさも踏まえて説明することができる。③授業を通じた理解の深まりを自分なりの言葉で説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	到達目標①②③の観点からリポート試験にて評価する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	社会的養護内容（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	長瀬　正子			シラバスグループ	W64200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会的養護の実践を当事者の声とともに学ぶ
■授業の概要	社会的養護の実践の詳細を学び、その現状と課題を理解する。その際、社会的養護における支援者の実践を読み解くこと、当事者の声を聴きとることを重視する。社会的養護で育つ子どもに必要な養育や支援について考察するなかで、自らの子ども観、家族観、養育観、援助観を多様な側面から問い直す機会にしていくことを目指している。
■授業の目的・ねらい	次の 4 つの観点における習得と達成を重視する。|（1）社会的養護における子どもの権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。|（2）家庭養護や施設養護等さまざまな社会的養護の形態でなされる社会的養護の営みの実際について学ぶ。|（3）社会的養護の当事者の声から社会的養護におけるニーズを把握し、理解する。|（4）社会的養護を通し、自らの子ども観、家族観、養育観、援助観を多様な側面から問い直す。|評価については、リポート課題の提出を課す。
■到達目標	・社会的養護で育つ子どもの権利について学び、その保障と自立を支えるための理念と方法を学び、現状と課題を考察する。|・社会的養護で育つ子どもに必要な養育や支援について考察するなかで、自らの子ども観、家族観、養育観、援助観を多様な側面から問い直す。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80%	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	10%	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導Ⅰ（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	W66100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	保育実習に臨むための基礎的な知識と態度を身につける。
■授業の概要	実習の意義と目的を理解し、保育実習の基本的内容を学ぶ。また、保育所および児童福祉施設についての理解を深め、実習に向けての自らの課題と心構えを形成する。　|
■授業の目的・ねらい	１．保育実習の意義・目的を理解する。|２．実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。|３．実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。|４．実習記録・保育案の作成方法や内容について具体的に理解する。
■到達目標	実習の意義・目的等を理解したうえで、自分の実習課題を明確にし、実習計画書を作成することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	スクーリング受講許可後、スクーリング受講前までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	70	授業の最終コマで、試験課題を提示します。
･授業内発表	30	授業の最終コマで、リポート課題を提示します。
･授業内試験	0	授業内発表として、実習への事前準備としての取り組み内容、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等）を総合的に評価します。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導Ⅰ（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	W66300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	保育実習に臨むための基礎的な知識と態度を身につける。
■授業の概要	実習の意義と目的を理解し、保育実習の基本的内容を学ぶ。また、保育所および児童福祉施設についての理解を深め、実習に向けての自らの課題と心構えを形成する。　|
■授業の目的・ねらい	１．保育実習の意義・目的を理解する。|２．実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。|３．実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。|４．実習記録・保育案の作成方法や内容について具体的に理解する。
■到達目標	実習の意義・目的等を理解したうえで、自分の実習課題を明確にし、実習計画書を作成することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	スクーリング受講許可後、スクーリング受講前までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	70	授業の最終コマで、試験課題を提示します。
･授業内発表	30	授業の最終コマで、リポート課題を提示します。
･授業内試験	0	授業内発表として、実習への事前準備としての取り組み内容、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等）を総合的に評価します。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	保育実践演習（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	（未 定）			シラバスグループ	W67200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	これまでの学びをふり返り、「私の保育者像」を考える
■授業の概要	これまでの学びを振り返り、自らの子ども観や保育観を再確認し、それぞれが目指す保育者像について探求する。
■授業の目的・ねらい	これまでの学びをとおして形成された子ども観や保育観を振り返り、自分の保育者像を具体的に考えることを目的とする。
■到達目標	・これまでの学びを踏まえ、自らの子ども観や保育観を説明することができる。 |・自らが目指す保育者像について、多様な観点から考察し、具体的に語ることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導Ⅱ（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大森　弘子			シラバスグループ	W72100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	充実した保育実習を行うための準備を行う。|
■授業の概要	本授業では、施設における保育実習の意義と目的を確認する。
■授業の目的・ねらい	保育実習は、今まで学んだ知識を保育実践に結び付けていく大切な機会である。そのため、本科目は施設における保育実践現場において、これまで学んできた知識や技能を総合的に関連付ける力と保育実践に応用する力とを養うものである。
■到達目標	受講生が施設での充実した保育実習を行うための準備をすること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	20	
･授業内試験	20	
･授業内課題	30|	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導Ⅱ（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大森　弘子			シラバスグループ	W72300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	充実した保育実習を行うための準備を行う。
■授業の概要	本授業では、施設における保育実習の意義と目的を確認する。
■授業の目的・ねらい	保育実習は、今まで学んだ知識を保育実践に結び付けていく大切な機会である。そのため、本科目は施設における保育実践現場において、これまで学んできた知識や技能を総合的に関連付ける力と保育実践に応用する力とを養うものである。
■到達目標	受講生が施設での充実した保育実習を行うための準備をすること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	20	
･授業内試験	20	
･授業内課題	30	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導Ⅲ（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大森　弘子			シラバスグループ	W73100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	社会的養護について理解を深める。
■授業の概要	保育実習１の事後指導として、実習の総括と自己評価を行い、自らの課題を明らかにする。また、保育実習３の事前指導として、児童福祉施設における生活と保育実習を取り上げる。実習の意義と目的を明確化し、保育実習の内容や実習先の施設について調べ発表を行う。さらに、実習のテーマを明確化し、実習計画書を作成する。
■授業の目的・ねらい	１．社会的養護について理解を深める。|２．保育実習１の成果をまとめる。|３．実習計画書を作成する。
■到達目標	１．保育実習３の意義、目的、及び実習の内容と具体的事項を理解する。|２．子ども理解、実習の展開・評価・改善の一連のプロセスの理解を深める。|３．社会的養護に関する力量形成について学ぶ。|４．実習の成果とまとめを発表し、保育士の業務内容や職業倫理についての理解を深める。|５．保育士としての自己の課題を明確化する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	30	
･授業内試験	30	
･授業内課題	0	
･その他	40	

授業科目	保育実習指導Ⅲ（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大森　弘子			シラバスグループ	W73300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	社会的養護について理解を深める。
■授業の概要	保育実習Ⅰの事後指導として、実習の総括と自己評価を行い、自らの課題を明らかにする。また、保育実習Ⅲの事前指導として、児童福祉施設における生活と保育実習を取り上げる。実習の意義と目的を明確化し、保育実習の内容や実習先の施設について調べ発表を行う。さらに、実習のテーマを明確化し、実習計画書を作成する。
■授業の目的・ねらい	１．社会的養護について理解を深める。|２．保育実習Ⅰの成果をまとめる。|３．実習計画書を作成する。
■到達目標	１．保育実習Ⅲの意義、目的、及び実習の内容と具体的事項を理解する。|２．子ども理解、実習の展開・評価・改善の一連のプロセスの理解を深める。|３．社会的養護に関する力量形成について学ぶ。|４．実習の成果とまとめを発表し、保育士の業務内容や職業倫理についての理解を深める。|５．保育士としての自己の課題を明確化する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	30	
･授業内試験	30	
･授業内課題	0	
･その他	10	

授業科目	保育内容の理解と方法１（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	臼井　奈緒			シラバスグループ	W70200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	幼児の感性を育む音楽・絵画・身体表現とその指導法についての理解を深める。
■授業の概要	子どもの心身の発達と音楽表現に関する知識と技術を学ぶ。具体的には、身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽に親しむ経験ができる保育環境づくり、それらの経験に基づく表現活動と音楽表現を結びつける遊びに展開するために、習得した知識や技術を通して模擬保育をすることで省察を深めていくことを目指す。
■授業の目的・ねらい	さまざまな音楽へのアプローチ方法を学び、領域「表現」における保育技術を高める。
■到達目標	音楽表現とそれ以外の表現方法（言葉・身体・絵画）を結びつけて保育に生かす技術と指導力を身につける。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	30%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	10%	
･その他	40%	

授業科目	保育内容の理解と方法２（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	臼井　奈緒			シラバスグループ	W71200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	幼児の感性を育む音楽・絵画・身体表現を探求する
■授業の概要	子どもの心身の発達と音楽表現に関する知識と技術を学ぶ。具体的には、身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽に親しむ経験ができる保育環境づくり、それらの経験に基づく表現活動と音楽表現を結びつける遊びに展開するために、習得した知識や技術を通して模擬保育をすることで省察を深めていくことを目指す。
■授業の目的・ねらい	さまざまな音楽へのアプローチ方法を学び、領域「表現」における保育技術を高める。
■到達目標	音楽表現とそれ以外の表現方法（言葉・身体・絵画）を結びつけて保育に生かす技術と実践力を身につける。|音楽を味わう方法を知り、他者に音楽の魅力を伝えることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	20%	
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	50%	
･その他	20%	

授業科目	子どもの食と栄養（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	小谷　清子			シラバスグループ	W55200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	小児期の食生活と栄養について学習し、保育者として食の面から支援が出来る力を身に着ける。　|
■授業の概要	子どもの栄養と食生活が生涯にわたる健康の基礎であり、その後の心と身体の健康に影響することを理解する。|食品や栄養に関する基礎的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。|家庭や児童養護施設における食生活の現状と課題について学び、さらに特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。|子どもたちが「食事は楽しいものである」と感じるような環境を考え、保育者として食育や保護者への支援ができる力を身に着ける.。
■授業の目的・ねらい	子どもの健全な発育・発達を食の面から支援するために、以下の項目について理解し、食生活におけるさまざまな課題を科学的な根拠に基づいて考え、対応できるようになる。|1）食品や栄養に関する基礎的知識を習得する。|2）子どもの発育・発達に応じた食生活を理解する。|3）様々な子どもの食生活の現状と課題について学び、それらに配慮した食生活や栄養について理解する。|
■到達目標	1）食品や栄養に関する基礎的知識を習得し、説明することができる。　|2）子どもの発育・発達の特徴を理解し、段階に応じた食生活の援助ができる。|3）家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を理解し、適切な食の支援ができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	70%	
·リポート試験(SR 履修)	0%|	リモート試験にて実施する
·授業内発表	10%	
·授業内試験	0%|	
·授業内課題	10%	
·その他	10%|	

授業科目	子どもの健康と安全（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	中野　千恵美			シラバスグループ	W54200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	乳幼児のこころとからだを育む小児保健の実際
■授業の概要	1　乳幼児の発育発達と育児|2　子どもに多い病気と看護|3　児童虐待の現状と課題|4　感染症と予防|5　子どもの保健と関係法規、制度|6　子どもを取り巻く環境　　他||以上、子どもの保健を事例や実習を取り入れながら学ぶ
■授業の目的・ねらい	1　子どもの保健関係法規を知る|2　乳幼児の年齢に応じた発育発達を知る|3　子どもの病気や事故予防を知り応急手当てができる|4　子どものこころを理解し虐待予防の視点を学ぶ|5　感染症の正しい知識を持ち対応できる　　など‖配布資料を読み正しく分析し小児保健を理解できる
■到達目標	学習内容を理解し保育士等の心構えを養う|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	設題に対して論述式で回答
･授業内発表	10|	
･授業内試験	0	発表など
･授業内課題	20	
･その他	10	

授業科目	障害児保育（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	井上　洋平			シラバスグループ	W62400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	障害の特徴も踏まえた子どもの発達的理解のありようを学ぶ。障害のある子どもの保育の実際について学ぶ。
■授業の概要	権利が平等に保障されるために追加の支援を必要とする子どもへの保育であることを理解する。具体的には，障害の種別やその特性の理解はもちろんのこと，何らかの支援を必要とする子どもたちの実態も踏まえ，「権利の平等性」と「追加の支援」を統一的に理解していく。
■授業の目的・ねらい	障害のある子ども一人ひとりの実態に即した保育をおこなう際に必要となる発達的視点に基づく子ども理解を踏まえた上で、一人ひとりを丁寧に見ることと集団づくりは決して対立するものではないことを理解することを目的とする。こうした理解が、実践現場で出会う多様な事例に対応する際の基盤となることを意図している。
■到達目標	①発達と障害の相互関係を念頭において子どもの行動を検討することができる。②集団づくりにおける個人と集団の関係を、実践上の難しさも踏まえて説明することができる。③授業を通じた理解の深まりを自分なりの言葉で説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	到達目標①②③の観点からリポート試験にて評価する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	社会的養護２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	長瀬　正子			シラバスグループ	W64200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会的養護の実践を当事者の声とともに学ぶ
■授業の概要	社会的養護の実践の詳細を学び、その現状と課題を理解する。その際、社会的養護における支援者の実践を読み解くこと、当事者の声を聴きとることを重視する。社会的養護で育つ子どもに必要な養育や支援について考察するなかで、自らの子ども観、家族観、養育観、援助観を多様な側面から問い直す機会にしていくことを目指している。
■授業の目的・ねらい	次の４つの観点における習得と達成を重視する。|（１）社会的養護における子どもの権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。|（２）家庭養護や施設養護等さまざまな社会的養護の形態でなされる社会的養護の営みの実際について学ぶ。|（３）社会的養護の当事者の声から社会的養護におけるニーズを把握し、理解する。|（４）社会的養護を通し、自らの子ども観、家族観、養育観、援助観を多様な側面から問い直す。|評価については、リポート課題の提出を課す。
■到達目標	・社会的養護で育つ子どもの権利について学び、その保障と自立を支えるための理念と方法を学び、現状と課題を考察する。|・社会的養護で育つ子どもに必要な養育や支援について考察するなかで、自らの子ども観、家族観、養育観、援助観を多様な側面から問い直す。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80%	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	10%	
･その他	0	

授業科目	子育て支援（春期)A クラス_対面				単位	1
担当者	鎮　朋子			シラバスグループ	W63100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	子育て支援の意義と、多様な子育て支援施策の実際について学び、保育士の役割を知る。
■授業の概要	子育て支援が必要となった背景、政府の施策の変遷を知る。保育士が保育現場で実践する子育て支援内容について理解する。また事例検討や意見交換を通してより具体的な学びを深める。
■授業の目的・ねらい	(1)　子育て支援の取り組みの必要性を把握するため、現代社会の家庭、子どもの現状や課題、ニーズを知る。|(2)　保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。|(3)　事例検討等を通して子育て支援の実際を体験し、子育て支援の必要な保護者への理解を深め実践力を養う。
■到達目標	(1)　子育て支援が必要な背景を説明できる。|(2)　子育て支援施策の概要を説明できる。|(3)　保育士の子育て支援の役割や保育相談支援技術について理解できる。|(4)　保育士に求められる子育て支援の実践力の基礎を身に着けることができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	W66100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	保育実習に臨むための基礎的な知識と態度を身につける。
■授業の概要	実習の意義と目的を理解し、保育実習の基本的内容を学ぶ。また、保育所および児童福祉施設についての理解を深め、実習に向けての自らの課題と心構えを形成する。　|
■授業の目的・ねらい	１．保育実習の意義・目的を理解する。|２．実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。|３．実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。|４．実習記録・保育案の作成方法や内容について具体的に理解する。
■到達目標	実習の意義・目的等を理解したうえで、自分の実習課題を明確にし、実習計画書を作成することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	スクーリング受講許可後、スクーリング受講前までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	70	授業の最終コマで、試験課題を提示します。
･授業内発表	30	授業の最終コマで、リポート課題を提示します。
･授業内試験	0	授業内発表として、実習への事前準備としての取り組み内容、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等）を総合的に評価します。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導１（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	W66300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	保育実習に臨むための基礎的な知識と態度を身につける。
■授業の概要	実習の意義と目的を理解し、保育実習の基本的内容を学ぶ。また、保育所および児童福祉施設についての理解を深め、実習に向けての自らの課題と心構えを形成する。　|
■授業の目的・ねらい	１．保育実習の意義・目的を理解する。|２．実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。|３．実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。|４．実習記録・保育案の作成方法や内容について具体的に理解する。
■到達目標	実習の意義・目的等を理解したうえで、自分の実習課題を明確にし、実習計画書を作成することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	スクーリング受講許可後、スクーリング受講前までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	70	授業の最終コマで、試験課題を提示します。
･授業内発表	30	授業の最終コマで、リポート課題を提示します。
･授業内試験	0	授業内発表として、実習への事前準備としての取り組み内容、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等）を総合的に評価します。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	保育実践演習（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	中西　さやか			シラバスグループ	W67200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	これまでの学びをふり返り、「私の保育者像」を考える
■授業の概要	これまでの学びを振り返り、自らの子ども観や保育観を再確認し、それぞれが目指す保育者像について探求する。
■授業の目的・ねらい	これまでの学びをとおして形成された子ども観や保育観を振り返り、自分の保育者像を具体的に考えることを目的とする。
■到達目標	・これまでの学びを踏まえ、自らの子ども観や保育観を説明することができる。 |・自らが目指す保育者像について、多様な観点から考察し、具体的に語ることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大森　弘子			シラバスグループ	W72100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	充実した保育実習を行うための準備を行う。|
■授業の概要	本授業では、施設における保育実習の意義と目的を確認する。
■授業の目的・ねらい	保育実習は、今まで学んだ知識を保育実践に結び付けていく大切な機会である。そのため、本科目は施設における保育実践現場において、これまで学んできた知識や技能を総合的に関連付ける力と保育実践に応用する力とを養うものである。
■到達目標	受講生が施設での充実した保育実習を行うための準備をすること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	20	
･授業内試験	20	
･授業内課題	30|	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導２（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大森　弘子			シラバスグループ	W72300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	充実した保育実習を行うための準備を行う。
■授業の概要	本授業では、施設における保育実習の意義と目的を確認する。
■授業の目的・ねらい	保育実習は、今まで学んだ知識を保育実践に結び付けていく大切な機会である。そのため、本科目は施設における保育実践現場において、これまで学んできた知識や技能を総合的に関連付ける力と保育実践に応用する力とを養うものである。
■到達目標	受講生が施設での充実した保育実習を行うための準備をすること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	20	
･授業内試験	20	
･授業内課題	30	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導３（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大森　弘子			シラバスグループ	W73100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	社会的養護について理解を深める。
■授業の概要	保育実習１の事後指導として、実習の総括と自己評価を行い、自らの課題を明らかにする。また、保育実習３の事前指導として、児童福祉施設における生活と保育実習を取り上げる。実習の意義と目的を明確化し、保育実習の内容や実習先の施設について調べ発表を行う。さらに、実習のテーマを明確化し、実習計画書を作成する。
■授業の目的・ねらい	１．社会的養護について理解を深める。|２．保育実習１の成果をまとめる。|３．実習計画書を作成する。
■到達目標	１．保育実習３の意義、目的、及び実習の内容と具体的事項を理解する。|２．子ども理解、実習の展開・評価・改善の一連のプロセスの理解を深める。|３．社会的養護に関する力量形成について学ぶ。|４．実習の成果とまとめを発表し、保育士の業務内容や職業倫理についての理解を深める。|５．保育士としての自己の課題を明確化する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	30	
･授業内試験	30	
･授業内課題	0	
･その他	40	

授業科目	保育実習指導３（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大森　弘子			シラバスグループ	W73300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	社会的養護について理解を深める。
■授業の概要	保育実習Ⅰの事後指導として、実習の総括と自己評価を行い、自らの課題を明らかにする。また、保育実習Ⅲの事前指導として、児童福祉施設における生活と保育実習を取り上げる。実習の意義と目的を明確化し、保育実習の内容や実習先の施設について調べ発表を行う。さらに、実習のテーマを明確化し、実習計画書を作成する。
■授業の目的・ねらい	１．社会的養護について理解を深める。|２．保育実習Ⅰの成果をまとめる。|３．実習計画書を作成する。
■到達目標	１．保育実習Ⅲの意義、目的、及び実習の内容と具体的事項を理解する。|２．子ども理解、実習の展開・評価・改善の一連のプロセスの理解を深める。|３．社会的養護に関する力量形成について学ぶ。|４．実習の成果とまとめを発表し、保育士の業務内容や職業倫理についての理解を深める。|５．保育士としての自己の課題を明確化する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	30	
･授業内試験	30	
･授業内課題	0	
･その他	10	

授業科目	子どもの食と栄養（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	小谷　清子			シラバスグループ	W55200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	小児期の食生活と栄養について学習し、保育者として食の面から支援が出来る力を身に着ける。　|
■授業の概要	子どもの栄養と食生活が生涯にわたる健康の基礎であり、その後の心と身体の健康に影響することを理解する。|食品や栄養に関する基礎的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。|家庭や児童養護施設における食生活の現状と課題について学び、さらに特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。|子どもたちが「食事は楽しいものである」と感じるような環境を考え、保育者として食育や保護者への支援ができる力を身に着ける.。
■授業の目的・ねらい	子どもの健全な発育・発達を食の面から支援するために、以下の項目について理解し、食生活におけるさまざまな課題を科学的な根拠に基づいて考え、対応できるようになる。|1）食品や栄養に関する基礎的知識を習得する。|2）子どもの発育・発達に応じた食生活を理解する。|3）様々な子どもの食生活の現状と課題について学び、それらに配慮した食生活や栄養について理解する。|
■到達目標	1）食品や栄養に関する基礎的知識を習得し、説明することができる。　|2）子どもの発育・発達の特徴を理解し、段階に応じた食生活の援助ができる。|3）家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を理解し、適切な食の支援ができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	70%	
·リポート試験(SR 履修)	0%|	リモート試験にて実施する
·授業内発表	10%	
·授業内試験	0%|	
·授業内課題	10%	
·その他	10%|	

授業科目	子どもの健康と安全（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	中野　千恵美			シラバスグループ	W54200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	乳幼児のこころとからだを育む小児保健の実際
■授業の概要	1　乳幼児の発育発達と育児|2　子どもに多い病気と看護|3　児童虐待の現状と課題|4　感染症と予防|5　子どもの保健と関係法規、制度|6　子どもを取り巻く環境　　他||以上、子どもの保健を事例や実習を取り入れながら学ぶ
■授業の目的・ねらい	1　子どもの保健関係法規を知る|2　乳幼児の年齢に応じた発育発達を知る|3　子どもの病気や事故予防を知り応急手当てができる|4　子どものこころを理解し虐待予防の視点を学ぶ|5　感染症の正しい知識を持ち対応できる　　など‖配布資料を読み正しく分析し小児保健を理解できる
■到達目標	学習内容を理解し保育士等の心構えを養う|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	設題に対して論述式で回答
･授業内発表	10|	
･授業内試験	0	発表など
･授業内課題	20	
･その他	10	

授業科目	障害児保育（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	井上　洋平			シラバスグループ	W62400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	障害の特徴も踏まえた子どもの発達的理解のありようを学ぶ。障害のある子どもの保育の実際について学ぶ。
■授業の概要	権利が平等に保障されるために追加の支援を必要とする子どもへの保育であることを理解する。具体的には，障害の種別やその特性の理解はもちろんのこと，何らかの支援を必要とする子どもたちの実態も踏まえ，「権利の平等性」と「追加の支援」を統一的に理解していく。
■授業の目的・ねらい	障害のある子ども一人ひとりの実態に即した保育をおこなう際に必要となる発達的視点に基づく子ども理解を踏まえた上で、一人ひとりを丁寧に見ることと集団づくりは決して対立するものではないことを理解することを目的とする。こうした理解が、実践現場で出会う多様な事例に対応する際の基盤となることを意図している。
■到達目標	①発達と障害の相互関係を念頭において子どもの行動を検討することができる。②集団づくりにおける個人と集団の関係を、実践上の難しさも踏まえて説明することができる。③授業を通じた理解の深まりを自分なりの言葉で説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	到達目標①②③の観点からリポート試験にて評価する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	社会的養護２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	長瀬　正子			シラバスグループ	W64200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会的養護の実践を当事者の声とともに学ぶ
■授業の概要	社会的養護の実践の詳細を学び、その現状と課題を理解する。その際、社会的養護における支援者の実践を読み解くこと、当事者の声を聴きとることを重視する。社会的養護で育つ子どもに必要な養育や支援について考察するなかで、自らの子ども観、家族観、養育観、援助観を多様な側面から問い直す機会にしていくことを目指している。
■授業の目的・ねらい	次の４つの観点における習得と達成を重視する。|（１）社会的養護における子どもの権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。|（２）家庭養護や施設養護等さまざまな社会的養護の形態でなされる社会的養護の営みの実際について学ぶ。|（３）社会的養護の当事者の声から社会的養護におけるニーズを把握し、理解する。|（４）社会的養護を通し、自らの子ども観、家族観、養育観、援助観を多様な側面から問い直す。|評価については、リポート課題の提出を課す。
■到達目標	・社会的養護で育つ子どもの権利について学び、その保障と自立を支えるための理念と方法を学び、現状と課題を考察する。|・社会的養護で育つ子どもに必要な養育や支援について考察するなかで、自らの子ども観、家族観、養育観、援助観を多様な側面から問い直す。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80%	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	10%	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	W66100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	保育実習に臨むための基礎的な知識と態度を身につける。
■授業の概要	実習の意義と目的を理解し、保育実習の基本的内容を学ぶ。また、保育所および児童福祉施設についての理解を深め、実習に向けての自らの課題と心構えを形成する。　|
■授業の目的・ねらい	１．保育実習の意義・目的を理解する。|２．実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。|３．実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。|４．実習記録・保育案の作成方法や内容について具体的に理解する。
■到達目標	実習の意義・目的等を理解したうえで、自分の実習課題を明確にし、実習計画書を作成することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	スクーリング受講許可後、スクーリング受講前までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	70	授業の最終コマで、試験課題を提示します。
･授業内発表	30	授業の最終コマで、リポート課題を提示します。
･授業内試験	0	授業内発表として、実習への事前準備としての取り組み内容、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等）を総合的に評価します。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導１（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	W66300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	保育実習に臨むための基礎的な知識と態度を身につける。
■授業の概要	実習の意義と目的を理解し、保育実習の基本的内容を学ぶ。また、保育所および児童福祉施設についての理解を深め、実習に向けての自らの課題と心構えを形成する。　|
■授業の目的・ねらい	１．保育実習の意義・目的を理解する。|２．実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。|３．実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。|４．実習記録・保育案の作成方法や内容について具体的に理解する。
■到達目標	実習の意義・目的等を理解したうえで、自分の実習課題を明確にし、実習計画書を作成することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	スクーリング受講許可後、スクーリング受講前までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	70	授業の最終コマで、試験課題を提示します。
･授業内発表	30	授業の最終コマで、リポート課題を提示します。
･授業内試験	0	授業内発表として、実習への事前準備としての取り組み内容、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等）を総合的に評価します。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉援助技術各論（秋期)A クラス_オンライン				単位	4
担当者	朝比奈　寛正			シラバスグループ	W36300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	精神保健医療福祉領域における援助の理解　|
■授業の概要	・精神障害の特性を踏まえた支援の基本的な考え方と基礎的な援助技術(個別援助、集団援助、コミュニティワーク)について理解する。特に精神障害者の自己決定を尊重し、いかにして本人主体の支援を行うかに重点をおきながら、重要課題である精神障害者の地域移行・地域定着支援などの実践における具体的支援を通して精神保健福祉援助技術の体系的理解を深め、併せて精神保健福祉士の役割を理解する。　|・医療、行政、事業所といったそれぞれの機関での相談援助活動の実際を知る。また関連する法制度や事業などをとりあげ、問題点の分析や今後の方向性について討議などもとおして考察を深める。
■授業の目的・ねらい	・精神科医療、保健、福祉、地域といったそれぞれの領域の中での対象を理解することと、そこにある生の営みの困難へのアプローチと援助の方法を知ることを目的とする。また、資料等用いて他の領域のトピックスも取り上げ、社会的状況とあわせて人とその社会への理解を深め構造的に捉えていく。　|
■到達目標	ソーシャルワークの歴史、概念、目的、原理を踏まえ、精神保健医療福祉領域における援助活動の実際について理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	50	
·リポート試験(SR 履修)	0|	リポート試験にて実施する。
·授業内発表	50	
·授業内試験	0|	
·授業内課題	0	
·その他	0	

授業科目	精神科リハビリテーション学（秋期)A クラス_オンライン				単位	4
担当者	太田　智之			シラバスグループ	W30300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	精神障害者のリカバリーを目指した支援を学ぶ
■授業の概要	精神科リハビリテーション学は、まず大前提として精神障害とは何か、疾病と障害の違いとは何かを理解するところから始まる。精神障害者へのリハビリテーションは、決して個人の能力向上のみを目的とはしていない。当事者を取り巻く環境（人、地域、制度、文化等）への働きかけも必要である。またそれらの関りはリカバリーを目指したものとしたい。精神科リハビリテーションにおいて、精神保健福祉士として果たすべき役割について知る。
■授業の目的・ねらい	1.　精神障害を理解し精神科リハビリテーションの概念を理解する。|2.　精神科リハビリテーションのプロセスと技術を理解する。|3.　精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割を理解する。|
■到達目標	1.　精神障害について理解を深めることを通して身体科リハビリテーション等との異同を明確にし、精神科リハビリテーションを理解する。|2.「リカバリー」視点に基づく精神科リハビリテーションの展開について理解する。|3.　精神科リハビリテーションを行う上で、精神保健福祉士が押さえておくべき視点や役割を理解する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神医学（秋期)A クラス_オンライン				単位	4
担当者	深谷　弘和			シラバスグループ	W37300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	精神疾患を理解し、精神医学と精神医療が抱えている課題について考察する
■授業の概要	精神障害について|精神疾患の理解|精神疾患の治療の実際|精神医療の現状と課題
■授業の目的・ねらい	わが国の精神保健福祉を取り巻く制度や社会の仕組みを理解し、地域で暮らし続けるために|必要な支援の方法を学ぶ
■到達目標	・精神疾患の理解を深める|・精神疾患の治療の実際を学び、その課題を考察する|・精神医療の治療構造を理解し、精神保健福祉士の役割を考察する

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神医学（集中１)A クラス_オンライン				単位	4
担当者	深谷　弘和			シラバスグループ	W37510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	精神疾患を理解し、精神医学と精神医療が抱えている課題について考察する
■授業の概要	精神障害について|精神疾患の理解|精神疾患の治療の実際|精神医療の現状と課題
■授業の目的・ねらい	わが国の精神保健福祉を取り巻く制度や社会の仕組みを理解し、地域で暮らし続けるために|必要な支援の方法を学ぶ
■到達目標	・精神疾患の理解を深める|・精神疾患の治療の実際を学び、その課題を考察する|・精神医療の治療構造を理解し、精神保健福祉士の役割を考察する

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健学（秋期)A クラス_オンライン				単位	4
担当者	塩満　卓			シラバスグループ	W38300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	現代における主要な精神保健の課題であるアルコール依存症や薬物依存病、ギャンブル依存症等のアディクション、家族の精神保健、労働者の精神保健、学校現場の精神保健課題について学ぶ。
■授業の概要	世界及び日本の精神保健の歴史を踏まえ、社会発展に伴う精神保健問題の広がりと主要な精神保健課題とその対策・限界について、講義する。①精神保健の歴史を理解する。また、②アディクション問題（アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル依存症)、③家族の精神保健の課題、④労働者の精神保健の課題、に関する理解を深め、現行の対策とその限界について考える。
■授業の目的・ねらい	①現代社会における精神面における保健（メンタルヘルス）の諸課題を社会と関連づけて捉え、説明できるようになる。|②メンタルヘルスの諸課題に関する対応策について、一次予防（発生予防)、二次予防（早期発見・早期介入)、三次予防（社会参加）の視点から理解する。|③メンタルヘルスの諸課題に関する現行の一次予防、二次予防、三次予防対策の効果と限界を理解する。
■到達目標	①現代社会におけるメンタルヘルスの諸課題を社会と関連づけて説明することができる。|②メンタルヘルスの諸課題に対する現行の一次予防、二次予防、三次予防の対応策を説明することができる。|③メンタルヘルスの諸課題に対する現行の対応策の効果と限界について、説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100	
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	0	
·その他	0	

授業科目	精神保健学（集中１)A クラス_オンライン				単位	4
担当者	上村　啓子			シラバスグループ	W38510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	地球温暖化をはじめとする自然環境変動により洪水、地震などの災害が頻繁に起こり、新型コロナウイルスによるパンデミック感染症が発生するなど私たちを取り巻く環境が大きく変化しているなか精神保健の基本的考え方と心身の健康の維持増進のためにソーシャルワーカーが果たすべき役割を考える。
■授業の概要	ライフサイクルや生活習慣をはじめとする精神保健の基本的な考え方と関連する人間の心理行動面の特徴と現在の動向、ネット社会の実社会でのつながりの希薄化、小家族・核家族化、雇用情勢や職場環境の変化などによる家族、学校、勤労者の精神保健について学ぶ。注目されている災害被災者や犯罪被害者における心の傷やその支援者に生じるストレス、自殺問題、性的多様性や外国人など社会的マイノリティの問題、ストーカーなどの行為も取り上げる。| また精神障害者の地域生活支援及び精神保健活動が広く人々の精神的健康の保持及び増進に果たす役割について理解を深める。地域精神保健施策の概要、ネットワーク、これからの精神保健活動のあるべき姿について考察を深める。
■授業の目的・ねらい	精神保健に関する基本的理解を得て、ライフサイクル、疾病・障害別の個別課題、家庭・学校・職場における精神保健活動の実際、精神保健に関する精神保健福祉士の役割、関連法規や関連施策を理解する。
■到達目標	精神の健康の重要性を理解し、関連して法律、施策、実例を説明できるようになる。ストレスの多い社会においてどのように精神の健康を保っていくか、精神保健の課題を持つ人々へどのように関わっていけばよいか理解し、これからの精神保健活動のあるべき姿について考察できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	積極的な質問、発表を評価する。
･授業内課題	0	実施しない。
･その他	10	

授業科目	精神科リハビリテーション学（秋期)A クラス_オンライン				単位	4
担当者	太田　智之			シラバスグループ	W30300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	精神障害者のリカバリーを目指した支援を学ぶ
■授業の概要	精神科リハビリテーション学は、まず大前提として精神障害とは何か、疾病と障害の違いとは何かを理解するところから始まる。精神障害者へのリハビリテーションは、決して個人の能力向上のみを目的とはしていない。当事者を取り巻く環境（人、地域、制度、文化等）への働きかけも必要である。またそれらの関りはリカバリーを目指したものとしたい。精神科リハビリテーションにおいて、精神保健福祉士として果たすべき役割について知る。
■授業の目的・ねらい	1.　精神障害を理解し精神科リハビリテーションの概念を理解する。|2.　精神科リハビリテーションのプロセスと技術を理解する。|3.　精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割を理解する。|
■到達目標	1.　精神障害について理解を深めることを通して身体科リハビリテーション等との異同を明確にし、精神科リハビリテーションを理解する。|2.「リカバリー」視点に基づく精神科リハビリテーションの展開について理解する。|3.　精神科リハビリテーションを行う上で、精神保健福祉士が押さえておくべき視点や役割を理解する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	介護概論Ⅱ（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	小田　史			シラバスグループ	W51200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	介護の対象者を理解するために必要な専門職の行なう観察、コミュニケーションについての基本を確認する。要介護高齢舎の介護（介護過程）や障害者の生活支援（個別支援計画）の展開の基本について学び、利用者主体の介護、意思決定支援の実際について学ぶ。
■授業の概要	さまざまな介護、生活支援の場面において専門職として質の高い支援を行なうためには、対象者を理解することが必要となる。そのためには高いレベルの観察力、コミュニケーション技術が求められる。授業ではコミュニケーションの意義、目的を理解した上で、基本的なコミュニケーション技法（傾聴、共感、意欲を引き出す、意思を汲み取る）をロールプレイで体験し、グループディスカッションで気づきを出し合い、対人援助職のコミュニケーションの在り方について考えていく。またチーム労働、協働によってなりたつ職種であるということから、連携の在り方、記録や報告、会議の持ち方など実践的な学びも取り入れる。介護や生活支援の先進的な取り組みについても紹介し、これまで学んだ理論と実践との結びつきを意識できるようにする。
■授業の目的・ねらい	対人援助職に求められるコミュニケーション、利用者理解の基本について理解し、体験と結びつけた理解をする。介護や生活支援においては知識や技術だけでなく、人間観が重要であることに気づく。

■到達目標	対人援助職に求められるコミュニケーション、利用者理解の基本について体験と結びつけた理解ができている。|介護や生活支援においては知識や技術だけでなく、人間観が重要であることに気づき、自らの支援者観を振り返ることができている。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	授業の内容に沿ったリポートを授業内で作成する
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	演習体験をまとめ発表する
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉総合実習指導（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	村上　武敏			シラバスグループ	W52200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	社会福祉総合実習に向けて、児童、障害、高齢、各領域の生活問題をめぐる問題意識を深めるべく学習する。それらは独自な問題として表出しつつ根底でつながっているところがある。その総体を理解することが問題意識をより明確にするはずである。高校の福祉科に在籍する高校生には、目の前に表出する生活問題を社会構造的に理解し、社会的な解決を志向する姿勢の獲得が望まれるだろう。本科目の履修者が、そのための指導力を獲得することを最終的な目標として学習を進める。
■授業の概要	児童、障害、高齢、各領域における諸問題と、社会福祉の政策と実践の現状と課題を明らかにしつつ問題意識を深める。
■授業の目的・ねらい	社会福祉総合実習に向けて問題意識を明確にすることともに、将来的に福祉教育を担う際の指導力を養う。
■到達目標	１．社会福祉にかかわる諸問題について構造的に理解を深める。|２．社会福祉の政策と実践について課題を認識する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	50	スクーリング受講許可後、スクーリング受講前までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	50	
·その他	0	

授業科目	社会福祉援助技術（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	深井　いし子			シラバスグループ	W82100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの理解と保育者のソーシャルワーク実践
■授業の概要	保育士は、子どもを保育するだけでなく同時に家庭に対するソーシャルワーカーの役割を担っている。|本授業では、ソーシャルワークの理論を学ぶとともに、保育現場（保育所・児童養護施設など）を中心としたソーシャルワークの理論や方法について考察する。|併せて、グループワークや事例からソーシャルワークを実践的に学んでいく。
■授業の目的・ねらい	ソーシャルワークの理論と方法について理解し、実践場面で活用できる力をつける。
■到達目標	ソーシャルワークの体系について説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	80%	
·リポート試験(SR 履修)	0%	論述試験
·授業内発表	20%	
·授業内試験	0%	
·授業内課題	0%	
·その他	0%	

授業科目	保育内容研究人間関係（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	田中　文昭			シラバスグループ	W60200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	子どもの人間関係の基本的構造を理解し、保育者としての基本姿勢を身に付ける。
■授業の概要	領域「人間関係」の意義や基本的な考え方を知り、子どもにとっての人間関係の大切さを学ぶとともに、保育者としての基本姿勢についても学ぶ。講義では、保育実践事例を適宜、紹介して、人と関わる力を育む保育の指導方法を知り、学びが深まるようにする。
■授業の目的・ねらい	子どもの発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。
■到達目標	１．領域「人間関係」のねらい・内容及びその位置づけを理解できる。|２．子どもの発達や学びの過程を理解し、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。|３．領域「人間関係」に係る現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	70	
·リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。|到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	30	
·その他	0	講義の理解を評価する。

授業科目	保育内容研究健康（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	三柴　英昭			シラバスグループ	W56200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	自然や人とのかかわりや遊びから健康を考える。
■授業の概要	子ども一人一人の心身の発達には、集団の力が必要であり、友達と様々な感情を共有し、いろいろなことを体感しながら自ら行動し、自由な思いを十分に発揮しようとする自発性が必要となる。遊べない子どもが多くなってきている現在、何事にも驚きや感動をもってともだちとともに健康的に生活し、伸び伸びと自己発揮できるように支えてやることが大切である。ソーシャルディスタンスをとった協同的な遊びの中で、ともだちと一緒に何かに集中し、人とつながる喜びや共にいることの喜びを感じ、お互いを受け入れていくことのすばらしさに触れ、子供の視点に立った教育・保育の質の向上にも着目し、健康を考えていく。また生活環境、遊びの中で好奇心、忍耐力、人との関係をどのように築いていくのかを考える。
■授業の目的・ねらい	クラスの人たちと社会的距離をとりながら色々な遊びや人と心を伝え合う喜びを体感し、個々の思いを十分に発揮し、楽しみ、感動を持ち、その活動の中で育つ心から健康を考えていくことを目的とする。最終講時の試験と健康的な遊びの実践授業内発表とで 100 点満点とする。
■到達目標	目に見える行動、活動だけでなく、その時その時の遊びや経験を通し、子供の心を理解できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	保育内容研究環境（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	林　悠子			シラバスグループ	W58200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	子どもと環境との関わりの意義を理解する
■授業の概要	保育所保育指針」において保育内容はどのように位置づけられているか、「5 領域」の考え方、を理解したうえで、5 領域のうち特に「環境」に焦点を当て、ねらいと内容について具体的に考えてゆく。　|
■授業の目的・ねらい	・保育内容についての基本的な理解と領域「環境」のねらいと内容について理解する。
■到達目標	・「保育所保育指針」における保育内容の位置づけおよび 5 領域の捉え方について説明することができる。|・領域「環境」のねらいと内容について、保育実践での展開の具体例を考え発表することができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	・リポート試験にて実施し、以下の 2 点が満たされている場合を合格ライン（60 点）とする。|1　解答の内容が問題・到達目標に沿ったものであること。|2　引用箇所･文献が明記されていること。
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	・授業への積極的参加（議論、発表、質問）
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	保育内容研究言語（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	花房　ナオミ			シラバスグループ	W59200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S　/　S	

■授業のテーマ	①領域「言葉」のねらいと内容、言葉の発達過程を理解する|②乳幼児の言葉を育てる保育者の言葉かけや援助のあり方を学ぶ|③豊かな言葉を育むために児童文化財を活用した教材研究やその具体的な指導法などを身につける|
■授業の概要	子どもが言葉を身につける過程や環境を考察しよう。また言葉を育む児童文化財について学ぼう。絵本、ペープサート、パネルシアター、紙皿シアターなど様々な技法の特徴を理解し、創作・発表を行い、子どもにお話を伝えるための技術を身につける。|
■授業の目的・ねらい	子どもが言葉を獲得する過程、一人ひとりの発達に応じた適切な援助や保育者の役割を理解する。|豊かな言葉を育む児童文化財への関心を高め、活用する力を身につける。
■到達目標	（１）　乳幼児期の言葉の発達が理解できるようになる。|（２）　言葉を育む基礎的知識・技術を習得する。|（３）　模擬保育や指導案作成等を通して、具体的保育技術を習得する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	0	
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	60	
·授業内試験	0	
·授業内課題	40	
·その他	0	

授業科目	保育内容研究表現（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	三柴　英昭			シラバスグループ	W57200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	自然や人とかかわり、自らの経験から、表現を考える。
■授業の概要	子ども一人一人の心身の発達には、集団の力が必要であり、友だちと様々な感情を共有し、いろいろなことを体験しながら、自ら行動し、自由な思いを十分に発揮しようとする自発性が必要となる。社会的距離をとった協同的な遊びの経験の中で、友だちと一緒に何かに集中し、人とつながる喜びや共にいることの喜びを感じ、お互いに受け入れていくことのすばらしさに触れ、子供の視点に立った教育・保育の質の向上にも着目し、表現を考えていく。
■授業の目的・ねらい	クラスの人たちと３密を避け、遊びを通して喜びを体験しながら、個々の思いを十分に発揮し、楽しみ、感動をもち、その活動の中で育つ心から表現を考えていくことを目的とする。最終講時の試験と、伸び伸びとした表現活動の実践授業内発表とで、100 点満点とする。
■到達目標	子どもの日常の遊びや経験から、その時その時の子どもの思いや気持ちを素直に表現することを理解していく。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0‖	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅱ（冬期)B クラス_対面				単位	4
担当者	長友　薫輝			シラバスグループ	W22401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S/SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの基本的視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。
■授業の概要	社会福祉専門職に求められるソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行い、対人援助の基本的な視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。個別指導・集団指導を通して、実技指導（ロールプレイやディスカッション、事例検討等）を中心とする演習形態で行う。具体的な事例等（集団に対する事例を含む）を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。|また、これらの事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面と、支援過程（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング･支援の終結と自己評価、アフターケアとフォローアップなど)、及び支援における内容（アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなど）を想定した実技を行う。|さらに地域福祉の基盤と開発にかかわる事例を活用し、具体的な場面・過程・内容（アウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価など）を想定した実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	本演習では、ソーシャルワーク実習の目的や内容と関連させ、実習に臨む準備と基本的な実践な力をつけることを目指す。社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値と倫理を理解し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。ソーシャルワークにかかわる他科目で学んだ理論、ソーシャルワークの展開におけるモデルやアプローチに関する知識を活用し、事例検討及びロールプレイ等において体験的・実技的に理解する。これらを通して、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、支援方法、内容について、統合的・実践的に理解する。
■到達目標	①ソーシャルワークの価値と倫理、人権の尊重と社会正義に根差し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。|②支援を必要とする人が抱える複合的な生活課題を理解し、総合的・包括的な支援のあり方と展開、支援内容などについて実践的に習得する（ミクロ・メゾ・マクロレベルの理解)。|③ソーシャルワークが展開される人と場（利用者、家族・親族・知人、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア、地域等）について理解を深める。ソーシャルワーカーが所属する組織と業務内容について具体的・実践的に学ぶ。|④本演習の内容を、ソーシャルワーク実習をはじめとする他の関連科目と統合して学修し、ソーシャルワーク実習に臨むための基礎的な力を涵養する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅲ（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	関口　洋明			シラバスグループ	W25200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの実践的展開
■授業の概要	社会福祉専門職としての実践力を高めるために、ソーシャルワークを実践的な展開について学ぶ。そのために、社会福祉専門職としての価値と倫理、地域を基盤としたソーシャルワーク実践について理解を深め、ソーシャルワークの展開の視点と方法について学ぶ。また、体験的な演習の展開によって、社会福祉専門職に求められる専門性について学ぶ。なお、演習授業のため、少人数によるディスカッションやロールプレイ、事例検討などを通して体験的に学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①社会福祉専門職としての価値･倫理について深く理解する|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程について理解する|③社会福祉専門職に求められる専門性について説明できるようになる|
■到達目標	①社会福祉専門職としての価値・倫理について理解し、行動することができる|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程を理解し、社会福祉専門職の視点や役割について説明することができる|③社会福祉専門職について求められる専門性について理解が深まる|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅲ（夏期)B クラス_対面				単位	2
担当者	新井　康友			シラバスグループ	W25201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの実践的展開
■授業の概要	社会福祉専門職としての実践力を高めるために、ソーシャルワークを実践的な展開について学ぶ。そのために、社会福祉専門職としての価値と倫理、地域を基盤としたソーシャルワーク実践について理解を深め、ソーシャルワークの展開の視点と方法について学ぶ。また、体験的な演習の展開によって、社会福祉専門職に求められる専門性について学ぶ。なお、演習授業のため、少人数によるディスカッションやロールプレイ、事例検討などを通して体験的に学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①社会福祉専門職としての価値･倫理について深く理解する|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程について理解する|③社会福祉専門職に求められる専門性について説明できるようになる|
■到達目標	①社会福祉専門職としての価値・倫理について理解し、行動することができる|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程を理解し、社会福祉専門職の視点や役割について説明することができる|③社会福祉専門職について求められる専門性について理解が深まる|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅲ（冬期)A クラス_対面				単位	2
担当者	佐原　直幸			シラバスグループ	W25400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの理論と実践的展開
■授業の概要	社会福祉専門職としての実践力を高めるために、ソーシャルワークの理論を実践的な展開から学ぶ。そのために、社会福祉専門職としての価値と倫理、地域を基盤としたソーシャルワーク実践について理解を深め、ソーシャルワークの展開の視点と方法について学ぶ。また、体験的な演習の展開によって、社会福祉専門職に求められる専門性について学ぶ。なお、演習授業のため、少人数によるディスカッションやロールプレイ、事例検討などを通して体験的に学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①社会福祉専門職としての価値･倫理について深く理解する|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程について理解する|③社会福祉専門職に求められる専門性について説明できるようになる|
■到達目標	①社会福祉専門職としての価値・倫理について理解し、行動することができる|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程を理解し、社会福祉専門職の視点や役割について説明することができる|③社会福祉専門職について求められる専門性について理解が深まる|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅲ（冬期)B クラス_対面				単位	2
担当者	新井　康友			シラバスグループ	W25401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの実践的展開
■授業の概要	社会福祉専門職としての実践力を高めるために、ソーシャルワークを実践的な展開について学ぶ。そのために、社会福祉専門職としての価値と倫理、地域を基盤としたソーシャルワーク実践について理解を深め、ソーシャルワークの展開の視点と方法について学ぶ。また、体験的な演習の展開によって、社会福祉専門職に求められる専門性について学ぶ。なお、演習授業のため、少人数によるディスカッションやロールプレイ、事例検討などを通して体験的に学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①社会福祉専門職としての価値･倫理について深く理解する|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程について理解する|③社会福祉専門職に求められる専門性について説明できるようになる|
■到達目標	①社会福祉専門職としての価値・倫理について理解し、行動することができる|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程を理解し、社会福祉専門職の視点や役割について説明することができる|③社会福祉専門職について求められる専門性について理解が深まる|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（夏期)A クラス_対面				単位	4
担当者	金田　喜弘			シラバスグループ	W23200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S/SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ）に向けての事前学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ)」の事前学習として、社会福祉士に求められる価値・倫理、専門知識、専門 技術及び実習領域の基本的知識を深め、実習の意義・目的を理解し、自己の問題意識を醸成させる。
■授業の目的・ねらい	・実習の意義・目的を理解する|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術を理解する|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解したうえで、希望する実習領域を明確化する|・実習に臨む動機や目標を明確化する|・今後のキャリア形成（進路選択）について考える
■到達目標	・実習の意義・目的を理解し、実習を通して何を学ぶのかを明確化できる|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術について理解し、説明できる|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解し、希望する実習領域を明確化できる|・実習に臨む動機や目標を明確化し説明できる|・今後のキャリア形成（進路選択）について説明できる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	※スクーリング受講１週間までに、B-net「Web 申請登録」より「実習（福祉・保育)」内の「社会福祉実習に関する調査票」にて申請してください。|※スクーリング受講許可後、スクーリング受講までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（夏期)B クラス_対面			単位	4
担当者	後藤　至功			シラバスグループ	W23201
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S/SR

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ）に向けての事前学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ)」の事前学習として、社会福祉士に求められる価値・倫理、専門知識、専門 技術及び実習領域の基本的知識を深め、実習の意義・目的を理解し、自己の問題意識を醸成させる。
■授業の目的・ねらい	・実習の意義・目的を理解する|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術を理解する|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解したうえで、希望する実習領域を明確化する|・実習に臨む動機や目標を明確化する|・今後のキャリア形成（進路選択）について考える
■到達目標	・実習の意義・目的を理解し、実習を通して何を学ぶのかを明確化できる|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術について理解し、説明できる|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解し、希望する実習領域を明確化できる|・実習に臨む動機や目標を明確化し説明できる|・今後のキャリア形成（進路選択）について説明できる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	※スクーリング受講１週間までに、B-net「Web 申請登録」より「実習（福祉・保育)」内の「社会福祉実習に関する調査票」にて申請してください。|※スクーリング受講許可後、スクーリング受講までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（冬期)A クラス_対面				単位	4
担当者	池本　薫規			シラバスグループ	W23400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S/SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ）に向けての事前学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ)」の事前学習として、社会福祉士に求められる価値・倫理、専門知識、専門 技術及び実習領域の基本的知識を深め、実習の意義・目的を理解し、自己の問題意識を醸成させる。
■授業の目的・ねらい	・実習の意義・目的を理解する|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術を理解する|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解したうえで、希望する実習領域を明確化する|・実習に臨む動機や目標を明確化する|・今後のキャリア形成（進路選択）について考える
■到達目標	・実習の意義・目的を理解し、実習を通して何を学ぶのかを明確化できる|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術について理解し、説明できる|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解し、希望する実習領域を明確化できる|・実習に臨む動機や目標を明確化し説明できる|・今後のキャリア形成（進路選択）について説明できる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	※スクーリング受講１週間までに、B-net「Web 申請登録」より「実習（福祉・保育)」内の「社会福祉実習に関する調査票」にて申請してください。|※スクーリング受講許可後、スクーリング受講までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（冬期)B クラス_対面				単位	4
担当者	金田　喜弘			シラバスグループ	W23401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S/SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ）に向けての事前学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ)」の事前学習として、社会福祉士に求められる価値・倫理、専門知識、専門 技術及び実習領域の基本的知識を深め、実習の意義・目的を理解し、自己の問題意識を醸成させる。
■授業の目的・ねらい	・実習の意義・目的を理解する|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術を理解する|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解したうえで、希望する実習領域を明確化する|・実習に臨む動機や目標を明確化する|・今後のキャリア形成（進路選択）について考える
■到達目標	・実習の意義・目的を理解し、実習を通して何を学ぶのかを明確化できる|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術について理解し、説明できる|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解し、希望する実習領域を明確化できる|・実習に臨む動機や目標を明確化し説明できる|・今後のキャリア形成（進路選択）について説明できる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	※スクーリング受講１週間までに、B-net「Web 申請登録」より「実習（福祉・保育)」内の「社会福祉実習に関する調査票」にて申請してください。|※スクーリング受講許可後、スクーリング受講までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（夏期)A クラス_対面			単位	2
担当者	金田　喜弘			シラバスグループ	W24200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅱ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ）の事後学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅱ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ)」を単なる体験に終らせないために、学生主体による発表とグループディスカッションなどを通して、自らの実習体験の振り返り、実習での学びや気づきの整理、実習テーマの達成度・到達度の把握、今後の学習・実践課題などの明確化を行っていく。また、自他の実習体験を客観的・多面的に捉えなおすことで、社会福祉士に求められる対人援助の基本的な視点や方法について理解を深める。
■授業の目的・ねらい	・実習を通して獲得したことや実習テーマの達成度・到達度を把握する|・今後取り組むべき自己課題（学習・実践課題など）を明確化する|・実習を振り返って「実践」を問い直すことで、「実践」と「理論」を結びつけて考える|・社会福祉士の専門性についてより理解を深める|・実習での学びを専門職として福祉現場でどのように生かすのかを考える
■到達目標	・自らの実習体験を振り返り、実習での学びや気づきを整理し、実習テーマの達成度・到達度を把握することができる|・自他の実習体験を客観的・多面的に捉えなおすことで、今後取り組むべき学習・実践課題などを明確化できる|・福祉現場での「実践」（具体的な支援内容や方法）を「理論」と結びつけて考えることができる|・社会福祉士の専門性について説明できる|・実習での学びを専門職として福祉現場でどのように生かすのかを述べることができる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（夏期)B クラス_対面			単位	2
担当者	後藤　至功			シラバスグループ	W24201
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅱ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ）の事後学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅱ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ)」を単なる体験に終らせないために、学生主体による発表とグループディスカッションなどを通して、自らの実習体験の振り返り、実習での学びや気づきの整理、実習テーマの達成度・到達度の把握、今後の学習・実践課題などの明確化を行っていく。また、自他の実習体験を客観的・多面的に捉えなおすことで、社会福祉士に求められる対人援助の基本的な視点や方法について理解を深める。
■授業の目的・ねらい	・実習を通して獲得したことや実習テーマの達成度・到達度を把握する|・今後取り組むべき自己課題（学習・実践課題など）を明確化する|・実習を振り返って「実践」を問い直すことで、「実践」と「理論」を結びつけて考える|・社会福祉士の専門性についてより理解を深める|・実習での学びを専門職として福祉現場でどのように生かすのかを考える
■到達目標	・自らの実習体験を振り返り、実習での学びや気づきを整理し、実習テーマの達成度・到達度を把握することができる|・自他の実習体験を客観的・多面的に捉えなおすことで、今後取り組むべき学習・実践課題などを明確化できる|・福祉現場での「実践」（具体的な支援内容や方法）を「理論」と結びつけて考えることができる|・社会福祉士の専門性について説明できる|・実習での学びを専門職として福祉現場でどのように生かすのかを述べることができる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（冬期)A クラス_対面				単位	2
担当者	後藤　至功			シラバスグループ	W24400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅱ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ）の事後学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅱ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ)」を単なる体験に終らせないために、学生主体による発表とグループディスカッションなどを通して、自らの実習体験の振り返り、実習での学びや気づきの整理、実習テーマの達成度・到達度の把握、今後の学習・実践課題などの明確化を行っていく。また、自他の実習体験を客観的・多面的に捉えなおすことで、社会福祉士に求められる対人援助の基本的な視点や方法について理解を深める。
■授業の目的・ねらい	・実習を通して獲得したことや実習テーマの達成度・到達度を把握する|・今後取り組むべき自己課題（学習・実践課題など）を明確化する|・実習を振り返って「実践」を問い直すことで、「実践」と「理論」を結びつけて考える|・社会福祉士の専門性についてより理解を深める|・実習での学びを専門職として福祉現場でどのように生かすのかを考える
■到達目標	・自らの実習体験を振り返り、実習での学びや気づきを整理し、実習テーマの達成度・到達度を把握することができる|・自他の実習体験を客観的・多面的に捉えなおすことで、今後取り組むべき学習・実践課題などを明確化できる|・福祉現場での「実践」（具体的な支援内容や方法）を「理論」と結びつけて考えることができる|・社会福祉士の専門性について説明できる|・実習での学びを専門職として福祉現場でどのように生かすのかを述べることができる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（冬期)B クラス_対面			単位	2
担当者	池本　薫規			シラバスグループ	W24401
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅱ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ）の事後学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅱ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ)」を単なる体験に終らせないために、学生主体による発表とグループディスカッションなどを通して、自らの実習体験の振り返り、実習での学びや気づきの整理、実習テーマの達成度・到達度の把握、今後の学習・実践課題などの明確化を行っていく。また、自他の実習体験を客観的・多面的に捉えなおすことで、社会福祉士に求められる対人援助の基本的な視点や方法について理解を深める。
■授業の目的・ねらい	・実習を通して獲得したことや実習テーマの達成度・到達度を把握する|・今後取り組むべき自己課題（学習・実践課題など）を明確化する|・実習を振り返って「実践」を問い直すことで、「実践」と「理論」を結びつけて考える|・社会福祉士の専門性についてより理解を深める|・実習での学びを専門職として福祉現場でどのように生かすのかを考える
■到達目標	・自らの実習体験を振り返り、実習での学びや気づきを整理し、実習テーマの達成度・到達度を把握することができる|・自他の実習体験を客観的・多面的に捉えなおすことで、今後取り組むべき学習・実践課題などを明確化できる|・福祉現場での「実践」（具体的な支援内容や方法）を「理論」と結びつけて考えることができる|・社会福祉士の専門性について説明できる|・実習での学びを専門職として福祉現場でどのように生かすのかを述べることができる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	保育の心理学Ⅱ（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小川　徳子			シラバスグループ	W68100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	乳幼児期における心理的発達を理解し、発達を支援する関わり方を知る
■授業の概要	0～6 歳までの認知的発達･社会的発達の流れと、その発達的な変化はこども個人や集団での言動にどのようあらわれるのかを知る。また、視聴覚資料によりこどもの行動を観察・記録し、保育者がどのように関わることが、こどもひとりひとりの発達支援につながるのかを、具体的に考えてみる。
■授業の目的・ねらい	保育の現場において、こどもの心理的発達に即した保育実践を実現できる保育者となるため、次のことを学ぶ。|1．乳幼児期の認知的発達・社会的発達の流れを知る。|2．こどもそれぞれの発達の状態を把握するための視点を知る。|3．発達に応じた関わり方を的確に判断できるようになる。
■到達目標	１.「認知的・社会的に発達する」とは、どんな力を発揮できるようになることなのか、発達の実態を理解する。|2．発達過程に応じた関わり方を把握し、年齢や障害の有無にかかわらず、こどもひとりひとりへの発達に適した対応の仕方を考えられるようになる。|3．保育者どうし、保育者と保護者とが連携することの効果について、事例を通して知る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	20%	
･その他	0%	

授業科目	子どもの保健Ⅱ（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	中野　千恵美			シラバスグループ	W54200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	乳幼児のこころとからだを育む小児保健の実際
■授業の概要	1　乳幼児の発育発達と育児|2　子どもに多い病気と看護|3　児童虐待の現状と課題|4　感染症と予防|5　子どもの保健と関係法規、制度|6　子どもを取り巻く環境　　他||以上、子どもの保健を事例や実習を取り入れながら学ぶ
■授業の目的・ねらい	1　子どもの保健関係法規を知る|2　乳幼児の年齢に応じた発育発達を知る|3　子どもの病気や事故予防を知り応急手当てができる|4　子どものこころを理解し虐待予防の視点を学ぶ|5　感染症の正しい知識を持ち対応できる　　など‖配布資料を読み正しく分析し小児保健を理解できる
■到達目標	学習内容を理解し保育士等の心構えを養う|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	設題に対して論述式で回答
･授業内発表	10|	
･授業内試験	0	発表など
･授業内課題	20	
･その他	10	

授業科目	子どもの食と栄養（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	小谷　清子			シラバスグループ	W55200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	小児期の食生活と栄養について学習し、保育者として食の面から支援が出来る力を身に着ける。　|
■授業の概要	子どもの栄養と食生活が生涯にわたる健康の基礎であり、その後の心と身体の健康に影響することを理解する。|食品や栄養に関する基礎的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。|家庭や児童養護施設における食生活の現状と課題について学び、さらに特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。|子どもたちが「食事は楽しいものである」と感じるような環境を考え、保育者として食育や保護者への支援ができる力を身に着ける.。
■授業の目的・ねらい	子どもの健全な発育・発達を食の面から支援するために、以下の項目について理解し、食生活におけるさまざまな課題を科学的な根拠に基づいて考え、対応できるようになる。|1）食品や栄養に関する基礎的知識を習得する。|2）子どもの発育・発達に応じた食生活を理解する。|3）様々な子どもの食生活の現状と課題について学び、それらに配慮した食生活や栄養について理解する。|
■到達目標	1）食品や栄養に関する基礎的知識を習得し、説明することができる。　|2）子どもの発育・発達の特徴を理解し、段階に応じた食生活の援助ができる。|3）家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を理解し、適切な食の支援ができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	70%	
·リポート試験(SR 履修)	0%|	リモート試験にて実施する
·授業内発表	10%	
·授業内試験	0%|	
·授業内課題	10%	
·その他	10%|	

授業科目	保育内容総論（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	武内　裕明			シラバスグループ	W69100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	「保育内容」の基本を学ぶ。
■授業の概要	保育所保育指針等における「保育に関する基本原則」「保育の計画及び評価」「保育の内容」を関連づけて保育内容を理解し、保育内容の指導の総合性を理解する。また、保育内容の歴史的変遷についても理解を深める。保育内容と子ども理解との関わり、養護と教育の一体的展開を実践事例を踏まえて理解し、保育の内容の指導における計画や記録の重要性を理解する。
■授業の目的・ねらい	保育所保育指針等に基づいて、保育内容指導の全体的構造を理解したうえで、保育の実際に即しながら保育内容の指導について具体的に学ぶ。
■到達目標	１．保育所保育指針等に基づいて、保育内容指導の総合性を理解し、保育の基本原則，保育の計画及び評価、子ども理解、保育の内容を関連付けて理解する。 ２．保育の基本を踏まえた保育内容の展開を具体的に構想することができる。 ３．保育の計画と記録の保育内容指導における重要性を説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	障害児保育（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	井上　洋平			シラバスグループ	W62400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	障害の特徴も踏まえた子どもの発達的理解のありようを学ぶ。障害のある子どもの保育の実際について学ぶ。
■授業の概要	権利が平等に保障されるために追加の支援を必要とする子どもへの保育であることを理解する。具体的には，障害の種別やその特性の理解はもちろんのこと，何らかの支援を必要とする子どもたちの実態も踏まえ，「権利の平等性」と「追加の支援」を統一的に理解していく。
■授業の目的・ねらい	障害のある子ども一人ひとりの実態に即した保育をおこなう際に必要となる発達的視点に基づく子ども理解を踏まえた上で、一人ひとりを丁寧に見ることと集団づくりは決して対立するものではないことを理解することを目的とする。こうした理解が、実践現場で出会う多様な事例に対応する際の基盤となることを意図している。
■到達目標	①発達と障害の相互関係を念頭において子どもの行動を検討することができる。②集団づくりにおける個人と集団の関係を、実践上の難しさも踏まえて説明することができる。③授業を通じた理解の深まりを自分なりの言葉で説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	到達目標①②③の観点からリポート試験にて評価する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	社会的養護内容（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	長瀬　正子			シラバスグループ	W64200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会的養護の実践を当事者の声とともに学ぶ
■授業の概要	社会的養護の実践の詳細を学び、その現状と課題を理解する。その際、社会的養護における支援者の実践を読み解くこと、当事者の声を聴きとることを重視する。社会的養護で育つ子どもに必要な養育や支援について考察するなかで、自らの子ども観、家族観、養育観、援助観を多様な側面から問い直す機会にしていくことを目指している。
■授業の目的・ねらい	次の 4 つの観点における習得と達成を重視する。|（1）社会的養護における子どもの権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。|（2）家庭養護や施設養護等さまざまな社会的養護の形態でなされる社会的養護の営みの実際について学ぶ。|（3）社会的養護の当事者の声から社会的養護におけるニーズを把握し、理解する。|（4）社会的養護を通し、自らの子ども観、家族観、養育観、援助観を多様な側面から問い直す。|評価については、リポート課題の提出を課す。
■到達目標	・社会的養護で育つ子どもの権利について学び、その保障と自立を支えるための理念と方法を学び、現状と課題を考察する。|・社会的養護で育つ子どもに必要な養育や支援について考察するなかで、自らの子ども観、家族観、養育観、援助観を多様な側面から問い直す。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80%	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	10%	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導Ⅰ（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	W66100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	保育実習に臨むための基礎的な知識と態度を身につける。
■授業の概要	実習の意義と目的を理解し、保育実習の基本的内容を学ぶ。また、保育所および児童福祉施設についての理解を深め、実習に向けての自らの課題と心構えを形成する。　|
■授業の目的・ねらい	１．保育実習の意義・目的を理解する。|２．実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。|３．実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。|４．実習記録・保育案の作成方法や内容について具体的に理解する。
■到達目標	実習の意義・目的等を理解したうえで、自分の実習課題を明確にし、実習計画書を作成することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	スクーリング受講許可後、スクーリング受講前までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	70	授業の最終コマで、試験課題を提示します。
･授業内発表	30	授業の最終コマで、リポート課題を提示します。
･授業内試験	0	授業内発表として、実習への事前準備としての取り組み内容、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等）を総合的に評価します。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導Ⅰ（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	W66300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	保育実習に臨むための基礎的な知識と態度を身につける。
■授業の概要	実習の意義と目的を理解し、保育実習の基本的内容を学ぶ。また、保育所および児童福祉施設についての理解を深め、実習に向けての自らの課題と心構えを形成する。　|
■授業の目的・ねらい	１．保育実習の意義・目的を理解する。|２．実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。|３．実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。|４．実習記録・保育案の作成方法や内容について具体的に理解する。
■到達目標	実習の意義・目的等を理解したうえで、自分の実習課題を明確にし、実習計画書を作成することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	スクーリング受講許可後、スクーリング受講前までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	70	授業の最終コマで、試験課題を提示します。
･授業内発表	30	授業の最終コマで、リポート課題を提示します。
･授業内試験	0	授業内発表として、実習への事前準備としての取り組み内容、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等）を総合的に評価します。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	保育実践演習（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	中西　さやか			シラバスグループ	W67200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	これまでの学びをふり返り、「私の保育者像」を考える
■授業の概要	これまでの学びを振り返り、自らの子ども観や保育観を再確認し、それぞれが目指す保育者像について探求する。
■授業の目的・ねらい	これまでの学びをとおして形成された子ども観や保育観を振り返り、自分の保育者像を具体的に考えることを目的とする。
■到達目標	・これまでの学びを踏まえ、自らの子ども観や保育観を説明することができる。 |・自らが目指す保育者像について、多様な観点から考察し、具体的に語ることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導Ⅱ（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大森　弘子			シラバスグループ	W72100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	充実した保育実習を行うための準備を行う。|
■授業の概要	本授業では、施設における保育実習の意義と目的を確認する。
■授業の目的・ねらい	保育実習は、今まで学んだ知識を保育実践に結び付けていく大切な機会である。そのため、本科目は施設における保育実践現場において、これまで学んできた知識や技能を総合的に関連付ける力と保育実践に応用する力とを養うものである。
■到達目標	受講生が施設での充実した保育実習を行うための準備をすること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	20	
･授業内試験	20	
･授業内課題	30|	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導Ⅱ（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大森　弘子			シラバスグループ	W72300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	充実した保育実習を行うための準備を行う。
■授業の概要	本授業では、施設における保育実習の意義と目的を確認する。
■授業の目的・ねらい	保育実習は、今まで学んだ知識を保育実践に結び付けていく大切な機会である。そのため、本科目は施設における保育実践現場において、これまで学んできた知識や技能を総合的に関連付ける力と保育実践に応用する力とを養うものである。
■到達目標	受講生が施設での充実した保育実習を行うための準備をすること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	20	
･授業内試験	20	
･授業内課題	30	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導Ⅲ（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大森　弘子			シラバスグループ	W73100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	社会的養護について理解を深める。
■授業の概要	保育実習１の事後指導として、実習の総括と自己評価を行い、自らの課題を明らかにする。また、保育実習３の事前指導として、児童福祉施設における生活と保育実習を取り上げる。実習の意義と目的を明確化し、保育実習の内容や実習先の施設について調べ発表を行う。さらに、実習のテーマを明確化し、実習計画書を作成する。
■授業の目的・ねらい	１．社会的養護について理解を深める。|２．保育実習１の成果をまとめる。|３．実習計画書を作成する。
■到達目標	１．保育実習３の意義、目的、及び実習の内容と具体的事項を理解する。|２．子ども理解、実習の展開・評価・改善の一連のプロセスの理解を深める。|３．社会的養護に関する力量形成について学ぶ。|４．実習の成果とまとめを発表し、保育士の業務内容や職業倫理についての理解を深める。|５．保育士としての自己の課題を明確化する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	30	
･授業内試験	30	
･授業内課題	0	
･その他	40	

授業科目	保育実習指導Ⅲ（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大森　弘子			シラバスグループ	W73300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	社会的養護について理解を深める。
■授業の概要	保育実習Ⅰの事後指導として、実習の総括と自己評価を行い、自らの課題を明らかにする。また、保育実習Ⅲの事前指導として、児童福祉施設における生活と保育実習を取り上げる。実習の意義と目的を明確化し、保育実習の内容や実習先の施設について調べ発表を行う。さらに、実習のテーマを明確化し、実習計画書を作成する。
■授業の目的・ねらい	１．社会的養護について理解を深める。|２．保育実習Ⅰの成果をまとめる。|３．実習計画書を作成する。
■到達目標	１．保育実習Ⅲの意義、目的、及び実習の内容と具体的事項を理解する。|２．子ども理解、実習の展開・評価・改善の一連のプロセスの理解を深める。|３．社会的養護に関する力量形成について学ぶ。|４．実習の成果とまとめを発表し、保育士の業務内容や職業倫理についての理解を深める。|５．保育士としての自己の課題を明確化する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	30	
･授業内試験	30	
･授業内課題	0	
･その他	10	

授業科目	精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）（夏期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	二本柳　覚			シラバスグループ	W34200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	精神保健福祉士の役割とその意義・価値をふまえた相談援助の理念
■授業の概要	現在、医療機関のみならず教育、司法、企業、地域、被災地等々における精神保健福祉士の相談援助の重要性が高まってきている。その特質と価値、特に権利擁護等を核に学びを進める。
■授業の目的・ねらい	精神保健福祉士や障害者福祉分野の福祉専門職の役割や意義を学習するとともに、相談援助や精神保健福祉分野のソーシャルワークの理念や概念の変遷、相談援助の範囲などについての理解を深めていく。|
■到達目標	精神障害領域のソーシャルワークの視点の確認

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	二本柳　覚			シラバスグループ	W35200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	精神保健福祉領域におけるソーシャルワークの形成と相談援助活動の展開
■授業の概要	精神保健福祉領域でのソーシャルワークの形成過程とその内容について確認し、相談援助活動における対象、理念、価値、知識、支援の実際を学習する。
■授業の目的・ねらい	精神保健福祉士や障害者福祉分野の福祉専門職の役割や意義を学習するとともに、相談援助や精神保健福祉分野における権利擁護支援、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義などについての理解を深める。‖
■到達目標	１．精神保健福祉領域における相談援助の発展過程について説明することができる。|2．精神障害者の相談援助活動にかかわる法制度、サービス、機関、専門職の機能的役割を把握し、総合的・包括的援助と多職種連携の実際について説明することができる。|3．精神保健福祉士の倫理や価値について、その意義を理解するとともに、権利擁護の方法と関連付けて説明することができる。‖

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助技術各論（秋期)A クラス_オンライン				単位	4
担当者	朝比奈　寛正			シラバスグループ	W36300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	精神保健医療福祉領域における援助の理解　|
■授業の概要	・精神障害の特性を踏まえた支援の基本的な考え方と基礎的な援助技術(個別援助、集団援助、コミュニティワーク)について理解する。特に精神障害者の自己決定を尊重し、いかにして本人主体の支援を行うかに重点をおきながら、重要課題である精神障害者の地域移行・地域定着支援などの実践における具体的支援を通して精神保健福祉援助技術の体系的理解を深め、併せて精神保健福祉士の役割を理解する。　|・医療、行政、事業所といったそれぞれの機関での相談援助活動の実際を知る。また関連する法制度や事業などをとりあげ、問題点の分析や今後の方向性について討議などもとおして考察を深める。
■授業の目的・ねらい	・精神科医療、保健、福祉、地域といったそれぞれの領域の中での対象を理解することと、そこにある生の営みの困難へのアプローチと援助の方法を知ることを目的とする。また、資料等用いて他の領域のトピックスも取り上げ、社会的状況とあわせて人とその社会への理解を深め構造的に捉えていく。　|
■到達目標	ソーシャルワークの歴史、概念、目的、原理を踏まえ、精神保健医療福祉領域における援助活動の実際について理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	50	
·リポート試験(SR 履修)	0|	リポート試験にて実施する。
·授業内発表	50	
·授業内試験	0|	
·授業内課題	0	
·その他	0	

授業科目	精神保健福祉論Ⅰ（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	緒方　由紀			シラバスグループ	W31200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	精神保健医療福祉を支える理念、制度、歴史、実践
■授業の概要	わが国の精神保健医療福祉に関わる法制度、特にその根幹である精神保健福祉法の歴史、法理念を学ぶと共に、関連する障害者福祉や社会保障領域の法制度、サービスについて学習する。さらに諸外国における精神保健福祉の現状と歴史的展開をとおして、わが国の精神障害者をめぐる政策的課題について理解を深める。
■授業の目的・ねらい	精神病者、精神障害者に対するケアは社会の中でどのような歴史を辿ってきたのか、精神保健医療福祉に関する法制度および関連政策の変遷をおさえながら学習をすすめる。また、諸外国の政策動向にも注目し、日本の精神障害者をめぐる現状と歴史的に積み残してきた課題(社会的入院、病床数の多さ、在院期間の長期化と高齢化、地域移行の難しさ等々)について考察を行う。
■到達目標	精神保健医療福祉に関する制度やサービスを体系的に把握することをとおして、精神病者、精神障害者、家族等が時代の中でそれぞれどのような困難を抱えてきたのか、社会問題として理解し、説明できるようになることを目指す。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉論Ⅰ（集中１)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	朝比奈　寛正			シラバスグループ	W31510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	精神保健医療福祉を支える理念、制度、歴史、実践
■授業の概要	わが国の精神保健医療福祉に関わる法制度、特にその根幹である精神保健福祉法の歴史、法理念を学ぶと共に、関連する障害者福祉や社会保障領域の法制度、サービスについて学習する。さらに諸外国における精神保健福祉の現状と歴史的展開をとおして、わが国の精神障害者をめぐる政策的課題について理解を深める。
■授業の目的・ねらい	精神病者、精神障害者に対するケアは社会の中でどのような歴史を辿ってきたのか、精神保健医療福祉に関する法制度および関連政策の変遷をおさえながら学習をすすめる。また、諸外国の政策動向にも注目し、日本の精神障害者をめぐる現状と歴史的に積み残してきた課題(社会的入院、病床数の多さ、在院期間の長期化と高齢化、地域移行の難しさ等々)について考察を行う。 |
■到達目標	精神保健医療福祉に関する制度やサービスを体系的に把握することをとおして、精神病者、精神障害者、家族等が時代の中でそれぞれどのような困難を抱えてきたのか、社会問題として理解し、説明できるようになることを目指す。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉論Ⅱ（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	江本　純子			シラバスグループ	W32200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	精神障害者と精神保健医療福祉の歴史
■授業の概要	精神障害者医療福祉の歴史的な変遷を学び，そこに流れる政策の限界と課題を講義する．精神病者監護法下での私宅監置の状況を調査した呉秀三は，その著書「精神病者私宅監置ノ実況及ビ其統計的観察」で、「我邦十何万ノ精神病者ハ実ニ此病ヲ受ケタルノ不幸ノ外ニ、此邦ニ生レタルノ不幸ヲ重ヌルモノト云フベシ」という有名な言葉を残している。1950年，私宅監置は廃止されたものの病院への収容が強まり，生産阻害因子キャンペーン（1952年），らい予防法（1953 年）等の棄民政策が続いた．1964 年にライシャワー事件が生じ，翌年改正された精神衛生法では，警察官通報等の通報制度が生まれ，精神障害者の地域管理が徹底してきた．1983 年に発覚した宇都宮病院事件は，国連でも取り上げられ日本の精神保健福祉の課題が国際的な調査団の調査で明確になった．それ以降，日本の精神保健福祉は，精神障害者の権利保障を目指した政策が展開されてきた．しかし，そのなかでも，1999 年に改正された精神保健福祉法で制定された移送制度は，精神障害者の権利との関わりで多くの議論が行われている．本講義では，こうした歴史の流れとその時々の支援につき学ぶ．
■授業の目的・ねらい	本講義の目的は、次の三つである。①精神障害者の保健医療福祉の流れを理解する。②今までの歴史のなかで、精神障害者がおかれていた状況を理解する。③障害者権利条約や自立支援法（現行の障害者総合支援法と精神保健福祉法の関わりを理解する。|本講義では、精神保健福祉の歴史を政策，運動，支援の三つの視点で学ぶ。|評価は、全講義に出席するとともに，講義中の提出課題及びスクーリング後のリポートで理解度を問う。
■到達目標	精神病者監護法以降今日まで精神障害者がおかれてきた状況を理解し、各時代の法に流れている考えを正しく理解する。なかでも、棄民政策としての性格をもってきた精神障害者政策の流れをおさえ、今日の精神障害者の生活が保障される上で重要な役割を果たした運動や実践について理解する。さらに、現在の精神保健福祉法や関連法を検討するなかで、精神障害者と家族の生活や権利を保障する政策はどうあるべきかを理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉論Ⅱ（集中１)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	江本　純子			シラバスグループ	W32510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	精神障害者と精神保健医療福祉の歴史
■授業の概要	精神障害者医療福祉の歴史的な変遷を学び，そこに流れる政策の限界と課題を講義する．精神病者監護法下での私宅監置の状況を調査した呉秀三は，その著書「精神病者私宅監置ノ実況及ビ其統計的観察」で、「我邦十何万ノ精神病者ハ実ニ此病ヲ受ケタルノ不幸ノ外ニ、此邦ニ生レタルノ不幸ヲ重ヌルモノト云フベシ」という有名な言葉を残している。1950年，私宅監置は廃止されたものの病院への収容が強まり，生産阻害因子キャンペーン（1952年），らい予防法（1953 年）等の棄民政策が続いた．1964 年にライシャワー事件が生じ，翌年改正された精神衛生法では，警察官通報等の通報制度が生まれ，精神障害者の地域管理が徹底してきた．1983 年に発覚した宇都宮病院事件は，国連でも取り上げられ日本の精神保健福祉の課題が国際的な調査団の調査で明確になった．それ以降，日本の精神保健福祉は，精神障害者の権利保障を目指した政策が展開されてきた．しかし，そのなかでも，1999 年に改正された精神保健福祉法で制定された移送制度は，精神障害者の権利との関わりで多くの議論が行われている．本講義では，こうした歴史の流れとその時々の支援につき学ぶ．
■授業の目的・ねらい	本講義の目的は、次の三つである。①精神障害者の保健医療福祉の流れを理解する。②今までの歴史のなかで、精神障害者がおかれていた状況を理解する。③障害者権利条約や自立支援法（現行の障害者総合支援法と精神保健福祉法の関わりを理解する。|本講義では、精神保健福祉の歴史を政策，運動，支援の三つの視点で学ぶ。|評価は、全講義に出席するとともに，講義中の提出課題及びスクーリング後のリポートで理解度を問う。
■到達目標	精神病者監護法以降今日まで精神障害者がおかれてきた状況を理解し、各時代の法に流れている考えを正しく理解する。なかでも、棄民政策としての性格をもってきた精神障害者政策の流れをおさえ、今日の精神障害者の生活が保障される上で重要な役割を果たした運動や実践について理解する。さらに、現在の精神保健福祉法や関連法を検討するなかで、精神障害者と家族の生活や権利を保障する政策はどうあるべきかを理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉論Ⅲ（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	江本　純子			シラバスグループ	W33300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	精神障害者の地域生活支援システムの現状と課題
■授業の概要	精神障害者の生活の場は地域である．今，世界的に病院から地域へという流れのなかで，地域での生活をどう充実させるかが問われている．精神障害者の地域生活を考える上で，まず，精神障害とはを学ぶ必要がある．精神障害の特性とはなにか，彼らや彼女たちが，どのような生活ニーズを持っているのかを明確にする必要がある．この講義では，まず，統合失調症と感情障害（双極性障害）等の障害特徴を学び，次に，彼らの生活をいくつかの局面に分け学ぶ．それは，彼らが危機的な状況を招いた時の地域生活支援，安心して生活できる居住支援や地域での居場所の支援，就労支援等である．これらの支援が，どのような法・制度の下で行われているのか，その支援を展開していく上で，どのような哲学や方法が求められるのか．さらに，ソーシャルワーカーとして，その支援制度を発展させていく為に，どのような運動を組織することが必要か等を学ぶ．
■授業の目的・ねらい	本講義の目的は，次の四つである．|①精神障害とはなにかを理解する．福祉を学ぶものにとって，最低限の精神障害の症状や障害の特徴を学び理解することが必要である為，基礎的な知識を学ぶ．|②精神障害者の地域生活をいくつかの局面に分け考える力を育てる．一つは，地域のソーシャルワーカーとして精神障害者と出会った時に，どのような資源を活用し，どのような支援を行うのかであるる．次に，彼や彼女たちが，危機的な状況と出会った時の局面である．その時に，どのように介入するかである．さらには，彼らが地域で安心して暮らし，仲間と関わり，就労することを支援する局面である．|③精神障害者の地域生活は満ち足りているものではない．現状の制度がどのような課題を持っているのか，システムを充実させる為に必要なソーシャルワーカーが組織する運動について理解する．|

■到達目標	精神障害の特徴と支援ニーズ，現行の支援システムの概要を理解するとともに，政策や制度に規定される支援システムの限界と，その限界を克服する運動の課題を理解する．

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉論Ⅲ（集中１)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	江本　純子			シラバスグループ	W33510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	精神障害者の地域生活支援システムの現状と課題
■授業の概要	精神障害者の生活の場は地域である．今，世界的に病院から地域へという流れのなかで，地域での生活をどう充実させるかが問われている．精神障害者の地域生活を考える上で，まず，精神障害とはを学ぶ必要がある．精神障害の特性とはなにか，彼らや彼女たちが，どのような生活ニーズを持っているのかを明確にする必要がある．この講義では，まず，統合失調症と感情障害（双極性障害）等の障害特徴を学び，次に，彼らの生活をいくつかの局面に分け学ぶ．それは，彼らが危機的な状況を招いた時の地域生活支援，安心して生活できる居住支援や地域での居場所の支援，就労支援等である．これらの支援が，どのような法・制度の下で行われているのか，その支援を展開していく上で，どのような哲学や方法が求められるのか．さらに，ソーシャルワーカーとして，その支援制度を発展させていく為に，どのような運動を組織することが必要か等を学ぶ．
■授業の目的・ねらい	本講義の目的は，次の四つである．|①精神障害とはなにかを理解する．福祉を学ぶものにとって，最低限の精神障害の症状や障害の特徴を学び理解することが必要である為，基礎的な知識を学ぶ．|②精神障害者の地域生活をいくつかの局面に分け考える力を育てる．一つは，地域のソーシャルワーカーとして精神障害者と出会った時に，どのような資源を活用し，どのような支援を行うのかであるる．次に，彼や彼女たちが，危機的な状況と出会った時の局面である．その時に，どのように介入するかである．さらには，彼らが地域で安心して暮らし，仲間と関わり，就労することを支援する局面である．|③精神障害者の地域生活は満ち足りているものではない．現状の制度がどのような課題を持っているのか，システムを充実させる為に必要なソーシャルワーカーが組織する運動について理解する．|

■到達目標	精神障害の特徴と支援ニーズ，現行の支援システムの概要を理解するとともに，政策や制度に規定される支援システムの限界と，その限界を克服する運動の課題を理解する．

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉援助演習（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W39200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	精神障害者の生活のしづらさを理解し、ソーシャルワーク専門職としての専門的な視点や基本的態度を学ぶ。
■授業の概要	精神保健福祉に関するソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等）の事例や当事者の体験談をもとに、ソーシャルワーク専門職としての専門的視点や思考過程、基本的態度を学び、当事者との対等な関係性をどのように構築するのかを考えるとともに、グループワークやロールプレイ、当事者の体験談等から得た気づきをもとに自己洞察を深める。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる基礎的な実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5758 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0857/W5660 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。|
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助演習（夏期)B クラス_対面				単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W39201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	精神障害者の生活のしづらさを理解し、ソーシャルワーク専門職としての専門的な視点や基本的態度を学ぶ。
■授業の概要	精神保健福祉に関するソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等）の事例や当事者の体験談をもとに、ソーシャルワーク専門職としての専門的視点や思考過程、基本的態度を学び、当事者との対等な関係性をどのように構築するのかを考えるとともに、グループワークやロールプレイ、当事者の体験談等から得た気づきをもとに自己洞察を深める。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる基礎的な実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5758 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0857/W5660 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。|
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助演習（集中１)A クラス_対面				単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W39510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	精神障害者の生活のしづらさを理解し、ソーシャルワーク専門職としての専門的な視点や基本的態度を学ぶ。
■授業の概要	精神保健福祉に関するソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等）の事例や当事者の体験談をもとに、ソーシャルワーク専門職としての専門的視点や思考過程、基本的態度を学び、当事者との対等な関係性をどのように構築するのかを考えるとともに、グループワークやロールプレイ、当事者の体験談等から得た気づきをもとに自己洞察を深める。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる基礎的な実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5758 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0857/W5660 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。|
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助演習（集中１)B クラス_対面				単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W39511	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	精神障害者の生活のしづらさを理解し、ソーシャルワーク専門職としての専門的な視点や基本的態度を学ぶ。
■授業の概要	精神保健福祉に関するソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等）の事例や当事者の体験談をもとに、ソーシャルワーク専門職としての専門的視点や思考過程、基本的態度を学び、当事者との対等な関係性をどのように構築するのかを考えるとともに、グループワークやロールプレイ、当事者の体験談等から得た気づきをもとに自己洞察を深める。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる基礎的な実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5758 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0857/W5660 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。|
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助技術演習Ⅰ（秋期)A クラス_対面				単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W40300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	精神保健福祉領域におけるソーシャルワークを学ぶ。その１
■授業の概要	精神保健福祉に関する総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等），医療と共同・連携するソーシャルワーク実践に係る具体的な事例を体系的に取り上げながら，個別指導ならびに集団指導を通して，具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワークやロールプレイング等）を中心とする演習を行う。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる基礎的な実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5759 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0858/W5661 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助技術演習Ⅰ（秋期)B クラス_対面				単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W40301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	精神保健福祉領域におけるソーシャルワークを学ぶ。その１
■授業の概要	精神保健福祉に関する総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等），医療と共同・連携するソーシャルワーク実践に係る具体的な事例を体系的に取り上げながら，個別指導ならびに集団指導を通して，具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワークやロールプレイング等）を中心とする演習を行う。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる基礎的な実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5759 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0858/W5661 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助技術演習Ⅱ（秋期)A クラス_対面				単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W41300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	精神保健福祉領域におけるソーシャルワークを学ぶ。その２
■授業の概要	精神保健福祉に関するソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等）の事例や当事者の体験談をもとに、ソーシャルワーク専門職としての専門的視点や思考過程、基本的態度を学び、当事者との対等な関係性をどのように構築するのかを考えるとともに、グループワークやロールプレイ、当事者の体験談等から得た気づきをもとに自己洞察を深める。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる包括的な視点と実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5760 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0859/W5662 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉援助技術演習Ⅱ（秋期)B クラス_対面				単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W41301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	精神保健福祉領域におけるソーシャルワークを学ぶ。その２
■授業の概要	精神保健福祉に関するソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等）の事例や当事者の体験談をもとに、ソーシャルワーク専門職としての専門的視点や思考過程、基本的態度を学び、当事者との対等な関係性をどのように構築するのかを考えるとともに、グループワークやロールプレイ、当事者の体験談等から得た気づきをもとに自己洞察を深める。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる包括的な視点と実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5760 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0859/W5662 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（秋期)A クラス_対面			単位	2
担当者	塩満　卓			シラバスグループ	W43300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	障害福祉サービス事業所での実習に向けての事前学習|個別および集団指導を通して、医療機関や施設等の機能や役割および精神保健福祉援助に必要な知識，技術等について学修する。授業全体を通して精神保健福祉援助実習の枠組みを理解するとともに、各自の実習テーマと計画書の作成を行う。
■授業の概要	個別および集団指導を通して、医療機関や施設等の機能や役割および精神保健福祉援助に必要な知識，技術等について学修する。授業全体を通して精神保健福祉援助実習の枠組みを理解するとともに、各自の実習テーマと計画書の作成を行う。そのために、以下の項目をおり込みながら展開する。|①本授業は、地域実習（障害福祉サービス事業等）を主体的に取り組むための事前学習として、精神保健福祉士の専門知識および援助方法についての理解を深め、ソーシャルワーク専門職に求められる専門的視点と基本的態度を学ぶ。|②精神障がい者及び家族のおかれている社会的状況や生活実態、生活上の困難（生活のしづらさ)、社会的障壁等について理解を深め、社会福祉学を基盤とする精神保健福祉士の多面的な視点と専門性（価値・知識・技術）から精神障がい者を“生活者”として捉え、その生活を包括的に支援する力を習得する。|③社会福祉の基礎・共通科目と精神保健福祉の専門科目で学んだ多様な知識・理論・技術を統合し、自己洞察できる力とソーシャルワーク専門職として行動（役割遂行）できる力を醸成する。|④精神保健福祉現場の課題や自分自身の問題意識をもとに、実習テーマ・実習課題を考え、実習計画書を作成する。個別発表やグループワークを通じて参加型授業を実施し、受講生相互の意見交流の場を持つ。
■授業の目的・ねらい	精神保健福祉援助実習の意義について理解する。また、精神障害者のおかれている現状の把握と相談援助に係る知識や技術について具体的かつ実際的に理解するとともに、実践的な技術等を体得する。|①精神保健福祉士の使命と役割、職業倫理について学び、ソーシャルワーク専門職として獲得すべき専門性（価値・知識・技術）及び基本的態度、権利擁護の視点について、理解を深めることをねらいとしている。|②精神障がい者及び家族のおかれている社会的状況を多面的に捉え、その生活実態や生活上の困難（生活のしづらさ）を包括的に支援する視点を形成し、地域生活支援に関する問題意識を醸成する。|③障害福祉サービス事業や地域生活支援事業の体系を理解し、精神障がい者の自己決定を尊重しながら地域生活を継続するソーシャルワーク実践の方法と必要な社会資源について考える。|④精神保健福祉現場の課題や自分自身の問題意識をもとに実習テーマや実習課題についての考察を重ね、主体的なグループ討議への参加を経て、地域実習（障害福祉サービス事業等）の実習計画書を立案する。

■到達目標	具体的な場面を想定し、これまでの学習と関連づけながら、精神保健福祉援助の対象理解，技術，価値など実習で求められる知識と態度を獲得し、実践への関心をもつことができる。さらに実習に対する自身の目標の言語化、自らの実習テーマの決定と同時に、テーマに沿った計画書の作成、こうした一連の事前学習のプロセスを経て各自が実習の準備を主体的に行うことができるようになる。　この目標に到達するために、以下の項目をおり込みながら展開する。|①精神保健福祉士を目指す動機と精神保健福祉領域における問題意識を明確にする。|②ソーシャルワーク専門職としての専門的な視点及び基本的態度を形成し、職業倫理に基づいた行動がとれる。|③精神障がい者及び家族の生活のしづらさについて理解し、その地域生活支援のために精神保健福祉士がどのようなソーシャルワーク実践（個別・集団）を展開しているのかを説明できるとともに自らが実践できるようになる。|④ソーシャルワーク専門職に求められる資質や技能、自己の課題把握などを見極め、精神障がい者を“生活者”として捉える視点

	をもとに、総合的に対応できる力を習得する。⑤自らの問題意識をもとに障害福祉サービス事業所での現場実習を想定した実習計画書を立案する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	スクーリング受講許可後、スクーリング受講までに実習オリエンテーション（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングおよび「実習判定試験」（※1）に合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。※1　2020 年度以降入学者のみ「実習判定試験」受験対象
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	30%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（秋期)B クラス_対面			単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W43301
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	障害福祉サービス事業所での実習に向けての事前学習|個別および集団指導を通して、医療機関や施設等の機能や役割および精神保健福祉援助に必要な知識，技術等について学修する。授業全体を通して精神保健福祉援助実習の枠組みを理解するとともに、各自の実習テーマと計画書の作成を行う。
■授業の概要	個別および集団指導を通して、医療機関や施設等の機能や役割および精神保健福祉援助に必要な知識，技術等について学修する。授業全体を通して精神保健福祉援助実習の枠組みを理解するとともに、各自の実習テーマと計画書の作成を行う。そのために、以下の項目をおり込みながら展開する。|①本授業は、地域実習（障害福祉サービス事業等）を主体的に取り組むための事前学習として、精神保健福祉士の専門知識および援助方法についての理解を深め、ソーシャルワーク専門職に求められる専門的視点と基本的態度を学ぶ。|②精神障がい者及び家族のおかれている社会的状況や生活実態、生活上の困難（生活のしづらさ)、社会的障壁等について理解を深め、社会福祉学を基盤とする精神保健福祉士の多面的な視点と専門性（価値・知識・技術）から精神障がい者を“生活者”として捉え、その生活を包括的に支援する力を習得する。|③社会福祉の基礎・共通科目と精神保健福祉の専門科目で学んだ多様な知識・理論・技術を統合し、自己洞察できる力とソーシャルワーク専門職として行動（役割遂行）できる力を醸成する。|④精神保健福祉現場の課題や自分自身の問題意識をもとに、実習テーマ・実習課題を考え、実習計画書を作成する。個別発表やグループワークを通じて参加型授業を実施し、受講生相互の意見交流の場を持つ。
■授業の目的・ねらい	精神保健福祉援助実習の意義について理解する。また、精神障害者のおかれている現状の把握と相談援助に係る知識や技術について具体的かつ実際的に理解するとともに、実践的な技術等を体得する。|①精神保健福祉士の使命と役割、職業倫理について学び、ソーシャルワーク専門職として獲得すべき専門性（価値・知識・技術）及び基本的態度、権利擁護の視点について、理解を深めることをねらいとしている。|②精神障がい者及び家族のおかれている社会的状況を多面的に捉え、その生活実態や生活上の困難（生活のしづらさ）を包括的に支援する視点を形成し、地域生活支援に関する問題意識を醸成する。|③障害福祉サービス事業や地域生活支援事業の体系を理解し、精神障がい者の自己決定を尊重しながら地域生活を継続するソーシャルワーク実践の方法と必要な社会資源について考える。|④精神保健福祉現場の課題や自分自身の問題意識をもとに実習テーマや実習課題についての考察を重ね、主体的なグループ討議への参加を経て、地域実習（障害福祉サービス事業等）の実習計画書を立案する。
■到達目標	具体的な場面を想定し、これまでの学習と関連づけながら、精神保健福祉援助の対象理解，技術，価値など実習で求められる知識と態度を獲得し、実践への関心をもつことができる。さらに実習に対する自身の目標の言語化、自らの実習テーマの決定と同時に、テーマに沿った計画書の作成、こうした一連の事前学習のプロセスを経て各自が実習の準備を主体的に行うことができるようになる。　この目標に到達するために、以下の項目をおり込みながら展開する。|①精神保健福祉士を目指す動機と精神保健福祉領域における問題意識を明確にする。|②ソーシャルワーク専門職としての専門的な視点及び基本的態度を形成し、職業倫理に基づいた行動がとれる。|③精神障がい者及び家族の生活のしづらさについて理解し、その地域生活支援のために精神保健福祉士がどのようなソーシャルワーク実践（個別・集団）を展開しているのかを説明できるとともに自らが実践できるようになる。|④ソーシャルワーク専門職に求められる資質や技能、自己の課題把握などを見極め、精神障がい者を“生活者”として捉える視点

	をもとに、総合的に対応できる力を習得する。⑤自らの問題意識をもとに障害福祉サービス事業所での現場実習を想定した実習計画書を立案する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	スクーリング受講許可後、スクーリング受講までに実習オリエンテーション（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングおよび「実習判定試験」（※1）に合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。※1　2020 年度以降入学者のみ「実習判定試験」受験対象
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	30%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（夏期)A クラス_対面			単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W44200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	地域実習の事後学習及び精神科医療機関での実習に向けての事前学習
■授業の概要	①本授業では、地域実習（障害福祉サービス事業等）を省察する事後学習、そして精神科医療機関での実習を主体的に取り組むための事前学習に取り組む。|②地域実習での援助場面を振り返り、精神障がい者へのかかわりを通じて学んだことや気づいたことを言語化し、ソーシャルワークの専門性（価値・知識・技術）に照らし合わせて、生活問題や福祉現場の課題を見極め、自らの学習課題や実践課題を明確にする。|③精神障がい者及び家族のおかれている社会状況を再認識する過程を通じて、精神保健福祉士の専門性についての理解を深め、精神科医療機関でのソーシャルワーク実践に求められる基本的態度と視点を学ぶ。|④精神科医療機関におけるソーシャルワーク専門職の存在意義に関わる考察を深め、精神障がい者を“生活者”としてみる視点を獲得し、多職種連携における精神保健福祉士の役割や機能について考える。|⑤精神保健福祉法に定められた入院形態や行動制限（隔離・身体拘束)、権利擁護制度について学び、退院後生活環境相談員としての役割や長期入院者への退院支援に向けたソーシャルワーク実践について考察を深め、精神保健福祉士の多面的かつ包括的な視点を獲得する。|⑥精神科医療の現状と課題に関する問題意識をもとに、実習テーマ・実習課題を考え、実習計画書を作成する。個別発表やグループワークを通じて参加型授業を実施し、受講生相互の意見交流の場を持つ。
■授業の目的・ねらい	①地域実習（障害福祉サービス事業等）を省察し、個々の援助場面から学んだことや気づいたことを言語化し、自己洞察の過程を経て、自らの学習課題と実践上の課題を明らかにする。|②精神科医療機関での実習に向けて、医療福祉現場で求められるソーシャルワーク専門職の高い水準の専門性（価値・知識・技術）を養うことを目標にする。|③精神障がい者及び家族のおかれている社会的状況を多面的に捉え、その生活実態や生活上の困難（生活のしづらさ）を包括的に支援する視点を形成する。|④精神科医療機関での精神保健福祉士の役割や機能を理解し、多職種連携のなかでのソーシャルワーク専門職の存在意義を学び、精神障がい者が利用できる保健・医療・福祉制度や障害福祉サービス等について説明できるようになる。|⑤精神科医療機関の調査を通じて、現場実習で求められる精神保健福祉士の専門性について考察を深め、具体的な実習?標や実習内容を考える。|⑥地域の精神科医療機関の現状と課題について調べ、自らの問題意識をもとに実習テーマや実習課題についての考察を重ね、主体的なグループ討議への参加を経て、実習計画書を立案する。
■到達目標	①地域実習（障害福祉サービス事業等）の省察を通じて、ソーシャルワーク専門職としての自己の学習課題と実践上の課題を明確にする。|②精神科医療機関におけるソーシャルワーク専門職としての専門的な視点及び基本的態度を獲得する。|③精神科医療機関におけるソーシャルワーク専門職の存在意義に関わる考察を深め、精神障がい者を“生活者”として捉える視点を獲得し、多職種連携における精神保健福祉?の役割や機能について説明できるようになる。|④精神科医療機関における入院形態と権利擁護制度について理解し、退院後生活環境相談員としての役割や長期入院者への退院支援に向けたソーシャルワーク実践について考察を深め、精神保健福祉士の多面的かつ包括的な視点を獲得する。|⑤精神科リハビリテーションの理念や方法を理解し、グループワークの原則や方法に関する考察を深め、主体的に実践を担えるようになる。|⑥精神科医療の現状と課題に関する問題意識をもとに、実習テーマ・実習課題を考え、実習計画書を立案する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（夏期)B クラス_対面			単位	2
担当者	髙木　健志			シラバスグループ	W44201
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	地域実習の事後学習及び精神科医療機関での実習に向けての事前学習
■授業の概要	①本授業では、地域実習（障害福祉サービス事業等）を省察する事後学習、そして精神科医療機関での実習を主体的に取り組むための事前学習に取り組む。|②地域実習での援助場面を振り返り、精神障がい者へのかかわりを通じて学んだことや気づいたことを言語化し、ソーシャルワークの専門性（価値・知識・技術）に照らし合わせて、生活問題や福祉現場の課題を見極め、精神保健福祉士に求められる個人のプライバシー保護と守秘義務の理解、精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務の理解、自らの学習課題や実践課題を明確にする。|③精神障がい者及び家族のおかれている社会状況を再認識する過程を通じて、精神保健福祉士の専門性についての理解を深め、精神科医療機関でのソーシャルワーク実践に求められる基本的態度と視点を学ぶ。|④精神科医療機関におけるソーシャルワーク専門職の存在意義に関わる考察を深め、精神障がい者を“生活者”としてみる視点を獲得し、多職種連携における精神保健福祉士の役割や機能について考える。|⑤精神保健福祉法に定められた入院形態や行動制限（隔離・身体拘束)、権利擁護制度について学び、退院後生活環境相談員としての役割や長期入院者への退院支援に向けたソーシャルワーク実践について考察を深め、精神保健福祉士の多面的かつ包括的な視点を獲得する。|⑥精神科医療の現状と課題に関する問題意識をもとに、実習テーマ・実習課題を考え、実習計画書を作成する。個別発表やグループワークを通じて参加型授業を実施し、受講生相互の意見交流の場を持つ。
■授業の目的・ねらい	①地域実習（障害福祉サービス事業等）を省察し、個々の援助場面から学んだことや気づいたことを言語化し、自己洞察の過程を経て、自らの学習課題と実践上の課題を明らかにする。|②精神科医療機関での実習に向けて、医療福祉現場で求められるソーシャルワーク専門職の高い水準の専門性（価値・知識・技術）を養うことを目標にする。|③精神障がい者及び家族のおかれている社会的状況を多面的に捉え、その生活実態や生活上の困難（生活のしづらさ）を包括的に支援する視点を形成する。|④精神科医療機関での精神保健福祉士の役割や機能を理解し、多職種連携のなかでのソーシャルワーク専門職の存在意義を学び、精神障がい者が利用できる保健・医療・福祉制度や障害福祉サービス等について説明できるようになる。|⑤精神科医療機関の調査を通じて、現場実習で求められる精神保健福祉士の専門性について考察を深め、具体的な実習目標や実習内容を考える。|⑥地域の精神科医療機関の現状と課題について調べ、自らの問題意識をもとに実習テーマや実習課題についての考察を重ね、主体的なグループ討議への参加を経て、実習計画書を立案する。
■到達目標	①地域実習（障害福祉サービス事業等）の省察を通じて、ソーシャルワーク専門職としての自己の学習課題と実践上の課題を明確にする。|②精神科医療機関におけるソーシャルワーク専門職としての専門的な視点及び基本的態度を獲得する。|③精神科医療機関におけるソーシャルワーク専門職の存在意義に関わる考察を深め、精神障がい者を“生活者”として捉える視点を獲得し、多職種連携における精神保健福祉士の役割や機能について説明できるようになる。|④精神科医療機関における入院形態と権利擁護制度について理解し、退院後生活環境相談員としての役割や長期入院者への退院支援に向けたソーシャルワーク実践について考察を深め、精神保健福祉士の多面的かつ包括的な視点を獲得する。|⑤精神科リハビリテーションの理念や方法を理解し、グループワークの原則や方法に関する考察を深め、主体的に実践を担えるようになる。|⑥精神科医療の現状と課題に関する問題意識をもとに、実習テーマ・実習課題を考え、実習計

	画書を立案する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉援助技術現場実習指導Ⅲ（冬期)A クラス_対面			単位	2
担当者	神谷　純			シラバスグループ	W45400
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	精神保健福祉士実習の総括とソーシャルワーク専門職としてのキャリア形成
■授業の概要	精神科医療機関での実習を振りかえり、学んだことや気づいたことをグループワークで報告し、相互に分かち合う。また、精神保健福祉領域のソーシャルワーク実践で求められる専門性について、医療実習とともに障害福祉サービス事業所での実習から得た自己の課題を含め、今後の実践上の課題を整理し、自らのキャリア形成について考える。
■授業の目的・ねらい	精神科等医療機関および障害者関係施設等での実習で，具体的に学んだことや気づいたこと，スーパービジョンの内容、実習記録などをもとに、実習場面の振り返りと自己洞察を行い、ソーシャルワーク専門職としての自己課題を明らかにし、今後のキャリア形成について考える。
■到達目標	自らの実習経験を振りかえり，精神保健福祉現場で取り組んだ内容や目標などについて客観的に整理する。また、グループワークでの相互報告や分かち合いの過程から自己洞察を図り、今後の課題整理とキャリ形成の道すじを明確にする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉援助技術現場実習指導Ⅲ（冬期)B クラス_対面			単位	2
担当者	塩満　卓			シラバスグループ	W45401
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	精神保健福祉士実習の総括とソーシャルワーク専門職としてのキャリア形成
■授業の概要	精神科医療機関での実習を振りかえり、学んだことや気づいたことをグループワークで報告し、相互に分かち合う。また、精神保健福祉領域のソーシャルワーク実践で求められる専門性について、医療実習とともに障害福祉サービス事業所での実習から得た自己の課題を含め、今後の実践上の課題を整理し、自らのキャリア形成について考える。
■授業の目的・ねらい	精神科等医療機関および障害者関係施設等での実習で，具体的に学んだことや気づいたこと，スーパービジョンの内容、実習記録などをもとに、実習場面の振り返りと自己洞察を行い、ソーシャルワーク専門職としての自己課題を明らかにし、今後のキャリア形成について考える。
■到達目標	自らの実習経験を振りかえり，精神保健福祉現場で取り組んだ内容や目標などについて客観的に整理する。また、グループワークでの相互報告や分かち合いの過程から自己洞察を図り、今後の課題整理とキャリ形成の道すじを明確にする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	介護概論（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	小田　史			シラバスグループ	W51200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	介護の対象者を理解するために必要な専門職の行なう観察、コミュニケーションについての基本を確認する。要介護高齢舎の介護（介護過程）や障害者の生活支援（個別支援計画）の展開の基本について学び、利用者主体の介護、意思決定支援の実際について学ぶ。
■授業の概要	さまざまな介護、生活支援の場面において専門職として質の高い支援を行なうためには、対象者を理解することが必要となる。そのためには高いレベルの観察力、コミュニケーション技術が求められる。授業ではコミュニケーションの意義、目的を理解した上で、基本的なコミュニケーション技法（傾聴、共感、意欲を引き出す、意思を汲み取る）をロールプレイで体験し、グループディスカッションで気づきを出し合い、対人援助職のコミュニケーションの在り方について考えていく。またチーム労働、協働によってなりたつ職種であるということから、連携の在り方、記録や報告、会議の持ち方など実践的な学びも取り入れる。介護や生活支援の先進的な取り組みについても紹介し、これまで学んだ理論と実践との結びつきを意識できるようにする。
■授業の目的・ねらい	対人援助職に求められるコミュニケーション、利用者理解の基本について理解し、体験と結びつけた理解をする。介護や生活支援においては知識や技術だけでなく、人間観が重要であることに気づく。

■到達目標	対人援助職に求められるコミュニケーション、利用者理解の基本について体験と結びつけた理解ができている。|介護や生活支援においては知識や技術だけでなく、人間観が重要であることに気づき、自らの支援者観を振り返ることができている。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	授業の内容に沿ったリポートを授業内で作成する
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	演習体験をまとめ発表する
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉総合実習指導（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	村上　武敏			シラバスグループ	W52200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	社会福祉総合実習に向けて、児童、障害、高齢、各領域の生活問題をめぐる問題意識を深めるべく学習する。それらは独自な問題として表出しつつ根底でつながっているところがある。その総体を理解することが問題意識をより明確にするはずである。高校の福祉科に在籍する高校生には、目の前に表出する生活問題を社会構造的に理解し、社会的な解決を志向する姿勢の獲得が望まれるだろう。本科目の履修者が、そのための指導力を獲得することを最終的な目標として学習を進める。
■授業の概要	児童、障害、高齢、各領域における諸問題と、社会福祉の政策と実践の現状と課題を明らかにしつつ問題意識を深める。
■授業の目的・ねらい	社会福祉総合実習に向けて問題意識を明確にすることともに、将来的に福祉教育を担う際の指導力を養う。
■到達目標	１．社会福祉にかかわる諸問題について構造的に理解を深める。|２．社会福祉の政策と実践について課題を認識する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	50	スクーリング受講許可後、スクーリング受講前までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	50	
·その他	0	

授業科目	子どもの理解と援助（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小川　徳子			シラバスグループ	W68100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	乳幼児期における心理的発達を理解し、発達を支援する関わり方を知る
■授業の概要	0～6 歳までの認知的発達･社会的発達の流れと、その発達的な変化はこども個人や集団での言動にどのようあらわれるのかを知る。また、視聴覚資料によりこどもの行動を観察・記録し、保育者がどのように関わることが、こどもひとりひとりの発達支援につながるのかを、具体的に考えてみる。
■授業の目的・ねらい	保育の現場において、こどもの心理的発達に即した保育実践を実現できる保育者となるため、次のことを学ぶ。|1．乳幼児期の認知的発達・社会的発達の流れを知る。|2．こどもそれぞれの発達の状態を把握するための視点を知る。|3．発達に応じた関わり方を的確に判断できるようになる。
■到達目標	１．「認知的・社会的に発達する」とは、どんな力を発揮できるようになることなのか、発達の実態を理解する。|2．発達過程に応じた関わり方を把握し、年齢や障害の有無にかかわらず、こどもひとりひとりへの発達に適した対応の仕方を考えられるようになる。|3．保育者どうし、保育者と保護者とが連携することの効果について、事例を通して知る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	20%	
･その他	0%	

授業科目	子どもの食と栄養（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	（未 定）			シラバスグループ	W55200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	小児期の食生活と栄養について学習し、保育者として食の面から支援が出来る力を身に着ける。 |
■授業の概要	子どもの栄養と食生活が生涯にわたる健康の基礎であり、その後の心と身体の健康に影響することを理解する。|食品や栄養に関する基礎的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。|家庭や児童養護施設における食生活の現状と課題について学び、さらに特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。|子どもたちが「食事は楽しいものである」と感じるような環境を考え、保育者として食育や保護者への支援ができる力を身に着ける.。
■授業の目的・ねらい	子どもの健全な発育・発達を食の面から支援するために、以下の項目について理解し、食生活におけるさまざまな課題を科学的な根拠に基づいて考え、対応できるようになる。|1）食品や栄養に関する基礎的知識を習得する。|2）子どもの発育・発達に応じた食生活を理解する。|3）様々な子どもの食生活の現状と課題について学び、それらに配慮した食生活や栄養について理解する。|
■到達目標	1）食品や栄養に関する基礎的知識を習得し、説明することができる。 |2）子どもの発育・発達の特徴を理解し、段階に応じた食生活の援助ができる。|3）家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を理解し、適切な食の支援ができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	70%	
·リポート試験(SR 履修)	0%|	リモート試験にて実施する
·授業内発表	10%	
·授業内試験	0%|	
·授業内課題	10%	
·その他	10%|	

授業科目	保育内容総論（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	武内　裕明			シラバスグループ	W69100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	「保育内容」の基本を学ぶ。
■授業の概要	保育所保育指針等における「保育に関する基本原則」「保育の計画及び評価」「保育の内容」を関連づけて保育内容を理解し、保育内容の指導の総合性を理解する。また、保育内容の歴史的変遷についても理解を深める。保育内容と子ども理解との関わり、養護と教育の一体的展開を実践事例を踏まえて理解し、保育の内容の指導における計画や記録の重要性を理解する。
■授業の目的・ねらい	保育所保育指針等に基づいて、保育内容指導の全体的構造を理解したうえで、保育の実際に即しながら保育内容の指導について具体的に学ぶ。
■到達目標	１．保育所保育指針等に基づいて、保育内容指導の総合性を理解し、保育の基本原則，保育の計画及び評価、子ども理解、保育の内容を関連付けて理解する。 ２．保育の基本を踏まえた保育内容の展開を具体的に構想することができる。 ３．保育の計画と記録の保育内容指導における重要性を説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	保育内容演習「健康」（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	三柴　英昭			シラバスグループ	W56200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	自然や人とのかかわりや遊びから健康を考える。
■授業の概要	子ども一人一人の心身の発達には、集団の力が必要であり、友達と様々な感情を共有し、いろいろなことを体感しながら自ら行動し、自由な思いを十分に発揮しようとする自発性が必要となる。遊べない子どもが多くなってきている現在、何事にも驚きや感動をもってともだちとともに健康的に生活し、伸び伸びと自己発揮できるように支えてやることが大切である。ソーシャルディスタンスをとった協同的な遊びの中で、ともだちと一緒に何かに集中し、人とつながる喜びや共にいることの喜びを感じ、お互いを受け入れていくことのすばらしさに触れ、子供の視点に立った教育・保育の質の向上にも着目し、健康を考えていく。また生活環境、遊びの中で好奇心、忍耐力、人との関係をどのように築いていくのかを考える。
■授業の目的・ねらい	クラスの人たちと社会的距離をとりながら色々な遊びや人と心を伝え合う喜びを体感し、個々の思いを十分に発揮し、楽しみ、感動を持ち、その活動の中で育つ心から健康を考えていくことを目的とする。最終講時の試験と健康的な遊びの実践授業内発表とで 100 点満点とする。
■到達目標	目に見える行動、活動だけでなく、その時その時の遊びや経験を通し、子供の心を理解できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	保育内容演習「人間関係」（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	田中　文昭			シラバスグループ	W60200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	子どもの人間関係の基本的構造を理解し、保育者としての基本姿勢を身に付ける。
■授業の概要	領域「人間関係」の意義や基本的な考え方を知り、子どもにとっての人間関係の大切さを学ぶとともに、保育者としての基本姿勢についても学ぶ。講義では、保育実践事例を適宜、紹介して、人と関わる力を育む保育の指導方法を知り、学びが深まるようにする。
■授業の目的・ねらい	子どもの発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。
■到達目標	１．領域「人間関係」のねらい・内容及びその位置づけを理解できる。|２．子どもの発達や学びの過程を理解し、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。|３．領域「人間関係」に係る現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	70	
·リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。|到達目標の内容に対する到達度をはかり、評価する。
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	30	
·その他	0	講義の理解を評価する。

授業科目	保育内容演習「環境」（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	林　悠子			シラバスグループ	W58200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	子どもと環境との関わりの意義を理解する
■授業の概要	保育所保育指針」において保育内容はどのように位置づけられているか、「5 領域」の考え方、を理解したうえで、5 領域のうち特に「環境」に焦点を当て、ねらいと内容について具体的に考えてゆく。　|
■授業の目的・ねらい	・保育内容についての基本的な理解と領域「環境」のねらいと内容について理解する。
■到達目標	・「保育所保育指針」における保育内容の位置づけおよび 5 領域の捉え方について説明することができる。|・領域「環境」のねらいと内容について、保育実践での展開の具体例を考え発表することができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	・リポート試験にて実施し、以下の 2 点が満たされている場合を合格ライン（60 点）とする。|1　解答の内容が問題・到達目標に沿ったものであること。|2　引用箇所･文献が明記されていること。
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	・授業への積極的参加（議論、発表、質問）
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	保育内容演習「言葉」（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	花房　ナオミ			シラバスグループ	W59200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T·S　/　S	

■授業のテーマ	①領域「言葉」のねらいと内容、言葉の発達過程を理解する|②乳幼児の言葉を育てる保育者の言葉かけや援助のあり方を学ぶ|③豊かな言葉を育むために児童文化財を活用した教材研究やその具体的な指導法などを身につける|
■授業の概要	子どもが言葉を身につける過程や環境を考察しよう。また言葉を育む児童文化財について学ぼう。絵本、ペープサート、パネルシアター、紙皿シアターなど様々な技法の特徴を理解し、創作・発表を行い、子どもにお話を伝えるための技術を身につける。|
■授業の目的・ねらい	子どもが言葉を獲得する過程、一人ひとりの発達に応じた適切な援助や保育者の役割を理解する。|豊かな言葉を育む児童文化財への関心を高め、活用する力を身につける。
■到達目標	（１）　乳幼児期の言葉の発達が理解できるようになる。|（２）　言葉を育む基礎的知識・技術を習得する。|（３）　模擬保育や指導案作成等を通して、具体的保育技術を習得する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	0	
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	60	
·授業内試験	0	
·授業内課題	40	
·その他	0	

授業科目	保育内容演習「表現」（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	三柴　英昭			シラバスグループ	W57200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	自然や人とかかわり、自らの経験から、表現を考える。
■授業の概要	子ども一人一人の心身の発達には、集団の力が必要であり、友だちと様々な感情を共有し、いろいろなことを体験しながら、自ら行動し、自由な思いを十分に発揮しようとする自発性が必要となる。社会的距離をとった協同的な遊びの経験の中で、友だちと一緒に何かに集中し、人とつながる喜びや共にいることの喜びを感じ、お互いに受け入れていくことのすばらしさに触れ、子供の視点に立った教育・保育の質の向上にも着目し、表現を考えていく。
■授業の目的・ねらい	クラスの人たちと３密を避け、遊びを通して喜びを体験しながら、個々の思いを十分に発揮し、楽しみ、感動をもち、その活動の中で育つ心から表現を考えていくことを目的とする。最終講時の試験と、伸び伸びとした表現活動の実践授業内発表とで、100 点満点とする。
■到達目標	子どもの日常の遊びや経験から、その時その時の子どもの思いや気持ちを素直に表現することを理解していく。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0‖	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	保育内容の理解と方法１（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	臼井　奈緒			シラバスグループ	W70200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	幼児の感性を育む音楽・絵画・身体表現とその指導法についての理解を深める。
■授業の概要	子どもの心身の発達と音楽表現に関する知識と技術を学ぶ。具体的には、身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽に親しむ経験ができる保育環境づくり、それらの経験に基づく表現活動と音楽表現を結びつける遊びに展開するために、習得した知識や技術を通して模擬保育をすることで省察を深めていくことを目指す。
■授業の目的・ねらい	さまざまな音楽へのアプローチ方法を学び、領域「表現」における保育技術を高める。
■到達目標	音楽表現とそれ以外の表現方法（言葉・身体・絵画）を結びつけて保育に生かす技術と指導力を身につける。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	30%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	10%	
･その他	40%	

授業科目	保育内容の理解と方法２（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	臼井　奈緒			シラバスグループ	W71200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	幼児の感性を育む音楽・絵画・身体表現を探求する
■授業の概要	子どもの心身の発達と音楽表現に関する知識と技術を学ぶ。具体的には、身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽に親しむ経験ができる保育環境づくり、それらの経験に基づく表現活動と音楽表現を結びつける遊びに展開するために、習得した知識や技術を通して模擬保育をすることで省察を深めていくことを目指す。
■授業の目的・ねらい	さまざまな音楽へのアプローチ方法を学び、領域「表現」における保育技術を高める。
■到達目標	音楽表現とそれ以外の表現方法（言葉・身体・絵画）を結びつけて保育に生かす技術と実践力を身につける。|音楽を味わう方法を知り、他者に音楽の魅力を伝えることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	20%	
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	50%	
･その他	20%	

授業科目	子どもの健康と安全（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	中野　千恵美			シラバスグループ	W54200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	乳幼児のこころとからだを育む小児保健の実際
■授業の概要	1　乳幼児の発育発達と育児|2　子どもに多い病気と看護|3　児童虐待の現状と課題|4　感染症と予防|5　子どもの保健と関係法規、制度|6　子どもを取り巻く環境　　他||以上、子どもの保健を事例や実習を取り入れながら学ぶ
■授業の目的・ねらい	1　子どもの保健関係法規を知る|2　乳幼児の年齢に応じた発育発達を知る|3　子どもの病気や事故予防を知り応急手当てができる|4　子どものこころを理解し虐待予防の視点を学ぶ|5　感染症の正しい知識を持ち対応できる　　など‖配布資料を読み正しく分析し小児保健を理解できる
■到達目標	学習内容を理解し保育士等の心構えを養う|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	設題に対して論述式で回答
･授業内発表	10|	
･授業内試験	0	発表など
･授業内課題	20	
･その他	10	

授業科目	障害児保育（冬期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	井上　洋平			シラバスグループ	W62400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	障害の特徴も踏まえた子どもの発達的理解のありようを学ぶ。障害のある子どもの保育の実際について学ぶ。
■授業の概要	権利が平等に保障されるために追加の支援を必要とする子どもへの保育であることを理解する。具体的には，障害の種別やその特性の理解はもちろんのこと，何らかの支援を必要とする子どもたちの実態も踏まえ，「権利の平等性」と「追加の支援」を統一的に理解していく。
■授業の目的・ねらい	障害のある子ども一人ひとりの実態に即した保育をおこなう際に必要となる発達的視点に基づく子ども理解を踏まえた上で、一人ひとりを丁寧に見ることと集団づくりは決して対立するものではないことを理解することを目的とする。こうした理解が、実践現場で出会う多様な事例に対応する際の基盤となることを意図している。
■到達目標	①発達と障害の相互関係を念頭において子どもの行動を検討することができる。②集団づくりにおける個人と集団の関係を、実践上の難しさも踏まえて説明することができる。③授業を通じた理解の深まりを自分なりの言葉で説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	到達目標①②③の観点からリポート試験にて評価する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	社会的養護２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	長瀬　正子			シラバスグループ	W64200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	社会的養護の実践を当事者の声とともに学ぶ
■授業の概要	社会的養護の実践の詳細を学び、その現状と課題を理解する。その際、社会的養護における支援者の実践を読み解くこと、当事者の声を聴きとることを重視する。社会的養護で育つ子どもに必要な養育や支援について考察するなかで、自らの子ども観、家族観、養育観、援助観を多様な側面から問い直す機会にしていくことを目指している。
■授業の目的・ねらい	次の４つの観点における習得と達成を重視する。|（１）社会的養護における子どもの権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。|（２）家庭養護や施設養護等さまざまな社会的養護の形態でなされる社会的養護の営みの実際について学ぶ。|（３）社会的養護の当事者の声から社会的養護におけるニーズを把握し、理解する。|（４）社会的養護を通し、自らの子ども観、家族観、養育観、援助観を多様な側面から問い直す。|評価については、リポート課題の提出を課す。
■到達目標	・社会的養護で育つ子どもの権利について学び、その保障と自立を支えるための理念と方法を学び、現状と課題を考察する。|・社会的養護で育つ子どもに必要な養育や支援について考察するなかで、自らの子ども観、家族観、養育観、援助観を多様な側面から問い直す。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80%	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	10%	
･その他	0	

授業科目	子育て支援（春期)A クラス_対面				単位	1
担当者	鎮　朋子			シラバスグループ	W63100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	子育て支援の意義と、多様な子育て支援施策の実際について学び、保育士の役割を知る。
■授業の概要	子育て支援が必要となった背景、政府の施策の変遷を知る。保育士が保育現場で実践する子育て支援内容について理解する。また事例検討や意見交換を通してより具体的な学びを深める。
■授業の目的・ねらい	(1)　子育て支援の取り組みの必要性を把握するため、現代社会の家庭、子どもの現状や課題、ニーズを知る。|(2)　保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。|(3)　事例検討等を通して子育て支援の実際を体験し、子育て支援の必要な保護者への理解を深め実践力を養う。
■到達目標	(1)　子育て支援が必要な背景を説明できる。|(2)　子育て支援施策の概要を説明できる。|(3)　保育士の子育て支援の役割や保育相談支援技術について理解できる。|(4)　保育士に求められる子育て支援の実践力の基礎を身に着けることができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	W66100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	保育実習に臨むための基礎的な知識と態度を身につける。
■授業の概要	実習の意義と目的を理解し、保育実習の基本的内容を学ぶ。また、保育所および児童福祉施設についての理解を深め、実習に向けての自らの課題と心構えを形成する。　|
■授業の目的・ねらい	１．保育実習の意義・目的を理解する。|２．実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。|３．実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。|４．実習記録・保育案の作成方法や内容について具体的に理解する。
■到達目標	実習の意義・目的等を理解したうえで、自分の実習課題を明確にし、実習計画書を作成することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	スクーリング受講許可後、スクーリング受講前までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	70	授業の最終コマで、試験課題を提示します。
･授業内発表	30	授業の最終コマで、リポート課題を提示します。
･授業内試験	0	授業内発表として、実習への事前準備としての取り組み内容、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等）を総合的に評価します。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導１（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	柏 まり			シラバスグループ	W66300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	保育実習に臨むための基礎的な知識と態度を身につける。
■授業の概要	実習の意義と目的を理解し、保育実習の基本的内容を学ぶ。また、保育所および児童福祉施設についての理解を深め、実習に向けての自らの課題と心構えを形成する。　|
■授業の目的・ねらい	１．保育実習の意義・目的を理解する。|２．実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。|３．実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。|４．実習記録・保育案の作成方法や内容について具体的に理解する。
■到達目標	実習の意義・目的等を理解したうえで、自分の実習課題を明確にし、実習計画書を作成することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	スクーリング受講許可後、スクーリング受講前までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	70	授業の最終コマで、試験課題を提示します。
･授業内発表	30	授業の最終コマで、リポート課題を提示します。
･授業内試験	0	授業内発表として、実習への事前準備としての取り組み内容、授業への積極性（質問、協働作業の関わり等）を総合的に評価します。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	保育実践演習（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	中西　さやか			シラバスグループ	W67200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	これまでの学びをふり返り、「私の保育者像」を考える
■授業の概要	これまでの学びを振り返り、自らの子ども観や保育観を再確認し、それぞれが目指す保育者像について探求する。
■授業の目的・ねらい	これまでの学びをとおして形成された子ども観や保育観を振り返り、自分の保育者像を具体的に考えることを目的とする。
■到達目標	・これまでの学びを踏まえ、自らの子ども観や保育観を説明することができる。 |・自らが目指す保育者像について、多様な観点から考察し、具体的に語ることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大森　弘子			シラバスグループ	W72100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	充実した保育実習を行うための準備を行う。|
■授業の概要	本授業では、施設における保育実習の意義と目的を確認する。
■授業の目的・ねらい	保育実習は、今まで学んだ知識を保育実践に結び付けていく大切な機会である。そのため、本科目は施設における保育実践現場において、これまで学んできた知識や技能を総合的に関連付ける力と保育実践に応用する力とを養うものである。
■到達目標	受講生が施設での充実した保育実習を行うための準備をすること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	20	
･授業内試験	20	
･授業内課題	30|	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導２（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大森　弘子			シラバスグループ	W72300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	充実した保育実習を行うための準備を行う。
■授業の概要	本授業では、施設における保育実習の意義と目的を確認する。
■授業の目的・ねらい	保育実習は、今まで学んだ知識を保育実践に結び付けていく大切な機会である。そのため、本科目は施設における保育実践現場において、これまで学んできた知識や技能を総合的に関連付ける力と保育実践に応用する力とを養うものである。
■到達目標	受講生が施設での充実した保育実習を行うための準備をすること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	20	
･授業内試験	20	
･授業内課題	30	
･その他	0	

授業科目	保育実習指導３（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大森　弘子			シラバスグループ	W73100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	社会的養護について理解を深める。
■授業の概要	保育実習１の事後指導として、実習の総括と自己評価を行い、自らの課題を明らかにする。また、保育実習３の事前指導として、児童福祉施設における生活と保育実習を取り上げる。実習の意義と目的を明確化し、保育実習の内容や実習先の施設について調べ発表を行う。さらに、実習のテーマを明確化し、実習計画書を作成する。
■授業の目的・ねらい	１．社会的養護について理解を深める。|２．保育実習１の成果をまとめる。|３．実習計画書を作成する。
■到達目標	１．保育実習３の意義、目的、及び実習の内容と具体的事項を理解する。|２．子ども理解、実習の展開・評価・改善の一連のプロセスの理解を深める。|３．社会的養護に関する力量形成について学ぶ。|４．実習の成果とまとめを発表し、保育士の業務内容や職業倫理についての理解を深める。|５．保育士としての自己の課題を明確化する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	30	
･授業内試験	30	
･授業内課題	0	
･その他	40	

授業科目	保育実習指導３（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大森　弘子			シラバスグループ	W73300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	R･S	

■授業のテーマ	社会的養護について理解を深める。
■授業の概要	保育実習Ⅰの事後指導として、実習の総括と自己評価を行い、自らの課題を明らかにする。また、保育実習Ⅲの事前指導として、児童福祉施設における生活と保育実習を取り上げる。実習の意義と目的を明確化し、保育実習の内容や実習先の施設について調べ発表を行う。さらに、実習のテーマを明確化し、実習計画書を作成する。
■授業の目的・ねらい	１．社会的養護について理解を深める。|２．保育実習Ⅰの成果をまとめる。|３．実習計画書を作成する。
■到達目標	１．保育実習Ⅲの意義、目的、及び実習の内容と具体的事項を理解する。|２．子ども理解、実習の展開・評価・改善の一連のプロセスの理解を深める。|３．社会的養護に関する力量形成について学ぶ。|４．実習の成果とまとめを発表し、保育士の業務内容や職業倫理についての理解を深める。|５．保育士としての自己の課題を明確化する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	30	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	30	
･授業内試験	30	
･授業内課題	0	
･その他	10	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅱ（冬期)B クラス_対面				単位	4
担当者	長友　薫輝			シラバスグループ	W22401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S/SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの基本的視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。
■授業の概要	社会福祉専門職に求められるソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行い、対人援助の基本的な視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。個別指導・集団指導を通して、実技指導（ロールプレイやディスカッション、事例検討等）を中心とする演習形態で行う。具体的な事例等（集団に対する事例を含む）を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。|また、これらの事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面と、支援過程（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング･支援の終結と自己評価、アフターケアとフォローアップなど)、及び支援における内容（アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなど）を想定した実技を行う。|さらに地域福祉の基盤と開発にかかわる事例を活用し、具体的な場面・過程・内容（アウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価など）を想定した実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	本演習では、ソーシャルワーク実習の目的や内容と関連させ、実習に臨む準備と基本的な実践な力をつけることを目指す。社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値と倫理を理解し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。ソーシャルワークにかかわる他科目で学んだ理論、ソーシャルワークの展開におけるモデルやアプローチに関する知識を活用し、事例検討及びロールプレイ等において体験的・実技的に理解する。これらを通して、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、支援方法、内容について、統合的・実践的に理解する。
■到達目標	①ソーシャルワークの価値と倫理、人権の尊重と社会正義に根差し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。|②支援を必要とする人が抱える複合的な生活課題を理解し、総合的・包括的な支援のあり方と展開、支援内容などについて実践的に習得する（ミクロ・メゾ・マクロレベルの理解)。|③ソーシャルワークが展開される人と場（利用者、家族・親族・知人、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア、地域等）について理解を深める。ソーシャルワーカーが所属する組織と業務内容について具体的・実践的に学ぶ。|④本演習の内容を、ソーシャルワーク実習をはじめとする他の関連科目と統合して学修し、ソーシャルワーク実習に臨むための基礎的な力を涵養する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅲ（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	関口　洋明			シラバスグループ	W25200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの実践的展開
■授業の概要	社会福祉専門職としての実践力を高めるために、ソーシャルワークを実践的な展開について学ぶ。そのために、社会福祉専門職としての価値と倫理、地域を基盤としたソーシャルワーク実践について理解を深め、ソーシャルワークの展開の視点と方法について学ぶ。また、体験的な演習の展開によって、社会福祉専門職に求められる専門性について学ぶ。なお、演習授業のため、少人数によるディスカッションやロールプレイ、事例検討などを通して体験的に学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①社会福祉専門職としての価値･倫理について深く理解する|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程について理解する|③社会福祉専門職に求められる専門性について説明できるようになる|
■到達目標	①社会福祉専門職としての価値・倫理について理解し、行動することができる|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程を理解し、社会福祉専門職の視点や役割について説明することができる|③社会福祉専門職について求められる専門性について理解が深まる|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅲ（夏期)B クラス_対面				単位	2
担当者	新井　康友			シラバスグループ	W25201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの実践的展開
■授業の概要	社会福祉専門職としての実践力を高めるために、ソーシャルワークを実践的な展開について学ぶ。そのために、社会福祉専門職としての価値と倫理、地域を基盤としたソーシャルワーク実践について理解を深め、ソーシャルワークの展開の視点と方法について学ぶ。また、体験的な演習の展開によって、社会福祉専門職に求められる専門性について学ぶ。なお、演習授業のため、少人数によるディスカッションやロールプレイ、事例検討などを通して体験的に学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①社会福祉専門職としての価値･倫理について深く理解する|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程について理解する|③社会福祉専門職に求められる専門性について説明できるようになる|
■到達目標	①社会福祉専門職としての価値・倫理について理解し、行動することができる|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程を理解し、社会福祉専門職の視点や役割について説明することができる|③社会福祉専門職について求められる専門性について理解が深まる|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅲ（冬期)A クラス_対面				単位	2
担当者	佐原　直幸			シラバスグループ	W25400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの理論と実践的展開
■授業の概要	社会福祉専門職としての実践力を高めるために、ソーシャルワークの理論を実践的な展開から学ぶ。そのために、社会福祉専門職としての価値と倫理、地域を基盤としたソーシャルワーク実践について理解を深め、ソーシャルワークの展開の視点と方法について学ぶ。また、体験的な演習の展開によって、社会福祉専門職に求められる専門性について学ぶ。なお、演習授業のため、少人数によるディスカッションやロールプレイ、事例検討などを通して体験的に学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①社会福祉専門職としての価値･倫理について深く理解する|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程について理解する|③社会福祉専門職に求められる専門性について説明できるようになる|
■到達目標	①社会福祉専門職としての価値・倫理について理解し、行動することができる|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程を理解し、社会福祉専門職の視点や役割について説明することができる|③社会福祉専門職について求められる専門性について理解が深まる|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅲ（冬期)B クラス_対面				単位	2
担当者	新井　康友			シラバスグループ	W25401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの実践的展開
■授業の概要	社会福祉専門職としての実践力を高めるために、ソーシャルワークを実践的な展開について学ぶ。そのために、社会福祉専門職としての価値と倫理、地域を基盤としたソーシャルワーク実践について理解を深め、ソーシャルワークの展開の視点と方法について学ぶ。また、体験的な演習の展開によって、社会福祉専門職に求められる専門性について学ぶ。なお、演習授業のため、少人数によるディスカッションやロールプレイ、事例検討などを通して体験的に学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①社会福祉専門職としての価値･倫理について深く理解する|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程について理解する|③社会福祉専門職に求められる専門性について説明できるようになる|
■到達目標	①社会福祉専門職としての価値・倫理について理解し、行動することができる|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程を理解し、社会福祉専門職の視点や役割について説明することができる|③社会福祉専門職について求められる専門性について理解が深まる|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（夏期)A クラス_対面				単位	4
担当者	金田　喜弘			シラバスグループ	W23200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S/SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ）に向けての事前学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ)」の事前学習として、社会福祉士に求められる価値・倫理、専門知識、専門 技術及び実習領域の基本的知識を深め、実習の意義・目的を理解し、自己の問題意識を醸成させる。
■授業の目的・ねらい	・実習の意義・目的を理解する|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術を理解する|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解したうえで、希望する実習領域を明確化する|・実習に臨む動機や目標を明確化する|・今後のキャリア形成（進路選択）について考える
■到達目標	・実習の意義・目的を理解し、実習を通して何を学ぶのかを明確化できる|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術について理解し、説明できる|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解し、希望する実習領域を明確化できる|・実習に臨む動機や目標を明確化し説明できる|・今後のキャリア形成（進路選択）について説明できる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	※スクーリング受講１週間までに、B-net「Web 申請登録」より「実習（福祉・保育)」内の「社会福祉実習に関する調査票」にて申請してください。|※スクーリング受講許可後、スクーリング受講までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（夏期)B クラス_対面			単位	4
担当者	後藤　至功			シラバスグループ	W23201
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S/SR

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ）に向けての事前学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ)」の事前学習として、社会福祉士に求められる価値・倫理、専門知識、専門 技術及び実習領域の基本的知識を深め、実習の意義・目的を理解し、自己の問題意識を醸成させる。
■授業の目的・ねらい	・実習の意義・目的を理解する|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術を理解する|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解したうえで、希望する実習領域を明確化する|・実習に臨む動機や目標を明確化する|・今後のキャリア形成（進路選択）について考える
■到達目標	・実習の意義・目的を理解し、実習を通して何を学ぶのかを明確化できる|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術について理解し、説明できる|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解し、希望する実習領域を明確化できる|・実習に臨む動機や目標を明確化し説明できる|・今後のキャリア形成（進路選択）について説明できる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	※スクーリング受講１週間までに、B-net「Web 申請登録」より「実習（福祉・保育)」内の「社会福祉実習に関する調査票」にて申請してください。|※スクーリング受講許可後、スクーリング受講までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（冬期)A クラス_対面				単位	4
担当者	池本　薫規			シラバスグループ	W23400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S/SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ）に向けての事前学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ)」の事前学習として、社会福祉士に求められる価値・倫理、専門知識、専門 技術及び実習領域の基本的知識を深め、実習の意義・目的を理解し、自己の問題意識を醸成させる。
■授業の目的・ねらい	・実習の意義・目的を理解する|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術を理解する|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解したうえで、希望する実習領域を明確化する|・実習に臨む動機や目標を明確化する|・今後のキャリア形成（進路選択）について考える
■到達目標	・実習の意義・目的を理解し、実習を通して何を学ぶのかを明確化できる|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術について理解し、説明できる|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解し、希望する実習領域を明確化できる|・実習に臨む動機や目標を明確化し説明できる|・今後のキャリア形成（進路選択）について説明できる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	※スクーリング受講１週間までに、B-net「Web 申請登録」より「実習（福祉・保育)」内の「社会福祉実習に関する調査票」にて申請してください。|※スクーリング受講許可後、スクーリング受講までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（冬期)B クラス_対面				単位	4
担当者	金田　喜弘			シラバスグループ	W23401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S/SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ）に向けての事前学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ)」の事前学習として、社会福祉士に求められる価値・倫理、専門知識、専門 技術及び実習領域の基本的知識を深め、実習の意義・目的を理解し、自己の問題意識を醸成させる。
■授業の目的・ねらい	・実習の意義・目的を理解する|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術を理解する|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解したうえで、希望する実習領域を明確化する|・実習に臨む動機や目標を明確化する|・今後のキャリア形成（進路選択）について考える
■到達目標	・実習の意義・目的を理解し、実習を通して何を学ぶのかを明確化できる|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術について理解し、説明できる|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解し、希望する実習領域を明確化できる|・実習に臨む動機や目標を明確化し説明できる|・今後のキャリア形成（進路選択）について説明できる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	※スクーリング受講１週間までに、B-net「Web 申請登録」より「実習（福祉・保育)」内の「社会福祉実習に関する調査票」にて申請してください。|※スクーリング受講許可後、スクーリング受講までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（夏期)A クラス_対面			単位	2
担当者	金田　喜弘			シラバスグループ	W24200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅱ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ）の事後学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅱ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ)」を単なる体験に終らせないために、学生主体による発表とグループディスカッションなどを通して、自らの実習体験の振り返り、実習での学びや気づきの整理、実習テーマの達成度・到達度の把握、今後の学習・実践課題などの明確化を行っていく。また、自他の実習体験を客観的・多面的に捉えなおすことで、社会福祉士に求められる対人援助の基本的な視点や方法について理解を深める。
■授業の目的・ねらい	・実習を通して獲得したことや実習テーマの達成度・到達度を把握する|・今後取り組むべき自己課題（学習・実践課題など）を明確化する|・実習を振り返って「実践」を問い直すことで、「実践」と「理論」を結びつけて考える|・社会福祉士の専門性についてより理解を深める|・実習での学びを専門職として福祉現場でどのように生かすのかを考える
■到達目標	・自らの実習体験を振り返り、実習での学びや気づきを整理し、実習テーマの達成度・到達度を把握することができる|・自他の実習体験を客観的・多面的に捉えなおすことで、今後取り組むべき学習・実践課題などを明確化できる|・福祉現場での「実践」（具体的な支援内容や方法）を「理論」と結びつけて考えることができる|・社会福祉士の専門性について説明できる|・実習での学びを専門職として福祉現場でどのように生かすのかを述べることができる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（夏期)B クラス_対面			単位	2
担当者	後藤　至功			シラバスグループ	W24201
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅱ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ）の事後学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅱ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ)」を単なる体験に終らせないために、学生主体による発表とグループディスカッションなどを通して、自らの実習体験の振り返り、実習での学びや気づきの整理、実習テーマの達成度・到達度の把握、今後の学習・実践課題などの明確化を行っていく。また、自他の実習体験を客観的・多面的に捉えなおすことで、社会福祉士に求められる対人援助の基本的な視点や方法について理解を深める。
■授業の目的・ねらい	・実習を通して獲得したことや実習テーマの達成度・到達度を把握する|・今後取り組むべき自己課題（学習・実践課題など）を明確化する|・実習を振り返って「実践」を問い直すことで、「実践」と「理論」を結びつけて考える|・社会福祉士の専門性についてより理解を深める|・実習での学びを専門職として福祉現場でどのように生かすのかを考える
■到達目標	・自らの実習体験を振り返り、実習での学びや気づきを整理し、実習テーマの達成度・到達度を把握することができる|・自他の実習体験を客観的・多面的に捉えなおすことで、今後取り組むべき学習・実践課題などを明確化できる|・福祉現場での「実践」（具体的な支援内容や方法）を「理論」と結びつけて考えることができる|・社会福祉士の専門性について説明できる|・実習での学びを専門職として福祉現場でどのように生かすのかを述べることができる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（冬期)A クラス_対面				単位	2
担当者	後藤　至功			シラバスグループ	W24400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅱ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ）の事後学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅱ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ)」を単なる体験に終らせないために、学生主体による発表とグループディスカッションなどを通して、自らの実習体験の振り返り、実習での学びや気づきの整理、実習テーマの達成度・到達度の把握、今後の学習・実践課題などの明確化を行っていく。また、自他の実習体験を客観的・多面的に捉えなおすことで、社会福祉士に求められる対人援助の基本的な視点や方法について理解を深める。
■授業の目的・ねらい	・実習を通して獲得したことや実習テーマの達成度・到達度を把握する|・今後取り組むべき自己課題（学習・実践課題など）を明確化する|・実習を振り返って「実践」を問い直すことで、「実践」と「理論」を結びつけて考える|・社会福祉士の専門性についてより理解を深める|・実習での学びを専門職として福祉現場でどのように生かすのかを考える
■到達目標	・自らの実習体験を振り返り、実習での学びや気づきを整理し、実習テーマの達成度・到達度を把握することができる|・自他の実習体験を客観的・多面的に捉えなおすことで、今後取り組むべき学習・実践課題などを明確化できる|・福祉現場での「実践」（具体的な支援内容や方法）を「理論」と結びつけて考えることができる|・社会福祉士の専門性について説明できる|・実習での学びを専門職として福祉現場でどのように生かすのかを述べることができる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（冬期)B クラス_対面			単位	2
担当者	池本　薫規			シラバスグループ	W24401
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅱ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ）の事後学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅱ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ)」を単なる体験に終らせないために、学生主体による発表とグループディスカッションなどを通して、自らの実習体験の振り返り、実習での学びや気づきの整理、実習テーマの達成度・到達度の把握、今後の学習・実践課題などの明確化を行っていく。また、自他の実習体験を客観的・多面的に捉えなおすことで、社会福祉士に求められる対人援助の基本的な視点や方法について理解を深める。
■授業の目的・ねらい	・実習を通して獲得したことや実習テーマの達成度・到達度を把握する|・今後取り組むべき自己課題（学習・実践課題など）を明確化する|・実習を振り返って「実践」を問い直すことで、「実践」と「理論」を結びつけて考える|・社会福祉士の専門性についてより理解を深める|・実習での学びを専門職として福祉現場でどのように生かすのかを考える
■到達目標	・自らの実習体験を振り返り、実習での学びや気づきを整理し、実習テーマの達成度・到達度を把握することができる|・自他の実習体験を客観的・多面的に捉えなおすことで、今後取り組むべき学習・実践課題などを明確化できる|・福祉現場での「実践」（具体的な支援内容や方法）を「理論」と結びつけて考えることができる|・社会福祉士の専門性について説明できる|・実習での学びを専門職として福祉現場でどのように生かすのかを述べることができる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神医学（秋期)A クラス_オンライン				単位	4
担当者	深谷　弘和			シラバスグループ	W37300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	精神疾患を理解し、精神医学と精神医療が抱えている課題について考察する
■授業の概要	精神障害について|精神疾患の理解|精神疾患の治療の実際|精神医療の現状と課題
■授業の目的・ねらい	わが国の精神保健福祉を取り巻く制度や社会の仕組みを理解し、地域で暮らし続けるために|必要な支援の方法を学ぶ
■到達目標	・精神疾患の理解を深める|・精神疾患の治療の実際を学び、その課題を考察する|・精神医療の治療構造を理解し、精神保健福祉士の役割を考察する

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神医学（集中１)A クラス_オンライン				単位	4
担当者	深谷　弘和			シラバスグループ	W37510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	精神疾患を理解し、精神医学と精神医療が抱えている課題について考察する
■授業の概要	精神障害について|精神疾患の理解|精神疾患の治療の実際|精神医療の現状と課題
■授業の目的・ねらい	わが国の精神保健福祉を取り巻く制度や社会の仕組みを理解し、地域で暮らし続けるために|必要な支援の方法を学ぶ
■到達目標	・精神疾患の理解を深める|・精神疾患の治療の実際を学び、その課題を考察する|・精神医療の治療構造を理解し、精神保健福祉士の役割を考察する

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健学（秋期)A クラス_オンライン				単位	4
担当者	塩満　卓			シラバスグループ	W38300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	現代における主要な精神保健の課題であるアルコール依存症や薬物依存病、ギャンブル依存症等のアディクション、家族の精神保健、労働者の精神保健、学校現場の精神保健課題について学ぶ。
■授業の概要	世界及び日本の精神保健の歴史を踏まえ、社会発展に伴う精神保健問題の広がりと主要な精神保健課題とその対策・限界について、講義する。①精神保健の歴史を理解する。また、②アディクション問題（アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル依存症)、③家族の精神保健の課題、④労働者の精神保健の課題、に関する理解を深め、現行の対策とその限界について考える。
■授業の目的・ねらい	①現代社会における精神面における保健（メンタルヘルス）の諸課題を社会と関連づけて捉え、説明できるようになる。|②メンタルヘルスの諸課題に関する対応策について、一次予防（発生予防)、二次予防（早期発見・早期介入)、三次予防（社会参加）の視点から理解する。|③メンタルヘルスの諸課題に関する現行の一次予防、二次予防、三次予防対策の効果と限界を理解する。
■到達目標	①現代社会におけるメンタルヘルスの諸課題を社会と関連づけて説明することができる。|②メンタルヘルスの諸課題に対する現行の一次予防、二次予防、三次予防の対応策を説明することができる。|③メンタルヘルスの諸課題に対する現行の対応策の効果と限界について、説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100	
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	0	
·その他	0	

授業科目	精神保健学（集中１)A クラス_オンライン				単位	4
担当者	上村　啓子			シラバスグループ	W38510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	地球温暖化をはじめとする自然環境変動により洪水、地震などの災害が頻繁に起こり、新型コロナウイルスによるパンデミック感染症が発生するなど私たちを取り巻く環境が大きく変化しているなか精神保健の基本的考え方と心身の健康の維持増進のためにソーシャルワーカーが果たすべき役割を考える。
■授業の概要	ライフサイクルや生活習慣をはじめとする精神保健の基本的な考え方と関連する人間の心理行動面の特徴と現在の動向、ネット社会の実社会でのつながりの希薄化、小家族・核家族化、雇用情勢や職場環境の変化などによる家族、学校、勤労者の精神保健について学ぶ。注目されている災害被災者や犯罪被害者における心の傷やその支援者に生じるストレス、自殺問題、性的多様性や外国人など社会的マイノリティの問題、ストーカーなどの行為も取り上げる。| また精神障害者の地域生活支援及び精神保健活動が広く人々の精神的健康の保持及び増進に果たす役割について理解を深める。地域精神保健施策の概要、ネットワーク、これからの精神保健活動のあるべき姿について考察を深める。
■授業の目的・ねらい	精神保健に関する基本的理解を得て、ライフサイクル、疾病・障害別の個別課題、家庭・学校・職場における精神保健活動の実際、精神保健に関する精神保健福祉士の役割、関連法規や関連施策を理解する。
■到達目標	精神の健康の重要性を理解し、関連して法律、施策、実例を説明できるようになる。ストレスの多い社会においてどのように精神の健康を保っていくか、精神保健の課題を持つ人々へどのように関わっていけばよいか理解し、これからの精神保健活動のあるべき姿について考察できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	積極的な質問、発表を評価する。
･授業内課題	0	実施しない。
･その他	10	

授業科目	精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）（夏期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	二本柳　覚			シラバスグループ	W34200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	精神保健福祉士の役割とその意義・価値をふまえた相談援助の理念
■授業の概要	現在、医療機関のみならず教育、司法、企業、地域、被災地等々における精神保健福祉士の相談援助の重要性が高まってきている。その特質と価値、特に権利擁護等を核に学びを進める。
■授業の目的・ねらい	精神保健福祉士や障害者福祉分野の福祉専門職の役割や意義を学習するとともに、相談援助や精神保健福祉分野のソーシャルワークの理念や概念の変遷、相談援助の範囲などについての理解を深めていく。|
■到達目標	精神障害領域のソーシャルワークの視点の確認

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	二本柳　覚			シラバスグループ	W35200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	精神保健福祉領域におけるソーシャルワークの形成と相談援助活動の展開
■授業の概要	精神保健福祉領域でのソーシャルワークの形成過程とその内容について確認し、相談援助活動における対象、理念、価値、知識、支援の実際を学習する。
■授業の目的・ねらい	精神保健福祉士や障害者福祉分野の福祉専門職の役割や意義を学習するとともに、相談援助や精神保健福祉分野における権利擁護支援、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義などについての理解を深める。‖
■到達目標	１．精神保健福祉領域における相談援助の発展過程について説明することができる。|2．精神障害者の相談援助活動にかかわる法制度、サービス、機関、専門職の機能的役割を把握し、総合的・包括的援助と多職種連携の実際について説明することができる。|3．精神保健福祉士の倫理や価値について、その意義を理解するとともに、権利擁護の方法と関連付けて説明することができる。‖

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神科リハビリテーション学（秋期)A クラス_オンライン				単位	4
担当者	太田　智之			シラバスグループ	W30300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	精神障害者のリカバリーを目指した支援を学ぶ
■授業の概要	精神科リハビリテーション学は、まず大前提として精神障害とは何か、疾病と障害の違いとは何かを理解するところから始まる。精神障害者へのリハビリテーションは、決して個人の能力向上のみを目的とはしていない。当事者を取り巻く環境（人、地域、制度、文化等）への働きかけも必要である。またそれらの関りはリカバリーを目指したものとしたい。精神科リハビリテーションにおいて、精神保健福祉士として果たすべき役割について知る。
■授業の目的・ねらい	1.　精神障害を理解し精神科リハビリテーションの概念を理解する。|2.　精神科リハビリテーションのプロセスと技術を理解する。|3.　精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割を理解する。|
■到達目標	1.　精神障害について理解を深めることを通して身体科リハビリテーション等との異同を明確にし、精神科リハビリテーションを理解する。|2.「リカバリー」視点に基づく精神科リハビリテーションの展開について理解する。|3.　精神科リハビリテーションを行う上で、精神保健福祉士が押さえておくべき視点や役割を理解する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助技術各論（秋期)A クラス_オンライン				単位	4
担当者	朝比奈　寛正			シラバスグループ	W36300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	精神保健医療福祉領域における援助の理解　|
■授業の概要	・精神障害の特性を踏まえた支援の基本的な考え方と基礎的な援助技術(個別援助、集団援助、コミュニティワーク)について理解する。特に精神障害者の自己決定を尊重し、いかにして本人主体の支援を行うかに重点をおきながら、重要課題である精神障害者の地域移行・地域定着支援などの実践における具体的支援を通して精神保健福祉援助技術の体系的理解を深め、併せて精神保健福祉士の役割を理解する。　|・医療、行政、事業所といったそれぞれの機関での相談援助活動の実際を知る。また関連する法制度や事業などをとりあげ、問題点の分析や今後の方向性について討議などもとおして考察を深める。
■授業の目的・ねらい	・精神科医療、保健、福祉、地域といったそれぞれの領域の中での対象を理解することと、そこにある生の営みの困難へのアプローチと援助の方法を知ることを目的とする。また、資料等用いて他の領域のトピックスも取り上げ、社会的状況とあわせて人とその社会への理解を深め構造的に捉えていく。　|
■到達目標	ソーシャルワークの歴史、概念、目的、原理を踏まえ、精神保健医療福祉領域における援助活動の実際について理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	50	
·リポート試験(SR 履修)	0|	リポート試験にて実施する。
·授業内発表	50	
·授業内試験	0|	
·授業内課題	0	
·その他	0	

授業科目	精神保健福祉論Ⅰ（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	朝比奈　寛正			シラバスグループ	W31200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	精神保健医療福祉を支える理念、制度、歴史、実践
■授業の概要	わが国の精神保健医療福祉に関わる法制度、特にその根幹である精神保健福祉法の歴史、法理念を学ぶと共に、関連する障害者福祉や社会保障領域の法制度、サービスについて学習する。さらに諸外国における精神保健福祉の現状と歴史的展開をとおして、わが国の精神障害者をめぐる政策的課題について理解を深める。
■授業の目的・ねらい	精神病者、精神障害者に対するケアは社会の中でどのような歴史を辿ってきたのか、精神保健医療福祉に関する法制度および関連政策の変遷をおさえながら学習をすすめる。また、諸外国の政策動向にも注目し、日本の精神障害者をめぐる現状と歴史的に積み残してきた課題(社会的入院、病床数の多さ、在院期間の長期化と高齢化、地域移行の難しさ等々)について考察を行う。
■到達目標	精神保健医療福祉に関する制度やサービスを体系的に把握することをとおして、精神病者、精神障害者、家族等が時代の中でそれぞれどのような困難を抱えてきたのか、社会問題として理解し、説明できるようになることを目指す。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉論Ⅰ（集中１)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	（未 定）			シラバスグループ	W31510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	精神保健医療福祉を支える理念、制度、歴史、実践
■授業の概要	わが国の精神保健医療福祉に関わる法制度、特にその根幹である精神保健福祉法の歴史、法理念を学ぶと共に、関連する障害者福祉や社会保障領域の法制度、サービスについて学習する。さらに諸外国における精神保健福祉の現状と歴史的展開をとおして、わが国の精神障害者をめぐる政策的課題について理解を深める。
■授業の目的・ねらい	精神病者、精神障害者に対するケアは社会の中でどのような歴史を辿ってきたのか、精神保健医療福祉に関する法制度および関連政策の変遷をおさえながら学習をすすめる。また、諸外国の政策動向にも注目し、日本の精神障害者をめぐる現状と歴史的に積み残してきた課題(社会的入院、病床数の多さ、在院期間の長期化と高齢化、地域移行の難しさ等々)について考察を行う。
■到達目標	精神保健医療福祉に関する制度やサービスを体系的に把握することをとおして、精神病者、精神障害者、家族等が時代の中でそれぞれどのような困難を抱えてきたのか、社会問題として理解し、説明できるようになることを目指す。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉論Ⅱ（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	江本　純子			シラバスグループ	W32200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	精神障害者と精神保健医療福祉の歴史
■授業の概要	精神障害者医療福祉の歴史的な変遷を学び，そこに流れる政策の限界と課題を講義する．精神病者監護法下での私宅監置の状況を調査した呉秀三は，その著書「精神病者私宅監置ノ実況及ビ其統計的観察」で、「我邦十何万ノ精神病者ハ実ニ此病ヲ受ケタルノ不幸ノ外ニ、此邦ニ生レタルノ不幸ヲ重ヌルモノト云フベシ」という有名な言葉を残している。1950年，私宅監置は廃止されたものの病院への収容が強まり，生産阻害因子キャンペーン（1952年），らい予防法（1953 年）等の棄民政策が続いた．1964 年にライシャワー事件が生じ，翌年改正された精神衛生法では，警察官通報等の通報制度が生まれ，精神障害者の地域管理が徹底してきた．1983 年に発覚した宇都宮病院事件は，国連でも取り上げられ日本の精神保健福祉の課題が国際的な調査団の調査で明確になった．それ以降，日本の精神保健福祉は，精神障害者の権利保障を目指した政策が展開されてきた．しかし，そのなかでも，1999 年に改正された精神保健福祉法で制定された移送制度は，精神障害者の権利との関わりで多くの議論が行われている．本講義では，こうした歴史の流れとその時々の支援につき学ぶ．
■授業の目的・ねらい	本講義の目的は、次の三つである。①精神障害者の保健医療福祉の流れを理解する。②今までの歴史のなかで、精神障害者がおかれていた状況を理解する。③障害者権利条約や自立支援法（現行の障害者総合支援法と精神保健福祉法の関わりを理解する。|本講義では、精神保健福祉の歴史を政策，運動，支援の三つの視点で学ぶ。|評価は、全講義に出席するとともに，講義中の提出課題及びスクーリング後のリポートで理解度を問う。
■到達目標	精神病者監護法以降今日まで精神障害者がおかれてきた状況を理解し、各時代の法に流れている考えを正しく理解する。なかでも、棄民政策としての性格をもってきた精神障害者政策の流れをおさえ、今日の精神障害者の生活が保障される上で重要な役割を果たした運動や実践について理解する。さらに、現在の精神保健福祉法や関連法を検討するなかで、精神障害者と家族の生活や権利を保障する政策はどうあるべきかを理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉論Ⅱ（集中１)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	江本　純子			シラバスグループ	W32510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	精神障害者と精神保健医療福祉の歴史
■授業の概要	精神障害者医療福祉の歴史的な変遷を学び，そこに流れる政策の限界と課題を講義する．精神病者監護法下での私宅監置の状況を調査した呉秀三は，その著書「精神病者私宅監置ノ実況及ビ其統計的観察」で、「我邦十何万ノ精神病者ハ実ニ此病ヲ受ケタルノ不幸ノ外ニ、此邦ニ生レタルノ不幸ヲ重ヌルモノト云フベシ」という有名な言葉を残している。1950年，私宅監置は廃止されたものの病院への収容が強まり，生産阻害因子キャンペーン（1952年），らい予防法（1953 年）等の棄民政策が続いた．1964 年にライシャワー事件が生じ，翌年改正された精神衛生法では，警察官通報等の通報制度が生まれ，精神障害者の地域管理が徹底してきた．1983 年に発覚した宇都宮病院事件は，国連でも取り上げられ日本の精神保健福祉の課題が国際的な調査団の調査で明確になった．それ以降，日本の精神保健福祉は，精神障害者の権利保障を目指した政策が展開されてきた．しかし，そのなかでも，1999 年に改正された精神保健福祉法で制定された移送制度は，精神障害者の権利との関わりで多くの議論が行われている．本講義では，こうした歴史の流れとその時々の支援につき学ぶ．
■授業の目的・ねらい	本講義の目的は、次の三つである。①精神障害者の保健医療福祉の流れを理解する。②今までの歴史のなかで、精神障害者がおかれていた状況を理解する。③障害者権利条約や自立支援法（現行の障害者総合支援法と精神保健福祉法の関わりを理解する。|本講義では、精神保健福祉の歴史を政策，運動，支援の三つの視点で学ぶ。|評価は、全講義に出席するとともに，講義中の提出課題及びスクーリング後のリポートで理解度を問う。
■到達目標	精神病者監護法以降今日まで精神障害者がおかれてきた状況を理解し、各時代の法に流れている考えを正しく理解する。なかでも、棄民政策としての性格をもってきた精神障害者政策の流れをおさえ、今日の精神障害者の生活が保障される上で重要な役割を果たした運動や実践について理解する。さらに、現在の精神保健福祉法や関連法を検討するなかで、精神障害者と家族の生活や権利を保障する政策はどうあるべきかを理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉論Ⅲ（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	江本　純子			シラバスグループ	W33300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	精神障害者の地域生活支援システムの現状と課題
■授業の概要	精神障害者の生活の場は地域である．今，世界的に病院から地域へという流れのなかで，地域での生活をどう充実させるかが問われている．精神障害者の地域生活を考える上で，まず，精神障害とはを学ぶ必要がある．精神障害の特性とはなにか，彼らや彼女たちが，どのような生活ニーズを持っているのかを明確にする必要がある．この講義では，まず，統合失調症と感情障害（双極性障害）等の障害特徴を学び，次に，彼らの生活をいくつかの局面に分け学ぶ．それは，彼らが危機的な状況を招いた時の地域生活支援，安心して生活できる居住支援や地域での居場所の支援，就労支援等である．これらの支援が，どのような法・制度の下で行われているのか，その支援を展開していく上で，どのような哲学や方法が求められるのか．さらに，ソーシャルワーカーとして，その支援制度を発展させていく為に，どのような運動を組織することが必要か等を学ぶ．
■授業の目的・ねらい	本講義の目的は，次の四つである．|①精神障害とはなにかを理解する．福祉を学ぶものにとって，最低限の精神障害の症状や障害の特徴を学び理解することが必要である為，基礎的な知識を学ぶ．|②精神障害者の地域生活をいくつかの局面に分け考える力を育てる．一つは，地域のソーシャルワーカーとして精神障害者と出会った時に，どのような資源を活用し，どのような支援を行うのかであるる．次に，彼や彼女たちが，危機的な状況と出会った時の局面である．その時に，どのように介入するかである．さらには，彼らが地域で安心して暮らし，仲間と関わり，就労することを支援する局面である．|③精神障害者の地域生活は満ち足りているものではない．現状の制度がどのような課題を持っているのか，システムを充実させる為に必要なソーシャルワーカーが組織する運動について理解する．|

■到達目標	精神障害の特徴と支援ニーズ，現行の支援システムの概要を理解するとともに，政策や制度に規定される支援システムの限界と，その限界を克服する運動の課題を理解する．

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉論Ⅲ（集中１)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	江本　純子			シラバスグループ	W33510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	精神障害者の地域生活支援システムの現状と課題
■授業の概要	精神障害者の生活の場は地域である．今，世界的に病院から地域へという流れのなかで，地域での生活をどう充実させるかが問われている．精神障害者の地域生活を考える上で，まず，精神障害とはを学ぶ必要がある．精神障害の特性とはなにか，彼らや彼女たちが，どのような生活ニーズを持っているのかを明確にする必要がある．この講義では，まず，統合失調症と感情障害（双極性障害）等の障害特徴を学び，次に，彼らの生活をいくつかの局面に分け学ぶ．それは，彼らが危機的な状況を招いた時の地域生活支援，安心して生活できる居住支援や地域での居場所の支援，就労支援等である．これらの支援が，どのような法・制度の下で行われているのか，その支援を展開していく上で，どのような哲学や方法が求められるのか．さらに，ソーシャルワーカーとして，その支援制度を発展させていく為に，どのような運動を組織することが必要か等を学ぶ．
■授業の目的・ねらい	本講義の目的は，次の四つである．|①精神障害とはなにかを理解する．福祉を学ぶものにとって，最低限の精神障害の症状や障害の特徴を学び理解することが必要である為，基礎的な知識を学ぶ．|②精神障害者の地域生活をいくつかの局面に分け考える力を育てる．一つは，地域のソーシャルワーカーとして精神障害者と出会った時に，どのような資源を活用し，どのような支援を行うのかであるる．次に，彼や彼女たちが，危機的な状況と出会った時の局面である．その時に，どのように介入するかである．さらには，彼らが地域で安心して暮らし，仲間と関わり，就労することを支援する局面である．|③精神障害者の地域生活は満ち足りているものではない．現状の制度がどのような課題を持っているのか，システムを充実させる為に必要なソーシャルワーカーが組織する運動について理解する．|

■到達目標	精神障害の特徴と支援ニーズ，現行の支援システムの概要を理解するとともに，政策や制度に規定される支援システムの限界と，その限界を克服する運動の課題を理解する．

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉援助演習（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W39200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	精神障害者の生活のしづらさを理解し、ソーシャルワーク専門職としての専門的な視点や基本的態度を学ぶ。
■授業の概要	精神保健福祉に関するソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等）の事例や当事者の体験談をもとに、ソーシャルワーク専門職としての専門的視点や思考過程、基本的態度を学び、当事者との対等な関係性をどのように構築するのかを考えるとともに、グループワークやロールプレイ、当事者の体験談等から得た気づきをもとに自己洞察を深める。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる基礎的な実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5758 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0857/W5660 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。|
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助演習（夏期)B クラス_対面				単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W39201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	精神障害者の生活のしづらさを理解し、ソーシャルワーク専門職としての専門的な視点や基本的態度を学ぶ。
■授業の概要	精神保健福祉に関するソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等）の事例や当事者の体験談をもとに、ソーシャルワーク専門職としての専門的視点や思考過程、基本的態度を学び、当事者との対等な関係性をどのように構築するのかを考えるとともに、グループワークやロールプレイ、当事者の体験談等から得た気づきをもとに自己洞察を深める。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる基礎的な実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5758 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0857/W5660 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。|
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助演習（集中１)A クラス_対面				単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W39510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	精神障害者の生活のしづらさを理解し、ソーシャルワーク専門職としての専門的な視点や基本的態度を学ぶ。
■授業の概要	精神保健福祉に関するソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等）の事例や当事者の体験談をもとに、ソーシャルワーク専門職としての専門的視点や思考過程、基本的態度を学び、当事者との対等な関係性をどのように構築するのかを考えるとともに、グループワークやロールプレイ、当事者の体験談等から得た気づきをもとに自己洞察を深める。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる基礎的な実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5758 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0857/W5660 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。|
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助演習（集中１)B クラス_対面				単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W39511	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	精神障害者の生活のしづらさを理解し、ソーシャルワーク専門職としての専門的な視点や基本的態度を学ぶ。
■授業の概要	精神保健福祉に関するソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等）の事例や当事者の体験談をもとに、ソーシャルワーク専門職としての専門的視点や思考過程、基本的態度を学び、当事者との対等な関係性をどのように構築するのかを考えるとともに、グループワークやロールプレイ、当事者の体験談等から得た気づきをもとに自己洞察を深める。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる基礎的な実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5758 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0857/W5660 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。|
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助技術演習Ⅰ（秋期)A クラス_対面				単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W40300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	精神保健福祉領域におけるソーシャルワークを学ぶ。その１
■授業の概要	精神保健福祉に関する総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等），医療と共同・連携するソーシャルワーク実践に係る具体的な事例を体系的に取り上げながら，個別指導ならびに集団指導を通して，具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワークやロールプレイング等）を中心とする演習を行う。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる基礎的な実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5759 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0858/W5661 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助技術演習Ⅰ（秋期)B クラス_対面				単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W40301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	精神保健福祉領域におけるソーシャルワークを学ぶ。その１
■授業の概要	精神保健福祉に関する総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等），医療と共同・連携するソーシャルワーク実践に係る具体的な事例を体系的に取り上げながら，個別指導ならびに集団指導を通して，具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワークやロールプレイング等）を中心とする演習を行う。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる基礎的な実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5759 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0858/W5661 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助技術演習Ⅱ（秋期)A クラス_対面				単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W41300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	精神保健福祉領域におけるソーシャルワークを学ぶ。その２
■授業の概要	精神保健福祉に関するソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等）の事例や当事者の体験談をもとに、ソーシャルワーク専門職としての専門的視点や思考過程、基本的態度を学び、当事者との対等な関係性をどのように構築するのかを考えるとともに、グループワークやロールプレイ、当事者の体験談等から得た気づきをもとに自己洞察を深める。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる包括的な視点と実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5760 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0859/W5662 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉援助技術演習Ⅱ（秋期)B クラス_対面				単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W41301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	精神保健福祉領域におけるソーシャルワークを学ぶ。その２
■授業の概要	精神保健福祉に関するソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等）の事例や当事者の体験談をもとに、ソーシャルワーク専門職としての専門的視点や思考過程、基本的態度を学び、当事者との対等な関係性をどのように構築するのかを考えるとともに、グループワークやロールプレイ、当事者の体験談等から得た気づきをもとに自己洞察を深める。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる包括的な視点と実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5760 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0859/W5662 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（秋期)A クラス_対面			単位	2
担当者	塩満　卓			シラバスグループ	W43300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	障害福祉サービス事業所での実習に向けての事前学習|個別および集団指導を通して、医療機関や施設等の機能や役割および精神保健福祉援助に必要な知識，技術等について学修する。授業全体を通して精神保健福祉援助実習の枠組みを理解するとともに、各自の実習テーマと計画書の作成を行う。
■授業の概要	個別および集団指導を通して、医療機関や施設等の機能や役割および精神保健福祉援助に必要な知識，技術等について学修する。授業全体を通して精神保健福祉援助実習の枠組みを理解するとともに、各自の実習テーマと計画書の作成を行う。そのために、以下の項目をおり込みながら展開する。|①本授業は、地域実習（障害福祉サービス事業等）を主体的に取り組むための事前学習として、精神保健福祉士の専門知識および援助方法についての理解を深め、ソーシャルワーク専門職に求められる専門的視点と基本的態度を学ぶ。|②精神障がい者及び家族のおかれている社会的状況や生活実態、生活上の困難（生活のしづらさ)、社会的障壁等について理解を深め、社会福祉学を基盤とする精神保健福祉士の多面的な視点と専門性（価値・知識・技術）から精神障がい者を“生活者”として捉え、その生活を包括的に支援する力を習得する。|③社会福祉の基礎・共通科目と精神保健福祉の専門科目で学んだ多様な知識・理論・技術を統合し、自己洞察できる力とソーシャルワーク専門職として行動（役割遂行）できる力を醸成する。|④精神保健福祉現場の課題や自分自身の問題意識をもとに、実習テーマ・実習課題を考え、実習計画書を作成する。個別発表やグループワークを通じて参加型授業を実施し、受講生相互の意見交流の場を持つ。
■授業の目的・ねらい	精神保健福祉援助実習の意義について理解する。また、精神障害者のおかれている現状の把握と相談援助に係る知識や技術について具体的かつ実際的に理解するとともに、実践的な技術等を体得する。|①精神保健福祉士の使命と役割、職業倫理について学び、ソーシャルワーク専門職として獲得すべき専門性（価値・知識・技術）及び基本的態度、権利擁護の視点について、理解を深めることをねらいとしている。|②精神障がい者及び家族のおかれている社会的状況を多面的に捉え、その生活実態や生活上の困難（生活のしづらさ）を包括的に支援する視点を形成し、地域生活支援に関する問題意識を醸成する。|③障害福祉サービス事業や地域生活支援事業の体系を理解し、精神障がい者の自己決定を尊重しながら地域生活を継続するソーシャルワーク実践の方法と必要な社会資源について考える。|④精神保健福祉現場の課題や自分自身の問題意識をもとに実習テーマや実習課題についての考察を重ね、主体的なグループ討議への参加を経て、地域実習（障害福祉サービス事業等）の実習計画書を立案する。

■到達目標	具体的な場面を想定し、これまでの学習と関連づけながら、精神保健福祉援助の対象理解，技術，価値など実習で求められる知識と態度を獲得し、実践への関心をもつことができる。さらに実習に対する自身の目標の言語化、自らの実習テーマの決定と同時に、テーマに沿った計画書の作成、こうした一連の事前学習のプロセスを経て各自が実習の準備を主体的に行うことができるようになる。　この目標に到達するために、以下の項目をおり込みながら展開する。|①精神保健福祉士を目指す動機と精神保健福祉領域における問題意識を明確にする。|②ソーシャルワーク専門職としての専門的な視点及び基本的態度を形成し、職業倫理に基づいた行動がとれる。|③精神障がい者及び家族の生活のしづらさについて理解し、その地域生活支援のために精神保健福祉士がどのようなソーシャルワーク実践（個別・集団）を展開しているのかを説明できるとともに自らが実践できるようになる。|④ソーシャルワーク専門職に求められる資質や技能、自己の課題把握などを見極め、精神障がい者を“生活者”として捉える視点

	をもとに、総合的に対応できる力を習得する。⑤自らの問題意識をもとに障害福祉サービス事業所での現場実習を想定した実習計画書を立案する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	スクーリング受講許可後、スクーリング受講までに実習オリエンテーション（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングおよび「実習判定試験」（※1）に合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。※1　2020 年度以降入学者のみ「実習判定試験」受験対象
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	30%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（秋期)B クラス_対面			単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W43301
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	障害福祉サービス事業所での実習に向けての事前学習|個別および集団指導を通して、医療機関や施設等の機能や役割および精神保健福祉援助に必要な知識，技術等について学修する。授業全体を通して精神保健福祉援助実習の枠組みを理解するとともに、各自の実習テーマと計画書の作成を行う。
■授業の概要	個別および集団指導を通して、医療機関や施設等の機能や役割および精神保健福祉援助に必要な知識，技術等について学修する。授業全体を通して精神保健福祉援助実習の枠組みを理解するとともに、各自の実習テーマと計画書の作成を行う。そのために、以下の項目をおり込みながら展開する。|①本授業は、地域実習（障害福祉サービス事業等）を主体的に取り組むための事前学習として、精神保健福祉士の専門知識および援助方法についての理解を深め、ソーシャルワーク専門職に求められる専門的視点と基本的態度を学ぶ。|②精神障がい者及び家族のおかれている社会的状況や生活実態、生活上の困難（生活のしづらさ)、社会的障壁等について理解を深め、社会福祉学を基盤とする精神保健福祉士の多面的な視点と専門性（価値・知識・技術）から精神障がい者を“生活者”として捉え、その生活を包括的に支援する力を習得する。|③社会福祉の基礎・共通科目と精神保健福祉の専門科目で学んだ多様な知識・理論・技術を統合し、自己洞察できる力とソーシャルワーク専門職として行動（役割遂行）できる力を醸成する。|④精神保健福祉現場の課題や自分自身の問題意識をもとに、実習テーマ・実習課題を考え、実習計画書を作成する。個別発表やグループワークを通じて参加型授業を実施し、受講生相互の意見交流の場を持つ。
■授業の目的・ねらい	精神保健福祉援助実習の意義について理解する。また、精神障害者のおかれている現状の把握と相談援助に係る知識や技術について具体的かつ実際的に理解するとともに、実践的な技術等を体得する。|①精神保健福祉士の使命と役割、職業倫理について学び、ソーシャルワーク専門職として獲得すべき専門性（価値・知識・技術）及び基本的態度、権利擁護の視点について、理解を深めることをねらいとしている。|②精神障がい者及び家族のおかれている社会的状況を多面的に捉え、その生活実態や生活上の困難（生活のしづらさ）を包括的に支援する視点を形成し、地域生活支援に関する問題意識を醸成する。|③障害福祉サービス事業や地域生活支援事業の体系を理解し、精神障がい者の自己決定を尊重しながら地域生活を継続するソーシャルワーク実践の方法と必要な社会資源について考える。|④精神保健福祉現場の課題や自分自身の問題意識をもとに実習テーマや実習課題についての考察を重ね、主体的なグループ討議への参加を経て、地域実習（障害福祉サービス事業等）の実習計画書を立案する。

■到達目標	具体的な場面を想定し、これまでの学習と関連づけながら、精神保健福祉援助の対象理解，技術，価値など実習で求められる知識と態度を獲得し、実践への関心をもつことができる。さらに実習に対する自身の目標の言語化、自らの実習テーマの決定と同時に、テーマに沿った計画書の作成、こうした一連の事前学習のプロセスを経て各自が実習の準備を主体的に行うことができるようになる。　この目標に到達するために、以下の項目をおり込みながら展開する。|①精神保健福祉士を目指す動機と精神保健福祉領域における問題意識を明確にする。|②ソーシャルワーク専門職としての専門的な視点及び基本的態度を形成し、職業倫理に基づいた行動がとれる。|③精神障がい者及び家族の生活のしづらさについて理解し、その地域生活支援のために精神保健福祉士がどのようなソーシャルワーク実践（個別・集団）を展開しているのかを説明できるとともに自らが実践できるようになる。|④ソーシャルワーク専門職に求められる資質や技能、自己の課題把握などを見極め、精神障がい者を“生活者”として捉える視点

	をもとに、総合的に対応できる力を習得する。⑤自らの問題意識をもとに障害福祉サービス事業所での現場実習を想定した実習計画書を立案する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	スクーリング受講許可後、スクーリング受講までに実習オリエンテーション（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングおよび「実習判定試験」（※1）に合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。※1　2020 年度以降入学者のみ「実習判定試験」受験対象
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	30%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（夏期)A クラス_対面			単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W44200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	地域実習の事後学習及び精神科医療機関での実習に向けての事前学習
■授業の概要	①本授業では、地域実習（障害福祉サービス事業等）を省察する事後学習、そして精神科医療機関での実習を主体的に取り組むための事前学習に取り組む。|②地域実習での援助場面を振り返り、精神障がい者へのかかわりを通じて学んだことや気づいたことを言語化し、ソーシャルワークの専門性（価値・知識・技術）に照らし合わせて、生活問題や福祉現場の課題を見極め、自らの学習課題や実践課題を明確にする。|③精神障がい者及び家族のおかれている社会状況を再認識する過程を通じて、精神保健福祉士の専門性についての理解を深め、精神科医療機関でのソーシャルワーク実践に求められる基本的態度と視点を学ぶ。|④精神科医療機関におけるソーシャルワーク専門職の存在意義に関わる考察を深め、精神障がい者を“生活者”としてみる視点を獲得し、多職種連携における精神保健福祉士の役割や機能について考える。|⑤精神保健福祉法に定められた入院形態や行動制限（隔離・身体拘束)、権利擁護制度について学び、退院後生活環境相談員としての役割や長期入院者への退院支援に向けたソーシャルワーク実践について考察を深め、精神保健福祉士の多面的かつ包括的な視点を獲得する。|⑥精神科医療の現状と課題に関する問題意識をもとに、実習テーマ・実習課題を考え、実習計画書を作成する。個別発表やグループワークを通じて参加型授業を実施し、受講生相互の意見交流の場を持つ。
■授業の目的・ねらい	①地域実習（障害福祉サービス事業等）を省察し、個々の援助場面から学んだことや気づいたことを言語化し、自己洞察の過程を経て、自らの学習課題と実践上の課題を明らかにする。|②精神科医療機関での実習に向けて、医療福祉現場で求められるソーシャルワーク専門職の高い水準の専門性（価値・知識・技術）を養うことを目標にする。|③精神障がい者及び家族のおかれている社会的状況を多面的に捉え、その生活実態や生活上の困難（生活のしづらさ）を包括的に支援する視点を形成する。|④精神科医療機関での精神保健福祉士の役割や機能を理解し、多職種連携のなかでのソーシャルワーク専門職の存在意義を学び、精神障がい者が利用できる保健・医療・福祉制度や障害福祉サービス等について説明できるようになる。|⑤精神科医療機関の調査を通じて、現場実習で求められる精神保健福祉士の専門性について考察を深め、具体的な実習?標や実習内容を考える。|⑥地域の精神科医療機関の現状と課題について調べ、自らの問題意識をもとに実習テーマや実習課題についての考察を重ね、主体的なグループ討議への参加を経て、実習計画書を立案する。
■到達目標	①地域実習（障害福祉サービス事業等）の省察を通じて、ソーシャルワーク専門職としての自己の学習課題と実践上の課題を明確にする。|②精神科医療機関におけるソーシャルワーク専門職としての専門的な視点及び基本的態度を獲得する。|③精神科医療機関におけるソーシャルワーク専門職の存在意義に関わる考察を深め、精神障がい者を“生活者”として捉える視点を獲得し、多職種連携における精神保健福祉?の役割や機能について説明できるようになる。|④精神科医療機関における入院形態と権利擁護制度について理解し、退院後生活環境相談員としての役割や長期入院者への退院支援に向けたソーシャルワーク実践について考察を深め、精神保健福祉士の多面的かつ包括的な視点を獲得する。|⑤精神科リハビリテーションの理念や方法を理解し、グループワークの原則や方法に関する考察を深め、主体的に実践を担えるようになる。|⑥精神科医療の現状と課題に関する問題意識をもとに、実習テーマ・実習課題を考え、実習計画書を立案する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（夏期)B クラス_対面			単位	2
担当者	髙木　健志			シラバスグループ	W44201
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	地域実習の事後学習及び精神科医療機関での実習に向けての事前学習
■授業の概要	①本授業では、地域実習（障害福祉サービス事業等）を省察する事後学習、そして精神科医療機関での実習を主体的に取り組むための事前学習に取り組む。|②地域実習での援助場面を振り返り、精神障がい者へのかかわりを通じて学んだことや気づいたことを言語化し、ソーシャルワークの専門性（価値・知識・技術）に照らし合わせて、生活問題や福祉現場の課題を見極め、精神保健福祉士に求められる個人のプライバシー保護と守秘義務の理解、精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務の理解、自らの学習課題や実践課題を明確にする。|③精神障がい者及び家族のおかれている社会状況を再認識する過程を通じて、精神保健福祉士の専門性についての理解を深め、精神科医療機関でのソーシャルワーク実践に求められる基本的態度と視点を学ぶ。|④精神科医療機関におけるソーシャルワーク専門職の存在意義に関わる考察を深め、精神障がい者を“生活者”としてみる視点を獲得し、多職種連携における精神保健福祉士の役割や機能について考える。|⑤精神保健福祉法に定められた入院形態や行動制限（隔離・身体拘束)、権利擁護制度について学び、退院後生活環境相談員としての役割や長期入院者への退院支援に向けたソーシャルワーク実践について考察を深め、精神保健福祉士の多面的かつ包括的な視点を獲得する。|⑥精神科医療の現状と課題に関する問題意識をもとに、実習テーマ・実習課題を考え、実習計画書を作成する。個別発表やグループワークを通じて参加型授業を実施し、受講生相互の意見交流の場を持つ。
■授業の目的・ねらい	①地域実習（障害福祉サービス事業等）を省察し、個々の援助場面から学んだことや気づいたことを言語化し、自己洞察の過程を経て、自らの学習課題と実践上の課題を明らかにする。|②精神科医療機関での実習に向けて、医療福祉現場で求められるソーシャルワーク専門職の高い水準の専門性（価値・知識・技術）を養うことを目標にする。|③精神障がい者及び家族のおかれている社会的状況を多面的に捉え、その生活実態や生活上の困難（生活のしづらさ）を包括的に支援する視点を形成する。|④精神科医療機関での精神保健福祉士の役割や機能を理解し、多職種連携のなかでのソーシャルワーク専門職の存在意義を学び、精神障がい者が利用できる保健・医療・福祉制度や障害福祉サービス等について説明できるようになる。|⑤精神科医療機関の調査を通じて、現場実習で求められる精神保健福祉士の専門性について考察を深め、具体的な実習目標や実習内容を考える。|⑥地域の精神科医療機関の現状と課題について調べ、自らの問題意識をもとに実習テーマや実習課題についての考察を重ね、主体的なグループ討議への参加を経て、実習計画書を立案する。
■到達目標	①地域実習（障害福祉サービス事業等）の省察を通じて、ソーシャルワーク専門職としての自己の学習課題と実践上の課題を明確にする。|②精神科医療機関におけるソーシャルワーク専門職としての専門的な視点及び基本的態度を獲得する。|③精神科医療機関におけるソーシャルワーク専門職の存在意義に関わる考察を深め、精神障がい者を“生活者”として捉える視点を獲得し、多職種連携における精神保健福祉士の役割や機能について説明できるようになる。|④精神科医療機関における入院形態と権利擁護制度について理解し、退院後生活環境相談員としての役割や長期入院者への退院支援に向けたソーシャルワーク実践について考察を深め、精神保健福祉士の多面的かつ包括的な視点を獲得する。|⑤精神科リハビリテーションの理念や方法を理解し、グループワークの原則や方法に関する考察を深め、主体的に実践を担えるようになる。|⑥精神科医療の現状と課題に関する問題意識をもとに、実習テーマ・実習課題を考え、実習計

	画書を立案する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉援助技術現場実習指導Ⅲ（冬期)A クラス_対面			単位	2
担当者	神谷　純			シラバスグループ	W45400
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	精神保健福祉士実習の総括とソーシャルワーク専門職としてのキャリア形成
■授業の概要	精神科医療機関での実習を振りかえり、学んだことや気づいたことをグループワークで報告し、相互に分かち合う。また、精神保健福祉領域のソーシャルワーク実践で求められる専門性について、医療実習とともに障害福祉サービス事業所での実習から得た自己の課題を含め、今後の実践上の課題を整理し、自らのキャリア形成について考える。
■授業の目的・ねらい	精神科等医療機関および障害者関係施設等での実習で，具体的に学んだことや気づいたこと，スーパービジョンの内容、実習記録などをもとに、実習場面の振り返りと自己洞察を行い、ソーシャルワーク専門職としての自己課題を明らかにし、今後のキャリア形成について考える。
■到達目標	自らの実習経験を振りかえり，精神保健福祉現場で取り組んだ内容や目標などについて客観的に整理する。また、グループワークでの相互報告や分かち合いの過程から自己洞察を図り、今後の課題整理とキャリ形成の道すじを明確にする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉援助技術現場実習指導Ⅲ（冬期)B クラス_対面			単位	2
担当者	塩満　卓			シラバスグループ	W45401
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	精神保健福祉士実習の総括とソーシャルワーク専門職としてのキャリア形成
■授業の概要	精神科医療機関での実習を振りかえり、学んだことや気づいたことをグループワークで報告し、相互に分かち合う。また、精神保健福祉領域のソーシャルワーク実践で求められる専門性について、医療実習とともに障害福祉サービス事業所での実習から得た自己の課題を含め、今後の実践上の課題を整理し、自らのキャリア形成について考える。
■授業の目的・ねらい	精神科等医療機関および障害者関係施設等での実習で，具体的に学んだことや気づいたこと，スーパービジョンの内容、実習記録などをもとに、実習場面の振り返りと自己洞察を行い、ソーシャルワーク専門職としての自己課題を明らかにし、今後のキャリア形成について考える。
■到達目標	自らの実習経験を振りかえり，精神保健福祉現場で取り組んだ内容や目標などについて客観的に整理する。また、グループワークでの相互報告や分かち合いの過程から自己洞察を図り、今後の課題整理とキャリ形成の道すじを明確にする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	ソーシャルワークの基盤と専門職（夏期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	西村　伸			シラバスグループ	W46200
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S

■授業のテーマ	ソーシャルワーカーの専門性、原理や理念を、倫理綱領を理解する
■授業の概要	ソーシャルワーカーは様々な実践現場で働いている。他の専門職に対して、「ソーシャルワーカーにどのような専門性があるのか」について説明することができる必要がある。当科目は自身がソーシャルワーカーになった際に、自身の仕事について他者に説明できることを念頭に置いている。｜　そのため、ソーシャルワーカーの専門性、原理や理念を単に用語としてではなく、具体的な実践事例に落し込み授業を行う。ソーシャルワーカーの倫理綱領についても、倫理綱領を自身がソーシャルワーカーになった場合を仮定した理解ができるように授業を展開する。
■授業の目的・ねらい	１．ソーシャルワーカーの専門性を他者に説明できるようになる。｜2．ソーシャルワーカーの専門性、原理や理念を用語としてではなく、具体的な実践事例で説明できるようになる。｜3．ソーシャルワーカーの倫理綱領をソーシャルワーク実践で用いてみることができるようになる。
■到達目標	１．ソーシャルワーカーがどのような業務をする人か説明できるようになる。他の専門職に対して、ソーシャルワーカーの専門性を説明できるようになる。｜２．ソーシャルワークの原理や理論にある１つ１つの用語を説明できるようになる。原理や理論をソーシャルワーク実践に照らして考えられるようになる。｜３．ソーシャルワークの倫理綱領をソーシャルワーク実践に用いることができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	ソーシャルワークの基盤と専門職（冬期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	西村　伸			シラバスグループ	W46400
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S

■授業のテーマ	ソーシャルワーカーの専門性、原理や理念を、倫理綱領を理解する
■授業の概要	ソーシャルワーカーは様々な実践現場で働いている。他の専門職に対して、「ソーシャルワーカーにどのような専門性があるのか」について説明することができる必要がある。当科目は自身がソーシャルワーカーになった際に、自身の仕事について他者に説明できることを念頭に置いている。｜　そのため、ソーシャルワーカーの専門性、原理や理念を単に用語としてではなく、具体的な実践事例に落し込み授業を行う。ソーシャルワーカーの倫理綱領についても、倫理綱領を自身がソーシャルワーカーになった場合を仮定した理解ができるように授業を展開する。
■授業の目的・ねらい	１．ソーシャルワーカーの専門性を他者に説明できるようになる。｜2．ソーシャルワーカーの専門性、原理や理念を用語としてではなく、具体的な実践事例で説明できるようになる。｜3．ソーシャルワーカーの倫理綱領をソーシャルワーク実践で用いてみることができるようになる。
■到達目標	１．ソーシャルワーカーがどのような業務をする人か説明できるようになる。他の専門職に対して、ソーシャルワーカーの専門性を説明できるようになる。｜２．ソーシャルワークの原理や理論にある１つ１つの用語を説明できるようになる。原理や理論をソーシャルワーク実践に照らして考えられるようになる。｜３．ソーシャルワークの倫理綱領をソーシャルワーク実践に用いることができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ（冬期)A クラス_対面				単位	2
担当者	福嶋　正人			シラバスグループ	W22400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S/SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの基本的視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。
■授業の概要	社会福祉専門職に求められるソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行い、対人援助の基本的な視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。個別指導・集団指導を通して、実技指導（ロールプレイやディスカッション、事例検討等）を中心とする演習形態で行う。具体的な事例等（集団に対する事例を含む）を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。|また、これらの事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面と、支援過程（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング･支援の終結と自己評価、アフターケアとフォローアップなど)、及び支援における内容（アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなど）を想定した実技を行う。|さらに地域福祉の基盤と開発にかかわる事例を活用し、具体的な場面・過程・内容（アウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価など）を想定した実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	本演習では、ソーシャルワーク実習の目的や内容と関連させ、実習に臨む準備と基本的な実践な力をつけることを目指す。社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値と倫理を理解し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。ソーシャルワークにかかわる他科目で学んだ理論、ソーシャルワークの展開におけるモデルやアプローチに関する知識を活用し、事例検討及びロールプレイ等において体験的・実技的に理解する。これらを通して、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、支援方法、内容について、統合的・実践的に理解する。
■到達目標	①ソーシャルワークの価値と倫理、人権の尊重と社会正義に根差し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。|②支援を必要とする人が抱える複合的な生活課題を理解し、総合的・包括的な支援のあり方と展開、支援内容などについて実践的に習得する（ミクロ・メゾ・マクロレベルの理解)。|③ソーシャルワークが展開される人と場（利用者、家族・親族・知人、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア、地域等）について理解を深める。ソーシャルワーカーが所属する組織と業務内容について具体的・実践的に学ぶ。|④本演習の内容を、ソーシャルワーク実習をはじめとする他の関連科目と統合して学修し、ソーシャルワーク実習に臨むための基礎的な力を涵養する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ（冬期)B クラス_対面				単位	2
担当者	長友　薫輝			シラバスグループ	W22401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S/SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの基本的視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。
■授業の概要	社会福祉専門職に求められるソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行い、対人援助の基本的な視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。個別指導・集団指導を通して、実技指導（ロールプレイやディスカッション、事例検討等）を中心とする演習形態で行う。具体的な事例等（集団に対する事例を含む）を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。|また、これらの事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面と、支援過程（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング･支援の終結と自己評価、アフターケアとフォローアップなど)、及び支援における内容（アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなど）を想定した実技を行う。|さらに地域福祉の基盤と開発にかかわる事例を活用し、具体的な場面・過程・内容（アウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価など）を想定した実技を行う。|
■授業の目的・ねらい	本演習では、ソーシャルワーク実習の目的や内容と関連させ、実習に臨む準備と基本的な実践な力をつけることを目指す。社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値と倫理を理解し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。ソーシャルワークにかかわる他科目で学んだ理論、ソーシャルワークの展開におけるモデルやアプローチに関する知識を活用し、事例検討及びロールプレイ等において体験的・実技的に理解する。これらを通して、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、支援方法、内容について、統合的・実践的に理解する。
■到達目標	①ソーシャルワークの価値と倫理、人権の尊重と社会正義に根差し、実践に必要な知識と方法・技術・技能を統合する力を養う。|②支援を必要とする人が抱える複合的な生活課題を理解し、総合的・包括的な支援のあり方と展開、支援内容などについて実践的に習得する（ミクロ・メゾ・マクロレベルの理解)。|③ソーシャルワークが展開される人と場（利用者、家族・親族・知人、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア、地域等）について理解を深める。ソーシャルワーカーが所属する組織と業務内容について具体的・実践的に学ぶ。|④本演習の内容を、ソーシャルワーク実習をはじめとする他の関連科目と統合して学修し、ソーシャルワーク実習に臨むための基礎的な力を涵養する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ（秋期)A クラス_対面				単位	2
担当者	関口　洋明			シラバスグループ	W47300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	社会福祉士に求められる役割と、ソーシャルワーク実践に求められる力（コンピテンシー、実践能力）を理解する。
■授業の概要	社会福祉専門職に求められるソーシャルワーク実践に必要な価値・知識・技術を統合し、学修において理論と実践をつなぐ。具体的な事例等を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。また、これらの事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面と、支援過程（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング・支援の終結と自己評価、アフターケアとフォローアップなど)、及び支援における内容（アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなど）を想定した実技を行う。さらに、地域福祉の基盤と開発にかかわる事例を活用し、具体的な場面・過程・内容（アウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価など）を想定した実技を行う。|演習形態は、個別のワークやグループワークを通して、ロールプレイやディスカッション、事例検討等の実技を中心とする。
■授業の目的・ねらい	社会福祉士、ソーシャルワーカーに求められる豊かな人間性を育み、実践的にソーシャルワークを学ぶことを通して、ソーシャルワークのコンピテンシー（実践能力）を身に着ける。|本演習以外のソーシャルワーク演習や、実習に関する学修内容と連動した学修により、これまでの学びをふりかえり、これから臨む実習や演習の準備を行う。
■到達目標	社会福祉士、ソーシャルワーカーに求められる豊かな人間性を育み、実践的にソーシャルワークを学ぶことを通して、ソーシャルワークのコンピテンシー（実践能力）を涵養する。|本演習以外のソーシャルワーク演習や、実習に関する学修内容と連動した学修により、これまでの学びをふりかえり、これから臨む実習や演習の準備を明確にできる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ（秋期)B クラス_対面				単位	2
担当者	孔　栄鍾			シラバスグループ	W47301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	社会福祉士に求められる役割と、ソーシャルワーク実践に求められる力（コンピテンシー、実践能力）を理解する。
■授業の概要	社会福祉専門職に求められるソーシャルワーク実践に必要な価値・知識・技術を統合し、学修において理論と実践をつなぐ。具体的な事例等を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。また、これらの事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面と、支援過程（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング・支援の終結と自己評価、アフターケアとフォローアップなど)、及び支援における内容（アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなど）を想定した実技を行う。さらに、地域福祉の基盤と開発にかかわる事例を活用し、具体的な場面・過程・内容（アウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価など）を想定した実技を行う。|演習形態は、個別のワークやグループワークを通して、ロールプレイやディスカッション、事例検討等の実技を中心とする。
■授業の目的・ねらい	社会福祉士、ソーシャルワーカーに求められる豊かな人間性を育み、実践的にソーシャルワークを学ぶことを通して、ソーシャルワークのコンピテンシー（実践能力）を身に着ける。|本演習以外のソーシャルワーク演習や、実習に関する学修内容と連動した学修により、これまでの学びをふりかえり、これから臨む実習や演習の準備を行う。
■到達目標	社会福祉士、ソーシャルワーカーに求められる豊かな人間性を育み、実践的にソーシャルワークを学ぶことを通して、ソーシャルワークのコンピテンシー（実践能力）を涵養する。|本演習以外のソーシャルワーク演習や、実習に関する学修内容と連動した学修により、これまでの学びをふりかえり、これから臨む実習や演習の準備を明確にできる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	リポート試験にて量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ（冬期)A クラス_対面				単位	2
担当者	佐原　直幸			シラバスグループ	W25400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの理論と実践的展開
■授業の概要	社会福祉専門職としての実践力を高めるために、ソーシャルワークの理論を実践的な展開から学ぶ。そのために、社会福祉専門職としての価値と倫理、地域を基盤としたソーシャルワーク実践について理解を深め、ソーシャルワークの展開の視点と方法について学ぶ。また、体験的な演習の展開によって、社会福祉専門職に求められる専門性について学ぶ。なお、演習授業のため、少人数によるディスカッションやロールプレイ、事例検討などを通して体験的に学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①社会福祉専門職としての価値･倫理について深く理解する|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程について理解する|③社会福祉専門職に求められる専門性について説明できるようになる|
■到達目標	①社会福祉専門職としての価値・倫理について理解し、行動することができる|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程を理解し、社会福祉専門職の視点や役割について説明することができる|③社会福祉専門職について求められる専門性について理解が深まる|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ（冬期)B クラス_対面				単位	2
担当者	新井　康友			シラバスグループ	W25401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの実践的展開
■授業の概要	社会福祉専門職としての実践力を高めるために、ソーシャルワークを実践的な展開について学ぶ。そのために、社会福祉専門職としての価値と倫理、地域を基盤としたソーシャルワーク実践について理解を深め、ソーシャルワークの展開の視点と方法について学ぶ。また、体験的な演習の展開によって、社会福祉専門職に求められる専門性について学ぶ。なお、演習授業のため、少人数によるディスカッションやロールプレイ、事例検討などを通して体験的に学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①社会福祉専門職としての価値･倫理について深く理解する|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程について理解する|③社会福祉専門職に求められる専門性について説明できるようになる|
■到達目標	①社会福祉専門職としての価値・倫理について理解し、行動することができる|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程を理解し、社会福祉専門職の視点や役割について説明することができる|③社会福祉専門職について求められる専門性について理解が深まる|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ（冬期)A クラス_対面			単位	2
担当者	佐原　直幸			シラバスグループ	W25400
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	ソーシャルワークの理論と実践的展開
■授業の概要	社会福祉専門職としての実践力を高めるために、ソーシャルワークの理論を実践的な展開から学ぶ。そのために、社会福祉専門職としての価値と倫理、地域を基盤としたソーシャルワーク実践について理解を深め、ソーシャルワークの展開の視点と方法について学ぶ。また、体験的な演習の展開によって、社会福祉専門職に求められる専門性について学ぶ。なお、演習授業のため、少人数によるディスカッションやロールプレイ、事例検討などを通して体験的に学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①社会福祉専門職としての価値･倫理について深く理解する|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程について理解する|③社会福祉専門職に求められる専門性について説明できるようになる|
■到達目標	①社会福祉専門職としての価値・倫理について理解し、行動することができる|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程を理解し、社会福祉専門職の視点や役割について説明することができる|③社会福祉専門職について求められる専門性について理解が深まる|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ（冬期)B クラス_対面				単位	2
担当者	新井　康友			シラバスグループ	W25401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワークの実践的展開
■授業の概要	社会福祉専門職としての実践力を高めるために、ソーシャルワークを実践的な展開について学ぶ。そのために、社会福祉専門職としての価値と倫理、地域を基盤としたソーシャルワーク実践について理解を深め、ソーシャルワークの展開の視点と方法について学ぶ。また、体験的な演習の展開によって、社会福祉専門職に求められる専門性について学ぶ。なお、演習授業のため、少人数によるディスカッションやロールプレイ、事例検討などを通して体験的に学ぶ。
■授業の目的・ねらい	①社会福祉専門職としての価値･倫理について深く理解する|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程について理解する|③社会福祉専門職に求められる専門性について説明できるようになる|
■到達目標	①社会福祉専門職としての価値・倫理について理解し、行動することができる|②地域を基盤としたソーシャルワーク実践の展開過程を理解し、社会福祉専門職の視点や役割について説明することができる|③社会福祉専門職について求められる専門性について理解が深まる|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	量的（記述量）と質的（内容）な観点より評価する。出題の要点を正しく理解し、専門用語を読み手に分かるように記述すること。なお、記述量が指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	金田　喜弘			シラバスグループ	W23200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S/SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ）に向けての事前学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ)」の事前学習として、社会福祉士に求められる価値・倫理、専門知識、専門 技術及び実習領域の基本的知識を深め、実習の意義・目的を理解し、自己の問題意識を醸成させる。
■授業の目的・ねらい	・実習の意義・目的を理解する|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術を理解する|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解したうえで、希望する実習領域を明確化する|・実習に臨む動機や目標を明確化する|・今後のキャリア形成（進路選択）について考える
■到達目標	・実習の意義・目的を理解し、実習を通して何を学ぶのかを明確化できる|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術について理解し、説明できる|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解し、希望する実習領域を明確化できる|・実習に臨む動機や目標を明確化し説明できる|・今後のキャリア形成（進路選択）について説明できる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	※スクーリング受講１週間までに、B-net「Web 申請登録」より「実習（福祉・保育)」内の「社会福祉実習に関する調査票」にて申請してください。|※スクーリング受講許可後、スクーリング受講までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（夏期)B クラス_対面				単位	2
担当者	後藤　至功			シラバスグループ	W23201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S/SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ）に向けての事前学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ)」の事前学習として、社会福祉士に求められる価値・倫理、専門知識、専門 技術及び実習領域の基本的知識を深め、実習の意義・目的を理解し、自己の問題意識を醸成させる。
■授業の目的・ねらい	・実習の意義・目的を理解する|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術を理解する|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解したうえで、希望する実習領域を明確化する|・実習に臨む動機や目標を明確化する|・今後のキャリア形成（進路選択）について考える
■到達目標	・実習の意義・目的を理解し、実習を通して何を学ぶのかを明確化できる|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術について理解し、説明できる|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解し、希望する実習領域を明確化できる|・実習に臨む動機や目標を明確化し説明できる|・今後のキャリア形成（進路選択）について説明できる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	※スクーリング受講１週間までに、B-net「Web 申請登録」より「実習（福祉・保育)」内の「社会福祉実習に関する調査票」にて申請してください。|※スクーリング受講許可後、スクーリング受講までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（冬期)A クラス_対面				単位	2
担当者	池本　薫規			シラバスグループ	W23400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S/SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ）に向けての事前学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ)」の事前学習として、社会福祉士に求められる価値・倫理、専門知識、専門 技術及び実習領域の基本的知識を深め、実習の意義・目的を理解し、自己の問題意識を醸成させる。
■授業の目的・ねらい	・実習の意義・目的を理解する|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術を理解する|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解したうえで、希望する実習領域を明確化する|・実習に臨む動機や目標を明確化する|・今後のキャリア形成（進路選択）について考える
■到達目標	・実習の意義・目的を理解し、実習を通して何を学ぶのかを明確化できる|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術について理解し、説明できる|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解し、希望する実習領域を明確化できる|・実習に臨む動機や目標を明確化し説明できる|・今後のキャリア形成（進路選択）について説明できる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	※スクーリング受講１週間までに、B-net「Web 申請登録」より「実習（福祉・保育)」内の「社会福祉実習に関する調査票」にて申請してください。|※スクーリング受講許可後、スクーリング受講までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（冬期)B クラス_対面				単位	2
担当者	金田　喜弘			シラバスグループ	W23401	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S/SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ）に向けての事前学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ)」の事前学習として、社会福祉士に求められる価値・倫理、専門知識、専門 技術及び実習領域の基本的知識を深め、実習の意義・目的を理解し、自己の問題意識を醸成させる。
■授業の目的・ねらい	・実習の意義・目的を理解する|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術を理解する|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解したうえで、希望する実習領域を明確化する|・実習に臨む動機や目標を明確化する|・今後のキャリア形成（進路選択）について考える
■到達目標	・実習の意義・目的を理解し、実習を通して何を学ぶのかを明確化できる|・社会福祉士に求められる価値・倫理、専門的知識や技術について理解し、説明できる|・実習領域における利用者の特性と生活課題、関連する制度、実習施設の機能や役割などの基本的知識を深める|・福祉現場の現状、社会福祉士の役割と専門性を理解し、希望する実習領域を明確化できる|・実習に臨む動機や目標を明確化し説明できる|・今後のキャリア形成（進路選択）について説明できる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	※スクーリング受講１週間までに、B-net「Web 申請登録」より「実習（福祉・保育)」内の「社会福祉実習に関する調査票」にて申請してください。|※スクーリング受講許可後、スクーリング受講までに実習オリエンテーション動画（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングに合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（秋期)A クラス_対面				単位	2
担当者	池本　薫規			シラバスグループ	W48300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅰの振り返りと実習Ⅱに向けての事前学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を振り返るとともに、「ソーシャルワーク実習Ⅱ」に臨むにあたって、福祉現場の現状を理解し、実習領域に関する基本的知識を習得する。
■授業の目的・ねらい	・社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う|・ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する
■到達目標	・実習先で求められるソーシャルワークについての知識と技術及び個人のプライバシーの保護と守秘義務等を理解する|・実習記録の記録内容及び記録方法について理解する|・学生、実習担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえ実習計画を作成する

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（秋期)B クラス_対面				単位	2
担当者	金田　喜弘			シラバスグループ	W48301	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法		

■授業のテーマ	ソーシャルワーク実習Ⅰの振り返りと実習Ⅱに向けての事前学習
■授業の概要	「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を振り返るとともに、「ソーシャルワーク実習Ⅱ」に臨むにあたって、福祉現場の現状を理解し、実習領域に関する基本的知識を習得する。
■授業の目的・ねらい	・社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う|・ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する
■到達目標	・実習先で求められるソーシャルワークについての知識と技術及び個人のプライバシーの保護と守秘義務等を理解する|・実習記録の記録内容及び記録方法について理解する|・学生、実習担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえ実習計画を作成する

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神医学（秋期)A クラス_オンライン				単位	4
担当者	深谷　弘和			シラバスグループ	W37300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	精神疾患を理解し、精神医学と精神医療が抱えている課題について考察する
■授業の概要	精神障害について|精神疾患の理解|精神疾患の治療の実際|精神医療の現状と課題
■授業の目的・ねらい	わが国の精神保健福祉を取り巻く制度や社会の仕組みを理解し、地域で暮らし続けるために|必要な支援の方法を学ぶ
■到達目標	・精神疾患の理解を深める|・精神疾患の治療の実際を学び、その課題を考察する|・精神医療の治療構造を理解し、精神保健福祉士の役割を考察する

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神医学（集中１)A クラス_オンライン				単位	4
担当者	深谷　弘和			シラバスグループ	W37510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	精神疾患を理解し、精神医学と精神医療が抱えている課題について考察する
■授業の概要	精神障害について|精神疾患の理解|精神疾患の治療の実際|精神医療の現状と課題
■授業の目的・ねらい	わが国の精神保健福祉を取り巻く制度や社会の仕組みを理解し、地域で暮らし続けるために|必要な支援の方法を学ぶ
■到達目標	・精神疾患の理解を深める|・精神疾患の治療の実際を学び、その課題を考察する|・精神医療の治療構造を理解し、精神保健福祉士の役割を考察する

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健の課題と支援（秋期)A クラス_オンライン				単位	4
担当者	塩満　卓			シラバスグループ	W38300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T·S	

■授業のテーマ	現代における主要な精神保健の課題であるアルコール依存症や薬物依存病、ギャンブル依存症等のアディクション、家族の精神保健、労働者の精神保健、学校現場の精神保健課題について学ぶ。
■授業の概要	世界及び日本の精神保健の歴史を踏まえ、社会発展に伴う精神保健問題の広がりと主要な精神保健課題とその対策・限界について、講義する。①精神保健の歴史を理解する。また、②アディクション問題（アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル依存症)、③家族の精神保健の課題、④労働者の精神保健の課題、に関する理解を深め、現行の対策とその限界について考える。
■授業の目的・ねらい	①現代社会における精神面における保健（メンタルヘルス）の諸課題を社会と関連づけて捉え、説明できるようになる。|②メンタルヘルスの諸課題に関する対応策について、一次予防（発生予防)、二次予防（早期発見・早期介入)、三次予防（社会参加）の視点から理解する。|③メンタルヘルスの諸課題に関する現行の一次予防、二次予防、三次予防対策の効果と限界を理解する。
■到達目標	①現代社会におけるメンタルヘルスの諸課題を社会と関連づけて説明することができる。|②メンタルヘルスの諸課題に対する現行の一次予防、二次予防、三次予防の対応策を説明することができる。|③メンタルヘルスの諸課題に対する現行の対応策の効果と限界について、説明することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
·教室試験(S 履修)	100	
·リポート試験(SR 履修)	0	
·授業内発表	0	
·授業内試験	0	
·授業内課題	0	
·その他	0	

授業科目	精神保健の課題と支援（集中１)A クラス_オンライン				単位	4
担当者	上村　啓子			シラバスグループ	W38510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	地球温暖化をはじめとする自然環境変動により洪水、地震などの災害が頻繁に起こり、新型コロナウイルスによるパンデミック感染症が発生するなど私たちを取り巻く環境が大きく変化しているなか精神保健の基本的考え方と心身の健康の維持増進のためにソーシャルワーカーが果たすべき役割を考える。
■授業の概要	ライフサイクルや生活習慣をはじめとする精神保健の基本的な考え方と関連する人間の心理行動面の特徴と現在の動向、ネット社会の実社会でのつながりの希薄化、小家族・核家族化、雇用情勢や職場環境の変化などによる家族、学校、勤労者の精神保健について学ぶ。注目されている災害被災者や犯罪被害者における心の傷やその支援者に生じるストレス、自殺問題、性的多様性や外国人など社会的マイノリティの問題、ストーカーなどの行為も取り上げる。| また精神障害者の地域生活支援及び精神保健活動が広く人々の精神的健康の保持及び増進に果たす役割について理解を深める。地域精神保健施策の概要、ネットワーク、これからの精神保健活動のあるべき姿について考察を深める。
■授業の目的・ねらい	精神保健に関する基本的理解を得て、ライフサイクル、疾病・障害別の個別課題、家庭・学校・職場における精神保健活動の実際、精神保健に関する精神保健福祉士の役割、関連法規や関連施策を理解する。
■到達目標	精神の健康の重要性を理解し、関連して法律、施策、実例を説明できるようになる。ストレスの多い社会においてどのように精神の健康を保っていくか、精神保健の課題を持つ人々へどのように関わっていけばよいか理解し、これからの精神保健活動のあるべき姿について考察できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	積極的な質問、発表を評価する。
･授業内課題	0	実施しない。
･その他	10	

授業科目	精神保健福祉の原理（春期)A クラス_オンライン				単位	4
担当者	緒方　由紀			シラバスグループ	W48100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	精神保健医療福祉を支える理念、制度、歴史、実践
■授業の概要	日本における精神保健医療福祉に関わる法制度、特にその根幹である精神保健福祉法の歴史、法理念を学ぶと共に、関連する障害者福祉や社会保障領域の法制度、サービスや専門職の枠組みについて学習する。さらに諸外国における精神保健福祉の歴史的展開にもふれることをとおして、日本の精神障害者をめぐる政策的かつ実践課題について理解を深める。｜　随時、文献、新聞や雑誌記事、動画資料など紹介する。途中でグループでの話し合いや、小リポートをとり入れる。
■授業の目的・ねらい	精神病者、精神障害者に対するケアは社会の中でどのような歴史を辿ってきたのか、精神保健医療福祉に関する法制度および関連政策の変遷をおさえながら学習をすすめる。また、諸外国の政策動向にも注目し、日本の精神障害者をめぐる現状と歴史的に積み残してきた課題(社会的入院、病床数の多さ、在院期間の長期化と高齢化、地域移行の難しさ等々)や今後の方向性について考察を行う。
■到達目標	精神障害者に関する法制度や支援について枠組みを体系的に把握することをとおして、精神病者、精神障害者、家族等が時代の中でそれぞれどのような困難を抱えてきたのか、社会問題として理解し、説明できるようになる。そうした中で、必要な社会的支援とは何か、専門職や関係機関の役割について考察をすすめていく。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	授業で学んだことが設題に即してまとめられているかを問う。
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	取り上げるトピックスについて、他者との相互交流を通して自身の意見をまとめ発表する。
･授業内課題	20	
･その他	0	授業でとりあげる課題を整理し小リポートを提出。‖

授業科目	精神保健福祉の原理（冬期)A クラス_オンライン				単位	4
担当者	緒方　由紀			シラバスグループ	W48400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S	

■授業のテーマ	精神保健医療福祉を支える理念、制度、歴史、実践
■授業の概要	日本における精神保健医療福祉に関わる法制度、特にその根幹である精神保健福祉法の歴史、法理念を学ぶと共に、関連する障害者福祉や社会保障領域の法制度、サービスや専門職の枠組みについて学習する。さらに諸外国における精神保健福祉の歴史的展開にもふれることをとおして、日本の精神障害者をめぐる政策的かつ実践課題について理解を深める。｜　随時、文献、新聞や雑誌記事、動画資料など紹介する。途中でグループでの話し合いや、小リポートをとり入れる。
■授業の目的・ねらい	精神病者、精神障害者に対するケアは社会の中でどのような歴史を辿ってきたのか、精神保健医療福祉に関する法制度および関連政策の変遷をおさえながら学習をすすめる。また、諸外国の政策動向にも注目し、日本の精神障害者をめぐる現状と歴史的に積み残してきた課題(社会的入院、病床数の多さ、在院期間の長期化と高齢化、地域移行の難しさ等々)や今後の方向性について考察を行う。
■到達目標	精神障害者に関する法制度や支援について枠組みを体系的に把握することをとおして、精神病者、精神障害者、家族等が時代の中でそれぞれどのような困難を抱えてきたのか、社会問題として理解し、説明できるようになる。そうした中で、必要な社会的支援とは何か、専門職や関係機関の役割について考察をすすめていく。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	授業で学んだことが設題に即してまとめられているかを問う。
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	取り上げるトピックスについて、他者との相互交流を通して自身の意見をまとめ発表する。
･授業内課題	20	
･その他	0	授業でとりあげる課題を整理し小リポートを提出。‖

授業科目	ソーシャルワークの理論と方法（春期)A クラス_オンライン			単位	4
担当者	西村　伸			シラバスグループ	W49100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	T･S

■授業のテーマ	ソーシャルワークの理論の枠組み、展開過程、実践モデルとアプローチを理解する。
■授業の概要	ソーシャルワーカーは専門職として、様々な知識や技術を用いて援助を行う。その中の理論・実践モデル・アプローチについて、本講義では取り扱う。また、ソーシャルワークには一定の支援の流れがあり、その過程を理解した上で、実践を行うことが求められる。そのため、ソーシャルワークの展開過程を本講義では取り扱う。
■授業の目的・ねらい	１．ソーシャルワークの基本的理論となるシステム理論、生態学理論、バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、ミクロ・メゾ・マクロソーシャルワークがどのような考えに基づき、どのように実践されるものかを知る。|２．ソーシャルワークの展開過程のそれぞれの内容と留意すべきことを知る。展開過程の一連の流れを知る。|３．ソーシャルワークの実践モデルとアプローチのそれぞれの理論的基盤から特徴を押さえる。
■到達目標	１．ソーシャルワークの基本的理論となるシステム理論、生態学理論、バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、ミクロ・メゾ・マクロソーシャルワークを説明できるようになる。|２．ソーシャルワークの展開過程のそれぞれの内容を順を追って説明できるようになる。実際の事例に具体的に照らして考えることができるようになる。|３．様々なソーシャルワークの実践モデルとアプローチのうち、自身が使いやすい３つを説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	ソーシャルワークの理論と方法（冬期)A クラス_オンライン			単位	4
担当者	西村　伸			シラバスグループ	W49400
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S

■授業のテーマ	ソーシャルワークの理論の枠組み、展開過程、実践モデルとアプローチを理解する。
■授業の概要	ソーシャルワーカーは専門職として、様々な知識や技術を用いて援助を行う。その中の理論・実践モデル・アプローチについて、本講義では取り扱う。また、ソーシャルワークには一定の支援の流れがあり、その過程を理解した上で、実践を行うことが求められる。そのため、ソーシャルワークの展開過程を本講義では取り扱う。
■授業の目的・ねらい	１．ソーシャルワークの基本的理論となるシステム理論、生態学理論、バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、ミクロ・メゾ・マクロソーシャルワークがどのような考えに基づき、どのように実践されるものかを知る。|２．ソーシャルワークの展開過程のそれぞれの内容と留意すべきことを知る。展開過程の一連の流れを知る。|３．ソーシャルワークの実践モデルとアプローチのそれぞれの理論的基盤から特徴を押さえる。
■到達目標	１．ソーシャルワークの基本的理論となるシステム理論、生態学理論、バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、ミクロ・メゾ・マクロソーシャルワークを説明できるようになる。|２．ソーシャルワークの展開過程のそれぞれの内容を順を追って説明できるようになる。実際の事例に具体的に照らして考えることができるようになる。|３．様々なソーシャルワークの実践モデルとアプローチのうち、自身が使いやすい３つを説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	ソーシャルワークの理論と方法（専門）（秋期)A クラス_オンライン			単位	4
担当者	中野　加奈子			シラバスグループ	W50300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T・S

■授業のテーマ	現代日本のソーシャルワークに求められる総合的かつ包括的な支援を理解する。
■授業の概要	現代日本においては、多様化・複雑化する生活課題があり、それらの課題に対してミクロレベルでのソーシャルワークだけでは解決できず、総合的かつ包括的な支援を行うジェネラリストとしてのソーシャルワークが求められている。当授業では、総合的かつ包括的な支援の考え方について概説するとともに、具体的にメゾレベルの実践に当たる家族支援、地域支援の方法と展開について詳説する。また、生活保護基準引き下げ違憲訴訟などの事例からソーシャルアクションについても触れる。
■授業の目的・ねらい	１．総合的かつ包括的な支援が求められるようになった背景、その考え方を理解し、説明できるようになる。|２．家族に関する理論を理解し、ソーシャルワークにおける家族に関するアセスメント方法、家族支援を理解し、説明できるようになる。|３．ソーシャルワークにおける地域支援の際のアセスメントや展開を理解し、説明できるようになる。|４．ソーシャルアクションの意義、方法を理解し、説明できるようになる。
■到達目標	１．現代日本における多様化・複雑化する生活課題に対して、ミクロレベルだけのソーシャルワークだけではなく、メゾ・マクロレベルのソーシャルワークが求められており、その実践について説明できるようになる。|２．メゾレベルとしての家族やその家族が抱えている諸問題を理解した上で、家族支援を展開できる前提として説明ができるようになる。|３．メゾレベルとしての地域を理解した上で、地域住民と協働したソーシャルワークを展開する中で、ソーシャルワーカーの立ち位置の変化を知り、地域支援を説明することができるようになる。|４．ソーシャルアクションの意義、方法を理解し、説明できるようになる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神障害リハビリテーション論（秋期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	太田　智之			シラバスグループ	W30300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	T･S

■授業のテーマ	精神障害者のリカバリーを目指した支援を学ぶ
■授業の概要	精神科リハビリテーション学は、まず大前提として精神障害とは何か、疾病と障害の違いとは何かを理解するところから始まる。精神障害者へのリハビリテーションは、決して個人の能力向上のみを目的とはしていない。当事者を取り巻く環境（人、地域、制度、文化等）への働きかけも必要である。またそれらの関りはリカバリーを目指したものとしたい。精神科リハビリテーションにおいて、精神保健福祉士として果たすべき役割について知る。
■授業の目的・ねらい	1.　精神障害を理解し精神科リハビリテーションの概念を理解する。|2.　精神科リハビリテーションのプロセスと技術を理解する。|3.　精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割を理解する。|
■到達目標	1.　精神障害について理解を深めることを通して身体科リハビリテーション等との異同を明確にし、精神科リハビリテーションを理解する。|2.「リカバリー」視点に基づく精神科リハビリテーションの展開について理解する。|3.　精神科リハビリテーションを行う上で、精神保健福祉士が押さえておくべき視点や役割を理解する。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉制度論（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	江本　純子			シラバスグループ	W33300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	精神障害者の地域生活支援システムの現状と課題
■授業の概要	精神障害者の生活の場は地域である．今，世界的に病院から地域へという流れのなかで，地域での生活をどう充実させるかが問われている．精神障害者の地域生活を考える上で，まず，精神障害とはを学ぶ必要がある．精神障害の特性とはなにか，彼らや彼女たちが，どのような生活ニーズを持っているのかを明確にする必要がある．この講義では，まず，統合失調症と感情障害（双極性障害）等の障害特徴を学び，次に，彼らの生活をいくつかの局面に分け学ぶ．それは，彼らが危機的な状況を招いた時の地域生活支援，安心して生活できる居住支援や地域での居場所の支援，就労支援等である．これらの支援が，どのような法・制度の下で行われているのか，その支援を展開していく上で，どのような哲学や方法が求められるのか．さらに，ソーシャルワーカーとして，その支援制度を発展させていく為に，どのような運動を組織することが必要か等を学ぶ．
■授業の目的・ねらい	本講義の目的は，次の四つである．|①精神障害とはなにかを理解する．福祉を学ぶものにとって，最低限の精神障害の症状や障害の特徴を学び理解することが必要である為，基礎的な知識を学ぶ．|②精神障害者の地域生活をいくつかの局面に分け考える力を育てる．一つは，地域のソーシャルワーカーとして精神障害者と出会った時に，どのような資源を活用し，どのような支援を行うのかであるる．次に，彼や彼女たちが，危機的な状況と出会った時の局面である．その時に，どのように介入するかである．さらには，彼らが地域で安心して暮らし，仲間と関わり，就労することを支援する局面である．|③精神障害者の地域生活は満ち足りているものではない．現状の制度がどのような課題を持っているのか，システムを充実させる為に必要なソーシャルワーカーが組織する運動について理解する．|

■到達目標	精神障害の特徴と支援ニーズ，現行の支援システムの概要を理解するとともに，政策や制度に規定される支援システムの限界と，その限界を克服する運動の課題を理解する．

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉制度論（集中１)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	江本　純子			シラバスグループ	W33510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	精神障害者の地域生活支援システムの現状と課題
■授業の概要	精神障害者の生活の場は地域である．今，世界的に病院から地域へという流れのなかで，地域での生活をどう充実させるかが問われている．精神障害者の地域生活を考える上で，まず，精神障害とはを学ぶ必要がある．精神障害の特性とはなにか，彼らや彼女たちが，どのような生活ニーズを持っているのかを明確にする必要がある．この講義では，まず，統合失調症と感情障害（双極性障害）等の障害特徴を学び，次に，彼らの生活をいくつかの局面に分け学ぶ．それは，彼らが危機的な状況を招いた時の地域生活支援，安心して生活できる居住支援や地域での居場所の支援，就労支援等である．これらの支援が，どのような法・制度の下で行われているのか，その支援を展開していく上で，どのような哲学や方法が求められるのか．さらに，ソーシャルワーカーとして，その支援制度を発展させていく為に，どのような運動を組織することが必要か等を学ぶ．
■授業の目的・ねらい	本講義の目的は，次の四つである．|①精神障害とはなにかを理解する．福祉を学ぶものにとって，最低限の精神障害の症状や障害の特徴を学び理解することが必要である為，基礎的な知識を学ぶ．|②精神障害者の地域生活をいくつかの局面に分け考える力を育てる．一つは，地域のソーシャルワーカーとして精神障害者と出会った時に，どのような資源を活用し，どのような支援を行うのかであるる．次に，彼や彼女たちが，危機的な状況と出会った時の局面である．その時に，どのように介入するかである．さらには，彼らが地域で安心して暮らし，仲間と関わり，就労することを支援する局面である．|③精神障害者の地域生活は満ち足りているものではない．現状の制度がどのような課題を持っているのか，システムを充実させる為に必要なソーシャルワーカーが組織する運動について理解する．|
■到達目標	精神障害の特徴と支援ニーズ，現行の支援システムの概要を理解するとともに，政策や制度に規定される支援システムの限界と，その限界を克服する運動の課題を理解する．

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉援助技術演習（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W39200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	精神障害者の生活のしづらさを理解し、ソーシャルワーク専門職としての専門的な視点や基本的態度を学ぶ。
■授業の概要	精神保健福祉に関するソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等）の事例や当事者の体験談をもとに、ソーシャルワーク専門職としての専門的視点や思考過程、基本的態度を学び、当事者との対等な関係性をどのように構築するのかを考えるとともに、グループワークやロールプレイ、当事者の体験談等から得た気づきをもとに自己洞察を深める。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる基礎的な実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5758 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0857/W5660 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。|
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助技術演習（夏期)B クラス_対面				単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W39201	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	精神障害者の生活のしづらさを理解し、ソーシャルワーク専門職としての専門的な視点や基本的態度を学ぶ。
■授業の概要	精神保健福祉に関するソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等）の事例や当事者の体験談をもとに、ソーシャルワーク専門職としての専門的視点や思考過程、基本的態度を学び、当事者との対等な関係性をどのように構築するのかを考えるとともに、グループワークやロールプレイ、当事者の体験談等から得た気づきをもとに自己洞察を深める。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる基礎的な実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5758 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0857/W5660 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。|
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助技術演習（集中１)A クラス_対面				単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W39510	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	精神障害者の生活のしづらさを理解し、ソーシャルワーク専門職としての専門的な視点や基本的態度を学ぶ。
■授業の概要	精神保健福祉に関するソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等）の事例や当事者の体験談をもとに、ソーシャルワーク専門職としての専門的視点や思考過程、基本的態度を学び、当事者との対等な関係性をどのように構築するのかを考えるとともに、グループワークやロールプレイ、当事者の体験談等から得た気づきをもとに自己洞察を深める。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる基礎的な実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5758 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0857/W5660 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。|
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助技術演習（集中１)B クラス_対面				単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W39511	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR/T・S	

■授業のテーマ	精神障害者の生活のしづらさを理解し、ソーシャルワーク専門職としての専門的な視点や基本的態度を学ぶ。
■授業の概要	精神保健福祉に関するソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等）の事例や当事者の体験談をもとに、ソーシャルワーク専門職としての専門的視点や思考過程、基本的態度を学び、当事者との対等な関係性をどのように構築するのかを考えるとともに、グループワークやロールプレイ、当事者の体験談等から得た気づきをもとに自己洞察を深める。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる基礎的な実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5758 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0857/W5660 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。|
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助技術演習（専門）Ⅰ（秋期)A クラス_対面			単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W40300
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/T・S

■授業のテーマ	精神保健福祉領域におけるソーシャルワークを学ぶ。その１
■授業の概要	精神保健福祉に関する総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等），医療と共同・連携するソーシャルワーク実践に係る具体的な事例を体系的に取り上げながら，個別指導ならびに集団指導を通して，具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワークやロールプレイング等）を中心とする演習を行う。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる基礎的な実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5759 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0858/W5661 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助技術演習（専門）Ⅰ（秋期)B クラス_対面			単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W40301
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/T・S

■授業のテーマ	精神保健福祉領域におけるソーシャルワークを学ぶ。その１
■授業の概要	精神保健福祉に関する総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等），医療と共同・連携するソーシャルワーク実践に係る具体的な事例を体系的に取り上げながら，個別指導ならびに集団指導を通して，具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワークやロールプレイング等）を中心とする演習を行う。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる基礎的な実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5759 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0858/W5661 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助技術演習（専門）Ⅱ（秋期)A クラス_対面			単位	2
担当者	泉　洋一		シラバスグループ	W41300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/T・S

■授業のテーマ	精神保健福祉領域におけるソーシャルワークを学ぶ。その２
■授業の概要	精神保健福祉に関するソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等）の事例や当事者の体験談をもとに、ソーシャルワーク専門職としての専門的視点や思考過程、基本的態度を学び、当事者との対等な関係性をどのように構築するのかを考えるとともに、グループワークやロールプレイ、当事者の体験談等から得た気づきをもとに自己洞察を深める。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる包括的な視点と実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5760 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0859/W5662 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉援助技術演習（専門）Ⅱ（秋期)B クラス_対面			単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W41301
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR/T・S

■授業のテーマ	精神保健福祉領域におけるソーシャルワークを学ぶ。その２
■授業の概要	精神保健福祉に関するソーシャルワーク実践（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・ワーク、ソーシャルアクション等）の事例や当事者の体験談をもとに、ソーシャルワーク専門職としての専門的視点や思考過程、基本的態度を学び、当事者との対等な関係性をどのように構築するのかを考えるとともに、グループワークやロールプレイ、当事者の体験談等から得た気づきをもとに自己洞察を深める。
■授業の目的・ねらい	具体的な事例や体験談から学ぶ過程を通じて、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、精神保健福祉士として求められる包括的な視点と実践力を涵養する。また、「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を共通原理として、実際の援助場面で体現できることを目指す。
■到達目標	ソーシャルワークの価値に根づいた思考過程を習得し、基礎的な実践力を涵養するとともに、共通原理をもとに演習事例や当事者の体験の理解を深めることを到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	科目コード：W5760 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内発表	40%	科目コード：W0859/W5662 対象‖量的（記述量）な観点と質的（内容）な観点により評価する。記述量が、指定文字数の 50%以下の場合、不合格となる。
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	精神保健福祉援助技術実習指導Ⅰ（秋期)A クラス_対面			単位	2
担当者	塩満　卓		シラバスグループ	W43300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	障害福祉サービス事業所での実習に向けての事前学習|個別および集団指導を通して、医療機関や施設等の機能や役割および精神保健福祉援助に必要な知識，技術等について学修する。授業全体を通して精神保健福祉援助実習の枠組みを理解するとともに、各自の実習テーマと計画書の作成を行う。
■授業の概要	個別および集団指導を通して、医療機関や施設等の機能や役割および精神保健福祉援助に必要な知識，技術等について学修する。授業全体を通して精神保健福祉援助実習の枠組みを理解するとともに、各自の実習テーマと計画書の作成を行う。そのために、以下の項目をおり込みながら展開する。|①本授業は、地域実習（障害福祉サービス事業等）を主体的に取り組むための事前学習として、精神保健福祉士の専門知識および援助方法についての理解を深め、ソーシャルワーク専門職に求められる専門的視点と基本的態度を学ぶ。|②精神障がい者及び家族のおかれている社会的状況や生活実態、生活上の困難（生活のしづらさ)、社会的障壁等について理解を深め、社会福祉学を基盤とする精神保健福祉士の多面的な視点と専門性（価値・知識・技術）から精神障がい者を“生活者”として捉え、その生活を包括的に支援する力を習得する。|③社会福祉の基礎・共通科目と精神保健福祉の専門科目で学んだ多様な知識・理論・技術を統合し、自己洞察できる力とソーシャルワーク専門職として行動（役割遂行）できる力を醸成する。|④精神保健福祉現場の課題や自分自身の問題意識をもとに、実習テーマ・実習課題を考え、実習計画書を作成する。個別発表やグループワークを通じて参加型授業を実施し、受講生相互の意見交流の場を持つ。
■授業の目的・ねらい	精神保健福祉援助実習の意義について理解する。また、精神障害者のおかれている現状の把握と相談援助に係る知識や技術について具体的かつ実際的に理解するとともに、実践的な技術等を体得する。|①精神保健福祉士の使命と役割、職業倫理について学び、ソーシャルワーク専門職として獲得すべき専門性（価値・知識・技術）及び基本的態度、権利擁護の視点について、理解を深めることをねらいとしている。|②精神障がい者及び家族のおかれている社会的状況を多面的に捉え、その生活実態や生活上の困難（生活のしづらさ）を包括的に支援する視点を形成し、地域生活支援に関する問題意識を醸成する。|③障害福祉サービス事業や地域生活支援事業の体系を理解し、精神障がい者の自己決定を尊重しながら地域生活を継続するソーシャルワーク実践の方法と必要な社会資源について考える。|④精神保健福祉現場の課題や自分自身の問題意識をもとに実習テーマや実習課題についての考察を重ね、主体的なグループ討議への参加を経て、地域実習（障害福祉サービス事業等）の実習計画書を立案する。

■到達目標	具体的な場面を想定し、これまでの学習と関連づけながら、精神保健福祉援助の対象理解，技術，価値など実習で求められる知識と態度を獲得し、実践への関心をもつことができる。さらに実習に対する自身の目標の言語化、自らの実習テーマの決定と同時に、テーマに沿った計画書の作成、こうした一連の事前学習のプロセスを経て各自が実習の準備を主体的に行うことができるようになる。　この目標に到達するために、以下の項目をおり込みながら展開する。|①精神保健福祉士を目指す動機と精神保健福祉領域における問題意識を明確にする。|②ソーシャルワーク専門職としての専門的な視点及び基本的態度を形成し、職業倫理に基づいた行動がとれる。|③精神障がい者及び家族の生活のしづらさについて理解し、その地域生活支援のために精神保健福祉士がどのようなソーシャルワーク実践（個別・集団）を展開しているのかを説明できるとともに自らが実践できるようになる。|④ソーシャルワーク専門職に求められる資質や技能、自己の課題把握などを見極め、精神障がい者を“生活者”として捉える視点

	をもとに、総合的に対応できる力を習得する。⑤自らの問題意識をもとに障害福祉サービス事業所での現場実習を想定した実習計画書を立案する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	スクーリング受講許可後、スクーリング受講までに実習オリエンテーション（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングおよび「実習判定試験」（※1）に合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。※1　2020 年度以降入学者のみ「実習判定試験」受験対象
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	30%	
･その他	0%	

授業科目	精神保健福祉援助技術実習指導Ⅰ（秋期)B クラス_対面			単位	2
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	W43301
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR

■授業のテーマ	障害福祉サービス事業所での実習に向けての事前学習|個別および集団指導を通して、医療機関や施設等の機能や役割および精神保健福祉援助に必要な知識，技術等について学修する。授業全体を通して精神保健福祉援助実習の枠組みを理解するとともに、各自の実習テーマと計画書の作成を行う。
■授業の概要	個別および集団指導を通して、医療機関や施設等の機能や役割および精神保健福祉援助に必要な知識，技術等について学修する。授業全体を通して精神保健福祉援助実習の枠組みを理解するとともに、各自の実習テーマと計画書の作成を行う。そのために、以下の項目をおり込みながら展開する。|①本授業は、地域実習（障害福祉サービス事業等）を主体的に取り組むための事前学習として、精神保健福祉士の専門知識および援助方法についての理解を深め、ソーシャルワーク専門職に求められる専門的視点と基本的態度を学ぶ。|②精神障がい者及び家族のおかれている社会的状況や生活実態、生活上の困難（生活のしづらさ)、社会的障壁等について理解を深め、社会福祉学を基盤とする精神保健福祉士の多面的な視点と専門性（価値・知識・技術）から精神障がい者を“生活者”として捉え、その生活を包括的に支援する力を習得する。|③社会福祉の基礎・共通科目と精神保健福祉の専門科目で学んだ多様な知識・理論・技術を統合し、自己洞察できる力とソーシャルワーク専門職として行動（役割遂行）できる力を醸成する。|④精神保健福祉現場の課題や自分自身の問題意識をもとに、実習テーマ・実習課題を考え、実習計画書を作成する。個別発表やグループワークを通じて参加型授業を実施し、受講生相互の意見交流の場を持つ。
■授業の目的・ねらい	精神保健福祉援助実習の意義について理解する。また、精神障害者のおかれている現状の把握と相談援助に係る知識や技術について具体的かつ実際的に理解するとともに、実践的な技術等を体得する。|①精神保健福祉士の使命と役割、職業倫理について学び、ソーシャルワーク専門職として獲得すべき専門性（価値・知識・技術）及び基本的態度、権利擁護の視点について、理解を深めることをねらいとしている。|②精神障がい者及び家族のおかれている社会的状況を多面的に捉え、その生活実態や生活上の困難（生活のしづらさ）を包括的に支援する視点を形成し、地域生活支援に関する問題意識を醸成する。|③障害福祉サービス事業や地域生活支援事業の体系を理解し、精神障がい者の自己決定を尊重しながら地域生活を継続するソーシャルワーク実践の方法と必要な社会資源について考える。|④精神保健福祉現場の課題や自分自身の問題意識をもとに実習テーマや実習課題についての考察を重ね、主体的なグループ討議への参加を経て、地域実習（障害福祉サービス事業等）の実習計画書を立案する。

■到達目標	具体的な場面を想定し、これまでの学習と関連づけながら、精神保健福祉援助の対象理解，技術，価値など実習で求められる知識と態度を獲得し、実践への関心をもつことができる。さらに実習に対する自身の目標の言語化、自らの実習テーマの決定と同時に、テーマに沿った計画書の作成、こうした一連の事前学習のプロセスを経て各自が実習の準備を主体的に行うことができるようになる。　この目標に到達するために、以下の項目をおり込みながら展開する。|①精神保健福祉士を目指す動機と精神保健福祉領域における問題意識を明確にする。|②ソーシャルワーク専門職としての専門的な視点及び基本的態度を形成し、職業倫理に基づいた行動がとれる。|③精神障がい者及び家族の生活のしづらさについて理解し、その地域生活支援のために精神保健福祉士がどのようなソーシャルワーク実践（個別・集団）を展開しているのかを説明できるとともに自らが実践できるようになる。|④ソーシャルワーク専門職に求められる資質や技能、自己の課題把握などを見極め、精神障がい者を“生活者”として捉える視点

	をもとに、総合的に対応できる力を習得する。⑤自らの問題意識をもとに障害福祉サービス事業所での現場実習を想定した実習計画書を立案する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	スクーリング受講許可後、スクーリング受講までに実習オリエンテーション（実習に関する事務手続き等の説明）の視聴が必要です。スクーリング受講許可者に視聴方法等を通知します。なお、当該スクーリングおよび「実習判定試験」（※1）に合格しなければ実習の申込み手続きおよび実施はできません。※1　2020 年度以降入学者のみ「実習判定試験」受験対象
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	30%	
･その他	0%	

授業科目	福祉と養護（春期)A クラス_対面				単位	2
担当者	岩本　華子			シラバスグループ	W81100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	子ども家庭福祉・社会的養護についての理解
■授業の概要	子ども家庭福祉に関する現状、法律や制度について学ぶ。子ども家庭福祉において重要なテーマである支援を必要とする子どもへの支援や、児童虐待、DV について学び、子どもと家庭への支援の重要性について理解をする。社会的養護の制度や実践について学び、公による子どもへの支援の重要性について理解を深める。
■授業の目的・ねらい	講義を通して、子どもと子育て家庭への支援について具体的に理解し、保育士に求められる社会福祉の知識を得ることを目的とする。|
■到達目標	・子ども家庭福祉に関する制度を理解する|・子ども家庭福祉として対応が求められるテーマについて理解する|・子どもや子育て家庭への支援内容について理解する|・社会的養護の実践について理解する|・子どもや子育て家庭への支援について保育士としてできることを考える

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	授業への取り組みを勘案します。
･授業内課題	30	
･その他	0	授業への取り組みを勘案します。

授業科目	福祉と養護（秋期)A クラス_対面				単位	2
担当者	岩本　華子			シラバスグループ	W81300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	子ども家庭福祉・社会的養護についての理解
■授業の概要	子ども家庭福祉に関する現状、法律や制度について学ぶ。子ども家庭福祉において重要なテーマである支援を必要とする子どもへの支援や、児童虐待、DV について学び、子どもと家庭への支援の重要性について理解をする。社会的養護の制度や実践について学び、公による子どもへの支援の重要性について理解を深める。
■授業の目的・ねらい	講義を通して、子どもと子育て家庭への支援について具体的に理解し、保育士に求められる社会福祉の知識を得ることを目的とする。|
■到達目標	・子ども家庭福祉に関する制度を理解する|・子ども家庭福祉として対応が求められるテーマについて理解する|・子どもや子育て家庭への支援内容について理解する|・社会的養護の実践について理解する|・子どもや子育て家庭への支援について保育士としてできることを考える

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	授業への取り組みを勘案します。
･授業内課題	30	
･その他	0	授業への取り組みを勘案します。

授業科目	相談支援（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	深井　いし子			シラバスグループ	W82100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	子ども家庭支援の意義と役割、保育士に求められる子育て支援を学ぶ。また、多様な支援と関係機関との連携について学ぶ。
■授業の概要	相談援助の目的や方法を学び、事例を通してソーシャルワークの視点を養う。
■授業の目的・ねらい	保育士として求められる子ども家庭支援を習得し、実践に活かす方法を習得する。
■到達目標	子ども家庭支援の実際を知り、支援の見立てができ、支援方法を組み立てられるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	相談支援（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	深井　いし子			シラバスグループ	W82300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	子ども家庭支援の意義と役割、保育士に求められる子育て支援を学ぶ。また、多様な支援と関係機関との連携について学ぶ。
■授業の概要	相談援助の目的や方法を学び、事例を通してソーシャルワークの視点を養う。
■授業の目的・ねらい	保育士として求められる子ども家庭支援を習得し、実践に活かす方法を習得する。
■到達目標	子ども家庭支援の実際を知り、支援の見立てができ、支援方法を組み立てられるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	
･授業内発表	40%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	保健と食と栄養 a(春期)A クラス_対面				単位	2
担当者	猿渡　綾子			シラバスグループ	W83100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	栄養に関する知識、献立作成や食育の基本について学び、保育者として子どもの食を支援できるようになる。
■授業の概要	「食」は人が生きていくために欠かせないものであり、特に成長過程での食習慣は心身の発達やその後の健康などに大きな影響を与える。そこで本授業では、栄養に関する知識や献立作成のポイント、子どもの発育・発達に応じた食生活、食育の基本やその内容などについて学び、「食」を通じて子どもたちにどのようにかかわることができるのかについて考えてもらう。
■授業の目的・ねらい	子どもの健全な発育・発達を促すために必要な事柄を、栄養と食生活の面から理解し、支援する方法を判断できるようになる。|1）食品や栄養に関する基礎的知識を習得する。|2）子どもの発育・発達に応じた食生活を理解する。|3）様々な子どもの食生活の現状と課題について学び、それらに配慮した食生活や栄養について理解する。|4）食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する
■到達目標	1）食品や栄養に関する基礎的知識を習得し、説明することができる。　|2）子どもの発育・発達の特徴を理解し、段階に応じた食生活の援助ができる。|3）家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を理解し、適切な食の支援ができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	20	

授業科目	保健と食と栄養 a(秋期)A クラス_対面				単位	2
担当者	猿渡　綾子			シラバスグループ	W83300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	栄養に関する知識、献立作成や食育の基本について学び、保育者として子どもの食を支援できるようになる。
■授業の概要	「食」は人が生きていくために欠かせないものであり、特に成長過程での食習慣は心身の発達やその後の健康などに大きな影響を与える。そこで本授業では、栄養に関する知識や献立作成のポイント、子どもの発育・発達に応じた食生活、食育の基本やその内容などについて学び、「食」を通じて子どもたちにどのようにかかわることができるのかについて考えてもらう。
■授業の目的・ねらい	子どもの健全な発育・発達を促すために必要な事柄を、栄養と食生活の面から理解し、支援する方法を判断できるようになる。|1）食品や栄養に関する基礎的知識を習得する。|2）子どもの発育・発達に応じた食生活を理解する。|3）様々な子どもの食生活の現状と課題について学び、それらに配慮した食生活や栄養について理解する。|4）食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する
■到達目標	1）食品や栄養に関する基礎的知識を習得し、説明することができる。　|2）子どもの発育・発達の特徴を理解し、段階に応じた食生活の援助ができる。|3）家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を理解し、適切な食の支援ができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	20	

授業科目	保健と食と栄養 b(春期)A クラス_対面				単位	2
担当者	梶山　葉			シラバスグループ	W84100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	就学前の乳幼児の健康管理、日常よく遭遇する疾患について
■授業の概要	子どもの健康と保健について、系統的な講義を行います。|写真やビデオをつかった疾患の紹介のほか、効果的な手洗い、エピペン、救急蘇生など感染対策を踏まえながら実習を行います。
■授業の目的・ねらい	保育士など子供に関わる職種において重要な、子どもの健康保持、健康状態の変化を理解するよう講義を行います。|日々の保育に役立つ知識や技術を獲得することが目標です。|成績評価は、試験成績と出席状況を踏まえ総合的に判断します。
■到達目標	1 日目：感染症とその予防について理解できる。効果的な手洗いが出来る|2 日目午前：アレルギー疾患とその対応について理解できる。エピペンの使い方を知る|2 日目午後；小児の危機的状況に対し、理解し対応できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	10	
･授業内課題	10	
･その他	0	

授業科目	保健と食と栄養 b(秋期)A クラス_対面				単位	2
担当者	梶山　葉			シラバスグループ	W84300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	就学前の乳幼児の健康管理、日常よく遭遇する疾患について
■授業の概要	子どもの健康と保健について、系統的な講義を行います。|写真やビデオをつかった疾患の紹介のほか、効果的な手洗い、エピペン、救急蘇生など感染対策を行った上で、実習があります
■授業の目的・ねらい	保育士など子供に関わる職種において重要な、子どもの健康保持、健康状態の変化を理解するよう講義を行います。|日々の保育に役立つ知識や技術を獲得することが目標です。|成績評価は、試験成績と出席状況を踏まえ総合的に判断します。
■到達目標	1 日目：感染症とその予防について理解できる。効果的な手洗いが出来る|2 日目午前：アレルギー疾患とその対応について理解できる。エピペンの使い方を知る|2 日目午後；小児の危機的状況に対し、理解し対応できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	10	
･授業内課題	10	
･その他	0	

授業科目	乳児保育（春期)A クラス_対面				単位	2
担当者	増本　敏子			シラバスグループ	W85100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	乳児の発達を捉え、保育の目的や具体的な方法を知る
■授業の概要	乳児保育の歴史と今日的意義を理解し、今後の課題を考察する。０歳児から２歳児の発達のみちすじと、保育内容・方法についての理解を深める。乳児保育における保育士の専門性について考察する。
■授業の目的・ねらい	＊乳児保育の歴史と今日的意義を考察する。|＊０歳児から２歳児の発達のみちすじと保育内容・保育方法についての理解を深める。|＊乳児期における保育士の専門性について考察する。|
■到達目標	・乳児保育の理念と保育所・乳児院における乳児の現状と課題について理解することができる。|・０歳児か２歳児の発育・発達・生活と遊びについて理解することができる。|・乳児保育の内容・保育方法、環境構成や観察・記録について学ぶ。|・乳児保育の歴史的変遷および役割について学ぶ。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	乳児保育（秋期)A クラス_対面				単位	2
担当者	増本　敏子			シラバスグループ	W85300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	乳児の発達を捉え、保育の目的や具体的な方法を知る
■授業の概要	乳児保育の歴史と今日的意義を理解し、今後の課題を考察する。０歳児から２歳児の発達のみちすじと、保育内容・方法についての理解を深める。乳児保育における保育士の専門性について考察する。
■授業の目的・ねらい	＊乳児保育の歴史と今日的意義を考察する。|＊０歳児から２歳児の発達のみちすじと保育内容・保育方法についての理解を深める。|＊乳児期における保育士の専門性について考察する。|
■到達目標	・乳児保育の理念と保育所・乳児院における乳児の現状と課題について理解することができる。|・０歳児か２歳児の発育・発達・生活と遊びについて理解することができる。|・乳児保育の内容・保育方法、環境構成や観察・記録について学ぶ。|・乳児保育の歴史的変遷および役割について学ぶ。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	子ども家庭支援論（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	深井　いし子			シラバスグループ	W82100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	子ども家庭支援の意義と役割、保育士に求められる子育て支援を学ぶ。また、多様な支援と関係機関との連携について学ぶ。
■授業の概要	相談援助の目的や方法を学び、事例を通してソーシャルワークの視点を養う。
■授業の目的・ねらい	保育士として求められる子ども家庭支援を習得し、実践に活かす方法を習得する。
■到達目標	子ども家庭支援の実際を知り、支援の見立てができ、支援方法を組み立てられるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	子ども家庭支援論（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	深井　いし子			シラバスグループ	W82300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	子ども家庭支援の意義と役割、保育士に求められる子育て支援を学ぶ。また、多様な支援と関係機関との連携について学ぶ。
■授業の概要	相談援助の目的や方法を学び、事例を通してソーシャルワークの視点を養う。
■授業の目的・ねらい	保育士として求められる子ども家庭支援を習得し、実践に活かす方法を習得する。
■到達目標	子ども家庭支援の実際を知り、支援の見立てができ、支援方法を組み立てられるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	
･授業内発表	40%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	乳児保育（春期)A クラス_対面				単位	1
担当者	増本　敏子			シラバスグループ	W85100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	乳児の発達を捉え、保育の目的や具体的な方法を知る
■授業の概要	乳児保育の歴史と今日的意義を理解し、今後の課題を考察する。０歳児から２歳児の発達のみちすじと、保育内容・方法についての理解を深める。乳児保育における保育士の専門性について考察する。
■授業の目的・ねらい	＊乳児保育の歴史と今日的意義を考察する。|＊０歳児から２歳児の発達のみちすじと保育内容・保育方法についての理解を深める。|＊乳児期における保育士の専門性について考察する。|
■到達目標	・乳児保育の理念と保育所・乳児院における乳児の現状と課題について理解することができる。|・０歳児か２歳児の発育・発達・生活と遊びについて理解することができる。|・乳児保育の内容・保育方法、環境構成や観察・記録について学ぶ。|・乳児保育の歴史的変遷および役割について学ぶ。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	乳児保育（秋期)A クラス_対面				単位	1
担当者	増本　敏子			シラバスグループ	W85300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	乳児の発達を捉え、保育の目的や具体的な方法を知る
■授業の概要	乳児保育の歴史と今日的意義を理解し、今後の課題を考察する。０歳児から２歳児の発達のみちすじと、保育内容・方法についての理解を深める。乳児保育における保育士の専門性について考察する。
■授業の目的・ねらい	＊乳児保育の歴史と今日的意義を考察する。|＊０歳児から２歳児の発達のみちすじと保育内容・保育方法についての理解を深める。|＊乳児期における保育士の専門性について考察する。|
■到達目標	・乳児保育の理念と保育所・乳児院における乳児の現状と課題について理解することができる。|・０歳児か２歳児の発育・発達・生活と遊びについて理解することができる。|・乳児保育の内容・保育方法、環境構成や観察・記録について学ぶ。|・乳児保育の歴史的変遷および役割について学ぶ。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	子ども家庭支援論（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	深井　いし子			シラバスグループ	W82100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	子ども家庭支援の意義と役割、保育士に求められる子育て支援を学ぶ。また、多様な支援と関係機関との連携について学ぶ。
■授業の概要	相談援助の目的や方法を学び、事例を通してソーシャルワークの視点を養う。
■授業の目的・ねらい	保育士として求められる子ども家庭支援を習得し、実践に活かす方法を習得する。
■到達目標	子ども家庭支援の実際を知り、支援の見立てができ、支援方法を組み立てられるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	80%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	子ども家庭支援論（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	深井　いし子			シラバスグループ	W82300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	子ども家庭支援の意義と役割、保育士に求められる子育て支援を学ぶ。また、多様な支援と関係機関との連携について学ぶ。
■授業の概要	相談援助の目的や方法を学び、事例を通してソーシャルワークの視点を養う。
■授業の目的・ねらい	保育士として求められる子ども家庭支援を習得し、実践に活かす方法を習得する。
■到達目標	子ども家庭支援の実際を知り、支援の見立てができ、支援方法を組み立てられるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	
･授業内発表	40%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	斉藤　利彦			シラバスグループ	X01200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	歴史文化研究のための「はじめの第一歩」
■授業の概要	コース、専門分野を問わず、大学において論文を執筆し、研究を進めるために必要なことを学修します。したがって、研究とは何か、論文とはどういうものかについて概略を述べたうえで、個々人が研究を進めるにあたって必要とされる、実践的なスキルの習得を目指します。‖図書館や資料室の利用に始まり、研究のための文献の探し方、入手の仕方などを習得します。また、文献を読んだり、史料の分析をする際に役立つデータベースの利用についても解説します。‖講義内では自分の研究に必要な文献を探し、文献リストの作成を行い、実際にそれらの文献を入手しようとするところまでを課題とします。‖そこまでできるようになれば、通信課程の学生もそれぞれの場所にあって少しずつ研究を進められるようになるはずです。
■授業の目的・ねらい	それぞれが卒業論文執筆に向けて、歴史文化研究の第一歩を踏み出すことが目的であり、同時に到達目標です。‖具体的には、研究に必要な文献を探索、入手し、読み進めることができるようになることです。
■到達目標	・図書館・資料室を利用し、研究に必要な文献を探すことができる|・ポータルサイトや歴史文化に関わるデータベースを活用して、研究に必要な情報や資料・文献を探すことができる。|・工具書類を利用しながら、文献を読み進めることができる。|・研究論文の構成を理解し読むことができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	30	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	70	
･その他	0	参考文献の調査やリストの作成、授業内発表などを総合的に評価します

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	大野　啓			シラバスグループ	X01300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	大学での学び、レポートや卒業論文作成のための基礎的作業（テーマの設定、文献検索、文献の選択、収集方法など）の方法を修得する。
■授業の概要	大学生の勉学の集大成ともいえる卒業論文作成は、学生生活において大きな意味を持つものである。‖卒業論文作成に当たって、最も重要なのが何をテーマにするのかということである。そのためには、先行研究や資料を探す作業は不可欠である。本講義では最初に図書館で資料献策の概要について説明した後に、各自の興味関心にしたがって、論文や資料の文献一覧を作成してもらうことにする。‖‖
■授業の目的・ねらい	本講義では論文作成に向けた基礎的な作業の方法を獲得することを目的とする。
■到達目標	本講は文献の検索ができることを最低限の目標とし、可能であれば研究テーマを設定するための文献一覧を作成することを目的とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	20%	

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	斉藤　利彦			シラバスグループ	X01200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	歴史文化研究のための「はじめの第一歩」
■授業の概要	コース、専門分野を問わず、大学において論文を執筆し、研究を進めるために必要なことを学修します。したがって、研究とは何か、論文とはどういうものかについて概略を述べたうえで、個々人が研究を進めるにあたって必要とされる、実践的なスキルの習得を目指します。‖図書館や資料室の利用に始まり、研究のための文献の探し方、入手の仕方などを習得します。また、文献を読んだり、史料の分析をする際に役立つデータベースの利用についても解説します。‖講義内では自分の研究に必要な文献を探し、文献リストの作成を行い、実際にそれらの文献を入手しようとするところまでを課題とします。‖そこまでできるようになれば、通信課程の学生もそれぞれの場所にあって少しずつ研究を進められるようになるはずです。
■授業の目的・ねらい	それぞれが卒業論文執筆に向けて、歴史文化研究の第一歩を踏み出すことが目的であり、同時に到達目標です。‖具体的には、研究に必要な文献を探索、入手し、読み進めることができるようになることです。
■到達目標	・図書館・資料室を利用し、研究に必要な文献を探すことができる|・ポータルサイトや歴史文化に関わるデータベースを活用して、研究に必要な情報や資料・文献を探すことができる。|・工具書類を利用しながら、文献を読み進めることができる。|・研究論文の構成を理解し読むことができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	30	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	70	
･その他	0	参考文献の調査やリストの作成、授業内発表などを総合的に評価します

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	大野　啓			シラバスグループ	X01300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	大学での学び、レポートや卒業論文作成のための基礎的作業（テーマの設定、文献検索、文献の選択、収集方法など）の方法を修得する。
■授業の概要	大学生の勉学の集大成ともいえる卒業論文作成は、学生生活において大きな意味を持つものである。‖卒業論文作成に当たって、最も重要なのが何をテーマにするのかということである。そのためには、先行研究や資料を探す作業は不可欠である。本講義では最初に図書館で資料献策の概要について説明した後に、各自の興味関心にしたがって、論文や資料の文献一覧を作成してもらうことにする。‖‖
■授業の目的・ねらい	本講義では論文作成に向けた基礎的な作業の方法を獲得することを目的とする。
■到達目標	本講は文献の検索ができることを最低限の目標とし、可能であれば研究テーマを設定するための文献一覧を作成することを目的とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	20%	

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	斉藤　利彦			シラバスグループ	X01200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	歴史文化研究のための「はじめの第一歩」
■授業の概要	コース、専門分野を問わず、大学において論文を執筆し、研究を進めるために必要なことを学修します。したがって、研究とは何か、論文とはどういうものかについて概略を述べたうえで、個々人が研究を進めるにあたって必要とされる、実践的なスキルの習得を目指します。‖図書館や資料室の利用に始まり、研究のための文献の探し方、入手の仕方などを習得します。また、文献を読んだり、史料の分析をする際に役立つデータベースの利用についても解説します。‖講義内では自分の研究に必要な文献を探し、文献リストの作成を行い、実際にそれらの文献を入手しようとするところまでを課題とします。‖そこまでできるようになれば、通信課程の学生もそれぞれの場所にあって少しずつ研究を進められるようになるはずです。
■授業の目的・ねらい	それぞれが卒業論文執筆に向けて、歴史文化研究の第一歩を踏み出すことが目的であり、同時に到達目標です。‖具体的には、研究に必要な文献を探索、入手し、読み進めることができるようになることです。
■到達目標	・図書館・資料室を利用し、研究に必要な文献を探すことができる|・ポータルサイトや歴史文化に関わるデータベースを活用して、研究に必要な情報や資料・文献を探すことができる。|・工具書類を利用しながら、文献を読み進めることができる。|・研究論文の構成を理解し読むことができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	30	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	70	
･その他	0	参考文献の調査やリストの作成、授業内発表などを総合的に評価します

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	大野　啓			シラバスグループ	X01300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	大学での学び、レポートや卒業論文作成のための基礎的作業（テーマの設定、文献検索、文献の選択、収集方法など）の方法を修得する。
■授業の概要	大学生の勉学の集大成ともいえる卒業論文作成は、学生生活において大きな意味を持つものである。‖卒業論文作成に当たって、最も重要なのが何をテーマにするのかということである。そのためには、先行研究や資料を探す作業は不可欠である。本講義では最初に図書館で資料献策の概要について説明した後に、各自の興味関心にしたがって、論文や資料の文献一覧を作成してもらうことにする。‖‖
■授業の目的・ねらい	本講義では論文作成に向けた基礎的な作業の方法を獲得することを目的とする。
■到達目標	本講は文献の検索ができることを最低限の目標とし、可能であれば研究テーマを設定するための文献一覧を作成することを目的とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	20%	

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	斉藤　利彦			シラバスグループ	X01200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	歴史文化研究のための「はじめの第一歩」
■授業の概要	コース、専門分野を問わず、大学において論文を執筆し、研究を進めるために必要なことを学修します。したがって、研究とは何か、論文とはどういうものかについて概略を述べたうえで、個々人が研究を進めるにあたって必要とされる、実践的なスキルの習得を目指します。‖図書館や資料室の利用に始まり、研究のための文献の探し方、入手の仕方などを習得します。また、文献を読んだり、史料の分析をする際に役立つデータベースの利用についても解説します。‖講義内では自分の研究に必要な文献を探し、文献リストの作成を行い、実際にそれらの文献を入手しようとするところまでを課題とします。‖そこまでできるようになれば、通信課程の学生もそれぞれの場所にあって少しずつ研究を進められるようになるはずです。
■授業の目的・ねらい	それぞれが卒業論文執筆に向けて、歴史文化研究の第一歩を踏み出すことが目的であり、同時に到達目標です。‖具体的には、研究に必要な文献を探索、入手し、読み進めることができるようになることです。
■到達目標	・図書館・資料室を利用し、研究に必要な文献を探すことができる|・ポータルサイトや歴史文化に関わるデータベースを活用して、研究に必要な情報や資料・文献を探すことができる。|・工具書類を利用しながら、文献を読み進めることができる。|・研究論文の構成を理解し読むことができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	30	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	70	
･その他	0	参考文献の調査やリストの作成、授業内発表などを総合的に評価します

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	大野　啓			シラバスグループ	X01300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	大学での学び、レポートや卒業論文作成のための基礎的作業（テーマの設定、文献検索、文献の選択、収集方法など）の方法を修得する。
■授業の概要	大学生の勉学の集大成ともいえる卒業論文作成は、学生生活において大きな意味を持つものである。‖卒業論文作成に当たって、最も重要なのが何をテーマにするのかということである。そのためには、先行研究や資料を探す作業は不可欠である。本講義では最初に図書館で資料献策の概要について説明した後に、各自の興味関心にしたがって、論文や資料の文献一覧を作成してもらうことにする。‖‖
■授業の目的・ねらい	本講義では論文作成に向けた基礎的な作業の方法を獲得することを目的とする。
■到達目標	本講は文献の検索ができることを最低限の目標とし、可能であれば研究テーマを設定するための文献一覧を作成することを目的とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	20%	

授業科目	地理学文献研究（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	長島　雄毅			シラバスグループ	X11300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	近代化以前の人口をめぐる研究の展開
■授業の概要	人口は地域の構成する主要な要素のひとつであり、地理学の主たる研究対象となっている。この講義では、歴史地理学と隣接諸分野における人口に関する研究について具体的な事例を紹介しながら検討していく。
■授業の目的・ねらい	歴史時代、とりわけ国勢調査開始以前の人口を対象とする研究の視点や方法を学ぶことが本講義の目的となる。この分野は歴史人口学をはじめとした隣接諸分野とも密接に関わりながら展開しているが、それらも積極的に取り上げながら、人口を通じて過去の地域をどのように捉えられるか考えていきたい。
■到達目標	歴史地理学における人口をめぐる研究の視点や方法について理解し、自分なりにその特徴や課題などをみいだすこと。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	90	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	10	

授業科目	地誌学文献研究（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	木村　大輔			シラバスグループ	X12300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	地図・統計資料を通じて地域の姿を浮き彫りにしよう
■授業の概要	地誌学は様々なスケールの地域を対象に、その地域における多様な要素について丁寧に調べ、その調べた結果を総合的に検討し、地域の性格を読み解くものです。本講義では日本の各地を対象に地図・統計資料・文献資料を読み解く作業を通じて、地域的差異や共通性を確認し、地域の性格を明らかにしていきます。各諸要素を丁寧に見ていくことで最終的には自然と文化によって紡ぎ出された地域の姿を浮き彫りにしていきます。
■授業の目的・ねらい	①　地図・統計資料等に関する基礎知識について理解する。｜ ②　地図・統計資料等の記載情報について理解する。｜ ③　地図・統計資料等に基づいた地域的性格について理解する。｜ ④　各諸要素を丁寧に調べ、総合的に検討する。｜
■到達目標	①　地図・統計資料等に関する基礎知識について説明できる。｜ ②　地図・統計資料等の記載情報について説明できる。｜ ③　地図・統計資料等に基づいた地域的性格について説明できる。｜ ④　各諸要素を丁寧に調べ、総合的に説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	①　問題の主旨を正確に理解していること。｜ ②　到達目標を踏まえた論述であること。｜ ③　記述が論理的に構成されていること。｜
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	①　丁寧な作図が行うこと。｜ ②　正確な計算が行えていること。｜ ③　資料を正確に読み取れていること。

授業科目	考古学文献研究（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	小池　寛			シラバスグループ	X13100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	考古学研究に関連する諸分野の基本的な文献や研究成果を解題し、考古学が原始・古代の社会をどのように復元してきたのかを考えます。
■授業の概要	考古資料を多角的に研究する際、民族学・文化人類学・民俗学・宗教学・文献史学・歴史地理学・地名学・政治経済学・言語学・気象学・地震研究・音楽・臨床検査学などの研究成果とどのよう対比させ、考古学研究を進めてきたかについて講義します。|　また、発掘調査の事例をプレゼンテーションにより紹介し、考古学研究の実際を学習します。
■授業の目的・ねらい	（１）考古学研究の基本は、精緻な測量図や遺物実測図、出土地名表などの図表を解釈することから始まります。その解釈の実例から、考古学研究の実際を学びます。|（２）考古資料を多角的に解釈する際、先にあげた関連分野の研究成果をどのように取り入れてきたのかについて解説します。|（３）京都の文化を理解するうえで重要な発掘調査成果について、プレゼンテーションを用いて考えていきます。|
■到達目標	（１）考古資料の図表を読み解く基本を習得|（２）考古資料の解釈にあたり、関連分野の研究成果との関係性についての理解|　以上の 2 点を到達の目標とし講義を行います。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	10	講義開始時にリポートの課題を提示します。
･授業内試験	0|	個々の講義内容についての感想をお伺いします。
･授業内課題	0|	
･その他	10	

授業科目	地理学特講２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	木村　大輔			シラバスグループ	X15100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	歴史地理学における景観復原の方法
■授業の概要	過去の景観を研究対象とする歴史地理学にとって、その多くが失われてしまった景観と言えます。そこで必要となるのが「景観復原」です。本講義では、歴史地理学にとっての景観復原の意義、景観復原の方法、具体的な史資料を用いた景観復原尾実践例、景観復原の抱える問題点について学んでいきます。
■授業の目的・ねらい	①　歴史地理学における景観復原の意義を理解する。｜ ②　景観復原の方法を正確に理解する。｜ ③　景観復原に用いる史資料の有効性・限界性を理解する。｜ ④　景観復原の問題点について理解する。
■到達目標	①　歴史地理学における景観復原の意義を説明できる。｜ ②　景観復原の方法を正確に説明できる。｜ ③　景観復原に用いる史資料の有効性・限界性について説明できる。｜ ④　景観復原の問題点について説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	①　問題の主旨を正確に理解していること。｜ ②　到達目標を踏まえた論述であること。｜ ③　記述が論理的に構成されていること。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	地理学特講３（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　基			シラバスグループ	X16200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	イノベーションと地理学
■授業の概要	イノベーションは地理学における古いテーマではあるが、最近十数年の間に新たな視点から研究が行われ、大きな発展を遂げている。| 本講義では、イノベーションのプロセスや条件について、主に地域社会経済や空間の視点から検討する。特に、講師の専門分野である農業セクターにおけるイノベーションや、イノベーション研究を批判的に捉える視点も紹介したい。なお、ディスカッションも行いたい。
■授業の目的・ねらい	・イノベーションと空間、地域社会経済との関係性を捉える方法について理解すること。|・農業セクターを中心としたイノベーションと地域との関係を検討する方法について理解すること。|・イノベーション概念や政策について批判的に考え、検討できる視点を身に付けること。
■到達目標	・イノベーションについて地域・空間との関わりから捉える視点を習得し、応用できること。|・受講生各人の興味・関心の中でイノベーション概念をどのように解釈・活用しうるか考え、意見を述べられること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	100%	
・リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	考古学特講２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	江　介也			シラバスグループ	X18200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	東アジアの墳墓文化を学ぶ
■授業の概要	本講義では、東アジア（主に中国大陸・朝鮮半島・日本列島を対象とする）における、墳墓をめぐる考古学について考える。発掘調査された多種多様な墳墓とそこから出土した遺物をビジュアルに紹介しながら、どのような資料により、どのような分析検討を経て、どのようなことが明らかになるのか平易に説明していく。|　　東アジアの墳墓文化は、他の文化要素同様、一定の地理的範囲内での内的発展と、様々な形態の地域間交流により形成され、時にシルクロードなどを経た域外文化の影響も受けつつ、多様な変遷・発展を遂げてきた。日常生活文化もその中に反映されており、内容がきわめて豊かである。|　　また、東アジアの墳墓文化の変遷・多様性には、国家・政権・民族間の外交関係や戦争のほか、交易その他による物質文化交流、宗教・思想の伝播、移住など多方面の背景要因があり、それらを考古学が関連諸分野の研究成果も援用しつつ、どのように明らかにしているのか話していく。|
■授業の目的・ねらい	東アジア各地では人の死をどのように捉え、どのように葬るべきと考え、どのような墓を営んだのか。ビジュアルな具体的墳墓の発掘調査成果を通じて、東アジアにおける各地域・各時期の墳墓観・死生観を感じ、考え、理解してもらいたい。|　　そしてそのために必要な、墳墓考古学の基礎知識と、墳墓観・死生観の基盤となる宗教・思想の基礎知識を身につけてもらいたい。
■到達目標	墳墓考古学の基本資料を見分ける能力とそれらについての基礎知識を習得する。また東アジアにおける墳墓文化の地域性（地域的特徴・差異）についての基本的知識の獲得と、その背景としての墳墓観や死生観の概要を理解するとともに、簡単な説明ができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	75%	
･授業内発表	15%	論述問題 3 問　　25 点×3
･授業内試験	0%	?1 日目の予習内容発表（各自 2 分程度）|②1 日目の復習に基づきおこなう 2 日目の授業冒頭での質問|③2 日目の予習課題である指定参考資料（論文・資料の PDF など）に関する要約発表|5 点×3
･授業内課題	10%	
･その他	0%	2 日目の復習課題でまとめたものの提出（提出期限は翌日）

授業科目	考古学特講３（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	松田　度			シラバスグループ	X19100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	考古学と地域史
■授業の概要	この授業では、考古学のやや専門的な内容をとりあげて、考古学を基本とした歴史叙述の方法を学びます。|授業はオンライン（パワーポイント）でおこない、担当教員の選んだテーマに沿って、地域学的視点を重視しながら、古代（弥生時代～平安時代）から中・近世（鎌倉時代～江戸時代）までの日本歴史を学習します。|また、授業の展開に即して、担当教員がかかわった遺跡を紹介しながら、地域社会と考古学とのかかわりについて考えていきます。
■授業の目的・ねらい	この授業では、考古学的な手法を中心に、文献などの関連資料を駆使して歴史を叙述する方法を学び、そのうえで、地域学的な視点から、特定のテーマについて考えていく方法を身につけてもらうのが目標です。|また、遺跡が実際に、それぞれの自治体（市町村）でどのように保護されているのか、また地域社会のなかでどのように活かされているのかといった事例をとおして、考古学と地域社会の関係性に興味をもってもらうことをねらいとしています。
■到達目標	１．考古学初級クラスから実践的な研究にむかうスタート地点に立ってもらうこと。|２．具体的な事例から、考古学の現代的・社会的位置づけを熟知すること。|３．日本の歴史を叙述する際に、地域学的な方法論のもつ重要性を理解すること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	講義をふまえての論述試験（計 2 回）で採点します。論述内容は、講義の内容をどの程度理解しているかによって評価します。
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	講義最終日のディスカッションでの発言も評価の対象としますので、積極的に発言する事。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	地図情報学２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	古関　大樹			シラバスグループ	X21100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	地図を読むための基礎知識
■授業の概要	地理や地域を知るためには，「地図を読む」という事が重要視されます。地図を読むことは，単に地図を眺めるだけでなく，その背後にある地域の特徴や地図を読むための知識や経験の積み重ねが重要となります。この授業では，ミニ演習を交えつつ地図を読むための基礎知識を学習します。
■授業の目的・ねらい	①地図や空中写真などの基礎的な性質を理解する。\②地図から様々な情報を導く方法論を身に着ける。
■到達目標	①地図や空中写真の基本的な性質を理解する。\②地図や空中写真を使って自分の言葉で説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	20%	
･その他	0%	

授業科目	地図情報学３（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	古関　大樹			シラバスグループ	X22300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	地図と地域分析
■授業の概要	地図情報学２を受けて，地図を使った地域観察を講義内で取り入れ，より実践的な地図の使い方と第三者への説明の仕方を学習する
■授業の目的・ねらい	①地図を使った地域観察の方法を学習する|②地図を使った地域の説明の仕方を学習する
■到達目標	①地図を使った地域観察の方法を学習する|②地図・写真・統計などを使い自身の言葉で地域を説明できるようにする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	20%	
･その他	0%	

授業科目	発展研究ゼミ１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	松波　宏隆			シラバスグループ	X23200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	日本の古代山城と東アジア
■授業の概要	日本には古代の山城が２２箇所で確認されている。これらのうちには、663 年白村江の敗戦後、日本に亡命してきた百済人により築かれたと『日本書紀』に記載されるものもある一方で、朝鮮半島の他の地域や中国大陸の築造技術との共通性が指摘できるものもある。本講義では築造技術の問題だけでなく、行政府や交通路との関係、外交・内政の問題などから、この日本古代山城が東アジアの山城の中でどのように位置づけられるか、これまでどのような研究がなされてきたかをみていく。
■授業の目的・ねらい	古代山城の遺構について、どのようなものがあるか、どのような分類がなされているか、どのように変質していくかを考えていくことで、物質資料を考察する際の基礎的な方法を身につけることを目標とする。
■到達目標	物質資料を考察する際の基礎的な方法を身につけること

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ２（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	塚本　章宏			シラバスグループ	X25300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	歴史文化学科で卒業論文を執筆するための方法を学ぶ
■授業の概要	歴史文化学科で卒業論文を執筆するための基礎的な方法を学びます。各自の興味関心をもとに、研究テーマを設定し、先行研究と史資料を収集する方法を学習する。その上で、論文の基本的な構造を理解するとともに、研究史の整理、論文の構成、執筆ルールなどを実践を通して習得する。成果の確認として、受講者各自が作成したレジュメをもとにしたプレゼンテーションを行う。
■授業の目的・ねらい	1.卒論論文のテーマや内容について説明できる 。|2.卒業論文のテーマや内容に関する文献や史資料を収集することができる。|3.卒業論文のテーマや内容を適切に文章化したレジュメを作成することができる。|4.卒業論文の内容をプレゼンテーションツールを用いて発表することができる。|5.他の受講生の発表について、積極的に質疑をすることができる。
■到達目標	1.卒論論文のテーマを具体的に説明できる 。|2.関連文献や史資料を適切に収集することができる。|3 卒業論文の内容をレジュメにまとめ、発表することができる。|4 他の受講生の研究についても、積極的に質疑をすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	30	授業中のプレゼンテーションをもとにしたリポートを提出してもらいます。質疑応答を踏まえて改善された内容になっているかも加味します。
･授業内試験	0	卒業論文のテーマ（今後の研究計画も含む）についての内容をまとめたプレゼンテーション。
･授業内課題	20	
･その他	10	文献検索や史資料の収集に関する課題を予定しています。

授業科目	発展研究ゼミ３（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	太田　智己			シラバスグループ	X27100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業論文にむけた視聴覚資料の活用
■授業の概要	卒業論文やレポートは、本文となる文章だけで作成できるわけではない。本文の文章だけでなく、図、表、映像といった視聴覚資料の提示が必要となるばあいもある。また、とりあつかうテーマによっては、図や映像の観察などこそを主に、卒業論文を展開させるばあいもある。つまり図・表・映像などの視聴覚資料を活用できるようになっておくことは、卒業論文やレポートの作成にあたり重要な前提となる。そこで本授業では、卒業論文の作成にむけて、視聴覚資料の活用のしかたを学修する。
■授業の目的・ねらい	卒業論文の作成にむけて、視聴覚資料の活用ができるようになる。
■到達目標	(1) 視聴覚資料を観察することができる。|(2) 視聴覚資料を比較することができる。|(3) 視聴覚資料にもとづく空間把握ができる。|(4) 研究倫理にそくして視聴覚資料を収集し活用することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	30%	到達目標で前掲した各項目の到達度によって評価する。
･授業内試験	0	授業内ディスカッションでの積極性を評価する。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ４（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	嶋谷　和彦			シラバスグループ	X29200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	考古学からみた日本の中近世史
■授業の概要	近年の遺跡の発掘調査は中近世をも対象とし、その成果は新しい歴史像を構築している。本授業では、最新のデータに基づき、考古学の立場から、日本各地の中近世都市遺跡の調査成果にも触れながら、「職人と生産」･「貨幣と流通」･「沈没船と対外交易」･「信仰と宗教」･「墓地と火葬場」などの要素も取り入れながら、全国的・東アジア的視野で、日本の中近世史を概観していく。
■授業の目的・ねらい	本授業の学習内容の要点は、日本の中近世史を考古学的に捉えることである。授業中の話を正しく理解し、中近世都市の空間構造やそこに生活した人々の姿を歴史の中で位置付け、認識することを目的とする。又、授業で与える課題に対するリポート作成を通して、今後の本格的な論文作成に向け、実践的な「予行演習」とすることも授業のねらいの一つである。
■到達目標	授業内容の正しい把握、および各自の関心のあるテーマ設定に基づく口頭発表･リポート作成を到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	20%	各自の授業内発表を元に文章化してリポートとして作成
･授業内試験	0%	各自の口頭発表
･授業内課題	0%	
･その他	10%	

授業科目	博物館実習講義（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	堀　大介			シラバスグループ	X88400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	博物館学芸員の業務の具体像
■授業の概要	本講義は実際に博物館や資料館に勤務されている現役の学芸員等の方々によって、開設にいたる実務や常設展示を含めた当該館の特色および学芸員の方々の研究や普及活動などについて体験をまじえて解説していただくという内容としています。 | 講義は複数の博物館・資料館の学芸員の方々に、２～３時限ずつ行っていただくことにしています。 |
■授業の目的・ねらい	博物館学芸員の使命と業務について、学芸員の方々の実際の体験のなかから具体的に紹介して|いただき、理解を深めることを目的としています。このような内容によって、見学者ではなく、|学芸員の側から博物館や博物館資料を見たり、考えるための基本的な見方を錬磨してください。|リポートの内容と評価等については、講義の最初の時間に説明します。
■到達目標	学芸員の実際の業務を通じて、目的と任務を知る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	リポートにて評価する
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	博物館実習Ⅱ（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	堀　大介			シラバスグループ	X89200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	博物館学芸員の業務とその実際
■授業の概要	この講義は博物館・資料館などにおいて、講義で得た理論と知識を実地に見聞したり、体験することによって、博物館の事業や活動および具体的な学芸員の業務をより深く理解することを目的としています。 ｜ 初日に実習についてのガイダンスや事前指導としての講義を行い、2 日目から近隣の博物館や資料館において、博物館の運営や学芸員の業務に接し、その実際を見聞します。これに加えて学内の実習施設で実習を行う場合もあります。
■授業の目的・ねらい	受講生各自が博物館の事業や活動、学芸員の業務の実際を見聞し、これを学習することを目的としています。よって、講義記録および実習の内容を記述した実習簿の記載内容によって評価します。これについては、事実記載の正確さ、記載内容の分類・整理の度合い、記載内容の具体性、博物館学の知識に対する一定程度の習熟などの基準を中心として評価を行います。
■到達目標	学芸員の実際の業務を通じて、目的と任務を知る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	100	

授業科目	博物館資料論Ⅱ（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	比佐　陽一郎			シラバスグループ	X87200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	博物館資料の保存修復と活用
■授業の概要	博物館で扱われる資料は文化財とほぼ同義と位置づけられる。文化財は元来、生活の中で生み出され、それを必要とする人々によって受け継がれてきた。しかし、明治期の大きな社会変革に伴い文化財を取り巻く環境は激変し、現在は新たな保護のシステムによって守られ、博物館もその一部を担っている。　|博物館における適切な資料の取り扱いのため、まずは文化財保護の仕組みを知ってもらい、その上で歴史系博物館で多く取り扱われる埋蔵文化財（考古資料）の事例を中心とした資料の保存方法、修復、二次資料の在り方等について、実例を中心に解説する。
■授業の目的・ねらい	日本では多くの博物館が存在するが、資料の保存を専門とする学芸員が常勤する博物館は限られる。この様な現状においては、専門の如何に関わらず、学芸員が資料の保存に関する課題に対処する必要が生じる可能性があり、日常における資料の取り扱いや展示の中で、どの様な保存の処置が資料に対して行われているかを理解しなければ、適切な活用が果たせない場合も少なくない。　|本講義は、博物館資料（文化財）の保存処理や修復、二次資料の作成といった作業に関する専門的な内容を主とするが、それは学芸員として直接これらの作業を行う技術を習得するためのものではなく、資料の保存に関する基本を知るとともに、トラブルに直面した際に、解決の手掛かりが得られることを目的とするものである。|学芸員としての業務において、資料の保存修復や二次資料の活用という部分で、基本的かつ新たな視点を提供できればと考えている。

■到達目標	博物館資料（文化財）の中で、特に歴史資料（埋蔵文化財）を中心に、保存処理や修復、あるいは二次資料の作成、活用についての基礎的な内容を学ぶ。それによって、現代の博物館における資料の保存や活用に関する課題解決に向けた手がかりとしてもらう。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	民俗学文献研究（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	樽井　由紀			シラバスグループ	X31300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『滑稽有馬紀行』から読み取る温泉の民俗
■授業の概要	温泉の民俗を学ぶために江戸時代の紀行文を読みましょう。舞台は当時から関西で一番人気があった有馬温泉です。宿、食事、入浴、信仰、お土産など、現在にも通じる温泉地ならではの民俗を理解しましょう。
■授業の目的・ねらい	民俗研究を進めるにあたって、文献の重要性を知る。|文献の内容を自分でまとめられるようになる。|文研研究の発表の方法を学ぶ。‖
■到達目標	文献の内容をまとめて発表する

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	40	発表の内容を反映したレポートを作成していただきます。
･授業内試験	0	発表のポイントを講義の中で説明します。
･授業内課題	10	
･その他	0	

授業科目	文化人類学文献研究（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	孫　潔			シラバスグループ	X32200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	本講義では、フィールドワークにもとづいて書かれた複数の文献を通じて、民族、観光や食文化など、文化人類学の重要テーマに関する文献を扱い、様々な社会や文化についての数篇の文献を比較検討していきます。文献で取り上げる社会や文化に関する理解と知見を深めるとともに、特定の課題を深化させる研究のプロセスを受講生がマスターすることを目標とします。
■授業の概要	本講義では、観光人類学に関する文献を講読することを通じて様々な民族・文化についての理解を深めます。また、文化人類学の基本的考え方を学ぶと同時に、自己を取り巻く社会・文化の多様性への眼差しを拡張させることを目指します。|
■授業の目的・ねらい	①文献研究の基礎方法をマスターする。|②文献研究とフィールドワークの関連を理解する。|③具体的なビデオ、文献への精読により、特定の課題を深める研究方法を取得する。
■到達目標	本講義では、文化人類学の基本的な考え方に対して理解を深めるとともに、文献講読の方法を身につけることも目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20%	
･その他	0	

授業科目	神話・伝承学文献研究（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	渡　勇輝			シラバスグループ	X33100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	変貌する日本神話
■授業の概要	2020 年は、日本書紀が編纂されて 1300 年目の記念すべき年でした。では日本書紀は、1300 年のあいだ、だれが、どのように読んできたのでしょうか。‖その問題を探っていくと、とくに中世おいては日本書紀を「註釈」することによって、あたらしい神話を創造していく姿が見えてきます。それはまた近世、近代にもつながるようです。そこに浮かんでくるのは、変貌していく日本神話の姿です。‖この授業では、だれが、どのように日本書紀を読み替え、あらたな神話ほ作り出していったかを探索し、神話・伝承学の文献研究の方法を学びます。|
■授業の目的・ねらい	変貌する日本神話、という視点から、神話・伝承学の文献研究を学び、受講生自身も文献を読む力を身に着けていくことが目的です。
■到達目標	変貌する日本神話の研究を通して、神話とは何か、なぜ神話は変貌していくのかを説得力をもって説明できるようになることが目標です。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	20	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	5	
･授業内試験	5	
･授業内課題	5	
･その他	5	

授業科目	民俗学特講２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	村田　典生			シラバスグループ	X35100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	民間信仰ー人々の祈りー
■授業の概要	日本の各地には様々な民間信仰が根付いている。「病気が治りますように。」、「受験に合格しますように。」、「宝くじに当たりますように。」、「商売が繁盛しますように。」、「豊作になりますように。」などである。｜　ご利益、利生を求めて人々は神社や寺院に参詣する。しかし、こうしたご利益はその社寺に祀られている神仏とは合致しない場合も多い。あるいは社寺だけでなく路傍の祠や場合によっては石や橋などにもご利益を求め祈願する人々もいる。｜　今回の講義ではこうした民間に流布する信仰である民間信仰を「流行神」、「願懸重宝記」、「パワースポット」をキーワードとして概観し、それらの歴史的な背景や意義について検討する。‖
■授業の目的・ねらい	講義では様々な民間信仰を概観していくが、その由来、由緒、伝承を検討し、人々がなぜこうしたご利益・利生を求めるのか考察したい。そうすることで民俗学における重要な研究ファクターである民間信仰の特質を理解し、受講する各人の地元や居住する地域に根付くそうした信仰を授業に沿った形で理解することを目的とする。｜
■到達目標	「流行神」、「願懸重宝記」、「パワースポット」をキーワードに様々な民間信仰の特質を自分なりの言葉で整理し、自分の意見でまとめられるようにすることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	短時間（５～7 分）の発表の時間を設ける。
･授業内課題	20	
･その他	0	全講義時間出席はもちろんのこと、発表のための文献調査などの準備。

授業科目	民俗学特講３（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	中嶋　奈津子			シラバスグループ	X36200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	資料とフィールドワークから知る、ふるさとの生活|
■授業の概要	日本人は長い歴史の中で、それぞれの地域で豊かな生活文化を育んできた。祈り（信仰）とともに地域に根ざすまつりや行事、芸能、そして各地域に特徴的な衣・食・住の様々な伝統文化は、時代の流れとともに少しずつ形を変えつつも、今日まで大切に受け継がれている。講義では東北地方のさまざまな生活文化について、資料と実際のフィールドワークでの調査内容を紹介し、対象となる地域社会や人々の暮らしの変遷について学び、そして「なぜ守り、受け継がれるのか」について考察していく。|講義の中で、受講する皆さんの地元もしくは居住地の、まつりや季節の行事、芸能などについて発表して頂く時間を設けますので、あらかじめ調べていて下さい。
■授業の目的・ねらい	東北地方の社会背景や生活文化、民俗をひとつの事例として学習するとともに、地域社会の人々の暮らしの変遷、それに伴い失われること、伝承されること、伝承の意義について考察していく。そのうえで、自身の居住する地域などに根づく行事やまつり、民俗について興味を持ち、調べること、理解、記録ができるようになることを目的とする。|
■到達目標	居住地など縁の地域のまつりや行事、芸能、生活文化に興味を持ち、それについて調べて整理と記録が出来るようになる。その変遷や意義について自身の意見をまとめることができるようになることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	地域のまつりや行事、芸能、生活文化などについて短時間（５？７分程）の発表の時間を設ける。
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	文化人類学特講２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	崔　杉昌			シラバスグループ	X38200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	自己と他者について理解を深める
■授業の概要	この授業では、他者について考えることを通して、自己および自己の社会を新たな視点から見つめ直す契機にしたい。まずは、文化人類学の研究方法を理解する（第 1 回～第 3 回)。その上で、その方法に基づき、家族、地域社会、儀礼、信仰、といった研究の対象を分析する（第 4 回～第 6 回)。最後に、その分析を踏まえて、他者と自己とを比較し考察することで、自己および自己の社会について再考する（第 7 回～第 9 回)。この授業では、特に日韓の事例を取り上げ、他者と自身とのあいだの差異と類似性について考えていただきたい。
■授業の目的・ねらい	①文化人類学の研究の方法を、把握する。|②文化人類学の研究の対象について、理解する。|③文化人類学の視点から、自己と他者を比較し考察する。
■到達目標	①文化人類学の基礎的な研究の方法および視点について、説明できるようになる。|②家族、地域社会、儀礼、信仰といった文化人類学の研究の対象について、説明できるようになる。|③他者の分析を通して自己を見つめ直すことにより、自己および自己の社会の特徴について、説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	論述試験を行います。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	文化人類学特講３（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	鈴木　文子			シラバスグループ	X39100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	文化とは何か
■授業の概要	これまで文化人類学は、同時代の異文化社会を対象として、主としてミクロなコミュニティー調査を中心に、生活文化や「民族」を研究してきた。しかし、近年、文化に対する認識が変化し、むしろそれらが歴史的にどのように生成されてきたかに関心をもつようになっている。| 本講義では、文化人類学における主要なトピックをもとに、文化を歴史的時間軸をもとに分析し、文化とは何か, 文化人類学のフィールドワーク資料, 民族誌的方法論をもとにした知見から考えていく。
■授業の目的・ねらい	①文化人類学的なアプローチから、歴史文化を研究していく方法、視点を理解する。|②「文化」の構築性について理解する。|③フィールドワークと文字資料の関係性を理解する。
■到達目標	①文化概念の多面性を理解し、説明できる。|②歴史的時間軸のなかで生成、変容する「文化」について、経済、政治、国家やイデオロギーの影響などを理解し、説明できるようになる。|③民族誌的研究視点,、フィールドワークと歴史研究の関連を説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	提起する問題に対し、論述式で解答した内容を提出してもらう。講義内容を踏まえ、具体的な事例を提示し、自分の言葉でまとめられた解答が高い評価となる。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0|	
･その他	20	

授業科目	神話・伝承学特講２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	村田　真一			シラバスグループ	X41100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日本古代の神話
■授業の概要	日本の神々について考える時、歴史的に先行して根幹となる世界を語り出しているのが、古代の神話です。日本古代の神話を記した文献としては『古事記』が最も有名ですが、ほぼ同時期に作られたと考えられる『日本書紀』にも『古事記』と相見合う神話が記されており、それらは後世にも多大な影響を与えています。| 神話・伝承学では、神々や神話の歴史的な変化、ということを重視した研究視点を持ちますが、そうした神々や神話の変貌を考えるためには、『古事記』と『日本書紀』の「神代」の神話についての理解は不可欠です。そこで、この科目では、『古事記』と『日本書紀』を比較しつつ、具体的に、日本古代の神話がどのようなものであったのか、ということを学んで行きます。| 世界のはじまりを語る創世神話、イザナキ・イザナミの国生み神話、現在でも広く知られるアマテラスやスサノヲの誕生と活躍、オホクニヌシの出雲神話、タケミカヅチによる地上平定、ホノニニギの天孫降臨など、これらの神話はどのように読むことができるのか、その神話にはどのような意味があるのか。『古事記』『日本書紀』が書かれた当時における意義を考えつつ、神話・伝承学の視点から、神話読解の実践について理解を深めることを目的に、学習を進めます。
■授業の目的・ねらい	基本方針は、神話・伝承学の観点から日本古代の神話について理解を深めることにあります。| 神話の物語についての具体的な知識を身につけることに加え、神話を読むというその読み方、分析のための方法論について意識し、これを対象化していくことも目標とします。| 総合的に、日本の神々について考えるための知識と分析方法の修得が目的となります。
■到達目標	神話・伝承学の視点から、『古事記』『日本書紀』に見られる日本古代の神話について、その内実と読解方法を理解できたどうかということが評価の基準となります。| 【到達目標箇条】|1：神話の物語や神々の様相や性質について理解する|2：『古事記』『日本書紀』の記述を具体的に読み解く|3：神話を読解する分析方法について整理し理解する

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験を予定している
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	神話・伝承学特講３（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	村田　真一			シラバスグループ	X42200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	中世神話と神仏習合
■授業の概要	日本の宗教・信仰は基本的には神と仏に代表され、神社と寺院のある光景は現在でも馴染みあるものです。こうした神社と寺院は、現代的な感覚からは神道と仏教という二つの異なる信仰をあらわす施設として理解されます。しかし、歴史的に見ると、日本の神と仏の信仰は密接で不可分な関係にあるものとして展開してきました。| すでに古代には「神仏習合」というべき神と仏の関係が成立しますが、中世になるとその関係はより複雑になり、神と仏が根源的に一致するものだと認識されるようになっていきます。| 「神仏習合」はそうした神と仏の関係そのものを捉える視点、「中世神話」は、歴史の中の神と仏の関係を新たに作り出し物語る様々な資料を読み解く視点として位置づけられます。 これらの視点は、神と仏への信仰が別々のものだという認識が、実は近代以降に成立したものであり、近代以前の歴史の実際では、その違いが自明ではなかったということに気づかせてくれます。| この講義では「神仏習合」と「中世神話」という問題意識を持ちつつ、神と仏の関係を示すいくつかの資料を読み解き、歴史上の神と仏への信仰がどのようなものであったのか、とくに古代から中世への変容・展開はどのように理解できるのか、ということについて考えていきます。
■授業の目的・ねらい	基本的な方針は神話・伝承学の観点から日本の中世における神仏信仰の展開を学ぶことです。| 神と仏の違いを前提にするのではなく、文献資料を読み解き、古代から中世へと変化する神仏をめぐる神話・伝承・言説の様相や性質、それらの関係を理解することが目的です。|
■到達目標	神話・伝承学の視点から、歴史上の神仏関係についての「神仏習合」という問題を「中世神話」の視点によって神仏の変貌、神話の変容として捉え、文献資料に基づいて理解できたかどうかということが評価の基準となります。|【到達目標箇条】|1：文献資料毎にあらわされる神仏関係の様相を読み取る|2：文献資料から神仏関係の歴史的展開を理解する（古代から中世への展開）|3：具体的な事例を取り上げつつ、神仏習合や中世神話といった研究方法を神話・伝承学の視点から位置づける

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験を予定している
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	大野　啓			シラバスグループ	X43200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業論文作成に向けた、テーマ設定および発表
■授業の概要	大学生の勉学の集大成ともいえる卒業論文作成は、学生生活において大きな意味を持つものである。|受講生が卒業論文のテーマを設定したり、テーマに沿って報告を行なうことにする。‖受講生は自らの論文作成に向けた報告をするとともに、他の受講生の報告に対しても、自らの知識や経験をもとに質問や感想を講義者とともに出してもらい、報告者の卒業論文作成に資するようにしたい。
■授業の目的・ねらい	本講は卒業論文作成に向けた、問題意識の明確化、論の構成や論文作成の進度、さらには課題を確認し、卒業論文の作成作業を前進させることを目的とする。‖
■到達目標	受講生の進度によっても異なるが、卒業論文の作成に向けて、一歩でも前進すること。‖テーマ設定ができていない者は、テーマ設定を行なったり、テーマ設定をするために必要な作業を明確にする。‖論文作成に取り掛かっている者は、現時点での課題を解消するための手がかりを得るようにする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	10%	

授業科目	発展研究ゼミ２（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	鈴木　文子			シラバスグループ	X24300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業研究を深める
■授業の概要	歴史文化学科で卒業論文を書こうという人のためのゼミです。論文とは何か、作成のプロセスを講義形式で学びつつ、受講者各自の学習段階にあわせ、論文作成のための作業や発表をしていきます。
■授業の目的・ねらい	1. 卒業論文作成のための具体的プロセスを理解する。|2.卒業論文のテーマ、内容を各自の学習段階にあわせ、深化させる。|3.卒論のテーマや内容、関心分野に関して、文章として適切に表現し、発表することができるようになる。|4. 他の受講生の発表を聞きながら、論文作成の方法、多様な視点について学び、良所、問題点を考え、質疑を積極的にできるようになる。
■到達目標	1.卒業論文作成のための関連文献の検索方法について、雑誌論文も含め、十分に収集できるようになる。|2.フィールドワークを行なう人は、その構想の一部を示すことができるようになる。|3. 卒業論文の内容（仮を含む）を適切にレジュメであらわし、発表できるようになる。|4. 発表を通し、今後の研究の進め方、研究計画を書けるようになる。|5. 講義をとおし、あるいは他の受講生の発表も聞きながら、論文の形式、構造、書き方の作法などを理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	30	授業で行なった発表をもとに内容を完成させたリポートを提出してもらいます。または、今後にどのような学習をすべきか、各々の研究計画を構想し提出してもらいます。
･授業内試験	0	卒論テーマ（仮題含む）についての内容。
･授業内課題	20	
･その他	10	文献検索に関する課題をしていただきます。大学図書館 Bird（検索方法）を確認し、事前の文献リスト収集などで練習しておくとスムーズです。

授業科目	発展研究ゼミ３（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	八木　透			シラバスグループ	X26100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業論文作成に向けての基礎ゼミ
■授業の概要	受講生各自の卒業論文のテーマについて、発表を中心にテーマの適切性や論文執筆に向けての具体的な指導を行う。
■授業の目的・ねらい	受講生諸氏の卒業論文のテーマを具体化させるとともに、卒業論文執筆に向けての取り組み方と進め方を修得させる。
■到達目標	受講生諸氏の卒業論文のテーマを具体化させ、実際に卒業論文執筆に向けての取り組み方と進め方を修得すること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ４（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	八木　透			シラバスグループ	X28200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業論文作成に向けての基礎ゼミ
■授業の概要	受講生各自の卒業論文のテーマについて、発表を中心にテーマの適切性や論文執筆に向けての具体的な指導を行う。
■授業の目的・ねらい	受講生諸氏の卒業論文のテーマを具体化させるとともに、卒業論文執筆に向けての取り組み方と進め方を修得させる。
■到達目標	受講生諸氏の卒業論文のテーマを具体化させ、実際に卒業論文執筆に向けての取り組み方と進め方を修得すること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	芸術文化文献研究（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	苫名　悠			シラバスグループ	X51100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	院政期絵巻の詞書と絵を読み解く
■授業の概要	この授業では、院政期の絵巻の詞書を読み、その内容を踏まえて絵を観察する。|今年度は素材として《病草紙》を取り上げる。本作品については、近年、意欲的な論考が複数発表されており、これらの知見をも踏まえつつ作品の鑑賞を行うことにより、美術史学の研究手法を身につけるきっかけが得られることも期待される。|受講生は、授業内で絵巻の詞書の翻刻を行い発表することが求められる。|なお、授業は下記のスケジュールで進める予定だが、受講者の人数、理解度、関心などにより一部変更する場合がある。
■授業の目的・ねらい	（１）くずし字の読解能力を養うこと。|（２）美術史学の研究手法を身につけること。
■到達目標	（１）絵巻の詞書（くずし字）を正確に読解できるようになる。|（２）美術史学の研究手法について適切に説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	芸術文化特講２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	斉藤　利彦			シラバスグループ	X53200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	歌舞伎の研究ーその構造と様式ー
■授業の概要	歌舞伎は日本が世界に誇る演劇です。近世初頭に生成され、その後、近世人の美意識に育まれながら、その時代の息吹を吸収しつつ、今日にいたっています。|歌舞伎は世界演劇史上、特異な美の様式のなかで成立しています。その歴史や構造、様式に関して考察していきます。
■授業の目的・ねらい	芸能や演劇はその時代の美意識が凝縮されています。近世芸能の代表である歌舞伎の美を、歴者構造、様式から考察することによって、歌舞伎という芸能の特色を理解することを目的とします。その考察によって、近世文化の一端を把握することができ、この点をねらいとしています。
■到達目標	（１）歌舞伎の特色を、歴史・構造・様式を中心に理解する。|（２）歌舞伎の特色を理解したことによって、近世芸能の特徴を把握する。|（３）これらの理解内容を、第三者に話せるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0%	オンライン授業ですので、試験リポートを提出とする。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	30%	
･その他	0%	授業内に提出を求めるコメントシート

授業科目	芸術文化特講３（秋期)A クラス_対面				単位	1
担当者	苫名　悠			シラバスグループ	X54300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	院政期絵巻の鑑賞と研究
■授業の概要	この授業では、院政期に制作された絵巻の諸作例を取り上げて鑑賞し、その造形に親しむ。また、各作例をめぐる最新の研究に触れ、その論点を把握する。|授業は多くの画像をパワーポイントで掲示しながら実施する。|授業を通して、院政期絵巻についての知識を獲得するのはもちろんのこと、絵画作品の造形的特徴を把握する能力を養うこと、また美術史学の研究手法を修得することをめざす。|なお、授業は下記のスケジュールで進める予定だが、受講者の人数、理解度、関心などにより一部変更する場合がある。
■授業の目的・ねらい	（１）院政期絵巻に関する基礎的な知識を身につけること。|（２）絵画作品の造形的特徴を把握する能力を身につけること。|（３）美術史学の研究手法を修得すること。
■到達目標	（１）院政期絵巻に関する基礎的な知識について適切に説明できるようになる。|（２）絵画作品の造形的特徴を適切に把握できるようになる。|（３）美術史学の研究手法について適切に説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	

授業科目	日本美術史特講２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大原　嘉豊			シラバスグループ	X56100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	仏教美術（仏画）の鑑識と研究
■授業の概要	仏教絵画は、平素は収納されており、一般の目に触れる機会が非常に少ない。しかしながら、日本の指定文化財の中枢を占め、日本美術史においては逸せぬ存在となっている。本講では、仏画の美術史上での評価の高さの理由からはじめて、その持っていた機能、技法など鑑賞に必要な基礎的な知識を伝えるとともに、仏像彫刻を含めた仏教美術研究への応用について発展的に考察する。特に、近代以前に日本文化の規範の一つとなった中国文化の影響のありかたについて考えることが一つの柱となる。
■授業の目的・ねらい	日本仏教絵画の鑑賞の基礎能力を養う。|作品情報の記述の能力を養い、それを基礎にしたうえで、仏教美術研究の在り方を理解し、論文に発展的に繋げていく力を養う。
■到達目標	観察した作品の造形上の特徴を記述できるようになることを目指す。かつ、それが制作年代等の様式判断とどう結びつくかを理解することを目指す。最終的に自力で作品を観察し、自身で美術史学的な判断ができるようになるための基礎を身に着ける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	90	
･リポート試験(SR 履修)	0	作品の中から１点を教員が指定し、その作品記述を行い、制作年代等についての見解をまとめる。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	10	
･その他	0	史料の読み方演習での会読

授業科目	日本美術史特講３（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	熊谷　貴史			シラバスグループ	X57300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	京都の仏像 ー美術史資料として観る、調べるー
■授業の概要	京都の仏像を素材に、美術史における研究資料の種類や性質を確認し、その見かた・扱いかたを学習する。研究の根幹となる「一次資料」として作品の造形を重視することは、美術史が他の研究分野と一線を画す大きなポイントである。研究資料の位置づけは、分野・領域・方法論等によって異同もあるが、作品の造形に言及する立場としては、作品そのものが「一次資料」、作品の図版を掲載した書籍は「二次資料」となる。したがって学習の進度や状況に応じ、作品を実見する機会を考慮する必要がある。 ｜ 以上を念頭に置き、本科目では主に日本の彫刻作品を対象とし、地の利を活かして京都や周辺地域に伝わる仏像に眼を向ける。ただし本年度はオンライン開講となるため、受講者がそれぞれ実見に臨むことを想定し、フィールドワークに向けた下準備として講じる。作品を実見（鑑賞／観察）する意義や留意点の確認、文献資料の収集方法や事例紹介、資料講読などを含め、美術史に立脚したフィールドワークとデスクワークの在りようを対比したい。
■授業の目的・ねらい	・美術史に立脚した研究資料（一次資料・二次資料）の種類・性質を理解すること ｜・作品を研究資料として扱うための観点、および基礎的なスキルを身につけること｜・モノ資料を補完する文献資料の収集方法と扱いかたを身につけること
■到達目標	・作品の実見（鑑賞／観察）成果を研究資料として活用できるようになる｜・受講者が各人の関心に基づく研究資料の収集と分析を行えるようになる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	東洋美術史特講２（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	川野　憲一			シラバスグループ	X59200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	東洋美術研究の視点獲得
■授業の概要	東洋美術を鑑賞し、独自の視点で適切な情報を引き出し、それを言語化するための感性、技術を獲得するための授業です。このような感性と技術は、芸術作品を研究対象とする上で欠くことのできないスキルです。講師による講義と現地見学により授業は構成されます。|中国、朝鮮半島、日本、それぞれの歴史の中で育まれた作品には各地域の固有の思想と美が宿っています。|それら過去の偉大な感性により生み落とされた芸術作品の創造の秘密を説く鍵を一緒に手にいれましょう。
■授業の目的・ねらい	①東洋美術を鑑賞するための基本的視点を獲得します。|②東洋美術を鑑賞する際に、作品から適切な情報を引き出すための感性及び技術を身につけます。|
■到達目標	①東洋美術を鑑賞するための基本的視点を獲得する。|②東洋美術を鑑賞する際に、作品から適切な情報を引き出すための感性及び技術を身につける。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	東洋美術史特講３（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	森　雅秀			シラバスグループ	X60100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	マンダラ（曼荼羅）から見た日本の宗教
■授業の概要	インド密教で生まれたマンダラ（曼荼羅）は平安時代初期に日本にもたらされた。本来、マンダラは密教の教理や実践と密接に結びついた「仏の世界図」であったが、日本では密教以外の宗教においても、さまざまなマンダラが作られるようになった。すなわち、浄土教曼荼羅、神道曼荼羅、社寺参詣曼荼羅、法華曼荼羅などである。そこでは、マンダラが景観図、浄土図、来迎図、絵巻物などのさまざまな形式の絵画作品とも結びついた。一方、密教においても、インドには存在しない別尊曼荼羅と呼ばれる特殊な形態のマンダラが、数多く作り出された。｜　この授業では日本におけるこのような多様なマンダラを体系的に取り上げ、その具体的な形態や意味するもの、歴史的背景、美術史上の意義などを明らかにしたい。
■授業の目的・ねらい	インドから日本に伝えられたマンダラが、仏教、神道、修験道などの諸宗教において、どのような展開を示したかを明らかにする。
■到達目標	日本におけるマンダラの受容と変容を通して、インドと日本の文化の相違と、日本文化の特質を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	30%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	図像学（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	SHAKYA Sudan			シラバスグループ	X61200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	図像が伝える思想と文化|
■授業の概要	図像とは何か？それはどのように生み出され、何を表し、何を残したのか。|　本講義では、仏教図像を取り上げ、それを美術品として分析するのに加えて、その背景にある仏教の思想や文化も学ぶ。|　伝統的な仏教図像の多くは仏教の思想および儀礼とともに地域の信仰や文化と密接な関係を持つ。この講義では、仏教パンテオンを構成する種々の尊格（如来、菩薩、天、女神など）それぞれの図像的な特徴（面、臂、手・足の数、持つ法具など）について解説し、さらにその意義および典拠となる文献について学ぶ。|　また、ネパールやその周辺国・地域では、今日でも伝統的な技法（ロスト・ワックス鋳造、アマルガム鍍金など）に基づいて仏像が製作されている。そのように作られた「図像」が曼荼羅を伴った宗教儀礼を通して、「聖なるモノ」または「信仰の対象」（例えば、絵画→仏画、像→仏像）へと転じて行くが、その過程も概観する。|　なお、講義中にはネパール、インド、バングラ、中国・チベットへの現地調査の際に撮影した映像など多数紹介する。さらに、画面越しになるが、収集してきた実物の仏像や仏画などを観る機会も作りたい。これは図像鑑賞の力の上達にもつながると考える。|
■授業の目的・ねらい	本講義は、日本で流布している仏、菩薩、明王など種々の尊格のルーツに関する知識を養うことを目的とする。|　そのため、ネパール・インドおよび周辺地域で生まれた仏教図像の起源と図像的な特徴について学ぶ。これを通して受講生は数多く存在する仏、菩薩などをみきわめる方法を身につける。
■到達目標	個々の図像の特徴を吟味し、それらのアイデンティティーを区別する力が身に付くとともに図像鑑賞の知識も養うこと

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	３０|	
･その他	0	

授業科目	文化財デジタルアーカイブ（春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	神居　文彰			シラバスグループ	X62100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	仏教を文化財と文化から再考察する。｜ 文化とは何かを身近にある様々な物品･造形物・自然・現象から科学の眼を使い探求する。|文化財を護り伝え活用すること　−文化そのものと文化財の修復及びデジタル技術について−
■授業の概要	文化財とは何かを基本に,改正文化財保護法から文化そのもの、継承の理念･技術を学ぶ。｜　そのために、文化財におけるデジタルアーカイブの展開と可能性および文化財修復の実際や活用を、臨地研修を実施しながら学ぶ機会をもちたい。｜　古文化財修復、復元の実際をデジタルとアナログの協働応用の観点から探求する。｜　特に経年変化したものから、忠実に復元模刻や模造を作成していく過程や、デジタルを応用した成果をそこに融合した研究など古典技法と最新のデジタル技術を有機的に連関する実際を学ぶ。文化財修復・復元文化施設や修理現場等を視察。学外講義を実施する。|本講義過程でしか参加出来ない文化財修理・製作現場等に行き関連させる。
■授業の目的・ねらい	文化財から、体験的に仏教文化を学ぶ。｜　文化継承のための理念・手法を理解し、活用を可能とするための第一歩とする。｜　・学外授業の参加。及びその報告。（３０％）｜　・講義終了後、リポート試験を課す。（６０％）｜　・受講態度（１０％）を基本とする。

■到達目標	京都でしか学べない学習を実施する。｜　現地のビデオ視聴型講義を重視し、実際の文化財への関わり方を修徳する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	
･授業内発表	0	リポート試験にて実施する
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	40	

授業科目	発展研究ゼミ１（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	斉藤　利彦			シラバスグループ	X63300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	歴史文化領域の研究方法
■授業の概要	研究論文ができあがるまでの過程を具体的に紹介しながら、どのようにして研究論文を執筆するか、その準備や手順、方法などを確認しながら、卒業論文につなげていく研究方法を考えます。
■授業の目的・ねらい	参考文献の検索や史資料の探し方、レジュメの作り方、研究発表の仕方、研究論文執筆におけるマナーやエチケット、アカデミックライティングなどについて解説し、それらを習得していただいたうえで、卒業論文執筆がはかどっていく力をつけることを目的とします。
■到達目標	つぎのような点を理解し身につけることを到達目標とします。|（１）参考文献の検索と方法|（２）史資料の探し方|（３）レジュメの作り方|（４）研究論文執筆におけるマナーやエチケット、アカデミックライティング|（５）研究発表の仕方

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ２（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	川野　憲一			シラバスグループ	X64200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	研究法演習<美術研究を進めていくための実践的演習>
■授業の概要	美術研究に不可欠な基本的知識、方法論及び実践的な発表スキルの獲得を目指す。講師による講義と演習、現地見学を組み合わせた講義となります。但し、受講者の人数、理解度、関心によって、授業の内容・進度を一部変更する場合があります。
■授業の目的・ねらい	参加者それぞれが、美術を鑑賞・研究する際に不可欠な基本的知識を獲得し、更に自らの視点でそれを相手に伝える技術を習得することが目的です。成績評価の基準は、1. 美術に対して自分なりの視点、興味を持って鑑賞ができているか、2.それを他者に分りやすく伝えられているかの２点とします。
■到達目標	美術を鑑賞・研究する際に不可欠な基本的知識を獲得し、更に自らの視点でそれを相手に伝える技術を習得することを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ３（秋期)A クラス_対面				単位	2
担当者	植村　拓哉			シラバスグループ	X65300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	仏教美術の学習法と研究法ー学ぶことと究めることー
■授業の概要	本講義では、仏教美術研究に必要な基礎知識、方法論の確認及び受講者による発表を含めた形式となります。| 仏教芸術の理解には何よりも作品に接し深く鑑賞することが重要となります。鑑賞といってもただ漫然と眺めるのではなく、”造形を読む”姿勢が必要となります。その時には形にこだわりすぎて表現を看過してしまわないよう注意が必要です。そして複数の作品との比較を通して特徴を|言葉で表すことが第一歩といえるでしょう。| １．作品を観ること| ２．作品から作者を感じること| ３．それを言葉であらわすこと|この３点に注目しながら進めていこうと考えています。| さらに、制作年代の検討や造像背景、地域（民族性)、作者系統や受容者層など作品を取り巻く環境へと関心を広げていくこともより深い理解に重要となります。作品に対してどのようなアプローチで接するのかといった方法論の理解が有用といえるでしょう。| はじめに講師が作品に対していくつかの方法論に応じた講義（論文や資料の輪読含む）を行い、2 日目午前中には近隣寺社へ赴き、実際の作品から鑑賞のポイントを見出す機会を設けたいと考えています。午後に図書館にて資料収集をし、受講生による発表を行います。発表内容については任意の作品の造形を言葉で表現することとします。| 発表時間は受講生の人数によって調整しますが、1 人 20 分程度の発表、10 分程度の意見交換を予定しています。 発表は緊張することもあるかもしれませんが、難しく考えずにまずご自身の好きな作品をよく観ること、そしてその作品の素晴らしさを皆で共有することを楽しみながらやってみましょう。
■授業の目的・ねらい	受講生が美術史学に立脚した学習方法と研究方法に対する理解を深めること、発表と意見交換を通じて作品を鑑賞する様々な視点を知ることを目的とします。

■到達目標	作品の鑑賞を通して他者へ自身の視点を伝える方法を習得することを到達目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	発展研究ゼミ４（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	安藤　佳香			シラバスグループ	X66200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	研究法演習<美術史研究の方法論を学ぶ>
■授業の概要	日本を中心としたアジア古代の仏教美術を主たる対象として、その具体的な研究方法について講義を行う。また実際に寺社を訪れ、作品を実見しながら視点を定めた鑑賞法を習得する。最終日に受講生の個人発表を行う。卒業論文作成のために、各受講生の研究段階に応じた指導をする。|
■授業の目的・ねらい	美術史学の基本として、まずは作品を深く鑑賞する力をつけること。また、複数の作品を自らの視点を定めて比較し、それを言葉で表現する力を養う。|合わせて、卒業論文のテーマの絞り込みを行う。
■到達目標	美術史研究の基本として、まずは作品を深く鑑賞すること。また、複数の作品を視点を定めて比較し、それを言葉で表現する力を養うことを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	京都学文献研究（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	木村　大輔			シラバスグループ	X71300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	戦前の随筆から読み取る京都の姿
■授業の概要	日本大百科全書によれば、随筆とは「形式の制約もなく内容も自然・人事・歴史・社会に関する見聞・批評・思索あるいは研究考証など、多岐にわたって筆の赴くままに書き記した散文」とあります。このことは、随筆によっては地図や統計では把握することができない、個人体験レベルの情報が記されているということです。そこで、本授業では戦前に記された京都に関する随筆をもとに、「都市化」・「郊外化」をキーワードとして戦前京都の姿を読み取っていきたいと思います。
■授業の目的・ねらい	①　随筆に記された内容から、客観的な情報と主観的な情報の違いを理解する。｜ ②　随筆の記載内容から戦前京都の都市化・郊外化を理解する。｜
■到達目標	①　随筆に記された内容から、客観的な情報と主観的な情報の違いを説明できる。｜ ②　随筆の記載内容から戦前京都の都市化・郊外化を説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	①　問題の主旨を正確に理解していること。｜ ②　到達目標①と②を踏まえた論述であること。｜
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	①　資料を正確に読み取れていること。｜ ②　指示した作業を丁寧に行えていること。

授業科目	地域調査演習１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	網島　聖			シラバスグループ	X72100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	人文地理学の地域調査の手法に関する基礎の学習
■授業の概要	地域の姿を正しく理解するためには、フィールドワークの適切な実施が不可欠である 。この授業では、フィールドワークの理念と実施において留意すべき諸注意点について学んだ上で、その準備における要点を学習する。まず、初日には地域調査の理念や方法論について概説した上で、実際のフィールドワークで陥りがちな注意点について学ぶ。その上で、2 日目には地域調査のフィールドワークでよく用いられる手法について、その準備における要点を具体的に指摘する。以上により、 テーマに沿ったフィールドワークの計画と実施について考える。
■授業の目的・ねらい	この授業の目的は、人文地理学におけるフィールドワークの理念や方法論について学習することで、フィールドワークの意義を正しく理解し、適切に実施する能力を涵養することにある。これにより、受講者各人がそれぞれの研究課題に対して適切なフィールドワークを計画できるようになることを目指す。したがって、受講者には常に学んだ内容を自身の関心や興味の対象に当てはめて応用する視点を持って参加していただきたい。成績評価については、授業（グループワークなど）への参加、およびリポートによって評価する。
■到達目標	①人文地理学におけるフィールドワークの理念や方法論を適切に説明できる。|②自身の興味や関心にそって地理学的なフィールドワークを適切に計画することができる。|③自身の興味や関心にそって地理学的なフィールドワークを適切に実施することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	30	

授業科目	地域調査演習２（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	網島　聖			シラバスグループ	X73300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	現地踏査における写真記録の技法とその応用
■授業の概要	地域の歴史や地理を正しく理解するためには、フィールドワークを適切に行うことが欠かせない 。この講義では、地域調査時の現地踏査において有効な写真撮影の技法について学んだ上で、京都市内での現地踏査例を擬似的に体験する。まず、初日にはフィールドワークの基礎となる現地踏査について説明した上で、写真記録の方法と注意点について詳述する。その上で、2 日目には京都市内における事例として琵琶湖疏水と御土居に関する現地踏査を擬似的に体験し、 フィールドワークでの写真記録について考える。
■授業の目的・ねらい	この講義の目的は、人文地理学におけるフィールドワークの理念や方法論について学習することで、フィールドワークの意義を正しく理解し、適切に実施する能力を涵養することにある。これにより、受講者各人がそれぞれの研究課題に対して適切なフィールドワークを計画できるようになることを目指す。したがって、受講者には常に学んだ内容を自身の関心や興味の対象に当てはめて応用する視点を持って参加していただきたい。成績評価については、授業への参加状況（グループワークなど)、およびリポートによって総合的に評価する。
■到達目標	①人文地理学におけるフィールドワークの理念や方法論を適切に説明できる。|②自身の興味や関心にそって地理学的なフィールドワークを適切に計画することができる。|③自身の興味や関心にそって地理学的なフィールドワークを適切に実施することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	30	

授業科目	京都の歴史３（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	宮本　敦恒			シラバスグループ	X79200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	京都の近代
■授業の概要	京都の近代をたどります。江戸時代に将軍の所在地であったであった江戸が、新生東京となり、新しい支配者として天皇と公家が東京に現れました。天皇がいなくなったその後の京都はどのような都市として存在していくのか。戦争の影響、経済構造の変化、近代的に国土や都市が改造されていくなど、様々な要因が絡み合う中で京都がどのように変容しつづけていくのか。今回は明治から大正、昭和、第二次世界大戦へというスパンで、京都という都市とその近郊を歴史的に追っていきたいと思います。また、講義の進み具合を見て、図書館での実習講義も考えています
■授業の目的・ねらい	京都という地域の目線で近代を捉え直し、位置づけ直すことが講義のねらいです。近代京都を単純に賞賛するだけでなく、他の諸都市と同じような苦しみの中から再生してきた過程をたどります
■到達目標	各自の持っている「京都像」と、講義の中で考えるようになった「京都像」を比較して、もう一つの「京都論」を受講生が作り出せるようになることが到達目標です。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	最後に、ある観光資源を説明する文章をまとめていただきます。読んだ人が「行ってみたい」と思えるような文章を書くことが出来るかどうか、が成績評価の基準です。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	京都の伝統芸能２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	樽井　由紀			シラバスグループ	X81200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	民俗芸能は、地域で協力して生活する人々が暮らしの中で々伝承する芸能です。一生懸命に働く人々が、豊かな実りと平和な毎日を願いながら伝えてきました。京都市でも祭りの中に数多くの民俗芸能が伝承されています。この講義では、京都に伝わる民俗芸能、六斎念仏、盆踊り、などから京都の暮らしと文化について考えます。また、ご自身が暮らす地域の芸能にも目を向けて頂き、授業の中でご紹介頂きたいと思います。
■授業の概要	京都に伝わる民俗芸能を中心に学びます。歴史や内容を文字で確認した後、映像資料によってさらに理解を深めます。また、受講生の方による発表も予定しています。
■授業の目的・ねらい	京都に伝わる民俗芸能を理解するとともに、受講生の地元の民俗芸能にも興味を持つ。‖
■到達目標	京都に伝わる民俗芸能を理解するとともに、受講生の地元の民俗芸能にも興味を持つ。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	0	

授業科目	京都の伝統芸能３（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	樽井　由紀			シラバスグループ	X82100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	民俗芸能は、地域で協力して生活する人々が暮らしの中で々伝承する芸能です。一生懸命に働く人々が、豊かな実りと平和な毎日を願いながら伝えてきました。京都市でも祭りの中に数多くの民俗芸能が伝承されています。この講義では、京都に伝わる民俗芸能、大念仏狂言、六斎念仏、盆踊り、などから京都の暮らしと文化について考えます。また、ご自身が暮らす地域の芸能にも目を向けて頂き、授業の中でご紹介頂きたいと思います。
■授業の概要	京都に伝わる民俗芸能を中心に学びます。歴史や内容を文字で確認した後、映像資料によってさらに理解を深めます。また、受講生の方による発表も予定しています。
■授業の目的・ねらい	京都に伝わる民俗芸能を理解するとともに、受講生の地元の民俗芸能にも興味を持つ。‖
■到達目標	京都に伝わる民俗芸能を理解するとともに、受講生の地元の民俗芸能にも興味を持つ。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	大野　啓			シラバスグループ	X43200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業論文作成に向けた、テーマ設定および発表
■授業の概要	大学生の勉学の集大成ともいえる卒業論文作成は、学生生活において大きな意味を持つものである。|受講生が卒業論文のテーマを設定したり、テーマに沿って報告を行なうことにする。‖受講生は自らの論文作成に向けた報告をするとともに、他の受講生の報告に対しても、自らの知識や経験をもとに質問や感想を講義者とともに出してもらい、報告者の卒業論文作成に資するようにしたい。
■授業の目的・ねらい	本講は卒業論文作成に向けた、問題意識の明確化、論の構成や論文作成の進度、さらには課題を確認し、卒業論文の作成作業を前進させることを目的とする。‖
■到達目標	受講生の進度によっても異なるが、卒業論文の作成に向けて、一歩でも前進すること。‖テーマ設定ができていない者は、テーマ設定を行なったり、テーマ設定をするために必要な作業を明確にする。‖論文作成に取り掛かっている者は、現時点での課題を解消するための手がかりを得るようにする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	10%	

授業科目	発展研究ゼミ２（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	鈴木　文子			シラバスグループ	X84300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業論文にむけた視聴覚資料の活用
■授業の概要	卒業論文やレポートは、本文となる文章だけで作成できるわけではない。本文の文章だけでなく、図、表、映像といった視聴覚資料の提示が必要となるばあいもある。また、とりあつかうテーマによっては、図や映像の観察などこそを主に、卒業論文を展開させるばあいもある。つまり図・表・映像などの視聴覚資料を活用できるようになっておくことは、卒業論文やレポートの作成にあたり重要な前提となる。そこで本授業では、卒業論文の作成にむけて、視聴覚資料の活用のしかたを学修する。
■授業の目的・ねらい	卒業論文の作成にむけて、視聴覚資料の活用ができるようになる。
■到達目標	(1) 視聴覚資料を観察することができる。|(2) 視聴覚資料を比較することができる。|(3) 視聴覚資料にもとづく空間把握ができる。|(4) 研究倫理にそくして視聴覚資料を収集し活用することができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)		
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	30%	到達目標で前掲した各項目の到達度によって評価する。
･授業内試験		授業内ディスカッションでの積極性を評価する。
･授業内課題		
･その他		

授業科目	発展研究ゼミ３（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	八木　透			シラバスグループ	X26100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業論文作成に向けての基礎ゼミ
■授業の概要	受講生各自の卒業論文のテーマについて、発表を中心にテーマの適切性や論文執筆に向けての具体的な指導を行う。
■授業の目的・ねらい	受講生諸氏の卒業論文のテーマを具体化させるとともに、卒業論文執筆に向けての取り組み方と進め方を修得させる。
■到達目標	受講生諸氏の卒業論文のテーマを具体化させ、実際に卒業論文執筆に向けての取り組み方と進め方を修得すること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ４（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	八木　透			シラバスグループ	X28200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業論文作成に向けての基礎ゼミ
■授業の概要	受講生各自の卒業論文のテーマについて、発表を中心にテーマの適切性や論文執筆に向けての具体的な指導を行う。
■授業の目的・ねらい	受講生諸氏の卒業論文のテーマを具体化させるとともに、卒業論文執筆に向けての取り組み方と進め方を修得させる。
■到達目標	受講生諸氏の卒業論文のテーマを具体化させ、実際に卒業論文執筆に向けての取り組み方と進め方を修得すること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	基礎ゼミナール（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	斉藤　利彦			シラバスグループ	X01200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	歴史文化研究のための「はじめの第一歩」
■授業の概要	コース、専門分野を問わず、大学において論文を執筆し、研究を進めるために必要なことを学修します。したがって、研究とは何か、論文とはどういうものかについて概略を述べたうえで、個々人が研究を進めるにあたって必要とされる、実践的なスキルの習得を目指します。‖図書館や資料室の利用に始まり、研究のための文献の探し方、入手の仕方などを習得します。また、文献を読んだり、史料の分析をする際に役立つデータベースの利用についても解説します。‖講義内では自分の研究に必要な文献を探し、文献リストの作成を行い、実際にそれらの文献を入手しようとするところまでを課題とします。‖そこまでできるようになれば、通信課程の学生もそれぞれの場所にあって少しずつ研究を進められるようになるはずです。
■授業の目的・ねらい	それぞれが卒業論文執筆に向けて、歴史文化研究の第一歩を踏み出すことが目的であり、同時に到達目標です。‖具体的には、研究に必要な文献を探索、入手し、読み進めることができるようになることです。
■到達目標	・図書館・資料室を利用し、研究に必要な文献を探すことができる|・ポータルサイトや歴史文化に関わるデータベースを活用して、研究に必要な情報や資料・文献を探すことができる。|・工具書類を利用しながら、文献を読み進めることができる。|・研究論文の構成を理解し読むことができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	30	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	70	
･その他	0	参考文献の調査やリストの作成、授業内発表などを総合的に評価します

授業科目	基礎ゼミナール（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	大野　啓			シラバスグループ	X01300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	大学での学び、レポートや卒業論文作成のための基礎的作業（テーマの設定、文献検索、文献の選択、収集方法など）の方法を修得する。
■授業の概要	大学生の勉学の集大成ともいえる卒業論文作成は、学生生活において大きな意味を持つものである。‖卒業論文作成に当たって、最も重要なのが何をテーマにするのかということである。そのためには、先行研究や資料を探す作業は不可欠である。本講義では最初に図書館で資料献策の概要について説明した後に、各自の興味関心にしたがって、論文や資料の文献一覧を作成してもらうことにする。‖‖
■授業の目的・ねらい	本講義では論文作成に向けた基礎的な作業の方法を獲得することを目的とする。
■到達目標	本講は文献の検索ができることを最低限の目標とし、可能であれば研究テーマを設定するための文献一覧を作成することを目的とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	10%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	20%	

授業科目	地理学文献研究（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	長島　雄毅			シラバスグループ	X11300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	近代化以前の人口をめぐる研究の展開
■授業の概要	人口は地域の構成する主要な要素のひとつであり、地理学の主たる研究対象となっている。この講義では、歴史地理学と隣接諸分野における人口に関する研究について具体的な事例を紹介しながら検討していく。
■授業の目的・ねらい	歴史時代、とりわけ国勢調査開始以前の人口を対象とする研究の視点や方法を学ぶことが本講義の目的となる。この分野は歴史人口学をはじめとした隣接諸分野とも密接に関わりながら展開しているが、それらも積極的に取り上げながら、人口を通じて過去の地域をどのように捉えられるか考えていきたい。
■到達目標	歴史地理学における人口をめぐる研究の視点や方法について理解し、自分なりにその特徴や課題などをみいだすこと。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	90	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	10	

授業科目	地誌学文献研究（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	木村　大輔			シラバスグループ	X12300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	地図・統計資料を通じて地域の姿を浮き彫りにしよう
■授業の概要	地誌学は様々なスケールの地域を対象に、その地域における多様な要素について丁寧に調べ、その調べた結果を総合的に検討し、地域の性格を読み解くものです。本講義では日本の各地を対象に地図・統計資料・文献資料を読み解く作業を通じて、地域的差異や共通性を確認し、地域の性格を明らかにしていきます。各諸要素を丁寧に見ていくことで最終的には自然と文化によって紡ぎ出された地域の姿を浮き彫りにしていきます。
■授業の目的・ねらい	①　地図・統計資料等に関する基礎知識について理解する。｜ ②　地図・統計資料等の記載情報について理解する。｜ ③　地図・統計資料等に基づいた地域的性格について理解する。｜ ④　各諸要素を丁寧に調べ、総合的に検討する。｜
■到達目標	①　地図・統計資料等に関する基礎知識について説明できる。｜ ②　地図・統計資料等の記載情報について説明できる。｜ ③　地図・統計資料等に基づいた地域的性格について説明できる。｜ ④　各諸要素を丁寧に調べ、総合的に説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	①　問題の主旨を正確に理解していること。｜ ②　到達目標を踏まえた論述であること。｜ ③　記述が論理的に構成されていること。｜
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	①　丁寧な作図が行うこと。｜ ②　正確な計算が行えていること。｜ ③　資料を正確に読み取れていること。

授業科目	考古学文献研究（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	小池　寛			シラバスグループ	X13100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	考古学研究に関連する諸分野の基本的な文献や研究成果を解題し、考古学が原始・古代の社会をどのように復元してきたのかを考えます。
■授業の概要	考古資料を多角的に研究する際、民族学・文化人類学・民俗学・宗教学・文献史学・歴史地理学・地名学・政治経済学・言語学・気象学・地震研究・音楽・臨床検査学などの研究成果とどのよう対比させ、考古学研究を進めてきたかについて講義します。|　また、発掘調査の事例をプレゼンテーションにより紹介し、考古学研究の実際を学習します。
■授業の目的・ねらい	（１）考古学研究の基本は、精緻な測量図や遺物実測図、出土地名表などの図表を解釈することから始まります。その解釈の実例から、考古学研究の実際を学びます。|（２）考古資料を多角的に解釈する際、先にあげた関連分野の研究成果をどのように取り入れてきたのかについて解説します。|（３）京都の文化を理解するうえで重要な発掘調査成果について、プレゼンテーションを用いて考えていきます。|
■到達目標	（１）考古資料の図表を読み解く基本を習得|（２）考古資料の解釈にあたり、関連分野の研究成果との関係性についての理解|　以上の 2 点を到達の目標とし講義を行います。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0|	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	10	講義開始時にリポートの課題を提示します。
･授業内試験	0|	個々の講義内容についての感想をお伺いします。
･授業内課題	0|	
･その他	10	

授業科目	地理学特講２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	木村　大輔			シラバスグループ	X15100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	歴史地理学における景観復原の方法
■授業の概要	過去の景観を研究対象とする歴史地理学にとって、その多くが失われてしまった景観と言えます。そこで必要となるのが「景観復原」です。本講義では、歴史地理学にとっての景観復原の意義、景観復原の方法、具体的な史資料を用いた景観復原尾実践例、景観復原の抱える問題点について学んでいきます。
■授業の目的・ねらい	①　歴史地理学における景観復原の意義を理解する。｜ ②　景観復原の方法を正確に理解する。｜ ③　景観復原に用いる史資料の有効性・限界性を理解する。｜ ④　景観復原の問題点について理解する。
■到達目標	①　歴史地理学における景観復原の意義を説明できる。｜ ②　景観復原の方法を正確に説明できる。｜ ③　景観復原に用いる史資料の有効性・限界性について説明できる。｜ ④　景観復原の問題点について説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	①　問題の主旨を正確に理解していること。｜ ②　到達目標を踏まえた論述であること。｜ ③　記述が論理的に構成されていること。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	地理学特講３（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	小林　基			シラバスグループ	X16200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	イノベーションと地理学
■授業の概要	イノベーションは地理学における古いテーマではあるが、最近十数年の間に新たな視点から研究が行われ、大きな発展を遂げている。| 本講義では、イノベーションのプロセスや条件について、主に地域社会経済や空間の視点から検討する。特に、講師の専門分野である農業セクターにおけるイノベーションや、イノベーション研究を批判的に捉える視点も紹介したい。なお、ディスカッションも行いたい。
■授業の目的・ねらい	・イノベーションと空間、地域社会経済との関係性を捉える方法について理解すること。|・農業セクターを中心としたイノベーションと地域との関係を検討する方法について理解すること。|・イノベーション概念や政策について批判的に考え、検討できる視点を身に付けること。
■到達目標	・イノベーションについて地域・空間との関わりから捉える視点を習得し、応用できること。|・受講生各人の興味・関心の中でイノベーション概念をどのように解釈・活用しうるか考え、意見を述べられること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	100%	
・リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験にて実施する
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	考古学特講２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	江　介也			シラバスグループ	X18200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	東アジアの墳墓文化を学ぶ
■授業の概要	本講義では、東アジア（主に中国大陸・朝鮮半島・日本列島を対象とする）における、墳墓をめぐる考古学について考える。発掘調査された多種多様な墳墓とそこから出土した遺物をビジュアルに紹介しながら、どのような資料により、どのような分析検討を経て、どのようなことが明らかになるのか平易に説明していく。|　　東アジアの墳墓文化は、他の文化要素同様、一定の地理的範囲内での内的発展と、様々な形態の地域間交流により形成され、時にシルクロードなどを経た域外文化の影響も受けつつ、多様な変遷・発展を遂げてきた。日常生活文化もその中に反映されており、内容がきわめて豊かである。|　　また、東アジアの墳墓文化の変遷・多様性には、国家・政権・民族間の外交関係や戦争のほか、交易その他による物質文化交流、宗教・思想の伝播、移住など多方面の背景要因があり、それらを考古学が関連諸分野の研究成果も援用しつつ、どのように明らかにしているのか話していく。|
■授業の目的・ねらい	東アジア各地では人の死をどのように捉え、どのように葬るべきと考え、どのような墓を営んだのか。ビジュアルな具体的墳墓の発掘調査成果を通じて、東アジアにおける各地域・各時期の墳墓観・死生観を感じ、考え、理解してもらいたい。|　　そしてそのために必要な、墳墓考古学の基礎知識と、墳墓観・死生観の基盤となる宗教・思想の基礎知識を身につけてもらいたい。
■到達目標	墳墓考古学の基本資料を見分ける能力とそれらについての基礎知識を習得する。また東アジアにおける墳墓文化の地域性（地域的特徴・差異）についての基本的知識の獲得と、その背景としての墳墓観や死生観の概要を理解するとともに、簡単な説明ができるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	75%	
･授業内発表	15%	論述問題 3 問　　25 点×3
･授業内試験	0%	?1 日目の予習内容発表（各自 2 分程度）|②1 日目の復習に基づきおこなう 2 日目の授業冒頭での質問|③2 日目の予習課題である指定参考資料（論文・資料の PDF など）に関する要約発表|5 点×3
･授業内課題	10%	
･その他	0%	2 日目の復習課題でまとめたものの提出（提出期限は翌日）

授業科目	考古学特講３（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	松田　度			シラバスグループ	X19100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	考古学と地域史
■授業の概要	この授業では、考古学のやや専門的な内容をとりあげて、考古学を基本とした歴史叙述の方法を学びます。|授業はオンライン（パワーポイント）でおこない、担当教員の選んだテーマに沿って、地域学的視点を重視しながら、古代（弥生時代～平安時代）から中・近世（鎌倉時代～江戸時代）までの日本歴史を学習します。|また、授業の展開に即して、担当教員がかかわった遺跡を紹介しながら、地域社会と考古学とのかかわりについて考えていきます。
■授業の目的・ねらい	この授業では、考古学的な手法を中心に、文献などの関連資料を駆使して歴史を叙述する方法を学び、そのうえで、地域学的な視点から、特定のテーマについて考えていく方法を身につけてもらうのが目標です。|また、遺跡が実際に、それぞれの自治体（市町村）でどのように保護されているのか、また地域社会のなかでどのように活かされているのかといった事例をとおして、考古学と地域社会の関係性に興味をもってもらうことをねらいとしています。
■到達目標	１．考古学初級クラスから実践的な研究にむかうスタート地点に立ってもらうこと。|２．具体的な事例から、考古学の現代的・社会的位置づけを熟知すること。|３．日本の歴史を叙述する際に、地域学的な方法論のもつ重要性を理解すること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	講義をふまえての論述試験（計 2 回）で採点します。論述内容は、講義の内容をどの程度理解しているかによって評価します。
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	講義最終日のディスカッションでの発言も評価の対象としますので、積極的に発言する事。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	地図情報学２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	古関　大樹			シラバスグループ	X21100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	地図を読むための基礎知識
■授業の概要	地理や地域を知るためには，「地図を読む」という事が重要視されます。地図を読むことは，単に地図を眺めるだけでなく，その背後にある地域の特徴や地図を読むための知識や経験の積み重ねが重要となります。この授業では，ミニ演習を交えつつ地図を読むための基礎知識を学習します。
■授業の目的・ねらい	①地図や空中写真などの基礎的な性質を理解する。\②地図から様々な情報を導く方法論を身に着ける。
■到達目標	①地図や空中写真の基本的な性質を理解する。\②地図や空中写真を使って自分の言葉で説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	20%	
･その他	0%	

授業科目	地図情報学３（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	古関　大樹			シラバスグループ	X22300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	地図と地域分析
■授業の概要	地図情報学２を受けて，地図を使った地域観察を講義内で取り入れ，より実践的な地図の使い方と第三者への説明の仕方を学習する
■授業の目的・ねらい	①地図を使った地域観察の方法を学習する|②地図を使った地域の説明の仕方を学習する
■到達目標	①地図を使った地域観察の方法を学習する|②地図・写真・統計などを使い自身の言葉で地域を説明できるようにする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	20%	
･その他	0%	

授業科目	発展研究ゼミ１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	松波　宏隆			シラバスグループ	X23200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	日本の古代山城と東アジア
■授業の概要	日本には古代の山城が２２箇所で確認されている。これらのうちには、663 年白村江の敗戦後、日本に亡命してきた百済人により築かれたと『日本書紀』に記載されるものもある一方で、朝鮮半島の他の地域や中国大陸の築造技術との共通性が指摘できるものもある。本講義では築造技術の問題だけでなく、行政府や交通路との関係、外交・内政の問題などから、この日本古代山城が東アジアの山城の中でどのように位置づけられるか、これまでどのような研究がなされてきたかをみていく。
■授業の目的・ねらい	古代山城の遺構について、どのようなものがあるか、どのような分類がなされているか、どのように変質していくかを考えていくことで、物質資料を考察する際の基礎的な方法を身につけることを目標とする。
■到達目標	物質資料を考察する際の基礎的な方法を身につけること

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	100	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ２（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	塚本　章宏			シラバスグループ	X25300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	歴史文化学科で卒業論文を執筆するための方法を学ぶ
■授業の概要	歴史文化学科で卒業論文を執筆するための基礎的な方法を学びます。各自の興味関心をもとに、研究テーマを設定し、先行研究と史資料を収集する方法を学習する。その上で、論文の基本的な構造を理解するとともに、研究史の整理、論文の構成、執筆ルールなどを実践を通して習得する。成果の確認として、受講者各自が作成したレジュメをもとにしたプレゼンテーションを行う。
■授業の目的・ねらい	1.卒論論文のテーマや内容について説明できる 。|2.卒業論文のテーマや内容に関する文献や史資料を収集することができる。|3.卒業論文のテーマや内容を適切に文章化したレジュメを作成することができる。|4.卒業論文の内容をプレゼンテーションツールを用いて発表することができる。|5.他の受講生の発表について、積極的に質疑をすることができる。
■到達目標	1.卒論論文のテーマを具体的に説明できる 。|2.関連文献や史資料を適切に収集することができる。|3 卒業論文の内容をレジュメにまとめ、発表することができる。|4 他の受講生の研究についても、積極的に質疑をすることができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	30	授業中のプレゼンテーションをもとにしたリポートを提出してもらいます。質疑応答を踏まえて改善された内容になっているかも加味します。
･授業内試験	0	卒業論文のテーマ（今後の研究計画も含む）についての内容をまとめたプレゼンテーション。
･授業内課題	20	
･その他	10	文献検索や史資料の収集に関する課題を予定しています。

授業科目	発展研究ゼミ３（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	太田　智己			シラバスグループ	X27100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業論文にむけた視聴覚資料の活用
■授業の概要	卒業論文やレポートは、本文となる文章だけで作成できるわけではない。本文の文章だけでなく、図、表、映像といった視聴覚資料の提示が必要となるばあいもある。また、とりあつかうテーマによっては、図や映像の観察などこそを主に、卒業論文を展開させるばあいもある。つまり図・表・映像などの視聴覚資料を活用できるようになっておくことは、卒業論文やレポートの作成にあたり重要な前提となる。そこで本授業では、卒業論文の作成にむけて、視聴覚資料の活用のしかたを学修する。
■授業の目的・ねらい	卒業論文の作成にむけて、視聴覚資料の活用ができるようになる。
■到達目標	(1) 視聴覚資料を観察することができる。|(2) 視聴覚資料を比較することができる。|(3) 視聴覚資料にもとづく空間把握ができる。|(4) 研究倫理にそくして視聴覚資料を収集し活用することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	30%	到達目標で前掲した各項目の到達度によって評価する。
･授業内試験	0	授業内ディスカッションでの積極性を評価する。
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ４（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	嶋谷　和彦			シラバスグループ	X29200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	考古学からみた日本の中近世史
■授業の概要	近年の遺跡の発掘調査は中近世をも対象とし、その成果は新しい歴史像を構築している。本授業では、最新のデータに基づき、考古学の立場から、日本各地の中近世都市遺跡の調査成果にも触れながら、「職人と生産」･「貨幣と流通」･「沈没船と対外交易」･「信仰と宗教」･「墓地と火葬場」などの要素も取り入れながら、全国的・東アジア的視野で、日本の中近世史を概観していく。
■授業の目的・ねらい	本授業の学習内容の要点は、日本の中近世史を考古学的に捉えることである。授業中の話を正しく理解し、中近世都市の空間構造やそこに生活した人々の姿を歴史の中で位置付け、認識することを目的とする。又、授業で与える課題に対するリポート作成を通して、今後の本格的な論文作成に向け、実践的な「予行演習」とすることも授業のねらいの一つである。
■到達目標	授業内容の正しい把握、および各自の関心のあるテーマ設定に基づく口頭発表･リポート作成を到達目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	20%	各自の授業内発表を元に文章化してリポートとして作成
･授業内試験	0%	各自の口頭発表
･授業内課題	0%	
･その他	10%	

授業科目	民俗学文献研究（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	樽井　由紀			シラバスグループ	X31300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	『滑稽有馬紀行』から読み取る温泉の民俗
■授業の概要	温泉の民俗を学ぶために江戸時代の紀行文を読みましょう。舞台は当時から関西で一番人気があった有馬温泉です。宿、食事、入浴、信仰、お土産など、現在にも通じる温泉地ならではの民俗を理解しましょう。
■授業の目的・ねらい	民俗研究を進めるにあたって、文献の重要性を知る。|文献の内容を自分でまとめられるようになる。|文研研究の発表の方法を学ぶ。‖
■到達目標	文献の内容をまとめて発表する

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	40	発表の内容を反映したレポートを作成していただきます。
･授業内試験	0	発表のポイントを講義の中で説明します。
･授業内課題	10	
･その他	0	

授業科目	文化人類学文献研究（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	孫　潔			シラバスグループ	X32200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	本講義では、フィールドワークにもとづいて書かれた複数の文献を通じて、民族、観光や食文化など、文化人類学の重要テーマに関する文献を扱い、様々な社会や文化についての数篇の文献を比較検討していきます。文献で取り上げる社会や文化に関する理解と知見を深めるとともに、特定の課題を深化させる研究のプロセスを受講生がマスターすることを目標とします。
■授業の概要	本講義では、観光人類学に関する文献を講読することを通じて様々な民族・文化についての理解を深めます。また、文化人類学の基本的考え方を学ぶと同時に、自己を取り巻く社会・文化の多様性への眼差しを拡張させることを目指します。|
■授業の目的・ねらい	①文献研究の基礎方法をマスターする。|②文献研究とフィールドワークの関連を理解する。|③具体的なビデオ、文献への精読により、特定の課題を深める研究方法を取得する。
■到達目標	本講義では、文化人類学の基本的な考え方に対して理解を深めるとともに、文献講読の方法を身につけることも目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20%	
･その他	0	

授業科目	神話・伝承学文献研究（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	渡　勇輝			シラバスグループ	X33100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	変貌する日本神話
■授業の概要	2020 年は、日本書紀が編纂されて 1300 年目の記念すべき年でした。では日本書紀は、1300 年のあいだ、だれが、どのように読んできたのでしょうか。‖その問題を探っていくと、とくに中世おいては日本書紀を「註釈」することによって、あたらしい神話を創造していく姿が見えてきます。それはまた近世、近代にもつながるようです。そこに浮かんでくるのは、変貌していく日本神話の姿です。‖この授業では、だれが、どのように日本書紀を読み替え、あらたな神話ほ作り出していったかを探索し、神話・伝承学の文献研究の方法を学びます。|
■授業の目的・ねらい	変貌する日本神話、という視点から、神話・伝承学の文献研究を学び、受講生自身も文献を読む力を身に着けていくことが目的です。
■到達目標	変貌する日本神話の研究を通して、神話とは何か、なぜ神話は変貌していくのかを説得力をもって説明できるようになることが目標です。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	20	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	5	
･授業内試験	5	
･授業内課題	5	
･その他	5	

授業科目	民俗学特講２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	村田　典生			シラバスグループ	X35100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	民間信仰ー人々の祈りー
■授業の概要	日本の各地には様々な民間信仰が根付いている。「病気が治りますように。」、「受験に合格しますように。」、「宝くじに当たりますように。」、「商売が繁盛しますように。」、「豊作になりますように。」などである。｜　ご利益、利生を求めて人々は神社や寺院に参詣する。しかし、こうしたご利益はその社寺に祀られている神仏とは合致しない場合も多い。あるいは社寺だけでなく路傍の祠や場合によっては石や橋などにもご利益を求め祈願する人々もいる。｜　今回の講義ではこうした民間に流布する信仰である民間信仰を「流行神」、「願懸重宝記」、「パワースポット」をキーワードとして概観し、それらの歴史的な背景や意義について検討する。‖
■授業の目的・ねらい	講義では様々な民間信仰を概観していくが、その由来、由緒、伝承を検討し、人々がなぜこうしたご利益・利生を求めるのか考察したい。そうすることで民俗学における重要な研究ファクターである民間信仰の特質を理解し、受講する各人の地元や居住する地域に根付くそうした信仰を授業に沿った形で理解することを目的とする。｜
■到達目標	「流行神」、「願懸重宝記」、「パワースポット」をキーワードに様々な民間信仰の特質を自分なりの言葉で整理し、自分の意見でまとめられるようにすることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	短時間（５～7 分）の発表の時間を設ける。
･授業内課題	20	
･その他	0	全講義時間出席はもちろんのこと、発表のための文献調査などの準備。

授業科目	民俗学特講３（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	中嶋　奈津子			シラバスグループ	X36200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	資料とフィールドワークから知る、ふるさとの生活|
■授業の概要	日本人は長い歴史の中で、それぞれの地域で豊かな生活文化を育んできた。祈り（信仰）とともに地域に根ざすまつりや行事、芸能、そして各地域に特徴的な衣・食・住の様々な伝統文化は、時代の流れとともに少しずつ形を変えつつも、今日まで大切に受け継がれている。講義では東北地方のさまざまな生活文化について、資料と実際のフィールドワークでの調査内容を紹介し、対象となる地域社会や人々の暮らしの変遷について学び、そして「なぜ守り、受け継がれるのか」について考察していく。|講義の中で、受講する皆さんの地元もしくは居住地の、まつりや季節の行事、芸能などについて発表して頂く時間を設けますので、あらかじめ調べていて下さい。
■授業の目的・ねらい	東北地方の社会背景や生活文化、民俗をひとつの事例として学習するとともに、地域社会の人々の暮らしの変遷、それに伴い失われること、伝承されること、伝承の意義について考察していく。そのうえで、自身の居住する地域などに根づく行事やまつり、民俗について興味を持ち、調べること、理解、記録ができるようになることを目的とする。|
■到達目標	居住地など縁の地域のまつりや行事、芸能、生活文化に興味を持ち、それについて調べて整理と記録が出来るようになる。その変遷や意義について自身の意見をまとめることができるようになることを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	地域のまつりや行事、芸能、生活文化などについて短時間（５？７分程）の発表の時間を設ける。
･授業内課題	0	
･その他	20	

授業科目	文化人類学特講２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	崔　杉昌			シラバスグループ	X38200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	自己と他者について理解を深める
■授業の概要	この授業では、他者について考えることを通して、自己および自己の社会を新たな視点から見つめ直す契機にしたい。まずは、文化人類学の研究方法を理解する（第 1 回～第 3 回)。その上で、その方法に基づき、家族、地域社会、儀礼、信仰、といった研究の対象を分析する（第 4 回～第 6 回)。最後に、その分析を踏まえて、他者と自己とを比較し考察することで、自己および自己の社会について再考する（第 7 回～第 9 回)。この授業では、特に日韓の事例を取り上げ、他者と自身とのあいだの差異と類似性について考えていただきたい。
■授業の目的・ねらい	①文化人類学の研究の方法を、把握する。|②文化人類学の研究の対象について、理解する。|③文化人類学の視点から、自己と他者を比較し考察する。
■到達目標	①文化人類学の基礎的な研究の方法および視点について、説明できるようになる。|②家族、地域社会、儀礼、信仰といった文化人類学の研究の対象について、説明できるようになる。|③他者の分析を通して自己を見つめ直すことにより、自己および自己の社会の特徴について、説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	論述試験を行います。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	文化人類学特講３（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	鈴木　文子			シラバスグループ	X39100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	文化とは何か
■授業の概要	これまで文化人類学は、同時代の異文化社会を対象として、主としてミクロなコミュニティー調査を中心に、生活文化や「民族」を研究してきた。しかし、近年、文化に対する認識が変化し、むしろそれらが歴史的にどのように生成されてきたかに関心をもつようになっている。| 本講義では、文化人類学における主要なトピックをもとに、文化を歴史的時間軸をもとに分析し、文化とは何か, 文化人類学のフィールドワーク資料, 民族誌的方法論をもとにした知見から考えていく。
■授業の目的・ねらい	①文化人類学的なアプローチから、歴史文化を研究していく方法、視点を理解する。|②「文化」の構築性について理解する。|③フィールドワークと文字資料の関係性を理解する。
■到達目標	①文化概念の多面性を理解し、説明できる。|②歴史的時間軸のなかで生成、変容する「文化」について、経済、政治、国家やイデオロギーの影響などを理解し、説明できるようになる。|③民族誌的研究視点,、フィールドワークと歴史研究の関連を説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	80	
･リポート試験(SR 履修)	0	提起する問題に対し、論述式で解答した内容を提出してもらう。講義内容を踏まえ、具体的な事例を提示し、自分の言葉でまとめられた解答が高い評価となる。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0|	
･その他	20	

授業科目	神話・伝承学特講２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	村田　真一			シラバスグループ	X41100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	日本古代の神話
■授業の概要	日本の神々について考える時、歴史的に先行して根幹となる世界を語り出しているのが、古代の神話です。日本古代の神話を記した文献としては『古事記』が最も有名ですが、ほぼ同時期に作られたと考えられる『日本書紀』にも『古事記』と相見合う神話が記されており、それらは後世にも多大な影響を与えています。| 神話・伝承学では、神々や神話の歴史的な変化、ということを重視した研究視点を持ちますが、そうした神々や神話の変貌を考えるためには、『古事記』と『日本書紀』の「神代」の神話についての理解は不可欠です。そこで、この科目では、『古事記』と『日本書紀』を比較しつつ、具体的に、日本古代の神話がどのようなものであったのか、ということを学んで行きます。| 世界のはじまりを語る創世神話、イザナキ・イザナミの国生み神話、現在でも広く知られるアマテラスやスサノヲの誕生と活躍、オホクニヌシの出雲神話、タケミカヅチによる地上平定、ホノニニギの天孫降臨など、これらの神話はどのように読むことができるのか、その神話にはどのような意味があるのか。『古事記』『日本書紀』が書かれた当時における意義を考えつつ、神話・伝承学の視点から、神話読解の実践について理解を深めることを目的に、学習を進めます。
■授業の目的・ねらい	基本方針は、神話・伝承学の観点から日本古代の神話について理解を深めることにあります。| 神話の物語についての具体的な知識を身につけることに加え、神話を読むというその読み方、分析のための方法論について意識し、これを対象化していくことも目標とします。| 総合的に、日本の神々について考えるための知識と分析方法の修得が目的となります。
■到達目標	神話・伝承学の視点から、『古事記』『日本書紀』に見られる日本古代の神話について、その内実と読解方法を理解できたどうかということが評価の基準となります。| 【到達目標箇条】|1：神話の物語や神々の様相や性質について理解する|2：『古事記』『日本書紀』の記述を具体的に読み解く|3：神話を読解する分析方法について整理し理解する

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験を予定している
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	神話・伝承学特講３（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	村田　真一			シラバスグループ	X42200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	中世神話と神仏習合
■授業の概要	日本の宗教・信仰は基本的には神と仏に代表され、神社と寺院のある光景は現在でも馴染みあるものです。こうした神社と寺院は、現代的な感覚からは神道と仏教という二つの異なる信仰をあらわす施設として理解されます。しかし、歴史的に見ると、日本の神と仏の信仰は密接で不可分な関係にあるものとして展開してきました。| すでに古代には「神仏習合」というべき神と仏の関係が成立しますが、中世になるとその関係はより複雑になり、神と仏が根源的に一致するものだと認識されるようになっていきます。| 「神仏習合」はそうした神と仏の関係そのものを捉える視点、「中世神話」は、歴史の中の神と仏の関係を新たに作り出し物語る様々な資料を読み解く視点として位置づけられます。 これらの視点は、神と仏への信仰が別々のものだという認識が、実は近代以降に成立したものであり、近代以前の歴史の実際では、その違いが自明ではなかったということに気づかせてくれます。| この講義では「神仏習合」と「中世神話」という問題意識を持ちつつ、神と仏の関係を示すいくつかの資料を読み解き、歴史上の神と仏への信仰がどのようなものであったのか、とくに古代から中世への変容・展開はどのように理解できるのか、ということについて考えていきます。
■授業の目的・ねらい	基本的な方針は神話・伝承学の観点から日本の中世における神仏信仰の展開を学ぶことです。| 神と仏の違いを前提にするのではなく、文献資料を読み解き、古代から中世へと変化する神仏をめぐる神話・伝承・言説の様相や性質、それらの関係を理解することが目的です。|
■到達目標	神話・伝承学の視点から、歴史上の神仏関係についての「神仏習合」という問題を「中世神話」の視点によって神仏の変貌、神話の変容として捉え、文献資料に基づいて理解できたかどうかということが評価の基準となります。|【到達目標箇条】|1：文献資料毎にあらわされる神仏関係の様相を読み取る|2：文献資料から神仏関係の歴史的展開を理解する（古代から中世への展開）|3：具体的な事例を取り上げつつ、神仏習合や中世神話といった研究方法を神話・伝承学の視点から位置づける

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験を予定している
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	大野　啓			シラバスグループ	X43200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業論文作成に向けた、テーマ設定および発表
■授業の概要	大学生の勉学の集大成ともいえる卒業論文作成は、学生生活において大きな意味を持つものである。|受講生が卒業論文のテーマを設定したり、テーマに沿って報告を行なうことにする。‖受講生は自らの論文作成に向けた報告をするとともに、他の受講生の報告に対しても、自らの知識や経験をもとに質問や感想を講義者とともに出してもらい、報告者の卒業論文作成に資するようにしたい。
■授業の目的・ねらい	本講は卒業論文作成に向けた、問題意識の明確化、論の構成や論文作成の進度、さらには課題を確認し、卒業論文の作成作業を前進させることを目的とする。‖
■到達目標	受講生の進度によっても異なるが、卒業論文の作成に向けて、一歩でも前進すること。‖テーマ設定ができていない者は、テーマ設定を行なったり、テーマ設定をするために必要な作業を明確にする。‖論文作成に取り掛かっている者は、現時点での課題を解消するための手がかりを得るようにする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	10%	

授業科目	発展研究ゼミ２（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	鈴木　文子			シラバスグループ	X24300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業研究を深める
■授業の概要	歴史文化学科で卒業論文を書こうという人のためのゼミです。論文とは何か、作成のプロセスを講義形式で学びつつ、受講者各自の学習段階にあわせ、論文作成のための作業や発表をしていきます。
■授業の目的・ねらい	1. 卒業論文作成のための具体的プロセスを理解する。|2.卒業論文のテーマ、内容を各自の学習段階にあわせ、深化させる。|3.卒論のテーマや内容、関心分野に関して、文章として適切に表現し、発表することができるようになる。|4. 他の受講生の発表を聞きながら、論文作成の方法、多様な視点について学び、良所、問題点を考え、質疑を積極的にできるようになる。
■到達目標	1.卒業論文作成のための関連文献の検索方法について、雑誌論文も含め、十分に収集できるようになる。|2.フィールドワークを行なう人は、その構想の一部を示すことができるようになる。|3. 卒業論文の内容（仮を含む）を適切にレジュメであらわし、発表できるようになる。|4. 発表を通し、今後の研究の進め方、研究計画を書けるようになる。|5. 講義をとおし、あるいは他の受講生の発表も聞きながら、論文の形式、構造、書き方の作法などを理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	40	
･授業内発表	30	授業で行なった発表をもとに内容を完成させたリポートを提出してもらいます。または、今後にどのような学習をすべきか、各々の研究計画を構想し提出してもらいます。
･授業内試験	0	卒論テーマ（仮題含む）についての内容。
･授業内課題	20	
･その他	10	文献検索に関する課題をしていただきます。大学図書館 Bird（検索方法）を確認し、事前の文献リスト収集などで練習しておくとスムーズです。

授業科目	発展研究ゼミ３（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	八木　透			シラバスグループ	X26100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業論文作成に向けての基礎ゼミ
■授業の概要	受講生各自の卒業論文のテーマについて、発表を中心にテーマの適切性や論文執筆に向けての具体的な指導を行う。
■授業の目的・ねらい	受講生諸氏の卒業論文のテーマを具体化させるとともに、卒業論文執筆に向けての取り組み方と進め方を修得させる。
■到達目標	受講生諸氏の卒業論文のテーマを具体化させ、実際に卒業論文執筆に向けての取り組み方と進め方を修得すること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ４（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	八木　透			シラバスグループ	X28200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業論文作成に向けての基礎ゼミ
■授業の概要	受講生各自の卒業論文のテーマについて、発表を中心にテーマの適切性や論文執筆に向けての具体的な指導を行う。
■授業の目的・ねらい	受講生諸氏の卒業論文のテーマを具体化させるとともに、卒業論文執筆に向けての取り組み方と進め方を修得させる。
■到達目標	受講生諸氏の卒業論文のテーマを具体化させ、実際に卒業論文執筆に向けての取り組み方と進め方を修得すること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	芸術文化文献研究（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	苫名　悠			シラバスグループ	X51100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	院政期絵巻の詞書と絵を読み解く
■授業の概要	この授業では、院政期の絵巻の詞書を読み、その内容を踏まえて絵を観察する。|今年度は素材として《病草紙》を取り上げる。本作品については、近年、意欲的な論考が複数発表されており、これらの知見をも踏まえつつ作品の鑑賞を行うことにより、美術史学の研究手法を身につけるきっかけが得られることも期待される。|受講生は、授業内で絵巻の詞書の翻刻を行い発表することが求められる。|なお、授業は下記のスケジュールで進める予定だが、受講者の人数、理解度、関心などにより一部変更する場合がある。
■授業の目的・ねらい	（１）くずし字の読解能力を養うこと。|（２）美術史学の研究手法を身につけること。
■到達目標	（１）絵巻の詞書（くずし字）を正確に読解できるようになる。|（２）美術史学の研究手法について適切に説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	芸術文化特講２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	斉藤　利彦			シラバスグループ	X53200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	歌舞伎の研究ーその構造と様式ー
■授業の概要	歌舞伎は日本が世界に誇る演劇です。近世初頭に生成され、その後、近世人の美意識に育まれながら、その時代の息吹を吸収しつつ、今日にいたっています。|歌舞伎は世界演劇史上、特異な美の様式のなかで成立しています。その歴史や構造、様式に関して考察していきます。
■授業の目的・ねらい	芸能や演劇はその時代の美意識が凝縮されています。近世芸能の代表である歌舞伎の美を、歴者構造、様式から考察することによって、歌舞伎という芸能の特色を理解することを目的とします。その考察によって、近世文化の一端を把握することができ、この点をねらいとしています。
■到達目標	（１）歌舞伎の特色を、歴史・構造・様式を中心に理解する。|（２）歌舞伎の特色を理解したことによって、近世芸能の特徴を把握する。|（３）これらの理解内容を、第三者に話せるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0%	オンライン授業ですので、試験リポートを提出とする。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	30%	
･その他	0%	授業内に提出を求めるコメントシート

授業科目	芸術文化特講３（秋期)A クラス_対面				単位	1
担当者	苫名　悠			シラバスグループ	X54300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	院政期絵巻の鑑賞と研究
■授業の概要	この授業では、院政期に制作された絵巻の諸作例を取り上げて鑑賞し、その造形に親しむ。また、各作例をめぐる最新の研究に触れ、その論点を把握する。|授業は多くの画像をパワーポイントで掲示しながら実施する。|授業を通して、院政期絵巻についての知識を獲得するのはもちろんのこと、絵画作品の造形的特徴を把握する能力を養うこと、また美術史学の研究手法を修得することをめざす。|なお、授業は下記のスケジュールで進める予定だが、受講者の人数、理解度、関心などにより一部変更する場合がある。
■授業の目的・ねらい	（１）院政期絵巻に関する基礎的な知識を身につけること。|（２）絵画作品の造形的特徴を把握する能力を身につけること。|（３）美術史学の研究手法を修得すること。
■到達目標	（１）院政期絵巻に関する基礎的な知識について適切に説明できるようになる。|（２）絵画作品の造形的特徴を適切に把握できるようになる。|（３）美術史学の研究手法について適切に説明できるようになる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	50	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	50	
･その他	0	

授業科目	日本美術史特講２（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	大原　嘉豊			シラバスグループ	X56100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	仏教美術（仏画）の鑑識と研究
■授業の概要	仏教絵画は、平素は収納されており、一般の目に触れる機会が非常に少ない。しかしながら、日本の指定文化財の中枢を占め、日本美術史においては逸せぬ存在となっている。本講では、仏画の美術史上での評価の高さの理由からはじめて、その持っていた機能、技法など鑑賞に必要な基礎的な知識を伝えるとともに、仏像彫刻を含めた仏教美術研究への応用について発展的に考察する。特に、近代以前に日本文化の規範の一つとなった中国文化の影響のありかたについて考えることが一つの柱となる。
■授業の目的・ねらい	日本仏教絵画の鑑賞の基礎能力を養う。|作品情報の記述の能力を養い、それを基礎にしたうえで、仏教美術研究の在り方を理解し、論文に発展的に繋げていく力を養う。
■到達目標	観察した作品の造形上の特徴を記述できるようになることを目指す。かつ、それが制作年代等の様式判断とどう結びつくかを理解することを目指す。最終的に自力で作品を観察し、自身で美術史学的な判断ができるようになるための基礎を身に着ける。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	90	
･リポート試験(SR 履修)	0	作品の中から１点を教員が指定し、その作品記述を行い、制作年代等についての見解をまとめる。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	10	
･その他	0	史料の読み方演習での会読

授業科目	日本美術史特講３（秋期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	熊谷　貴史			シラバスグループ	X57300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	S	

■授業のテーマ	京都の仏像 ー美術史資料として観る、調べるー
■授業の概要	京都の仏像を素材に、美術史における研究資料の種類や性質を確認し、その見かた・扱いかたを学習する。研究の根幹となる「一次資料」として作品の造形を重視することは、美術史が他の研究分野と一線を画す大きなポイントである。研究資料の位置づけは、分野・領域・方法論等によって異同もあるが、作品の造形に言及する立場としては、作品そのものが「一次資料」、作品の図版を掲載した書籍は「二次資料」となる。したがって学習の進度や状況に応じ、作品を実見する機会を考慮する必要がある。 ｜ 以上を念頭に置き、本科目では主に日本の彫刻作品を対象とし、地の利を活かして京都や周辺地域に伝わる仏像に眼を向ける。ただし本年度はオンライン開講となるため、受講者がそれぞれ実見に臨むことを想定し、フィールドワークに向けた下準備として講じる。作品を実見（鑑賞／観察）する意義や留意点の確認、文献資料の収集方法や事例紹介、資料講読などを含め、美術史に立脚したフィールドワークとデスクワークの在りようを対比したい。
■授業の目的・ねらい	・美術史に立脚した研究資料（一次資料・二次資料）の種類・性質を理解すること ｜・作品を研究資料として扱うための観点、および基礎的なスキルを身につけること｜・モノ資料を補完する文献資料の収集方法と扱いかたを身につけること
■到達目標	・作品の実見（鑑賞／観察）成果を研究資料として活用できるようになる｜・受講者が各人の関心に基づく研究資料の収集と分析を行えるようになる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	60	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	東洋美術史特講２（夏期)A クラス_対面				単位	1
担当者	川野　憲一			シラバスグループ	X59200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	東洋美術研究の視点獲得
■授業の概要	東洋美術を鑑賞し、独自の視点で適切な情報を引き出し、それを言語化するための感性、技術を獲得するための授業です。このような感性と技術は、芸術作品を研究対象とする上で欠くことのできないスキルです。講師による講義と現地見学により授業は構成されます。|中国、朝鮮半島、日本、それぞれの歴史の中で育まれた作品には各地域の固有の思想と美が宿っています。|それら過去の偉大な感性により生み落とされた芸術作品の創造の秘密を説く鍵を一緒に手にいれましょう。
■授業の目的・ねらい	①東洋美術を鑑賞するための基本的視点を獲得します。|②東洋美術を鑑賞する際に、作品から適切な情報を引き出すための感性及び技術を身につけます。|
■到達目標	①東洋美術を鑑賞するための基本的視点を獲得する。|②東洋美術を鑑賞する際に、作品から適切な情報を引き出すための感性及び技術を身につける。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	東洋美術史特講３（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	森　雅秀			シラバスグループ	X60100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	マンダラ（曼荼羅）から見た日本の宗教
■授業の概要	インド密教で生まれたマンダラ（曼荼羅）は平安時代初期に日本にもたらされた。本来、マンダラは密教の教理や実践と密接に結びついた「仏の世界図」であったが、日本では密教以外の宗教においても、さまざまなマンダラが作られるようになった。すなわち、浄土教曼荼羅、神道曼荼羅、社寺参詣曼荼羅、法華曼荼羅などである。そこでは、マンダラが景観図、浄土図、来迎図、絵巻物などのさまざまな形式の絵画作品とも結びついた。一方、密教においても、インドには存在しない別尊曼荼羅と呼ばれる特殊な形態のマンダラが、数多く作り出された。｜　この授業では日本におけるこのような多様なマンダラを体系的に取り上げ、その具体的な形態や意味するもの、歴史的背景、美術史上の意義などを明らかにしたい。
■授業の目的・ねらい	インドから日本に伝えられたマンダラが、仏教、神道、修験道などの諸宗教において、どのような展開を示したかを明らかにする。
■到達目標	日本におけるマンダラの受容と変容を通して、インドと日本の文化の相違と、日本文化の特質を理解する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	30%	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	図像学（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	SHAKYA Sudan			シラバスグループ	X61200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	図像が伝える思想と文化|
■授業の概要	図像とは何か？それはどのように生み出され、何を表し、何を残したのか。|　本講義では、仏教図像を取り上げ、それを美術品として分析するのに加えて、その背景にある仏教の思想や文化も学ぶ。|　伝統的な仏教図像の多くは仏教の思想および儀礼とともに地域の信仰や文化と密接な関係を持つ。この講義では、仏教パンテオンを構成する種々の尊格（如来、菩薩、天、女神など）それぞれの図像的な特徴（面、臂、手・足の数、持つ法具など）について解説し、さらにその意義および典拠となる文献について学ぶ。|　また、ネパールやその周辺国・地域では、今日でも伝統的な技法（ロスト・ワックス鋳造、アマルガム鍍金など）に基づいて仏像が製作されている。そのように作られた「図像」が曼荼羅を伴った宗教儀礼を通して、「聖なるモノ」または「信仰の対象」（例えば、絵画→仏画、像→仏像）へと転じて行くが、その過程も概観する。|　なお、講義中にはネパール、インド、バングラ、中国・チベットへの現地調査の際に撮影した映像など多数紹介する。さらに、画面越しになるが、収集してきた実物の仏像や仏画などを観る機会も作りたい。これは図像鑑賞の力の上達にもつながると考える。|
■授業の目的・ねらい	本講義は、日本で流布している仏、菩薩、明王など種々の尊格のルーツに関する知識を養うことを目的とする。|　そのため、ネパール・インドおよび周辺地域で生まれた仏教図像の起源と図像的な特徴について学ぶ。これを通して受講生は数多く存在する仏、菩薩などをみきわめる方法を身につける。
■到達目標	個々の図像の特徴を吟味し、それらのアイデンティティーを区別する力が身に付くとともに図像鑑賞の知識も養うこと

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	３０|	
･その他	0	

授業科目	文化財デジタルアーカイブ（春期)A クラス_オンライン			単位	2
担当者	神居　文彰			シラバスグループ	X62100
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR

■授業のテーマ	仏教を文化財と文化から再考察する。｜ 文化とは何かを身近にある様々な物品･造形物・自然・現象から科学の眼を使い探求する。|文化財を護り伝え活用すること　−文化そのものと文化財の修復及びデジタル技術について−
■授業の概要	文化財とは何かを基本に,改正文化財保護法から文化そのもの、継承の理念･技術を学ぶ。｜　そのために、文化財におけるデジタルアーカイブの展開と可能性および文化財修復の実際や活用を、臨地研修を実施しながら学ぶ機会をもちたい。｜　古文化財修復、復元の実際をデジタルとアナログの協働応用の観点から探求する。｜　特に経年変化したものから、忠実に復元模刻や模造を作成していく過程や、デジタルを応用した成果をそこに融合した研究など古典技法と最新のデジタル技術を有機的に連関する実際を学ぶ。文化財修復・復元文化施設や修理現場等を視察。学外講義を実施する。|本講義過程でしか参加出来ない文化財修理・製作現場等に行き関連させる。
■授業の目的・ねらい	文化財から、体験的に仏教文化を学ぶ。｜　文化継承のための理念・手法を理解し、活用を可能とするための第一歩とする。｜　・学外授業の参加。及びその報告。（３０％）｜　・講義終了後、リポート試験を課す。（６０％）｜　・受講態度（１０％）を基本とする。

■到達目標	京都でしか学べない学習を実施する。｜　現地のビデオ視聴型講義を重視し、実際の文化財への関わり方を修徳する。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	60%	
･授業内発表	0	リポート試験にて実施する
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	40	

授業科目	発展研究ゼミ１（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	斉藤　利彦			シラバスグループ	X63300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	歴史文化領域の研究方法
■授業の概要	研究論文ができあがるまでの過程を具体的に紹介しながら、どのようにして研究論文を執筆するか、その準備や手順、方法などを確認しながら、卒業論文につなげていく研究方法を考えます。
■授業の目的・ねらい	参考文献の検索や史資料の探し方、レジュメの作り方、研究発表の仕方、研究論文執筆におけるマナーやエチケット、アカデミックライティングなどについて解説し、それらを習得していただいたうえで、卒業論文執筆がはかどっていく力をつけることを目的とします。
■到達目標	つぎのような点を理解し身につけることを到達目標とします。|（１）参考文献の検索と方法|（２）史資料の探し方|（３）レジュメの作り方|（４）研究論文執筆におけるマナーやエチケット、アカデミックライティング|（５）研究発表の仕方

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	10	
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ２（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	川野　憲一			シラバスグループ	X64200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	研究法演習<美術研究を進めていくための実践的演習>
■授業の概要	美術研究に不可欠な基本的知識、方法論及び実践的な発表スキルの獲得を目指す。講師による講義と演習、現地見学を組み合わせた講義となります。但し、受講者の人数、理解度、関心によって、授業の内容・進度を一部変更する場合があります。
■授業の目的・ねらい	参加者それぞれが、美術を鑑賞・研究する際に不可欠な基本的知識を獲得し、更に自らの視点でそれを相手に伝える技術を習得することが目的です。成績評価の基準は、1. 美術に対して自分なりの視点、興味を持って鑑賞ができているか、2.それを他者に分りやすく伝えられているかの２点とします。
■到達目標	美術を鑑賞・研究する際に不可欠な基本的知識を獲得し、更に自らの視点でそれを相手に伝える技術を習得することを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ３（秋期)A クラス_対面				単位	2
担当者	植村　拓哉			シラバスグループ	X65300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	仏教美術の学習法と研究法ー学ぶことと究めることー
■授業の概要	本講義では、仏教美術研究に必要な基礎知識、方法論の確認及び受講者による発表を含めた形式となります。| 仏教芸術の理解には何よりも作品に接し深く鑑賞することが重要となります。鑑賞といってもただ漫然と眺めるのではなく、”造形を読む”姿勢が必要となります。その時には形にこだわりすぎて表現を看過してしまわないよう注意が必要です。そして複数の作品との比較を通して特徴を|言葉で表すことが第一歩といえるでしょう。| １．作品を観ること| ２．作品から作者を感じること| ３．それを言葉であらわすこと|この３点に注目しながら進めていこうと考えています。| さらに、制作年代の検討や造像背景、地域（民族性)、作者系統や受容者層など作品を取り巻く環境へと関心を広げていくこともより深い理解に重要となります。作品に対してどのようなアプローチで接するのかといった方法論の理解が有用といえるでしょう。| はじめに講師が作品に対していくつかの方法論に応じた講義（論文や資料の輪読含む）を行い、2 日目午前中には近隣寺社へ赴き、実際の作品から鑑賞のポイントを見出す機会を設けたいと考えています。午後に図書館にて資料収集をし、受講生による発表を行います。発表内容については任意の作品の造形を言葉で表現することとします。| 発表時間は受講生の人数によって調整しますが、1 人 20 分程度の発表、10 分程度の意見交換を予定しています。 発表は緊張することもあるかもしれませんが、難しく考えずにまずご自身の好きな作品をよく観ること、そしてその作品の素晴らしさを皆で共有することを楽しみながらやってみましょう。
■授業の目的・ねらい	受講生が美術史学に立脚した学習方法と研究方法に対する理解を深めること、発表と意見交換を通じて作品を鑑賞する様々な視点を知ることを目的とします。

■到達目標	作品の鑑賞を通して他者へ自身の視点を伝える方法を習得することを到達目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	50%	
･授業内発表	50%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	発展研究ゼミ４（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	安藤　佳香			シラバスグループ	X66200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	研究法演習<美術史研究の方法論を学ぶ>
■授業の概要	日本を中心としたアジア古代の仏教美術を主たる対象として、その具体的な研究方法について講義を行う。また実際に寺社を訪れ、作品を実見しながら視点を定めた鑑賞法を習得する。最終日に受講生の個人発表を行う。卒業論文作成のために、各受講生の研究段階に応じた指導をする。|
■授業の目的・ねらい	美術史学の基本として、まずは作品を深く鑑賞する力をつけること。また、複数の作品を自らの視点を定めて比較し、それを言葉で表現する力を養う。|合わせて、卒業論文のテーマの絞り込みを行う。
■到達目標	美術史研究の基本として、まずは作品を深く鑑賞すること。また、複数の作品を視点を定めて比較し、それを言葉で表現する力を養うことを目標とする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	30	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	京都学文献研究（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	木村　大輔			シラバスグループ	X71300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	戦前の随筆から読み取る京都の姿
■授業の概要	日本大百科全書によれば、随筆とは「形式の制約もなく内容も自然・人事・歴史・社会に関する見聞・批評・思索あるいは研究考証など、多岐にわたって筆の赴くままに書き記した散文」とあります。このことは、随筆によっては地図や統計では把握することができない、個人体験レベルの情報が記されているということです。そこで、本授業では戦前に記された京都に関する随筆をもとに、「都市化」・「郊外化」をキーワードとして戦前京都の姿を読み取っていきたいと思います。
■授業の目的・ねらい	①　随筆に記された内容から、客観的な情報と主観的な情報の違いを理解する。｜ ②　随筆の記載内容から戦前京都の都市化・郊外化を理解する。｜
■到達目標	①　随筆に記された内容から、客観的な情報と主観的な情報の違いを説明できる。｜ ②　随筆の記載内容から戦前京都の都市化・郊外化を説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	80	
･授業内発表	0	①　問題の主旨を正確に理解していること。｜ ②　到達目標①と②を踏まえた論述であること。｜
･授業内試験	0	
･授業内課題	20	
･その他	0	①　資料を正確に読み取れていること。｜ ②　指示した作業を丁寧に行えていること。

授業科目	地域調査演習１（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	網島　聖			シラバスグループ	X72100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	人文地理学の地域調査の手法に関する基礎の学習
■授業の概要	地域の姿を正しく理解するためには、フィールドワークの適切な実施が不可欠である 。この授業では、フィールドワークの理念と実施において留意すべき諸注意点について学んだ上で、その準備における要点を学習する。まず、初日には地域調査の理念や方法論について概説した上で、実際のフィールドワークで陥りがちな注意点について学ぶ。その上で、2 日目には地域調査のフィールドワークでよく用いられる手法について、その準備における要点を具体的に指摘する。以上により、 テーマに沿ったフィールドワークの計画と実施について考える。
■授業の目的・ねらい	この授業の目的は、人文地理学におけるフィールドワークの理念や方法論について学習することで、フィールドワークの意義を正しく理解し、適切に実施する能力を涵養することにある。これにより、受講者各人がそれぞれの研究課題に対して適切なフィールドワークを計画できるようになることを目指す。したがって、受講者には常に学んだ内容を自身の関心や興味の対象に当てはめて応用する視点を持って参加していただきたい。成績評価については、授業（グループワークなど）への参加、およびリポートによって評価する。
■到達目標	①人文地理学におけるフィールドワークの理念や方法論を適切に説明できる。|②自身の興味や関心にそって地理学的なフィールドワークを適切に計画することができる。|③自身の興味や関心にそって地理学的なフィールドワークを適切に実施することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	30	

授業科目	地域調査演習２（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	網島　聖			シラバスグループ	X73300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	現地踏査における写真記録の技法とその応用
■授業の概要	地域の歴史や地理を正しく理解するためには、フィールドワークを適切に行うことが欠かせない 。この講義では、地域調査時の現地踏査において有効な写真撮影の技法について学んだ上で、京都市内での現地踏査例を擬似的に体験する。まず、初日にはフィールドワークの基礎となる現地踏査について説明した上で、写真記録の方法と注意点について詳述する。その上で、2 日目には京都市内における事例として琵琶湖疏水と御土居に関する現地踏査を擬似的に体験し、 フィールドワークでの写真記録について考える。
■授業の目的・ねらい	この講義の目的は、人文地理学におけるフィールドワークの理念や方法論について学習することで、フィールドワークの意義を正しく理解し、適切に実施する能力を涵養することにある。これにより、受講者各人がそれぞれの研究課題に対して適切なフィールドワークを計画できるようになることを目指す。したがって、受講者には常に学んだ内容を自身の関心や興味の対象に当てはめて応用する視点を持って参加していただきたい。成績評価については、授業への参加状況（グループワークなど)、およびリポートによって総合的に評価する。
■到達目標	①人文地理学におけるフィールドワークの理念や方法論を適切に説明できる。|②自身の興味や関心にそって地理学的なフィールドワークを適切に計画することができる。|③自身の興味や関心にそって地理学的なフィールドワークを適切に実施することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	70	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	30	

授業科目	京都学特講２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	髙田　祐介			シラバスグループ	X75200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	明治維新と京都ー史蹟の政治文化ー
■授業の概要	明治維新における混乱の中、京都は政治的中央として浮上しながらも、維新後、東京遷都の影響で一時低迷します。一方で、維新期は全国的に史蹟への注目が集まる時期にもあたっており、このような政治的変革期に際し、京都そのものあるいは京都の史蹟はいかに変遷したのでしょうか。そしてその後、現在の京都という空間はどのように形づくられていったのでしょうか。王政復古と伝統の創出をキーワードに、史蹟などを取り上げながら、政治文化史的な視角に基づいて、その意味を考えたいと思います。また、講義の後、受講生の関心にしたがい、テーマを定めて図書館の資料やコロナ禍を経て必須ともなったオンライン上でのデジタルアーカイブの資史料などを活用して調べ学習を行い、成果の報告発表をしていただきたいと思います。これらの取り組みを通じ、オンラインフィールドワークの実践を試みます。
■授業の目的・ねらい	講義そのもののみならず、受講生各自がそれぞれの興味関心にしたがってテーマを定め、これについてさまざまな資史料を調査して、成果にまとめることで、歴史学的な研究の視角と方法論の基礎を学び身につけることを目的とします。そのうえで、京都のフィールドワークが自身で行なえ、卒業研究などにつなげられるようになればより良いと考えます。
■到達目標	明治維新を挟み近世から近代へ移行するなかでの京都や史蹟の変化について、講義内容を理解して、各自で調査が行なえ、歴史学的な研究視角の定め方と研究の方法論についての基礎を身につけることを目標とします。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	60	
･リポート試験(SR 履修)	0	試験を実施する。
･授業内発表	40	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	京都学特講３（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	太田　智己			シラバスグループ	X76200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	京都（丹後・丹波・山城）の原始から現在まで（概説）
■授業の概要	丹後エリア・丹波エリア・山城エリアを含む京都の歴史を、原始から現在まで、総体的に概観する。|授業は京都の歴史を通観しながらも、そうした歴史を、現在の京都のトピックや問題とも関連づけて考えつつ進行する。|授業は概説的な講義が主となるが、京都の歴史を地域・時代の両面で改めて総体的に押さえ直すことで、それを基盤に受講生が各自の研究テーマを適切に発展させられることをねらいとする。
■授業の目的・ねらい	自分が関心をもつ研究テーマと関係づけるために、京都の歴史と現在を、総体的に概観できるようになる。
■到達目標	(1) 京都の歴史を総体的に概観できる|(2) 京都の歴史と現在を関連づけられる|(3) 自分が関心をもつ研究テーマと、京都の歴史を関係づけられる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	リポート試験。到達目標(1)または(2)または(3)の到達度により評価する。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	30	
･その他	0	授業内で指示する。到達目標(1)または(2)または(3)の到達度により評価する。

授業科目	京都の歴史２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	杉本　弘幸			シラバスグループ	X78200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	地域からみる京都の歴史
■授業の概要	長い歴史を有する京都には、町の至るところに史跡と呼ばれる豊かな歴史資源がある。この授業では、史跡に注目つつ、平安遷都以前から近代に至る京都のあゆみをたどり、京都の歴史と地域の魅力、特色について考えていく。
■授業の目的・ねらい	この授業では、歴史学の立場から京都の地域的特徴を理解することを目標とし、日本の歴史における京都の位置づけについて考えていく。
■到達目標	・京都の地域的な特徴を理解し、説明できる。|・日本の政治・文化における京都の位置づけを理解し、説明できる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	70	
･リポート試験(SR 履修)	0	授業の内容を理解し、自分の考えや意見を、根拠を明確にしながら的確に記されているか、また論理的に叙述されているかを評価します。単位取得には､全出席が必須である。
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	30	

授業科目	京都の歴史３（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	宮本　敦恒			シラバスグループ	X79200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	京都の近代
■授業の概要	京都の近代をたどります。江戸時代に将軍の所在地であったであった江戸が、新生東京となり、新しい支配者として天皇と公家が東京に現れました。天皇がいなくなったその後の京都はどのような都市として存在していくのか。戦争の影響、経済構造の変化、近代的に国土や都市が改造されていくなど、様々な要因が絡み合う中で京都がどのように変容しつづけていくのか。今回は明治から大正、昭和、第二次世界大戦へというスパンで、京都という都市とその近郊を歴史的に追っていきたいと思います。また、講義の進み具合を見て、図書館での実習講義も考えています
■授業の目的・ねらい	京都という地域の目線で近代を捉え直し、位置づけ直すことが講義のねらいです。近代京都を単純に賞賛するだけでなく、他の諸都市と同じような苦しみの中から再生してきた過程をたどります
■到達目標	各自の持っている「京都像」と、講義の中で考えるようになった「京都像」を比較して、もう一つの「京都論」を受講生が作り出せるようになることが到達目標です。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	最後に、ある観光資源を説明する文章をまとめていただきます。読んだ人が「行ってみたい」と思えるような文章を書くことが出来るかどうか、が成績評価の基準です。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	京都の伝統芸能２（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	樽井　由紀			シラバスグループ	X81200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	民俗芸能は、地域で協力して生活する人々が暮らしの中で々伝承する芸能です。一生懸命に働く人々が、豊かな実りと平和な毎日を願いながら伝えてきました。京都市でも祭りの中に数多くの民俗芸能が伝承されています。この講義では、京都に伝わる民俗芸能、六斎念仏、盆踊り、などから京都の暮らしと文化について考えます。また、ご自身が暮らす地域の芸能にも目を向けて頂き、授業の中でご紹介頂きたいと思います。
■授業の概要	京都に伝わる民俗芸能を中心に学びます。歴史や内容を文字で確認した後、映像資料によってさらに理解を深めます。また、受講生の方による発表も予定しています。
■授業の目的・ねらい	京都に伝わる民俗芸能を理解するとともに、受講生の地元の民俗芸能にも興味を持つ。‖
■到達目標	京都に伝わる民俗芸能を理解するとともに、受講生の地元の民俗芸能にも興味を持つ。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	0	

授業科目	京都の伝統芸能３（春期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	樽井　由紀			シラバスグループ	X82100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	民俗芸能は、地域で協力して生活する人々が暮らしの中で々伝承する芸能です。一生懸命に働く人々が、豊かな実りと平和な毎日を願いながら伝えてきました。京都市でも祭りの中に数多くの民俗芸能が伝承されています。この講義では、京都に伝わる民俗芸能、大念仏狂言、六斎念仏、盆踊り、などから京都の暮らしと文化について考えます。また、ご自身が暮らす地域の芸能にも目を向けて頂き、授業の中でご紹介頂きたいと思います。
■授業の概要	京都に伝わる民俗芸能を中心に学びます。歴史や内容を文字で確認した後、映像資料によってさらに理解を深めます。また、受講生の方による発表も予定しています。
■授業の目的・ねらい	京都に伝わる民俗芸能を理解するとともに、受講生の地元の民俗芸能にも興味を持つ。‖
■到達目標	京都に伝わる民俗芸能を理解するとともに、受講生の地元の民俗芸能にも興味を持つ。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	40	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	20	
･授業内試験	0	
･授業内課題	40	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ１（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	大野　啓			シラバスグループ	X43200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業論文作成に向けた、テーマ設定および発表
■授業の概要	大学生の勉学の集大成ともいえる卒業論文作成は、学生生活において大きな意味を持つものである。|受講生が卒業論文のテーマを設定したり、テーマに沿って報告を行なうことにする。‖受講生は自らの論文作成に向けた報告をするとともに、他の受講生の報告に対しても、自らの知識や経験をもとに質問や感想を講義者とともに出してもらい、報告者の卒業論文作成に資するようにしたい。
■授業の目的・ねらい	本講は卒業論文作成に向けた、問題意識の明確化、論の構成や論文作成の進度、さらには課題を確認し、卒業論文の作成作業を前進させることを目的とする。‖
■到達目標	受講生の進度によっても異なるが、卒業論文の作成に向けて、一歩でも前進すること。‖テーマ設定ができていない者は、テーマ設定を行なったり、テーマ設定をするために必要な作業を明確にする。‖論文作成に取り掛かっている者は、現時点での課題を解消するための手がかりを得るようにする。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	20%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	10%	

授業科目	発展研究ゼミ２（秋期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	鈴木　文子			シラバスグループ	X84300	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業論文にむけた視聴覚資料の活用
■授業の概要	卒業論文やレポートは、本文となる文章だけで作成できるわけではない。本文の文章だけでなく、図、表、映像といった視聴覚資料の提示が必要となるばあいもある。また、とりあつかうテーマによっては、図や映像の観察などこそを主に、卒業論文を展開させるばあいもある。つまり図・表・映像などの視聴覚資料を活用できるようになっておくことは、卒業論文やレポートの作成にあたり重要な前提となる。そこで本授業では、卒業論文の作成にむけて、視聴覚資料の活用のしかたを学修する。
■授業の目的・ねらい	卒業論文の作成にむけて、視聴覚資料の活用ができるようになる。
■到達目標	(1) 視聴覚資料を観察することができる。|(2) 視聴覚資料を比較することができる。|(3) 視聴覚資料にもとづく空間把握ができる。|(4) 研究倫理にそくして視聴覚資料を収集し活用することができる。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)		
･リポート試験(SR 履修)	70%	
･授業内発表	30%	到達目標で前掲した各項目の到達度によって評価する。
･授業内試験		授業内ディスカッションでの積極性を評価する。
･授業内課題		
･その他		

授業科目	発展研究ゼミ３（春期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	八木　透			シラバスグループ	X26100	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業論文作成に向けての基礎ゼミ
■授業の概要	受講生各自の卒業論文のテーマについて、発表を中心にテーマの適切性や論文執筆に向けての具体的な指導を行う。
■授業の目的・ねらい	受講生諸氏の卒業論文のテーマを具体化させるとともに、卒業論文執筆に向けての取り組み方と進め方を修得させる。
■到達目標	受講生諸氏の卒業論文のテーマを具体化させ、実際に卒業論文執筆に向けての取り組み方と進め方を修得すること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	発展研究ゼミ４（夏期)A クラス_オンライン				単位	2
担当者	八木　透			シラバスグループ	X28200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	卒業論文作成に向けての基礎ゼミ
■授業の概要	受講生各自の卒業論文のテーマについて、発表を中心にテーマの適切性や論文執筆に向けての具体的な指導を行う。
■授業の目的・ねらい	受講生諸氏の卒業論文のテーマを具体化させるとともに、卒業論文執筆に向けての取り組み方と進め方を修得させる。
■到達目標	受講生諸氏の卒業論文のテーマを具体化させ、実際に卒業論文執筆に向けての取り組み方と進め方を修得すること。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	50	
･授業内発表	50	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	0	

授業科目	博物館資料論Ⅱ（夏期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	比佐　陽一郎			シラバスグループ	X87200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	博物館資料の保存修復と活用
■授業の概要	博物館で扱われる資料は文化財とほぼ同義と位置づけられる。文化財は元来、生活の中で生み出され、それを必要とする人々によって受け継がれてきた。しかし、明治期の大きな社会変革に伴い文化財を取り巻く環境は激変し、現在は新たな保護のシステムによって守られ、博物館もその一部を担っている。　|博物館における適切な資料の取り扱いのため、まずは文化財保護の仕組みを知ってもらい、その上で歴史系博物館で多く取り扱われる埋蔵文化財（考古資料）の事例を中心とした資料の保存方法、修復、二次資料の在り方等について、実例を中心に解説する。
■授業の目的・ねらい	日本では多くの博物館が存在するが、資料の保存を専門とする学芸員が常勤する博物館は限られる。この様な現状においては、専門の如何に関わらず、学芸員が資料の保存に関する課題に対処する必要が生じる可能性があり、日常における資料の取り扱いや展示の中で、どの様な保存の処置が資料に対して行われているかを理解しなければ、適切な活用が果たせない場合も少なくない。　|本講義は、博物館資料（文化財）の保存処理や修復、二次資料の作成といった作業に関する専門的な内容を主とするが、それは学芸員として直接これらの作業を行う技術を習得するためのものではなく、資料の保存に関する基本を知るとともに、トラブルに直面した際に、解決の手掛かりが得られることを目的とするものである。|学芸員としての業務において、資料の保存修復や二次資料の活用という部分で、基本的かつ新たな視点を提供できればと考えている。
■到達目標	博物館資料（文化財）の中で、特に歴史資料（埋蔵文化財）を中心に、保存処理や修復、あるいは二次資料の作成、活用についての基礎的な内容を学ぶ。それによって、現代の博物館における資料の保存や活用に関する課題解決に向けた手がかりとしてもらう。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	博物館実習講義（冬期)A クラス_オンライン				単位	1
担当者	堀　大介			シラバスグループ	X88400	
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SR	

■授業のテーマ	博物館学芸員の業務の具体像
■授業の概要	本講義は実際に博物館や資料館に勤務されている現役の学芸員等の方々によって、開設にいたる実務や常設展示を含めた当該館の特色および学芸員の方々の研究や普及活動などについて体験をまじえて解説していただくという内容としています。 | 講義は複数の博物館・資料館の学芸員の方々に、２～３時限ずつ行っていただくことにしています。 |
■授業の目的・ねらい	博物館学芸員の使命と業務について、学芸員の方々の実際の体験のなかから具体的に紹介して|いただき、理解を深めることを目的としています。このような内容によって、見学者ではなく、|学芸員の側から博物館や博物館資料を見たり、考えるための基本的な見方を錬磨してください。|リポートの内容と評価等については、講義の最初の時間に説明します。
■到達目標	学芸員の実際の業務を通じて、目的と任務を知る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0%	
･リポート試験(SR 履修)	100%	
･授業内発表	0%	リポートにて評価する
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	博物館実習Ⅱ（夏期)A クラス_対面				単位	2
担当者	堀　大介			シラバスグループ	X89200	
開講年度	2024	開講学期	前期	履修方法	S	

■授業のテーマ	博物館学芸員の業務とその実際
■授業の概要	この講義は博物館・資料館などにおいて、講義で得た理論と知識を実地に見聞したり、体験することによって、博物館の事業や活動および具体的な学芸員の業務をより深く理解することを目的としています。 ｜ 初日に実習についてのガイダンスや事前指導としての講義を行い、2 日目から近隣の博物館や資料館において、博物館の運営や学芸員の業務に接し、その実際を見聞します。これに加えて学内の実習施設で実習を行う場合もあります。
■授業の目的・ねらい	受講生各自が博物館の事業や活動、学芸員の業務の実際を見聞し、これを学習することを目的としています。よって、講義記録および実習の内容を記述した実習簿の記載内容によって評価します。これについては、事実記載の正確さ、記載内容の分類・整理の度合い、記載内容の具体性、博物館学の知識に対する一定程度の習熟などの基準を中心として評価を行います。
■到達目標	学芸員の実際の業務を通じて、目的と任務を知る。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	0	
･リポート試験(SR 履修)	0	
･授業内発表	0	
･授業内試験	0	
･授業内課題	0	
･その他	100	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（冬期)1 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	S72410
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（冬期)1 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	小林　隆			シラバスグループ	S72411
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（冬期)1 週_C クラス_オンライン			単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S72412
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（冬期)2 週_A クラス_オンライン			単位	2
担当者	後藤　直			シラバスグループ	S72420
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（冬期)2 週_B クラス_オンライン			単位	2
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	S72421
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。|①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・大学における教職課程の学びを振り返り、4 つの視点から自信の成果と課題を明らかにすることができたか。|　・明確になった課題に基づき、今後の学習の見通しを立てることができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する。
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	

授業科目	教職実践演習（教諭）（後半）（冬期)2 週_C クラス_オンライン			単位	2
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	S72422
開講年度	2024	開講学期	後期	履修方法	SIS

■授業のテーマ	教職課程の学びの総まとめとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。
■授業の概要	教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
■授業の目的・ねらい	学生が教員として必要となる資質能力を身につけているかどうかについて、以下の 4 つのテーマからアプローチする。‖①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち得ているか。|②教員としての責務に基づき、社会性や対人関係能力に関する人間力を形成しているか。|③子どもを理解しながら信頼関係を築き、学級経営を円滑に進める能力が身についているか。|④教科（保育内容）に関する正確な指導力を身に着けているか。|
■到達目標	・本科目の意義を理解し、後半スクーリングまでの学習の見通しを持つことができたか。|・大学における教職課程の学びを振り返るにあたり 4 つの視点を自覚することができたか。|

■成績評価の基準	割合(%)	備考
･教室試験(S 履修)	100%	
･リポート試験(SR 履修)	0%	リポート試験にて実施する
･授業内発表	0%	
･授業内試験	0%	
･授業内課題	0%	
･その他	0%	